

西横野中部地区遺跡群

二軒在家原田遺跡

二軒在家原田Ⅱ遺跡

—県営農地整備事業松義中部地区に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書—

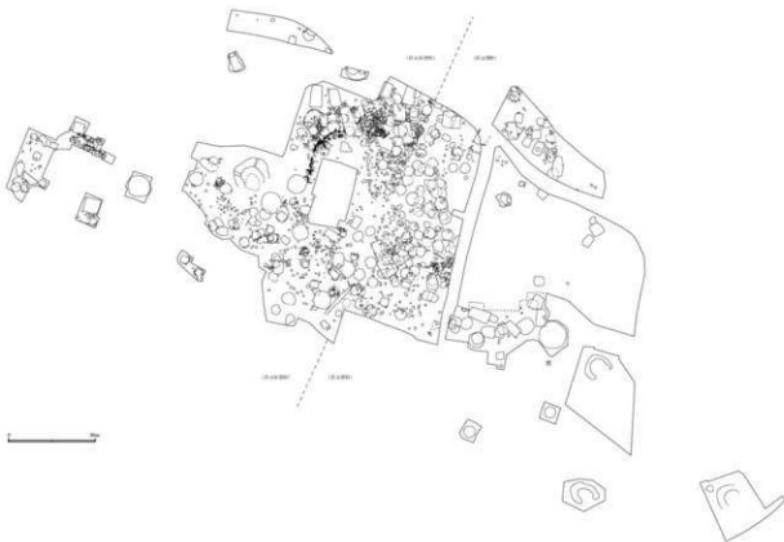
《第2分冊》

2017

群馬県安中市教育委員会

二軒在家原田遺跡

二軒在家原田 II 遺跡



V 二軒在家原田遺跡・二軒在家原田II遺跡

1 遺跡の概要

二軒在家原田遺跡・原田II遺跡は、工区および調査年度が異なるため別名称を付したが、両遺跡の主体をなす縄文時代前期から後期にかけての集落址は一連のものであり、集落の東半が原田遺跡、西半が原田II遺跡に相当する。遺跡地の南には高田川の支流である小河川、熊野沢川が東流している。両遺跡の標高は凡そ 301 ~ 306 m である。

二軒在家原田遺跡

縄文時代前期住居址 65 棟、中期住居址 71 棟、後期住居址 3 棟、土坑 228 基、後期（終末期）古墳 3 基などが検出された。縄文時代前期の住居址は有尾・黒浜式期から諸磯式期に属し、主体は諸磯b式期である。中期は加曾利E式期の遺構が主体を占め、当該期の住居址群は環状を呈す。また、検出数は少ないが五領ヶ台式期の遺構も確認された。後期は称名寺式期から堀之内式期の住居址が主体をなす。3 基の古墳はいずれも小円墳で主体部は削平されていた。いずれも 7 世紀半ば以降の築造と考えられる。

二軒在家原田II遺跡

基本的に遺構の性格は原田遺跡と同じであるが、新たに縄文時代後期の弧状列石が約 60m にわたり検出されたほか、遺跡地西側で配石墓群が見つかった。配石墓は推定頭位を北に向ける一群と、東に向ける一群に分かれる。また、調査区西端で古墳時代前期の住居址が確認された。

検出された主な遺構は、弧状列石のほかに縄文時代前期住居址 71 棟、中期住居址 31 棟、後期住居址 11 棟のほか時期不明の住居址 1 棟、土坑 325 基、後期配石墓 26 基、古墳時代前期住居址 8 棟、後期（終末期）古墳 1 基などである。

両遺跡を合わせた縄文時代の住居址数は前期が 136 棟、中期 102 棟、後期 11 棟などとなり、特に中期後葉加曾利E式期の住居址群については南北約 130 m × 東西約 100 m の大規模な環状集落を構成する。遺構の立地を時期別にみると、前期のものは遺跡地において台地南北端近くを中心いて、およそ東西方向に横並びになるように展開している。特に、平面長方形の大形住居址は北側に集中する。中期の環状集落は台地の中央部分に占地し、その内側には土坑群が展開する。後期の住居址は遺跡地西側（= 原田II遺跡）の、比較的標高が低い南斜面にみられる。

（1）縄文時代の遺構

1. 住居址

検出状況

平面プランは遺跡地北と南側に位置するものは比較的遺存がよく、逆に台地中央付近にあるものは悪かった。遺構はほぼすべてローム層上面で確認している。全体的に南北端で帶状に広がる前期住居は掘り込みが深く、中央付近で環状に展開する中期住居はやや浅い印象を受けるが、後世の耕作土およびこれに関連する流土が人為的に切り盛りされた可能性も多分に考慮する必要があろう。

規模・住居構造

前期

有尾・黒浜式期と考えられる住居址は隅丸長方形を呈するものが多く、また長軸と短軸の比率が大き

いものが多く属する。主柱は長軸に並行し、4・6・8本が主で住居の壁から離れて設けられる。重複(拡張や建て替え、あるいは縮小)を伴う住居が多く、長方形の住居の場合、基本的に元の住居を一回り大きく(小さく)するタイプと、2辺を延長(縮小)し細長くなるタイプに大別される。なお、原田C区J-15号住は主軸を90度違えている可能性がある。

原田A区J-14・C区J-3a・J-9号住、同原田ⅡA区J-69・J-93号住では壁際に補助柱穴とみられる小ピットがめぐる。原田ⅡJ-80号住では柱材とみられる炭化物が確認された。本住居は床および壁面の大半が被熱し、炭化材の一部は壁際で立位の状態で検出されている。炉は地床炉を基本とするが、原田ⅡA区J-12号住では枕石を伴う。

諸磯式期と考えられる住居は有尾・黒浜式期に比べて長方形のものが減り、橢円形状のものが増加する。諸磯b、次いで同c式が大半でa式期の可能性があるものは僅かである。また、原田C区J-21号住(15.6×15.6m・諸磯b)、原田ⅡF区J-37号住(12.7×12.1m・諸磯c)のような大型住居が出現する。主柱は橢円形または小型隅丸(長)方形のものは4あるいは6本のものが多く、大型住居は8本以上設けられるとみられる。有尾・黒浜式期よりも壁際に近い所に配置される傾向がある。重複を伴う住居も増加するが、原田A区J-35a・B区J-3・J-13・C区J-3d号住のように重複(拡張・建て替え)に伴う複数の柱穴を近似した位置に設けた結果、大形土坑状を呈す例も見られる。炉は地床炉を基本とするものが多いが、原田B区J-15号住は枕石を伴う。

中期

本遺跡群の主体となる時期である。中期後葉加曾利E I～E III式が多く、E IV式期以降はやや減少する。全体的に掘り込みが浅く、壁周溝および柱穴しか確認できなかった住居址も多い。住居形態はほとんどが円形または橢円形を呈すが、E III～IV式期には原田A区J-31b・J-64号住のように円形住居の一部に小型の張り出し部を設け、床の一部に扁平な石を敷いた柄鏡型敷石住居も出現する。

主柱は6～8本のものが多く、壁際に近い場所で住居の形に沿うように円形に配置される。炉は住居の中央付近に石壗炉を設ける例が多い。正方形に近い炉が大半だが、原田A区J-22a・J-22c号住のように長方形となるものもある。炉の内部に土器を埋設する炉体上器の出土例も増加する。

後期

称名寺式期の遺物は調査区の広範囲で認められるが、住居址を確認できたのは原田A区J-55号住のみである。いわゆる柄鏡型敷石住居で遺存度は悪かったが、住居北側に小礫を多角形状に並べて「壁」を形成している。堀之内期は1・2式とともに柄鏡型敷石住居が多いが、橢円形で壁際に多数の柱穴を配するもの(原田ⅡH区J-53a・J-53b・J-101・J-102号住)も存在する。中期の住居に比べ、やや低所に立地する傾向がある。加曾利B式期と考えられるのはわずかに原田ⅡH区J-101号住のみであったが、堀之内式期とした住居址の幾つかはこの時期まで下る可能性もある。

2. 土坑・埋設土器

土坑は原田遺跡で228基、原田Ⅱ遺跡で325基の計553基あまりを確認した。大部分は遺物を内包するが、遺物を伴わないものや形状が不安定で倒木痕の可能性があるものも含む。なお、より小規模な土坑(=ピット)や、原田遺跡では遺存度のよい土器を含む埋設土器(遺構)26基も本来は土坑として報告すべきものであったが、整理作業の都合上別々に報告している。

土坑の帰属時期は、前期有尾・黒浜式期から後期堀之内ないし加曾利B 1式までの遺物が確認されて

いる。特に加曾利E式期の土坑については、環状を形成する同時期の住居址群の内側に密集する。原田A区D-156号土坑では加曾利E Iと曾利式期の深鉢・浅鉢が倒立した状態で、それぞれ入れ子状に重ねられていた。

3. 配石墓

原田II遺跡A区で4基、H区で22基確認された。なお、現状で配石を作わないものについても「配石墓」として記してある。いずれも長方形を呈し、堀之内～加曾利B I式期に帰属すると考えられる。立地および主軸（頭位）方向、規格などの共通性から3つのグループに大別される。まずA区の4基はそれぞれ隣接し、主軸は北を起点にして、西に40～60度傾く（1号配石墓群）。次にH区南東の、西端をD-104号土坑とし東端を4号配石墓とする一群はおおむね東に20～40度傾く（2号配石墓群）。最後はグループ2の北西に位置し、D-341号土坑を西端、D-336号土坑を東端とする一群である（3号配石墓群）。1・4・6・7号配石墓とD-99号土坑は墓壇際に拳～人頭大の石を並べる。

本遺跡配石墓の埋葬頭位は北向きと考えられ、3号配石墓では頭位の推定位置に浅鉢が伏せられた、いわゆる「鉢被り」が確認された。D-91号土坑でも深鉢の大形破片が出土しており、同様の行為が行われていたと考えられる。4号配石墓では推定頸部の位置から垂飾が出土している。

4. 壺穴状遺構

原田A区で3基確認された。いずれも覆土の特徴および出土遺物から縄文時代の遺構と判断したが、詳細は不明である。T-2壺穴状遺構は床面の一部に焼土を有す。

5. 溝

原田A区M-1溝（1S-39グリッド）、原田II A区M-1溝（C-9グリッド）、同M-2溝（H-10グリッド）の3本が確認された。いずれも覆土の特徴や出土遺物から縄文時代の遺構と判断した。

原田II M-1溝は径13m程度の楕円形で、内側は周辺に比べ住居址の密度が薄いが土坑が多く分布し何らかの区画溝である可能性も考えたが、詳細は不明である。同M-2溝は直線状を呈し、一部で硬化面が確認された。前期有尾・黒浜～諸磯式期の遺物があるが、周辺住居からの混入とも考えられる。

6. 列石

原田II A区北側において約60mに渡り弧状に確認された。使用された石材は拳大～人頭大以上のものまで多岐にわたる。図化した石だけで約620個を数え、その97%は安山岩が占める。そのほかは緑色岩類、砂岩、その他頁岩や凝灰岩などがそれぞれ1%程度である。安山岩の多くは角が丸みを帯びており、近隣の碓氷川あるいは高田川から採取したと推測される。最も重いものは200kg近くと推定される。帰属時期は、周辺の遺物から後期掘之内～加曾利B I式期と考えられる。

次に、列石にはいくつかの「ユニット」が認められる。扁平な石を直線または弧状に配置したもの、人頭大の礫を楕円形に並べたものなどである。なお石材は計測後に除去し、その下部を精査したが土坑などは確認できなかった。また、敷石住居と接続し、一部が延長する例などもみられなかった。列石北東端のユニットにおいては、立石と思われる大型棒状礫と丸石がセットで置かれていたものが3カ所で確認された。

(2) 古墳時代の遺構

1. 住居址

原田II遺跡H区において、住居の可能性のあるものも含め8棟検出した。いずれも前期に属すと考えられ、同時期の集落は本遺跡群中の東方に位置する、人見西原遺跡で確認されている。全体的に掘り込みは浅いが、平面プランは正方形または若干東西に長い長方形を呈すものが多い。柱穴は4あるいは6基と考えられる。壁周溝は斜面上位にあたる住居北側において確認されたものが多いが、本来は全周していたものと思われる。炉は住居中央付近に設けられる。

2. 古墳

原田遺跡C区で3基、原田II遺跡A区で1基の計4基を確認した。いずれも墳丘は破壊されており、周堀とわずかな石室内床面のみの調査となった。原田K-3号墳と原田II K-1号墳は当初、墳丘状の高まりが確認でき、石室に用いられた大小の石材が集中しているように見えたが、実際はほとんどが削平されており、耕作の支障となった石を一ヵ所に集めていたものと判断された。

古墳はすべて円墳で、墳丘規模は直径10m前後と推定される。主体部は横穴式石室で、石材には碓氷川・高田川由来の川原石を採用する。加工された形跡は見られない。原田K-1号墳では推定石室の前面（前庭部？）から8世紀代の須恵器が、幾つかまとまった状態で出土した。これらは墓前に置かれたものと考えられ、複数回の追葬あるいは追善供養行為があったことが分かる。いずれも築造年代は7世紀半ば～後半の、いわゆる終末期古墳と思われる。

(3) 遺物の概要

1. 繩文土器

二軒在家原田・原田II遺跡からは住居址などの遺構に伴う形で、主として前期有尾・黒浜式、諸磯a～c式、中期五領ヶ台式、加曾利E I～E V式、後期称名寺式、堀之内1・2式、加曾利B 1式に加え、それらと併行関係にある、長野県を中心とした異系統土器が出土している。出土遺物の数は完形品から小片まで数万点にのぼる。なお、石器についての詳細はⅦ-1(2)を参照されたい。

早期

遺構は未確認だが、原田II A区J-82号住（有尾・黒浜式期）から、中位に楕円文を施しその上下に鋸歯文を配す早期前葉押型文系とされる深鉢破片（11）が1点出土している。

前期

前期前葉と考えられる遺構は未確認だが、原田II A区J-32号住（有尾・黒浜式期）で組紐を施文する閑山II式の深鉢と考えられる破片（6）が出土している。前期中葉は有尾・黒浜式期の遺物が多数確認されている。ほぼすべてが深鉢であり、注口が付くものもある。後続する前期後葉は諸磯式、十三菩提式期が確認されている。諸磯a式の遺物が主体を占める遺構はわずかに原田II A区J-90 b号住のみである。続く諸磯b式は当該期で最も遺構・遺物量が多い時期である。諸磯c式は、b式期に比べるとやや点数は少ないが、原田II B区J-3号住（5）の深鉢のように口径80cmをこえる大型品がある。

諸磯b～c式と併行関係にある異系統土器としては、北白川下層式（原田B区D-35号土坑2、原田II A区J-55号住28・29、J-68 b号住4、J-90号住36）や、浮島・興津式系（原田A区J-28号住8、J-40 b号住10、J-55号住8、J-66号住13、D-25号土坑2、D-98

号土坑2、原田II A区J-27号住22・23、J-54号住15~18、J-58号住45・48、同F区J-37号住7・12)などがある。そのほか、器壁に山形・波状の粘土組を貼り付け、東北地方大木式の影響が想定される土器(原田C区J-7号住25、原田II B区J-3号住35~37、同F区J-37号住8~10)も散見される。前期末の十三菩提式は原田A区J-11・J-27・J-54・J-58・J-64a、同B区J-3、同F区J-37号住などで確認された。諸儀c式との共伴例が多いようである。

中期

中期初頭五領ヶ台式期の住居址は確認されておらず、諸儀式や加曾利E式期の遺構に破片が混入する程度である。一方、土坑からの出土例は比較的多い。原田A区D-37号土坑は複数の土坑が重なった複合土坑と考えられるが、それぞれの土坑から遺存度の高い深鉢が1点ずつ、計4個体分が出土している。中期中葉の遺物は極めて少ないが原田II A区J-13号住で深鉢の橋状把手(13)が、また同D-292土坑で勝坂式と思われる深鉢の波状口縁把手(21・22)が出土している。

中期後葉は前述のとおり本遺跡群の中核をなす時期である。加曾利E I~E V式期まで幅広く多様な遺物が出土しているが、E I~E III式併行に帰属すると考えられるものが圧倒的に多く、E IV式になるとその数は減少する。併行関係にある異系統土器としては曾利式や唐草文系、郷上式、連弧文系、大木式、柄倉式などが、本遺跡の土器に与える影響の多少はあれ、多くの遺構で加曾利E式と共に共伴する事例がみられる。原田II A区J-100号住(加曾利E I~II)では曾利II~III式および柄倉式が共伴し、また吊手土器も有すなど、出土遺物の比率をみても特に外來色が強い遺構である。原田A区J-20・22・25・67・77・79号住なども、出土遺物における曾利式、郷上式系土器の比率が高い。

中期末と考えられる遺構は明確でないが、土坑からE V式の可能性があるもの(原田II A区D-63号土坑1、D-111号土坑1)が出土している。

後期

後期初頭称名寺式の遺物は前述のとおり広範囲で確認されているが、当該期の遺構は明確でない。後期前葉掘之内式期の遺構は原田・原田II遺跡とともに柄鏡形敷石住居を中心に確認されているほか、原田II遺跡で検出された配石墓群も大半は当該期の所産と考えられる。後期中葉加曾利B式期の遺物は、先行する掘之内式期の遺構において出土するものが多い。B 1式が多く、B 2式はわずかである。

2. 古墳時代・古代の遺物

原田II遺跡の西端に位置するH区で確認された住居址は、すべて前期に属すると考えられる。本遺跡の東方にある人見西原および西横野東部地区遺跡群で確認されている集落とおよそ同時期である。H-2号住10~13・H-4号住6のように外面口縁部に粘土紐接合痕を残すものや、櫛描文を施すものなど弥生土器からの影響・系譜が認められるものも散見される。土製紡錘車は5点出土しているが、うち4点はH-4号住に集中する。上・下面の直径が異なり断面台形を呈すものと、直径が同じで断面方形の2タイプがある。

原田・原田II遺跡で4基確認された終末期古墳の周堀・石室前面(前庭部)から出土した須恵器はいずれも7~8世紀の特徴を備える。原田C区K-1号墳5・6は口径がほぼ一致することから短頸壺のセットとなる可能性がある。なお、同古墳の推定石室内から一部木質が残った方頭大刀の柄頭金具とみられる金銅製品が見つかった。また、同K-3号墳では刀子1点を確認しているが、いずれも遺存度が低く図化には至らなかった。

(4) 遺構・遺物の実測図

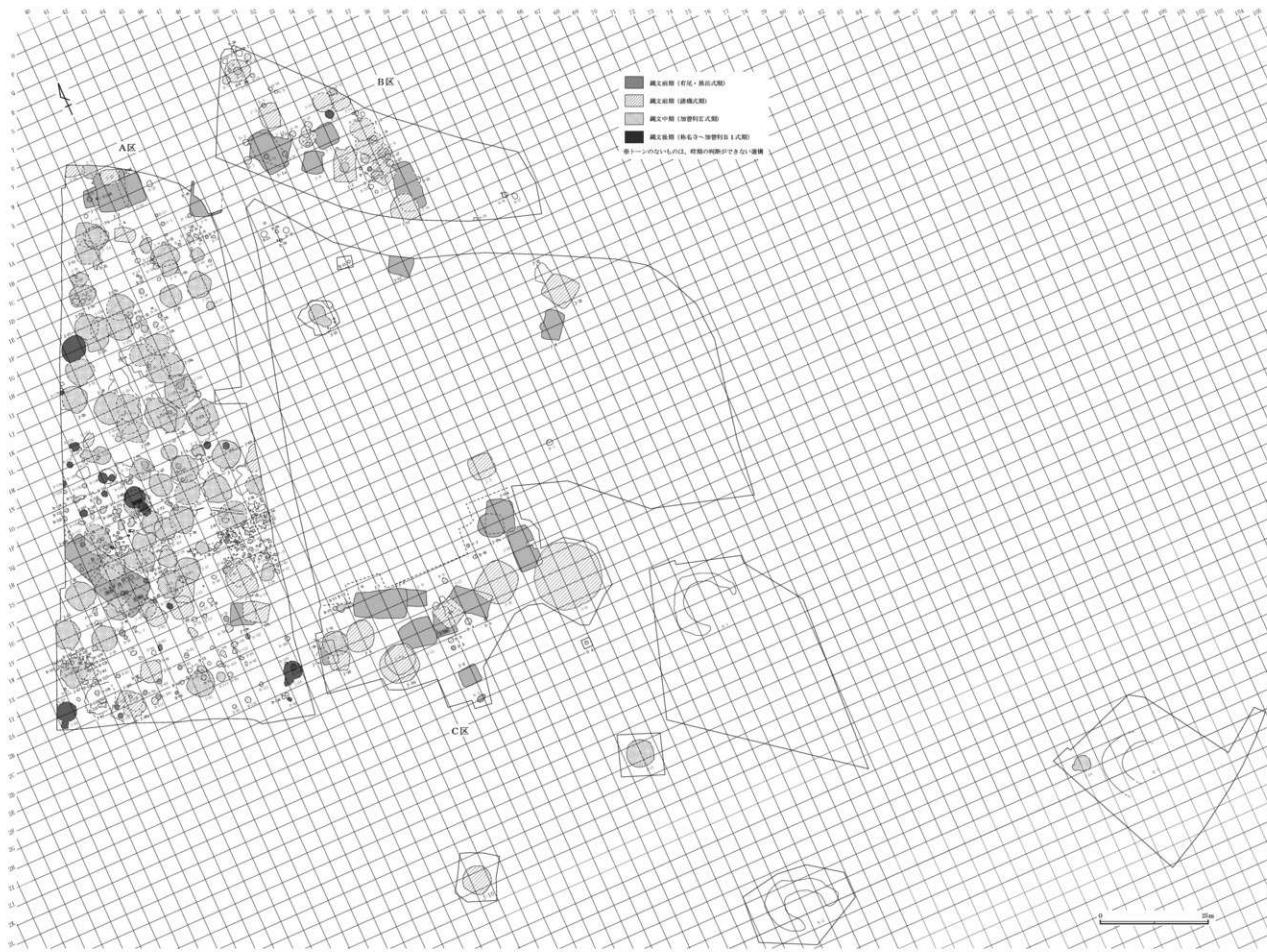
1. 二軒在家原田遺跡



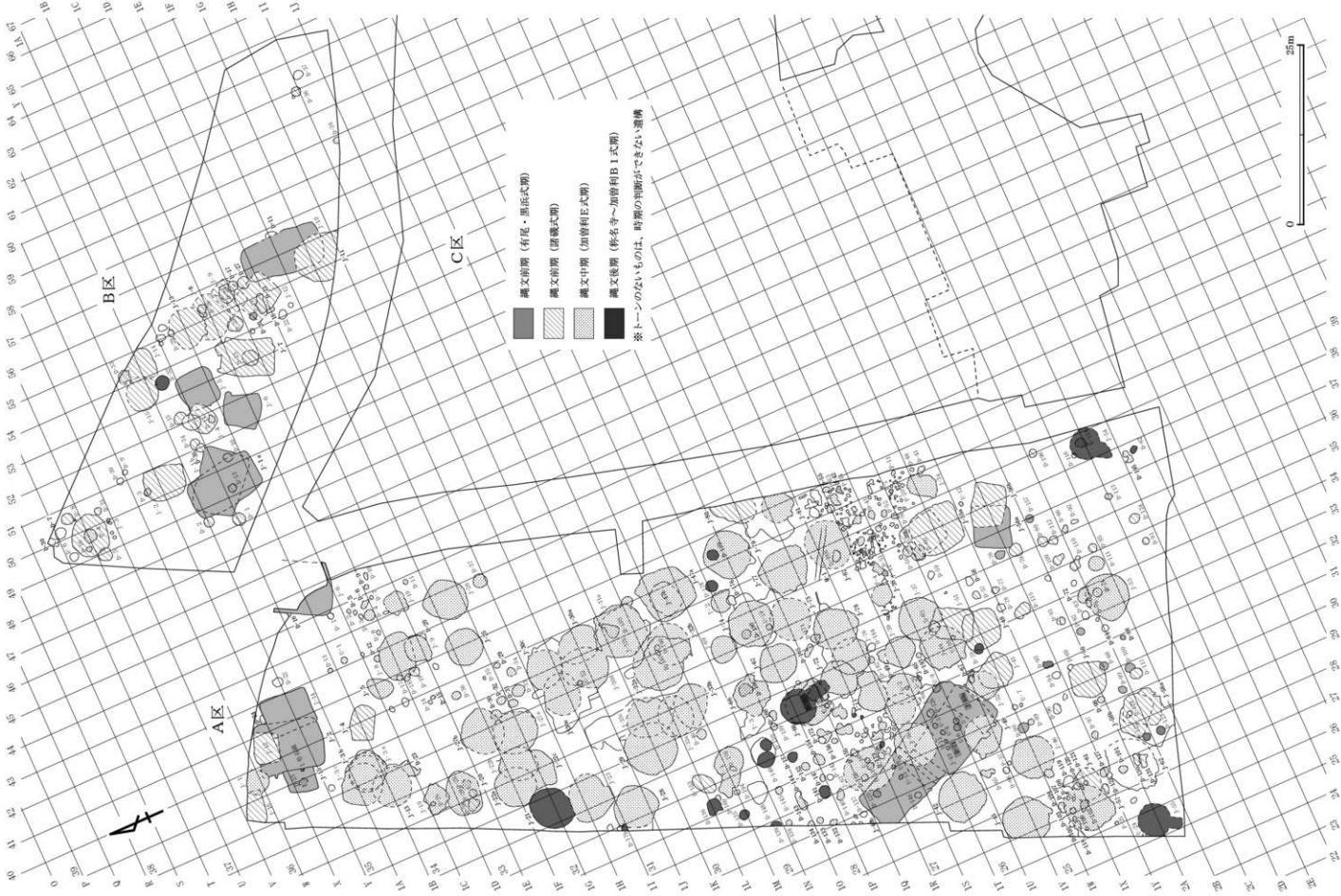
第241図 原田・原田II遺跡 時期別遺構位置図(1)(住居址)



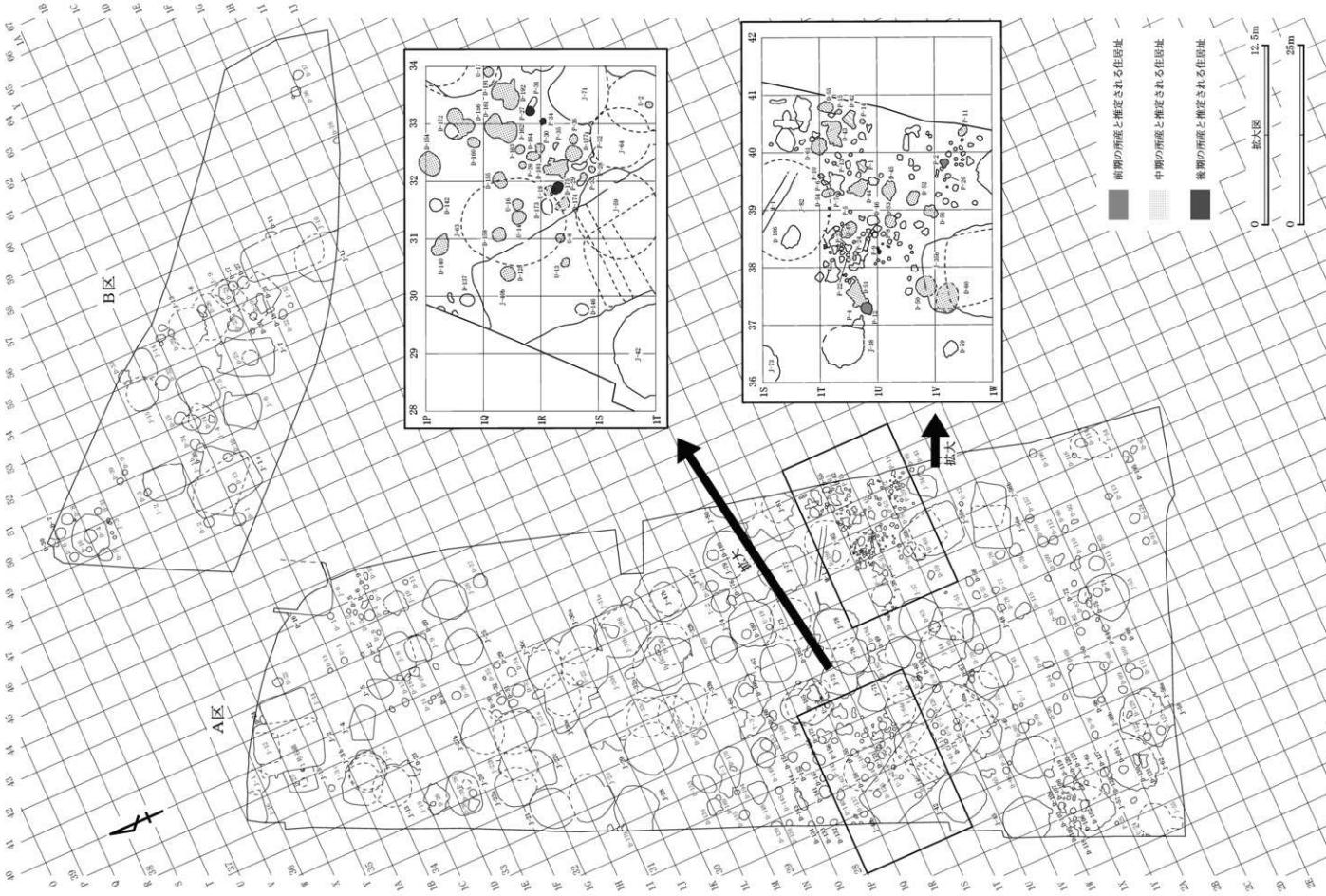
第242図 原田・原田II遺跡 時期別遺構位置図②(土坑・配石墓など)



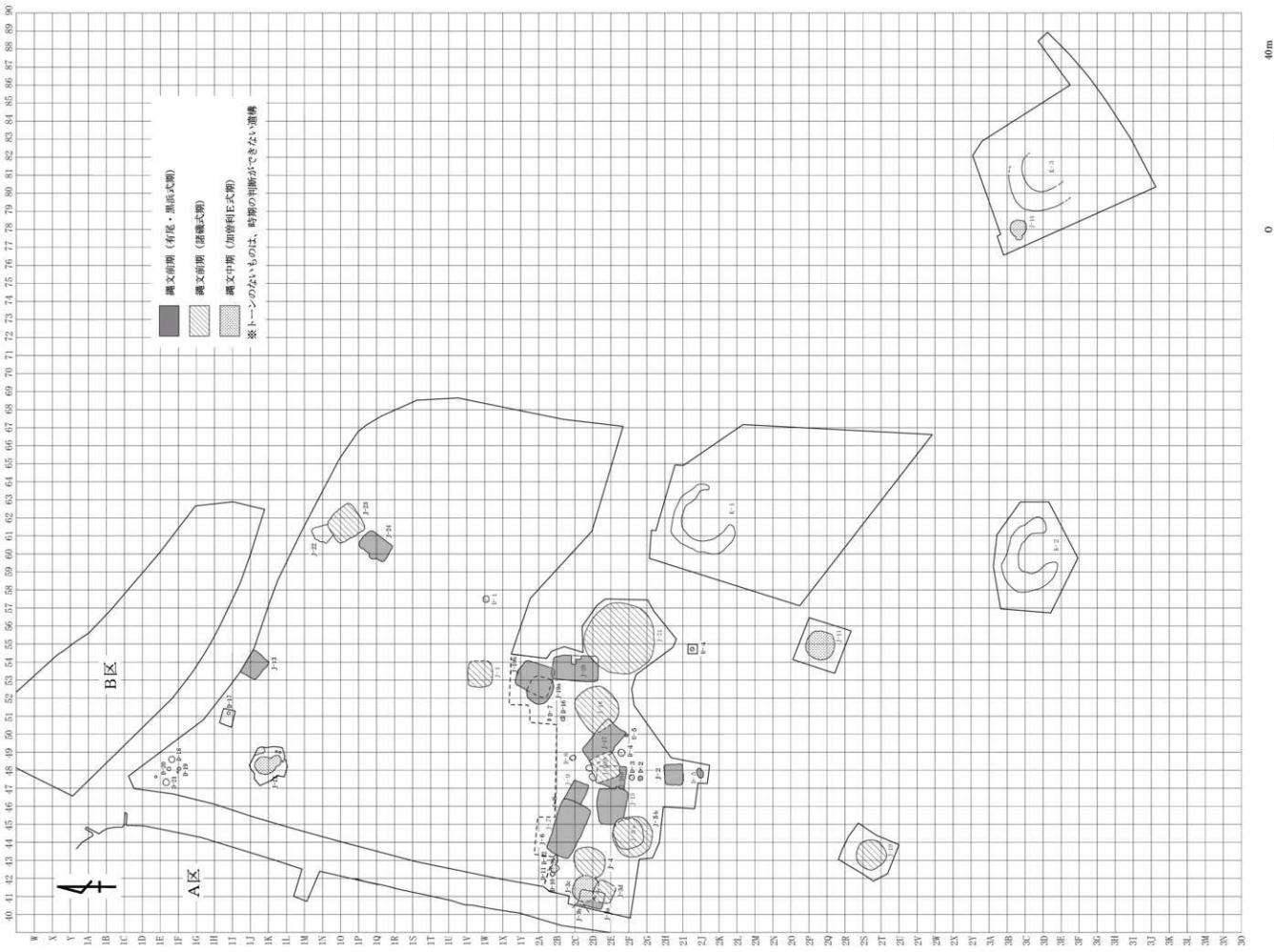
第243図 二軒在家原田遺跡 A・B・C区全体図(時期別)



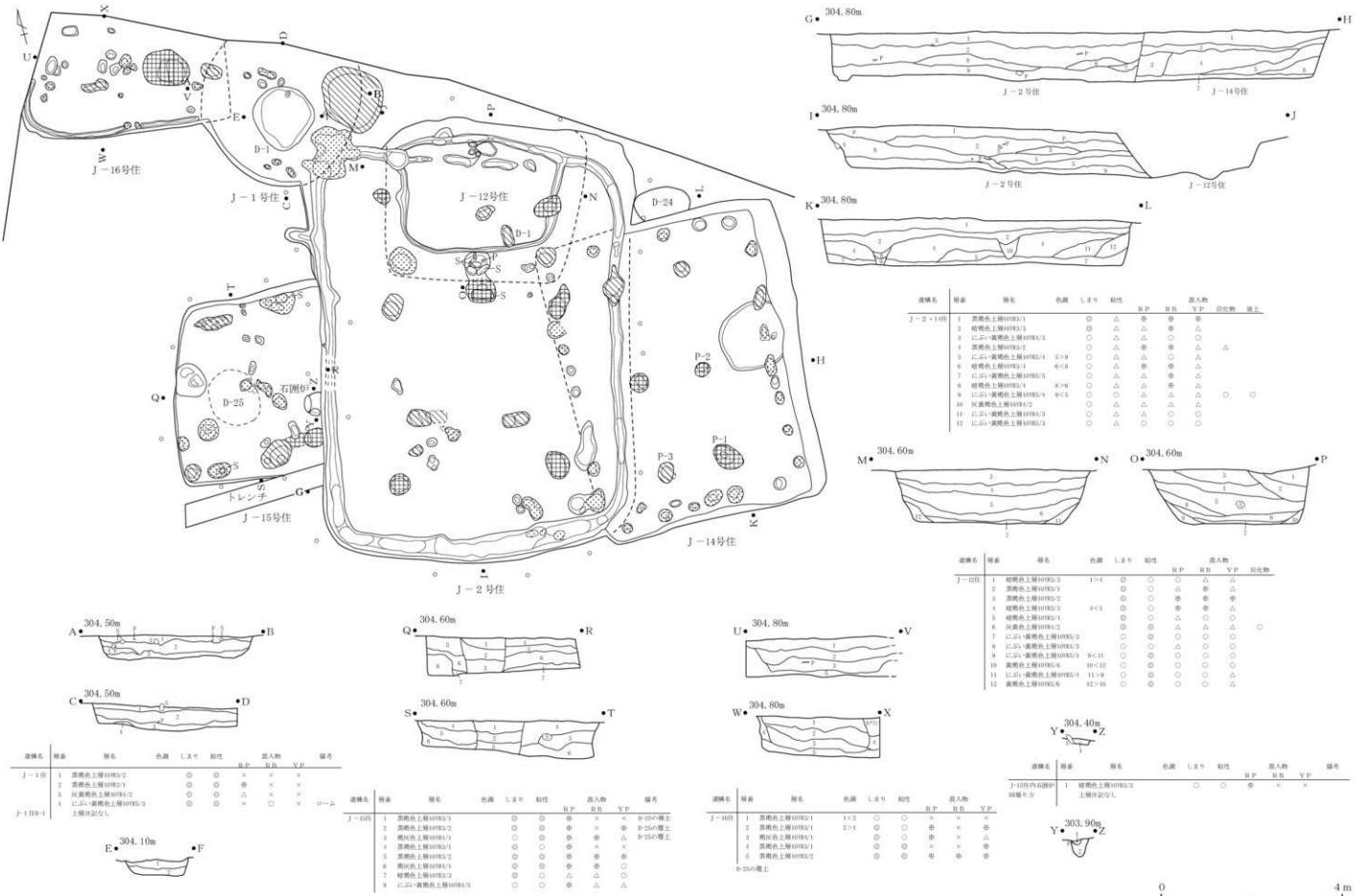
第244図 二軒住家原田遺跡A区・B区全体図(住居・土坑)



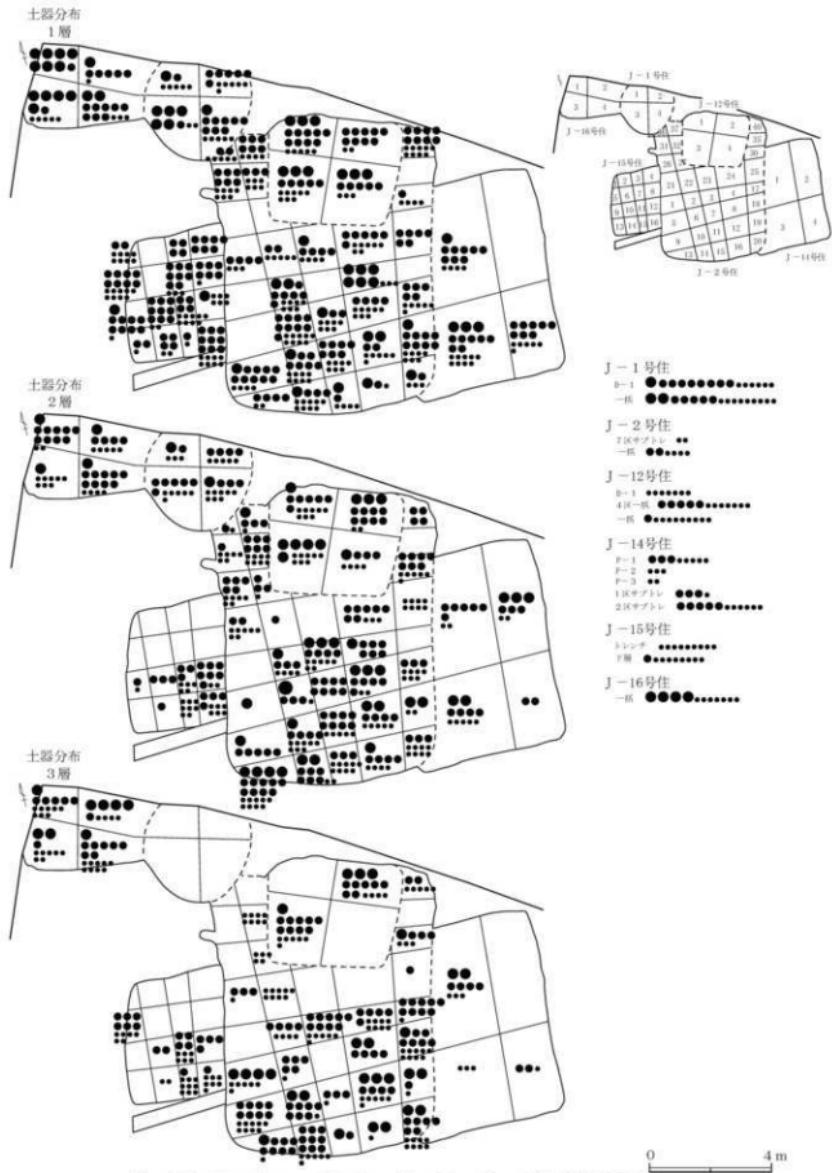
第245図 二軒在家田遺跡A区、B区全体図(上古窓集部分を除く)



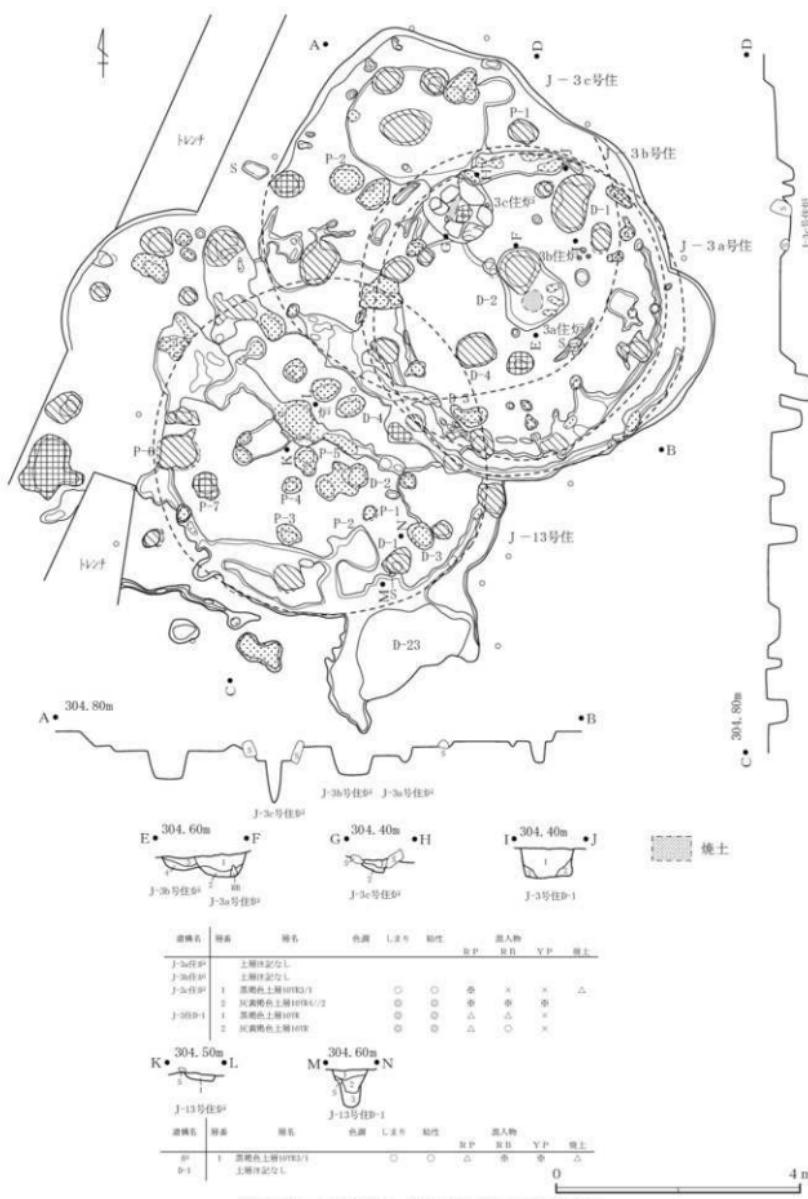
第246図 二軒在家原田遺跡C区全體図(住居址・土塁)



第247図 原田A区J-1号・2号・12号・14号・15号・16号住居址実測図(1)



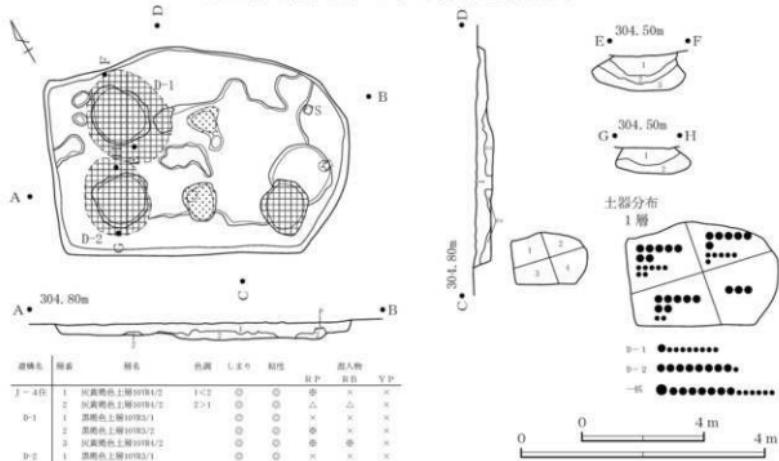
第248図 原田A区J-1号・2号・12号・14号・15号・16号住居址実測図(2)



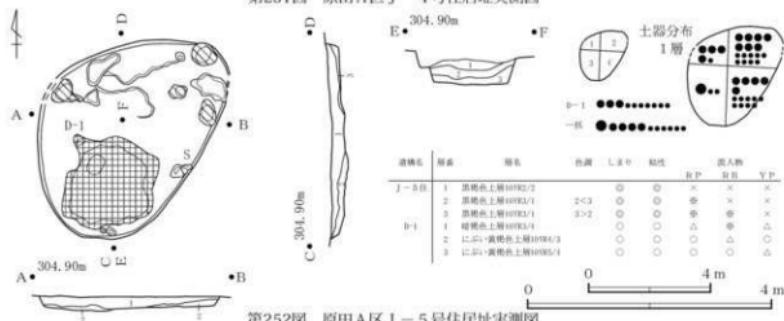
第249図 原田A区J-3号・13号住居址実測図(1)



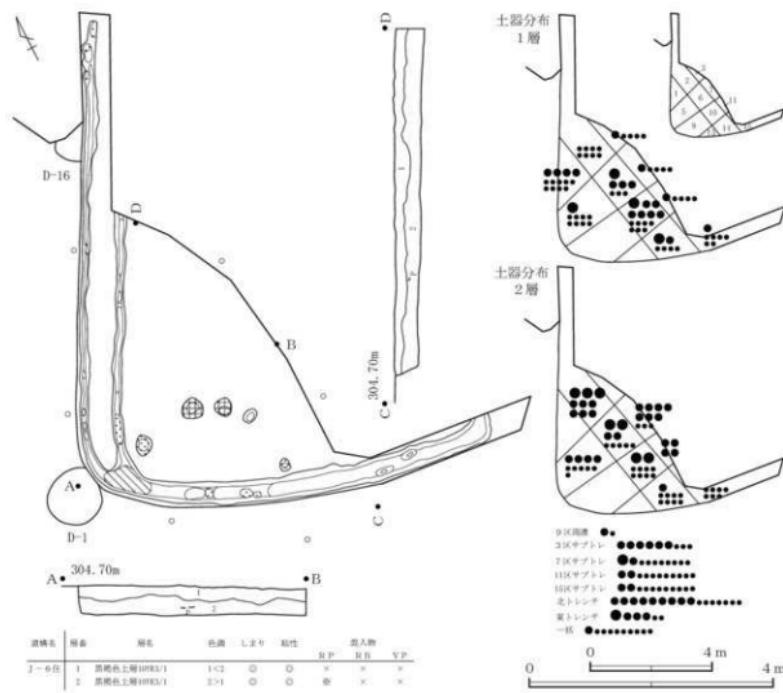
第250図 原田A区J-3号・13号住居址実測図(2)



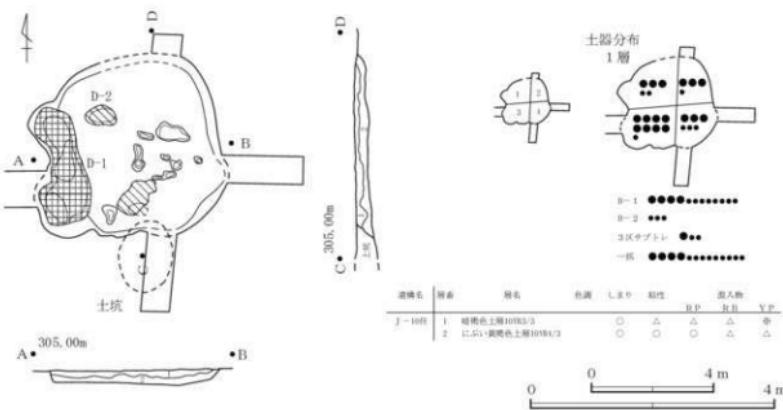
第251図 原田A区J-4号住居址実測図



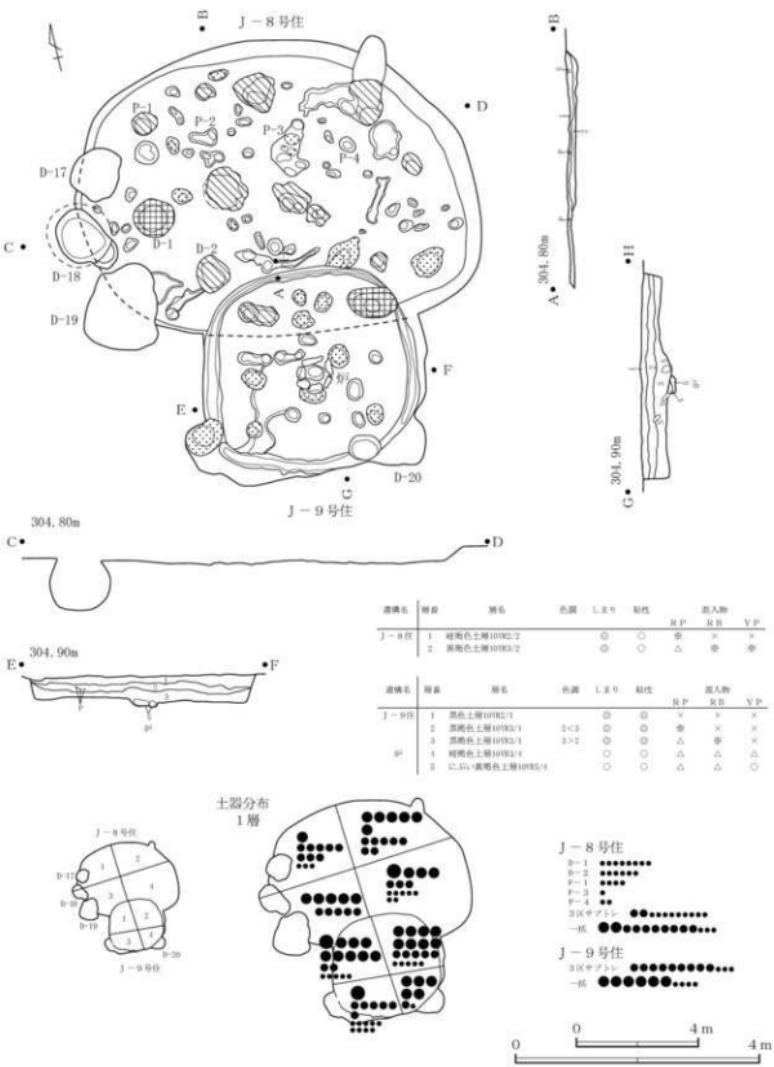
第252図 原田A区J-5号住居址実測図



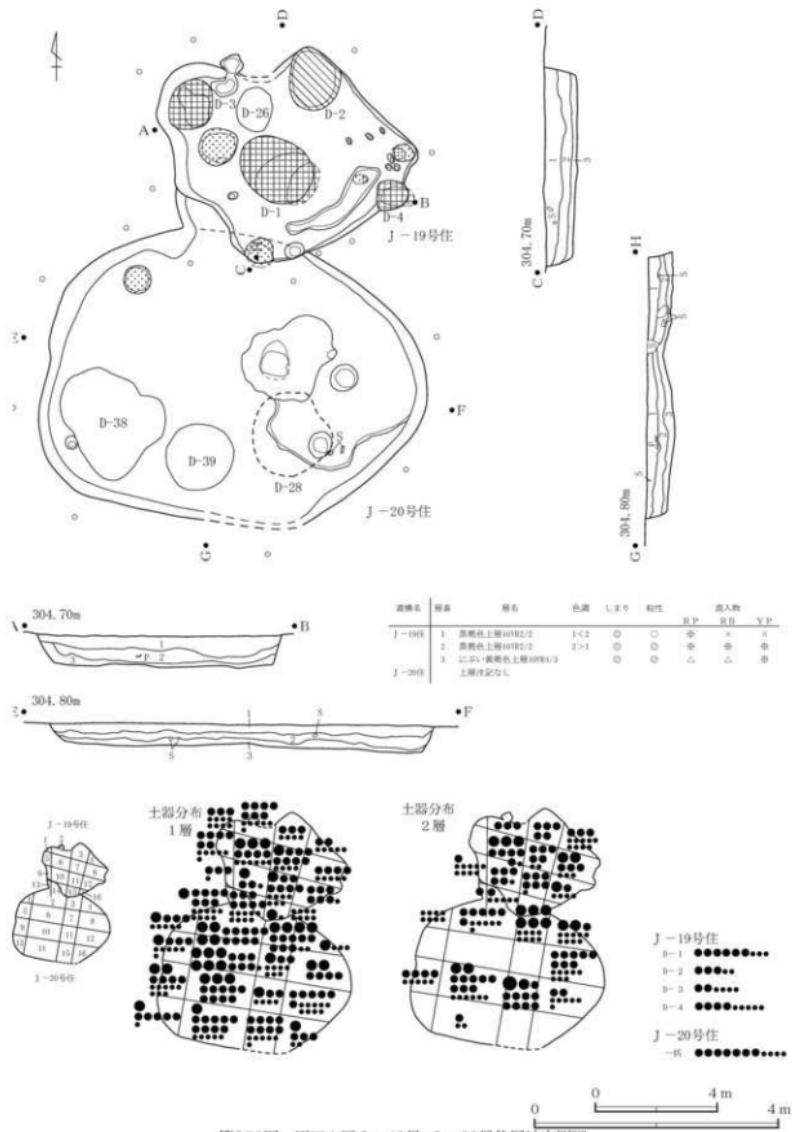
第253図 原田A区J-6号住居址実測図



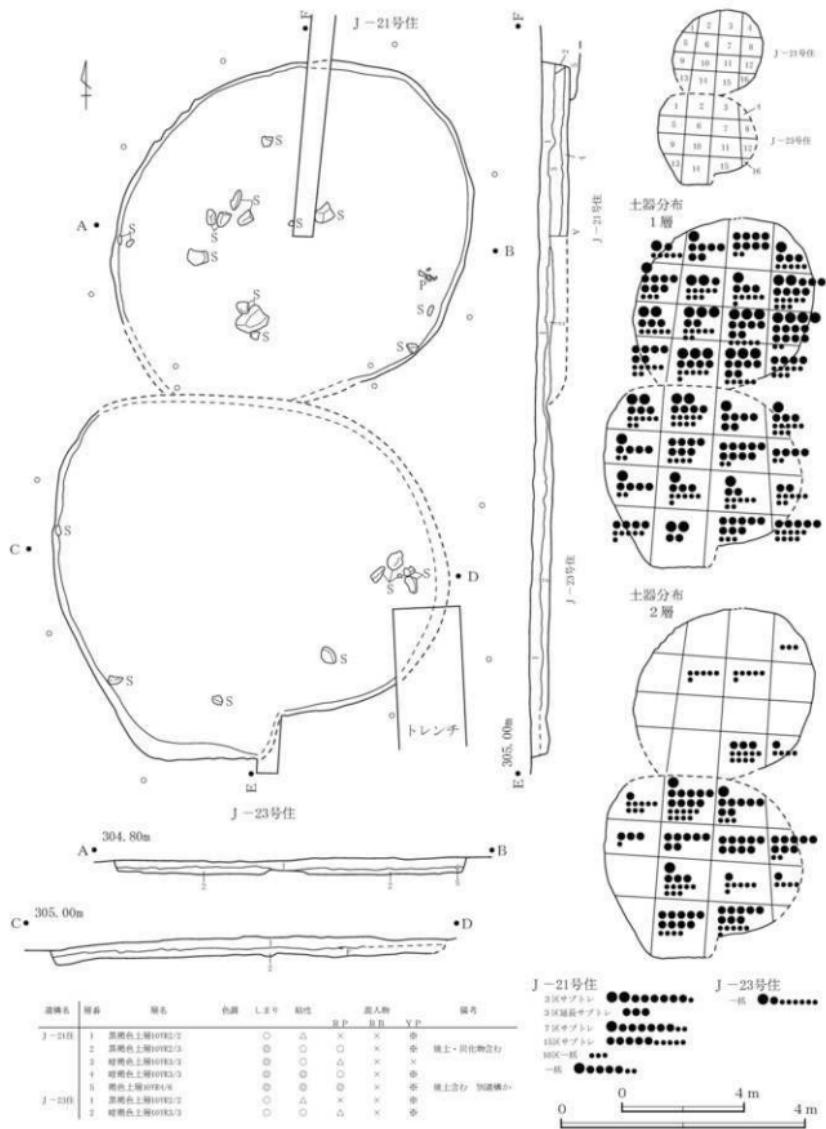
第254図 原田A区J-10号住居址実測図



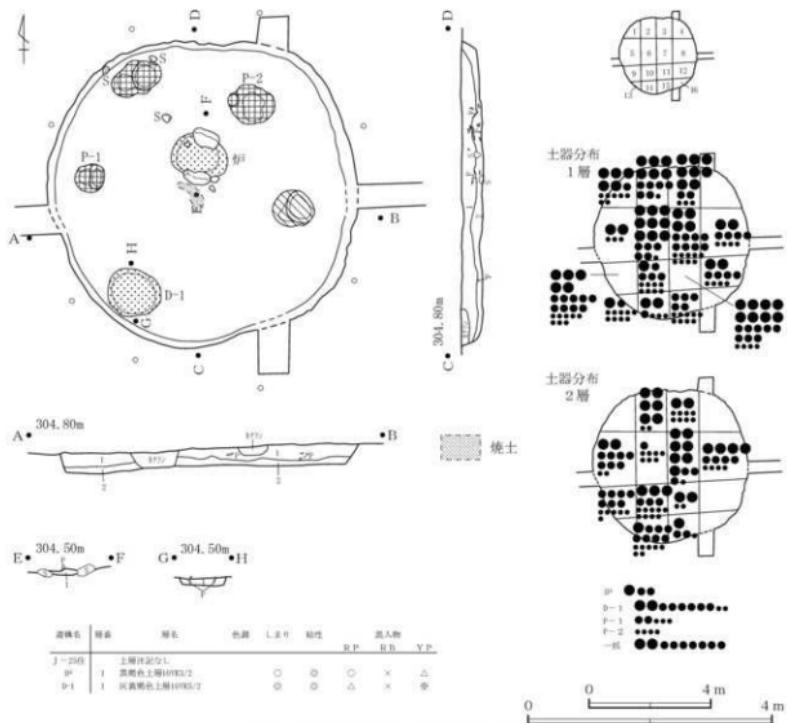
第255図 原田A区J-8号・9号住居址実測図



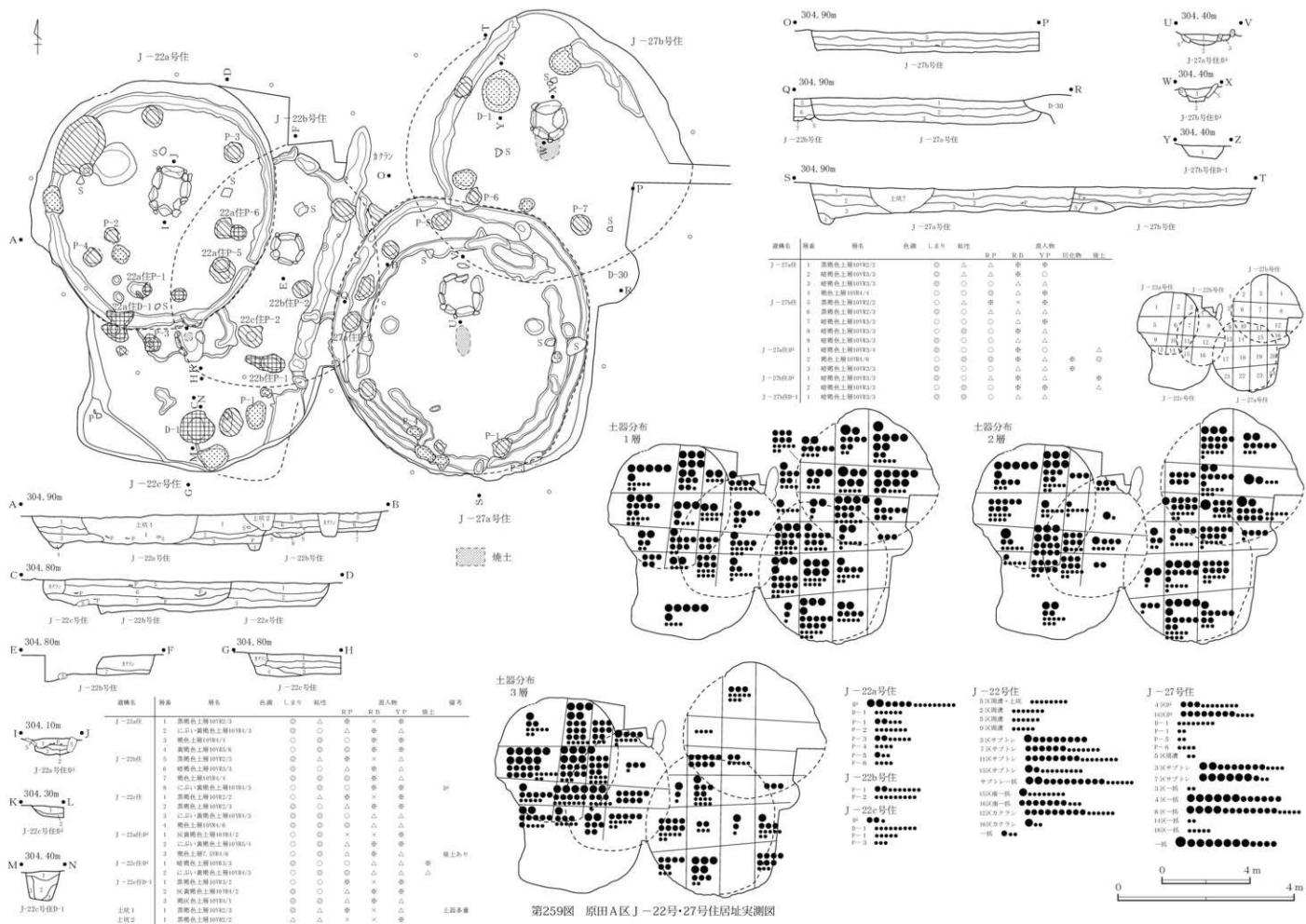
第256図 原田A区J-19号・J-20号住居址実測図

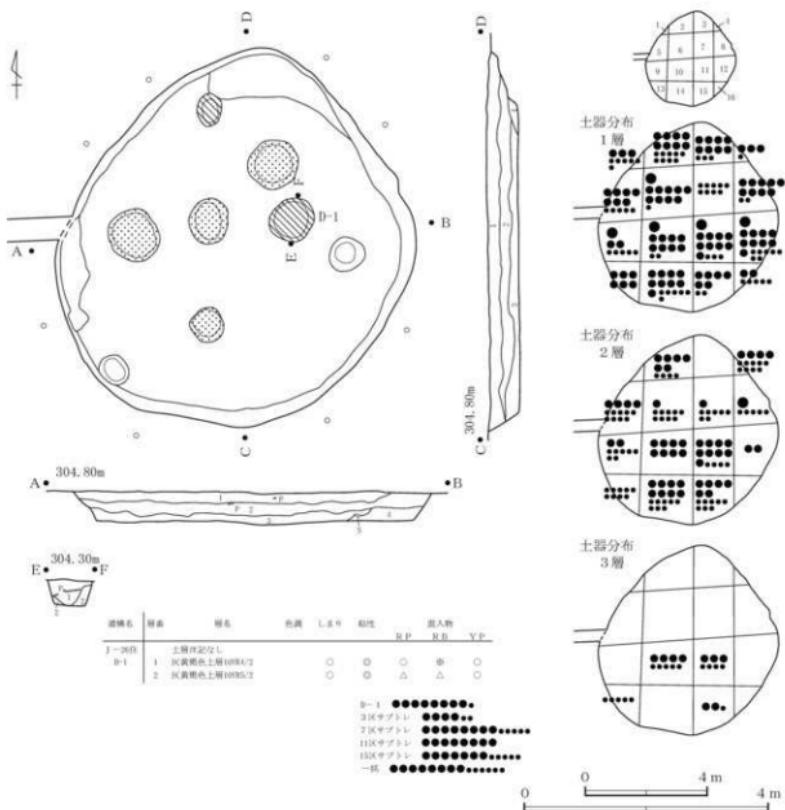


第257図 原田A区J-21号・23号居住址実測図

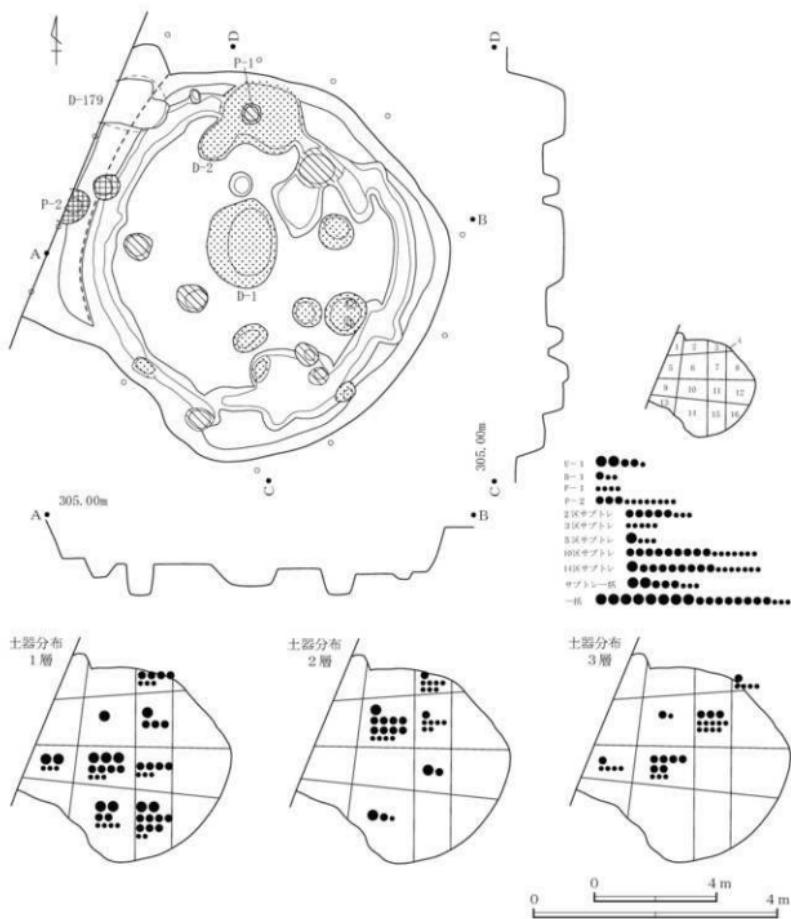


第258図 原田A区J-25号住居址実測図

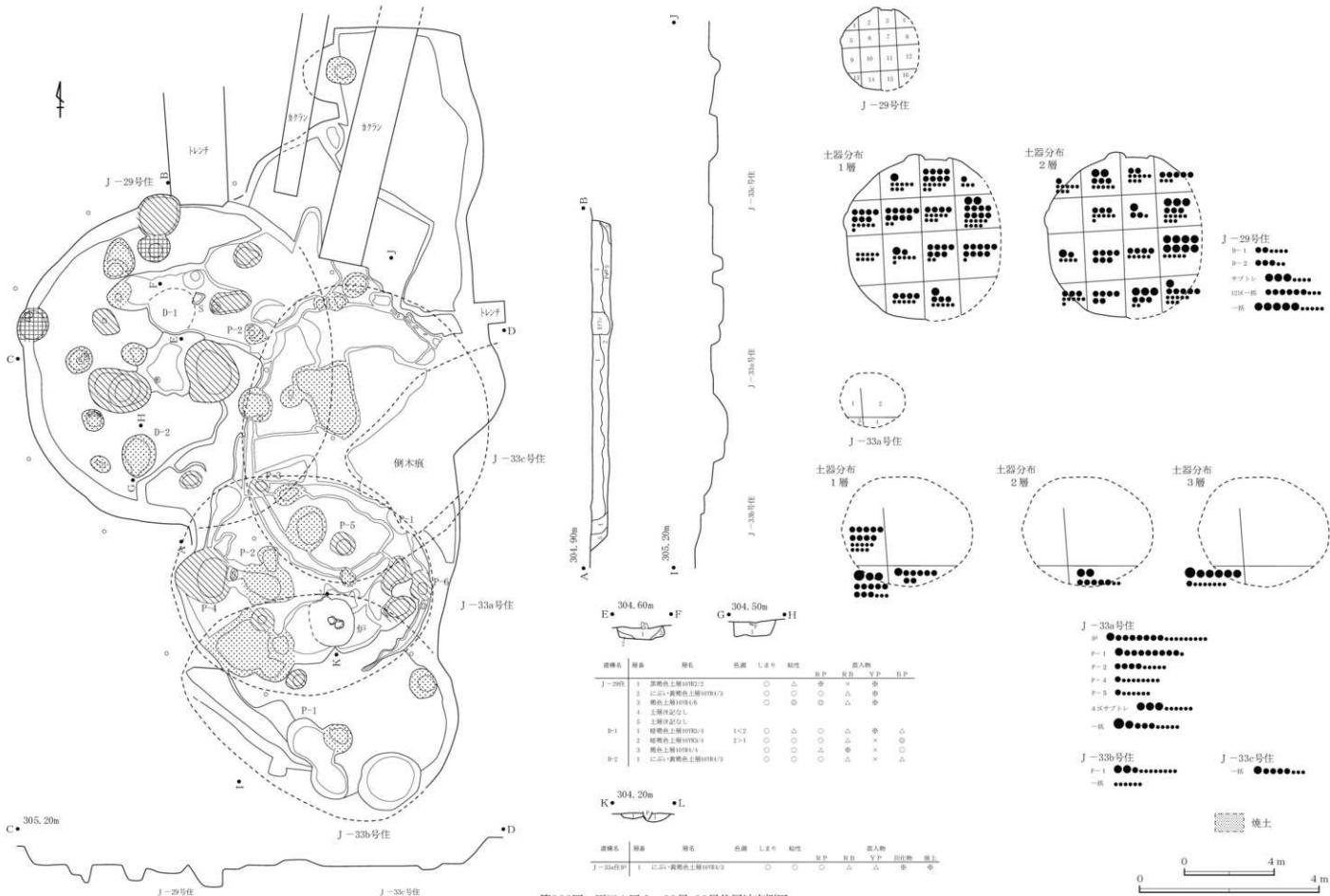




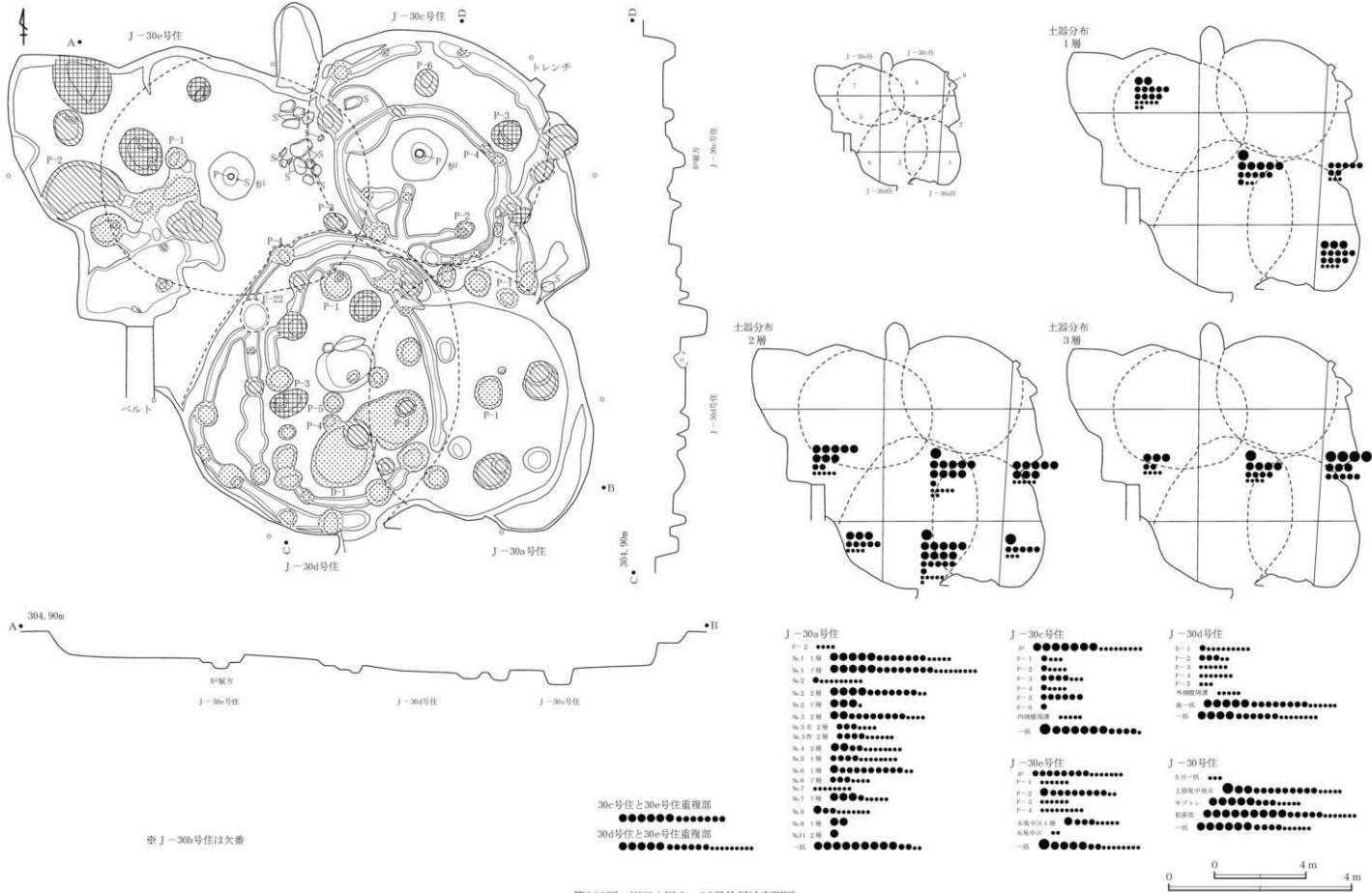
第260図 原田A区J-26号住居址実測図



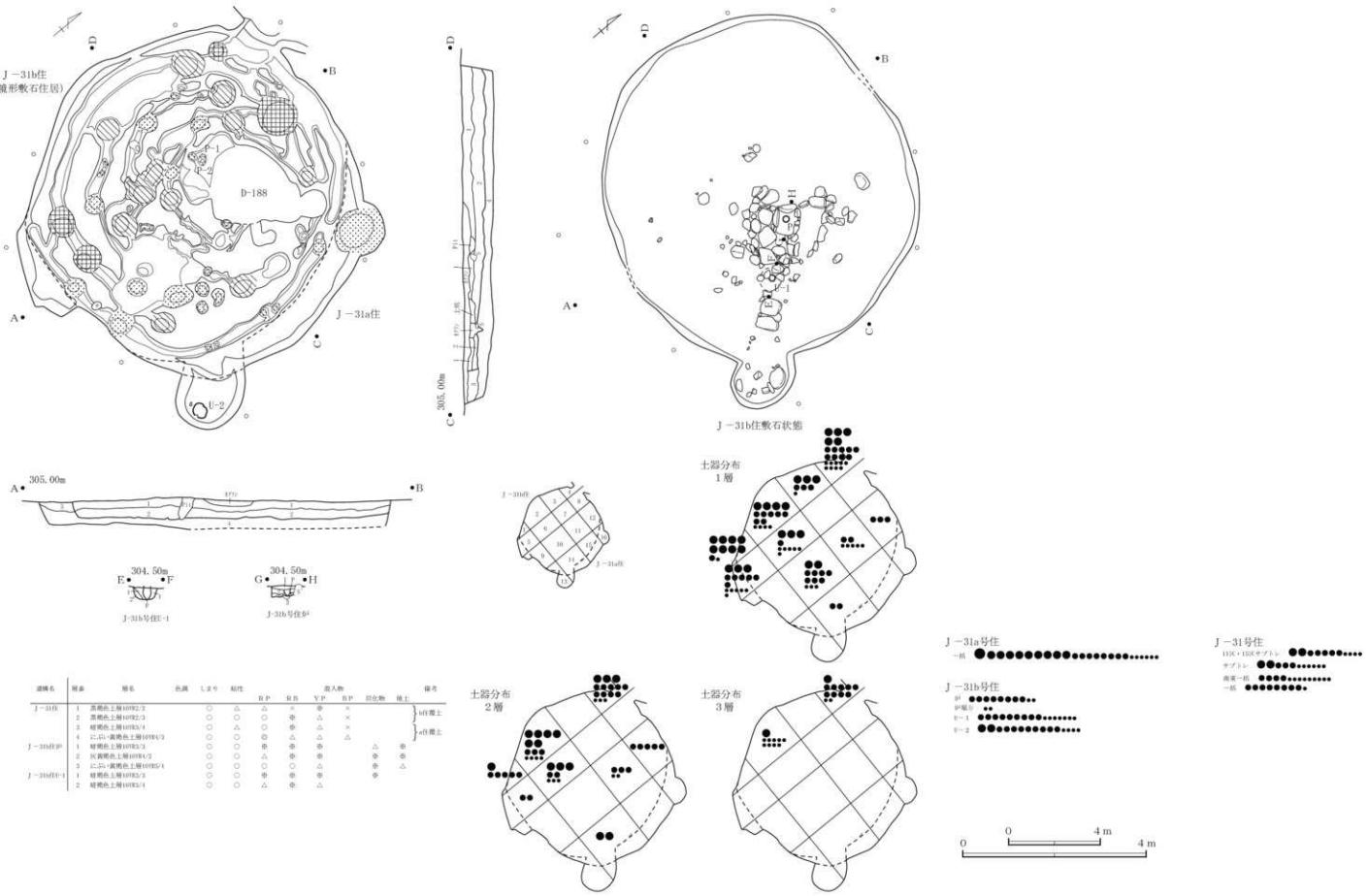
第261図 原田A区J-28号住居址実測図



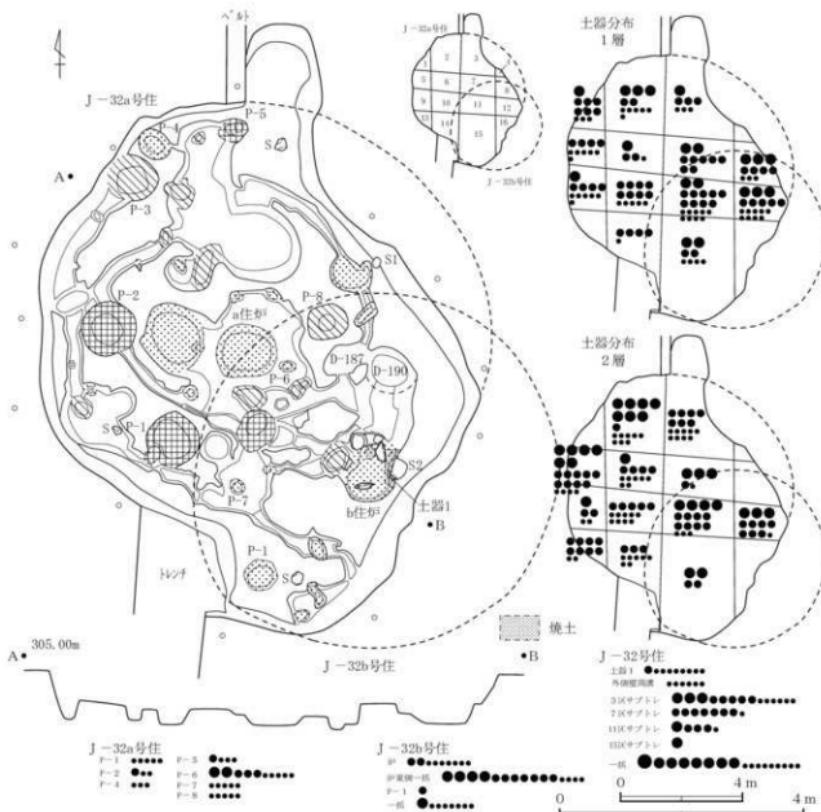
第262図 原田A区J-29号・33号居住址実測図



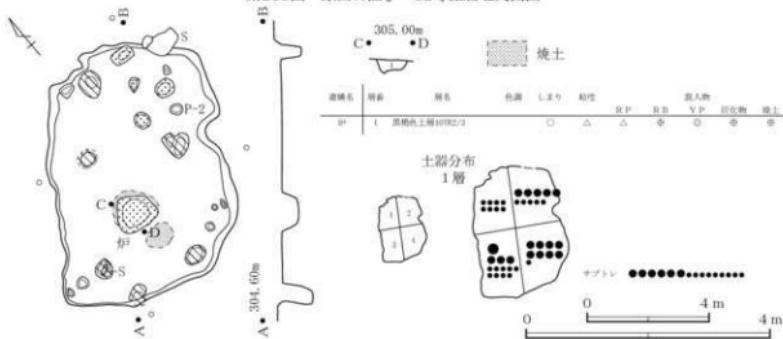
第263図 原田A区 J-30号住居址実測図



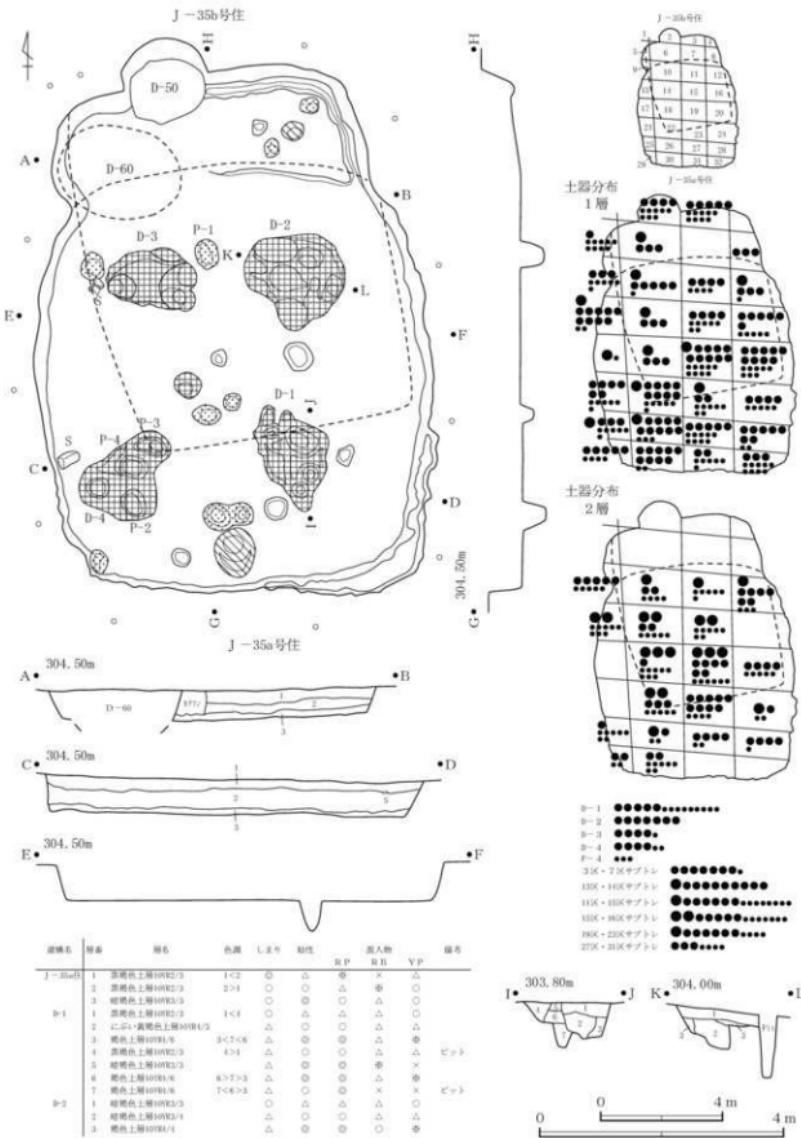
第264図 原田A区J-31号住居址実測図



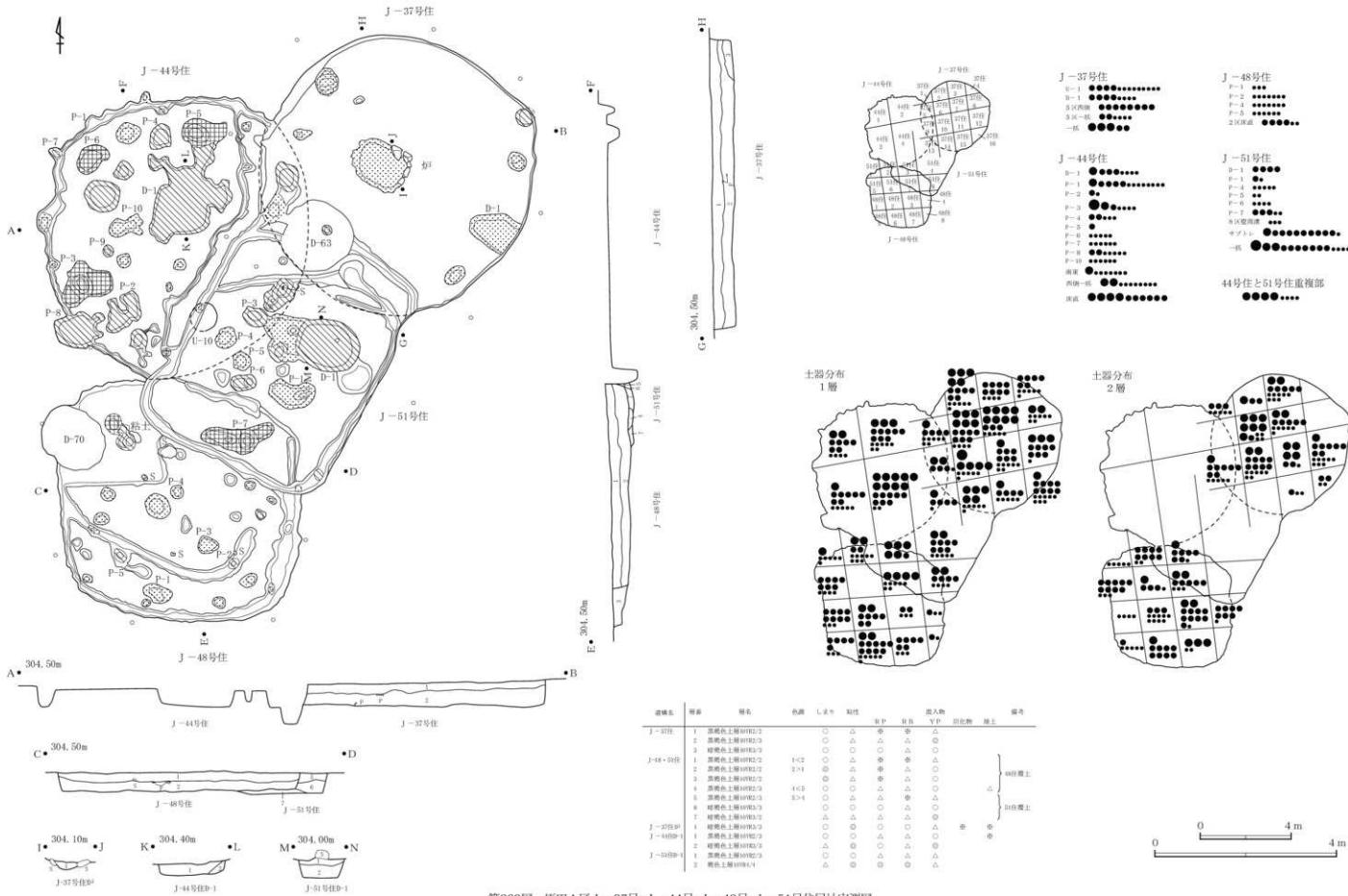
第265図 原田A区1-32号住居址実測図



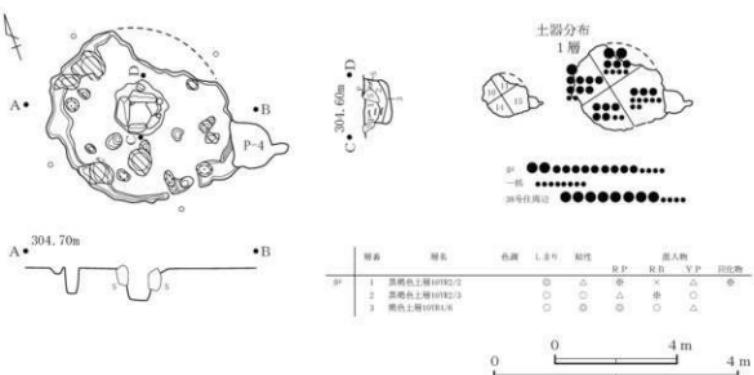
第266図 廣田A区1-34号住居址実測図



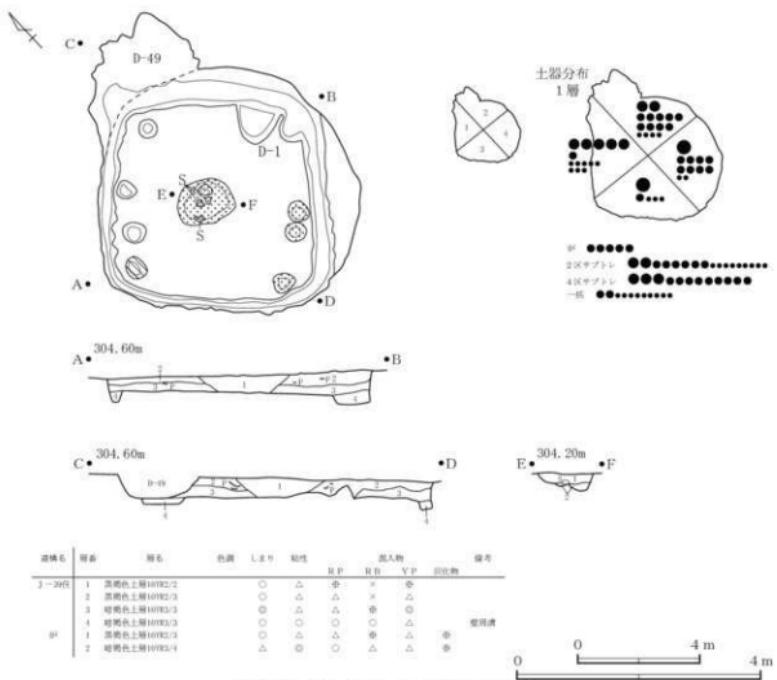
第267図 原田A区J-35号住居址実測図



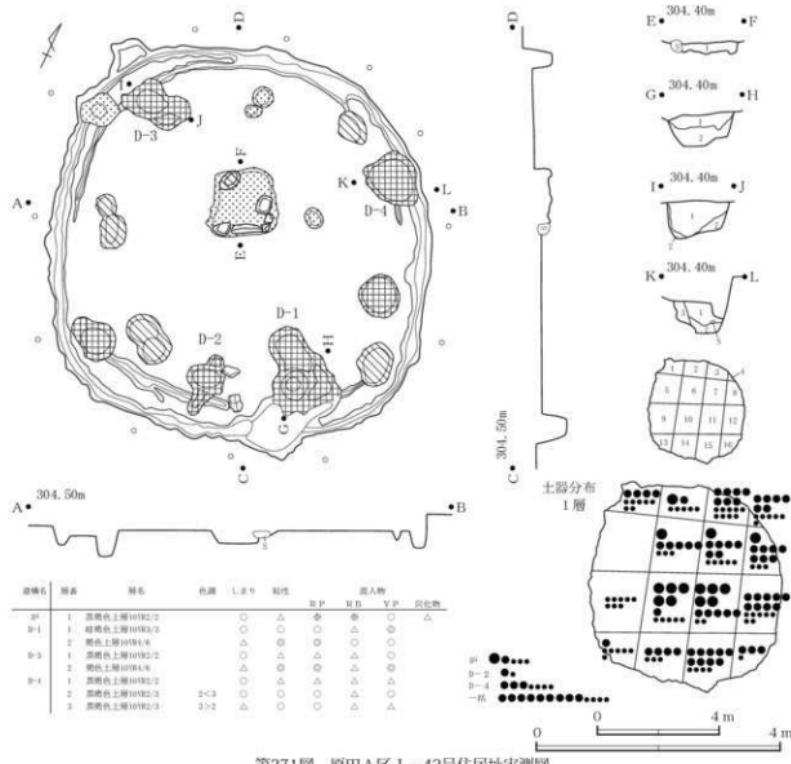
第268図 原田A区 J-37号・J-44号・J-48号・J-51号住居址実測図



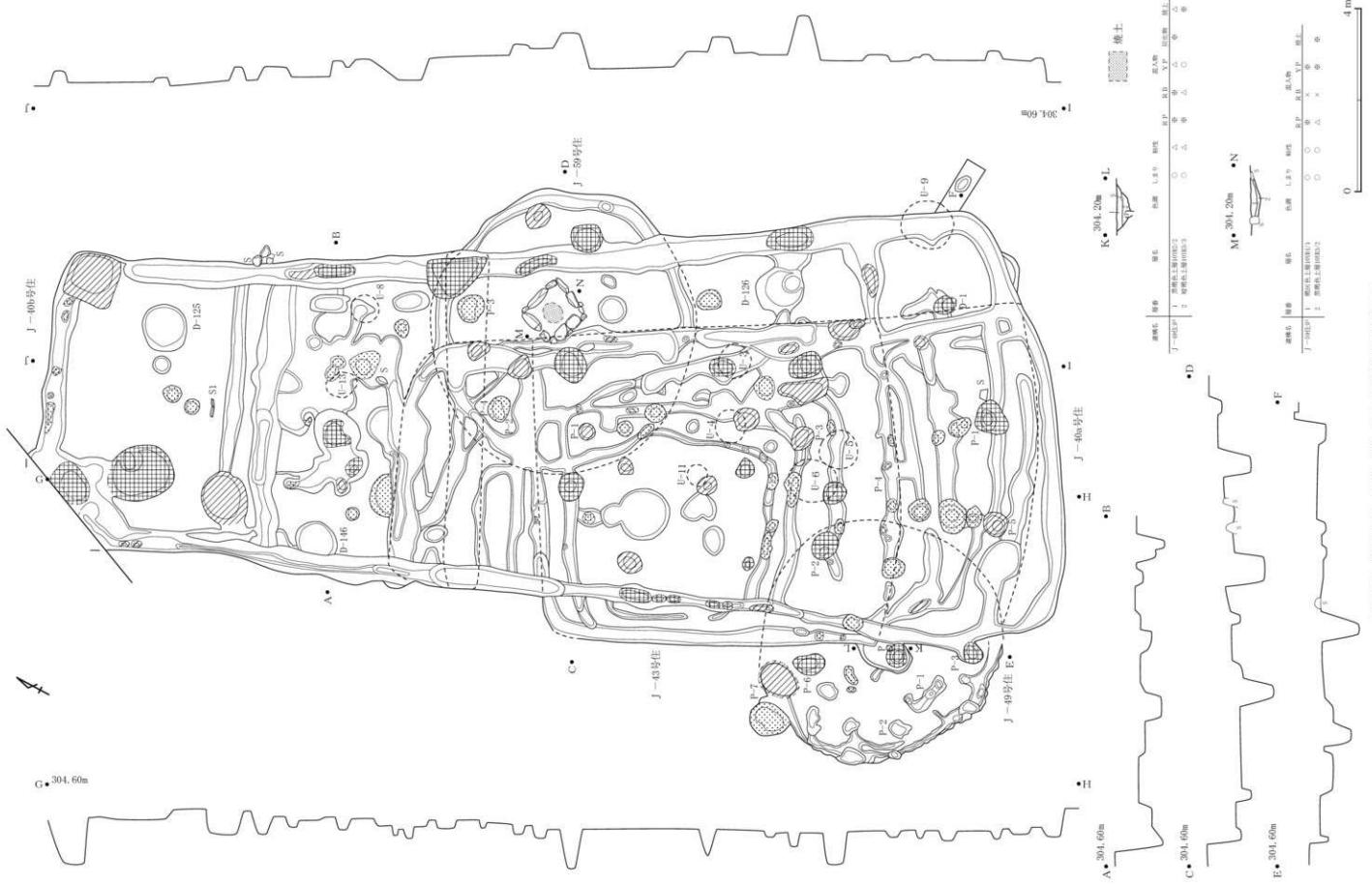
第269図 原田A区J-38号住居址実測図



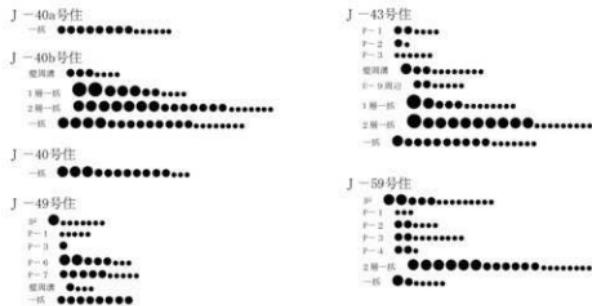
第270図 原田A区J-39号住居址実測図



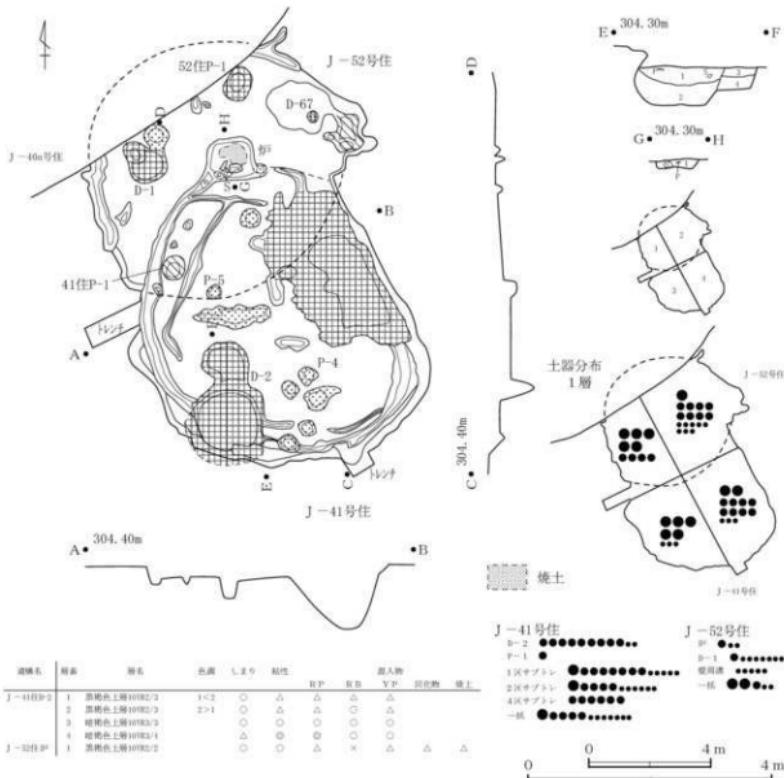
第271図 原田A区J-42号住居址実測図



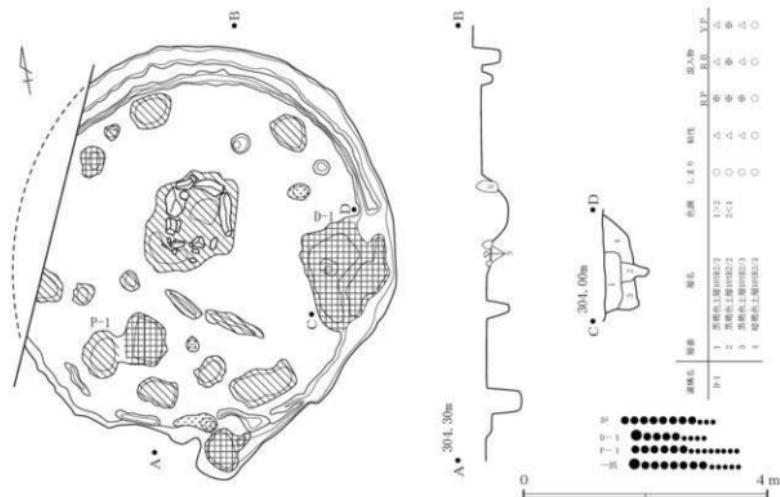
第272図 原田A区J-40号・43号・49号・59号住居址実測図(1)



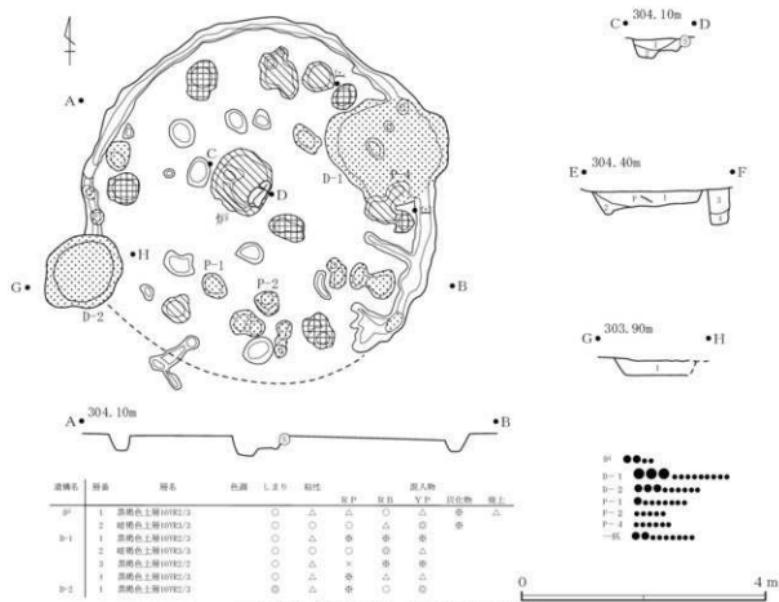
第273図 原田A区J-40号・43号・49号・59号住居址実測図(2)



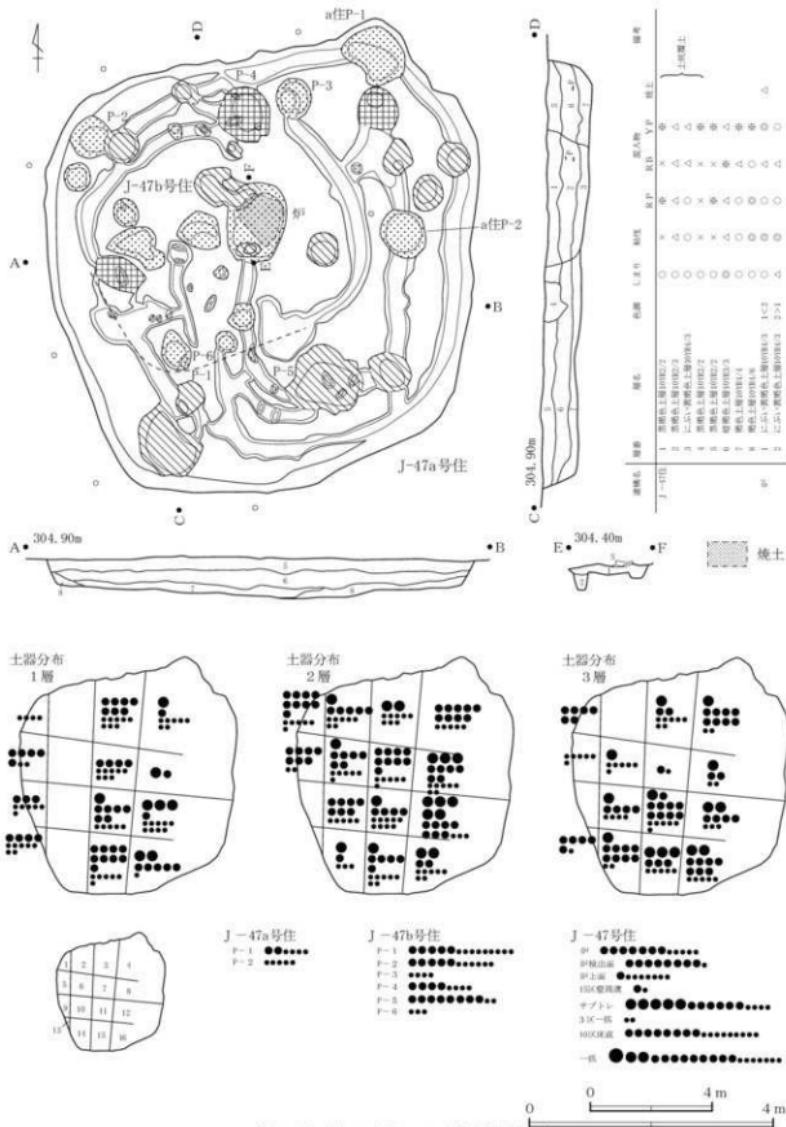
第274図 原田A区J-41号・52号住居址実測図



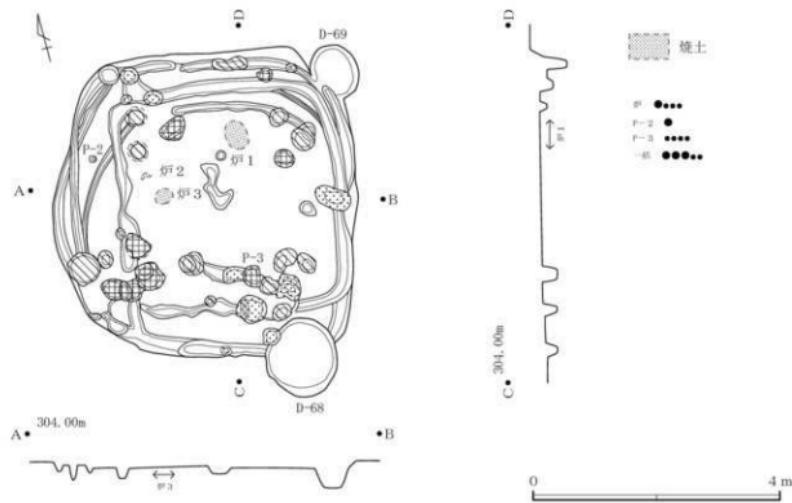
第275図 原田A区J-45号住居址実測図



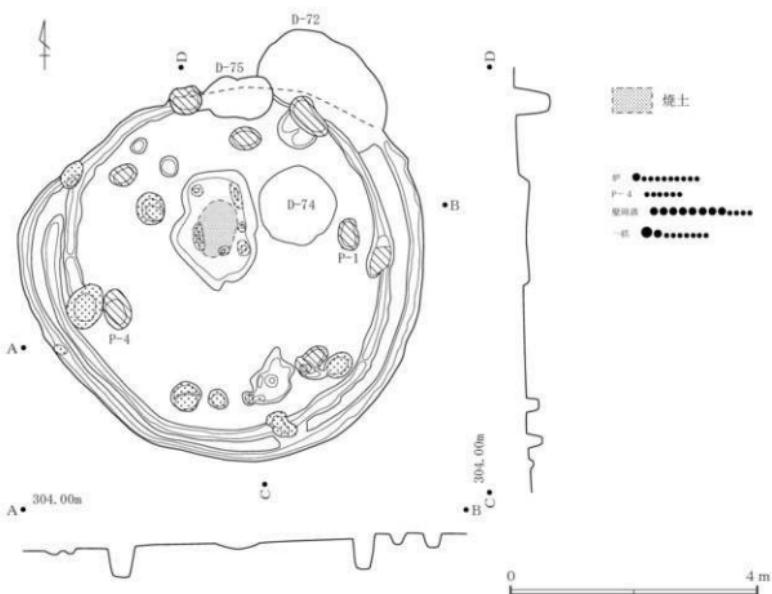
第276図 原田A区J-46号住居址実測図



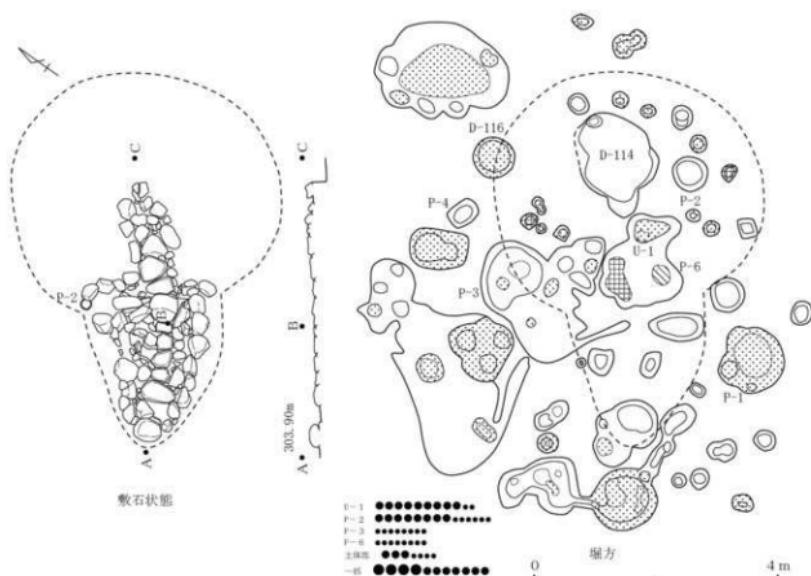
第277図 原田A区J-47号住居址実測図



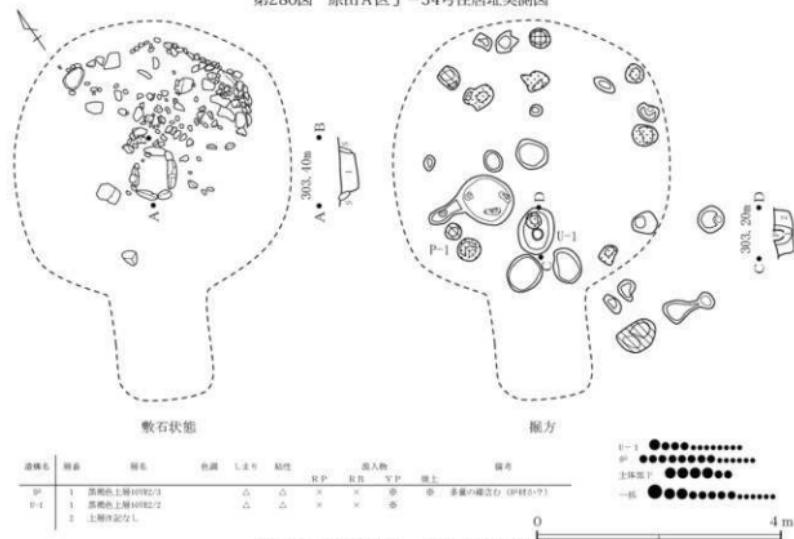
第278図 原田A区J-50号住居址実測図



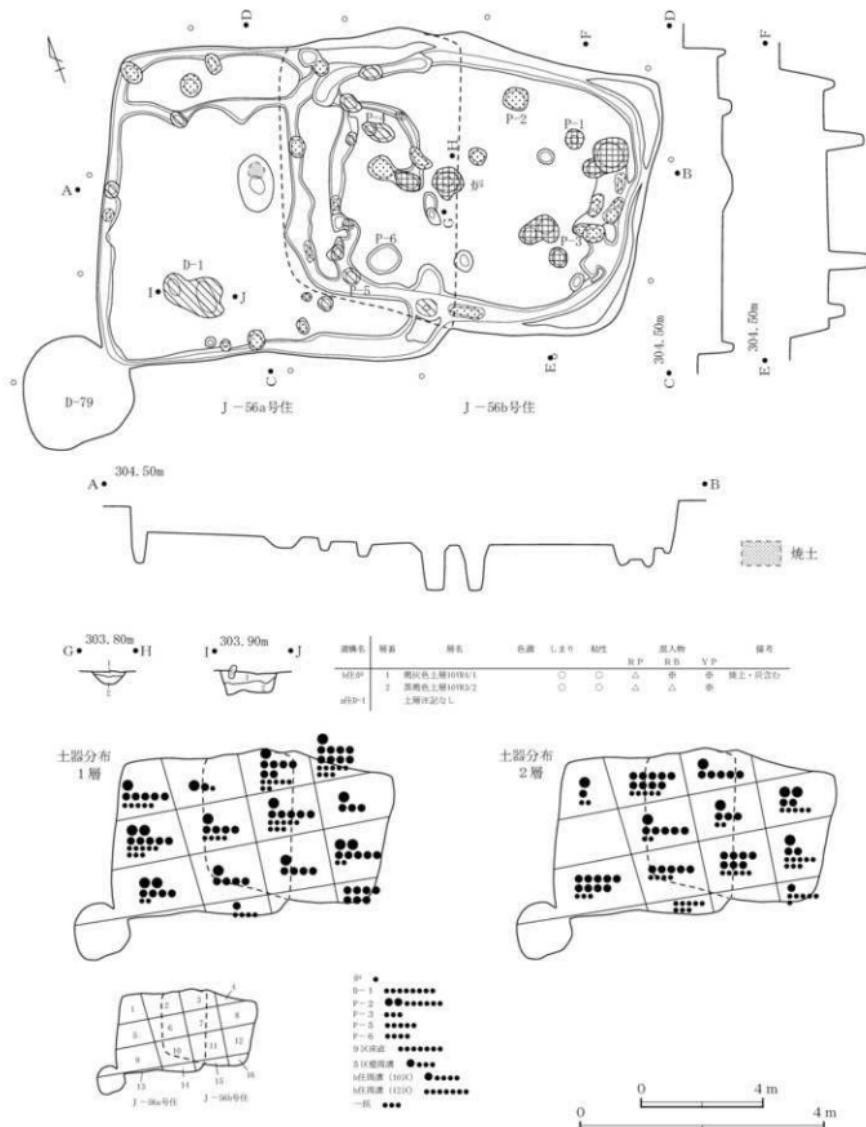
第279図 原田A区J-53号住居址実測図



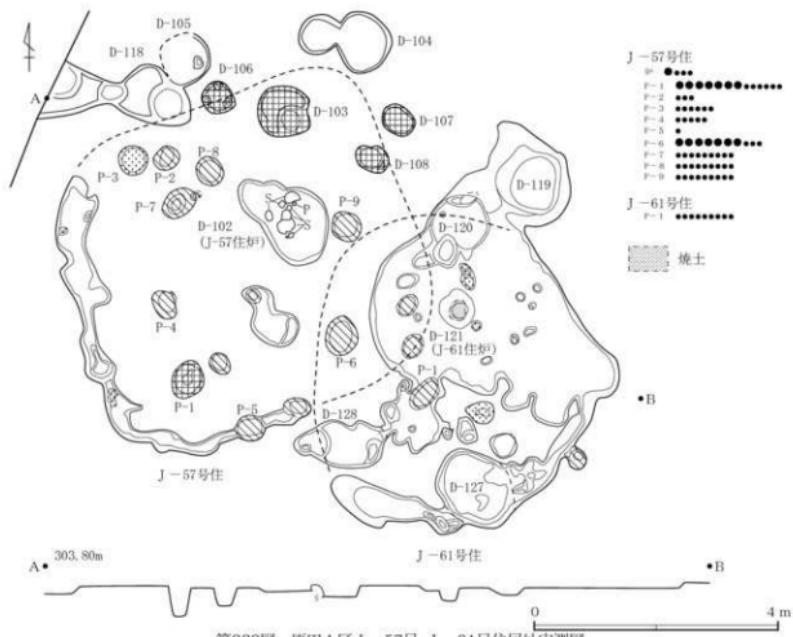
第280図 原田A区J-54号住居址実測図



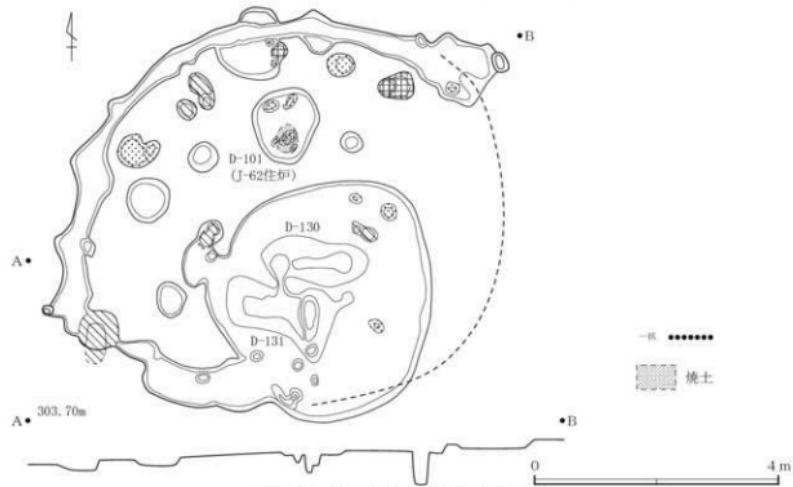
第281図 原田A区J-55号住居址実測図



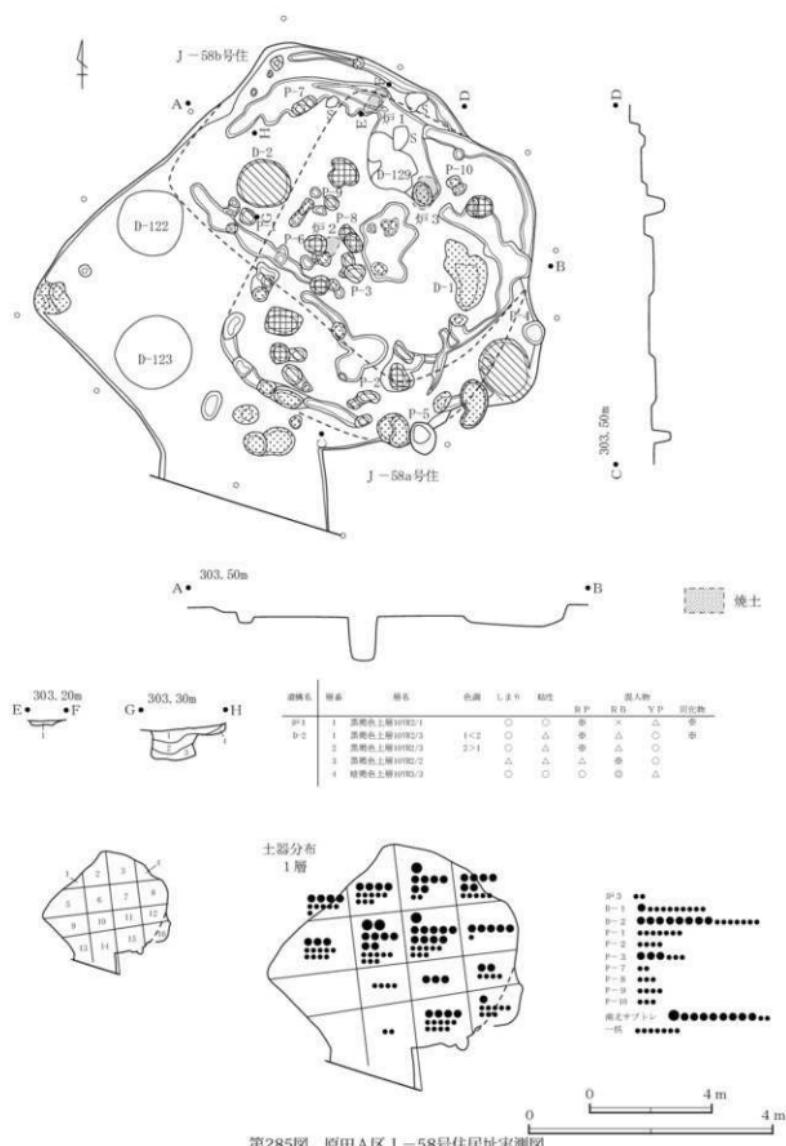
第282図 原田A区J-56号住居址実測図

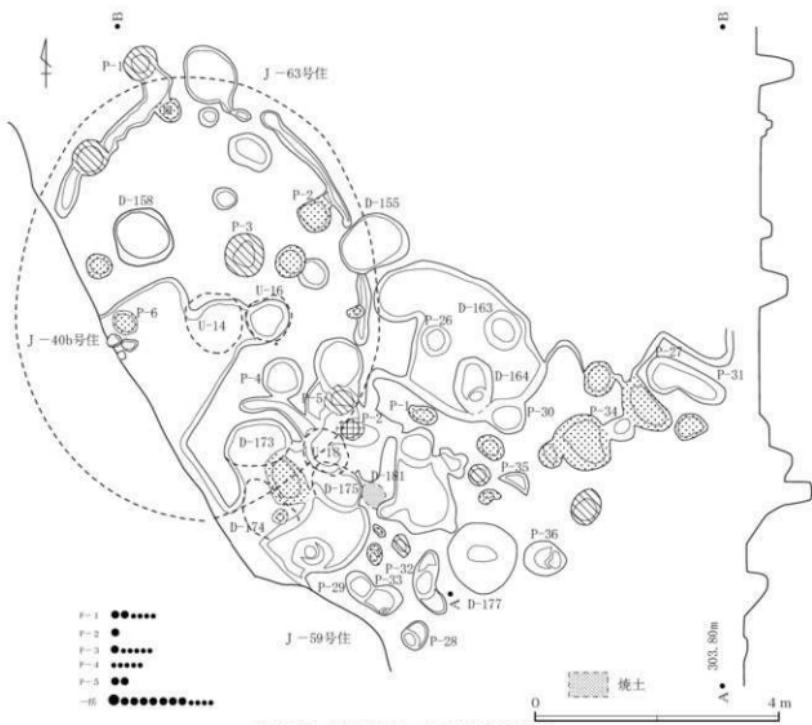


第283図 原田A区J-57号・J-61号住居址実測図

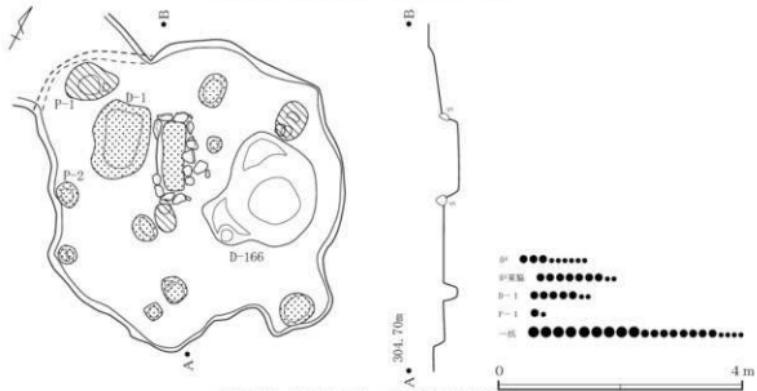


第284図 原田A区J-62号住居址実測図

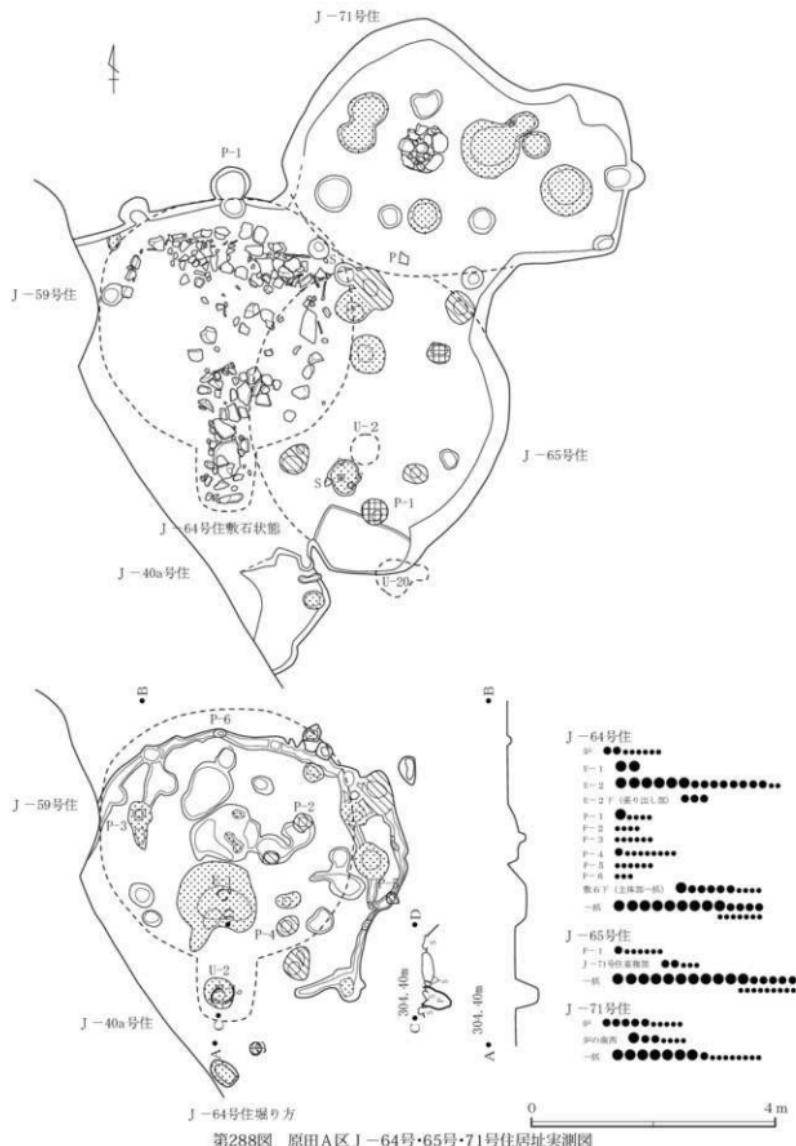




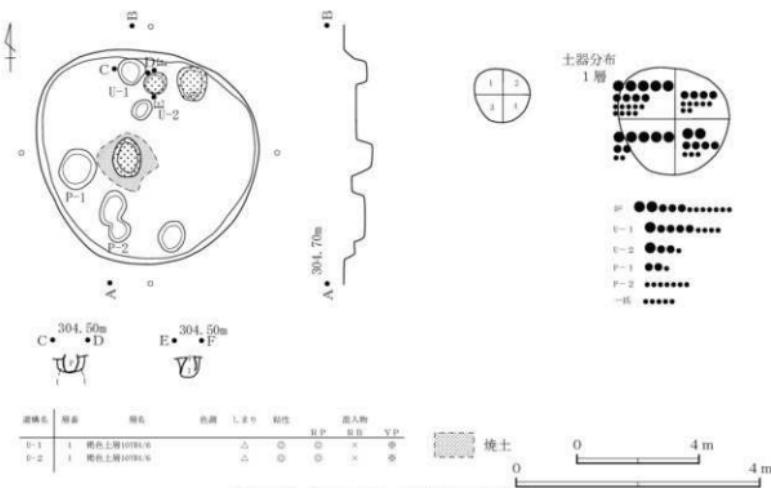
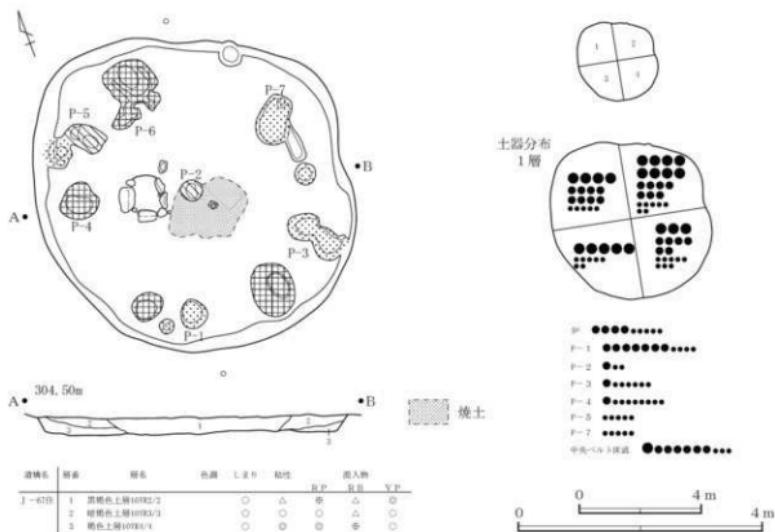
第286図 原田A区J-63号住居址実測図

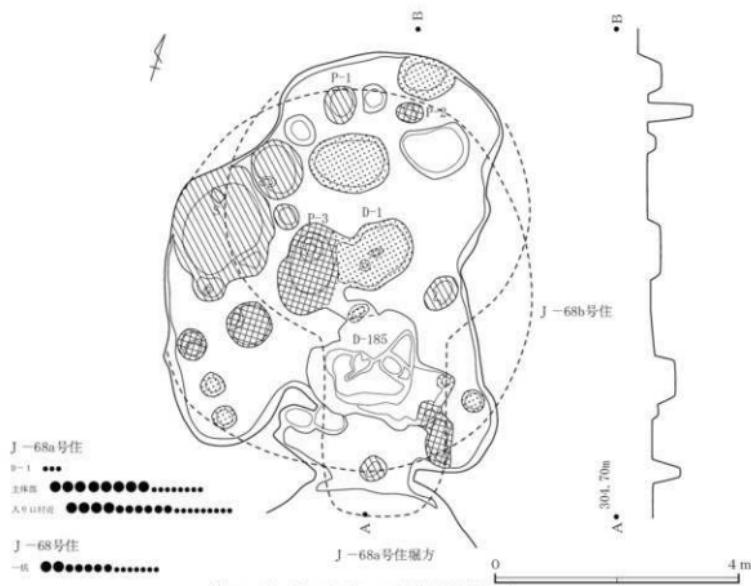
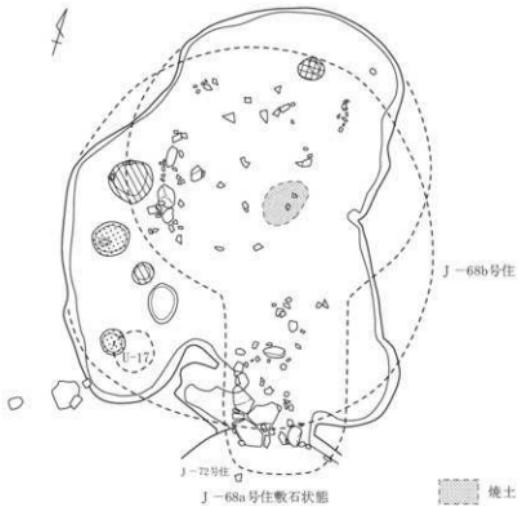


第287図 原田A区J-66号住居址実測図

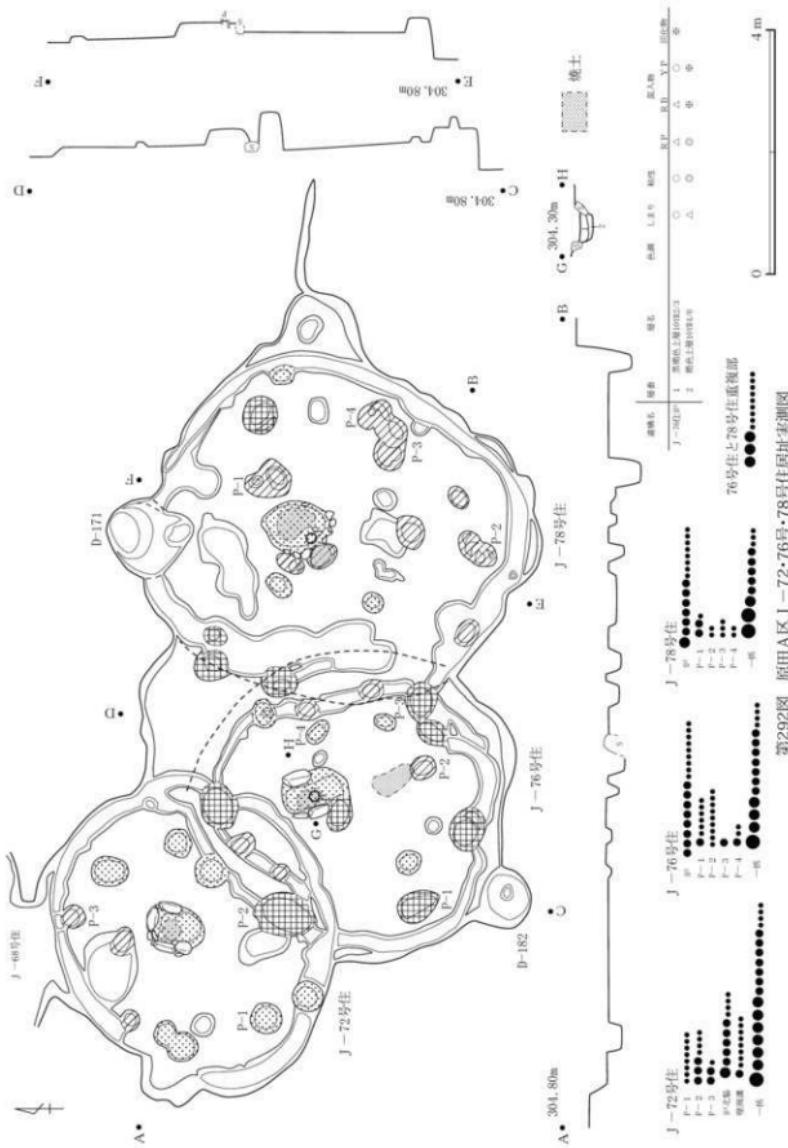


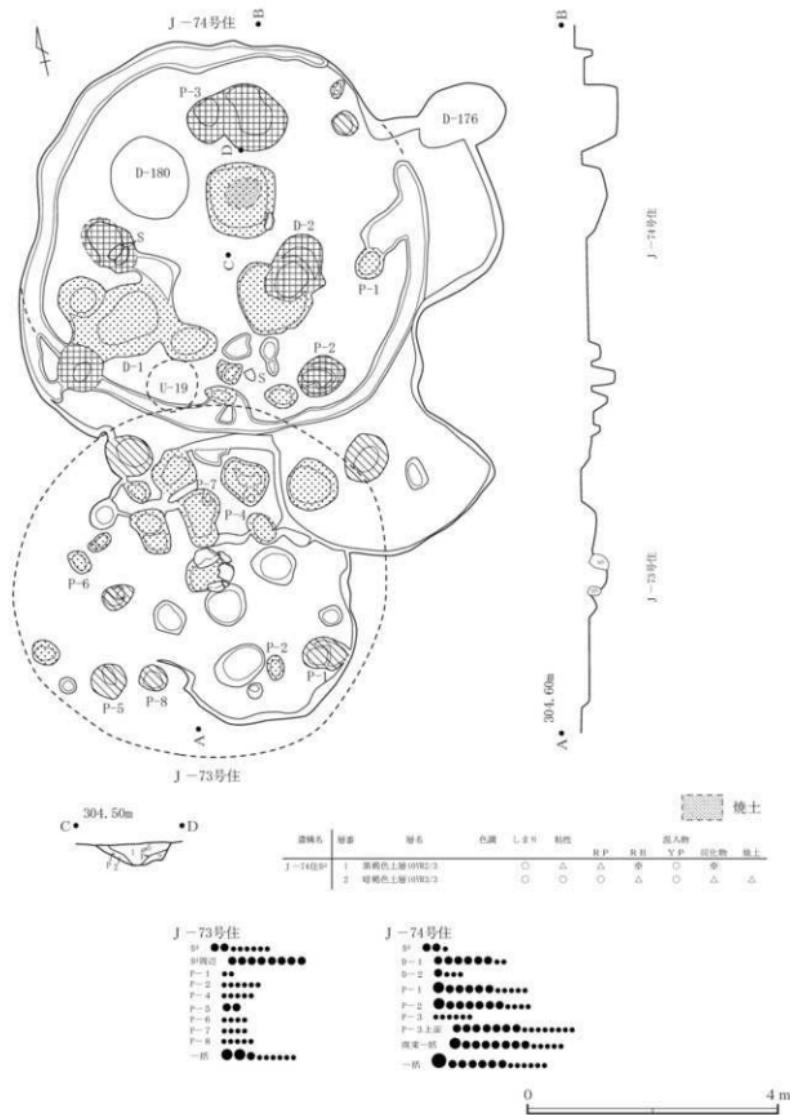
第288図 原田A区J-64号・65号・71号住居址実測図



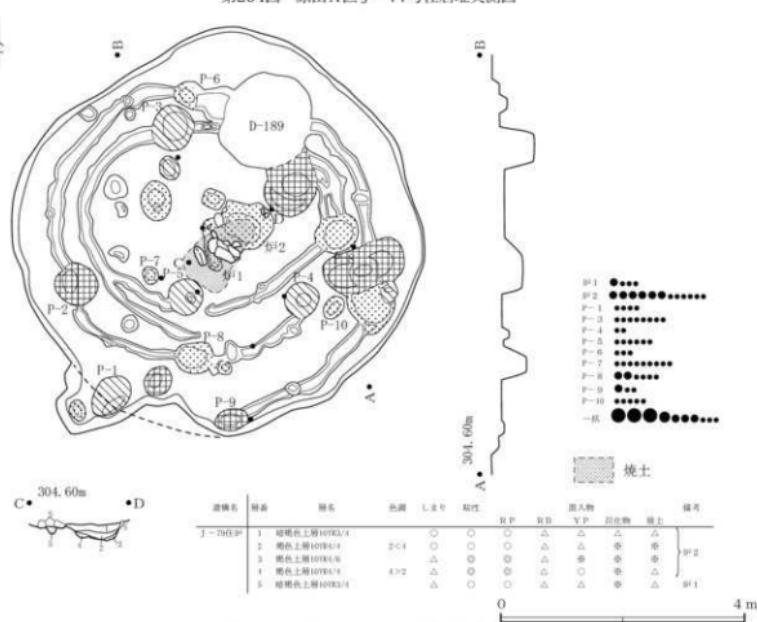
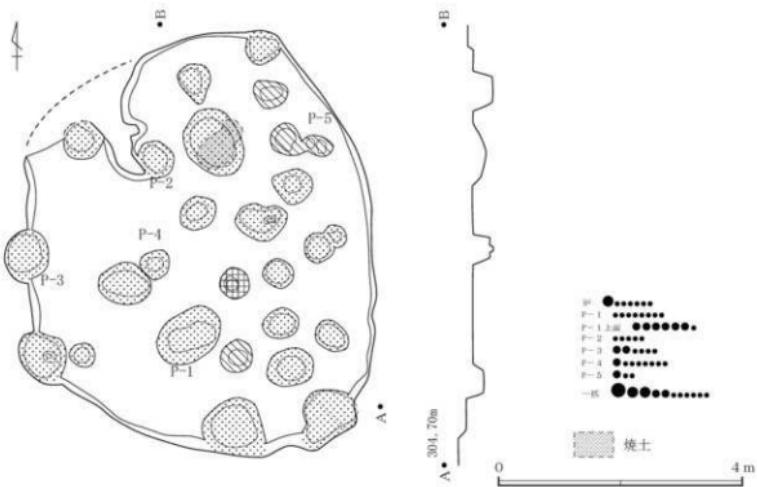


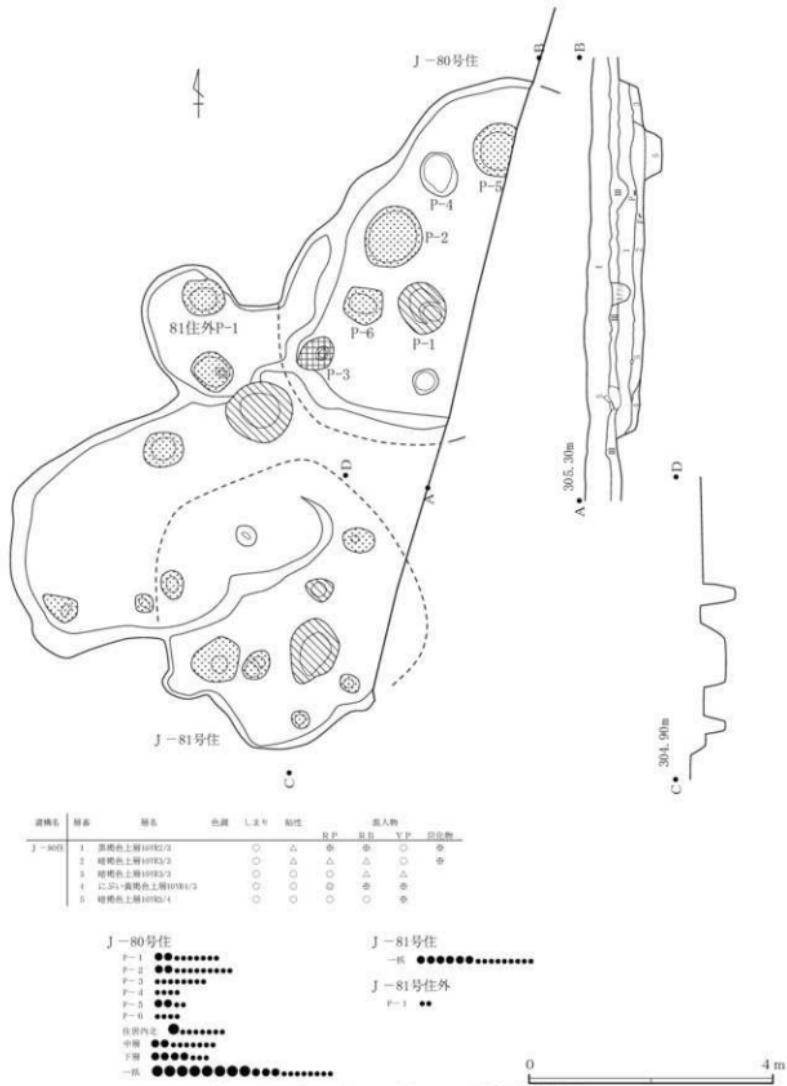
第291図 原田A区J-68号住居址実測図



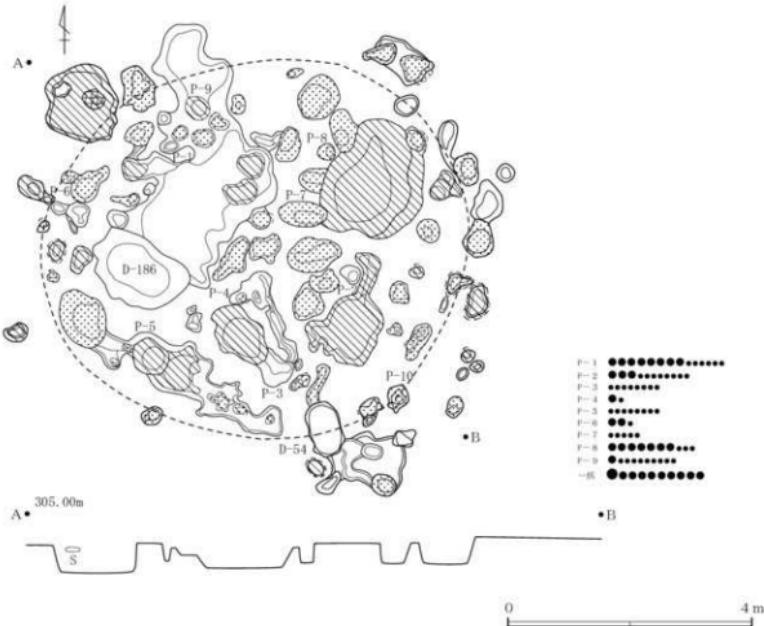


第293図 原田A区J-73号・74号住居址実測図





第296図 原田A区J-80号・J-81号住居址実測図



第297図 原田A区J-82号住居址実測図

縄文時代遺構観察表

A区住居址

住居名	位置	平面形態	面積(m)			主軸方向	施設		遺物類		時期	備考
			長軸	短軸	深さ		柱穴	位置	炉跡	土器		
原田J-1住	V-40	楕円形?	(3.4)	(3.1)	0.5	—	—	—	○	○	加賀利E	
J-2住	W-39	圓丸方形	9.0	7.4	1.0	N14E	4本 方形配列	—	—	△	○	有尾・黒浜 壁周溝は全削する。中央北の 右側には別窯場と考えられる。
J-3 a住	1 A - 38	円形	(5.3)	(5.1)	0.2	—	6本? 円形配列	中央	石圓炉?	○	(○)	加賀利E 壁周溝は全削する。
J-3 b住	1 A - 38	円形	(5.1)	(5.0)	0.2	—	4本 方形配列	中央	石圓炉?	○	(○)	加賀利E
J-3 c住	Y-37	楕円形	(6.4)	(5.8)	0.2	—	6本 方形配列	中央	石圓炉	○	(○)	加賀利E
J-4住	1 A - 39	不整形	4.9	3.4	0.1	N23E	—	—	○	○	諸磯b	形體が明瞭とせず、壁穴状遺 構の可能性がある。
J-5住	1 C - 40	不整形	3.8	2.7	0.2	—	—	—	○	○	加賀利E	形體が明瞭とせず、壁穴状遺 構の可能性がある。
J-6住	1 B - 44	圓丸長方形	(7.7)	6.8	0.5	N-27E	—	—	—	○	○	前脚印鑿 壁周溝は全削するものと思わ れ。西側の済溝部に壁周溝 あり、柱穴のみの小さなビート ト。一部は礫地として設けられて いることから祇園住居の可能 性がある。
J-8住	1 D - 41	楕円形	6.5	(4.8)	0.2	—	7本? 円形配列	—	—	○	○	加賀利E
J-9住	1 D - 41	圓丸方形	3.6	3.3	0.5	N-12E	4本 方形配列	中央	石圓炉	○	○	加賀利E 壁周溝は全削する。

第73表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代住居址 遺構観察表(1)

住居名	位置	平面形態	規模(m)			主軸方向	施設			遺物類		時期	備考
			長軸	短軸	深さ		主柱穴	伊豆塗 位置	構造	土器	石器		
J-10 住	I D-43	隅丸方形?	(3.0)	(2.7)	0.2	-	-	-	-	○	△	加曾利E	形態が判然とせず。壁穴状遺構の可能性がある。
J-12 住	W-40	隅丸方形	(4.4)	(3.6)	1.2	N-12-E	-	-	-	△	○	諸磯b	壁面溝は全周するものと思われる。J-2住を振り込む。
J-13 住	I B-37	円形	5.5	5.4	0.1	-	6本 円形配列	中央	石焼炉	○	○	加曾利E	南側に壁面溝が残る。
J-14 住	X-41	隅丸方形	6.7	(5.4)	1.0	N-2-W	6本 円形配列	-	-	○	○	有尾	壁面溝は確認できなかった。東端の石焼炉は削除跡と考えられる。
J-15 住	X-38	隅丸方形?	(4.2)	(3.2)	0.9	N-14-E	-	-	-	△	○	有尾	壁面溝は全周するものと思われる。
J-16 住	V-38	隅丸方形?	(4.6)	(2.6)	0.9	N-12-E	-	-	-	○	○	諸磯b	形態が判然とせず。壁穴状遺構の可能性がある。
J-19 住	I C-36	不整形	3.9	3.2	0.5	-	-	-	-	○	○	加曾利E	伊豆塗にビツカガが全周する。
J-20 住	I D-36	楕円形	6.2	(4.7)	0.4	N-17-E	-	-	-	○	○	加曾利E	壁面溝は確認できなかった。東端の石焼炉は削除跡と考えられる。
J-21 住	I F-34	楕円形	(6.0)	5.6	0.5	-	-	-	-	○	○	加曾利E	壁面溝は全周するものと思われる。
J-22 a 住	I E-35	円形	(5.7)	(5.4)	0.6	N-13-E	5本 円形配列	中央	石焼炉	○	○	加曾利E	形態が判然とせず。壁穴状遺構の可能性がある。
J-22 b 住	I F-36	楕円形	(5.5)	(4.7)	0.4	-	5本 円形配列	中央北	石焼炉	○	○	加曾利E	形態が判然とせず。壁穴状遺構の可能性がある。
J-22 c 住	I G-35	隅丸方形?	(8.7)	5.4	0.5	N-16-E	4本以上 方形配列	中央南	石焼炉	○	○	加曾利E	東側に壁面溝が残る。ほぼ長方形を示す。
J-23 住	I H-34	楕円形	(6.5)	(6.0)	0.3	-	-	-	-	○	○	加曾利E	柱穴は確認されなかった。板石が散在する。
J-25 住	I F-40	円形	5.1	5.0	0.4	N-14-E	5本 円形配列	中央北	石焼炉	○	○	加曾利E	
J-26 住	I F-42	楕円形	6.2	5.8	0.5	-	4本? 方形配列	-	-	○	○	加曾利E	
J-27 a 住	I F-37	円形	(6.1)	(5.8)	0.7	N-4-W	5本 円形配列	中央北	石焼炉	○	(○)	加曾利E	壁面溝は二重にめぐる。祇張住居の可能性がある。
J-27 b 住	I E-37	楕円形	(6.4)	(6.2)	0.5	N-32-E	4本? 方形配列	中央北	石焼炉	○	(○)	加曾利E	西側に壁面溝が残る。
J-28 住	I I-33	楕円形	6.4	(6.0)	0.8	N-26-E	4本? 方形配列	-	-	○	○	加曾利E	壁面溝は全周する。
J-29 住	I J-34	円形	7.1	(6.9)	0.4	-	7本? 方形配列	-	-	○	○	加曾利E	
J-30 a 住	I J-39	楕円形	(5.5)	(4.7)	0.8	-	5本 円形配列	-	-	○	○	加曾利E	
J-30 c 住	I H-39	楕円形	(5.2)	(5.0)	0.4	-	6本 円形配列	中央	石焼炉	○	○	加曾利E	壁面溝は二重にめぐる。祇張住居の可能性あり。が体土器あり。
J-30 d 住	I J-38	楕円形	(6.6)	(5.6)	0.6	-	6本 円形配列	中央	石焼炉	○	○	中期後葉	壁面溝が二重にめぐる。祇張住居の可能性あり。
J-30 e 住	I H-37	楕円形?	(5.9)	(5.0)	0.5	-	4本 円形配列	中央	石焼炉	○	○	加曾利E	伊体土器あり。東側に一部被熱した木材が散在。窓辺住居の可能性から後れたものか。
J-31 a 住	I K-39	円形	(7.6)	(7.3)	0.6	-	6本 円形配列	-	-	○	△	加曾利E I	壁面溝は二重にめぐる。祇張住居の可能性あり。
J-31 b 住	I K-39	楕円形	8.6	6.9	0.5	N-50-W	8本? 円形配列	中央東	石焼炉	○	※	加曾利E III	柄細石柱住居。張出部長1.7m、幅約1.5m。張出部端と張出部設え通りあり。が体土器あり。
J-32 a 住	I L-37	楕円形?	7.5	(7.0)	0.6	N-2-E	5本以上 円形配列	中央	石焼炉?	○	※	加曾利E	壁面溝が二重にめぐる。祇張住居の可能性あり。
J-32 b 住	I M-37	楕円形?	(6.0)	(5.8)	0.5	N-3-E	6本? 方形配列	中央	石焼炉	○	※	加曾利E	
J-33 a 住	I L-35	楕円形?	(5.8)	(4.9)	0.3	-	4本 方形配列	中央東	石焼炉	○	△	加曾利E	形態が判然とせず。壁穴状遺構の可能性がある。
J-33 b 住	I M-35	楕円形?	(6.2)	(4.8)	0.3	-	-	-	-	○	※	加曾利E	西側に壁面溝が残る。
J-33 c 住	I K-36	楕円形?	(6.6)	(5.8)	0.2	-	-	-	-	○	※	加曾利E	
J-34 住	I W-39	隅丸方形?	4.3	3.0	0.1	N-38-E	8本 方形配列	中央南	石焼炉?	○	△	加曾利E	柱穴とみられる小ピットが直線して複数設けられ、1つの大きな柱穴状を呈す。複数筋の建て替骨が行われたか。
J-35 a 住	I W-37	隅丸方形	(7.0)	6.5	0.6	N-4-E	6本? 方形配列	-	-	○	(○)	諸磯b	北東側に壁面溝が残る。
J-35 b 住	I V-37	隅丸方形	(6.0)	(4.9)	0.5	N-14-W	6本? 方形配列	-	-	○	(○)	諸磯b	北東側に壁面溝が残る。
J-37 住	I U-35	円形	6.1	(6.1)	0.5	N-59-W	4本 円形配列	中央	石焼炉	○	○	加曾利E	石焼炉はやや大きめ。小ぶりの石器が多用される。
J-38 住	I T-36	円形	3.0	(2.8)	0.1	N-23-E	4本 円形配列	中央	石焼炉	○	○	加曾利E	壁面溝は全周する。小部住居
J-39 住	I T-34	隅丸方形	4.3	4.0	0.3	N-42-E	4本 円形配列	中央	石焼炉	○	○	加曾利E	壁面溝は全周する。

第74表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代住居址 遺構観察表(2)

住居名	位置	平面形態	規模 (m)			主軸方向	施設		遺物類		時期	備考			
			長軸	短軸	深さ		主柱穴	炉址		土器	石器				
								位置	構造						
J-40 a住	I U-31	圓丸長方形	(4.7)	(7.4)	0.2	N-22-W	6本以上 円形配列	-	-	△	△	有尾・黒浜	壁周溝は全周する。柱住居に近いが、部屋などを作りうる居が多く、各部屋の確定範囲は判明しない。		
J-40 b住	I S-30	圓丸長方形	(21.8)	9.5	0.5	N-22-W	本数不明 円形配列	-	-	○	○	有尾・黒浜	最も外側の壁周溝による計測結果。		
J-41住	I W-32	楕円形	5.1	4.2	0.2	N-26-W	4本 円形配列	-	-	○	○	謎磯b	壁周溝は全周する。		
J-42住	I S-28	楕円形	6.5	6.3	0.2	N-15-E	6本? 円形配列	中央	石岡炉	○	○	加賀利E	柱住でみられる小ピットが繋ぎて設けられており、建て替りが行われたと考えられる。		
J-43住	I T-30	圓丸長方形	(7.9)	(7.0)	0.6	N-25-W	6本? 円形配列	-	-	○	○	有尾・黒浜	石岡出土。		
J-44住	I U-34	楕円形	(6.1)	(5.8)	0.1	-	6本 円形配列	-	-	○	○	加賀利E	壁周溝は全周するものと思われる。		
J-45住	I U-27	楕円形	(6.3)	(5.7)	0.1	N-8-E	6本? 円形配列	中央	石岡炉	○	○	加賀利E	壁周溝が一部、二部にめぐることから複数住居の可能性がある。		
J-46住	I V-29	楕円形	(6.0)	5.7	0.1	N-26-E	6本 円形配列	中央	石岡炉	○	*	加賀利E	壁周溝は全周するものと思われる。		
J-47 a住	I M-39	圓丸九方形	7.2	7.0	0.6	N-2-E	6本 円形配列	中央	石岡炉	○	(○)	加賀利E	壁周溝が二部にめぐることから複数住居の可能性がある。		
J-47 b住	I M-39	圓丸九方形	4.6	3.9	0.6	N-27-W	4本 方形配列	-	-	○	(○)	加賀利E	壁周溝は全周するものと思われる。		
J-48住	I W-34	圓丸方形	5.3	5.1	0.5	N-1-E	4本 方形配列	-	-	○	○	謎磯b	壁周溝は全周する。住居北西に方柱の跡があり、粘土塊が残る。		
J-49住	I U-30	円形	(5.3)	(5.3)	0.1	N-74-E	4本? 方形配列	中央	石岡炉?	○	△	加賀利E	西側に壁周溝が残る。が体土器が石。		
J-50住	I Y-30	圓丸方形	5.0	4.9	0.1	N-9-E	4本 方形配列	中央北	地床炉	△	△	謎磯	壁周溝が複数あることから、複数住居の可能性がある。		
J-51住	I V-34	圓丸長方形	5.8	4.4	0.4	N-28-E	4本? 方形配列	-	-	○	○	謎磯b	壁周溝が二部にめぐることから複数住居の可能性がある。		
J-52住	I V-32	楕円形	4.4	(4.1)	0.1	-	4本 方形配列	中央	石岡炉	○	*	加賀利E	西側に壁周溝が残る。		
J-53住	2 B-33	楕円形	6.6	(6.1)	0.1	N-7-W	6本 円形配列	中央	石岡炉	○	*	加賀利E	壁周溝が二部にめぐり、柱穴とみられる小ピットが接続して設けられていることから、柱住または柱で替えを行われたと考えられる。		
J-54住	2 C-38	楕圓形	(6.1)	(4.4)	0.1	N-55-E	本数不明 円形配列	-	-	○	○	堀之内	柄住敷石石室。敷石は張出部と、そこから住居中心へ延びる部分に分けられる。張出部は約2.4 m、周縁2.0 m、中央部は埋設設置。		
J-55住	1 Y-25	楕圓形	(6.2)	(4.5)	0.1	N-28-E	6本? 円形配列	中央	石岡炉	○	○	称名寺	柄住敷石石室。頭(?)と腰(?)の埋設設置。腰(?)を付け、軒下間に埋設する。柱住式、小窓を多用する。壁内、内外で区別する。		
J-56 a住	I X-36	圓丸方形	(5.8)	5.4	0.5	N-25-E	4本 方形配列	中央	地床炉	○	-	前柳中塙	壁周溝が二部にめぐることから複数住居の可能性がある。		
J-56 b住	I Y-38	圓丸方形	(6.3)	(4.7)	0.7	N-60-W	4本 方形配列	中央	地床炉	○	*	謎磯b	壁周溝が二部にめぐることから複数住居の可能性がある。		
J-57住	I X-26	圓丸方形?	(6.4)	(6.0)	0.1	N-17-W	6本? 方形配列	中央	石岡炉	○	△	加賀利E	西側に壁周溝が残る。		
J-58 a住	2 B-29	圓丸方形	(5.2)	(4.2)	0.1	N-27-E	4本 方形配列	中央北	地床炉	○	(○)	謎磯	壁周溝は全周するものと思われる。		
J-58 b住	2 A-29	圓丸方形	(5.7)	(4.0)	0.2	N-48-W	4本? 円形配列	中央東	地床炉	○	(○)	謎磯	J-58 a・b住内では地床炉が3基確認されており、基盤あるいはかうし軒の重複の可能性がある。		
J-59住	I S-31	楕円形	(6.2)	(5.8)	0.2	N-73-E	6本? 円形配列	中央	石岡炉	○	△	加賀利E	壁周溝は全周する。		
J-61住	I X-27	楕円形?	(5.2)	(5.1)	0.1	-	-	中央	地床炉	*	*	謎磯b～c	東側に壁周溝が残る。		
J-62住	I Y-27	楕円形	(7.8)	(6.1)	0.1	N-15-W	-	中央北	石岡炉?	*	*	加賀利E	北側に壁周溝が残る。		
J-63住	I Q-31	楕円形	(7.2)	(5.9)	0.1	-	6本? 方形配列	-	-	○	△	加賀利E	北側に壁周溝が残る。		
J-64住	I S-32	楕圓形	(5.1)	(4.1)	0.1	N-1-W	6本以上 円形配列	-	-	○	○	加賀利ENV	柄住敷石石室。張出部長と幅は各1.0 m。張出部と、住居との連絡部で設置。住居北側板石を立てて多角形状に裏へ内外を区別する。さらにその下部に埋設設置。		

第75表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代住居址 遺構観察表(3)

住居名	位置	平面形態	規模(m)			主軸方向	施設			遺物類		時期	備考
			長軸	短軸	深さ		主柱穴	伊豆塗	構造	土器	石器		
J-65住	I S-33	楕円形	(5.0)	(4.2)	0.1	N-11-E	4本 方形配列	中央南	石焼炉	○	○	加曾利E	石焼炉の北側に埋設土器。
J-66住	I N-35	不整形	5.2	4.8	0.2	-	6本 方形配列	中央	石焼炉	○	○	加曾利E	石焼炉は長方形を呈す。
J-67住	I O-35	楕円形	5.4	5.0	0.3	N-19-E	5本 円形配列	中央西	石焼炉	○	○	加曾利E	住居中の床面に燒土が確認できるものに対し、石焼炉の石材はあまり被熱していない。
J-68a住	I P-34	椭圓形	(7.6)	(5.0)	0.1	N-16-W	-	中央?	石焼炉?	○	-	称名寺	椭圓形河内石焼。住居と柴田部の連絡部分に埋設土器。
J-68b住	I P-34	楕円形?	(6.2)	(6.0)	0.1	-	7本? 円形配列	-	-	○	*	加曾利E III	住居の外壁は瓦張りとしない。埋設物から68a住とは別遺構があると想定した。
J-69住	I N-37	楕円形	3.7	3.5	0.2	-	-	中央?	石焼炉?	○	○	加曾利E	柱穴は判然としないため、疑穴状遺構あるいは複数の土坑が近接している可能性がある。北側に埋設土器2個。中央の土坑底には小磚が詰められ、上部は土礫片で覆われていた。
J-71住	I R-33	不整形	5.6	(4.2)	0.1	-	-	中央	石焼炉	○	△	加曾利E	石焼炉中に小磚が詰められていた。
J-72住	I Q-34	楕円形	5.3	4.5	0.3	N-16-E	8本 円形配列	中央	石焼炉	○	○	加曾利E	埋設溝は全周する。
J-73住	I Q-37	楕円形?	(5.9)	(5.6)	0.1	N-4-E	4本 方形配列	中央	石焼炉	○	○	加曾利E	
J-74住	I O-37	隅丸方形	6.4	6.3	0.2	N-13-E	6本 方形配列	中央北	石焼炉	○	△	加曾利E	埋設溝は全周する。
J-76住	I R-35	楕円形	5.5	5.1	0.4	N-14-W	6本 円形配列	中央北	石焼炉	○	○	加曾利E	埋設溝は全周する。
J-77住	I Q-38	楕円形	6.8	5.8	0.2	-	-	中央北	石焼炉?	○	△	加曾利E	
J-78住	I R-36	隅丸方形	6.2	5.7	0.5	N-5-E	6本? 円形配列	中央北	石焼炉	○	○	加曾利E	埋設溝は全周する。柱穴とともに小さなビットが近接して設けられていることから、抜張または壁で替えが行われたと考えられる。
J-79住	I O-39	隅丸方形	6.4	6.3	0.2	N-45-E	4本? 方形配列	中央	石焼炉	○	○	加曾利E	埋設溝者が複数確認できることから、証拠品か否かは複数の可能性がある。
J-80住	I Q-41	楕円形?	(6.5)	(3.0)	0.4	-	-	-	-	○	○	諸磯b	形態は判然としない。疑穴状遺構の可能性がある。
J-81住	I R-40	楕円形?	(4.2)	(4.1)	0.2	-	-	-	-	△	*	加曾利E	形態は判然としないが、ビットなどの配置から住居と想定した。
J-82住	I S-38	楕円形?	(7.0)	(6.2)	0.1	-	7本? 円形配列	-	-	○	△	加曾利E	

※ J-7, 11, 17, 18, 24, 30 b, 36, 60, 70, 75号住居は欠系。

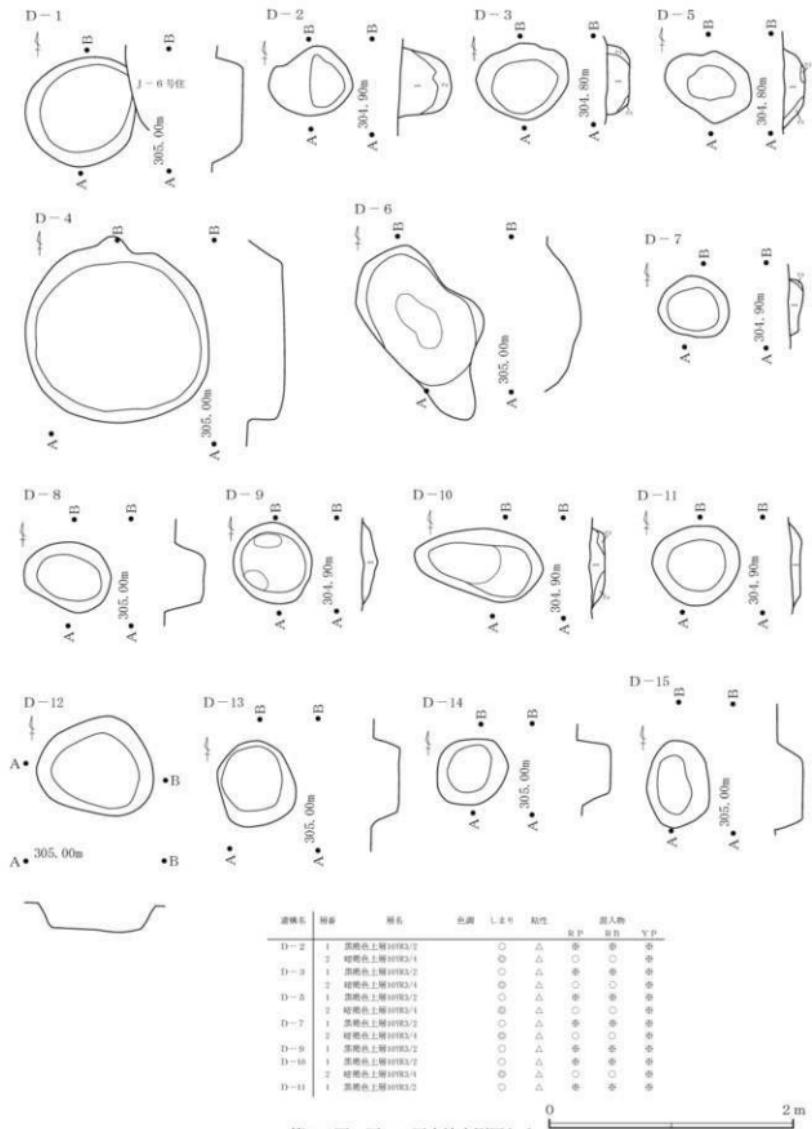
凡例

主軸 住居址の壁（壁脚溝）または主柱穴と思われるビット。石焼炉などの長軸方向を基準とした。「」記号は省略。

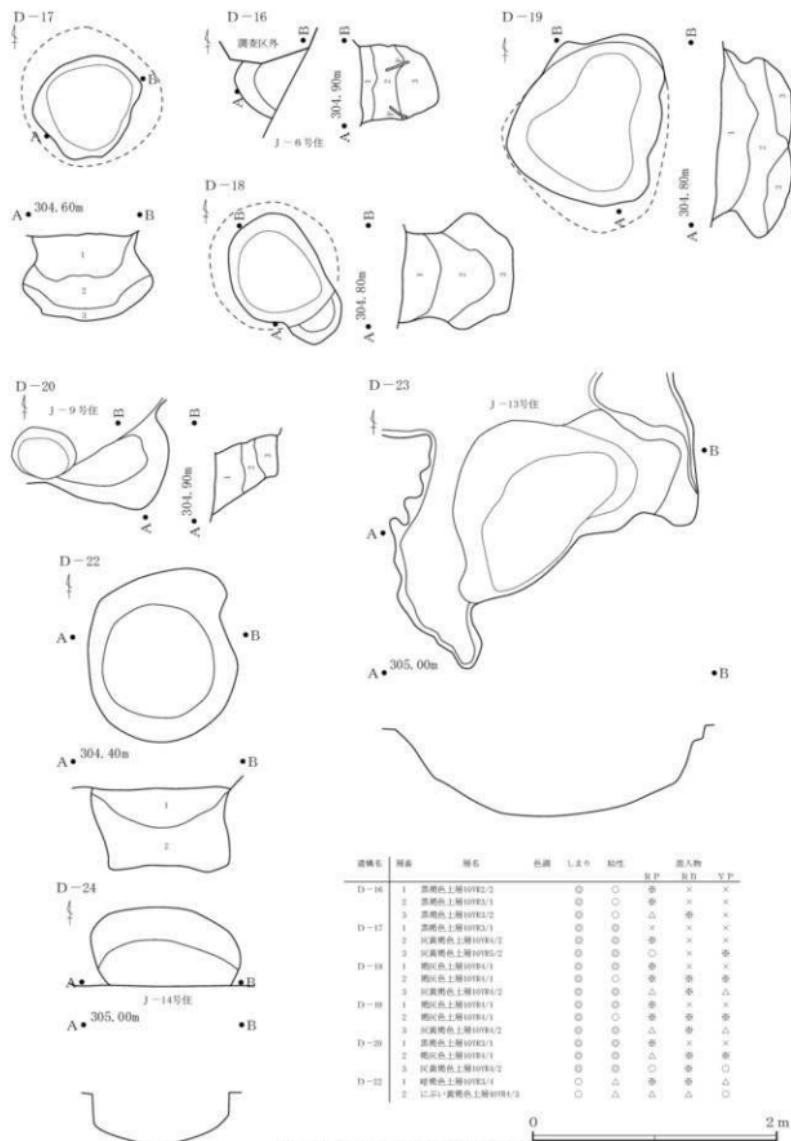
遺物 土器 ※: 1 ~ 100g, △: 101 ~ 1,000g, ○: 1001 ~ 10,000g, ◎: 10,001g 以上

石器・石器品 ※: 1 ~ 10点, △: 11 ~ 20点, ○: 21 ~ 30点, ◎: 31点以上 ○内は土器番号においてどちらの傾向か不明なものを示す

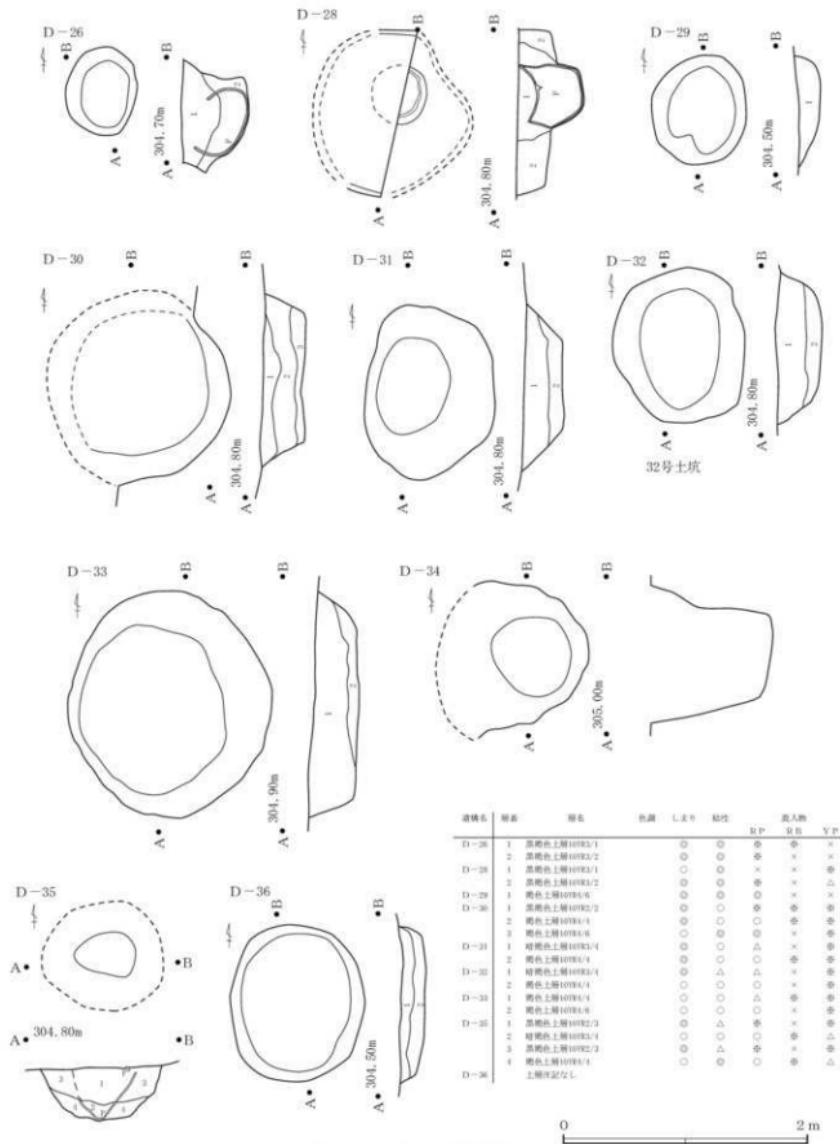
第76表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代住居址 遺構観察表(4)



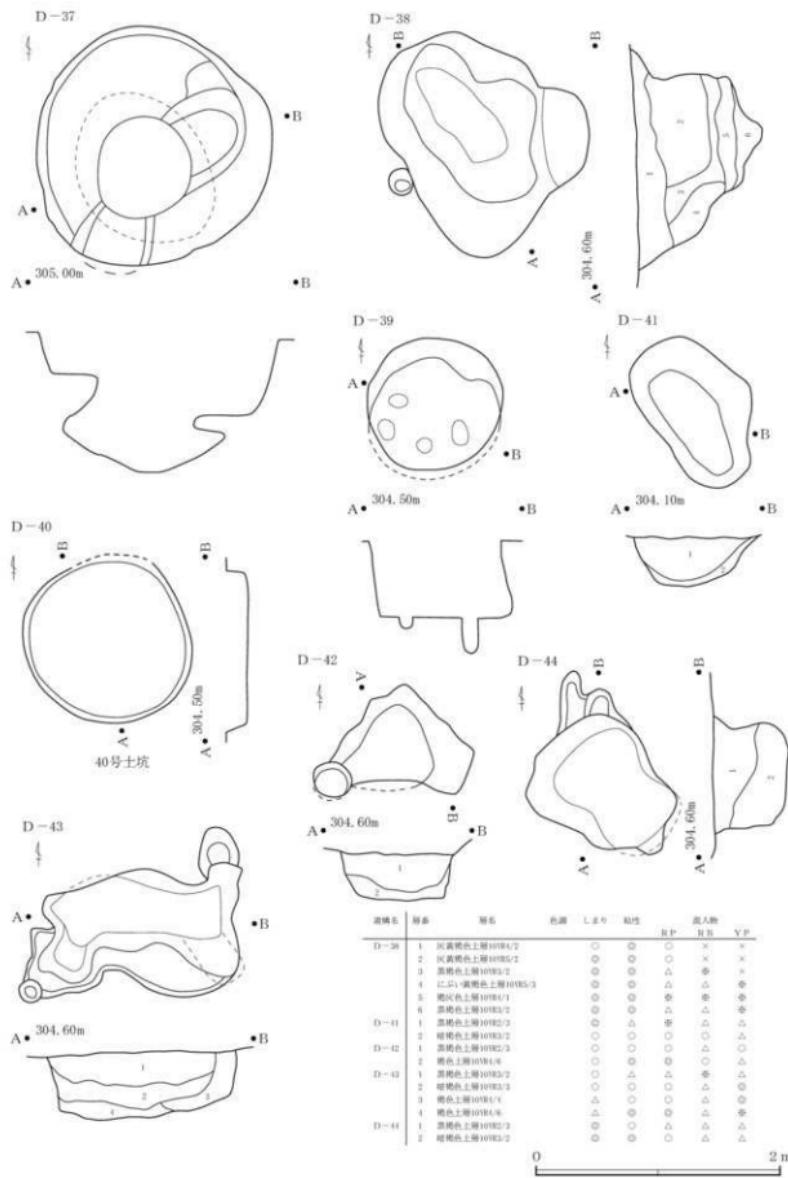
第298図 原田A区土坑実測図(1)



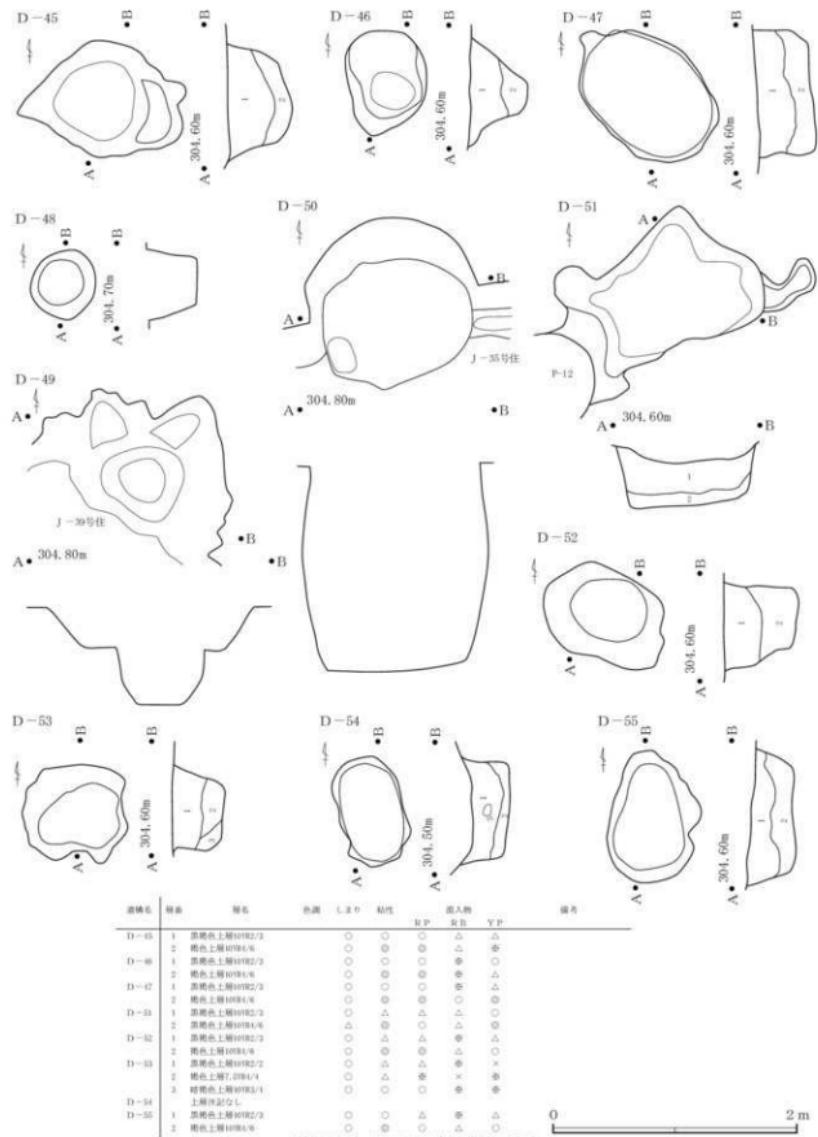
第299図 原田A区土坑実測図(2)



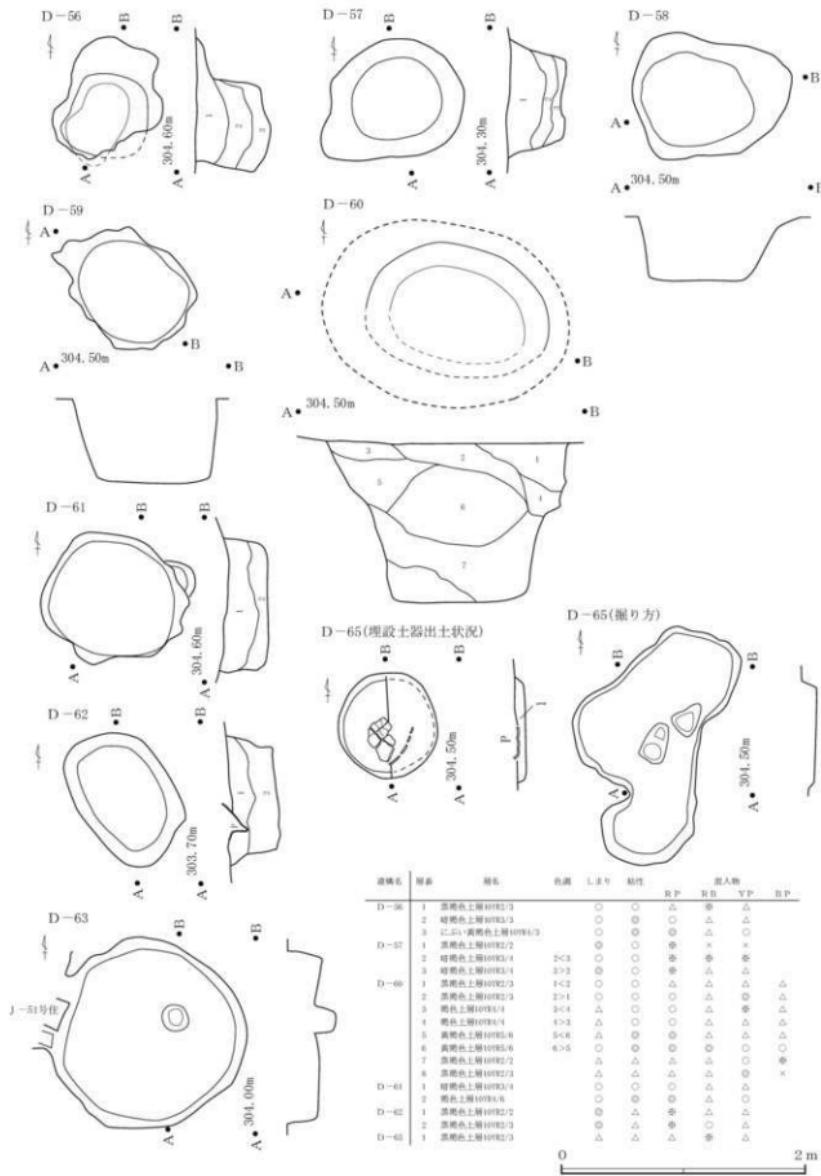
第300図 原田A区土坑実測図(3)



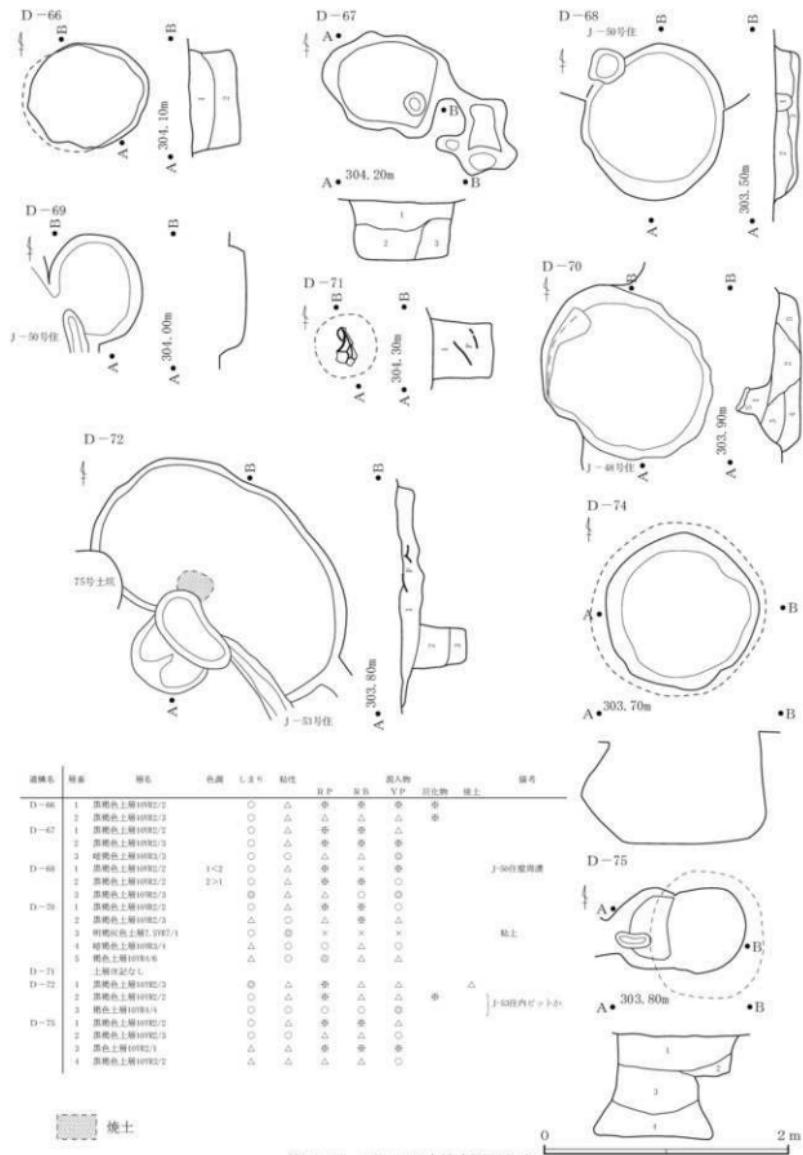
第301図 原田A区土坑実測図(4)

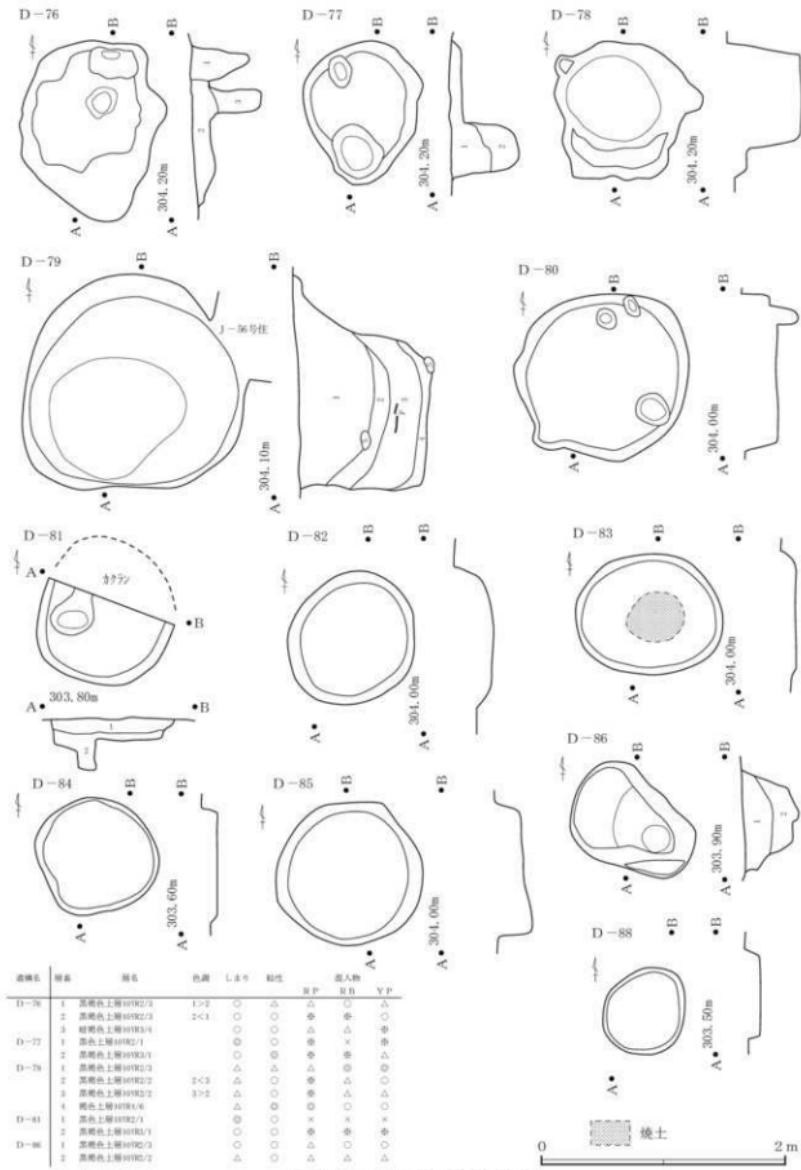


第302図 原田A区土坑実測図(5)

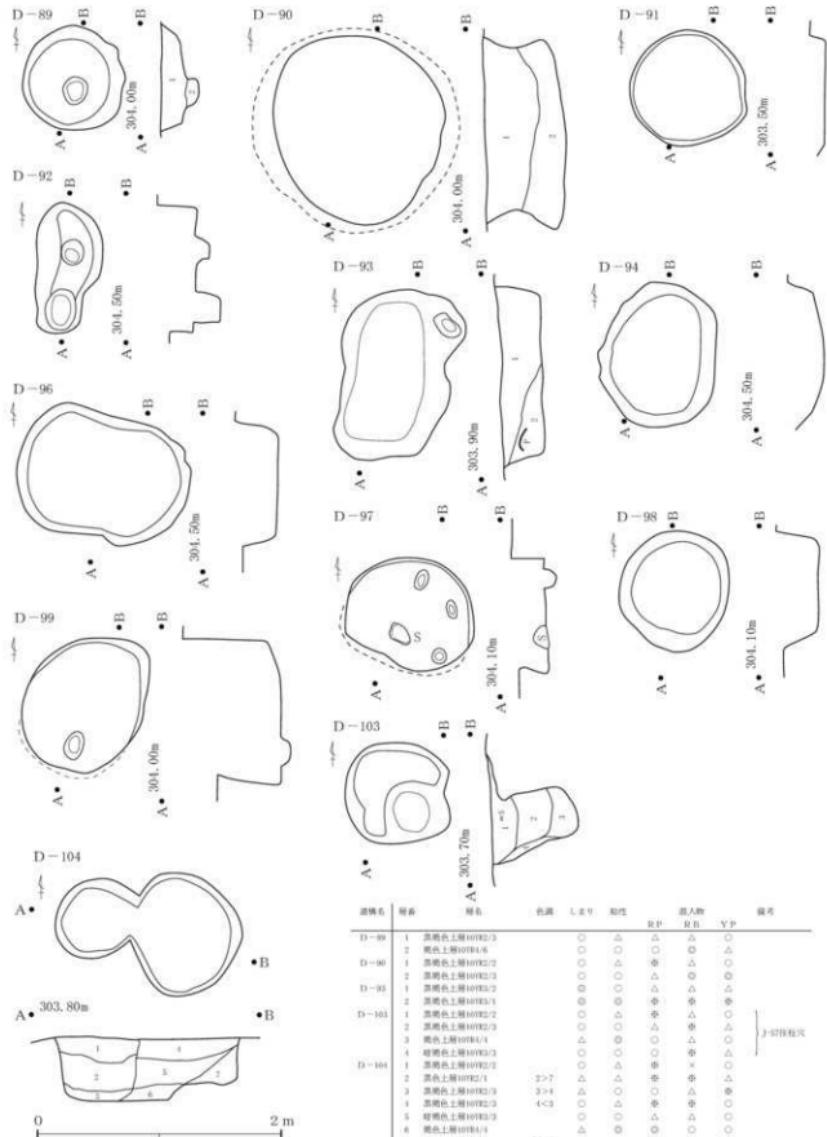


第303図 原田A区土坑実測図(6)

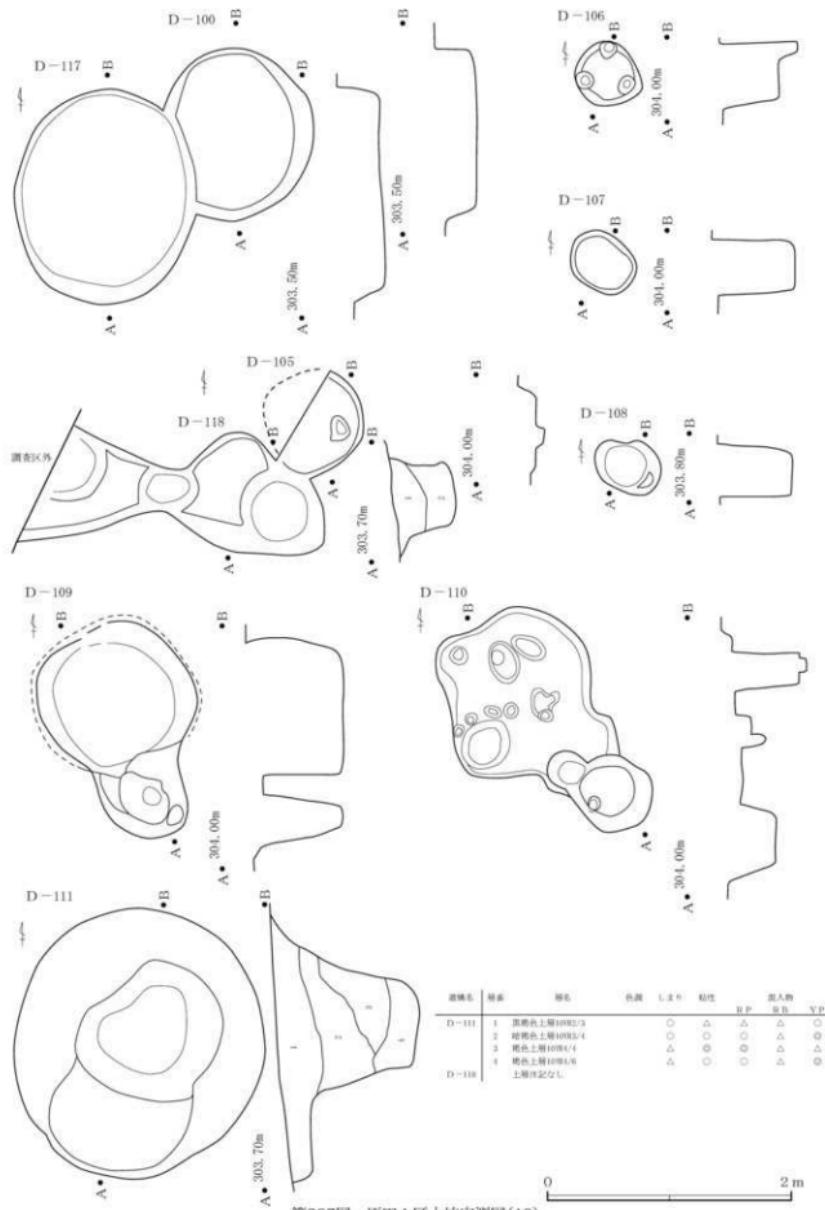




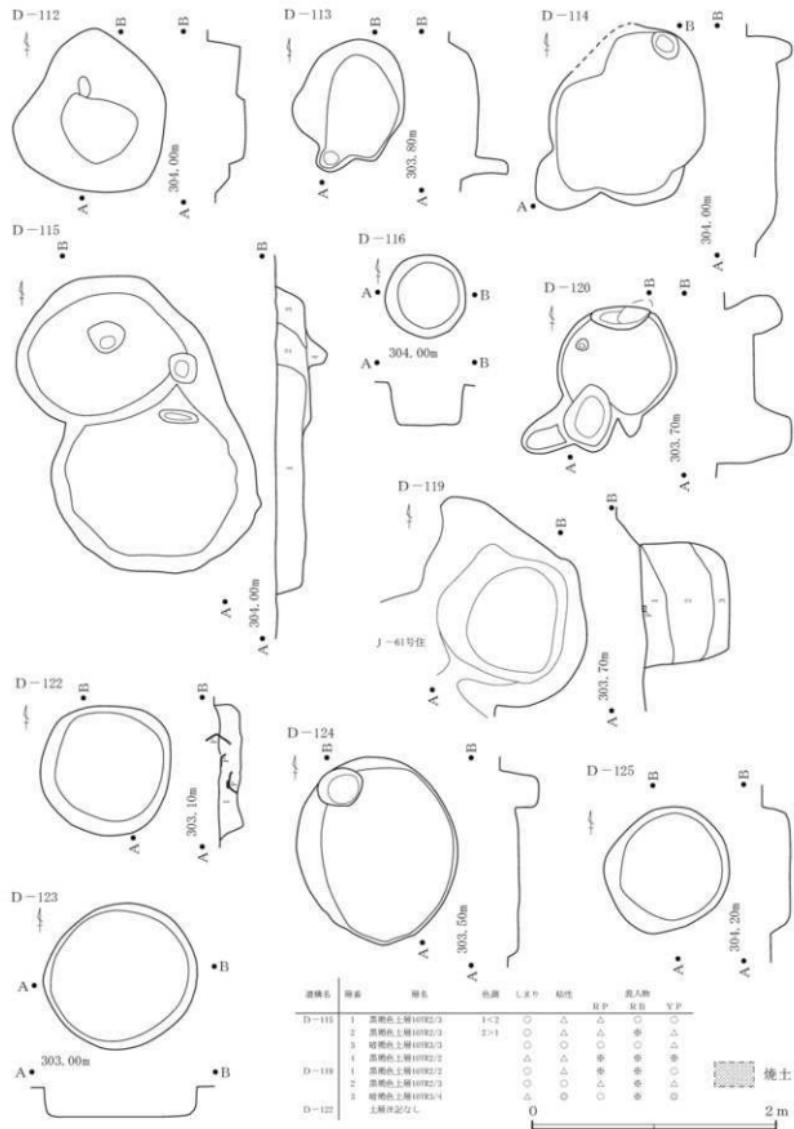
第305図 原田A区土坑実測図(8)



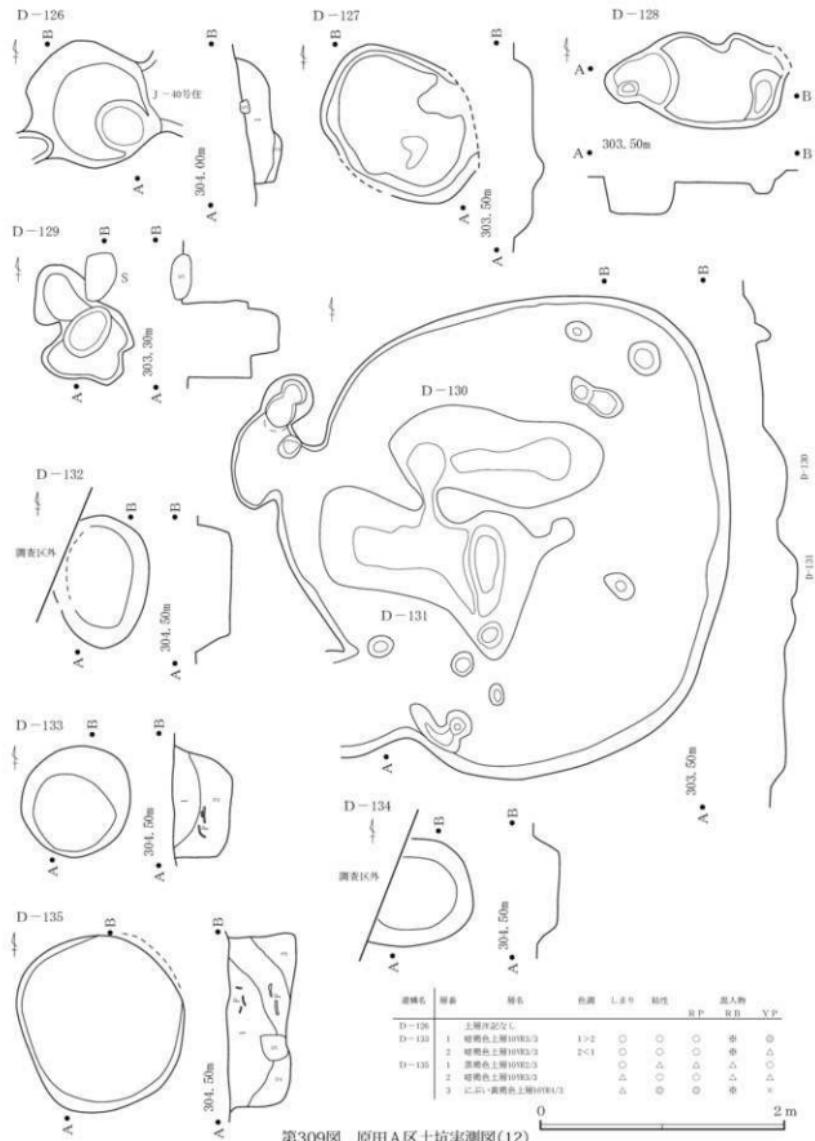
第306図 原田A区上坑実測図(9)



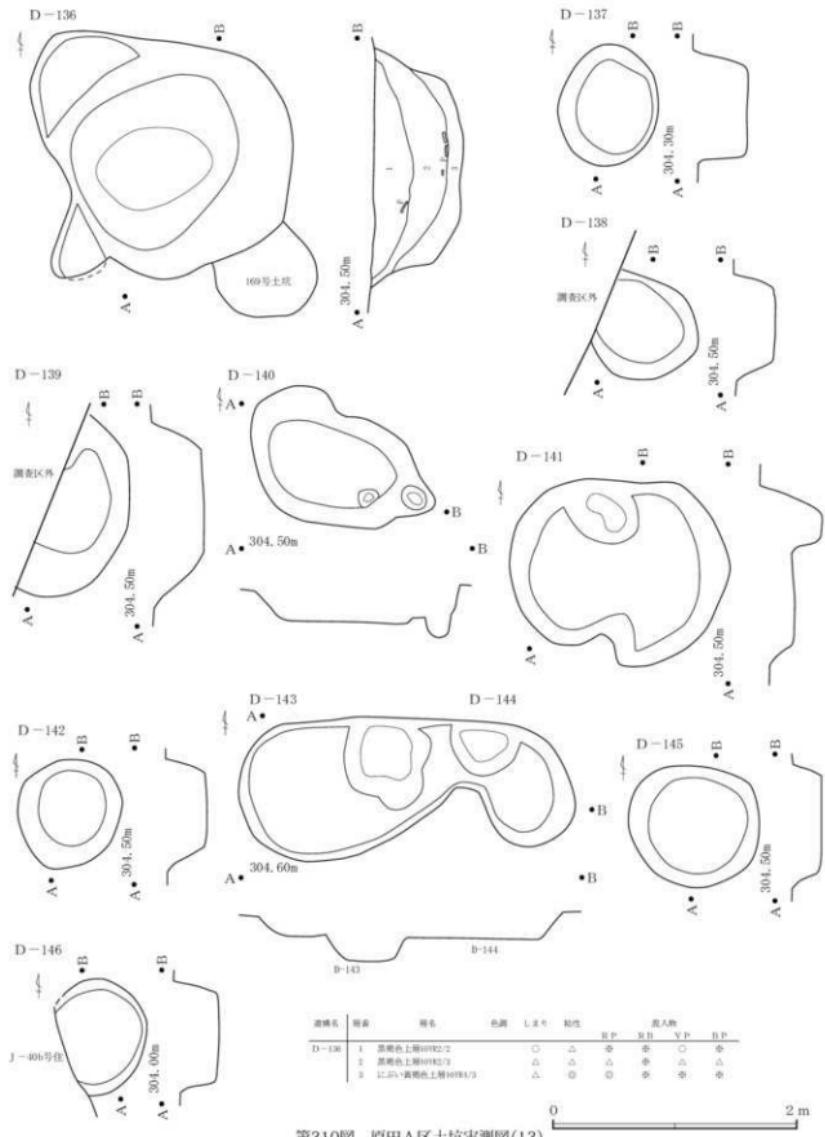
第307図 原田A区土坑実測図(10)



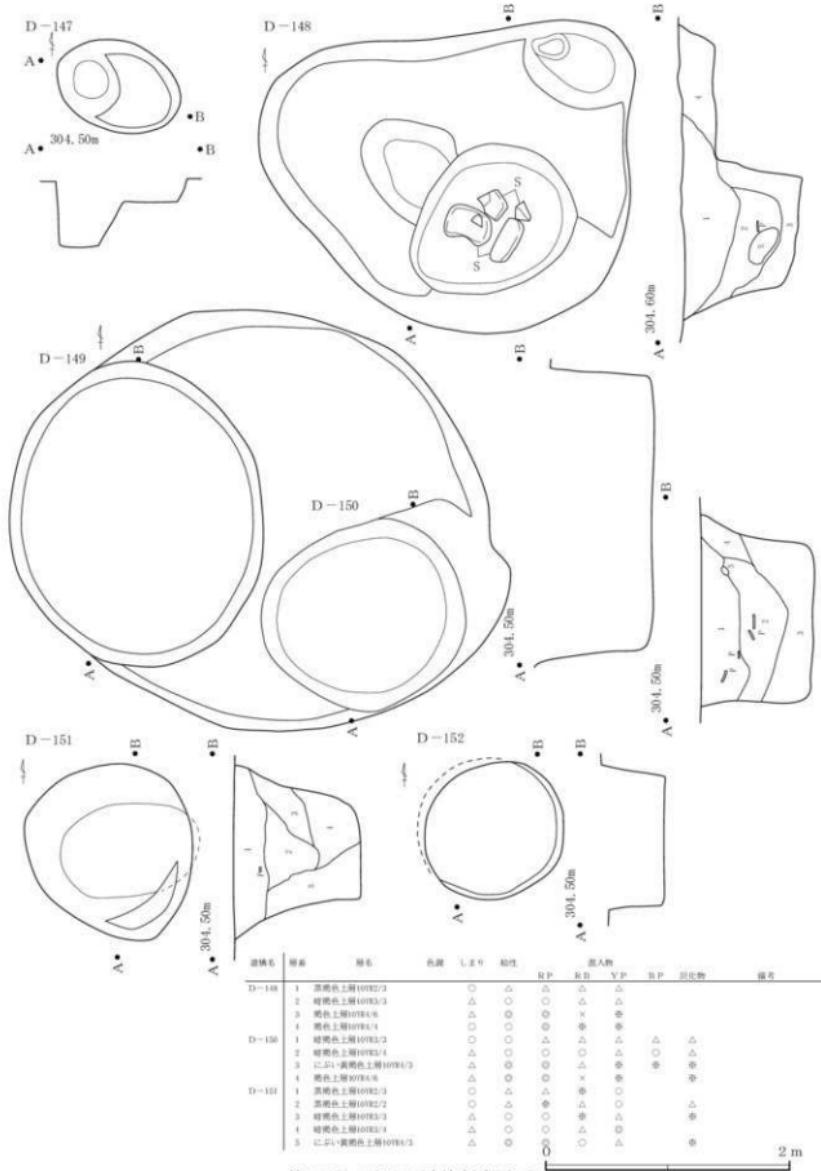
第308図 原田A区土坑実測図(11)



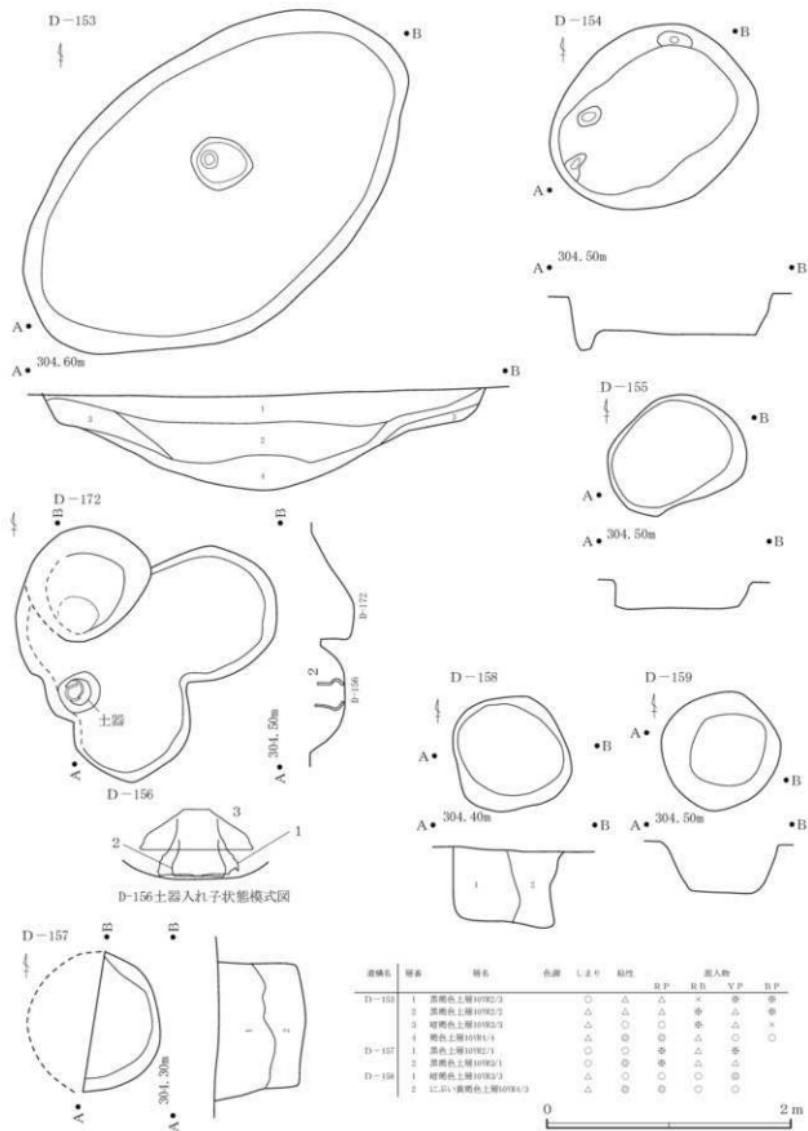
第309図 原田A区土坑実測図(12)



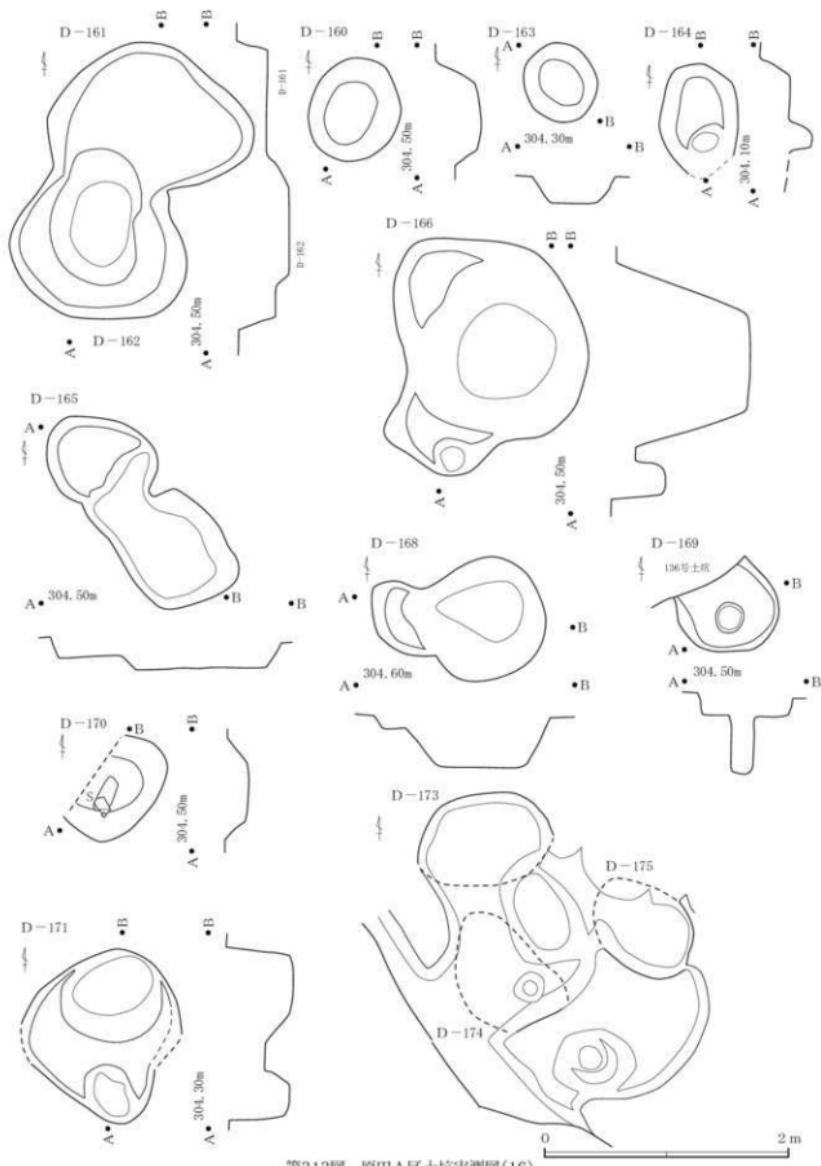
第310図 原田A区土坑実測図(13)



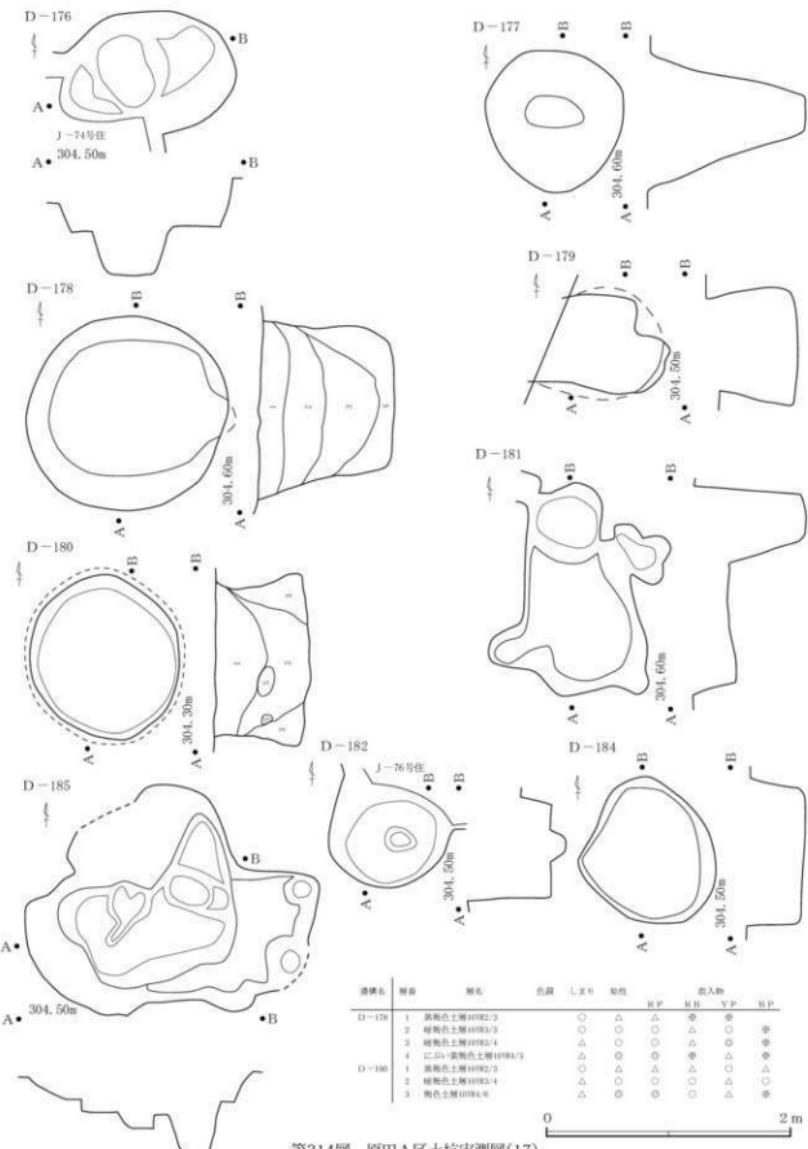
第311図 原田A区土坑実測図(14)



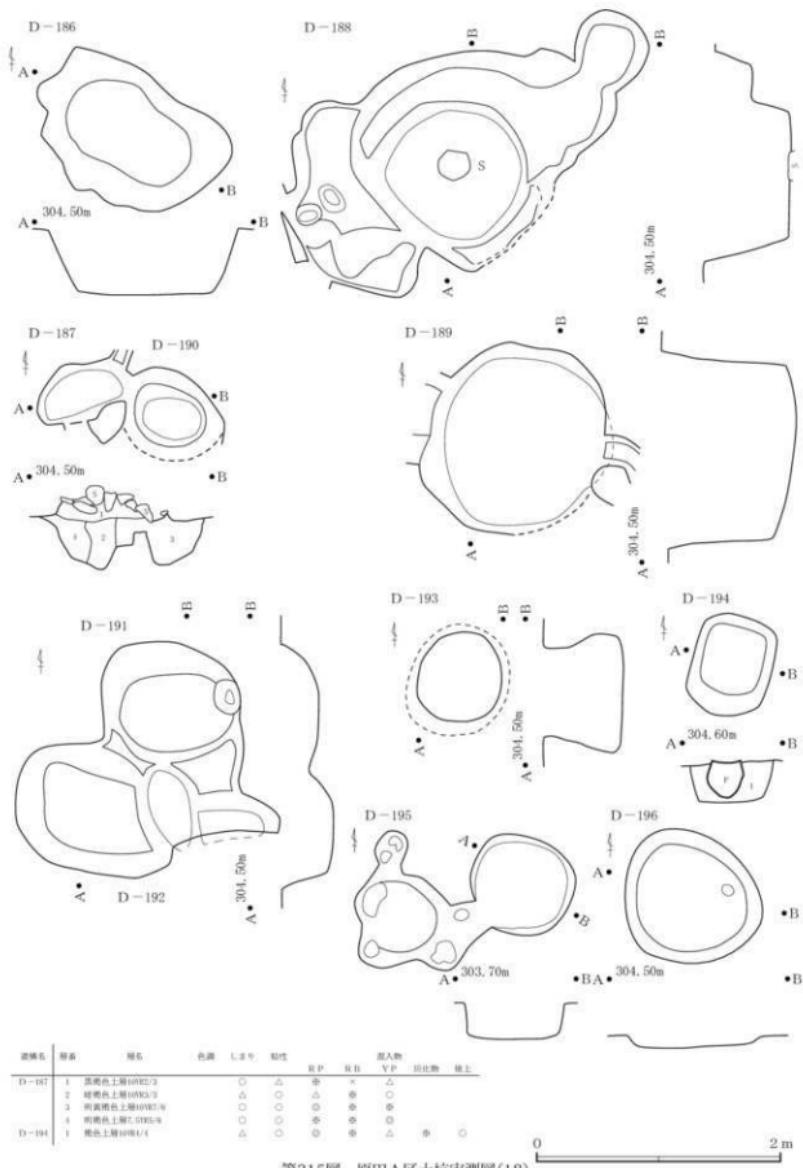
第312図 原田A区土坑実測図(15)



第313図 原田A区土坑実測図(16)



第314図 原田A区土坑実測図(17)



第315図 原田A区土坑実測図(18)

A区土坑

土坑名	位置	平面形			時期	
		断面形	長軸	短軸		
D-1 土坑	I B - 42	楕円形 浅い逆台形	0.9	0.9	0.2	満鐵b
D-2 土坑	I C - 43	不整形 浅い楕形	0.8	0.6	0.2	加賀利E
D-3 土坑	I C - 43	楕円形 浅い逆台形	0.8	0.6	0.2	加賀利E
D-4 土坑	I C - 43	円形 浅い逆台形	1.5	1.5	0.3	加賀利E
D-5 土坑	I C - 43	楕円形 浅い逆台形	0.7	0.6	0.2	加賀利E
D-6 土坑	I C - 43	不整形 浅い楕形	1.5	0.8	0.3	加賀利E
D-7 土坑	I D - 43	楕円形 浅い逆台形	0.6	0.5	0.1	加賀利E
D-8 土坑	I C - 42	楕円形 浅い逆台形	0.7	0.6	0.3	加賀利E
D-9 土坑	I D - 44	浅い楕形	0.7	0.7	0.1	加賀利E
D-10 土坑	I D - 44	楕円形 浅い逆台形	1.1	0.6	0.1	満鐵
D-11 土坑	I E - 43	楕円形 浅い逆台形	0.7	0.6	0.1	加賀利E
D-12 土坑	I C - 41	楕円形 浅い逆台形	1.0	0.8	0.2	加賀利E
D-13 土坑	I A - 42	円形 浅い逆台形	0.7	0.7	0.2	加賀利E
D-14 土坑	I D - 39	円形 逆台形	0.6	0.6	0.3	加賀利E?
D-15 土坑	I D - 39	楕円形 浅い逆台形	0.7	0.5	0.2	加賀利E
D-16 土坑 (埋設土器)	I A - 44	楕円形 浅い楕形	(0.7) (0.4)	0.6	加賀利E	
D-17 土坑	I C - 40	不整形 袋状	0.9	0.8	0.7	不明
D-18 土坑	I D - 40	不整形 袋状	1.1	0.8	0.9	五箇ヶ台
D-19 土坑	I D - 40	不整形 袋状	1.5	1.4	0.6	満鐵b
D-20 土坑	I E - 41	楕円形 逆台形	0.9	0.8	0.5	加賀利E
D-22 土坑	X - 42	楕円形 楕形	1.5	1.2	0.6	不明
D-23 土坑 (倒木板?)	I B - 37	不整形 楕形	2.7	1.2	0.7	加賀利E
D-24 土坑	W - 41	楕円形 楕形	1.2	(0.8)	0.4	満鐵c
D-25 土坑	X - 39	楕円形 楕形	1.3	1.1	0.7	加賀利E
D-26 土坑 (埋設土器)	I C - 36	楕円形 袋状	0.7	0.6	0.5	加賀利E
D-28 土坑	I D - 36	楕円形 逆台形	1.4	1.3	0.5	加賀利E
D-29 土坑	I G - 39	楕円形 浅い楕形	0.9	0.8	0.2	加賀利E?
D-30 土坑	I F - 38	円形 逆台形	1.6	1.5	0.3	加賀利E
D-31 土坑	I G - 38	楕円形 楕形	1.4	1.1	0.3	加賀利E
D-32 土坑	I F - 38	楕円形 楕形	1.3	1.1	0.4	加賀利E
D-33 土坑	I G - 38	楕円形 逆台形	1.9	1.7	0.4	加賀利E
D-34 土坑	I G - 39	不整形 浅い逆台形	1.2	1.2	1.0	中崩後復
D-35 土坑 (埋設土器)	I F - 39	楕円形? 楕形	1.0	0.9	0.4	加賀利E
D-36 土坑	I E - 39	楕円形 浅い逆台形	1.3	1.1	0.2	加賀利E
D-37 土坑 (倒木板?)	I G - 42	不整形 不整形	2.0	1.9	1.1	不明
D-38 土坑	I D - 35	楕円形 不整形	1.9	1.7	1.0	満鐵b
D-39 土坑	I D - 36	円形 楕形	1.1	1.1	0.6	満鐵b
D-40 土坑	I L - 34	円形 浅い逆台形	1.4	1.3	0.2	加賀利E
土坑名	位置	平面形			時期	
土坑名	位置	断面形	長軸	短軸	深さ	
D-41 土坑	I W - 40	楕円形 楕形	1.3	0.8	0.4	満鐵
D-42 土坑	I T - 40	不整形 浅い楕形	1.3	0.8	0.4	満鐵b
D-43 土坑	I T - 40	不整形 楕形	1.7	1.0	0.5	加賀利E
D-44 土坑	I T - 39	袋状	1.3	1.2	0.6	加賀利E
D-45 土坑	I U - 39	不整形 楕形	1.3	0.9	0.5	加賀利E
D-46 土坑	I T - 38	すり鉢形	0.9	0.7	0.5	不明
D-47 土坑	I T - 38	楕円形 楕形	1.3	0.9	0.5	加賀利E
D-48 土坑	I W - 40	円形 逆台形	0.6	0.5	0.4	加賀利E
D-49 土坑	I S - 34	不整形 楕形	1.7	1.2	0.8	加賀利E
D-50 土坑	I U - 37	楕円形 楕形	1.4	1.3	1.7	加賀利E
D-51 土坑	I T - 38	不整形 逆台形	1.3	1.2	0.5	加賀利E
D-52 土坑	I U - 39	楕円形 楕形?	1.1	0.8	0.6	加賀利E
D-53 土坑	I U - 38	不整形 逆台形	0.8	0.8	0.4	加賀利E
D-54 土坑	I T - 38	楕円形 逆台形	0.9	0.5	0.4	加賀利E
D-55 土坑	I T - 40	楕円形 逆台形	1.1	0.7	0.4	加賀利E
D-56 土坑	I U - 38	不整形 袋状	0.9	0.9	0.6	加賀利E
D-57 土坑	I W - 35	楕円形 逆台形	1.1	1.0	0.5	満鐵b
D-58 土坑	I W - 35	楕円形 逆台形	1.3	1.1	0.5	不明
D-59 土坑	I V - 36	楕円形 逆台形	1.2	0.8	0.7	不明
D-60 土坑	I V - 37	楕円形 浅い逆台形	2.0	1.5	1.3	加賀利E
D-61 土坑	I S - 40	楕円形 逆台形	1.2	1.1	0.3	加賀利E
D-62 土坑 (埋設土器)	I E - 37	楕円形 逆台形	1.2	0.8	0.4	腹之内I
D-63 土坑	I U - 34	円形 浅い逆台形	1.6	1.6	0.3	不明
D-65 土坑 (埋設土器)	I U - 29	不整形 浅い逆台形	1.9	1.1	0.1	加賀利E
D-66 土坑	I U - 29	円形 逆台形	0.9	0.9	0.4	満鐵b
D-67 土坑	I V - 32	不整形 楕形	1.1	0.8	0.5	満鐵b
D-68 土坑	2 A - 31	楕円形 浅い逆台形	1.3	1.1	0.2	尾・黒浜
D-69 土坑	I Y - 31	楕円形 浅い逆台形	0.9	0.8	0.2	満鐵b
D-70 土坑	I V - 33	楕円形 浅い逆台形	1.5	1.2	0.2	腹之内
D-71 土坑 (埋設土器)	I T - 30	円形 楕形	0.5	0.5	0.5	五箇ヶ台?
D-72 土坑	I Y - 33	楕円形 浅い逆台形	2.2	1.3	0.2	加賀利E
D-74 土坑	2 B - 33	円形 袋状	1.2	1.2	0.9	満鐵b
D-75 土坑	2 A - 33	楕円形 袋状	1.1	0.7	0.8	不明
D-76 土坑	I X - 36	不整形 浅い逆台形	1.9	1.1	0.2	尾・黒浜
D-77 土坑	I X - 35	楕円形 浅い逆台形	1.2	1.0	0.6	満鐵
D-78 土坑	I X - 34	楕円形 袋状	1.2	1.1	0.6	不明
D-79 土坑	I Y - 36	楕円形 袋状	1.8	1.7	1.1	満鐵b
D-80 土坑	2 A - 36	円形 浅い逆台形	1.9	1.9	0.3	満鐵b

第 77 表 二軒在家原田遺跡 A 区繩文時代土坑 遺構観察表(1)

土坑名	位置	平面形			時期	
		規格(m)	長軸	短軸		
D- 81 土坑	I Y - 33	円形 浅い・造台形	1.1	1.1	0.2	諸職b
D- 82 土坑	2 A - 32	楕円形 浅い・輪郭	1.1	1.0	0.2	有尾・黒浜
D- 83 土坑	2 A - 33	楕円形 浅い・輪郭	1.2	1.0	0.1	不明
D- 84 土坑	2 B - 32	楕円形 浅い・造台形	1.0	0.9	0.1	不明
D- 85 土坑	2 B - 35	円形 浅い・造台形	1.2	1.2	0.2	諸職
D- 86 土坑	2 B - 36	不整形 楕円形?	1.1	0.8	0.5	加曾利E
D- 88 土坑	2 B - 31	円形 浅い・造台形	0.7	0.7	0.1	有尾・黒浜
D- 89 土坑	I W - 30	円形 浅い・輪郭	0.8	0.8	0.3	加曾利E
D- 90 土坑	I W - 30	袋状	1.5	1.4	0.7	有尾・黒浜
D- 91 土坑	2 D - 34	円形 浅い・造台形	0.9	0.9	0.1	諸職
D- 92 土坑	2 B - 36	不整形 浅い・造台形	1.1	0.6	0.3	不明
D- 93 土坑	I X - 32	楕円形 造台形	1.3	0.9	0.3	堀之内I
D- 94 土坑	I X - 31	楕円形 浅い・輪郭	1.2	1.0	0.3	不明
D- 96 土坑	I X - 30	楕円形 造台形	1.4	1.0	0.3	諸職b
D- 97 土坑	I Y - 29	楕円形 袋状	1.0	0.9	0.3	五箇ヶ台
D- 98 土坑	I Y - 30	楕円形 造台形	1.0	0.9	0.3	諸職b
D- 99 土坑	2 A - 30	楕円形 袋状	1.1	1.0	0.7	有尾・黒浜
D- 100 土坑	2 B - 30	楕円形 造台形	1.4	1.2	0.3	有尾・黒浜
D- 101 土坑 (J - 61 住印)	I Y - 27	楕円形 浅い・輪郭	1.2	1.0	-	加曾利E
D- 102 土坑 (J - 57 住印)	I W - 27	楕円形 浅い・輪郭	1.8	1.0	-	加曾利E
D- 103 土坑 (倒伏?)	I W - 27	楕円形 不整形	0.8	0.8	0.7	加曾利E
D- 104 土坑	I W - 27	楕円形 造台形	1.5	1.0	0.5	諸職b-c
D- 105 土坑	I W - 29	楕円形 浅い・造台形	0.9	0.8	0.1	不明
D- 106 土坑	I W - 29	円形 箱形	0.5	0.5	0.5	加曾利E
D- 107 土坑	I W - 27	楕円形 箱形	0.6	0.4	0.7	諸職c
D- 108 土坑	I W - 27	楕円形 深い・造台形	0.6	0.4	0.6	加曾利E
D- 112 土坑	2 A - 36	楕円形 浅い・造台形	1.3	1.2	0.3	諸職b
D- 113 土坑	2 C - 36	楕円形 浅い・輪郭	1.1	0.8	0.2	諸職
D- 114 土坑	2 C - 38	不整形 浅い・造台形	1.8	1.3	0.3	加曾利E
D- 115 土坑	I X - 34	楕円形 浅い・造台形	2.6	1.7	0.3	諸職b
D- 116 土坑	2 C - 38	円形 浅い・造台形	0.7	0.6	0.4	不明
D- 117 土坑	2 B - 30	楕円形 浅い・造台形	1.8	1.5	0.3	諸職
D- 118 土坑	I W - 26	不整形 造台形?	2.3	0.9	0.5	諸職b
D- 119 土坑	I W - 28	楕円形 箱形	1.5	1.3	0.7	不明
D- 120 土坑	I W - 27	楕円形 箱形	1.2	0.9	0.3	諸職
D- 121 土坑 (J - 61 住印)	I X - 27	円形 浅い・輪郭	0.6	0.6	-	諸職b-c

土坑名	位置	平面形			時期	
		規格(m)	長軸	短軸		
D- 122 土坑	2 A - 28	円形 浅い・造台形	1.1	1.1	0.2	称名寺2
D- 123 土坑	2 B - 29	楕円形 浅い・造台形	1.3	1.2	0.2	称名寺?
D- 124 土坑	2 D - 35	楕円形 浅い・造台形	1.5	1.3	0.2	諸職b
D- 125 土坑	I Q - 30	円形 浅い・造台形	1.0	1.0	0.2	加曾利E
D- 126 土坑	I T - 32	楕円形 浅い・輪郭	1.1	1.0	0.3	諸職b
D- 127 土坑	I X - 27	楕円形 浅い・輪郭	1.5	1.1	0.2	加曾利E
D- 128 土坑	I X - 27	不整形 浅い・輪郭?	1.5	0.8	0.3	加曾利E
D- 129 土坑	2 A - 29	不整形 箱形?	1.1	0.8	0.8	諸職b
D- 130 土坑	2 A - 27	不整形 箱形	1.7	0.7	0.3	諸職b
D- 131 土坑	2 A - 27	不整形 箱形	1.8	0.9	0.3	諸職b
D- 132 土坑	I O - 30	楕円形 浅い・造台形	1.1	0.8	0.3	加曾利E
D- 133 土坑	I O - 30	楕形	0.9	0.9	1.0	五箇ヶ台
D- 134 土坑	I N - 30	楕円形 浅い・造台形	1.1	0.9	0.2	諸職
D- 135 土坑	I L - 31	袋状	1.4	1.3	0.5	称名寺?
D- 136 土坑	I K - 32	楕円形 輪郭	2.3	1.9	0.7	後期
D- 137 土坑	I P - 29	楕円形 造台形?	1.0	0.8	0.4	不明
D- 138 土坑	I N - 30	楕円形 造台形	1.0	0.8	0.3	五箇ヶ台
D- 139 土坑	I M - 30	楕円形 造台形	1.6	1.2	0.4	堀之内
D- 140 土坑	I P - 30	楕円形 浅い・造台形	1.7	0.9	0.3	加曾利E
D- 141 土坑	I O - 31	楕円形 浅い・造台形	1.8	1.5	0.3	堀之内 I?
D- 142 土坑	I P - 31	楕円形 造台形	0.9	0.8	0.3	不明
D- 143 土坑	I N - 31	楕円形 造台形	0.8	0.7	0.3	中期施塗
D- 144 土坑	I N - 31	不整形 浅い・造台形	2.7	1.2	0.2	不明
D- 145 土坑	I N - 32	楕円形 浅い・造台形	1.1	1.0	0.2	加曾利E
D- 146 土坑	I R - 29	楕円形 造台形	0.9	0.8	0.4	五箇ヶ台
D- 147 土坑	I O - 31	楕円形 造台形	1.1	0.7	0.5	加曾利E
D- 148 土坑	I M - 32	楕円形 造台形?	3.0	2.5	1.0	不明
D- 149 土坑	I N - 32	楕円形 箱形	2.4	2.0	0.9	称名寺
D- 150 土坑	I N - 33	楕円形 袋状?	1.7	1.6	0.9	称名寺
D- 151 土坑	I O - 31	楕円形 深い・造台形	1.4	1.3	1.0	堀之内 I
D- 152 土坑	I O - 32	円形 箱形	1.1	1.1	0.5	加曾利E
D- 153 土坑	I L - 33	楕円形 箱形?	3.7	2.2	0.8	後期?
D- 154 土坑	I P - 32	楕円形 浅い・造台形	1.7	1.4	0.3	加曾利E
D- 155 土坑	I Q - 32	楕円形 浅い・造台形	1.2	0.9	0.2	加曾利E
D- 156 土坑	I P - 32	不整形 楕形	2.1	2.0	0.3	加曾利E
D- 157 土坑	2 A - 37	円形 箱形	1.1	1.1	0.3	前期中塗
D- 158 土坑	I Q - 31	円形 袋状?	0.9	0.9	0.6	加曾利E
D- 159 土坑	I O - 33	円形 造台形	1.0	1.0	0.4	加曾利E
D- 160 土坑	I P - 32	楕形 楕形?	0.9	0.7	0.3	加曾利E

第78表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代土坑 遺構観察表(2)

土坑名	位置	平面形			時期	
		断面形	長軸	短軸		
D-161土坑	I Q - 32	楕円形 浅い逆台形	1.7	1.3	0.2	中期後葉
D-162土坑	I Q - 32	楕円形 浅い逆台形	1.5	1.4	0.4	中期後葉
D-163土坑	I Q - 32	円形 浅い逆台形	0.6	0.6	0.2	中期？
D-164土坑	I Q - 32	楕円形 浅い逆台形	0.9	0.7	0.2	中期
D-165土坑	I Q - 35	不整形 浅い逆台形	1.9	0.8	0.2	加賀利E
D-166土坑	I N - 35	不整形 逆台形	1.9	1.8	1.1	加賀利E/N ～名寺
D-168土坑	I O - 34	楕円形 逆台形	1.4	1.0	0.4	中期
D-169土坑	I L - 32	楕円形 浅い逆台形	(1.0)	0.8	0.2	加賀利E
D-170土坑 (T-1内)	I M - 33	楕円形 浅い逆台形	(0.9)	0.8	0.2	中期？
D-171土坑	I O - 36	楕円形 逆台形	1.4	1.3	0.5	加賀利E
D-172土坑	I P - 32	楕円形 逆台形	1.1	0.9	0.4	不明
D-173土坑	I R - 32	楕円形 逆台形	1.1	(0.8)	—	不明
D-174土坑	I R - 32	楕円形 逆台形	(1.2)	(0.7)	—	加賀利E
D-175土坑	I R - 32	楕円形 逆台形	(0.9)	0.7	—	趾之内2
D-176土坑	I O - 38	楕円形 逆台形	1.4	1.1	0.7	加賀利E
D-177土坑	I R - 32	楕円形 すり鉢形	1.2	1.1	1.3	加賀利E
D-178土坑	I O - 39	円形 楕形	1.6	1.6	1.1	梅名寺

土坑名	位置	平面形			時期	
		断面形	長軸	短軸		
D-179土坑	I H - 32	楕円形 浅い逆台形	(1.1)	0.8	0.7	梅名寺～ 趾之内2
D-180土坑	I O - 37	楕円形 逆台形	1.3	1.2	0.8	加賀利E
D-181土坑	I R - 32	楕円形 逆台形	1.7	0.9	0.9	加賀利E
D-182土坑	I S - 34	楕円形 逆台形	1.0	0.8	0.6	加賀利E
D-184土坑	I S - 34	楕円形 逆台形	1.2	1.1	0.4	加賀利E/N
D-185土坑	I T - 34	不整形 逆台形	2.4	1.8	0.3	加賀利E
D-186土坑	I S - 38	楕円形 逆台形	1.6	1.1	0.5	不明
D-187土坑	I L - 37	楕円形 逆台形	0.8	0.7	0.4	加賀利E
D-188土坑	I K - 39	不整形 逆台形	3.3	1.7	0.7	加賀利E
D-189土坑	I O - 49	楕円形 逆台形	1.6	1.4	1.1	加賀利E～ 梅名寺
D-190土坑	I L - 38	楕円形 逆台形	0.9	(0.7)	0.3	加賀利E
D-191土坑	I Q - 33	楕円形 逆台形	1.2	1.0	0.3	加賀利E
D-192土坑	I Q - 33	楕円形 逆台形	1.4	1.1	0.4	加賀利E
D-193土坑	I T - 34	円形 袋状	0.7	0.7	0.6	加賀利E I ～II
D-194土坑 (理設土器)	I M - 32	楕円形 逆台形	0.8	0.7	0.3	加賀利E
D-195土坑	Z E - 37	円形 逆台形	0.8	0.8	0.3	諸職？
D-196土坑	Z B - 38	楕円形 浅い逆台形	1.2	1.1	0.1	諸職c

※D-21・22・27・64・73・87・95・167・183号土坑は欠番

第79表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代上坑 遺構観察表(3)

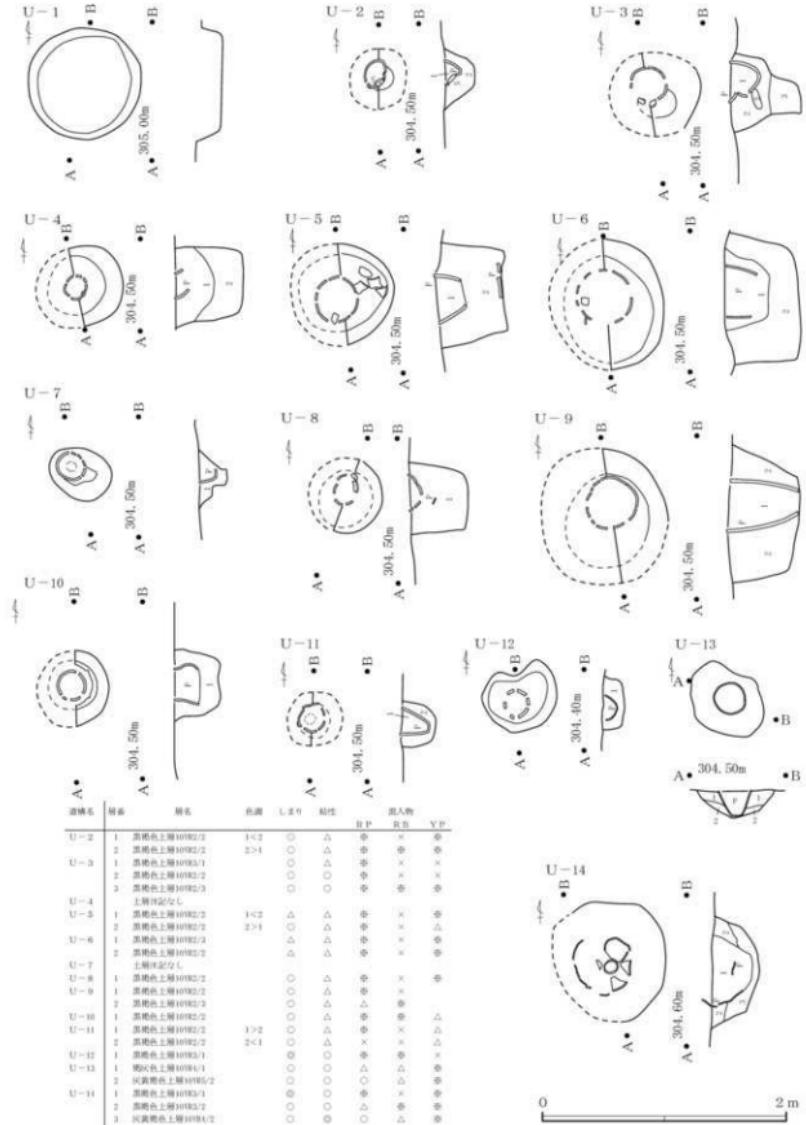
A区埋設土器

遺構名	位置	平面形			時期	
		断面形	長軸	短軸		
U-1埋設土器	I B - 42	円形? 浅い逆台形	0.9	0.9	0.2	加賀利E I ～II
U-2埋設土器	I S - 33	円形 すり鉢形	(0.5)	(0.5)	0.3	加賀利E
U-3埋設土器	I T - 31	楕円形 一段	0.80	0.7	0.6	加賀利E
U-4埋設土器	I T - 31	円形?	(0.7)	0.6	0.6	加賀利E
U-5埋設土器	I T - 31	円形?	(0.8)	0.8	0.6	加賀利E
U-6埋設土器	I T - 31	楕円形?	1.1	(0.9)	0.6	加賀利E
U-7埋設土器	I W - 31	楕円形 すり鉢形	0.5	0.4	0.2	加賀利E
U-8埋設土器	I R - 31	円形?	(0.6)	0.6	0.5	加賀利E I ～II
U-9埋設土器	I T - 32	楕円形?	1.1	(1.0)	0.6	中期後葉
U-10埋設土器	I V - 34	円形 袋状?	(0.6)	0.6	0.4	中期後葉
U-11埋設土器	I T - 31	円形? 楕形	(0.4)	0.4	0.3	加賀利E
U-12埋設土器	I X - 38	楕円形? 逆台形	0.6	0.5	0.2	加賀利E

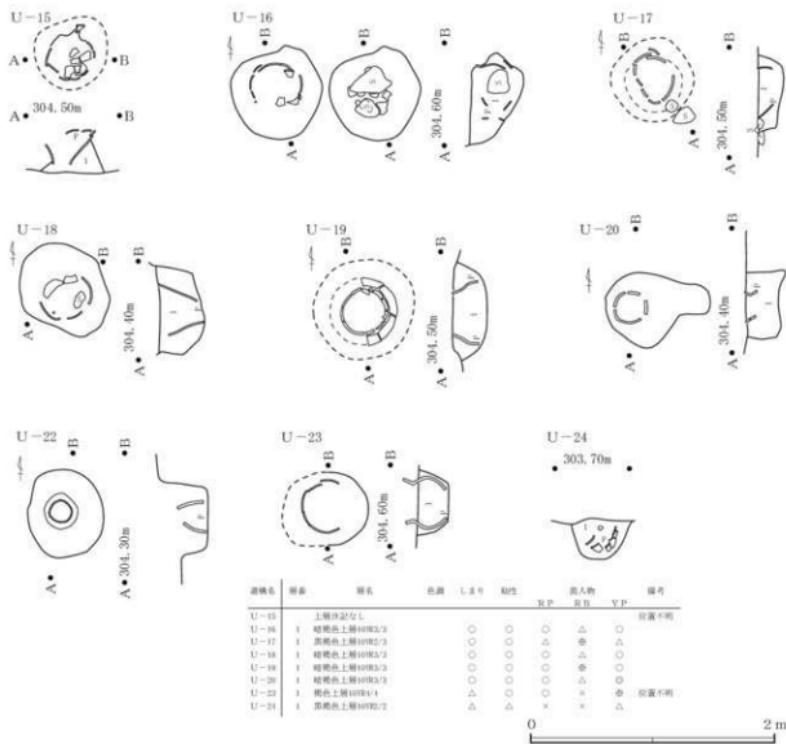
遺構名	位置	平面形			時期	
		断面形	長軸	短軸		
U-13埋設土器	I R - 30	楕円形 逆台形	0.7	0.5	0.2	中期後葉
U-14埋設土器	I Q - 31	楕円形 逆台形	1.0	(0.9)	0.4	中期後葉
U-15埋設土器	不明	不明	(0.4)	(0.4)	(0.4)	加賀利E
U-16埋設土器	I Q - 31	楕円形 逆台形?	0.8	0.7	0.4	中期後葉
U-17埋設土器	I Q - 33	楕円形? 逆台形	(0.7)	(0.7)	0.2	加賀利E
U-18埋設土器	I R - 31	楕円形 逆台形	0.8	0.7	0.4	加賀利E
U-19埋設土器	I P - 31	円形? 椭形?	(0.8)	(0.8)	0.3	中期後葉 (逆位)
U-20埋設土器	I T - 33	楕形? 逆台形	0.7	0.6	0.3	加賀利E
U-22埋設土器	I I - 38	楕円形 逆台形	0.7	0.6	0.4	加賀利E (逆位)
U-23埋設土器	不明	楕円形? 逆台形	(0.7)	0.6	0.3	中期後葉
U-24埋設土器	I Y - 25	不明	—	—	0.3	加賀利E

※U-22号埋設土器は遺構平面図のみ

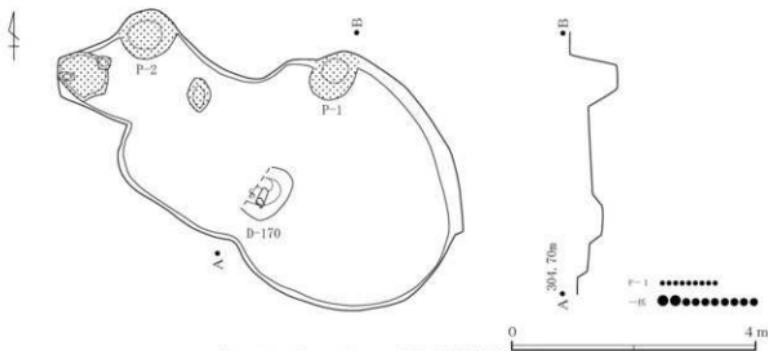
第80表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代埋設土器 遺構観察表(1)



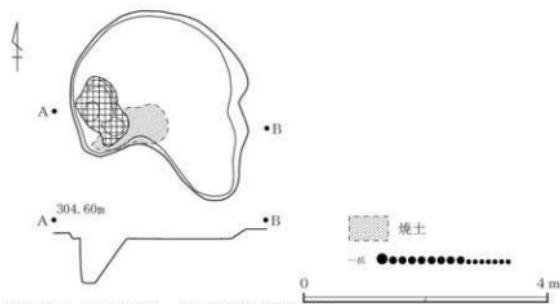
第316図 原田A区埋設土器実測図(1)



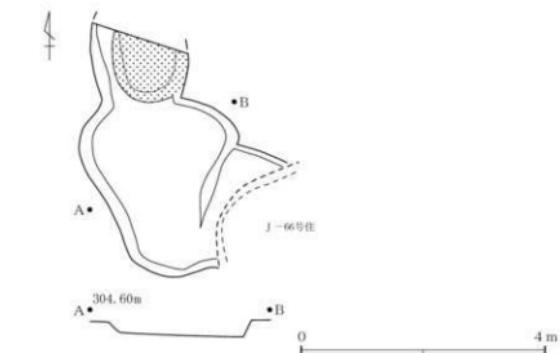
第317図 原田A区埋設土器実測図(2)



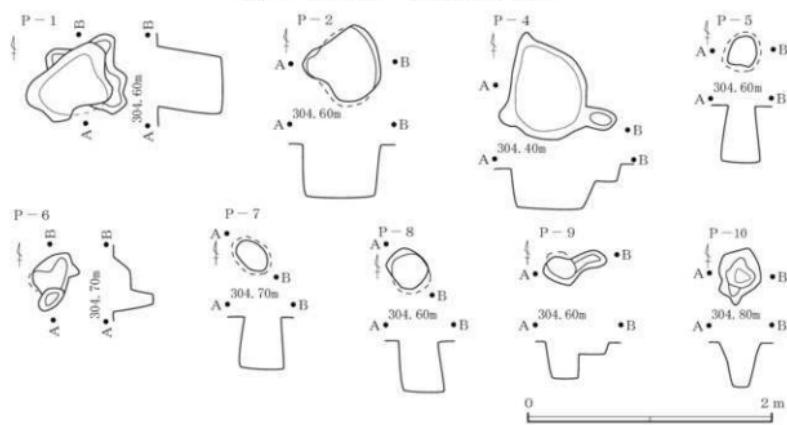
第318図 原田A区T-1号竖穴状遺構実測図



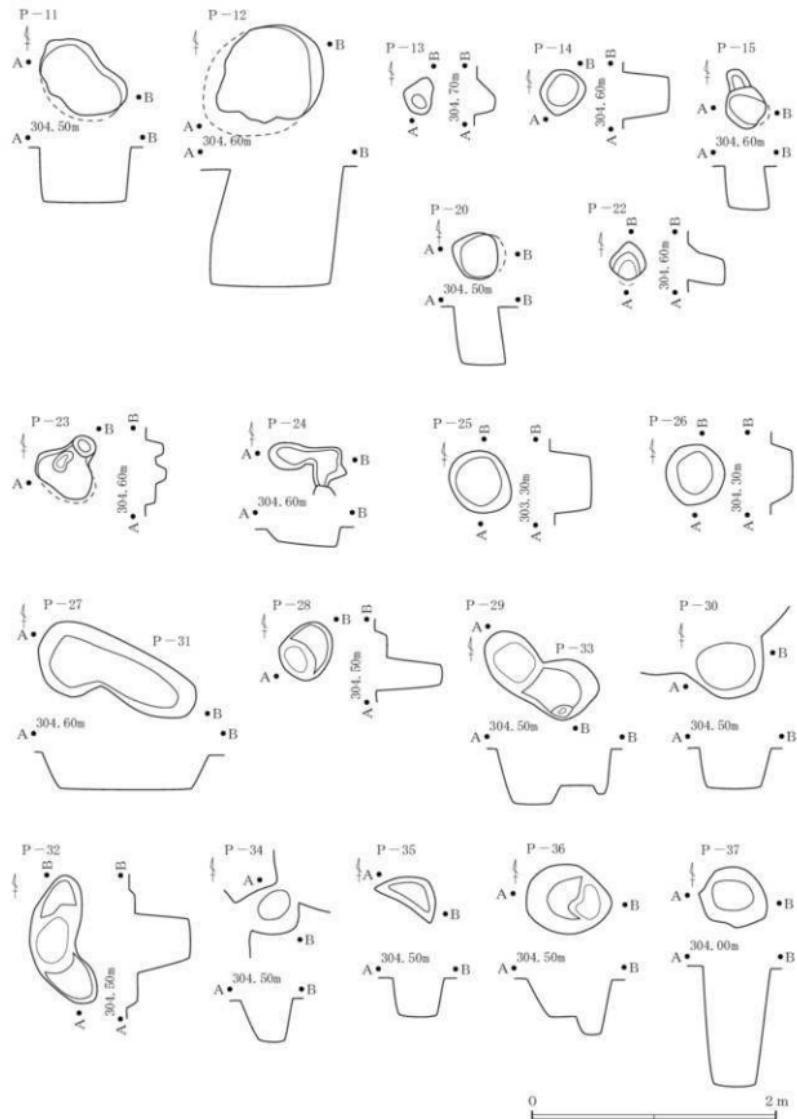
第319図 原田A区T-2号竪穴状遺構実測図



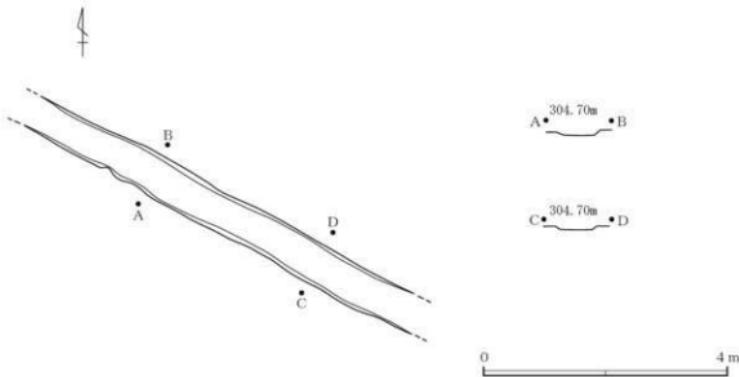
第320図 原田A区T-3号竪穴状遺構実測図



第321図 原田A区ピット実測図(1)



第322図 原田A区ピット実測図(2)



第323図 原田A区M-1号溝実測図

A区豊穴状遺構

遺構名	位置	平面形			規模(m)	時期	備考
		断面形	長軸	短軸			
T-1豊穴状遺構	I L-33	不整形	6.9	2.8	0.4	加賀利E	中央前にD-170土坑がある。
T-2豊穴状遺構	I O-38	浅い逆台形	3.4	2.8	0.2	中期後葉	西側に填土を有する。
T-3豊穴状遺構	I N-34	不整形 浅い逆台形	(4.0)	2.4	0.2	不明	

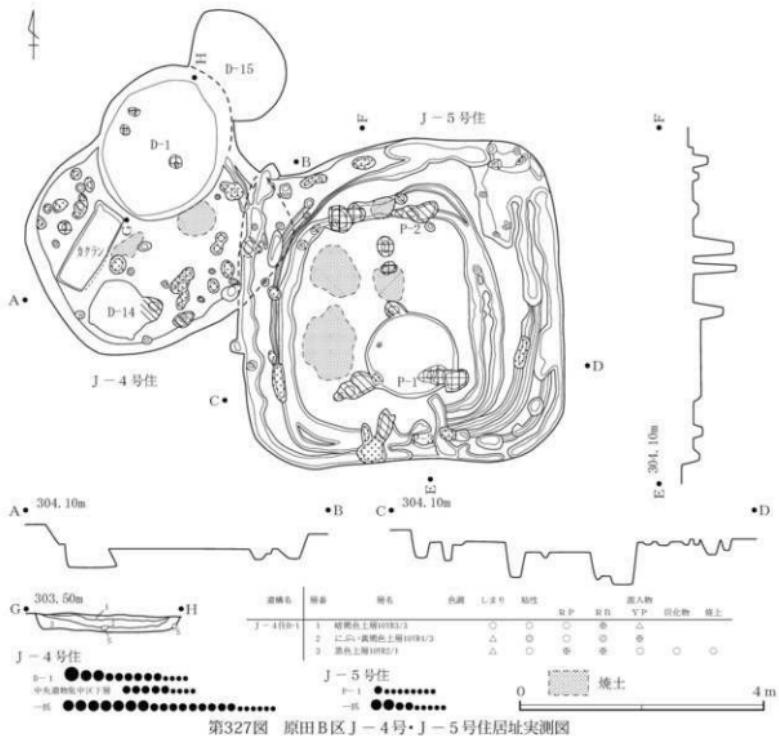
第81表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代豊穴状遺構 遺構観察表(1)

A区ピット

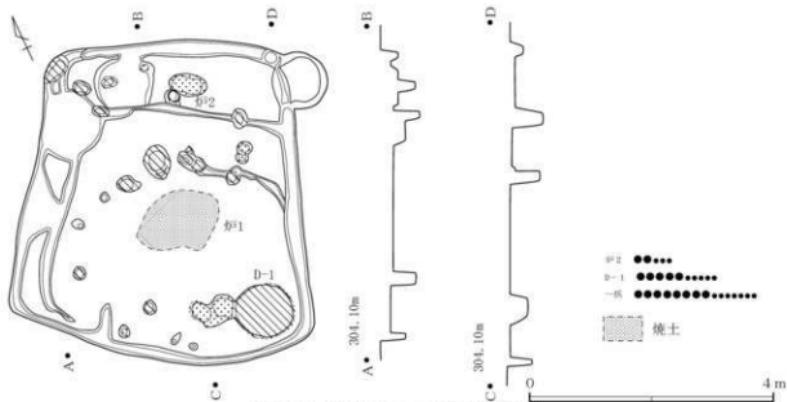
ピット名	位置	平面形			規模(m)	時期
		断面形	長軸	短軸		
P-1ピット	I T-39	不整形 箱形	0.8	0.6	0.5	諸説b?
P-2ピット	I V-39	箱形 袋状?	0.7	0.6	0.4	前期中葉
P-4ピット	I T-37	箱形?	0.9	0.7	0.3	不明
P-5ピット	I T-38	円形 袋状	0.2	0.2	0.4	諸説b
P-6ピット	I T-39	不整形 逆台形	0.4	0.3	0.2	加賀利E
P-7ピット	I T-39	箱形 袋状	0.3	0.2	0.4	加賀利E
P-8ピット	I U-38	箱形 袋状?	0.4	0.3	0.4	不明
P-9ピット	I U-38	不整形	0.5	0.2	0.3	後期前葉?
P-10ピット	I T-39	不整形 鐘形?	0.4	0.3	0.3	加賀利E
P-11ピット	I V-40	箱形 箱?	0.8	0.4	0.4	加賀利E
P-12ピット	I T-37	箱形 袋状	0.9	0.8	0.9	前期中葉
P-13ピット	I T-39	箱形 箱形?	0.3	0.2	0.2	加賀利E
P-14ピット	I T-40	円形 逆台形	0.4	0.4	0.4	加賀利E
P-15ピット	I T-40	不整形 袋状?	0.3	0.3	0.3	加賀利E
P-20ピット	I V-39	円形 袋状	0.4	0.4	0.5	加賀利E
P-22ピット	I T-38	箱形 箱?	0.3	0.3	0.3	中期後葉

ピット名	位置	平面形			規模(m)	時期
		断面形	長軸	短軸		
P-23ピット	I T-38	不整形 浅い逆台形	0.5	0.5	0.1	不明
P-24ピット	I T-38	不整形 逆台形	0.6	0.3	0.2	中期後葉
P-25ピット	I X-26	円形 逆行態	0.5	0.5	0.3	中期後葉
P-26ピット	I Q-32	円形 逆行態	0.5	0.5	0.2	中期後葉?
P-27ピット	I Q-33	箱形 逆行態	(0.6)	0.6	0.3	後期?
P-28ピット	I Q-33	箱形 逆行態	(0.8)	0.4	0.3	加賀利E
P-29ピット	I R-31	箱形 逆行態	(0.5)	0.4	0.5	不明
P-30ピット	I R-32	箱形 逆行態	(0.7)	0.7	0.3	加賀利E
P-31ピット	I Q-33	箱形 逆行態	(0.8)	0.4	0.3	不明
P-32ピット	I R-32	箱形 逆行態	1.0	0.4	0.5	不明
P-33ピット	I R-31	箱形 逆行態	(0.6)	0.5	0.4	加賀利E
P-34ピット	I R-33	箱形 逆行態	(0.5)	0.4	0.3	範囲之内
P-35ピット	I R-32	箱形?	0.5	0.3	0.3	不明
P-36ピット	I R-32	箱形 逆行態	0.7	0.6	0.4	加賀利E
P-37ピット	I V-29	箱形 深い逆台形	0.5	0.4	1.0	不明

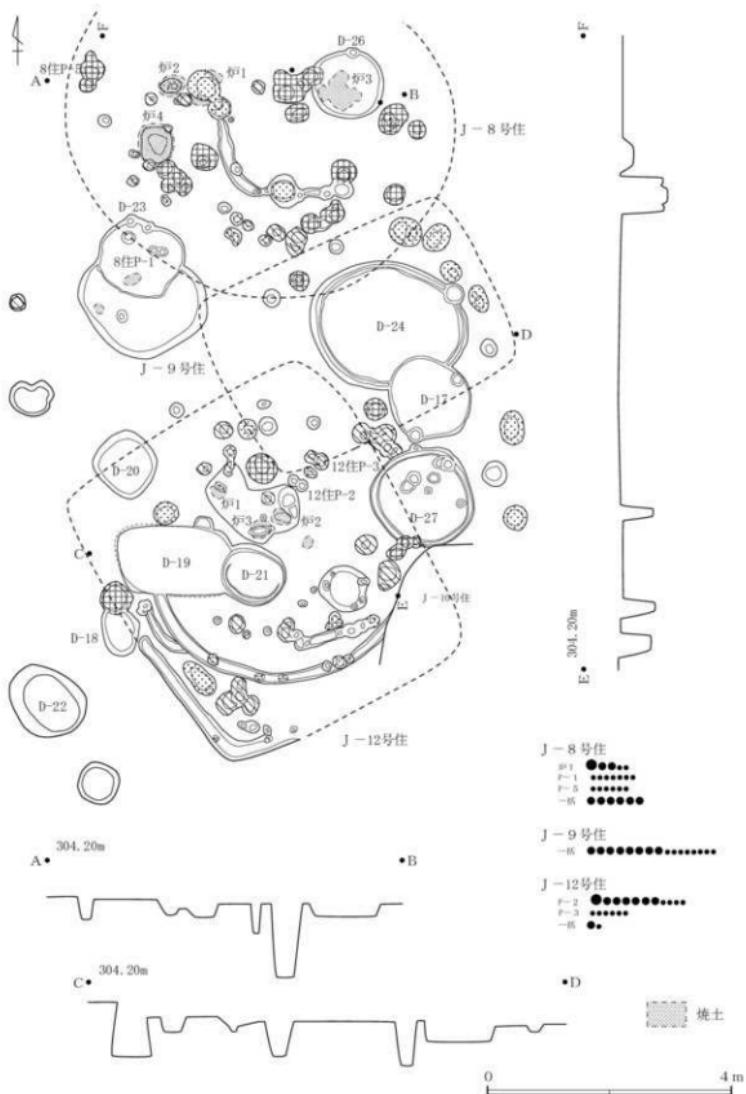
第82表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代ピット 遺構観察表(1)



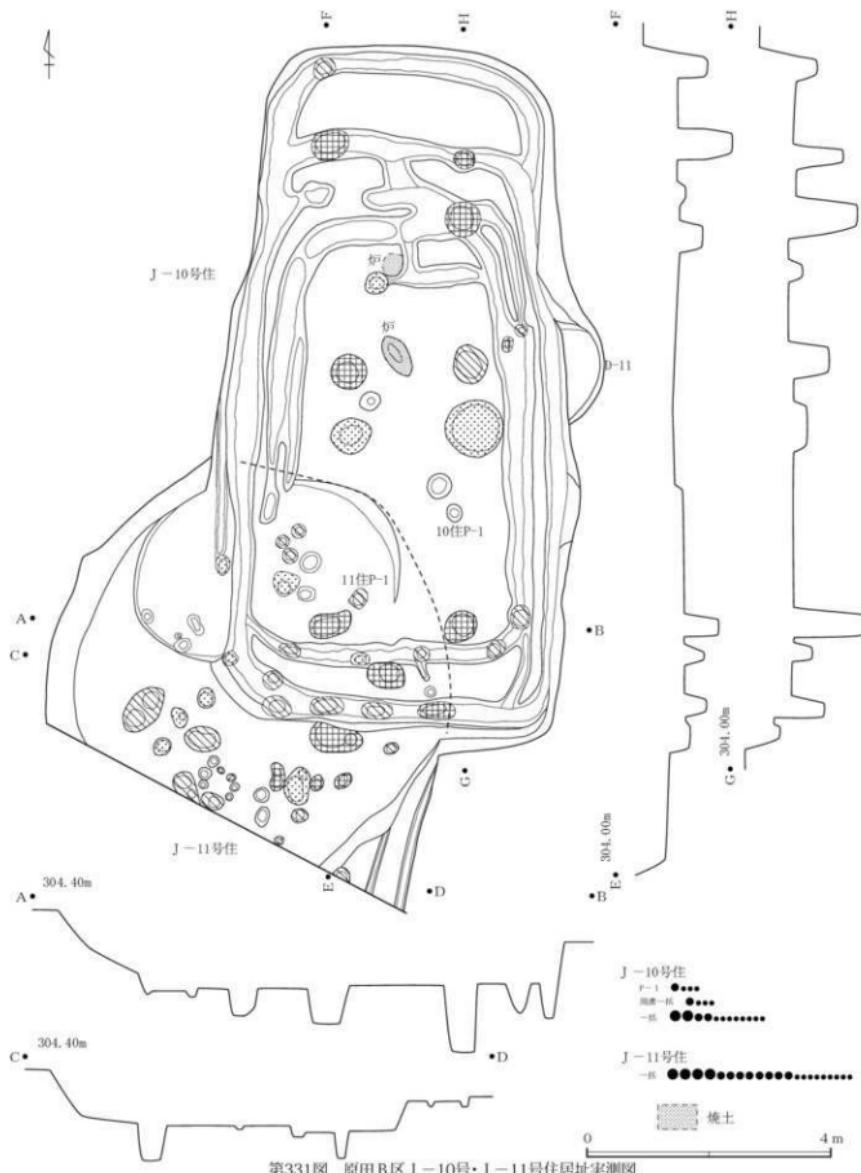
第327図 原田B区J-4号・J-5号住居址実測図



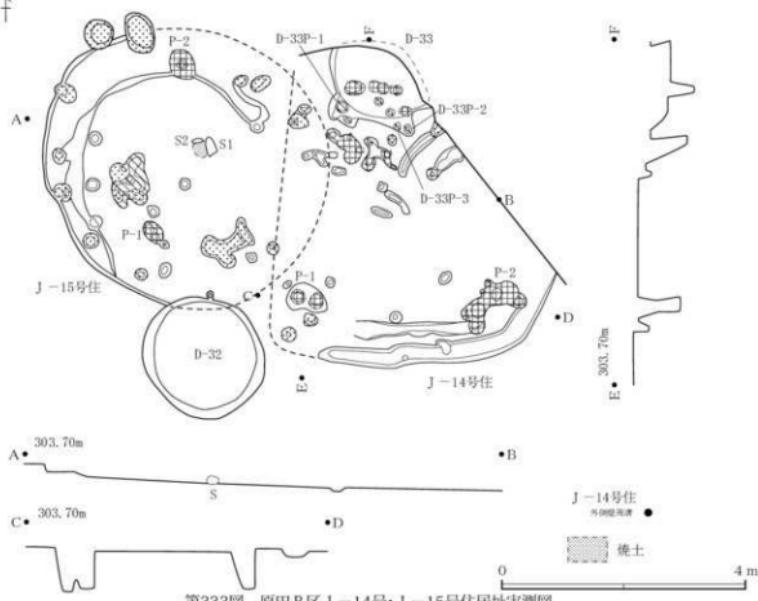
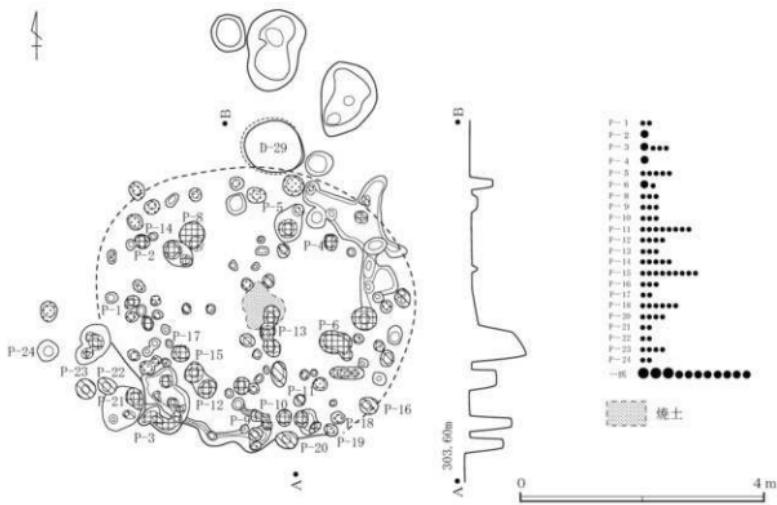
第328図 原田B区J-6号住居址実測図

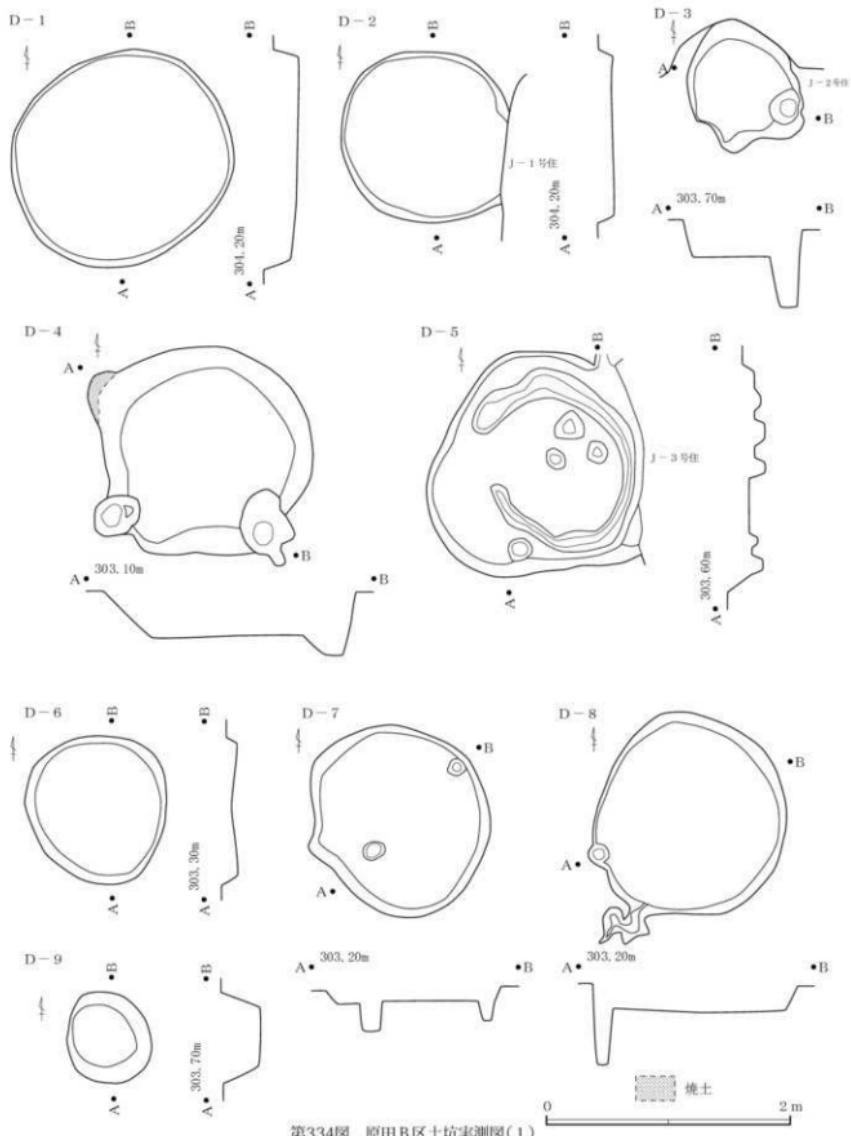


第330図 原田B区J-8号・J-9号・J-12号住居址実測図

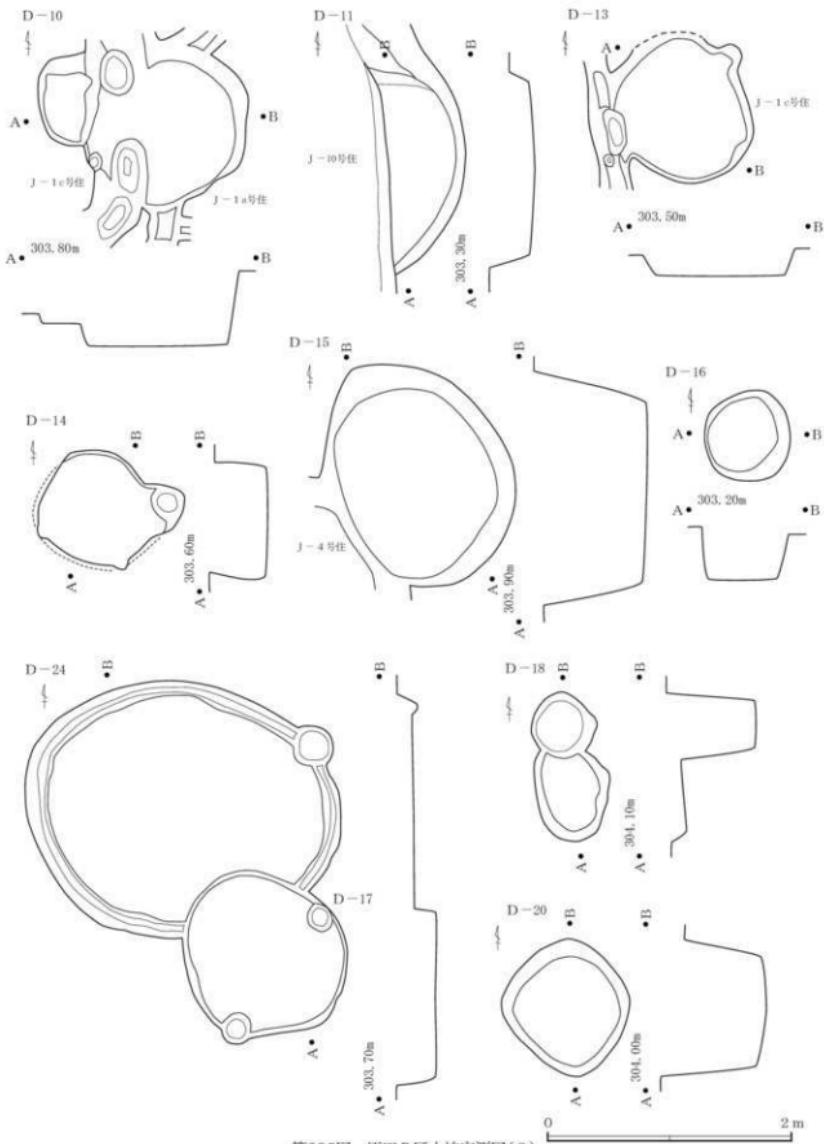


第331図 原田B区J-10号・J-11号居住址実測図

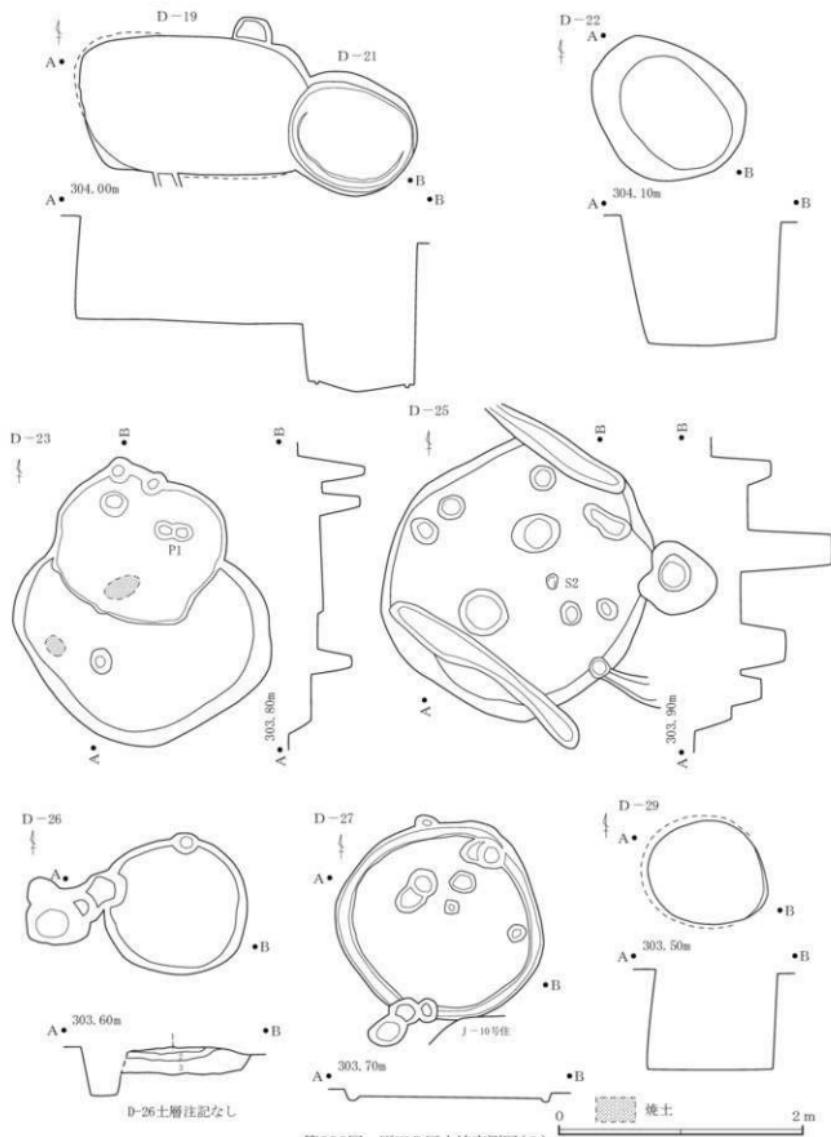




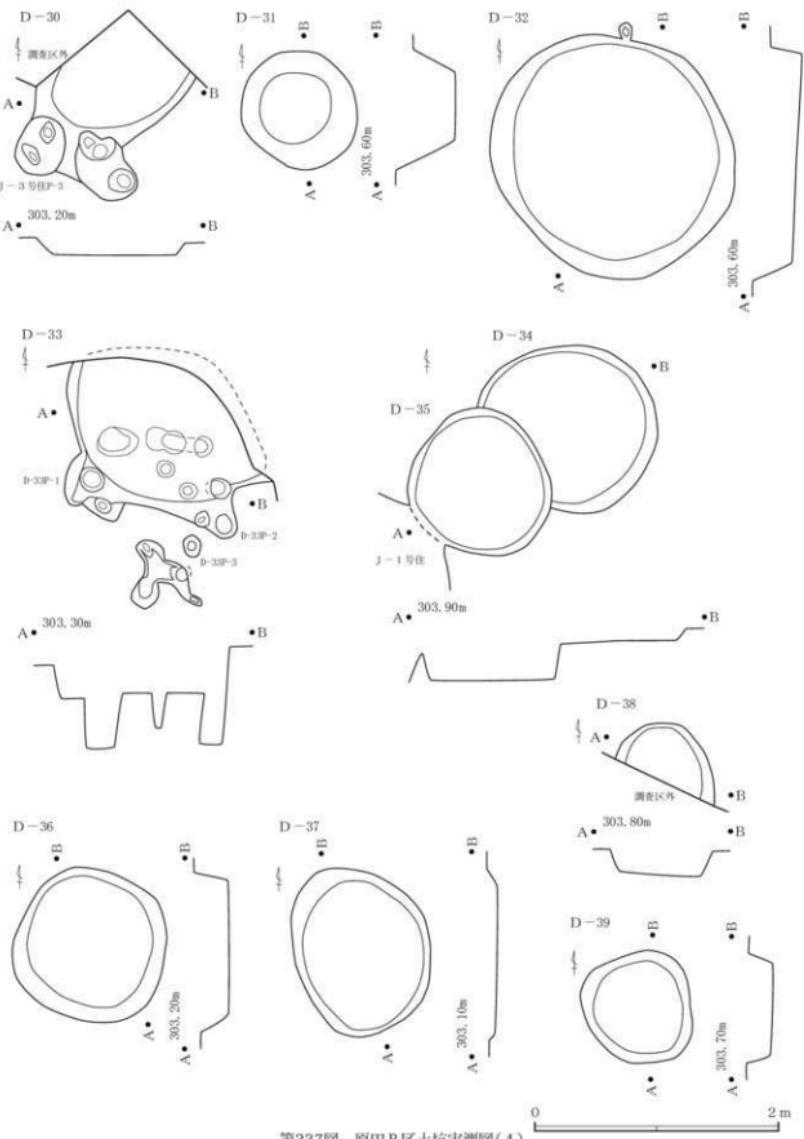
第334図 原田B区土坑実測図(1)



第335図 原田B区土坑実測図(2)



第336図 原田B区土坑実測図(3)



第337図 原田B区土坑実測図(4)

B区住居址

住居名	位置	平面形態	規模 (m)	主軸方向	施設			遺物量	時期	備考			
					主柱穴	伊達							
						位置	構造						
J-1-a住	Y-49	隅丸長方形	10.2	6.0	0.6	N-10W	6本 方型配列	-	-	○			
J-1-b住	Y-50	隅丸長方形	9.0	6.0	0.6	N-47W	6本 方型配列	-	-	※			
J-2住	X-50	隅丸方形	5.7	4.7	0.3	N-1W	4本 方型配列	中央北	地床炉	△			
J-3住	T-49	梢円形	5.4	5.3	0.3	N-3W	4本 方型配列	中央北	地床炉	○ ○			
J-4住	IA-51	隅丸方形	4.0	3.6	0.3	N-36W	4本 方型配列	中央西	地床炉	○ ○			
J-5住	IA-52	隅丸方形	5.3	5.3	0.2	N-7W	4本 方型配列	中央・ 西	地床炉	○ ※			
J-6住	IB-51	隅丸方形	5.3	5.0	0.2	N-32E	6本? 方型配列	中央・ 北	地床炉	○ △			
J-7住	1Q-34	梢円形	5.3	4.5	0.3	N-23E	8本 円形配列	中央	石岡炉	○ △			
J-8住	1C-54	隅丸方形?	(6.6)	(4.2)	-	N-50W	6本? 方型配列	中央・ 西	地床炉	○ ※			
J-9住	1C-55	梢円形?	(4.8)	(4.0)	-	-	4本? 方型配列	-	-	△ ※			
J-10住	1E-55	隅丸長方形	11.6	6.1	0.7	N-1W	6本 方型配列	中央・ 北	地床炉	○ △			
J-11住	1G-55	梢円形	6.3	<5.7	0.7	N-38E	4本 方型配列	-	-	○ ※			
J-12住	1E-54	隅丸方形?	(5.6)	(4.9)	-	N-33W	4本? 方型配列	中央北	地床炉	○ ※			
J-13住	1A-54	梢円形?	(5.2)	(4.4)	0.1	-	4本? 方型配列	中央	地床炉	○ ○			
J-14住	Y-54	隅丸方形?	(5.2)	(4.4)	0.1	-	4本以上 方型配列	-	-	※			
J-15住	X-53	梢円形?	(4.8)	(4.5)	0.1	-	4本 方型配列	中央	地床炉				
										諸磯b			

凡例

主軸 住居址の壁（壁面調査）または主柱穴と思われるビット。石岡炉などの長軸方向を基準とした。「-」記号は省略。

遺物 土器 ※: 1 ~ 100g, △: 101 ~ 1,000g, ○: 1001 ~ 10,000g, ◎: 10,001g 以上

石器・石製品 ※: 1 ~ 10点, △: 11 ~ 20点, ○: 21 ~ 30点, ◎: 31点以上

第83表 二軒在家原田遺跡B区縄文時代住居址 遺構観察表(1)

B区土坑

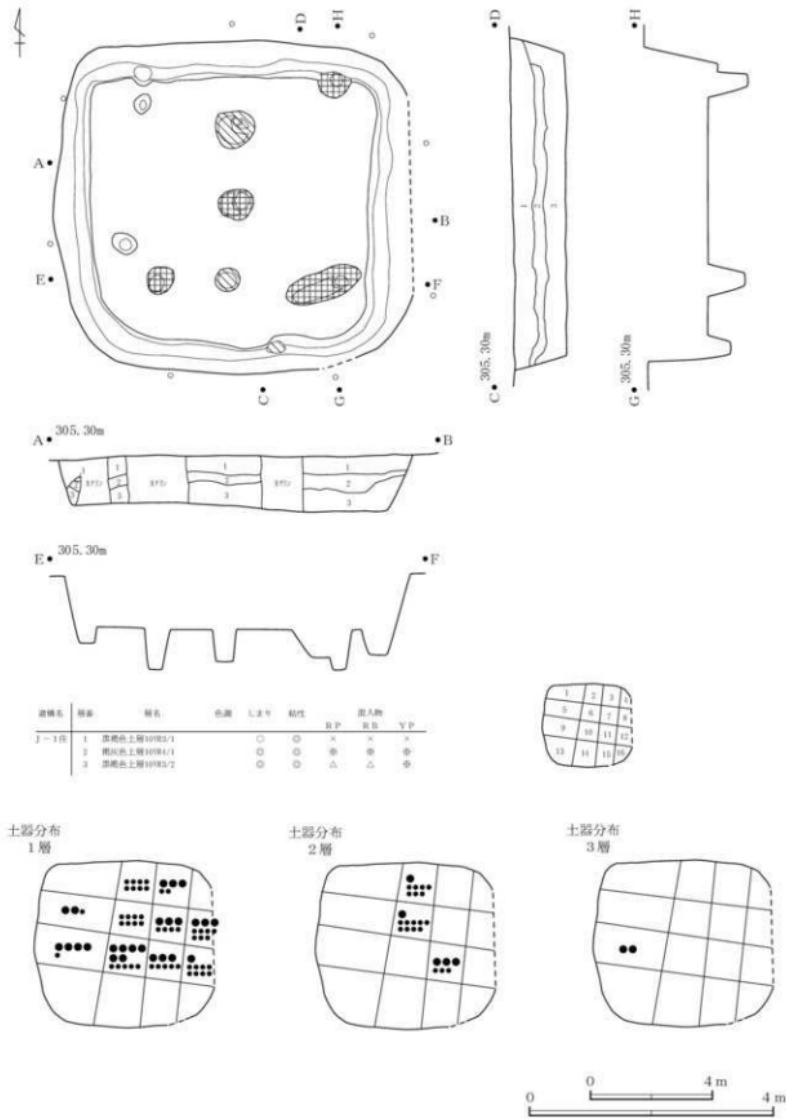
土坑名	位置	平面形			時期	
		断面形	長軸	短軸		
D-1 土坑	I A - 48	円形 浅い逆台形	1.7	1.7	0.2	諸穢b
D-2 土坑	Y - 48	円形 浅い逆台形	1.4	1.4	0.1	諸穢b?
D-3 土坑	W - 50	楕円形 浅い逆台形	1.1	0.9	0.3	諸穢
D-4 土坑	U - 49	楕円形 浅い逆台形	1.7	1.6	0.4	諸穢b
D-5 土坑	U - 48	楕円形 浅い逆台形	1.8	1.7	0.3	諸穢b~c
D-6 土坑	T - 49	楕円形 浅い逆台形	1.2	1.2	0.1	不明
D-7 土坑	T - 50	楕円形 浅い逆台形	1.5	1.4	0.1	不明
D-8 土坑	T - 50	楕円形 浅い逆台形	1.7	1.6	0.2	諸穢b
D-9 土坑	W - 51	円形 逆台形	0.7	0.7	0.3	不明
D-10 土坑	I A - 50	楕円形 逆台形	1.4	1.4	0.6	不明
D-11 土坑	I F - 56	楕円形? 逆台形	(1.7)	(0.7)	0.4	不明
D-13 土坑	I A - 49	楕円形 逆台形	1.2	1.1	0.2	諸穢b
D-14 土坑	I A - 51	楕円形 逆台形	1.2	0.9	0.4	諸穢b
D-15 土坑	Y - 52	楕円形 逆台形	1.9	1.5	0.9	諸穢b
D-16 土坑	T - 49	円形 逆台形	0.7	0.7	0.4	諸穢b
D-17 土坑	I D - 55	楕円形 浅い逆台形	1.4	1.3	0.3	諸穢b
D-18 土坑	I E - 54	楕円形 浅い逆台形	1.2	0.6	0.2	不明
D-19 土坑	I D - 54	楕円形 椭形	1.9	1.1	0.8	諸穢b~c
D-20 土坑	I D - 53	楕円形 椭形	1.1	1.0	0.8	有尾・黒斑

土坑名	位置	平面形			時期	
		断面形	長軸	短軸		
D-21 土坑	I D - 54	椭円形 箱形	1.0	0.9	1.2	諸穢b
D-22 土坑	I E - 54	椭円形 箱形	1.3	1.1	1.0	不明
D-23 土坑	I C - 54	椭円形 浅い逆台形	2.4	2.1	0.3	諸穢b
D-24 土坑	I C - 55	椭円形 浅い逆台形	2.6	2.1	0.1	諸穢b
D-25 土坑	I C - 53	椭円形 浅い逆台形	2.2	2.1	0.4	諸穢b
D-26 土坑	I B - 55	椭円形 浅い逆台形	1.2	1.1	0.2	諸穢b
D-27 土坑	I D - 55	椭円形 浅い逆台形	1.7	1.6	0.1	諸穢b
D-29 土坑	I A - 55	椭円形 袋形	1.0	0.9	0.8	諸穢b~c
D-30 土坑	S - 50	椭円形? 浅い逆台形	(1.5)	(0.9)	0.1	不明
D-31 土坑	U - 50	椭円形 逆台形	1.0	0.9	0.5	諸穢b
D-32 土坑	Y - 53	椭円形 浅い逆台形	2.1	1.9	0.3	後期
D-33 土坑	X - 54	不規則 浅い逆台形	(1.2)	(1.2)	0.4	諸穢b~c
D-34 土坑	Y - 51	円形 浅い逆台形	1.4	1.4	0.1	諸穢b?
D-35 土坑	Y - 50	円形 浅い逆台形	1.2	1.1	0.4	諸穢b
D-36 土坑	I H - 60	円形 浅い逆台形	1.2	1.2	0.3	諸穢b
D-37 土坑	I I - 61	椭円形 浅い逆台形	1.4	1.1	0.1	不明
D-38 土坑	I I - 58	椭円形 浅い逆台形	(0.6)	(0.8)	0.2	諸穢b
D-39 土坑	V - 51	椭円形 浅い逆台形	0.9	0.8	0.2	不明

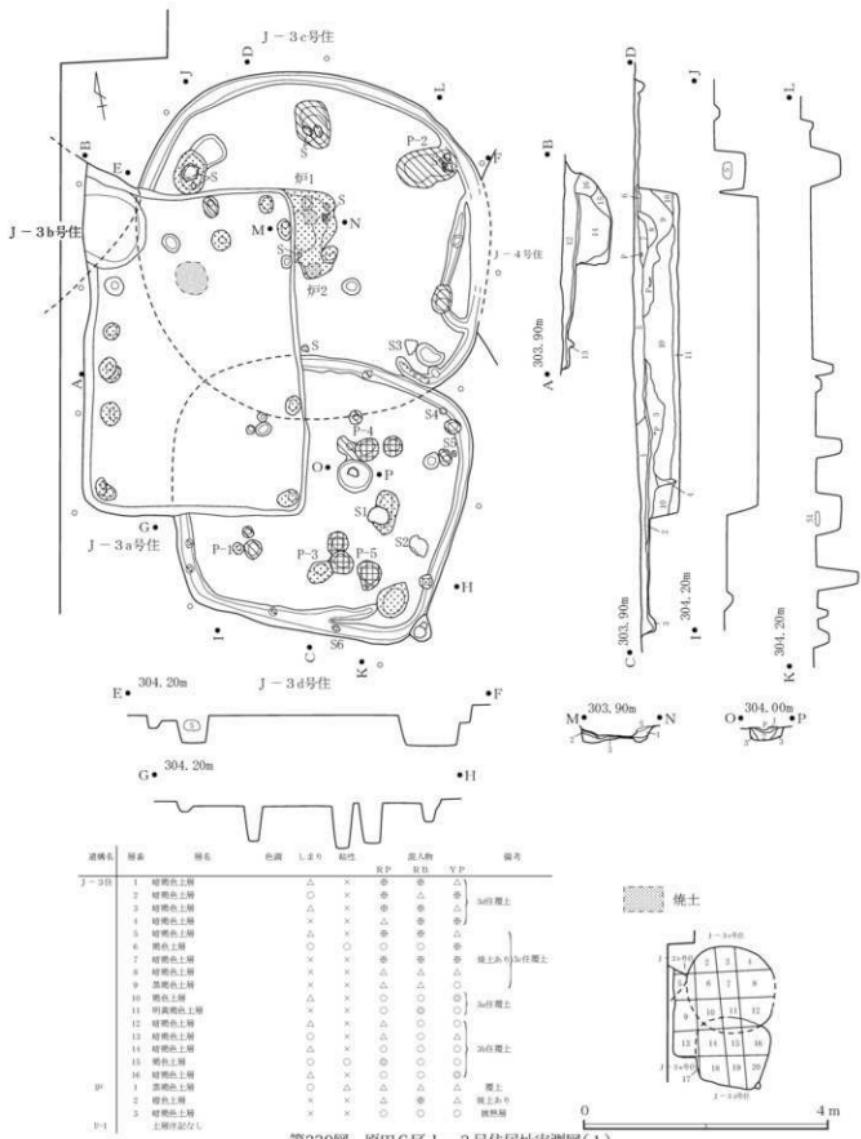
※D-12号土坑は位置・規模不明。D-28号土坑は欠番

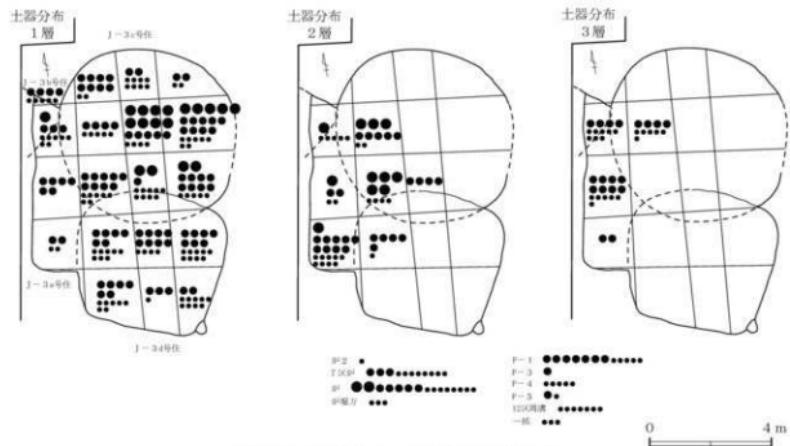
第84表 二軒在家原田遺跡B区縄文時代土坑 遺構観察表(1)

※B区P-1~4号ピットは位置・規模不明、平面図なし

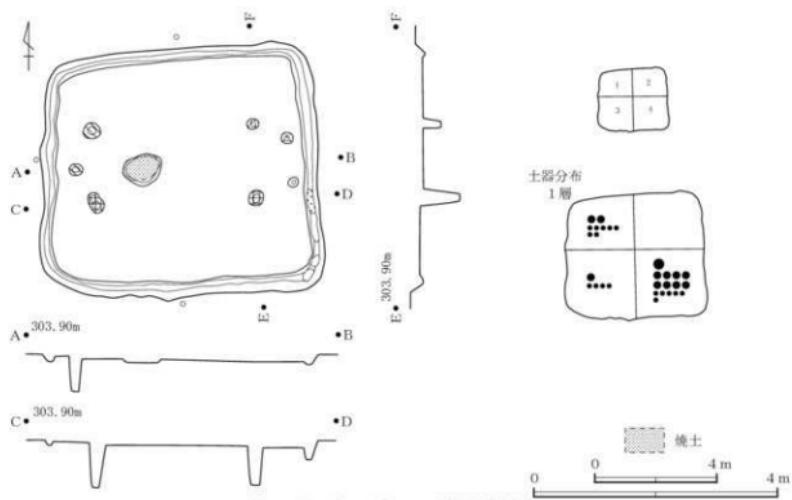


第338図 原田C区J-1号住居址実測図

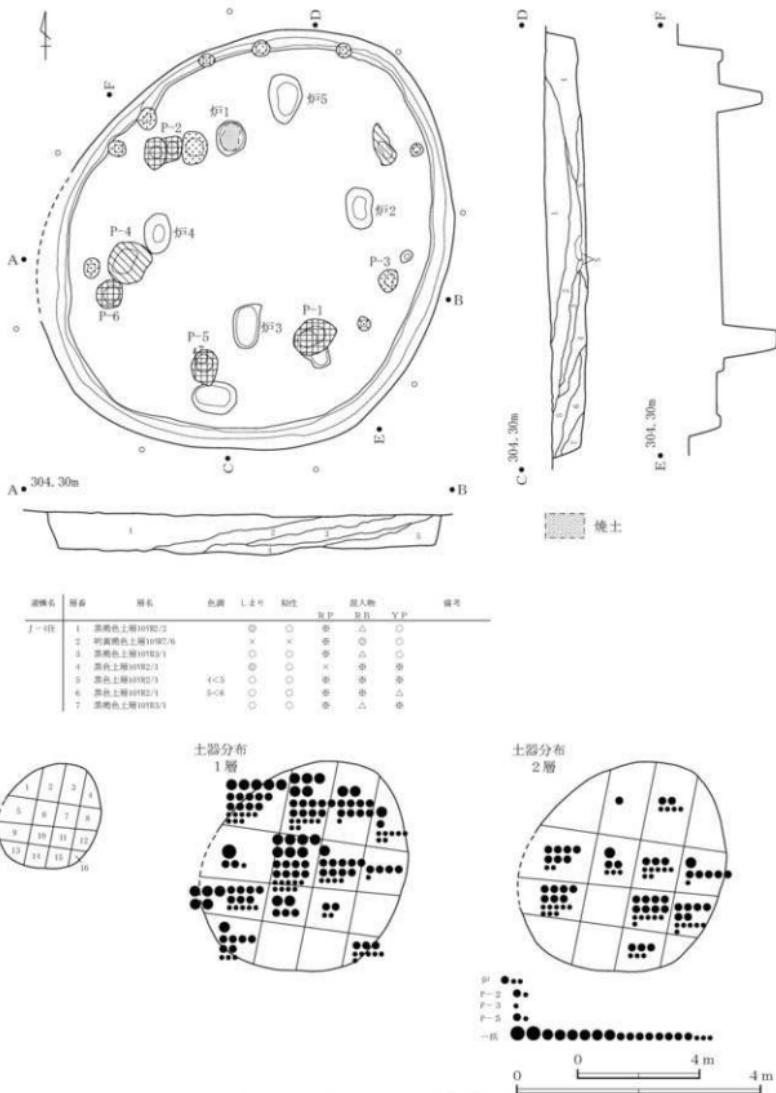




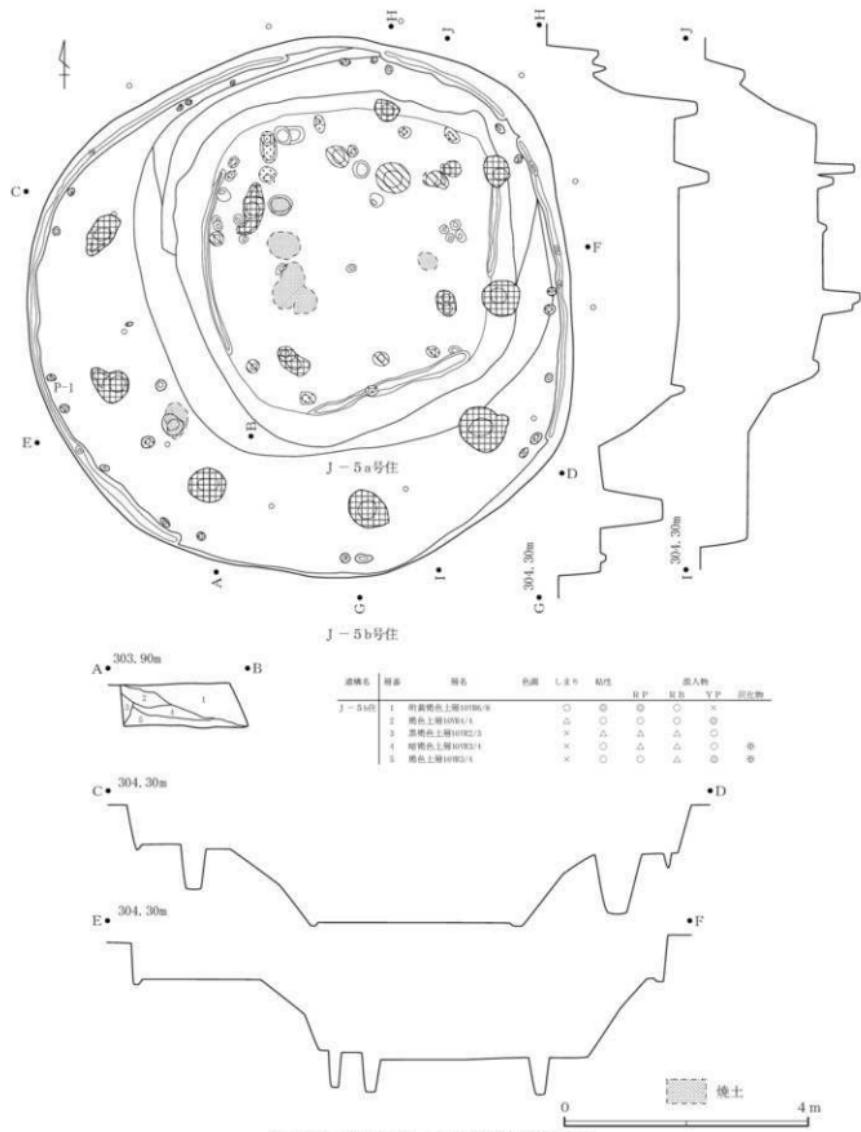
第340図 原田C区J-3号住居址実測図(2)



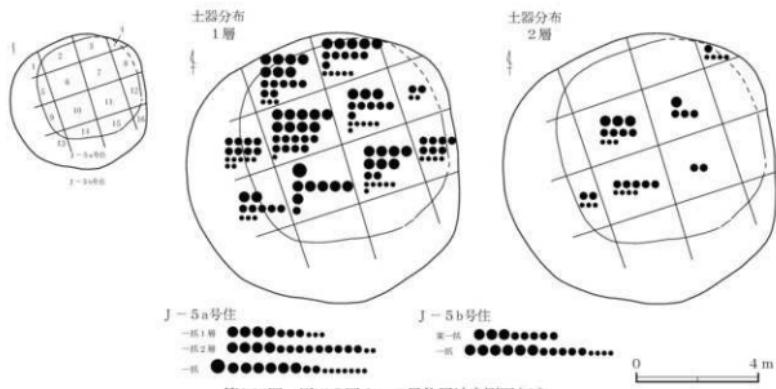
第341図 原田C区J-2号住居址実測図



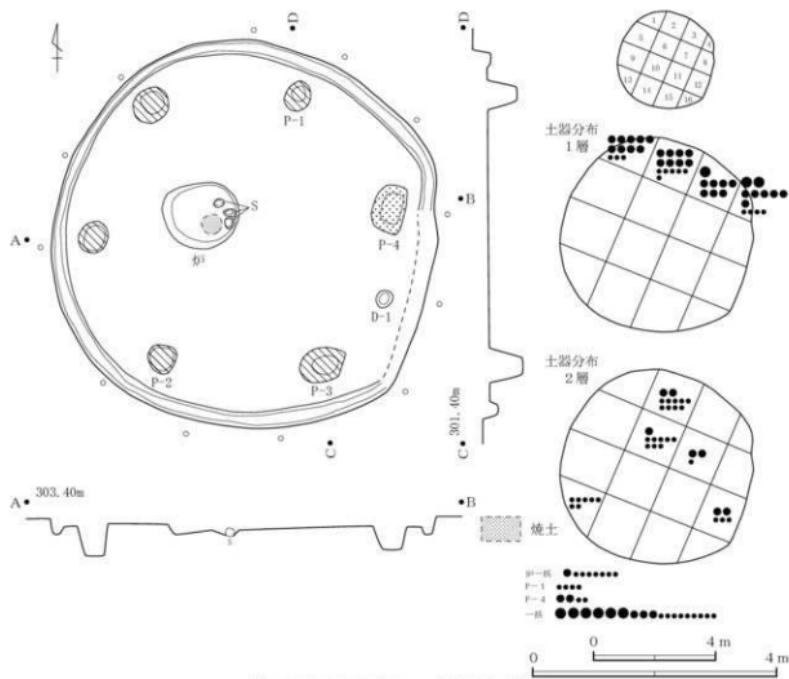
第342図 原田C区J-4号住居址実測図



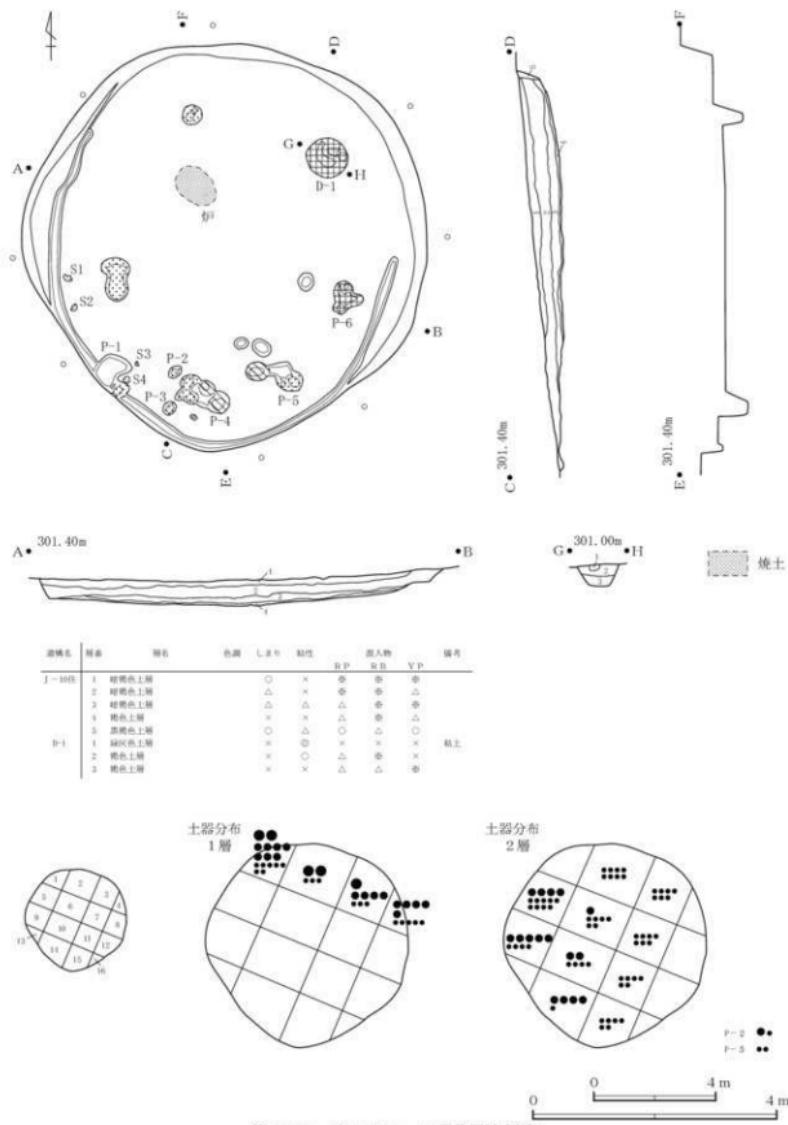
第343図 原田C区J-5号住居址実測図(1)



第344図 原田C区J-5号住居址実測図(2)



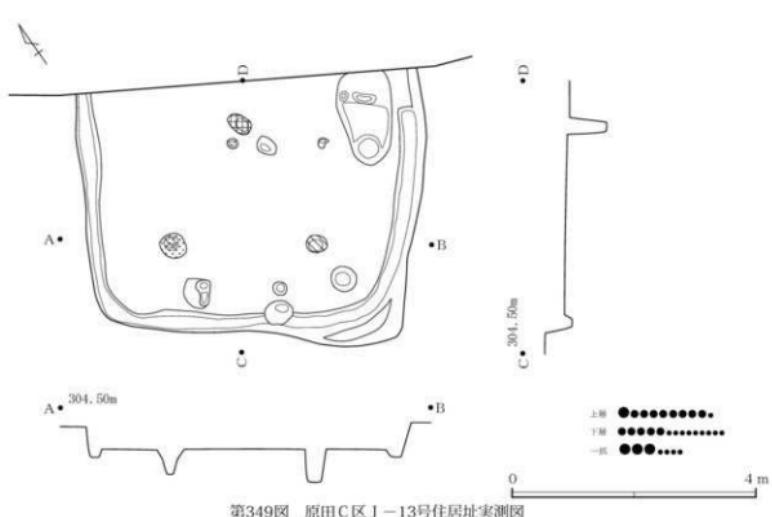
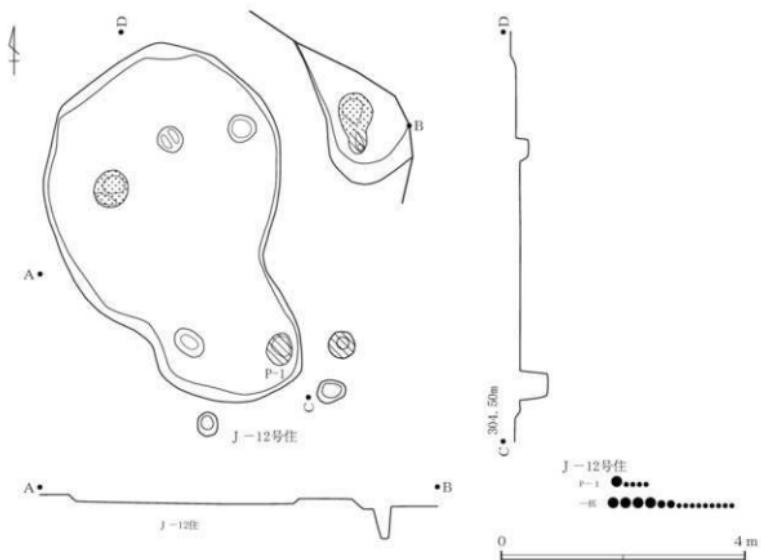
第345図 原田C区J-11号住居址実測図

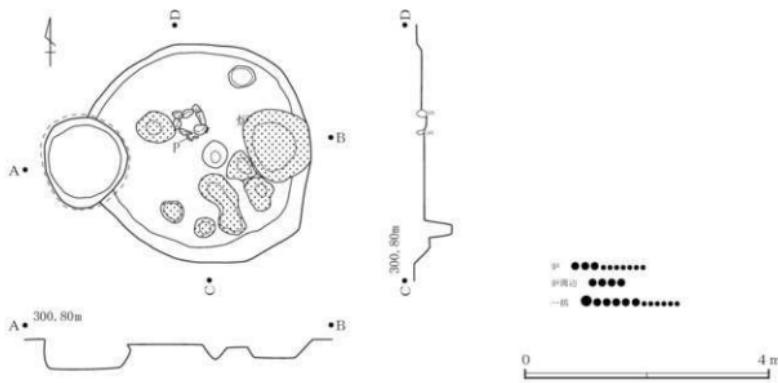


第346図 原田C区J-10号住居址実測図

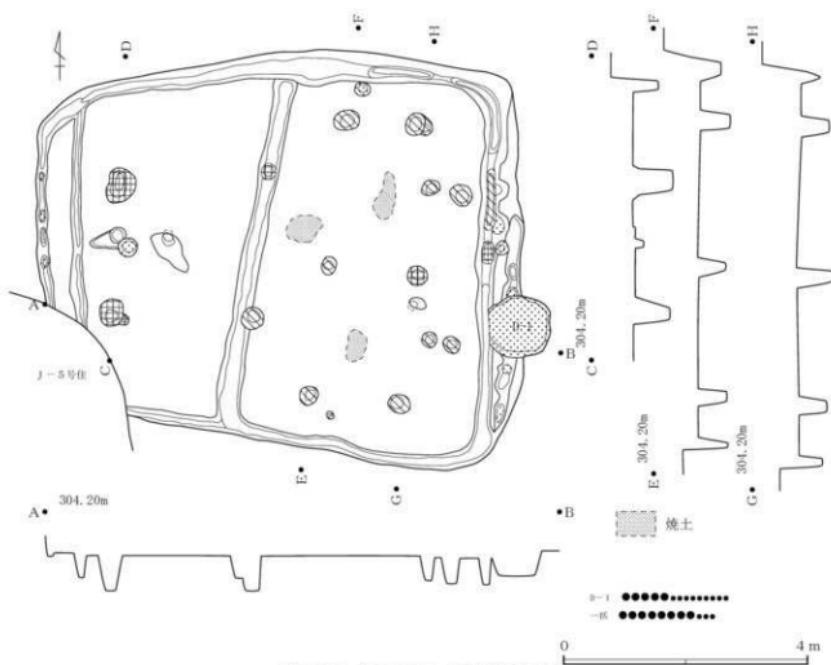


第347図 原田C区J-6号・J-7号・J-8号・J-9号住居址実測図

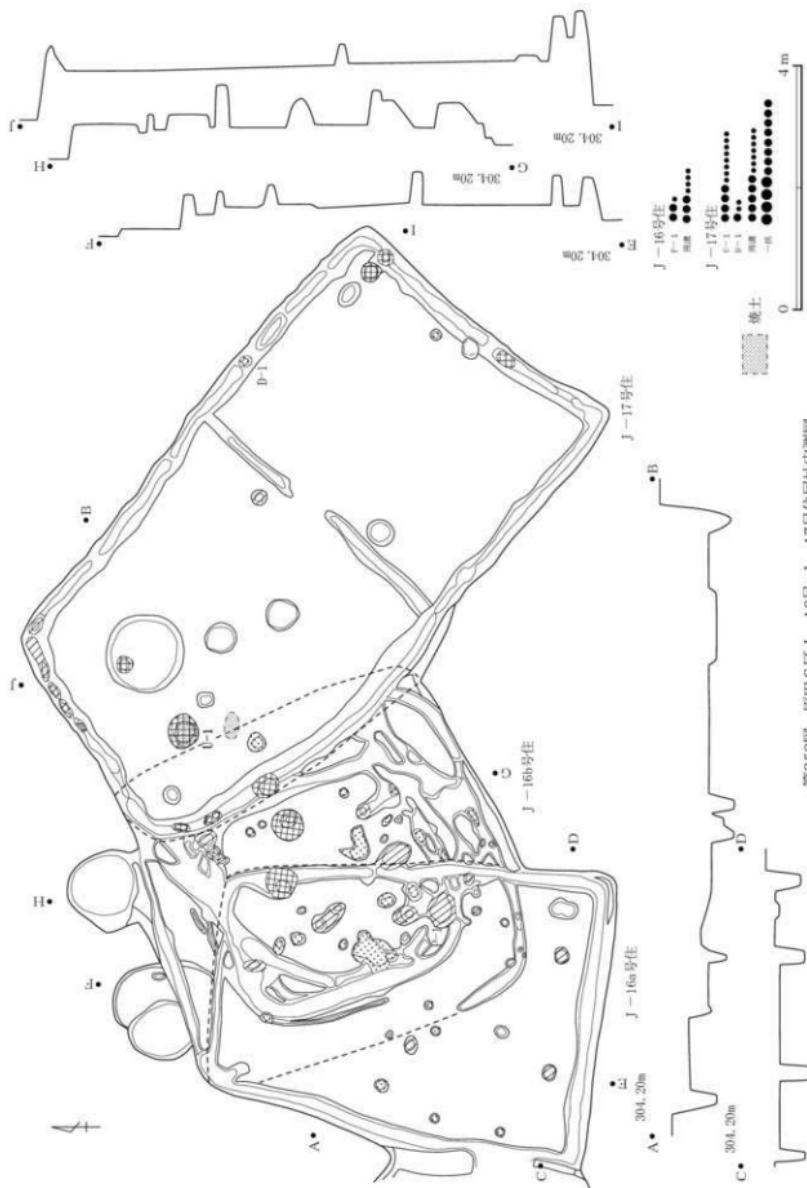




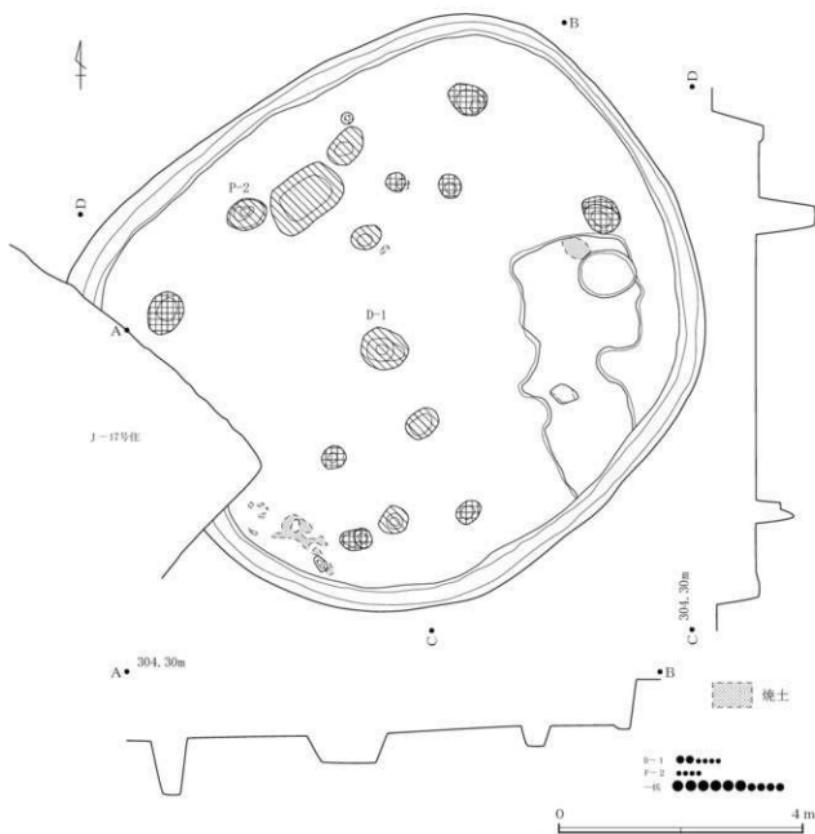
第350図 原田C区J-14号住居址実測図



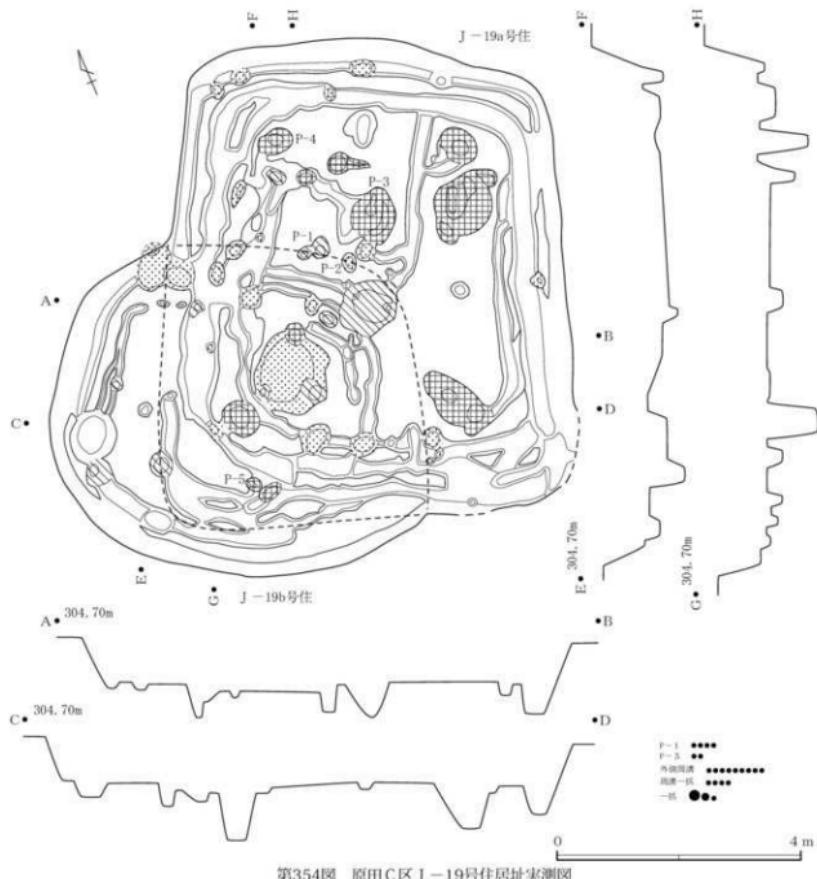
第351図 原田C区J-15号住居址実測図



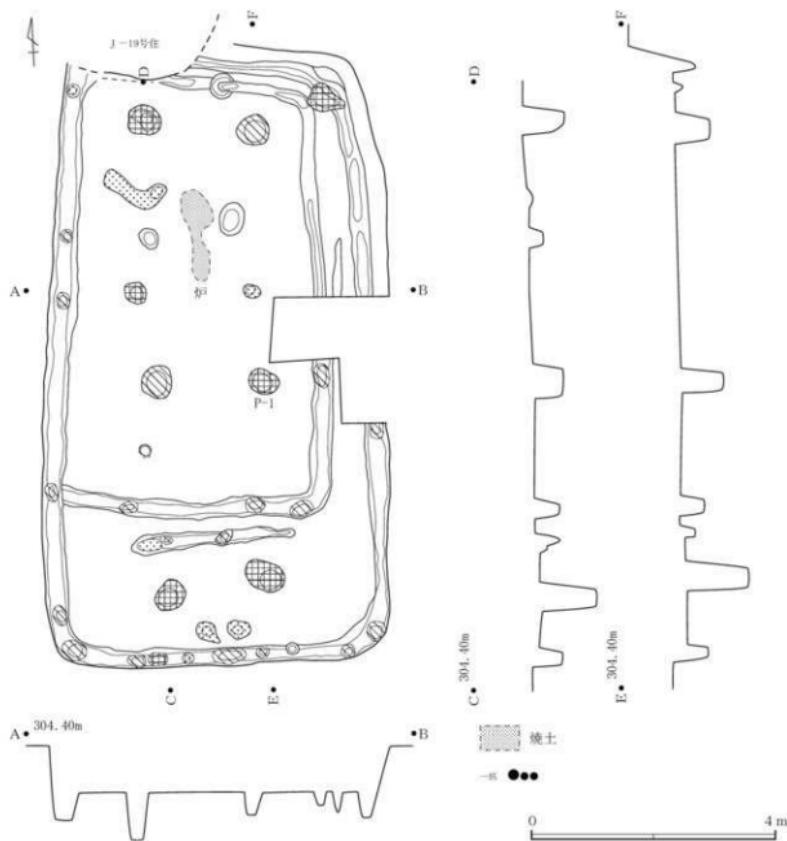
第352図 原田C区J-16号・J-17号住址実測図



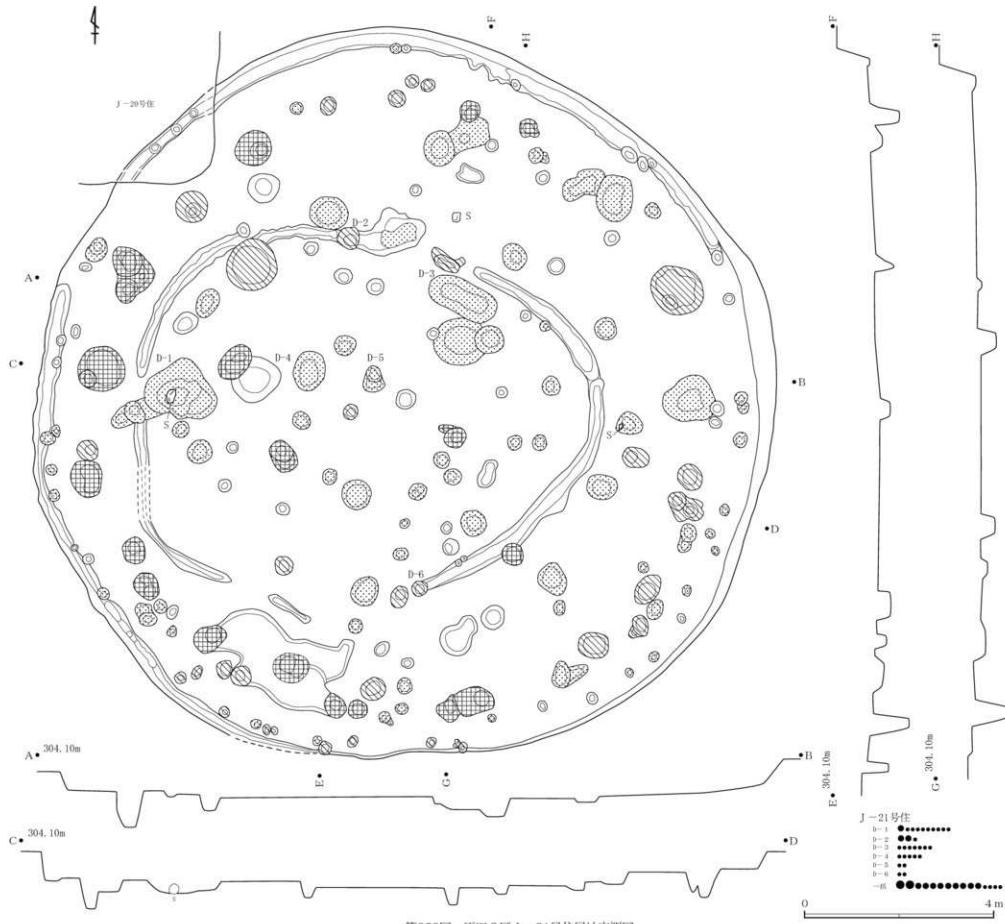
第353図 原田C区J-18号住居址実測図



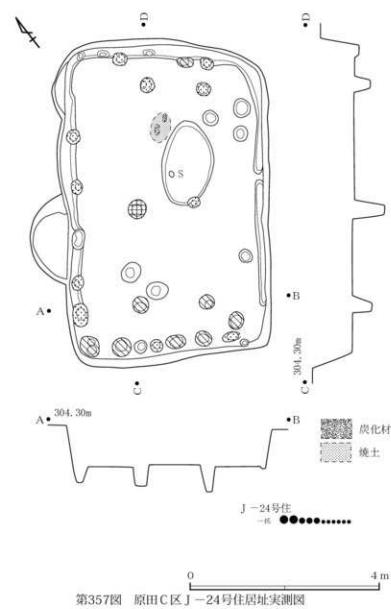
第354図 原田C区J-19号住居址実測図

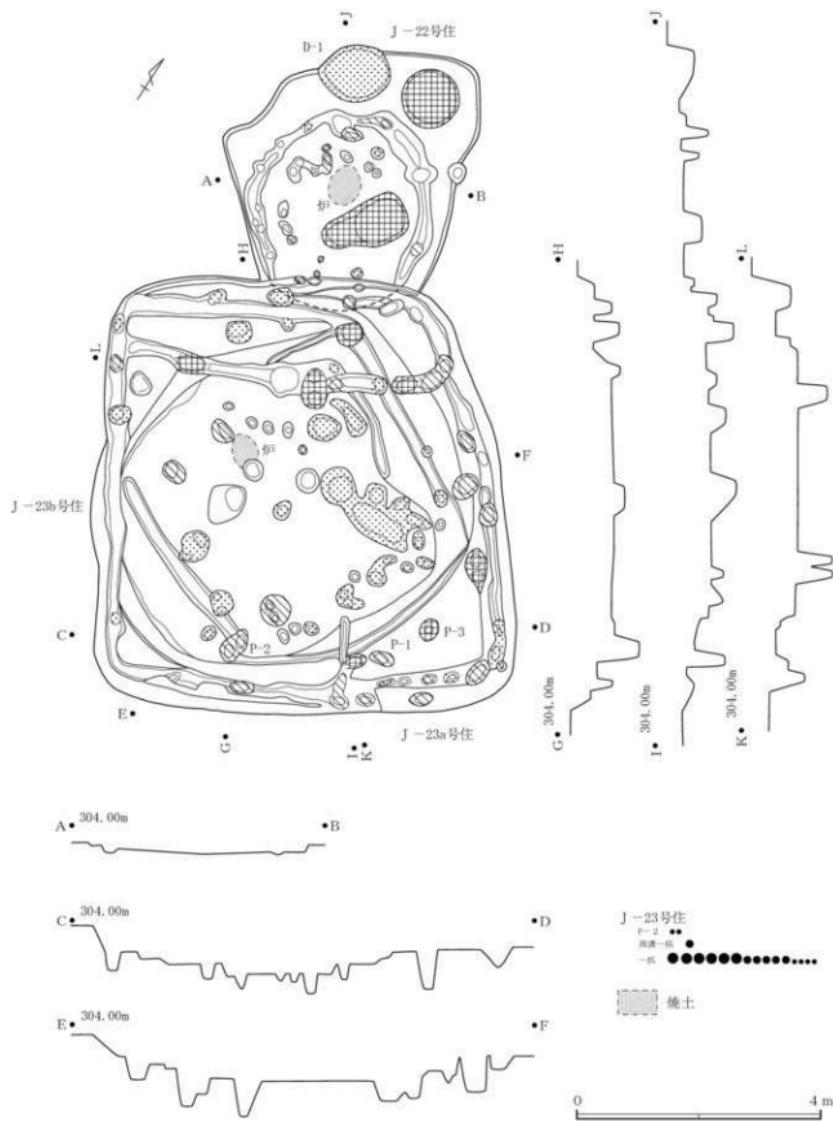


第355図 原田C区J-20号住居址実測図



第356図 原田C区J-21号住居址実測図





第358図 原田C区J-22号・J-23号住居址実測図

C区住居地

住居名	位置	平面形態	規模(㎡)			主軸方向	施設		遺物類		時期	備考			
			長軸	短軸	深さ		炉竈		土器	石器					
							位置	構造							
J-1 住	1 V - 53	楕丸方形	(5.9)	5.4	0.9	N-2-W	4本 方形配列	-	-	○ △	諸磯 b	伊周溝は全周する。			
J-2 住	2 H - 47	楕丸方形	4.6	4.1	0.2	N-92-W	4本 方形配列	中央西	地床炉	○ *	有尾・黒浜	伊周溝は全周する。			
J-3 a 住	2 D - 40	楕丸方形	5.3	3.7	0.6	N-11-E	-	中央北	地床炉	○	有尾・黒浜	伊周溝は全周する。 伊周溝に柱穴とみられるビットがほぼ全周する。			
J-3 b 住	2 C - 40	楕丸方形?	<2.2>	<1.5>	0.8	N-48-W	-	-	-	△	諸磯 b	伊周溝は全周する。 伊周溝に柱穴とみられるビットがほぼ全周する。			
J-3 c 住	2 C - 41	円形	(5.8)	(5.7)	0.6	N-7-E	6本?	中央	石週炉?	○	加賀利 E	伊周溝は全周するものと思われる。 柱穴と柱にみられるビットがほぼ全周する。			
J-3 d 住	2 D - 41	楕丸方形	(4.9)	(4.5)	0.6	N-23-E	4本 方形配列	-	-	○	諸磯 b	柱穴と柱にみられるビットが一部、 遮蔽して残けていることから、 柱頭あるいは壁柱に持替えが行わ れた可能性がある。			
J-4 住	2 C - 42	楕円形	7.6	6.3	0.6	-	4本? 方形配列	5.9西	地床炉	○ ○	諸磯 b	伊周溝は全周するものと思 われる。柱穴と柱に配列される。			
J-5 a 住	2 E - 44	楕丸方形	6.6	6.5	1.3	N-15-W	4本 方形配列	4.9西	地床炉	○ ○	諸磯 b	伊周溝は全周するものと思 われる。5.9西を柱頭込んで つくられる。			
J-5 b 住	2 E - 44	楕円形	8.9	8.9	0.7	-	9本? 円形配列	南西	地床炉	○ △	諸磯 b	伊周溝は全周する。 柱穴は他住居と比べて太形。			
J-6 住	2 B - 43	楕丸長方形	12.4	6.9	0.9	N-68-W	8本? 方形配列	-	-	○ ○	有尾・黒浜	伊周溝は全周する。 8.9はそれぞれの柱番号を付 しているが、最小である8住 からの距離住居もと考える。 また、住居内に柱間に半周 には見えないセイショウが 確認でき、さらには1種の灰塗 または墨塗が予想される。			
J-7 住	2 B - 44	楕丸長方形	10.1	5.9	0.8	N-68-W	8本? 方形配列	-	-	○ ○	有尾・黒浜	伊周溝は全周する。			
J-8 住	2 B - 45	楕丸長方形	7.4	4.9	0.8	N-68-W	6本? 方形配列	-	-	○ ○	有尾・黒浜	伊周溝は全周する。			
J-9 住	2 C - 46	楕丸長方形	(4.4)	3.8	0.2	N-65-W	-	-	-	△ *	有尾・黒浜	伊周溝は確認できなかつたが、 伊周溝にビットが巡る。			
J-10 住	2 S - 43	円形	6.7	6.7	0.5	-	6本 円形配列	北西	地床炉	○ ○	諸磯 b ~ c	南面に伊周溝が残る。			
J-11 住	2 P - 54	円形	6.4	6.4	0.2	-	6本 円形配列	中央西	石週炉	○ ○	加賀利 E	伊周溝は全周する。			
J-12 住	1 J - 48	不整形	5.9	4.0	0.1	-	-	-	-	○ *	加賀利 E	振り込みの奥く、形状も判別 しないため住居でない可 能性がある。			
J-13 住	1 J - 53	楕丸方形?	<4.5>	5.7	0.4	N-30-E	4本以上 方形配列	-	-	○ △	有尾・黒浜	伊周溝は全周する。			
J-14 住	3 B - 78	楕円形	3.7	3.6	0.1	N-24-W	-	中央北	石週炉	○ *	加賀利 E	伊周溝は全周する。 他の住居は隣接、單独で建造 されたことは最も小さい。伊周 溝は柱穴で確認できなかつた。			
J-15 住	2 D - 45	楕丸長方形	8.0	6.6	0.6	N-6-E (N-87-40)	6本 方形配列	中央+ 東	地床炉	○ *	有尾・黒浜	伊周溝は全周する。 伊周溝の外央付近は楕圓溝 に走り、6本柱穴の柱頭ラン クが見える。時期は正確ではない が、土輪を踏えた強打または 重複住居の可能性がある。			
J-16 a 住	2 E - 47	楕丸長方形	(6.4)	(4.8)	0.3	N-6-E	6本 方形配列	-	-	△	有尾・黒浜	伊周溝は全周する。			
J-16 b 住	2 D - 48	楕丸方形	6.1	(5.8)	0.4	N-18-W	-	-	-	△	諸磯 b	伊周溝は全周する。 柱穴は確認し、柱間に長軸 中央付近に柱頭ランクが ある。柱頭の正反対は柱 頭が確認できるが、両側では はっきりしない。			
J-17 住	2 D - 49	楕丸長方形	9.9	5.6	0.8	N-55-W	6本? 方形配列	-	-	○ *	有尾・黒浜	伊周溝は全周する。 柱穴は確認し、柱間に長軸 中央付近に柱頭ランクが ある。			
J-18 住	2 D - 51	楕円形	10.2	10.0	0.7	-	8本? 円形配列	中央北+ 東	地床炉	○ *	諸磯 b	伊周溝は全周する。			
J-19 a 住	1 Y - 53	楕丸方形	(7.8)	(6.8)	0.6	N-30-E	4本 方形配列	-	-	△	有尾・黒浜	伊周溝は複数あることから延 長または複重住居の可能性が ある。			
J-19 b 住	2 A - 52	楕円形?	(6.1)	(5.4)	0.7	N-34-E	4本 方形配列	-	-	△	諸磯 b	伊周溝が複数あることから延 長または複重住居の可能性が ある。			
J-20 a 住	2 B - 53	楕丸長方形	7.6	4.6	0.8	N-2-W	6本 方形配列	-	-	△ (※)	有尾・黒浜	伊周溝は全周する。			

第85表 二軒在家原田遺跡C区縄文時代住居址 遺構觀察表（1）

住居名	位置	平面形態	規模 (m)			主軸方向	施設		遺物類		時期	備考
			長軸	短軸	深さ		主柱穴	炉址	土器	石器		
			位置	構造								
J-20 b住	2 C-53	圓丸長方形	10.2	5.7	0.8	N-2-W	6本 方形配列	中央	地床炉	△ (4)	有尾・黒浜	a付の範囲を考えられる。住居内は南端、壁面溝の脇に1対のピットがみられる。出入り施設か。
J-21住	2 E-55	円形	15.6	15.6	0.8	-	17本以上 円形配列	-	-	○	*	諸職b
J-22住	1 N-61	椭円形?	(3.3)	3.0	0.2	-	-	中央	地床炉			諸職?
J-23 a住	1 O-61	圓丸方形	7.1	6.9	0.4	N-31-W	6本? 方形配列	-	-	○	有尾・黒浜	壁面溝を含むが、正確な柱穴位置でなかった。住居内ではない可能性がある。
J-23 b住	1 O-61	圓丸方形	5.4	4.7	0.5	N-67-W	4本 方形配列	中央北	地床炉	○		諸職b
J-24住	1 Q-60	圓丸長方形	6.9	4.5	0.8	N-37-E	6本 方形配列	中央北	地床炉	○	*	有尾・黒浜 壁面溝は全廻する。

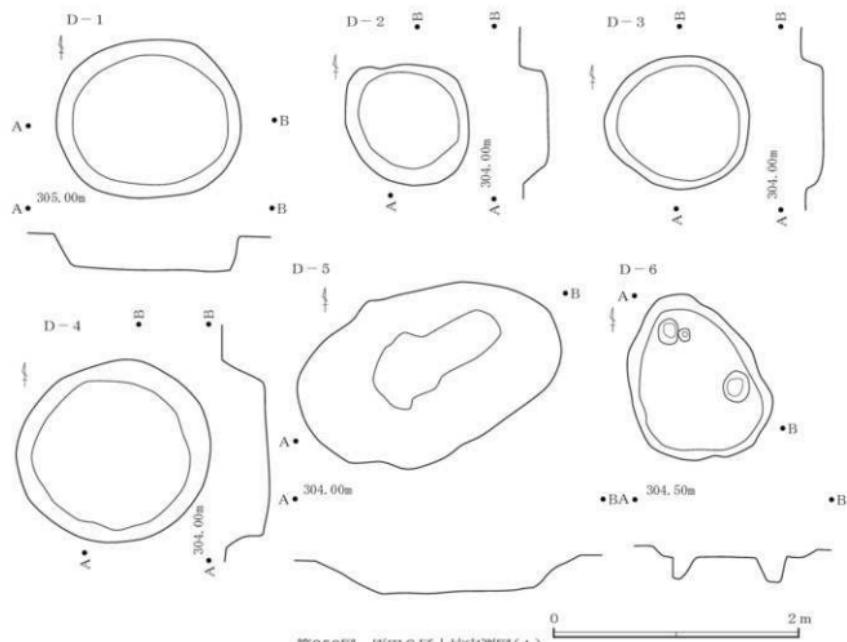
凡例

主軸 住居址の理（壁面溝）または主柱穴と思われるピット。石床炉などの長軸方向を基準とした。「*」記号は省略。

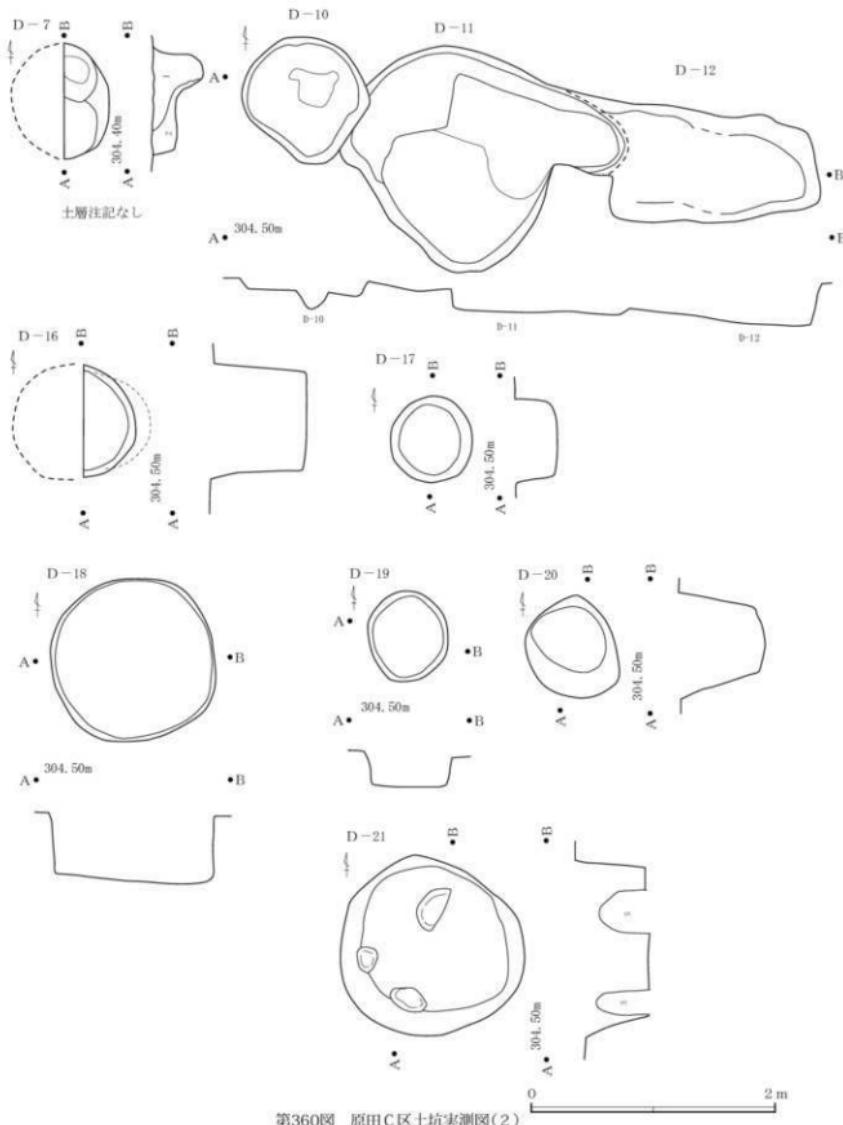
遺物 土器 * : I ~ 100g, △ : 101 ~ 1000g, ○ : 1001 ~ 10000g, ▲ : 10001g 以上

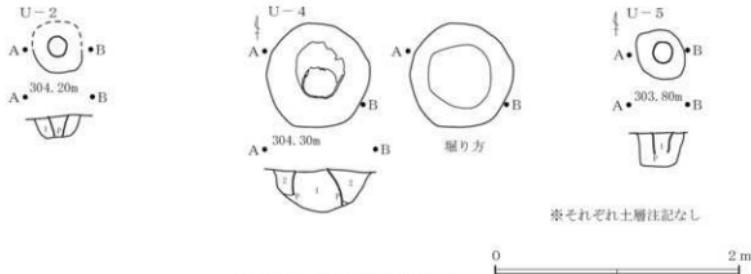
石器・石製品 * : 1 ~ 10点, △ : 11 ~ 20点, ○ : 21 ~ 30点, ▲ : 31点以上 ○ 内は枝番住居においてどちらの帰属が不明なものを示す

第86表 二軒在家原田遺跡C区縄文時代住居址 遺構観察表(2)



第359図 原田C区土坑実測図(1)





第361図 原田C区埋設土器実測図

C区土坑

土坑名	位置	平面形		規模(m)		時期
		断面形	長軸	短軸	深さ	
D-1 土坑	1W-57	楕円形 浅い逆台形	1.5	1.3	0.3	諸縄b
D-2 土坑	2F-47	楕円形 浅い逆台形	1.0	1.0	0.2	有尾・黒乳
D-3 土坑	2F-47	楕円形 浅い逆台形	1.2	1.1	0.2	諸縄b?
D-4 土坑	2E-48	楕円形 浅い逆台形	1.6	1.6	0.4	諸縄b?
D-5 土坑	2J-47	不整形 浅い逆台形	2.2	1.4	0.3	有尾・黒乳
D-6 土坑	2B-48	楕円形 浅い逆台形	1.4	1.1	0.1	諸縄b?
D-7 土坑	2A-50	楕円形 浅い逆台形	0.9	(0.8)	0.2	不明
D-10 土坑	2A-42	楕円形 浅い逆台形	1.0	1.0	0.1	加賀利
D-11 土坑	2A-42	不整形 浅い逆台形	2.3	1.8	0.2	加賀利E

土坑名	位置	平面形		規模(m)		時期
		断面形	長軸	短軸	深さ	
D-12 土坑	2A-43	不整形 浅い逆台形	1.7	1.0	0.3	加賀利E
D-13 土坑	位記不明	-	-	-	-	諸縄c?
D-16 土坑	2B-50	楕円形 逆台形	(1.0)	0.9	0.8	不明
D-17 土坑	1H-51	円形 逆台形	0.7	0.7	0.3	不明
D-18 土坑	1E-48	円形 逆台形	1.3	1.3	0.5	不明
D-19 土坑	1F-48	楕円形 逆台形	0.7	0.6	0.3	不明
D-20 土坑	1E-48	楕円形 逆台形	0.8	0.7	0.7	不明
D-21 土坑	1E-47	楕円形 逆台形	1.5	1.5	0.6	不明

第87表 二軒在家原田遺跡C区縄文時代土坑 遺構観察表(1)

C区埋設土器

遺構名	位置	平面形		規模(m)		時期
		断面形	長軸	短軸	深さ	
U-2埋設土器	位置不明	円形? 逆台形	(0.4)	0.4	0.2	諸縄b
U-4埋設土器	2I-54	円形 楕円形	0.8	0.8	0.4	中期後葉 (辺縁)
U-5埋設土器	2E-49	楕円形 逆台形	0.4	0.3	0.3	前期中葉

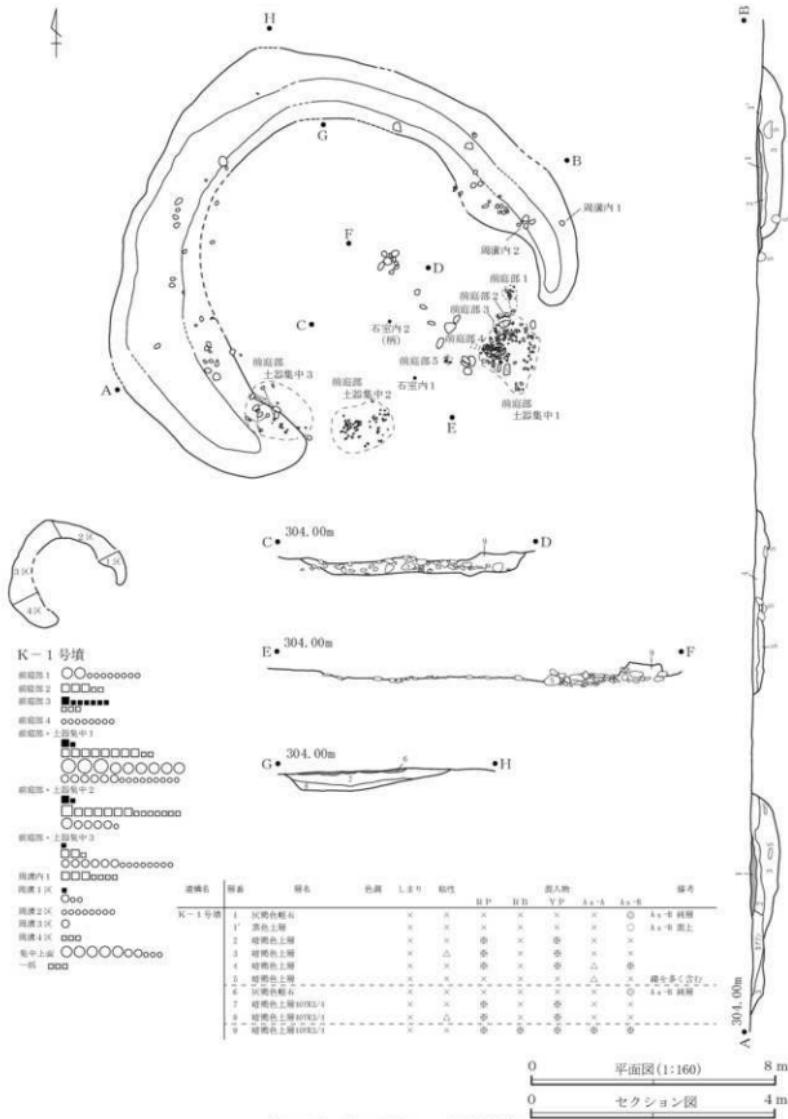
※U-1号埋設土器は位置・規模不明。U-3号埋設土器は欠番

第88表 二軒在家原田遺跡C区縄文時代埋設土器 遺構観察表(1)

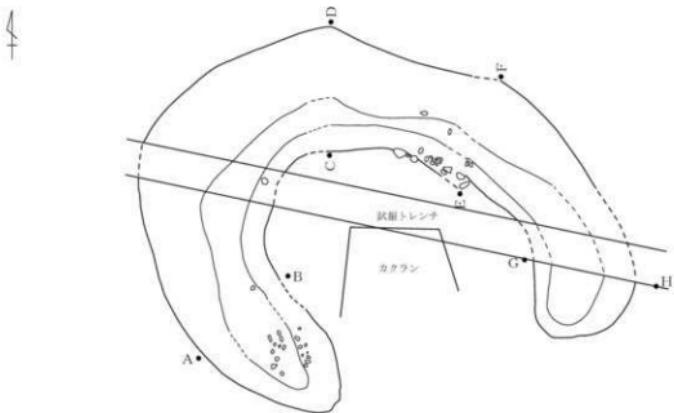
C区古墳

遺構名	位置	埴形	規模(m)			時期	遺物	備考	
			直径	埴丘径	周縁幅			土器	その他
K-1号墳	2I-61他	円墳	(15.0)	(9.6)	1.5~ 3.6	古墳後期	○	※	相当石室から方頭太刀の柄頭片、石室前面から追跡または追跡供養に伴うと思われる各種須恵器出土。
K-2号墳	3C-59他	円墳	(14.0)	(8.0)	3.2~ 3.9	古墳後期			
K-3号墳	3C-80他	円墳	(13.0)	(8.5)	3.5~ 4.0	古墳後期		※	相当石室から刀子片出土。

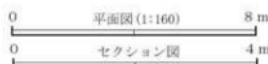
第89表 二軒在家原田遺跡C区古墳 遺構観察表(1)



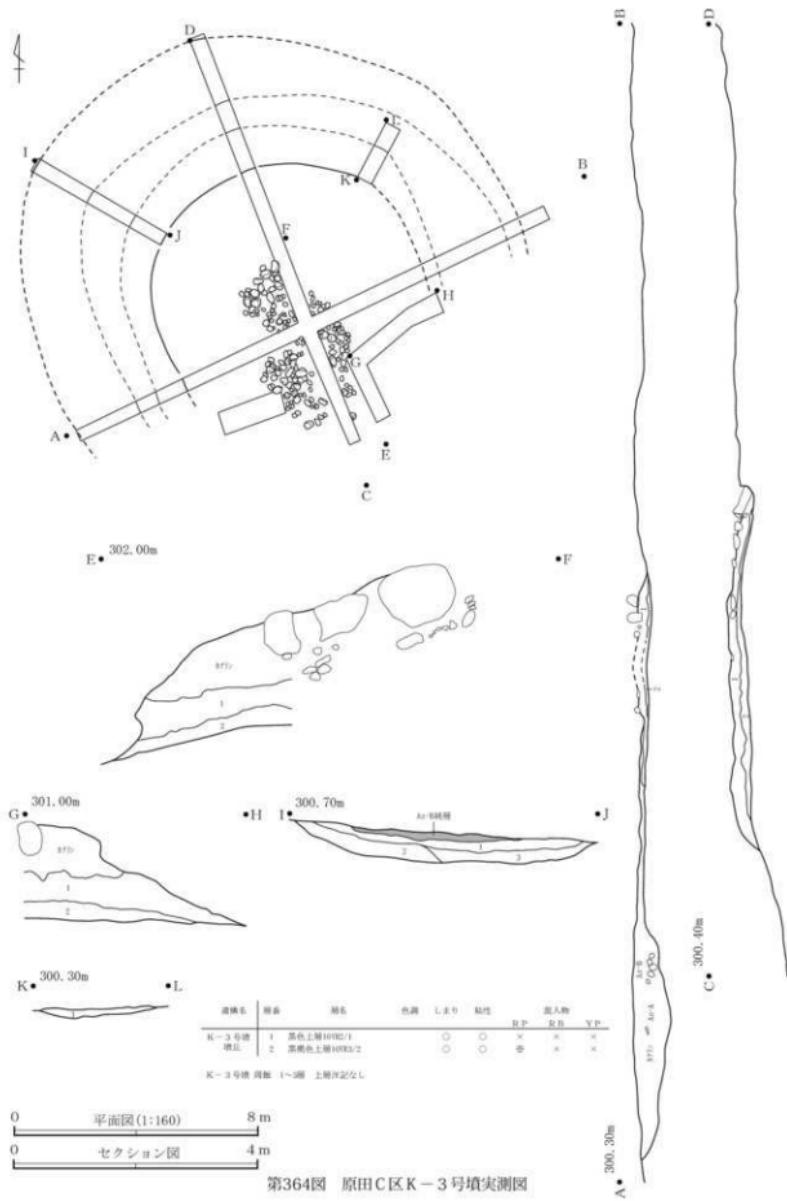
第362図 原田C区K-1号墳実測図



層位名	層番	層名	色調	しまり	粘性	高さ					参考
						R.P.	R.B.	V.P.	A3-A	A3-B	
K-2号坑											
1	灰褐色粘土	x	x	x	x	x	x	x	x	x	A+B 斜傾
2	暗褐色土層	x	x	○	x	○	x	x	x	x	
3	暗褐色土層	x	x	△	x	○	x	x	x	x	
4	灰褐色粘土	x	x	x	x	x	x	x	x	○	A+B 斜傾
5	深褐色土層	x	○	○	x	○	x	x	x	x	△
6	暗褐色土層	x	○	○	x	○	x	x	x	x	△
7	灰褐色粘土	x	x	x	x	x	x	x	x	○	A+B 斜傾
8	深褐色土層	x	x	x	x	○	x	x	x	x	
9	暗褐色土層	x	△	○	x	○	x	x	x	x	△
10	暗褐色土層	x	○	○	x	○	x	x	x	x	△

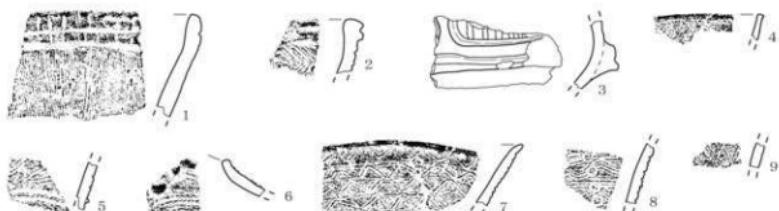


第363図 原田C区K-2号填実測図

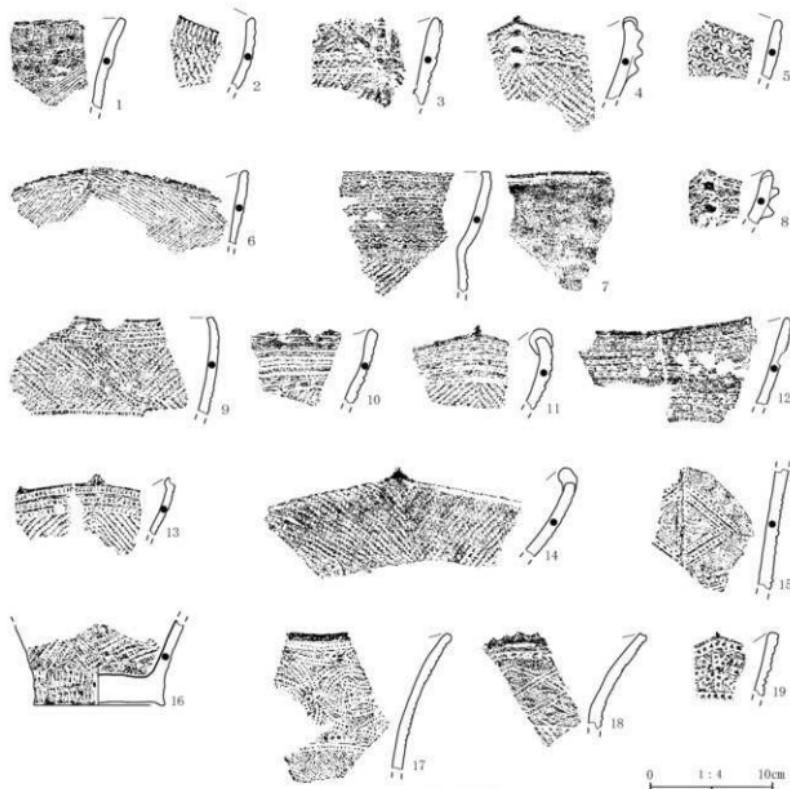


第364図 原田C区K-3号墳実測図

原田遺跡A区縄文時代住居址出土遺物実測図

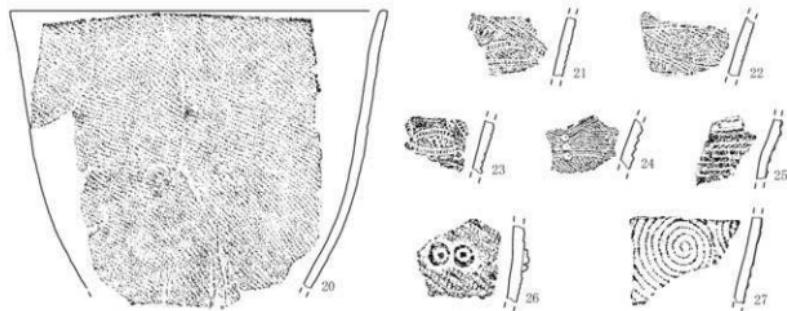


第365図 J-1号住居址

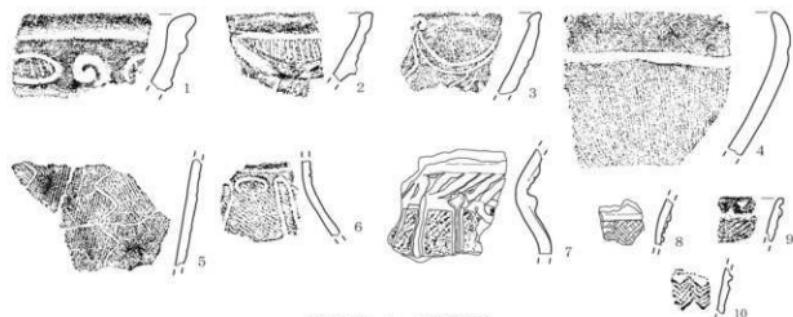


第366図 J-2号住居址(1)

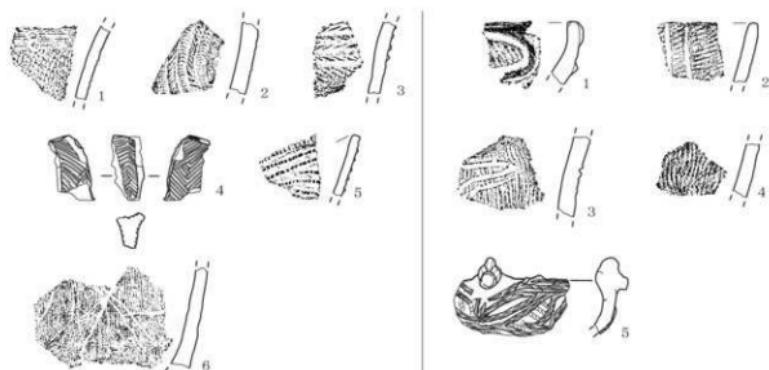
0 1 : 4 10cm



第367図 J-2号住居址(2)



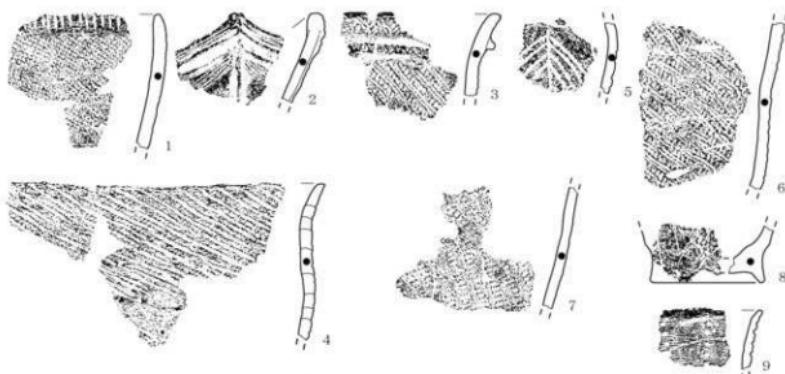
第368図 J-3号住居址



第369図 J-4号住居址

第370図 J-5号住居址

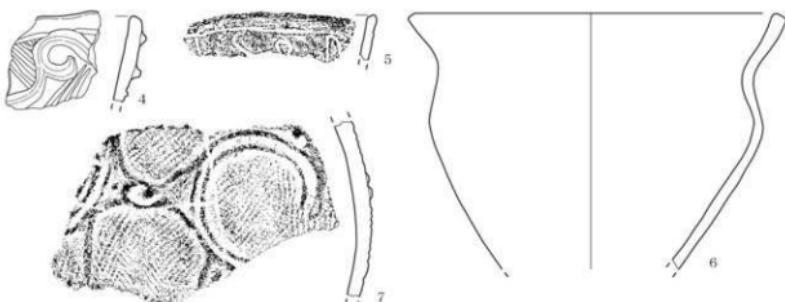
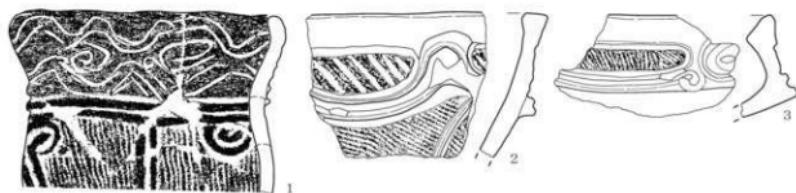
0 1:4 10cm



第371図 J-6号住居址

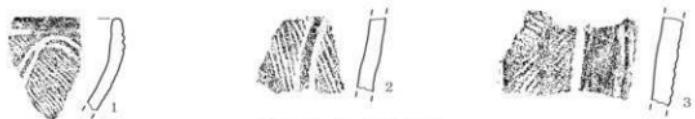


第372図 J-8号住居址

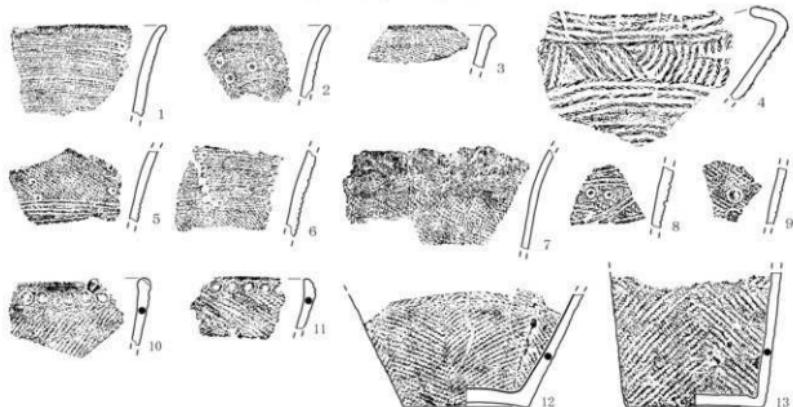


第373図 J-9号住居址

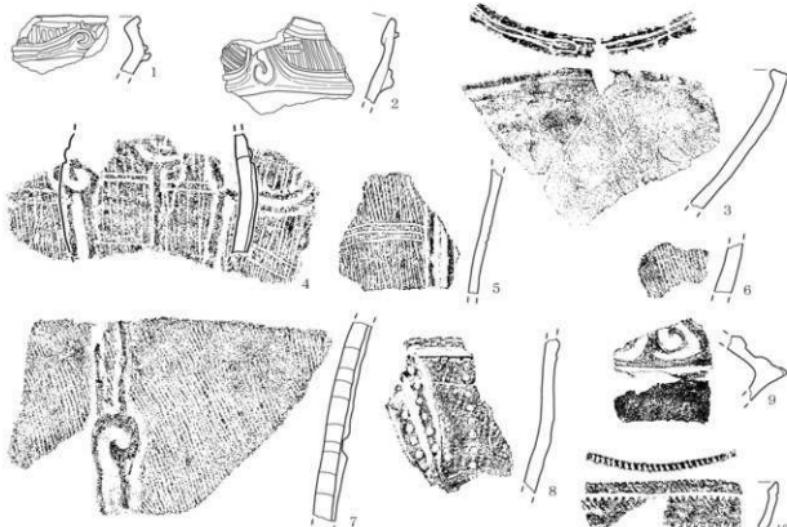
0 1:4 30cm



第374図 J-10号住居址

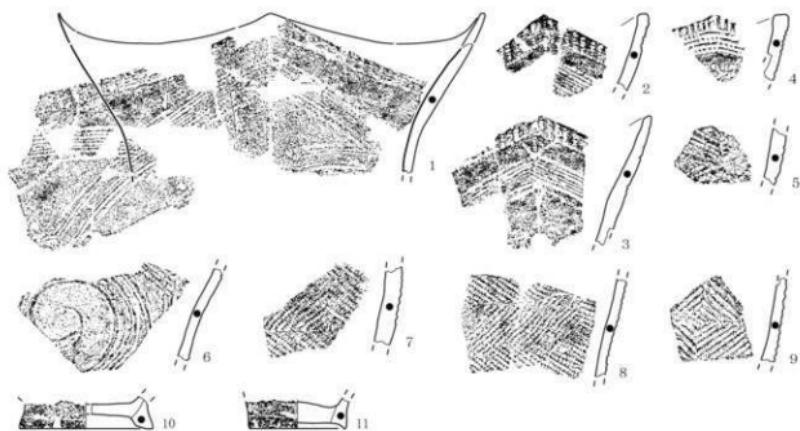


第375図 J-12号住居址

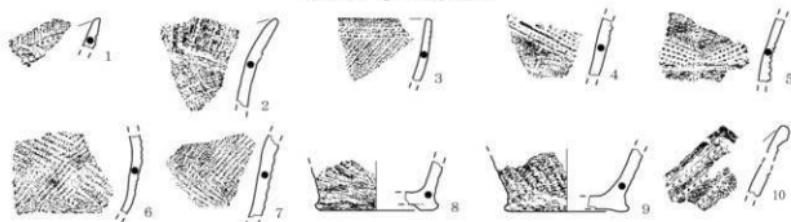


第376図 J-13号住居址

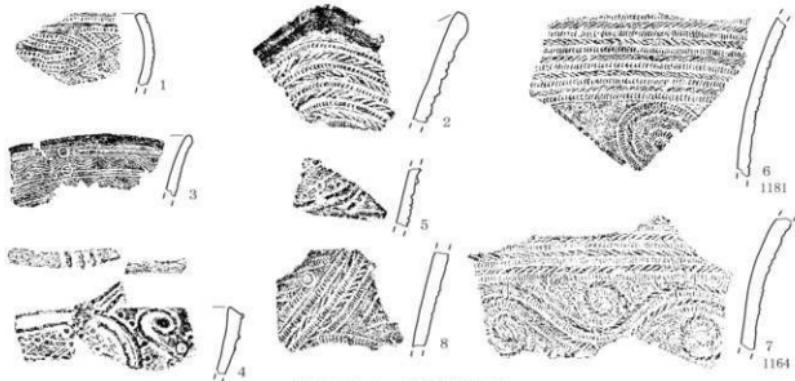
0 1:4 10cm



第377図 J-14号住居址



第378図 J-15号住居址

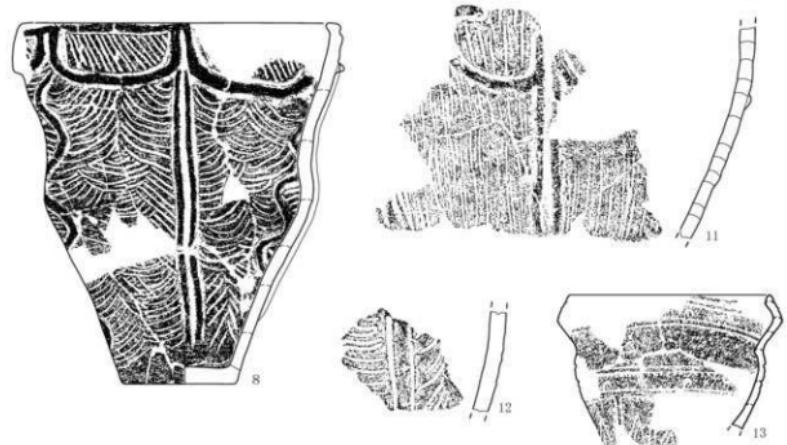
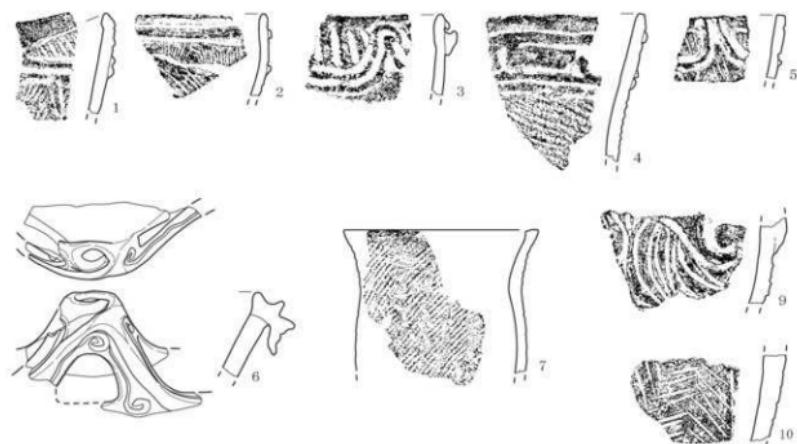


第379図 J-16号住居址(1)

0 1 : 4 10cm

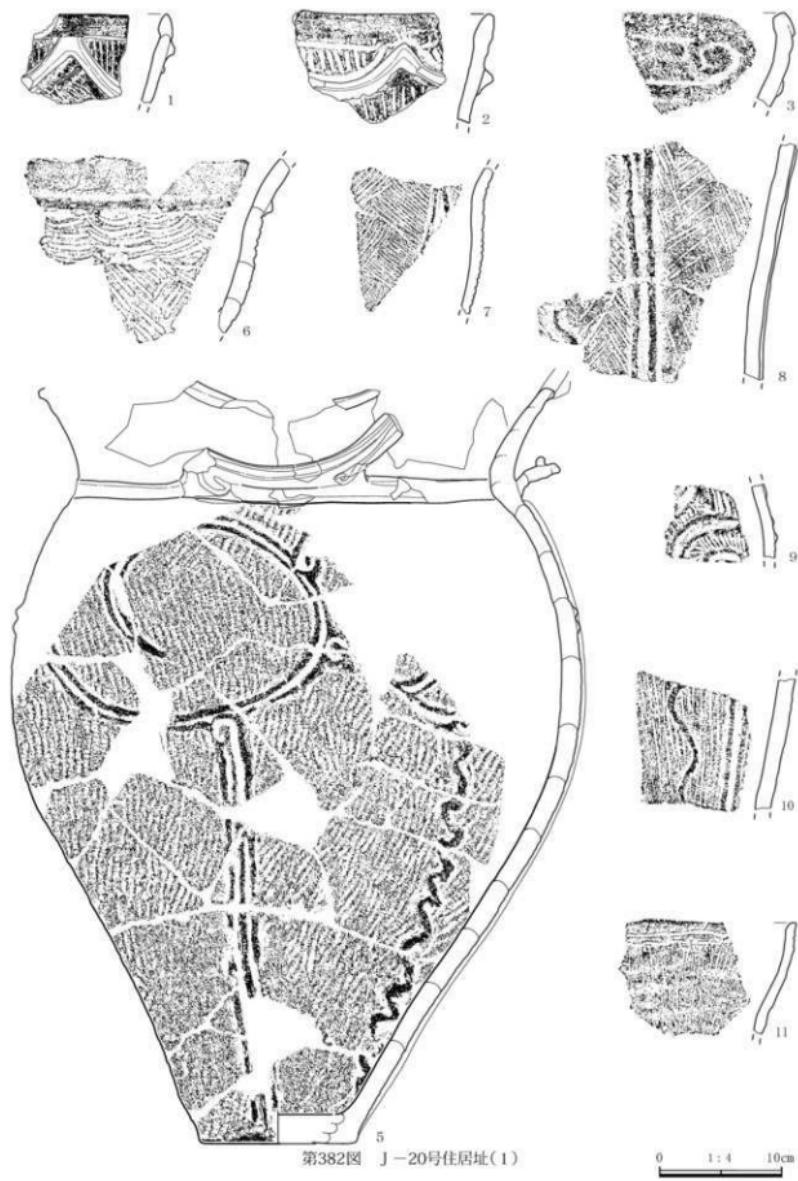


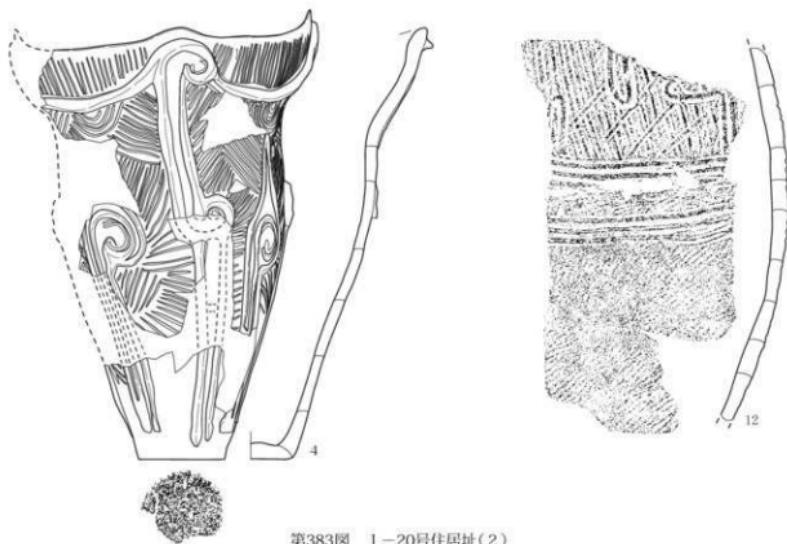
第380図 J-16号住居址(2)



第381図 J-19号住居址

0 1 : 4 10cm



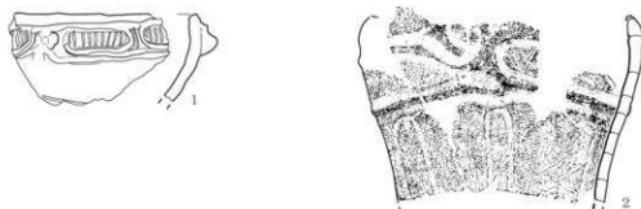


第383図 J-20号住居址(2)

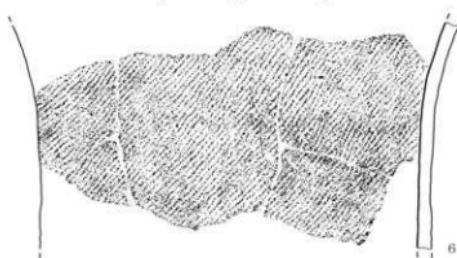
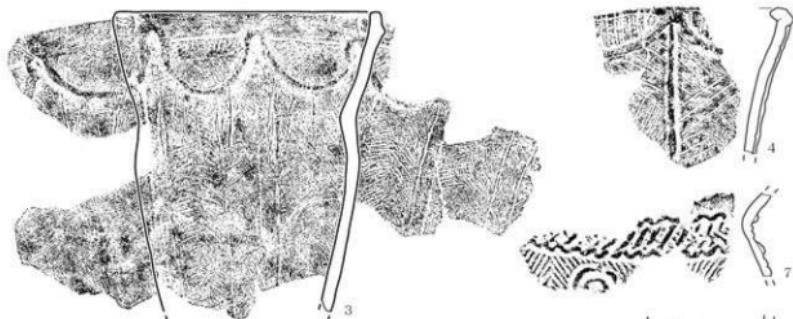
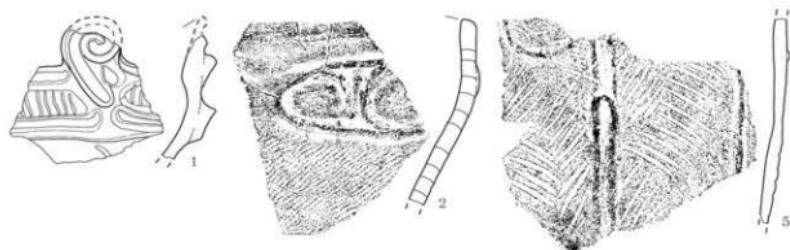


第384図 J-21号住居址

0 1:4 10cm

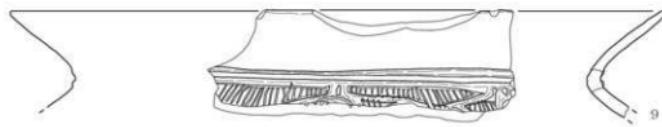


第385図 J-22a号住居址

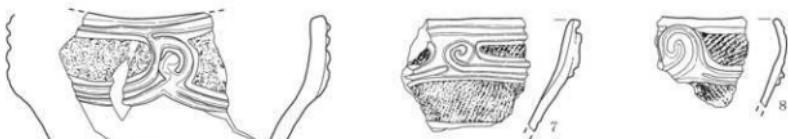
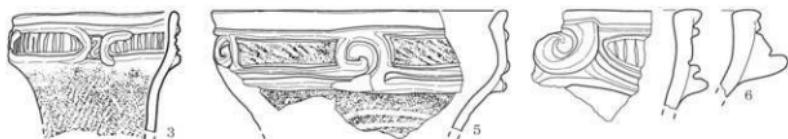
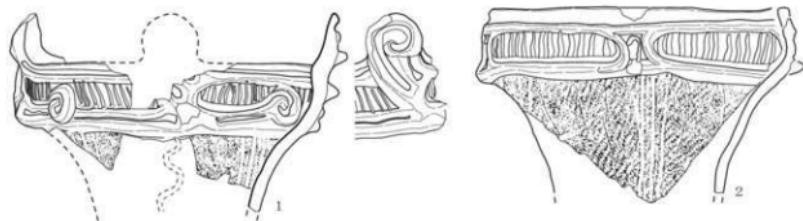


第386図 J-22b号住居址(1)

0 1:4 10cm

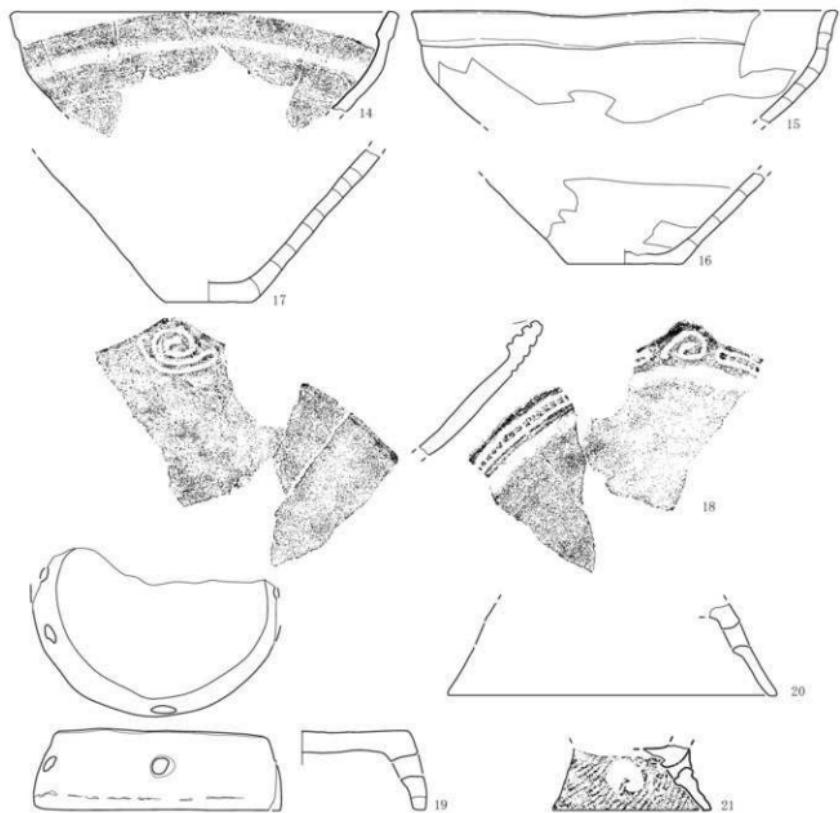


第387図 J-22b号住居址(2)

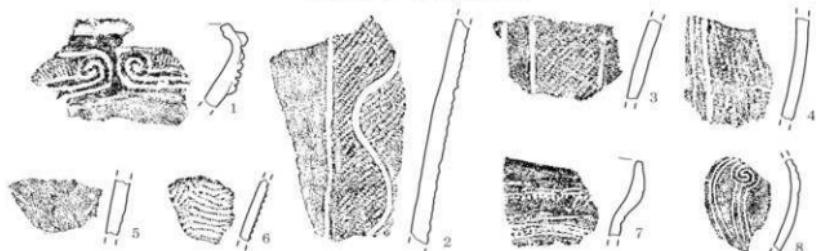


第388図 J-22号住居址(1)

0 1 : 4 10cm

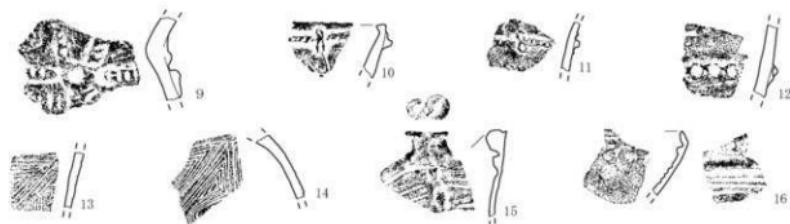


第389図 J-22号住居址(2)

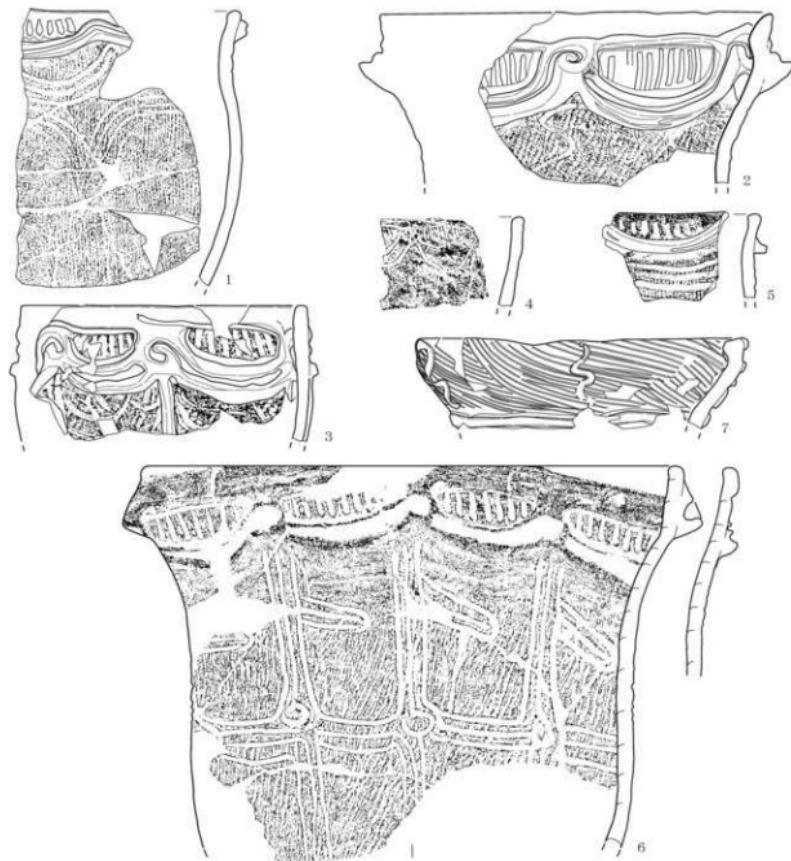


第390図 J-23号住居址(1)

0 1 : 4 10cm

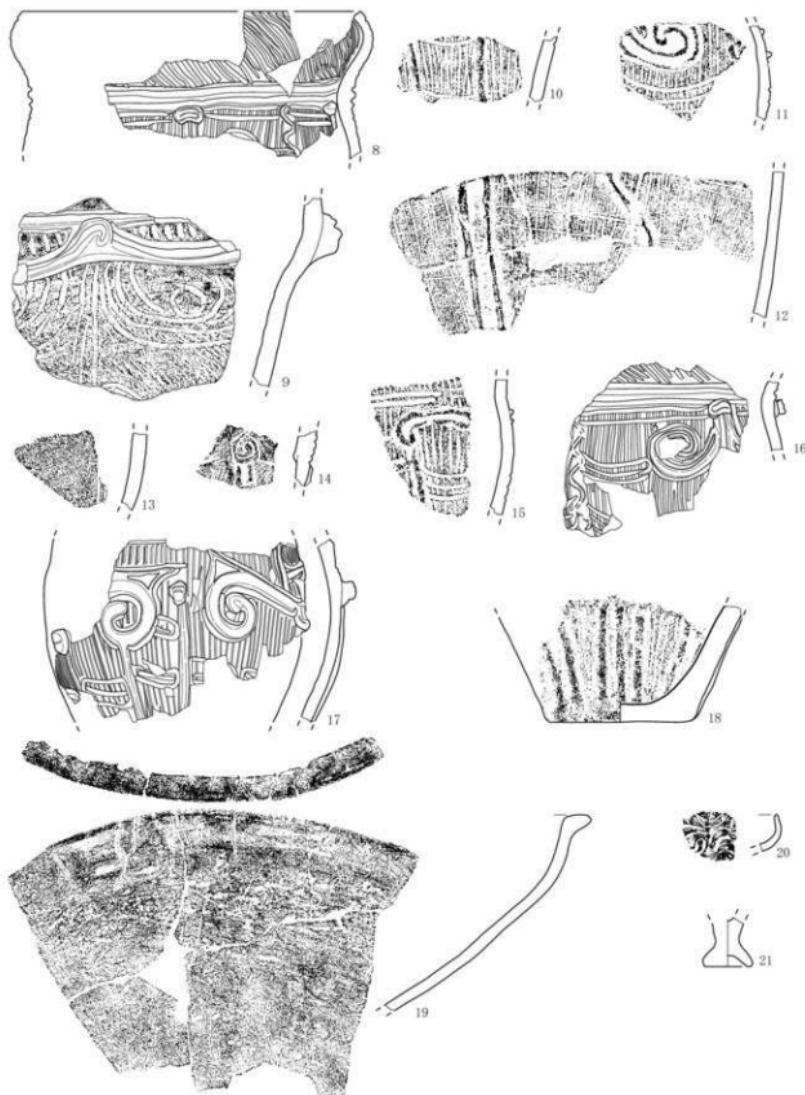


第391図 J-23号住居址(2)



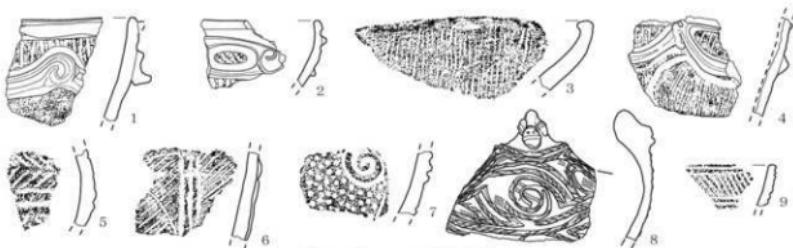
第392図 J-25号住居址(1)

0 1:4 10cm

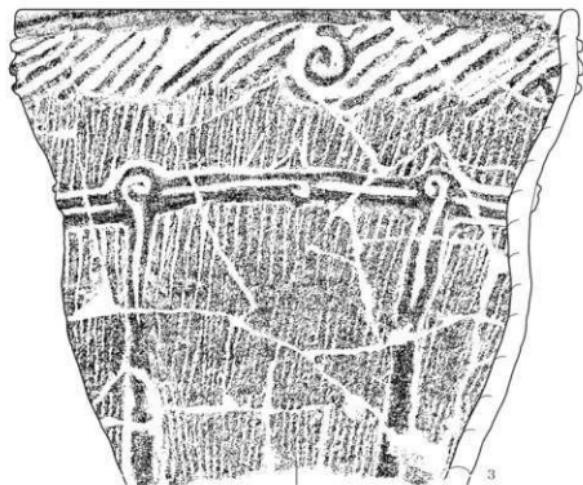
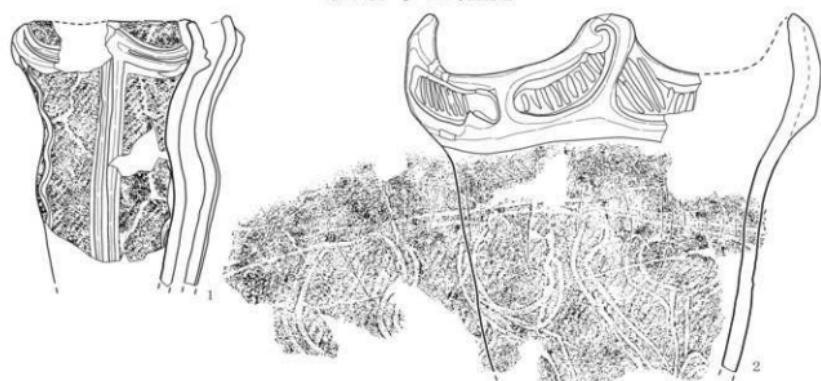


第393図 J-25号住居址(2)

0 1 : 4 10cm

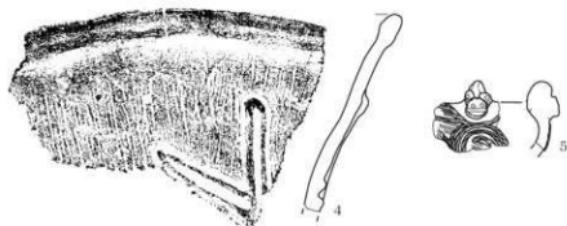


第394図 J-26号住居址

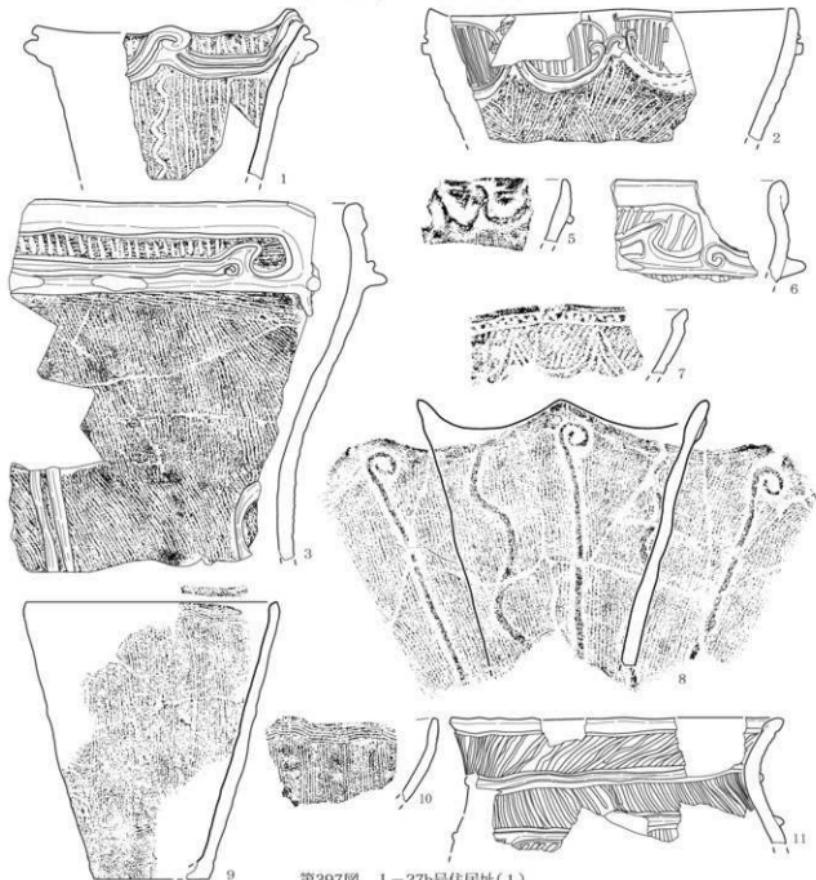


第395図 J-27a号住居址(1)

0 1:4 10cm

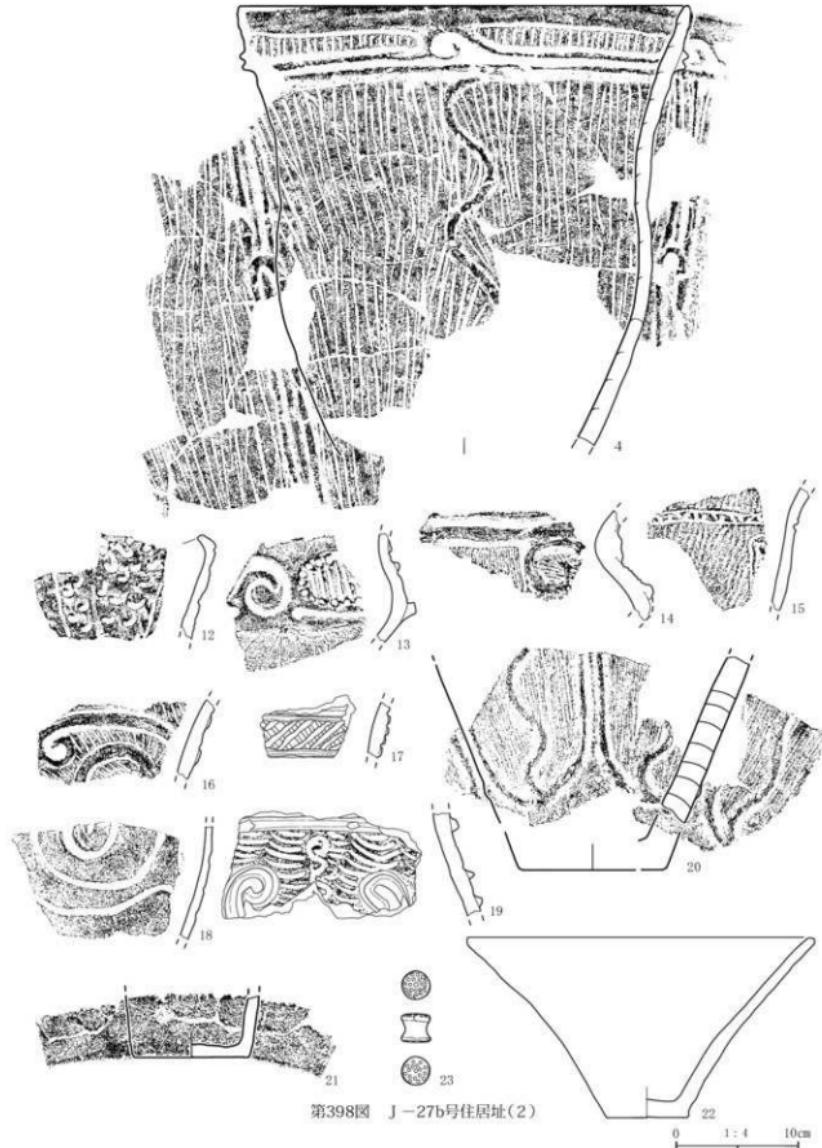


第396図 J-27a号住居址(2)

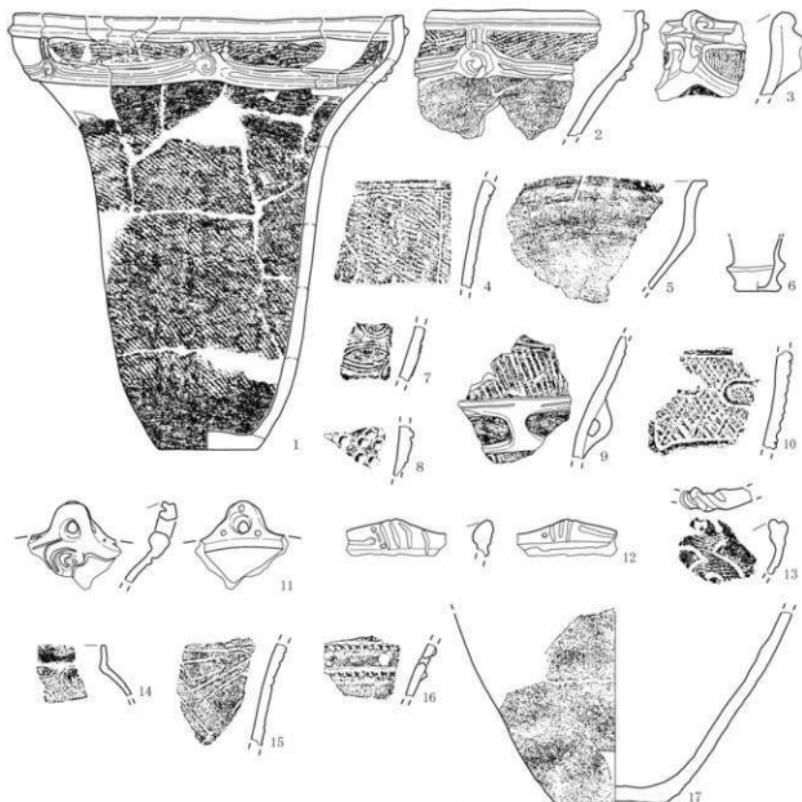


第397図 J-27b号住居址(1)

0 1 : 4 10cm



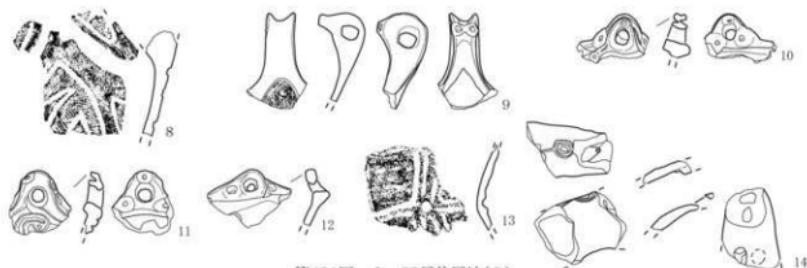
第398図 J-27b号住居址(2)



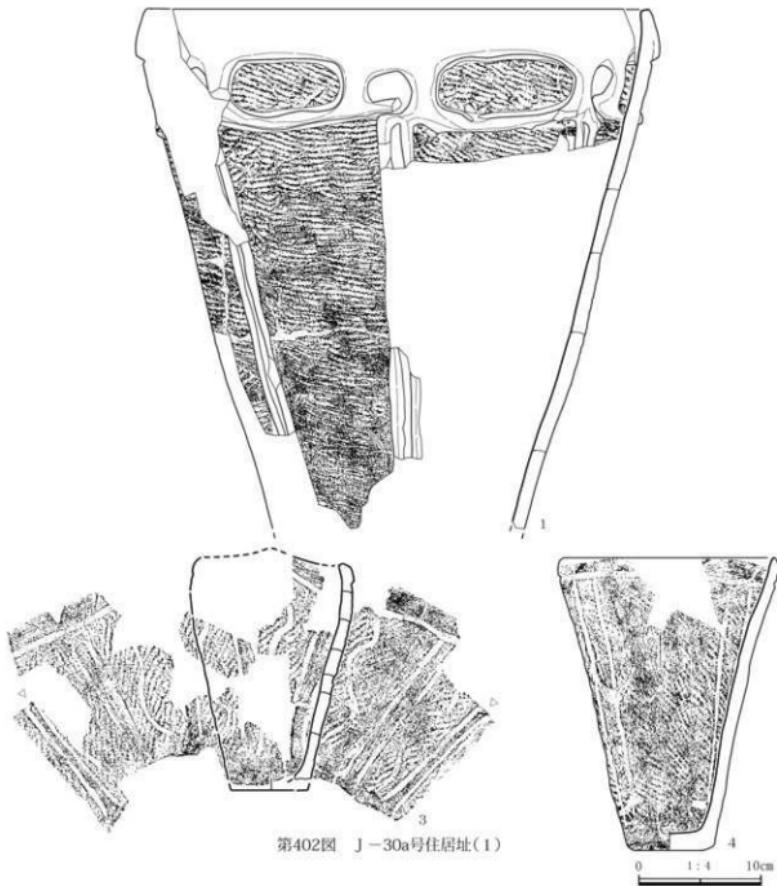
第399図 J-28号住居址



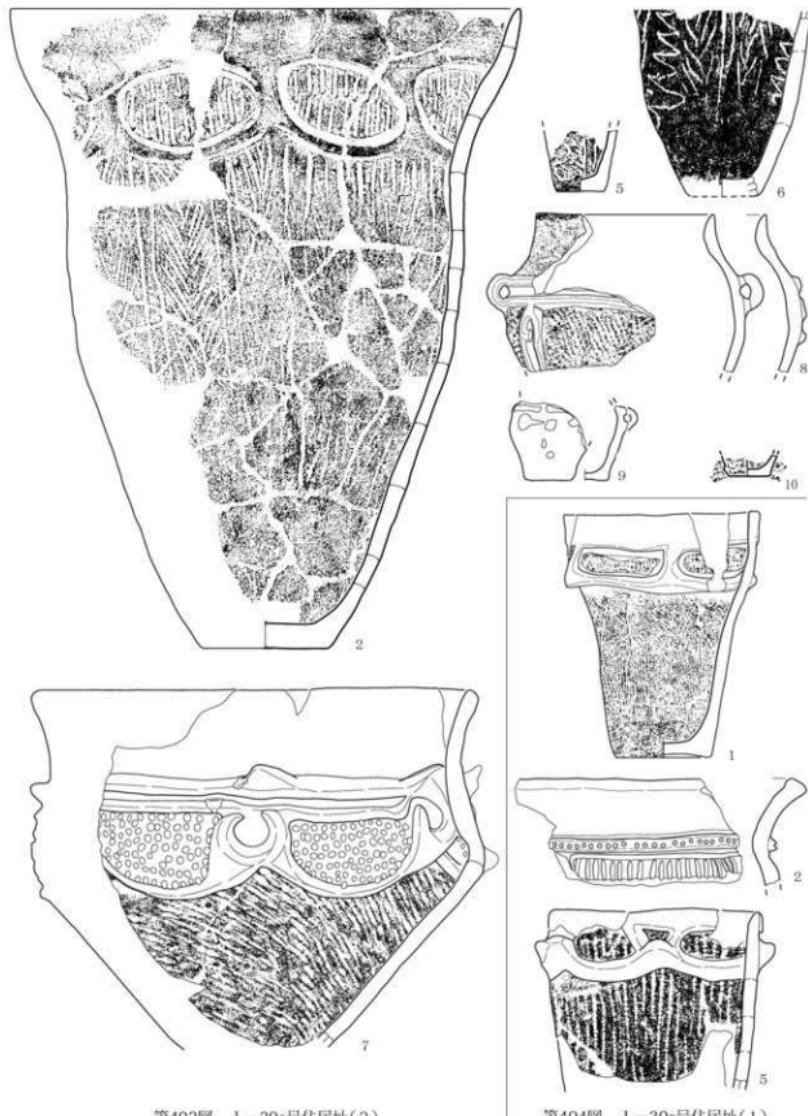
第400図 J-29号住居址(1)



第401図 J-29号住居址(2)



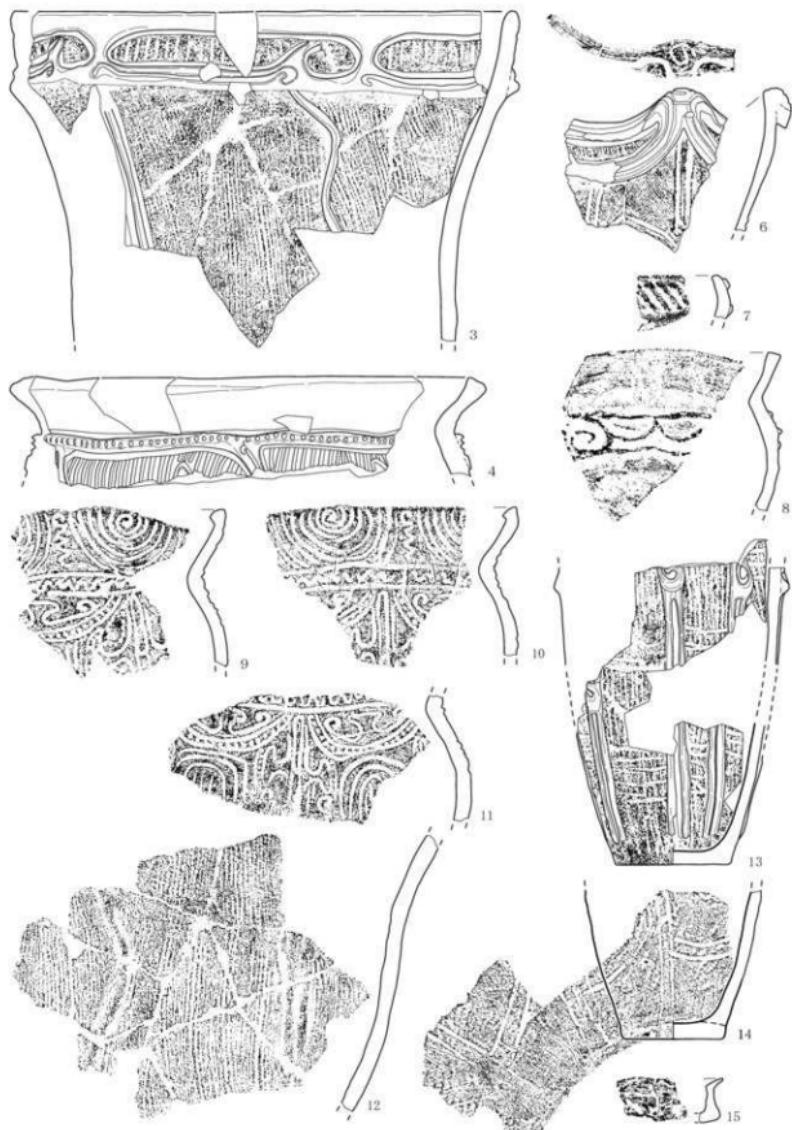
第402図 J-30a号住居址(1)



第403図 J-30a号住居址(2)

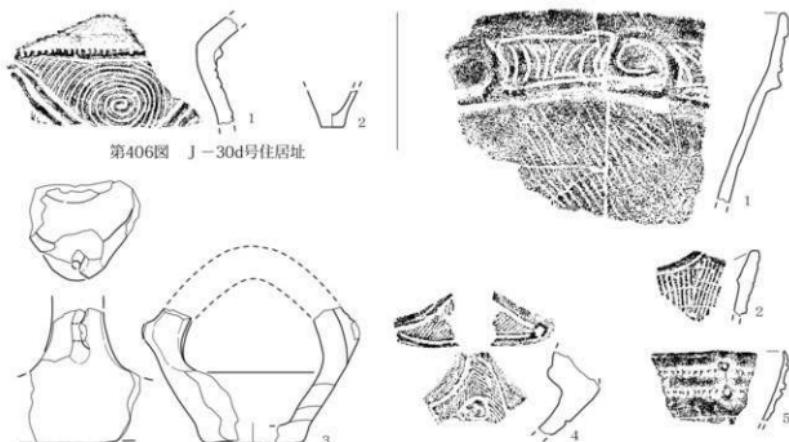
第404図 J-30c号住居址(1)

0 1:4 10cm



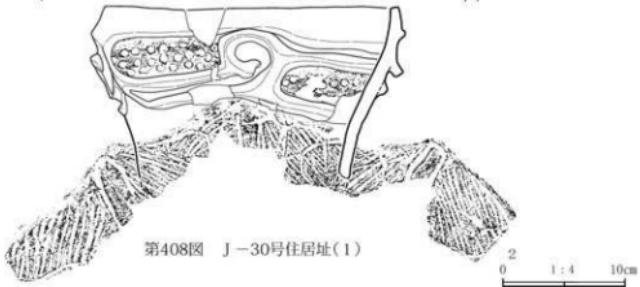
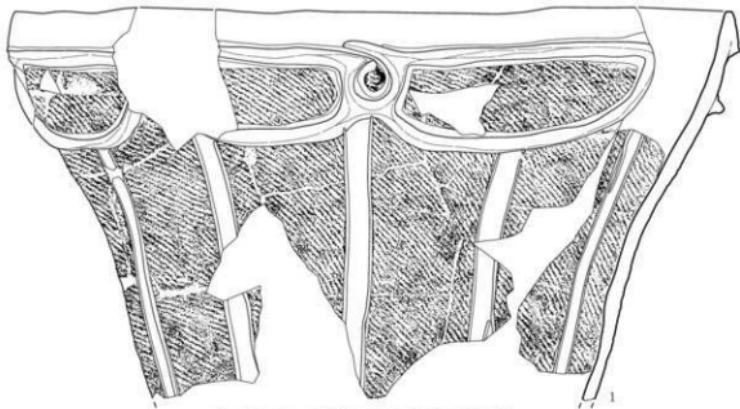
第405図 J-30c号住居址（2）

0 1:4 10cm



第406図 J-30d号住居址

第407図 J-30e号住居址



第408図 J-30号住居址(1)

0 1 : 4 10cm

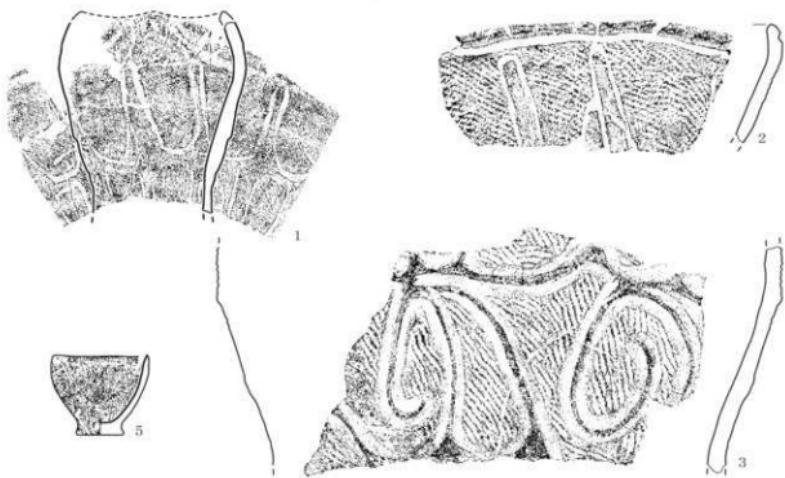


第409図 J-30号住居址(2)

0 1 : 4 10cm

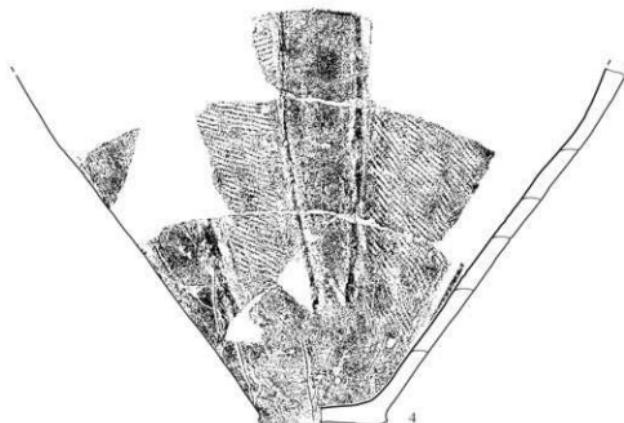


第410図 J-31a号住居址

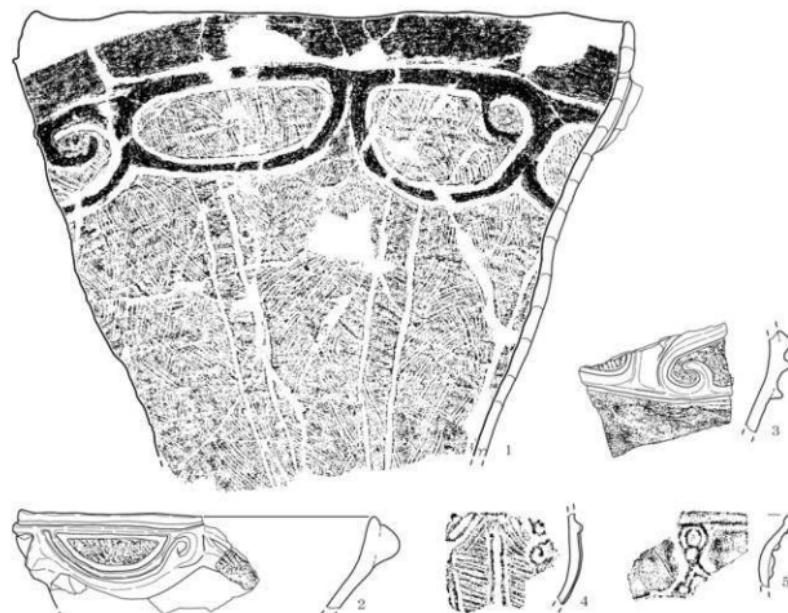


第411図 J-31b号住居址(1)

0 1:4 10cm



第412図 J-31b号住居址(2)

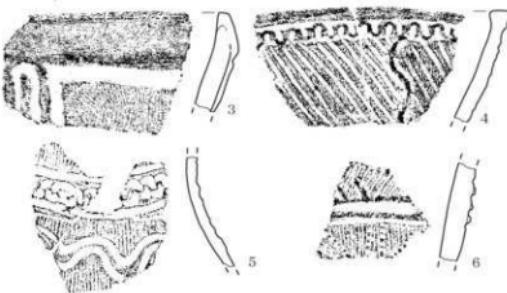


第413図 J-32a号住居址

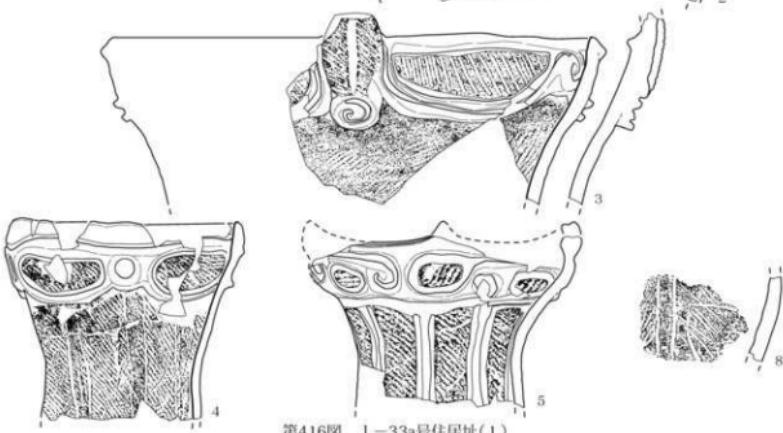
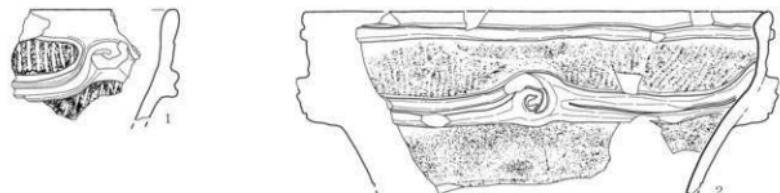
0 1:4 10cm



第414図 J-32b号住居址

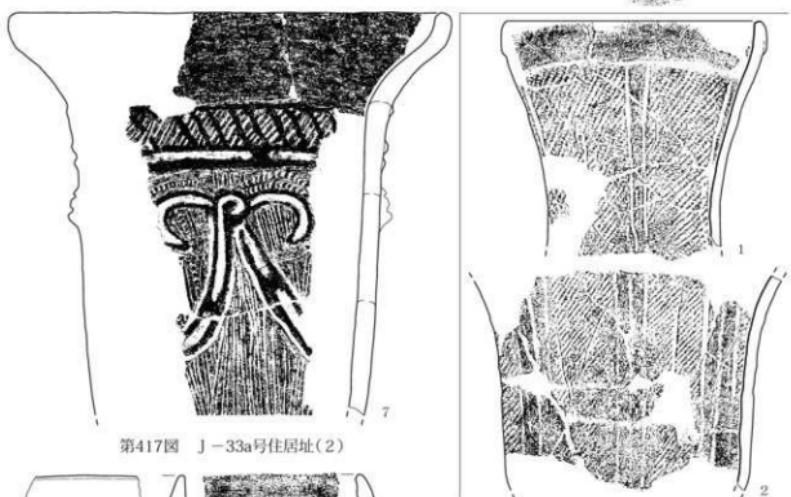
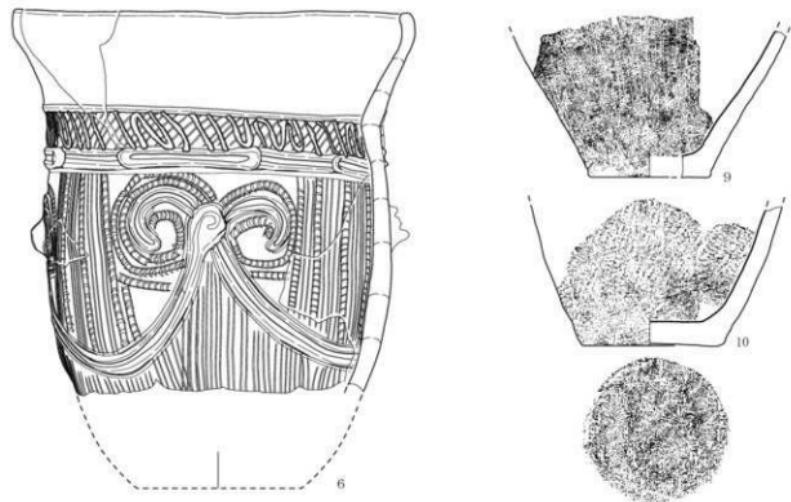


第415図 J-32号住居址



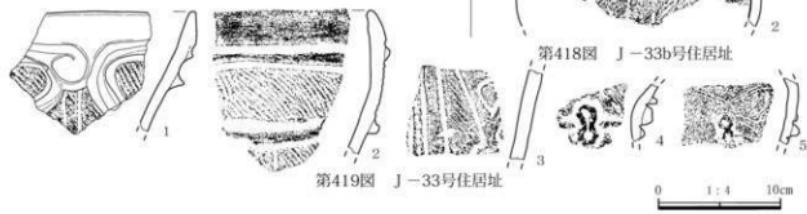
第416図 J-33a号住居址(1)

0 1 : 4 10cm

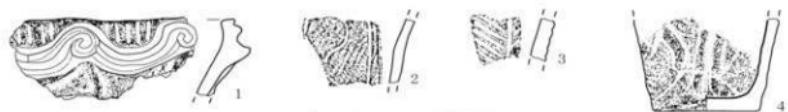


第417図 J-33a号住居址(2)

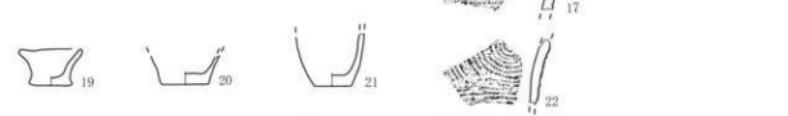
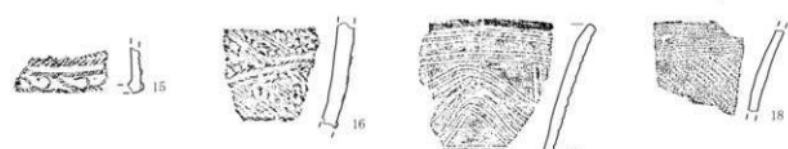
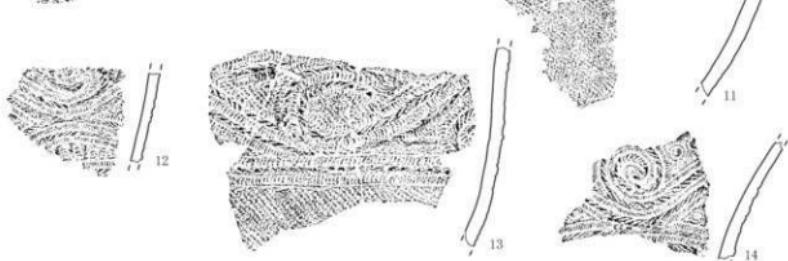
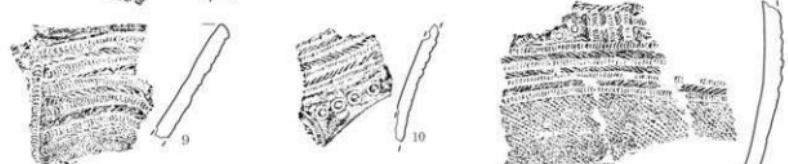
第418図 J-33b号住居址



第419図 J-33号住居址

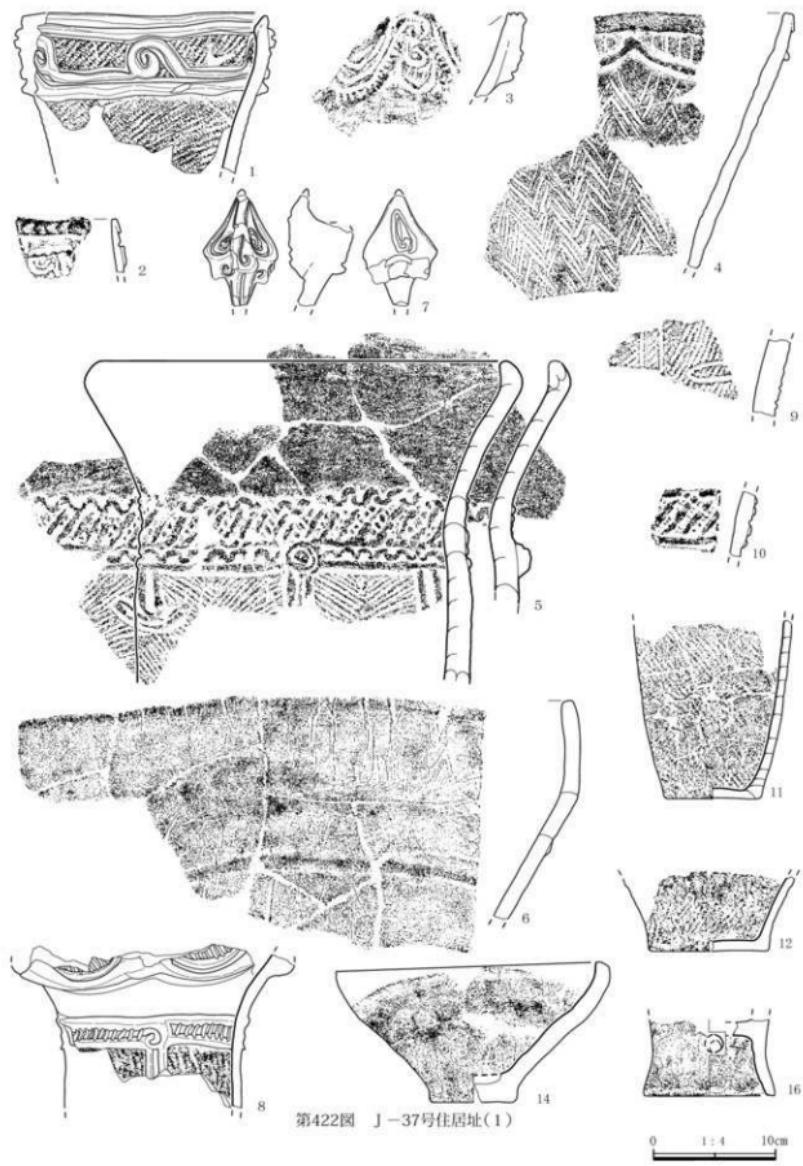


第420図 J-34号住居址



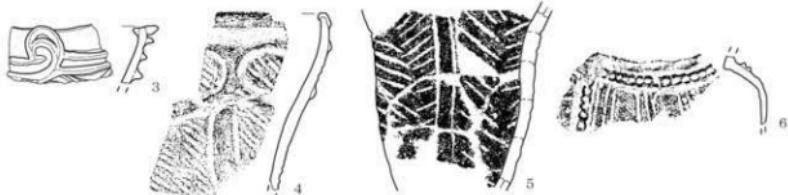
第421図 J-35号住居址

0 1 : 4 10cm



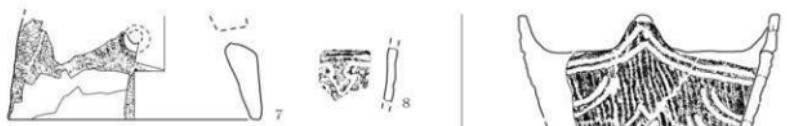


第423図 J-37号住居址(2)

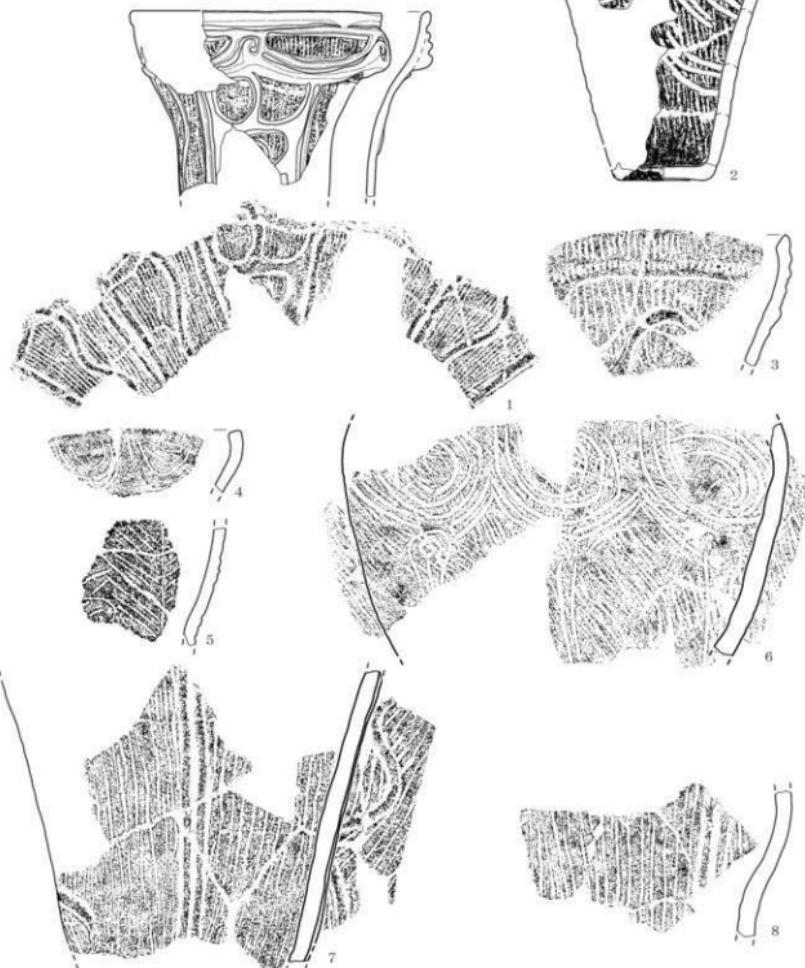


第424図 J-38号住居址(1)

0 1 : 4 10cm



第425図 J-38号住居址(2)

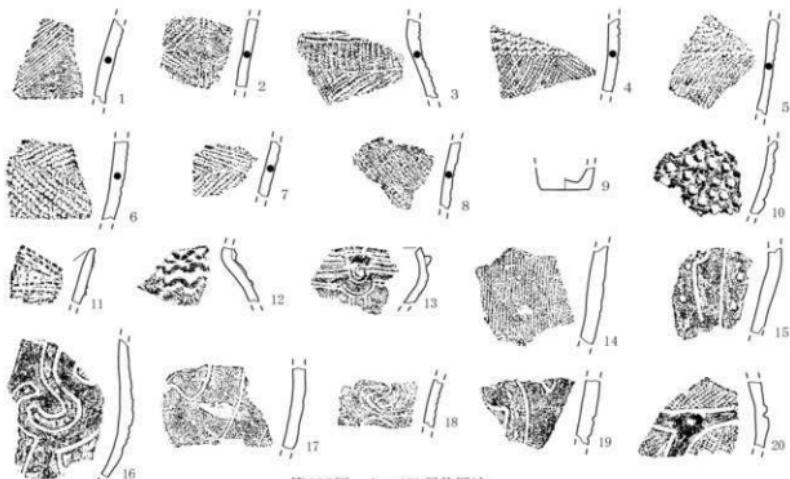


第426図 J-39号住居址(1)



第427図 J-39号住居址(2)

第428図 J-40a号住居址

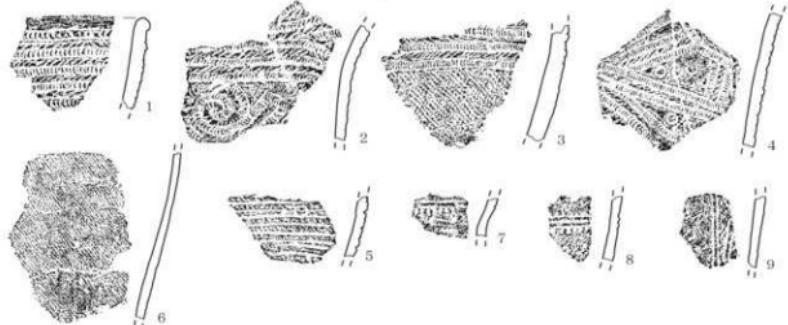


第428図 J-40a号住居址



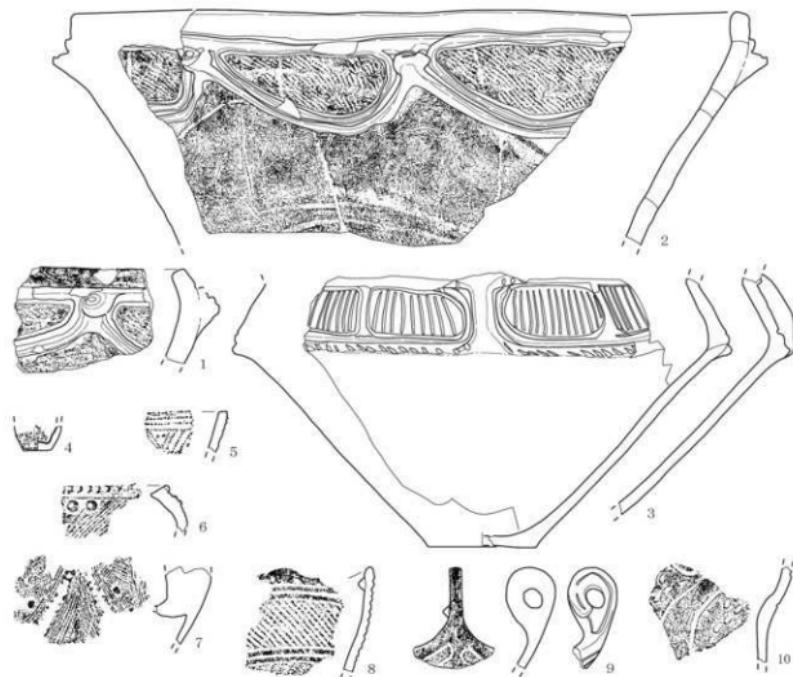
第429図 J-40b号住居址

第430図 J-40号住居址

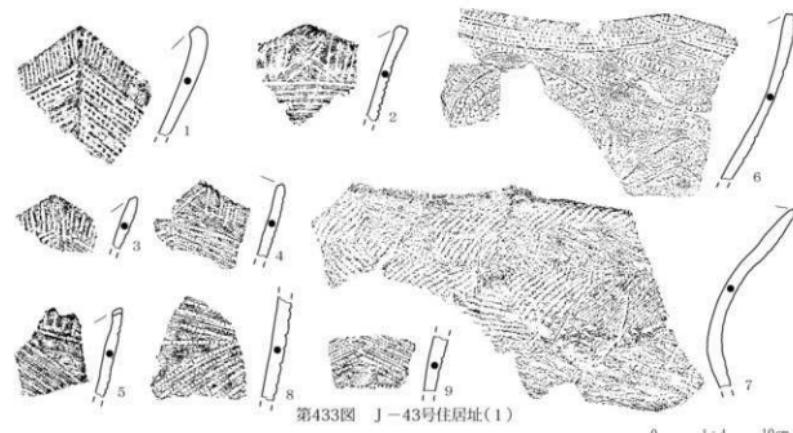


第431図 原田A区J-41号住居址出土遺物実測図

0 1 : 4 10cm

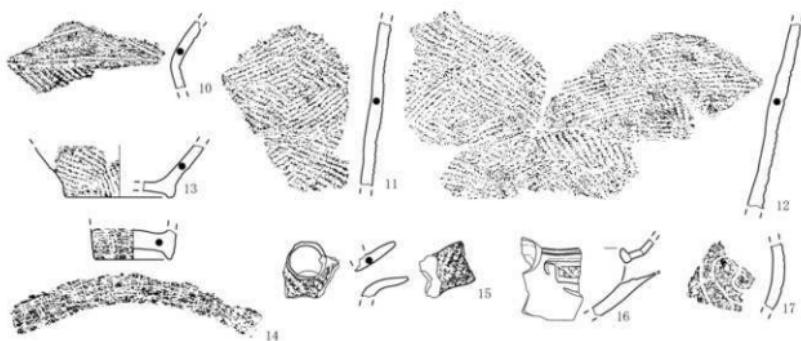


第432図 J-42号住居址

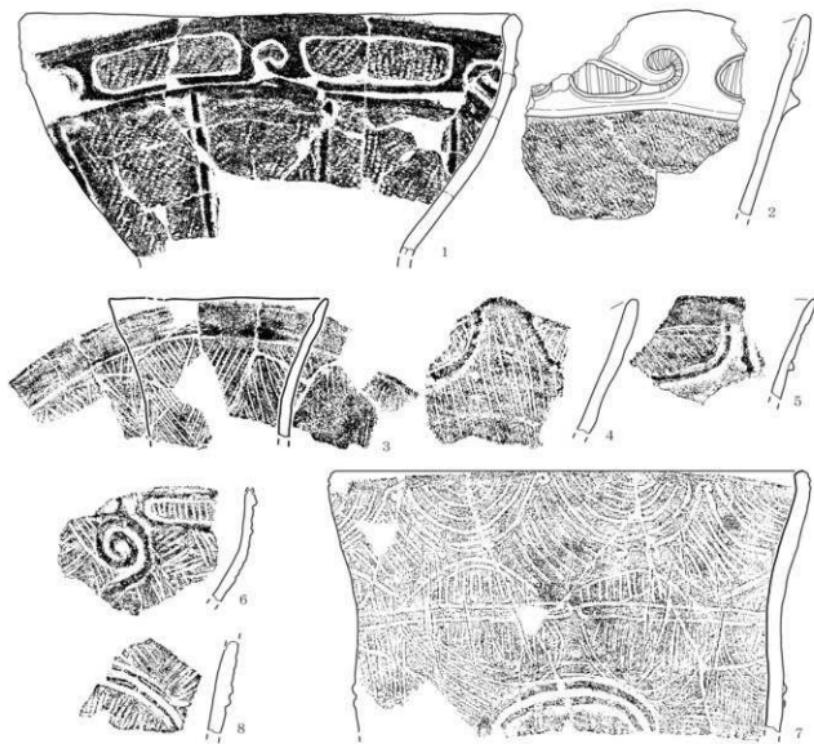


第433図 J-43号住居址(1)

0 1:4 10cm

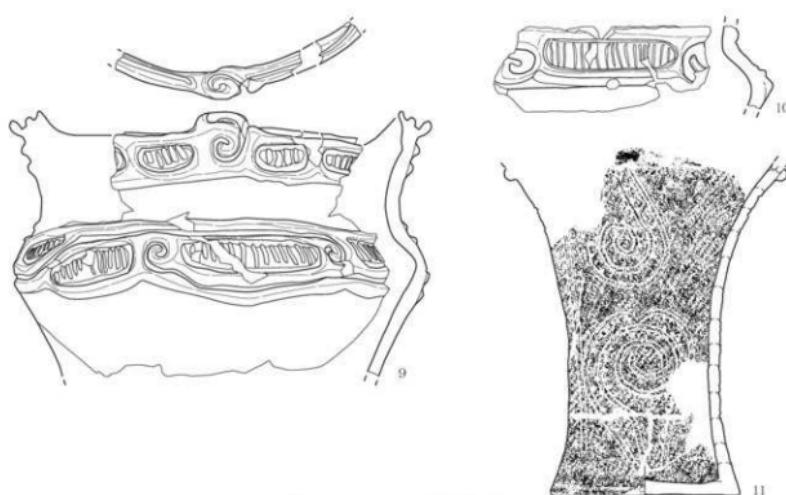


第434図 J-43号住居址(2)

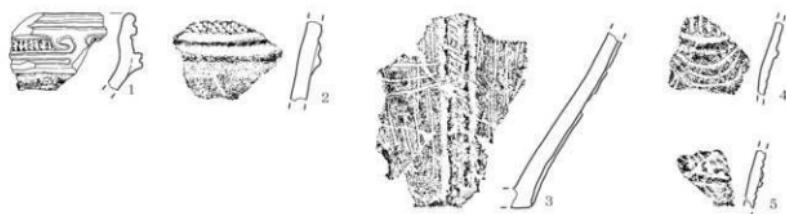


第435図 J-44号住居址(1)

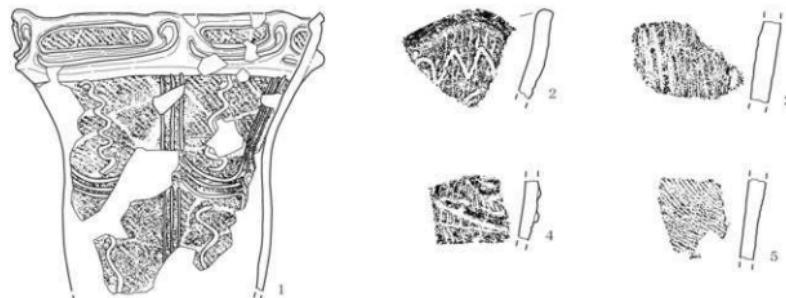
0 1:4 10cm



第436図 J-44号住居址(2)

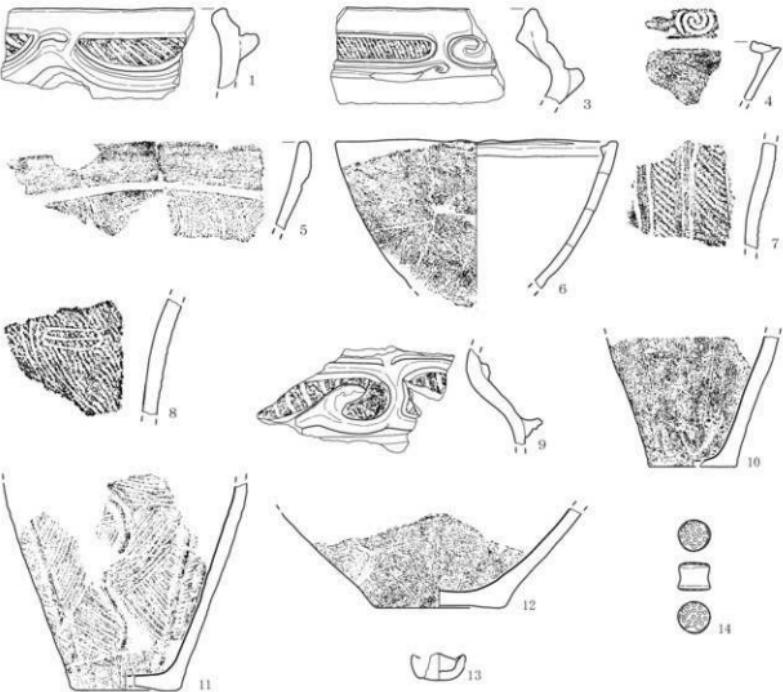
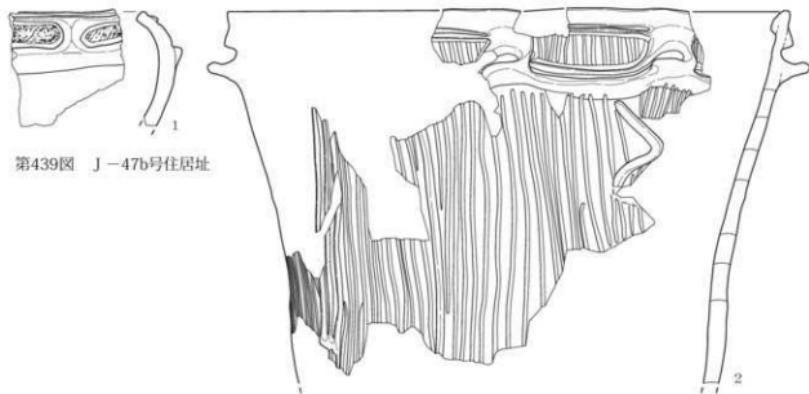


第437図 J-45号住居址



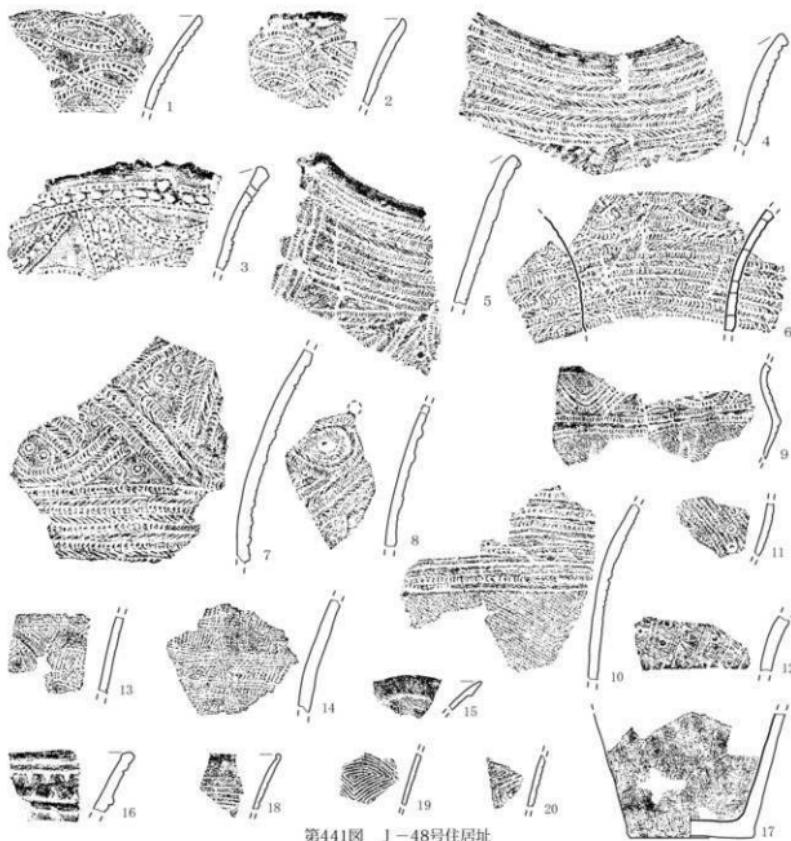
第438図 J-46号住居址

0 1 : 4 10cm

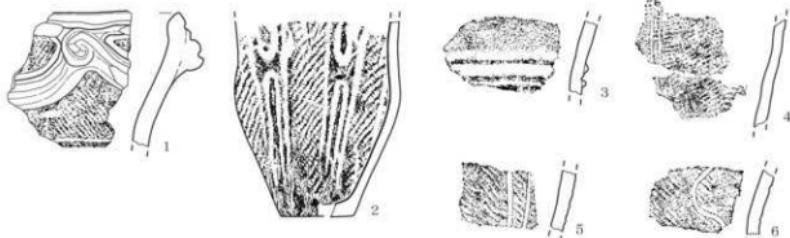


第440図 J-47号住居址

0 1 : 4 10cm

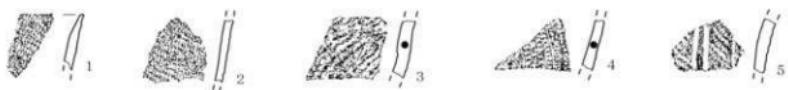


第441図 J-48号住居址

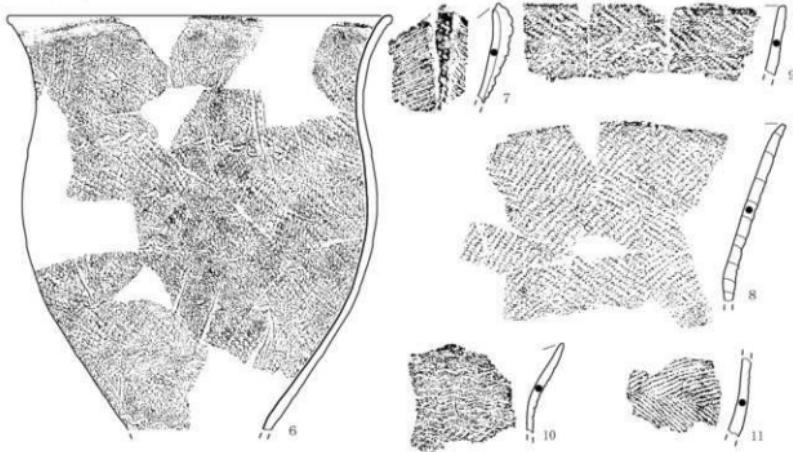
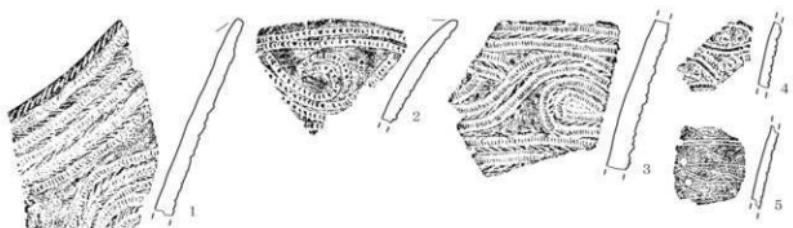


第442図 J-49号住居址

0 1 : 4 10cm

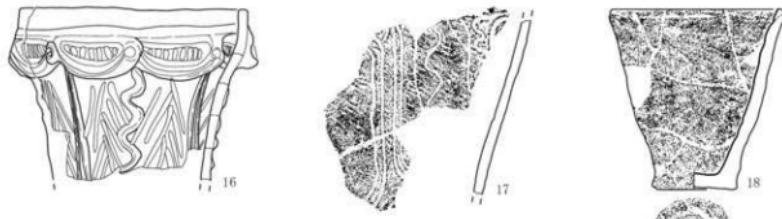


第443図 J-50号住居址

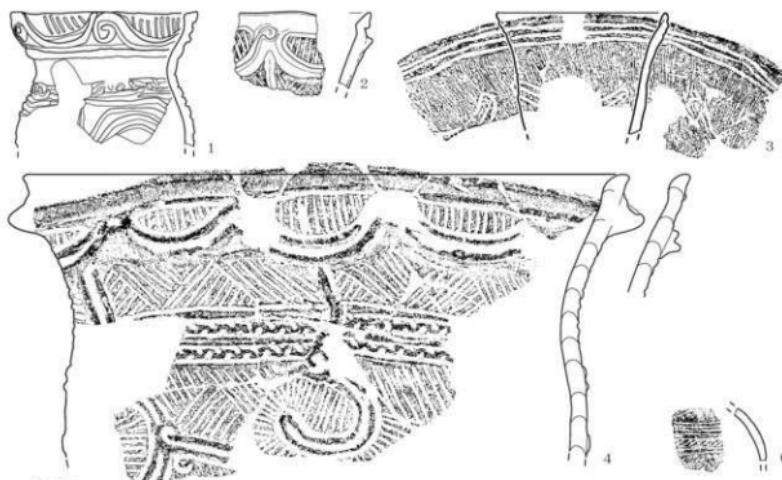


第444図 J-51号住居址(1)

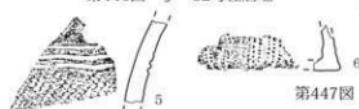
0 1:4 10cm



第445図 J-51号住居址(2)

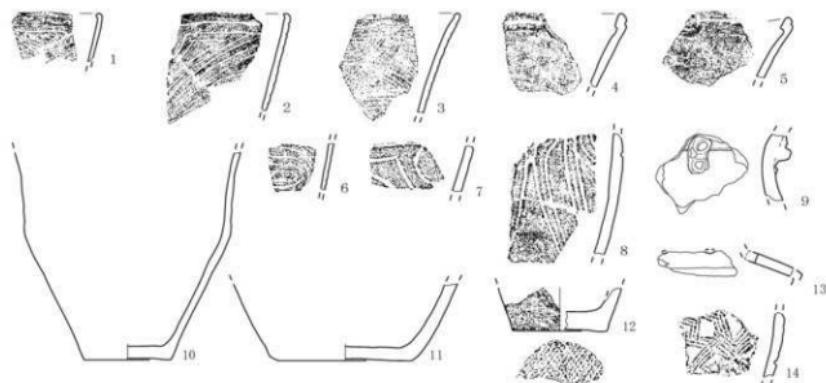


第446図 J-52号住居址

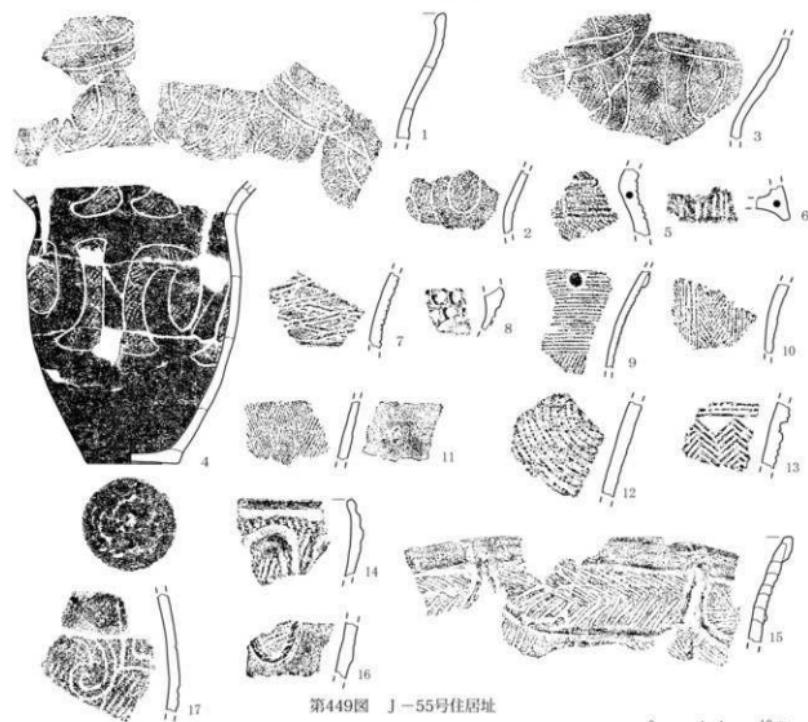


第447図 J-53号住居址

0 1 : 4 10cm



第448図 J-54号住居址

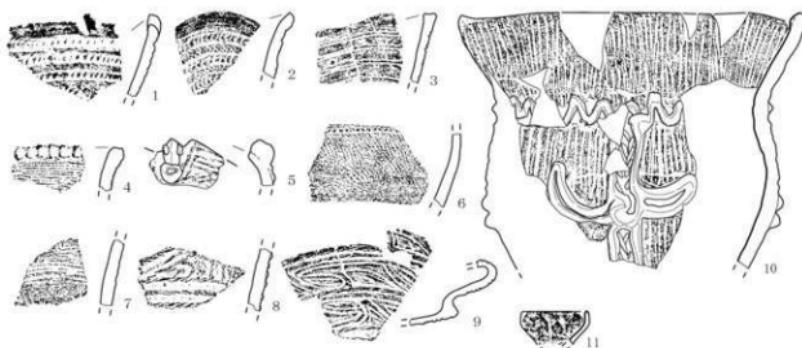


第449図 J-55号住居址

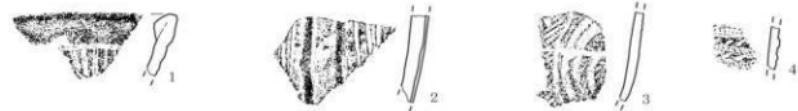
0 1 : 4 10cm



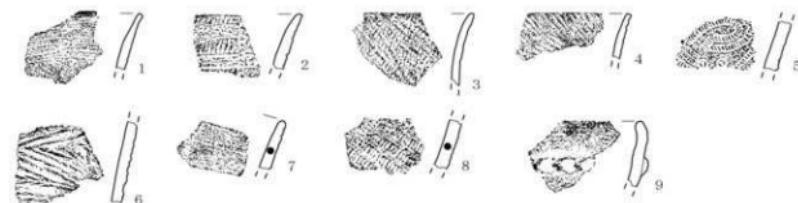
第450図 J-56a号住居址



第451図 J-56b号住居址

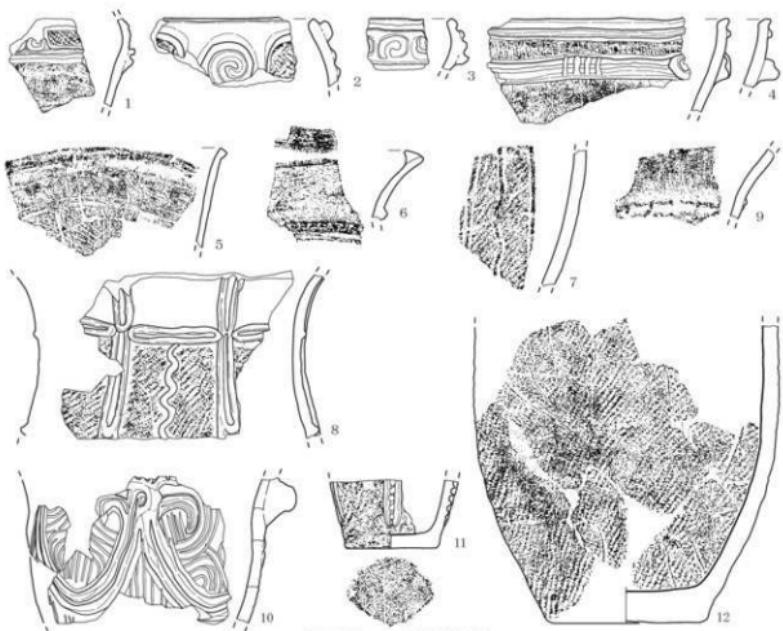


第452図 J-57号住居址

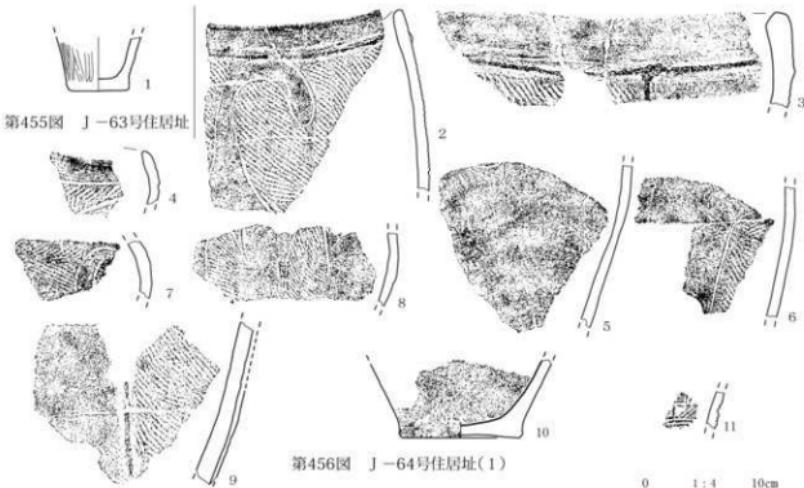


第453図 J-58号住居址

0 1 : 4 10cm



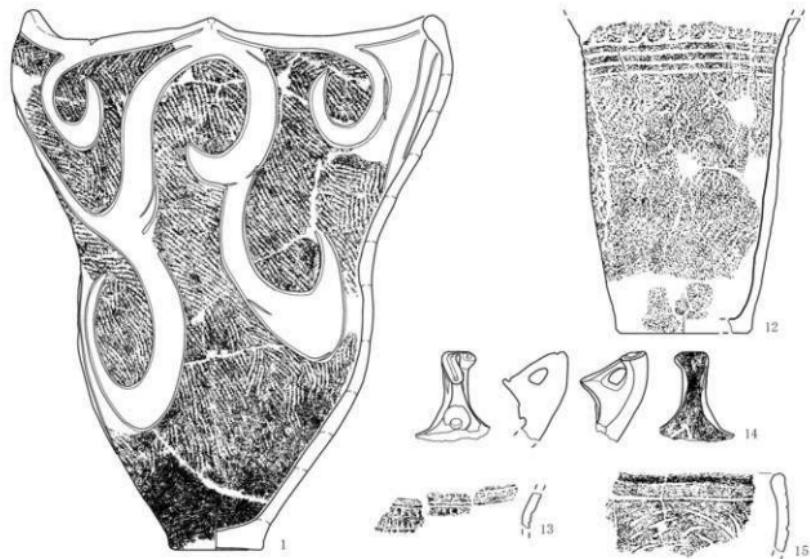
第454図 J-59号住居址



第455図 J-63号住居址

第456図 J-64号住居址(1)

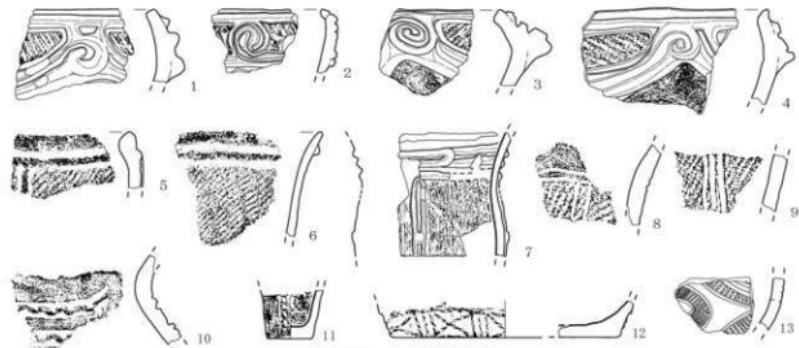
0 1 : 4 10cm



第457図 J-64号住居址(2)

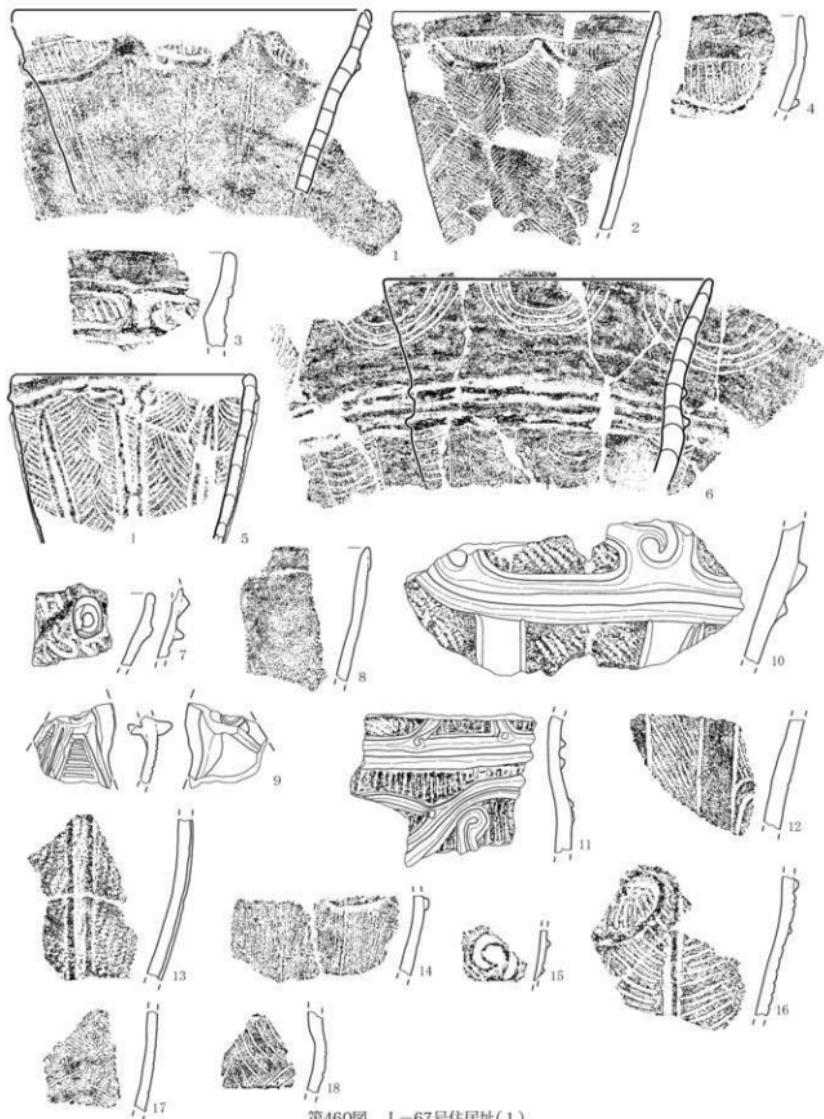


第458図 J-65号住居址



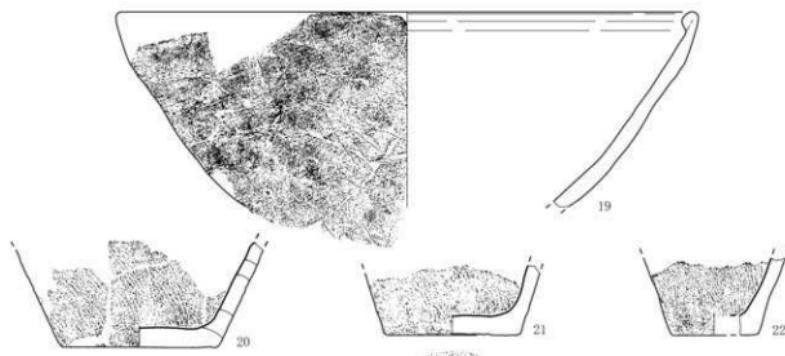
第459図 J-66号住居址

0 1 : 4 10cm

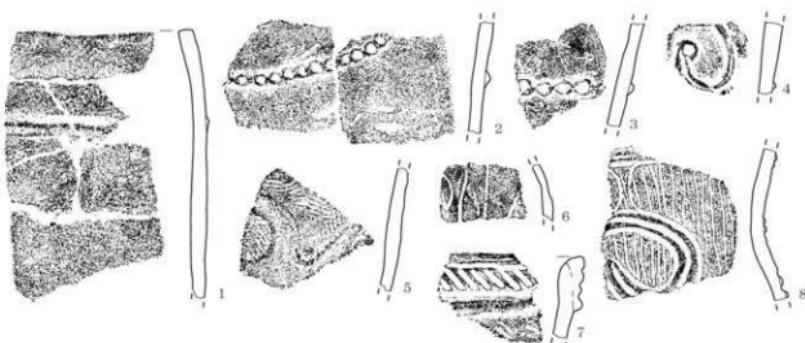


第460図 J-67号住居址(1)

0 1 : 4 10cm



第461図 J-67号住居址(2)

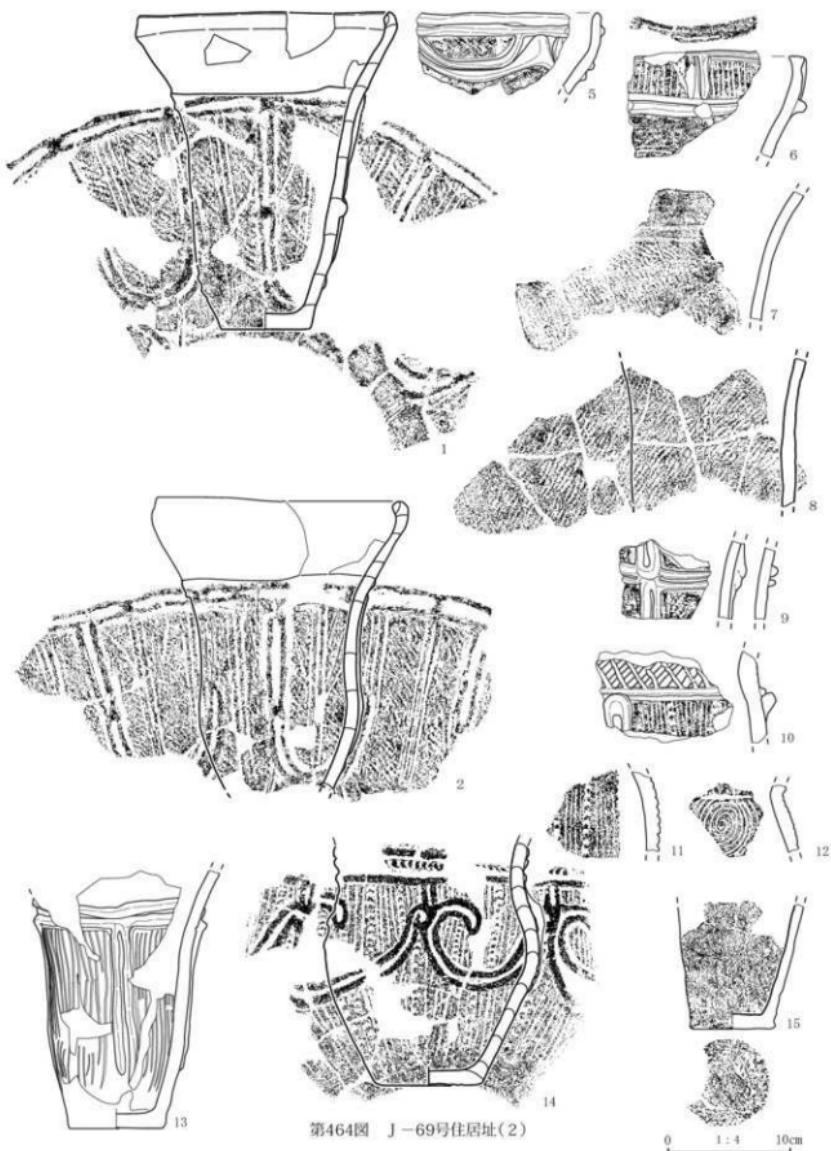


第462図 J-68号住居址



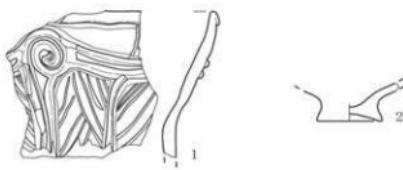
第463図 J-69号住居址(1)

0 1 : 4 10cm

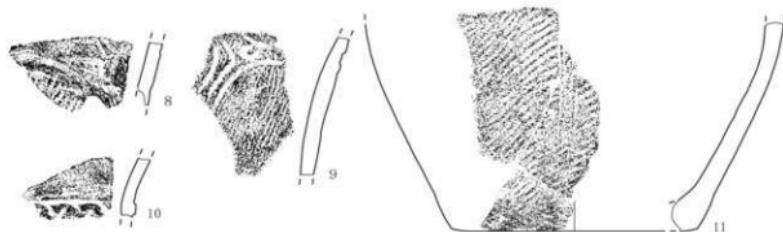
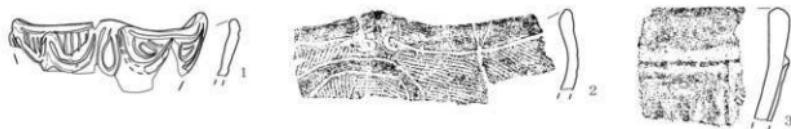


第464図 J-69号住居址（2）

0 1:4 10cm

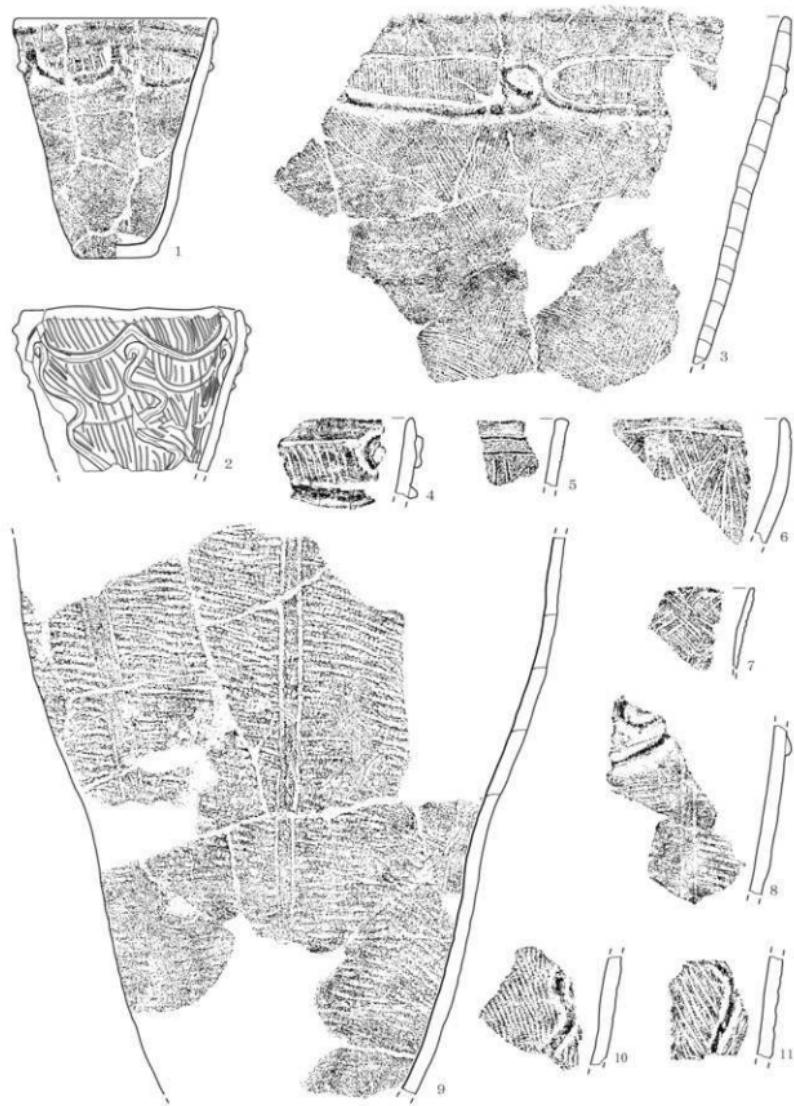


第465図 J-71号住居址



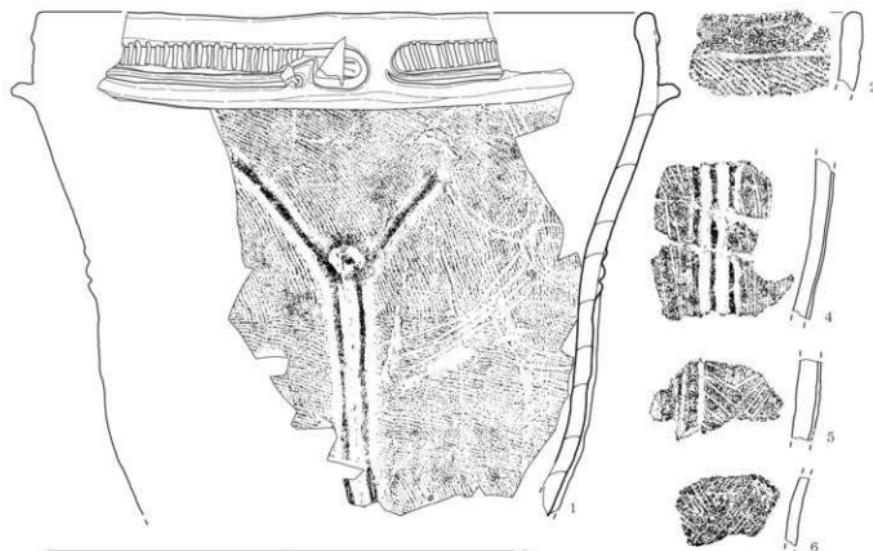
第465図 J-71号住居址

0 1 : 4 10 cm

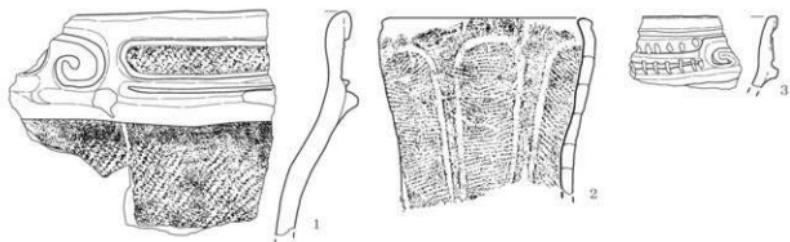


第467図 J-73号住居址

0 1 : 4 10cm

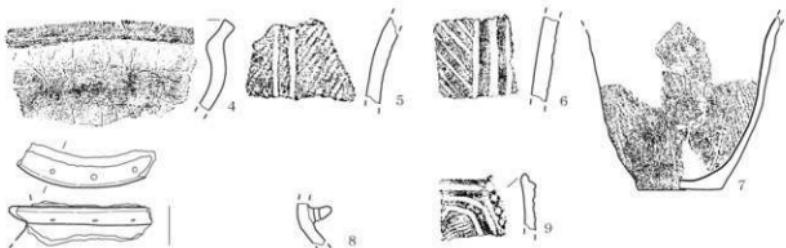


第468図 J-74号住居址



第469図 J-76号住居址(1)

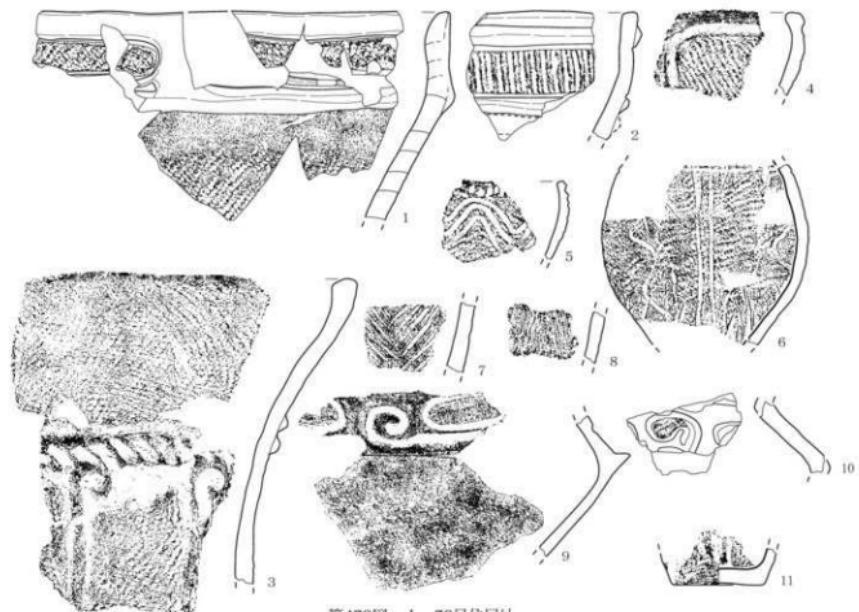
0 1:4 10cm



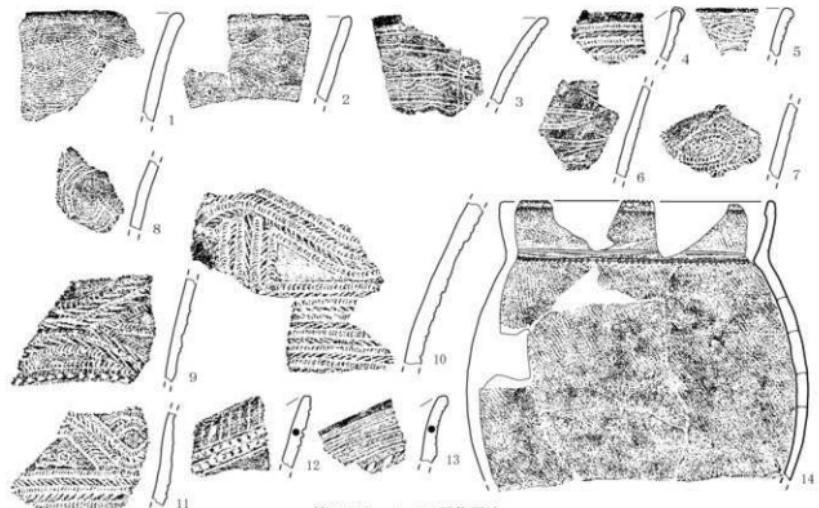
第470図 J-76号住居址(2)



第471図 J-77号住居址

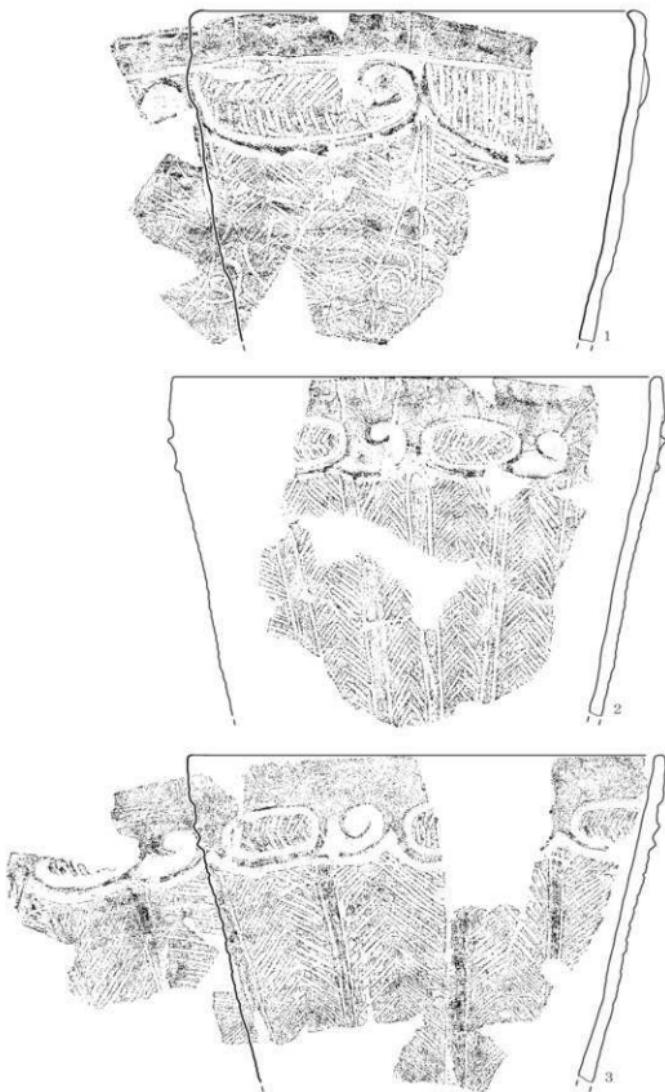


第472図 J-78号住居址



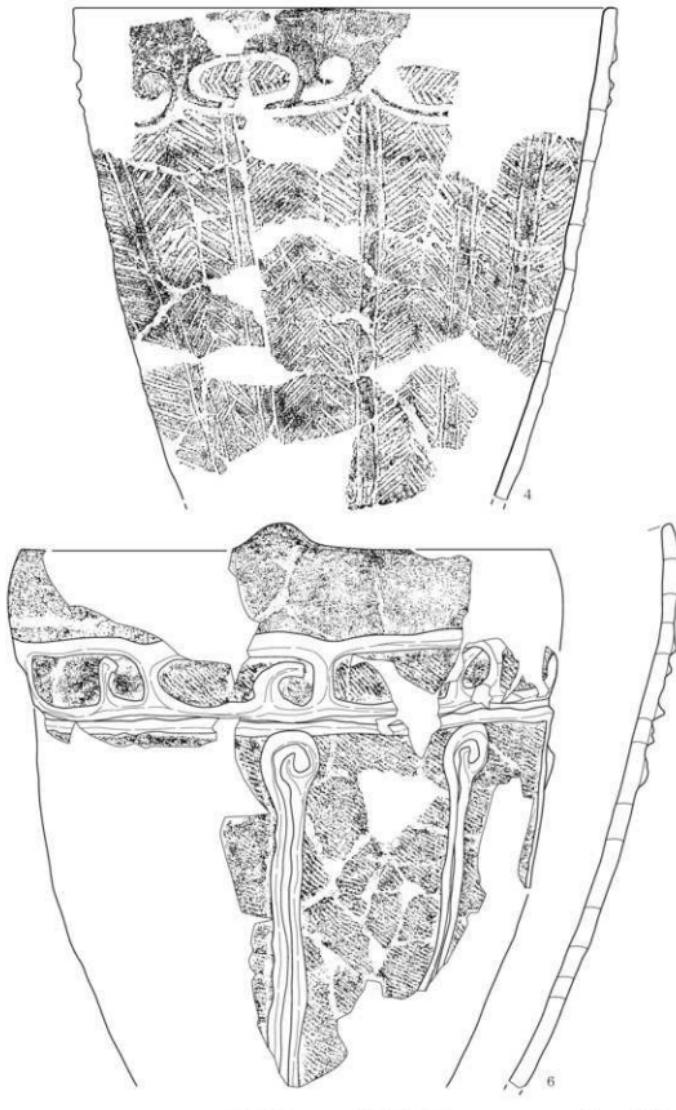
第473図 J-80号住居址

0 1 : 4 10cm



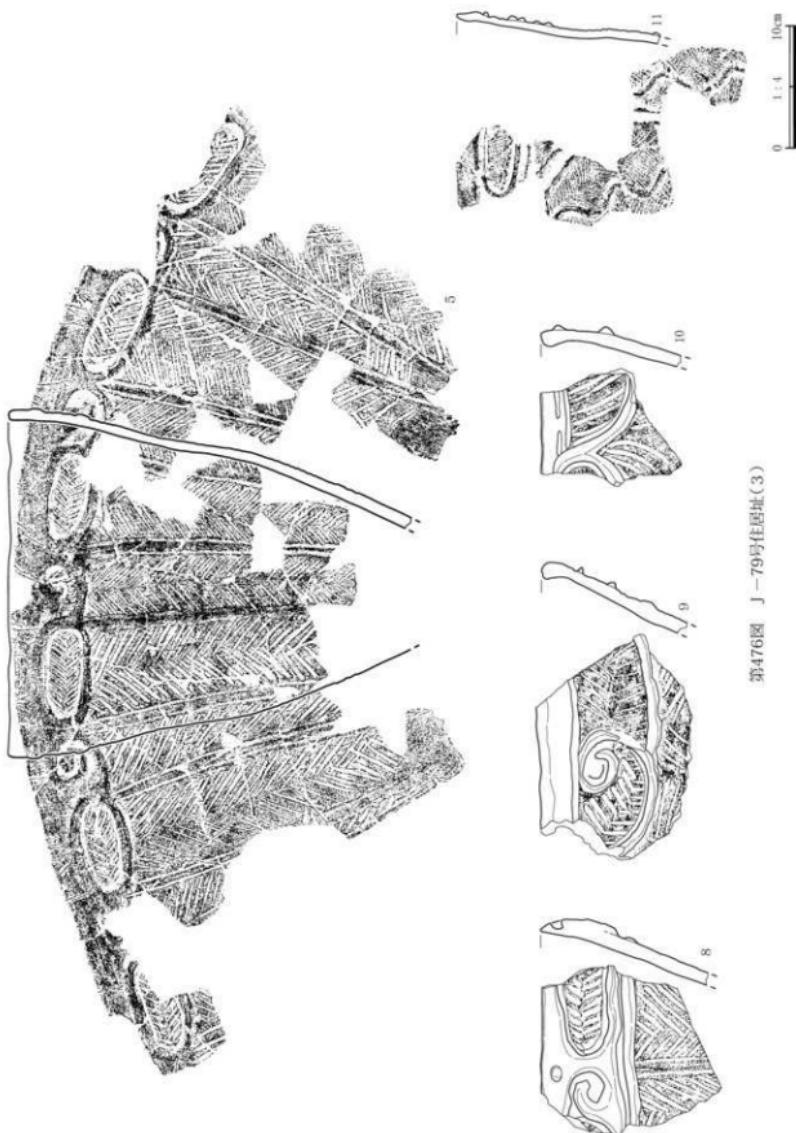
第474図 J-79号住居址(1)

0 1 : 4 10cm



第475図 J-79号住居址 (2)

0 1 : 4 10cm

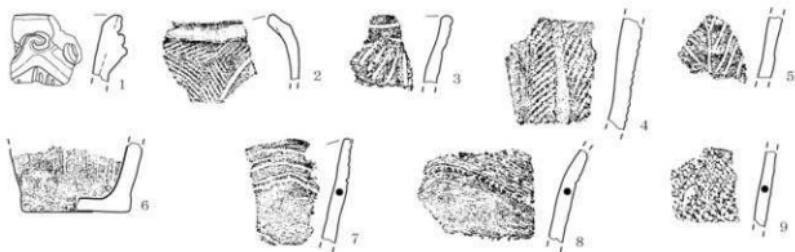


第476図 J-79号住居址(3)



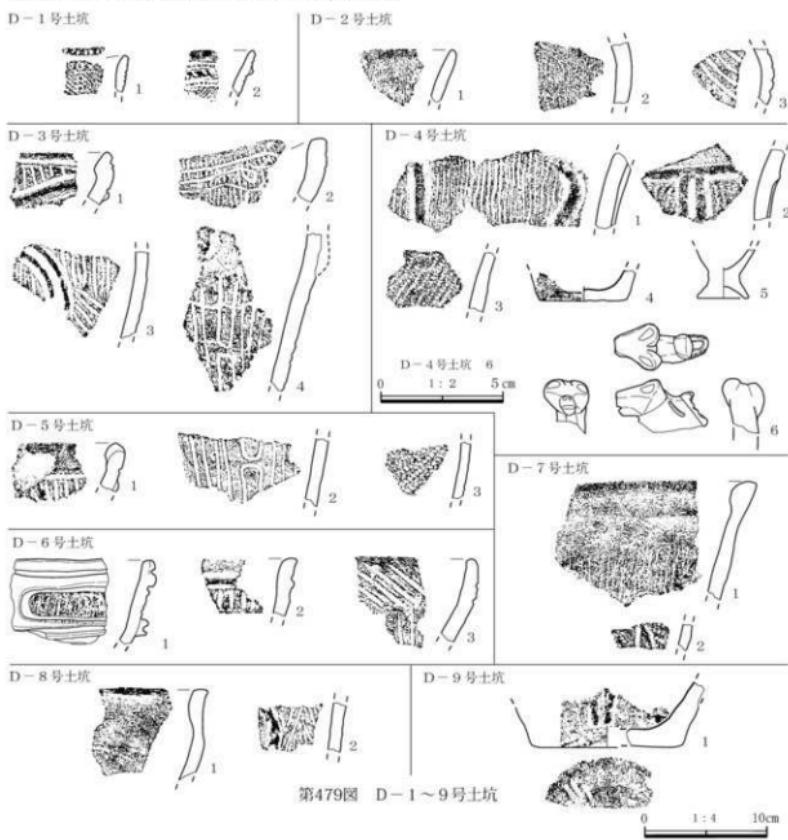
第477図 J-79号住居址(4)

0 1:4 10cm

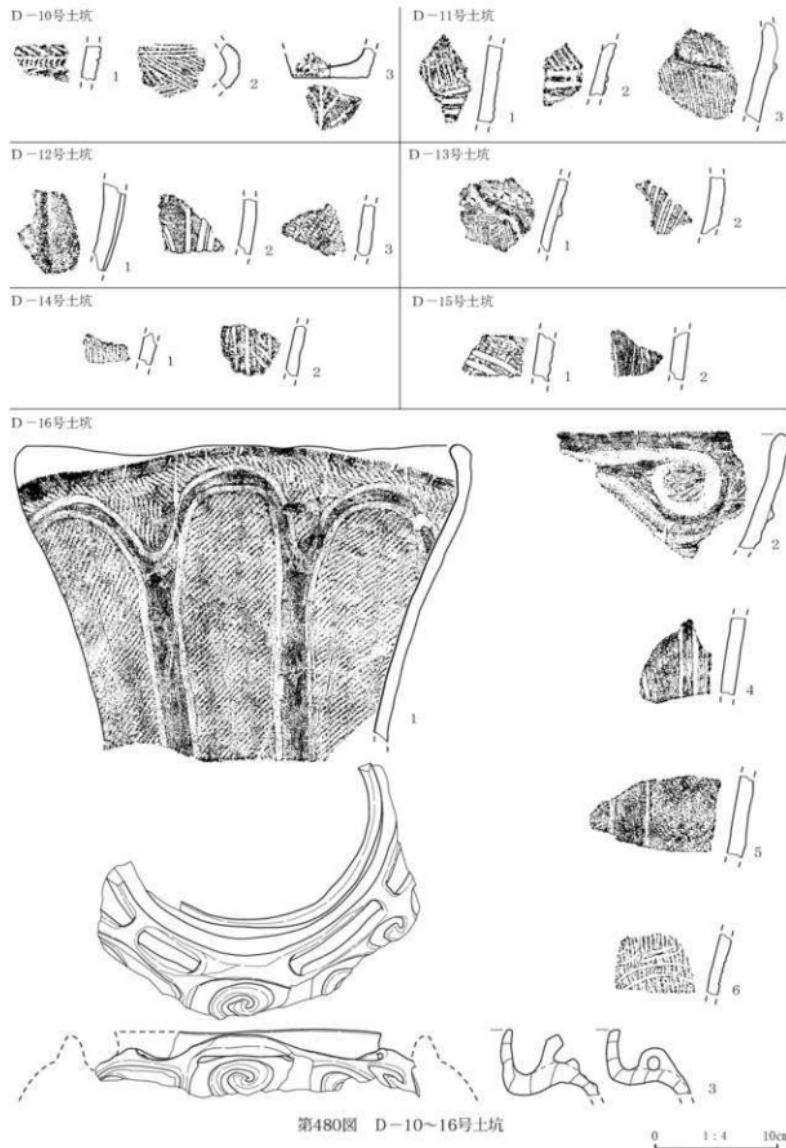


第478図 J-82号住居址

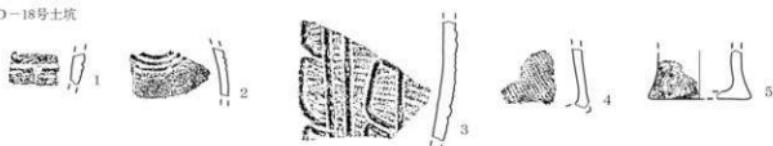
原田遺跡A区縄文時代土坑出土遺物実測図



第479図 D-1～9号土坑



D-18号土坑



D-19号土坑



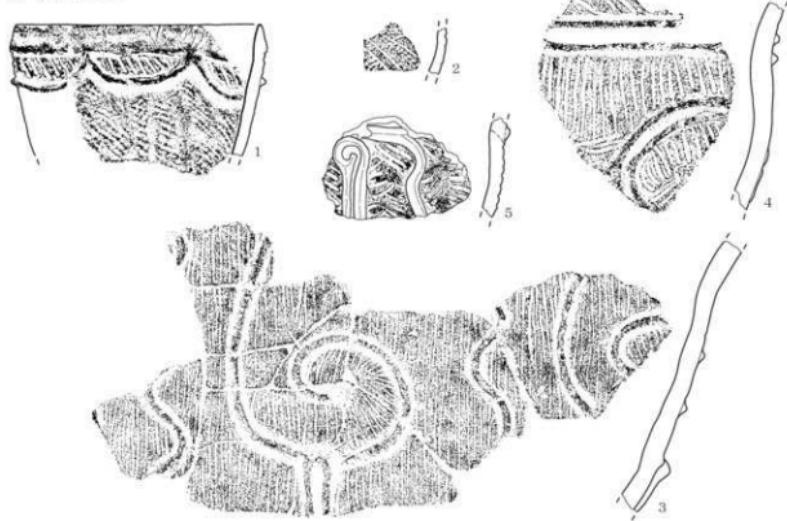
D-20号土坑



D-23号土坑



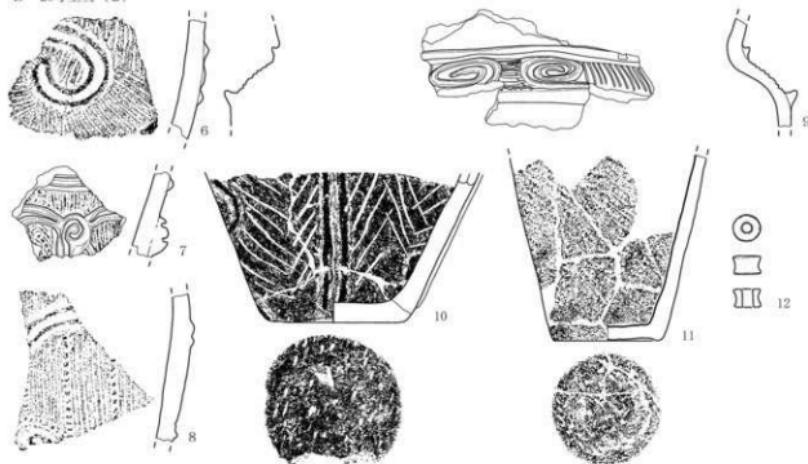
D-25号土坑 (1)



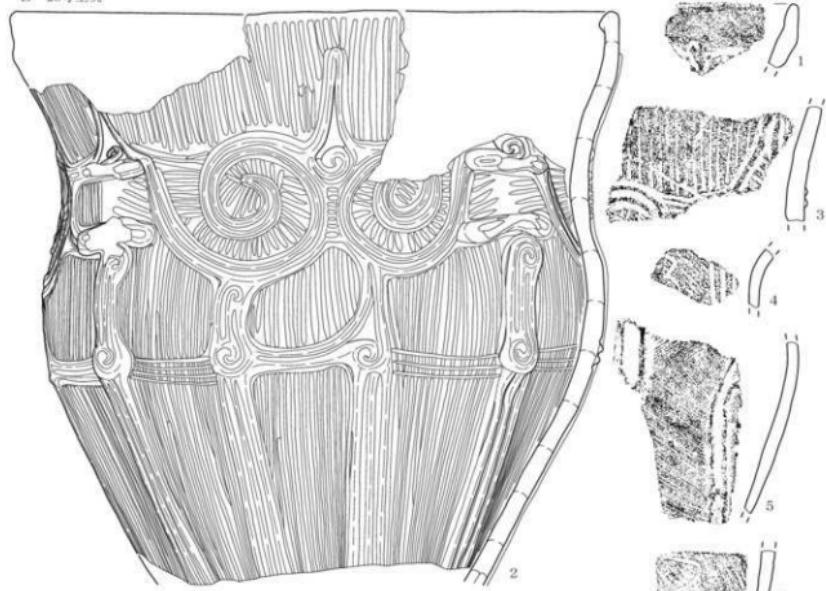
第481図 D-18~20・23~25号土坑(1)

0 1 : 4 10cm

D-25号土坑（2）

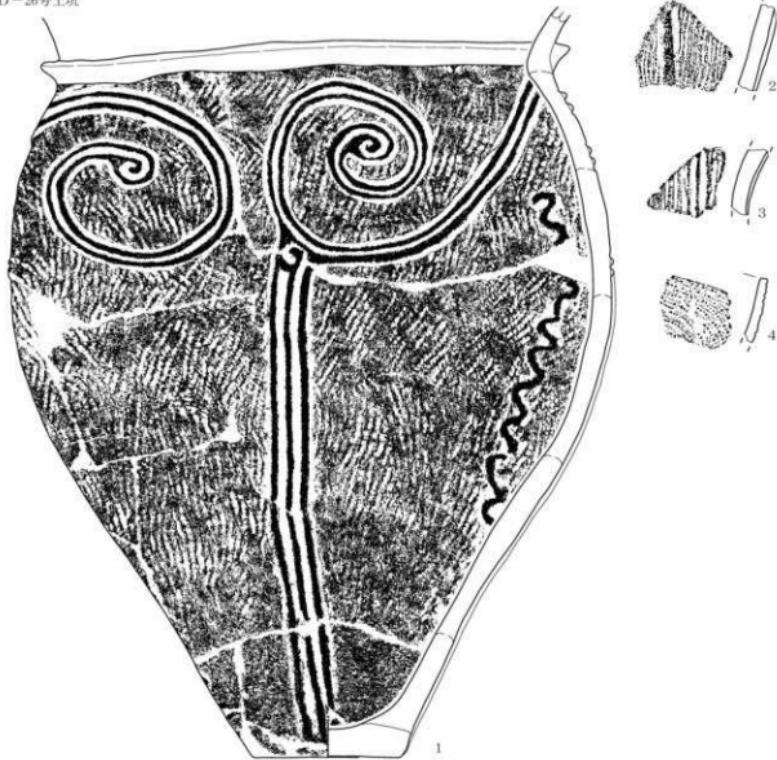


D-28号土坑

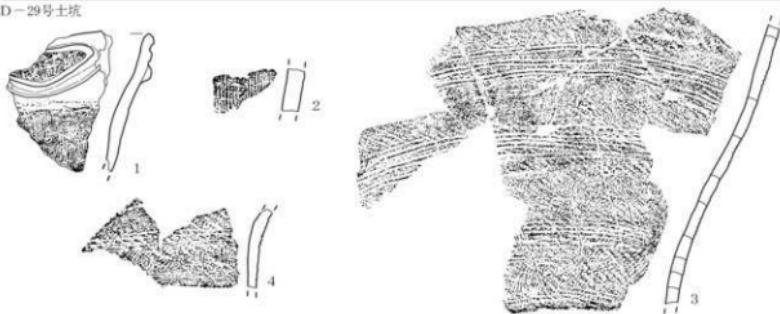


第482図 D-25(2)・28号土坑

D-26号土坑



D-29号土坑



第483図 D-26・29号土坑

0 1:4 10cm

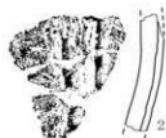
D-30号土坑



D-31号土坑



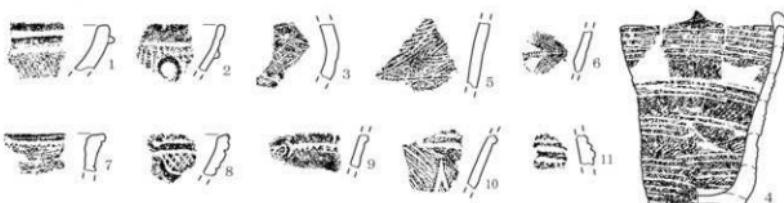
D-32号土坑



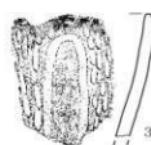
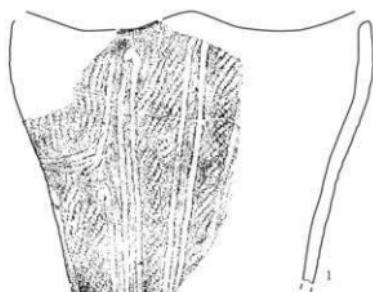
D-33号土坑



D-34号土坑



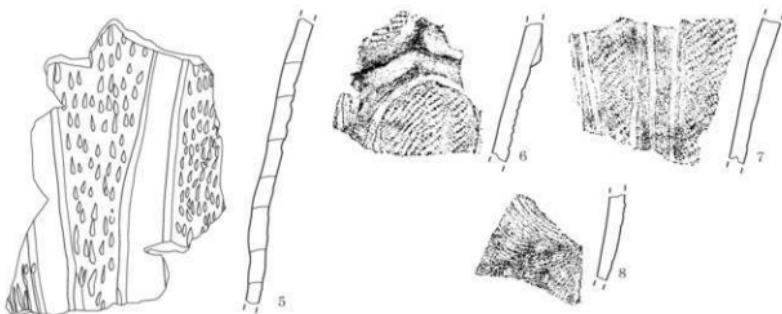
D-36号土坑 (1)



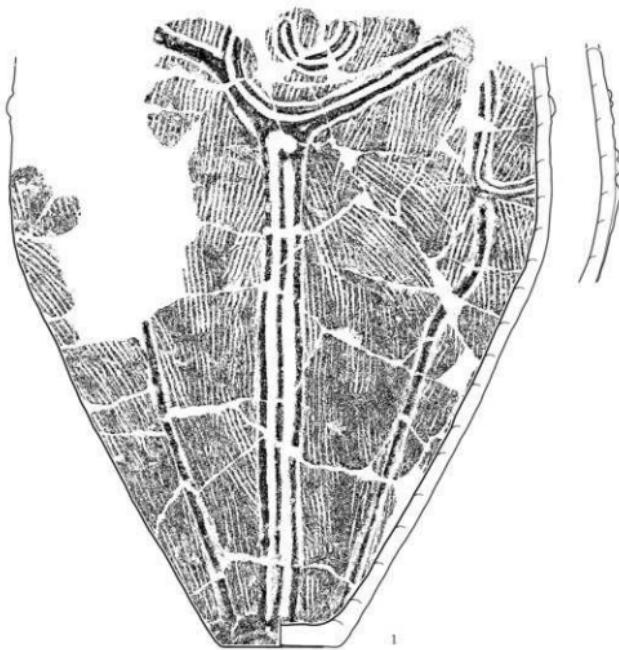
第484図 D-30~34・36号土坑(1)

0 1:4 10cm

D-36号土坑（2）

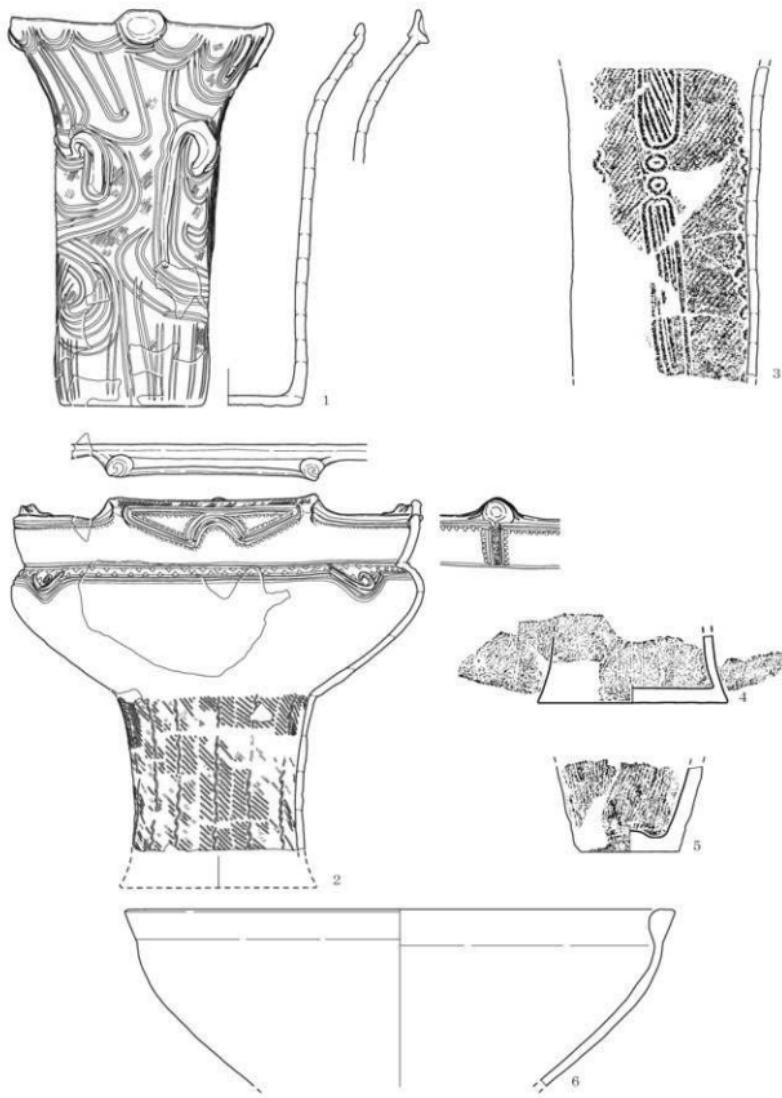


D-35号土坑



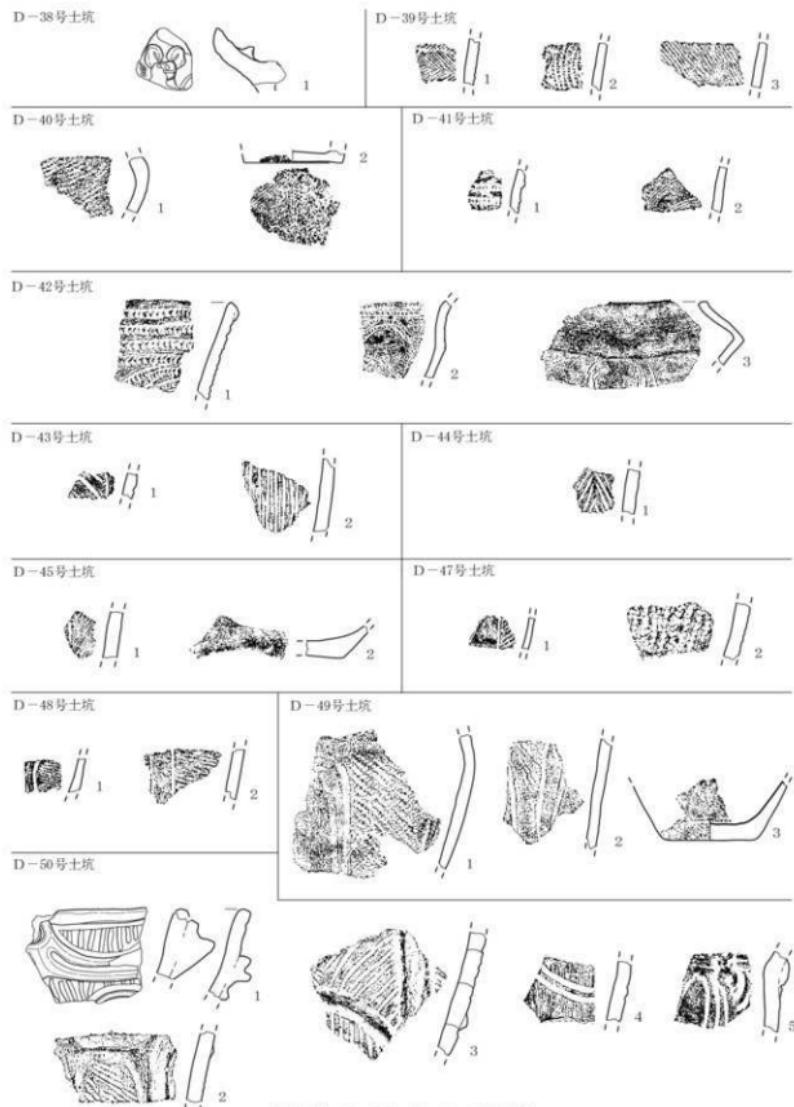
第485図 D-36(2)・35号土坑

0 1 : 4 10cm



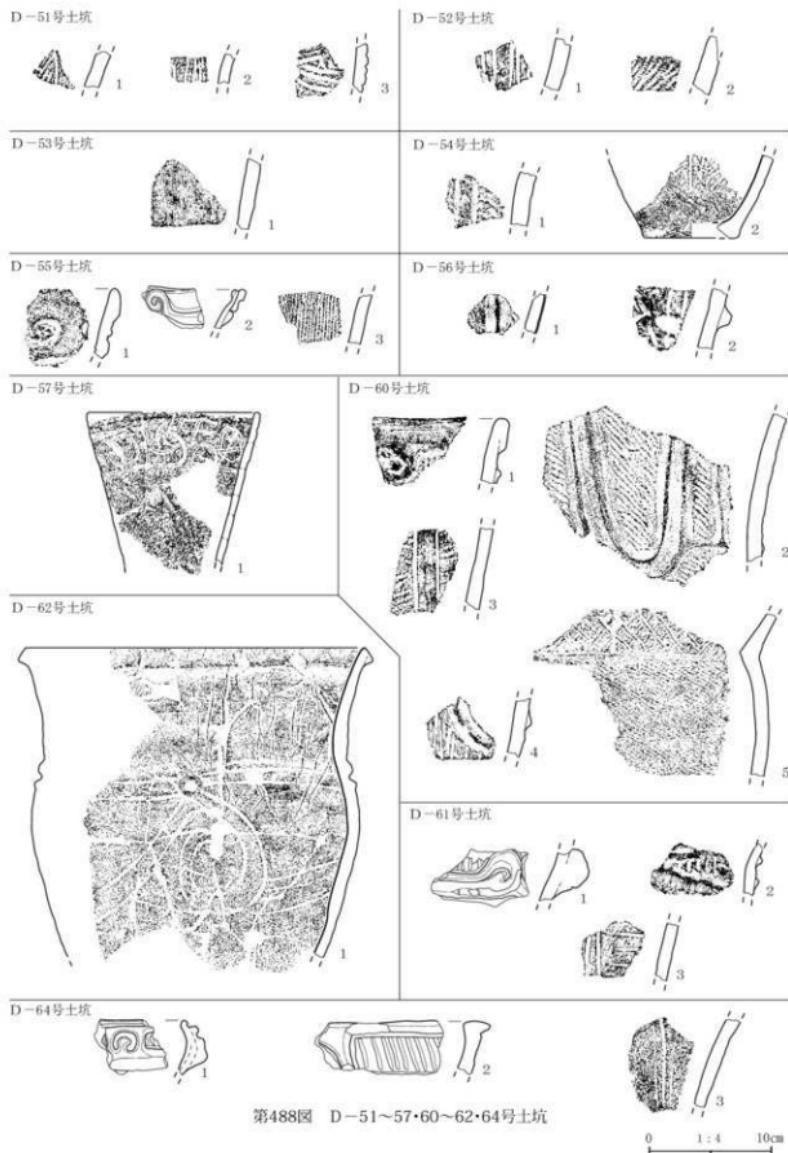
第486図 D-37号土坑

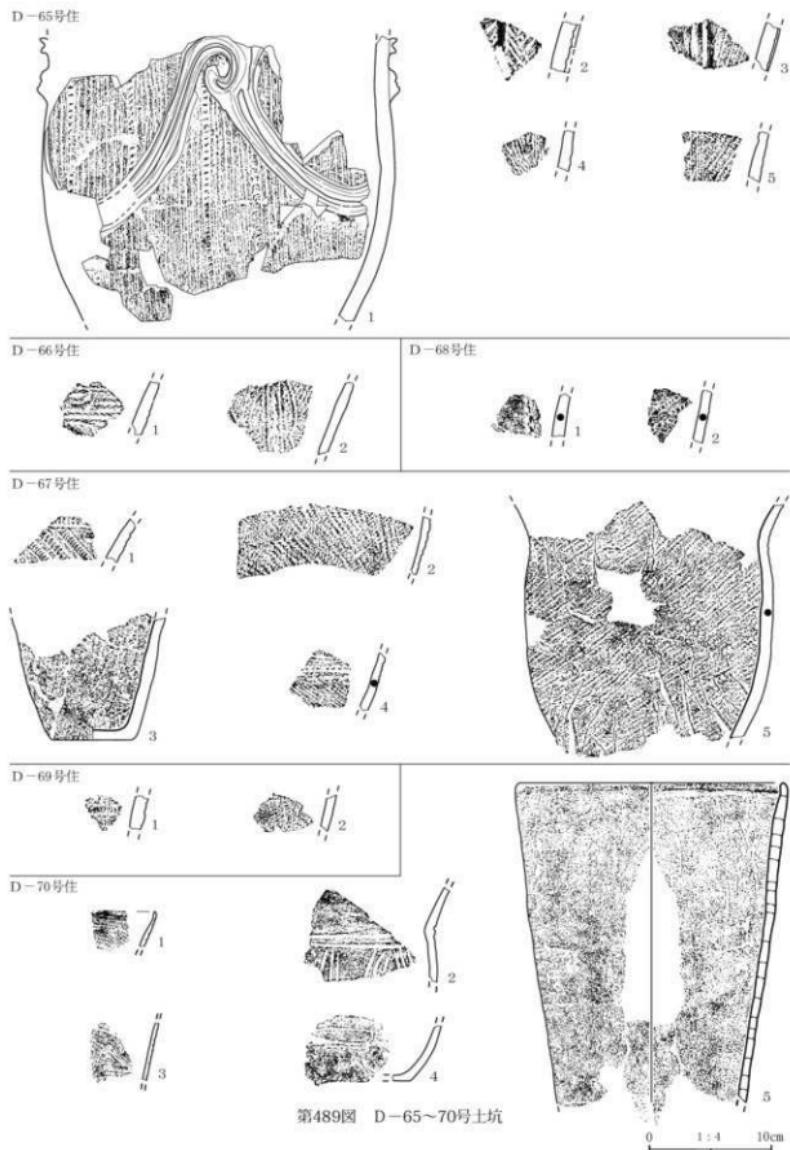
0 1 : 4 10cm



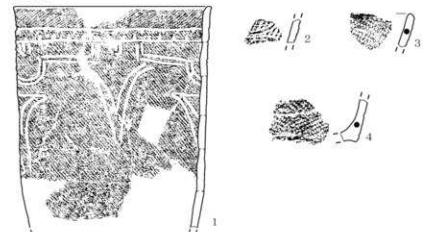
第487図 D-38~45・47~50号土坑

0 1:4 10cm

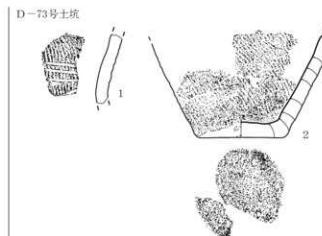




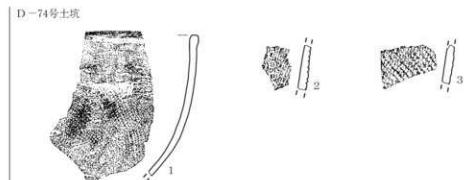
D-71号土坑



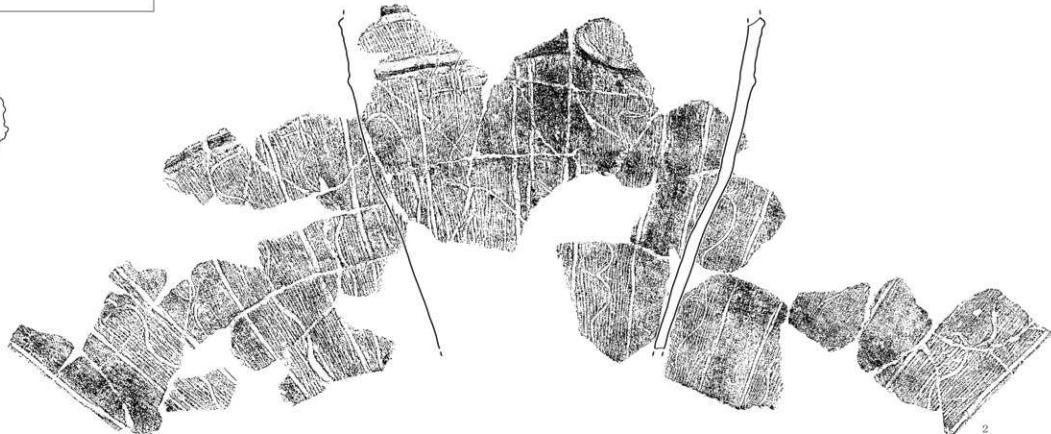
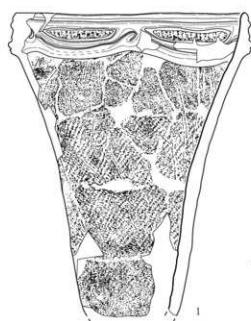
D-73号土坑



D-74号土坑



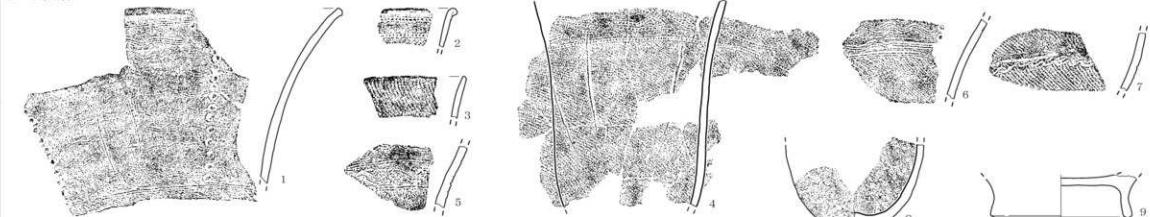
D-72号土坑



D-76号土坑



D-79号土坑



D-77号土坑



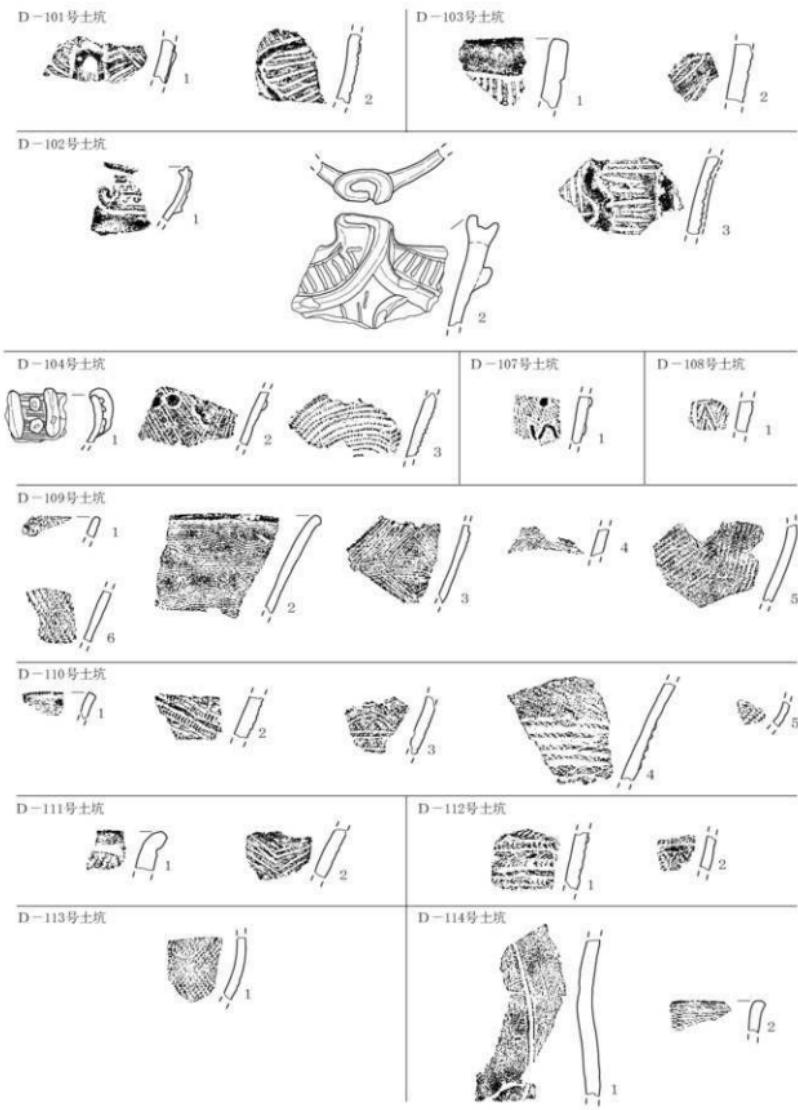
第490図 D-71~74・76・77・79号土坑

0 1:4 10cm



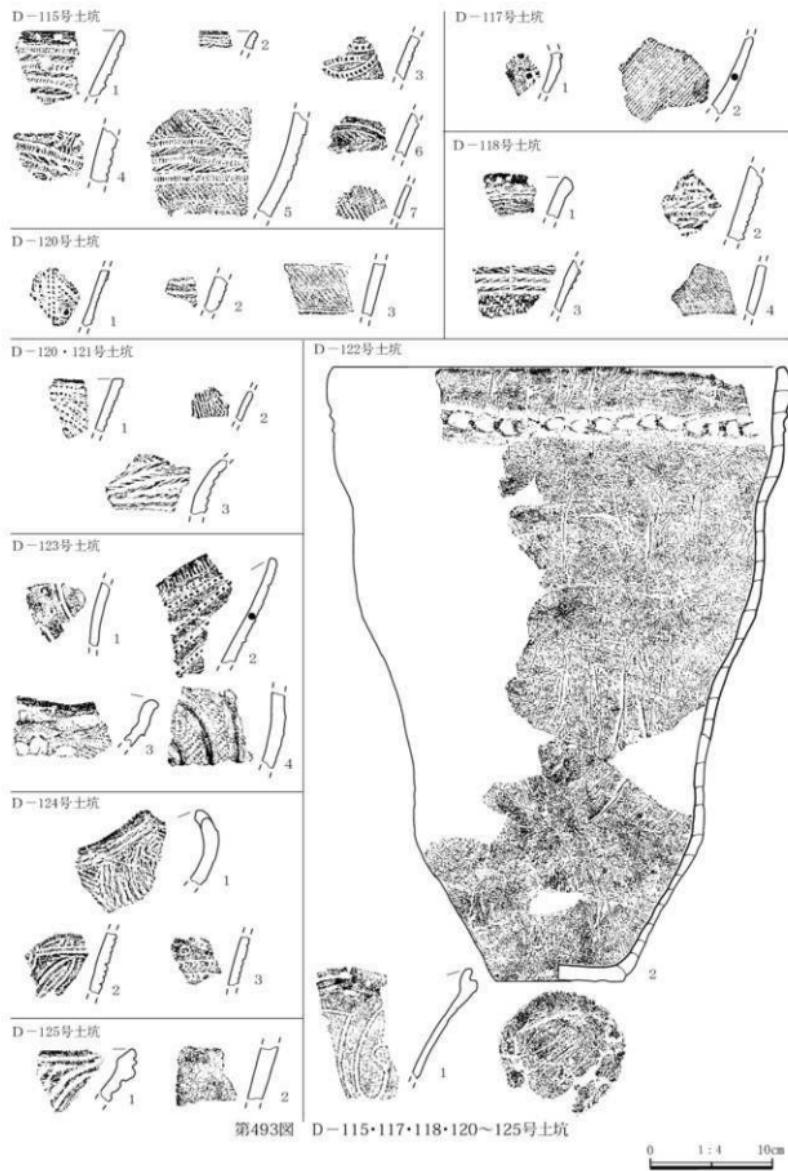
第491図 D-80~82・85・86・88~91・93・96~100号土坑

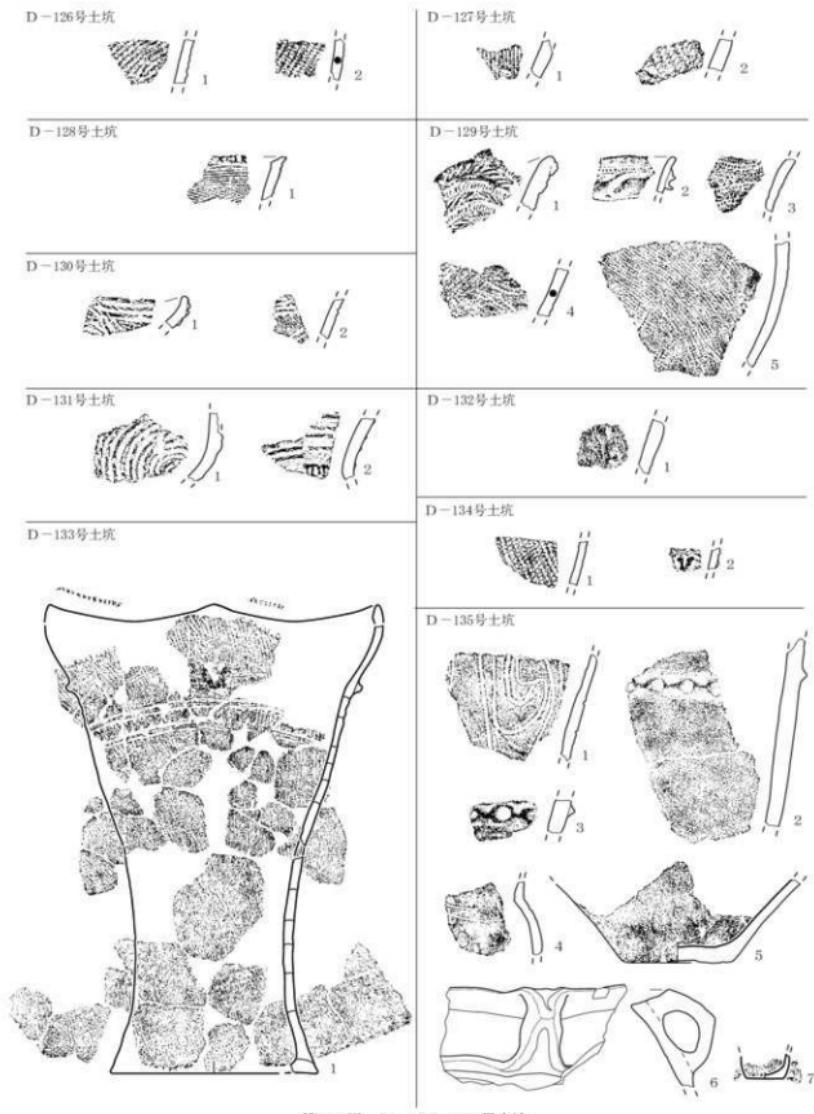
0 1 : 4 10cm



第492図 D-101~104・107~114号土坑

0 1 : 4 10cm

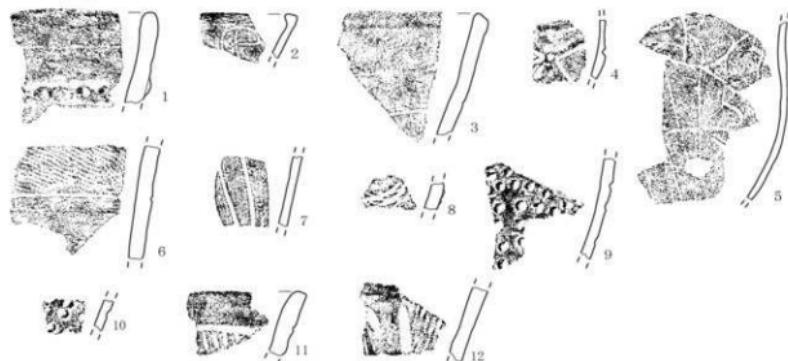




第494図 D-126~135号土坑

0 1:4 10cm

D-136号土坑



D-138号土坑



D-139号土坑



D-140号土坑



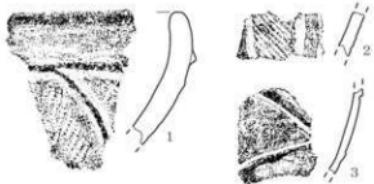
D-141号土坑



D-143号土坑



D-145号土坑

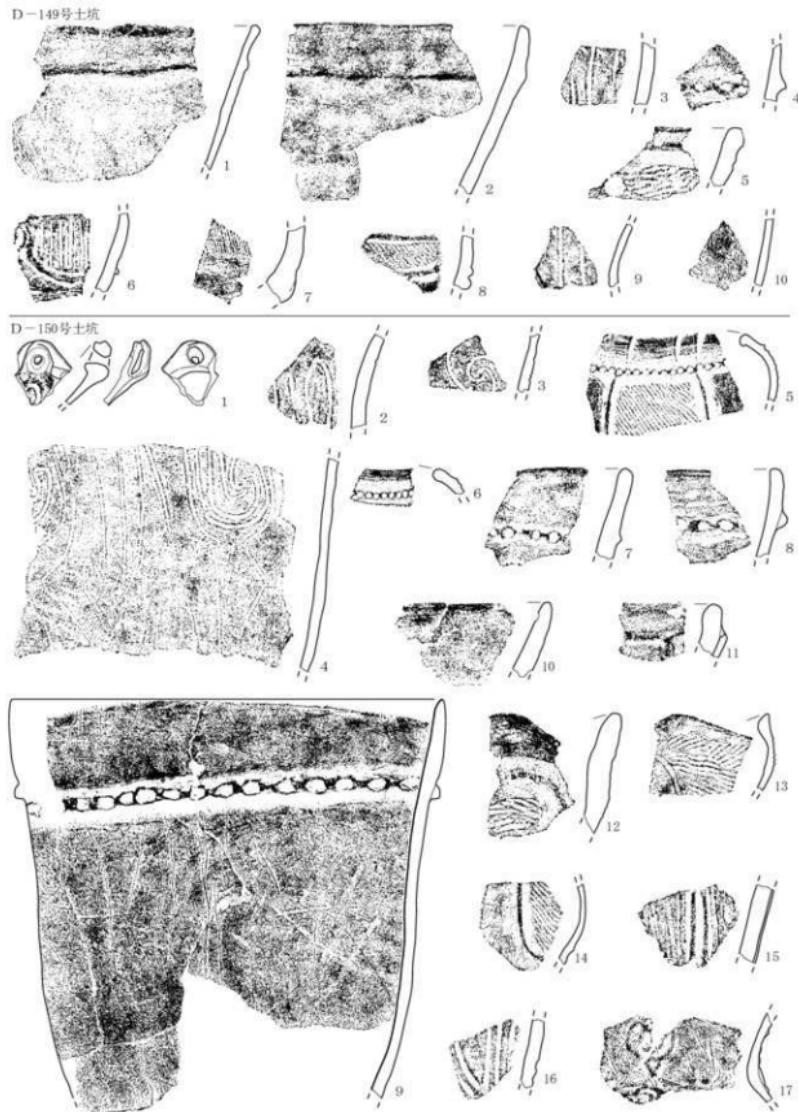


D-147号土坑



第495図 D-136・138・141・143・145・147号土坑

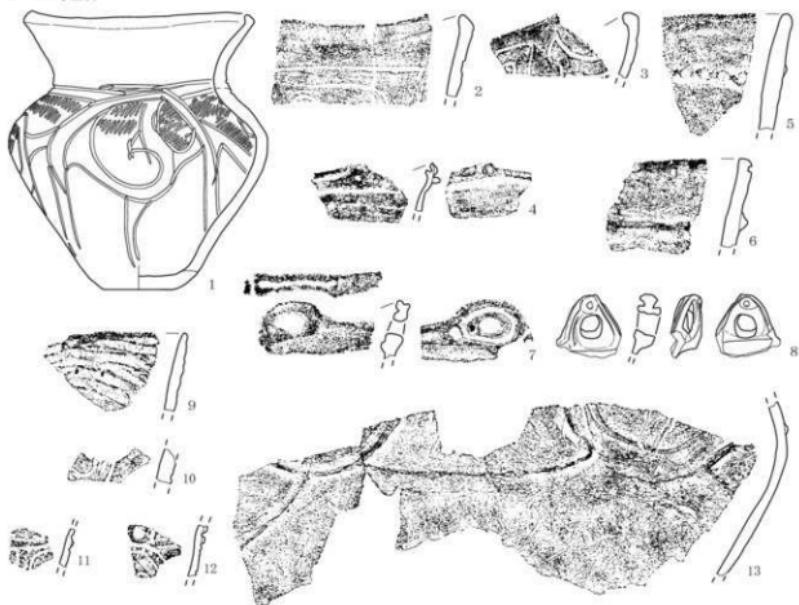
0 1:4 10cm



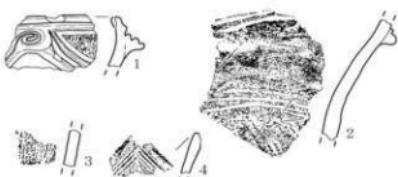
第496図 D-149・150号土坑

0 1:4 10cm

D-151号土坑



D-152号土坑



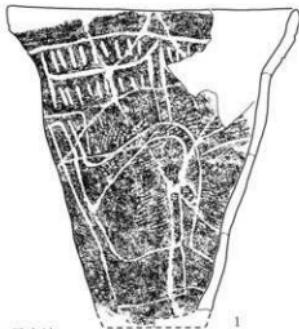
D-154号土坑



D-153号土坑



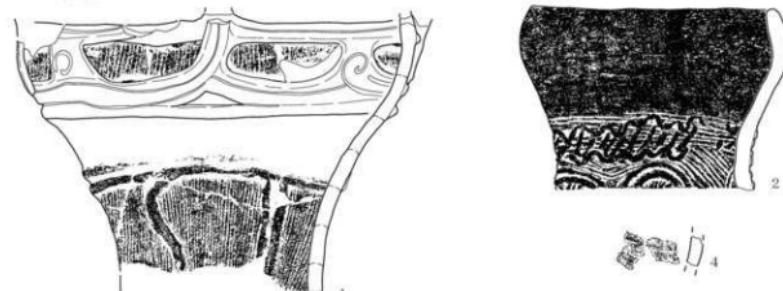
D-155号土坑



第497図 D-151~155号土坑

0 1 : 4 10cm

D-156号土坑



D-157号土坑



D-158号土坑



D-159号土坑



D-160号土坑



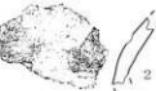
D-161号土坑



D-163号土坑



D-164号土坑



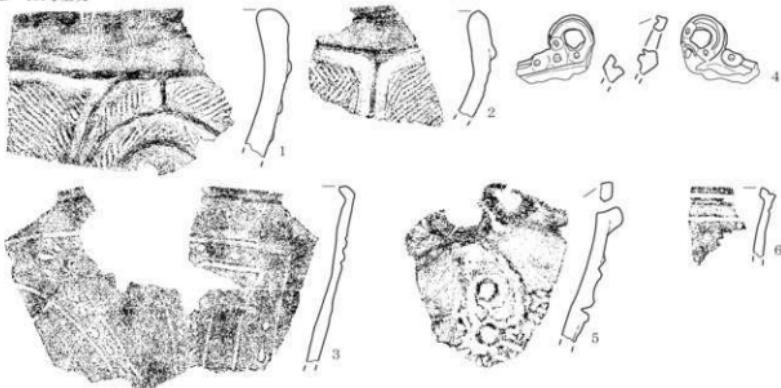
D-165号土坑



第498図 D-156~161・163~165号土坑

0 1:4 10cm

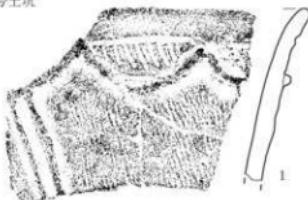
D-166号土坑



D-168号土坑



D-169号土坑



D-170号土坑



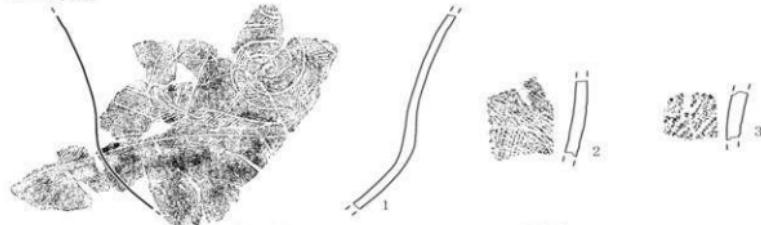
D-171号土坑



D-174号土坑



D-175号土坑



第499図 D-166・168~171・174・175号土坑

0 1:4 10cm

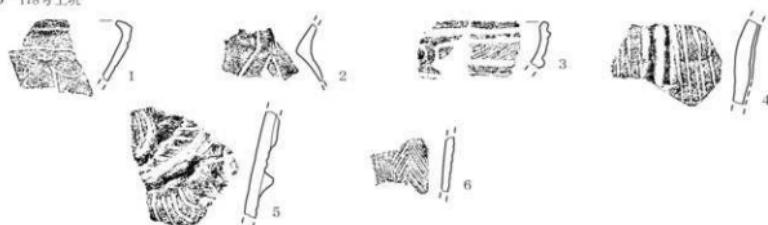
D-176号土坑



D-177号土坑



D-178号土坑



D-179号土坑



D-180号土坑

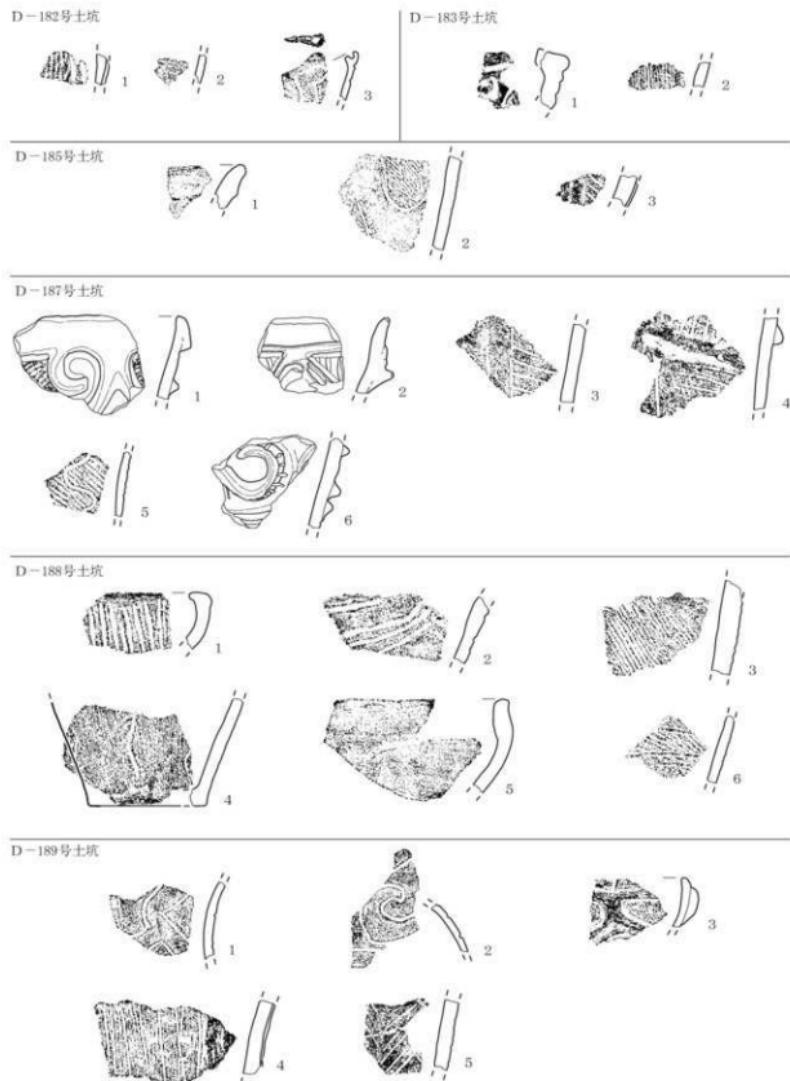


D-181号土坑



第500図 D-176~181号土坑

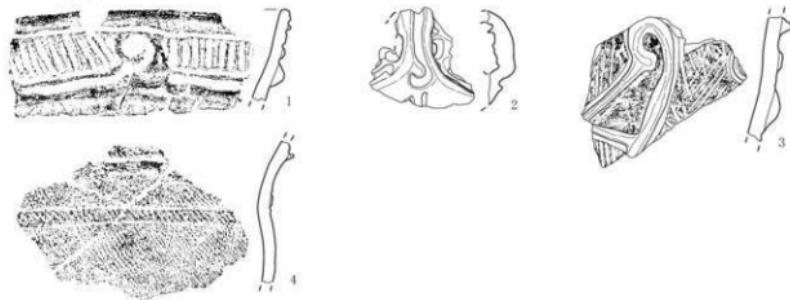
0 1:4 10cm



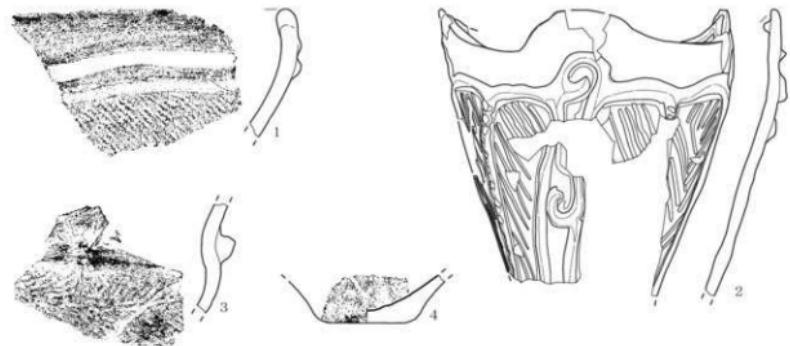
第501図 D-182・183・185・187～189号土坑

0 1:4 10cm

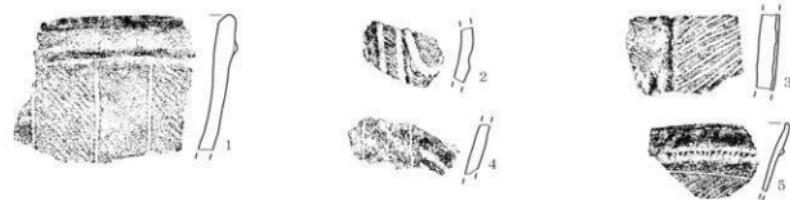
D-190号土坑



D-191号土坑



D-192号土坑



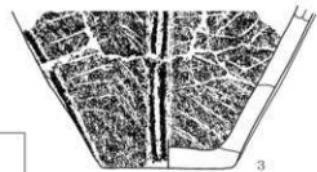
D-193号土坑



第502図 D-190~193号土坑

0 1 : 4 10cm

D-194号土坑



D-195号土坑



D-196号土坑



第503図 D-194~196号土坑

原田遺跡A区縄文時代ピット出土遺物実測図

P-1号ピット



P-2号ピット



P-5号ピット



P-6号ピット



P-7号ピット



P-9号ピット



P-10号ピット



P-10号ピット



P-11号ピット

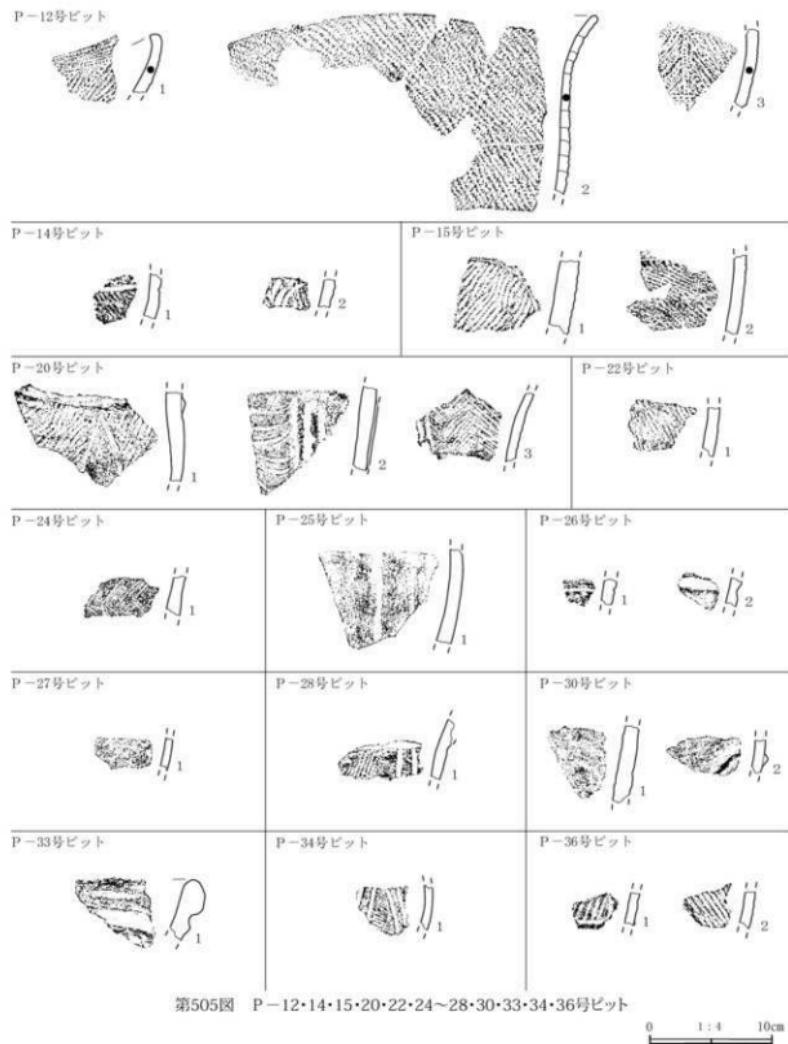


P-13号ピット



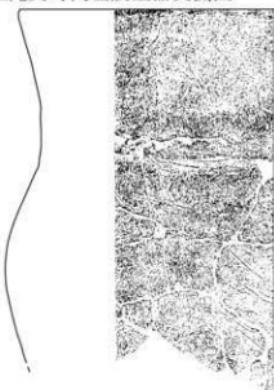
第504図 P-1・2・5~7・9~11~13号ピット

0 1 : 4 10cm



原田遺跡A区縄文時代埋設土器実測図

U-1号埋設土器



U-2号埋設土器



U-5号埋設土器

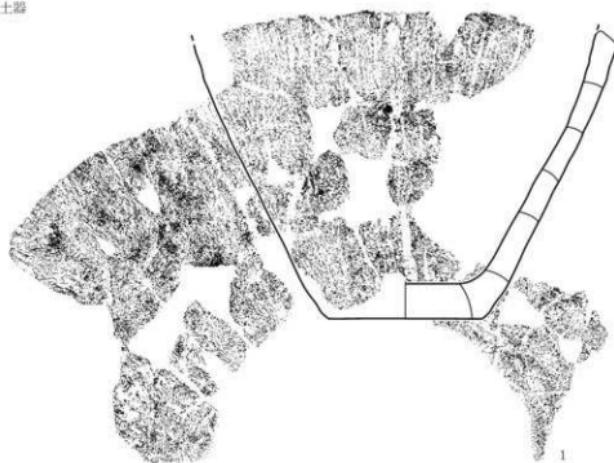
U-4号埋設土器



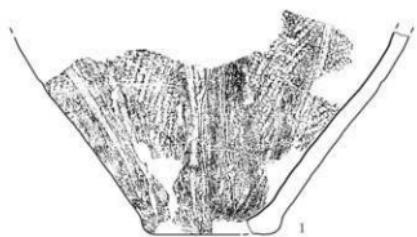
第506図 U-1・2・4・5号埋設土器

0 1 : 4 10cm

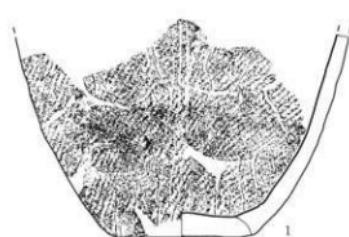
U-3号埋設土器



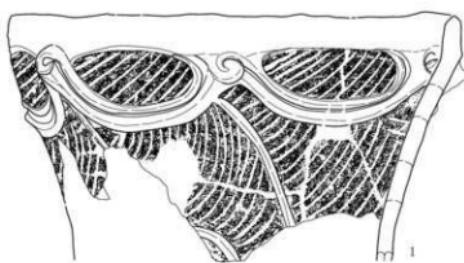
U-7号埋設土器



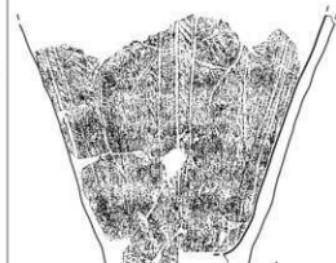
U-8号埋設土器



U-10号埋設土器



U-11号埋設土器



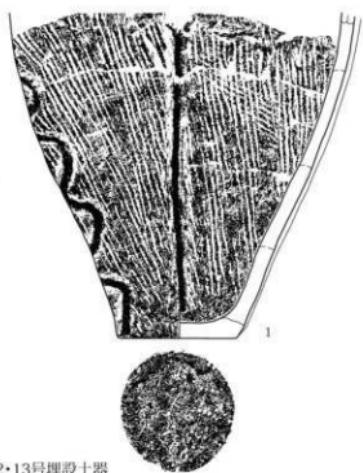
第507図 U-3・7・8・10・11号埋設土器

0 1:4 10cm

U-6号埋設土器



U-13号埋設土器

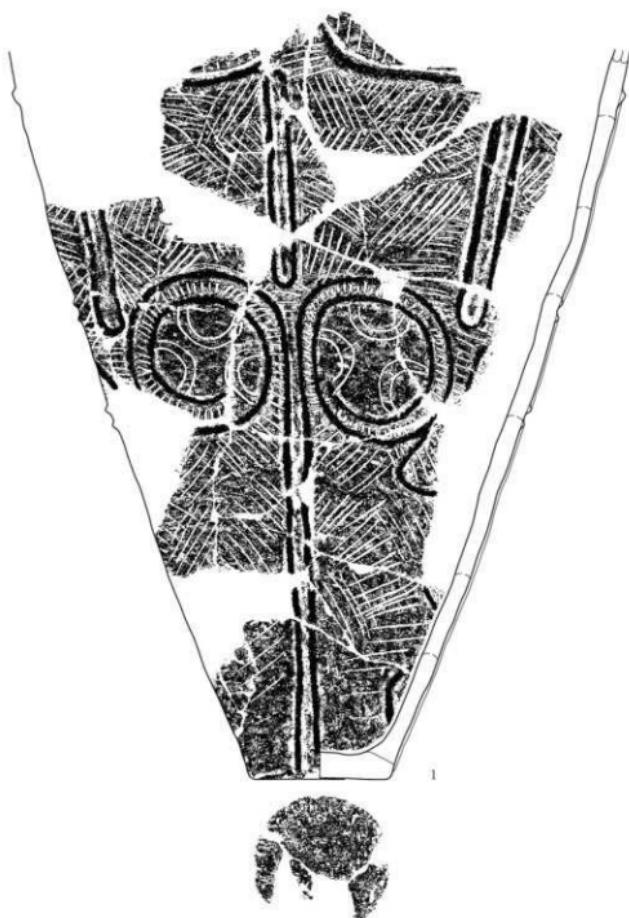


U-12号埋設土器



第508図 U-6・12・13号埋設土器

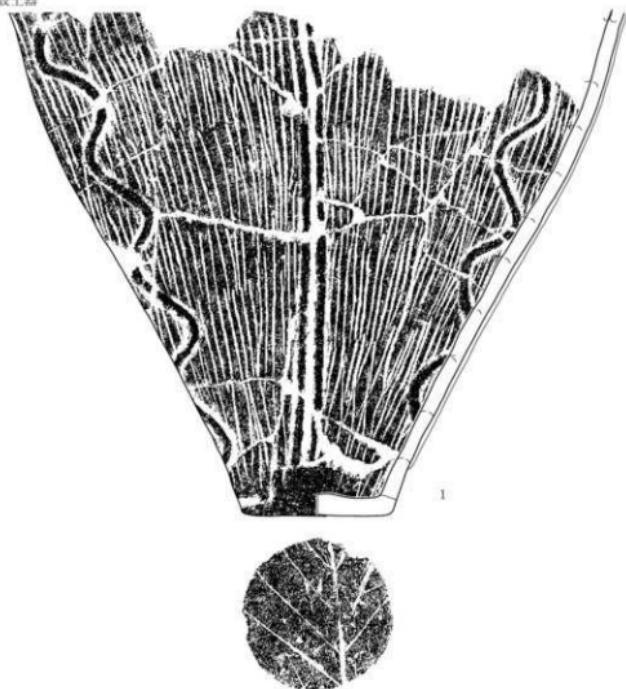
0 1:4 10cm



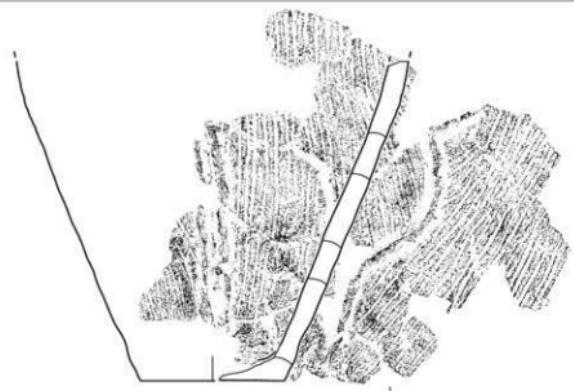
第509図 U-9号埋設土器

0 1 : 4 10cm

U-14号埋設土器

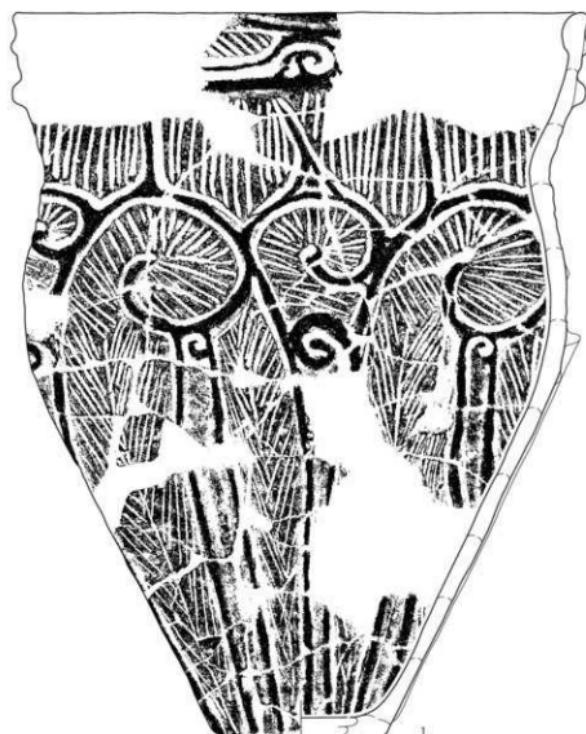


U-15号埋設土器



第510図 U-14・15号埋設土器実測図

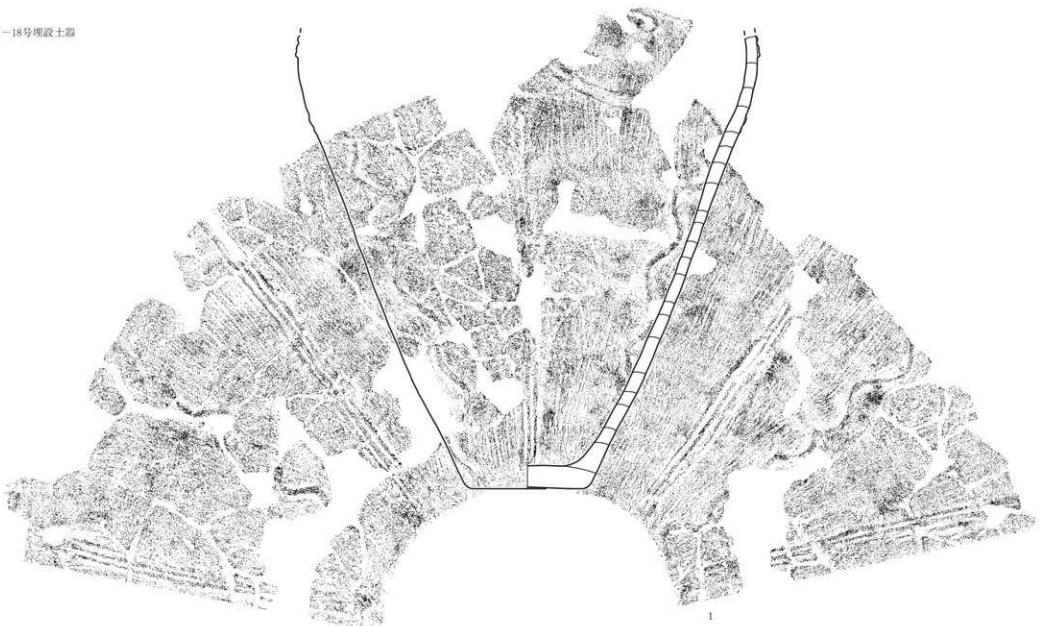
0 1:4 10cm



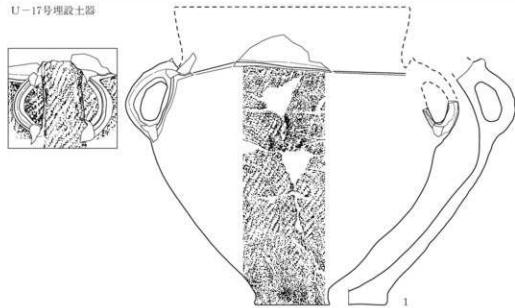
第511図 U-16号埋設土器

0 1 : 4 10cm

U-18号埋設土器



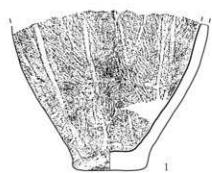
U-17号埋設土器



U-19号埋設土器



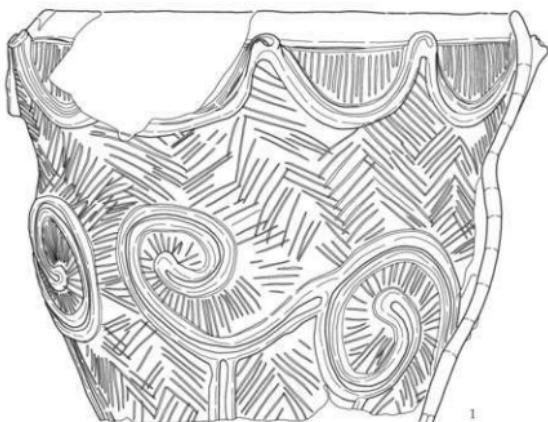
U-20号埋設土器



第512図 U-17~20号埋設土器

0 1:4 10cm

U-23号埋設土器



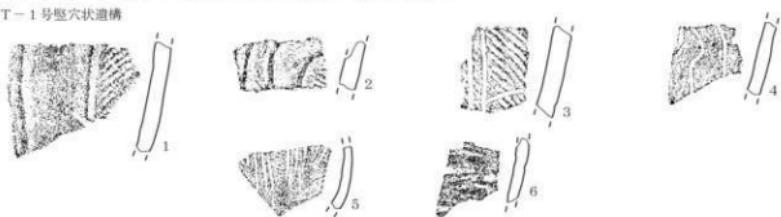
U-24号埋設土器



第513図 U-23・24号埋設土器

原田遺跡A区縄文時代堅穴状遺構出土遺物実測図

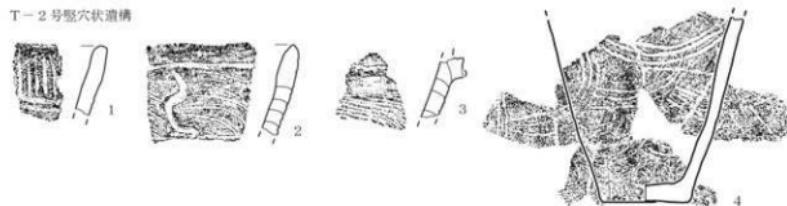
T-1号堅穴状遺構



第514図 T-1号堅穴状遺構

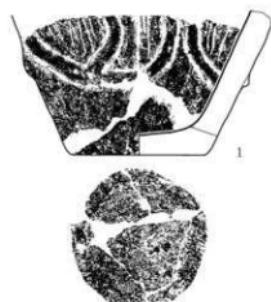
0 1:4 10cm

T-2号竪穴状遺構



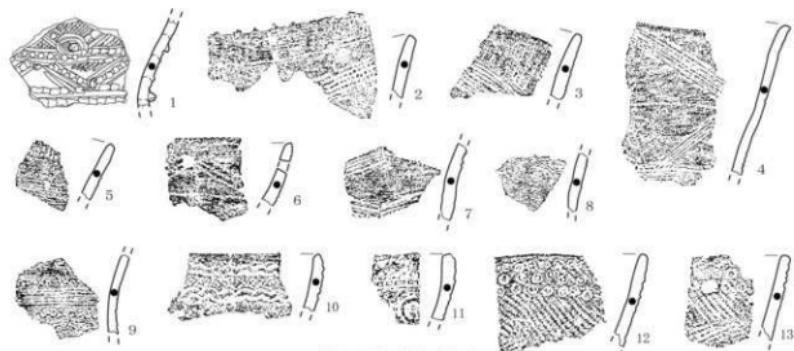
第515図 T-2号竪穴状遺構

原田遺跡A区縄文時代石圓炉出土遺物実測図



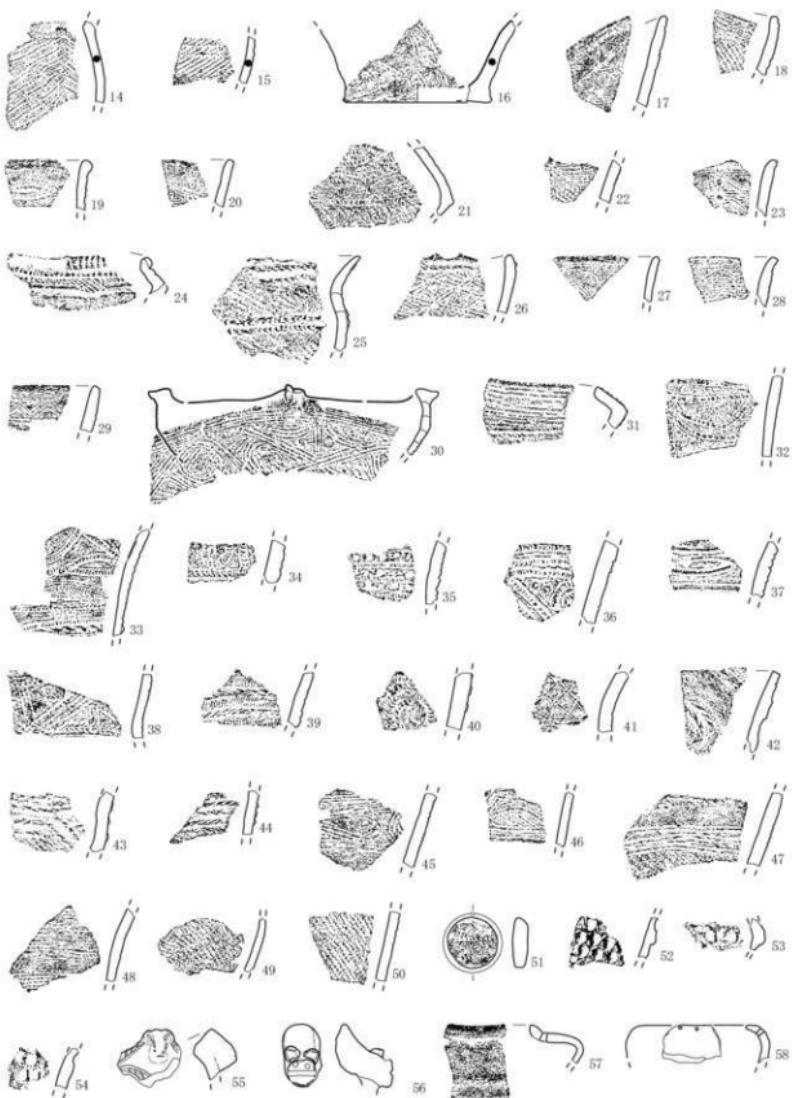
第516図 J-15号住内石圓炉

原田遺跡A区縄文時代グリッド出土遺物実測図



第517図 グリッド(1)

0 1:4 10cm



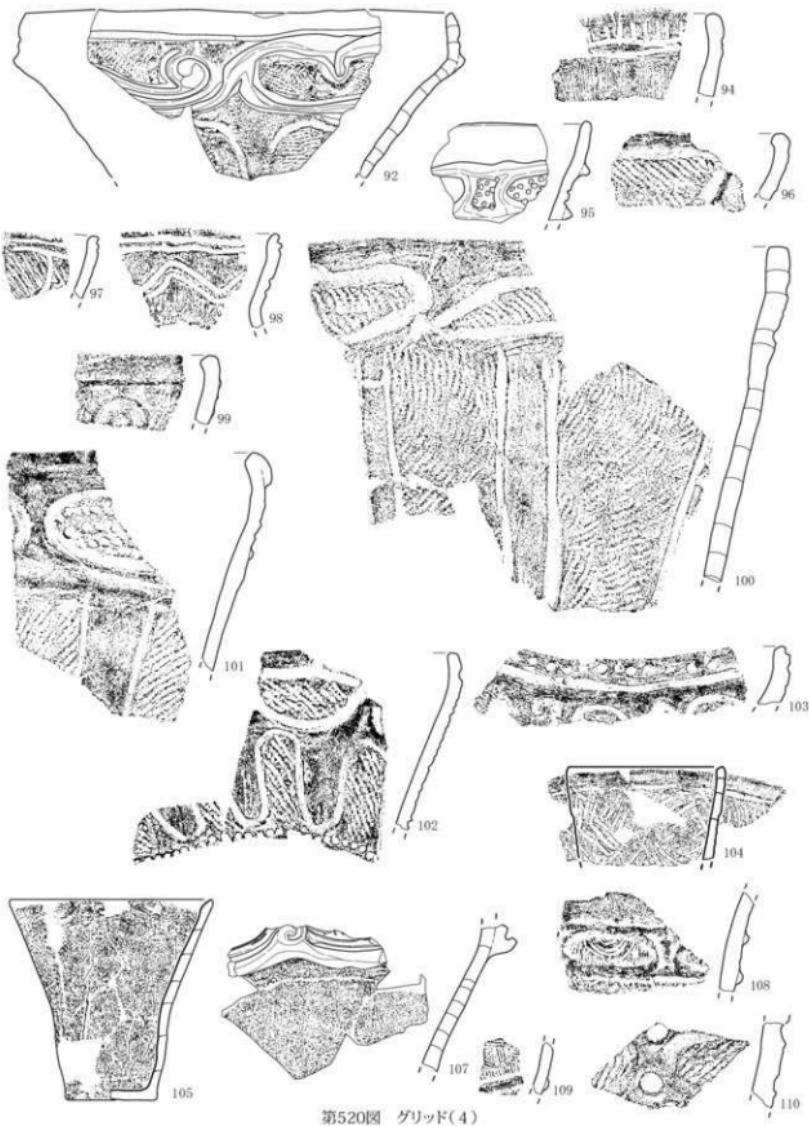
第518図 グリッド(2)

0 1:4 10cm



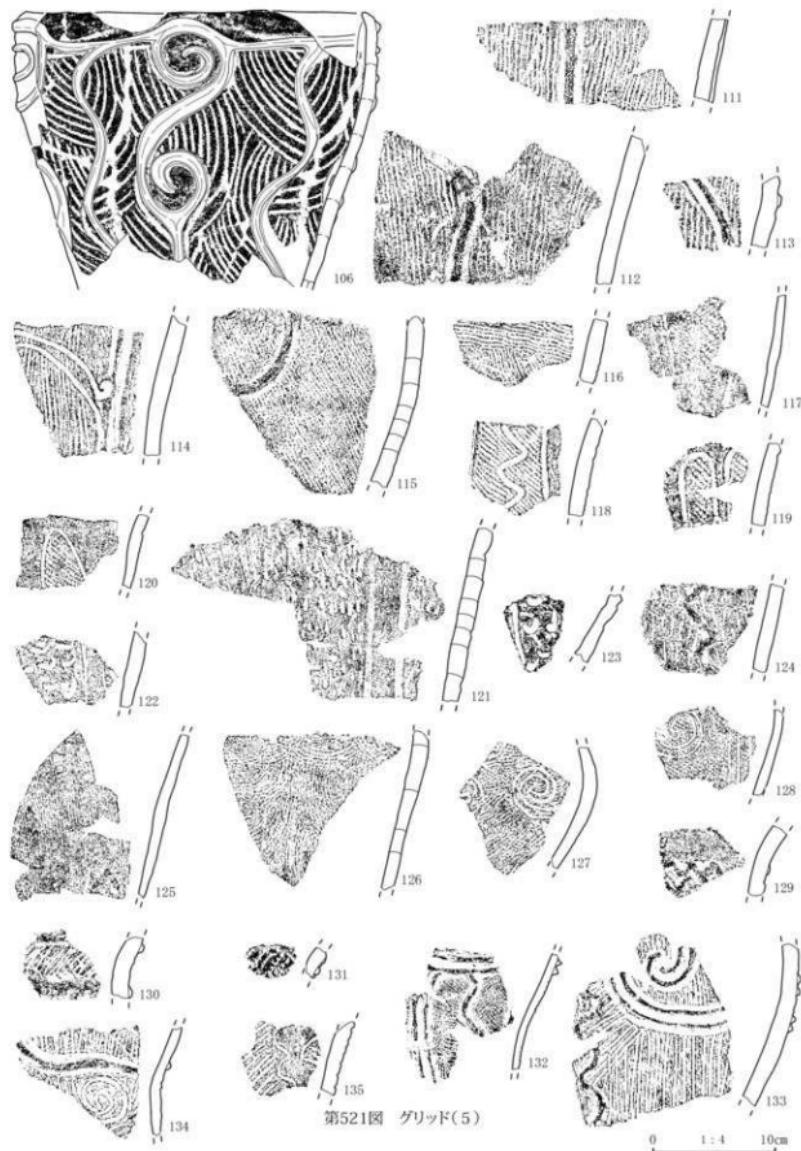
第519図 グリッド(3)

0 1 : 4 10cm



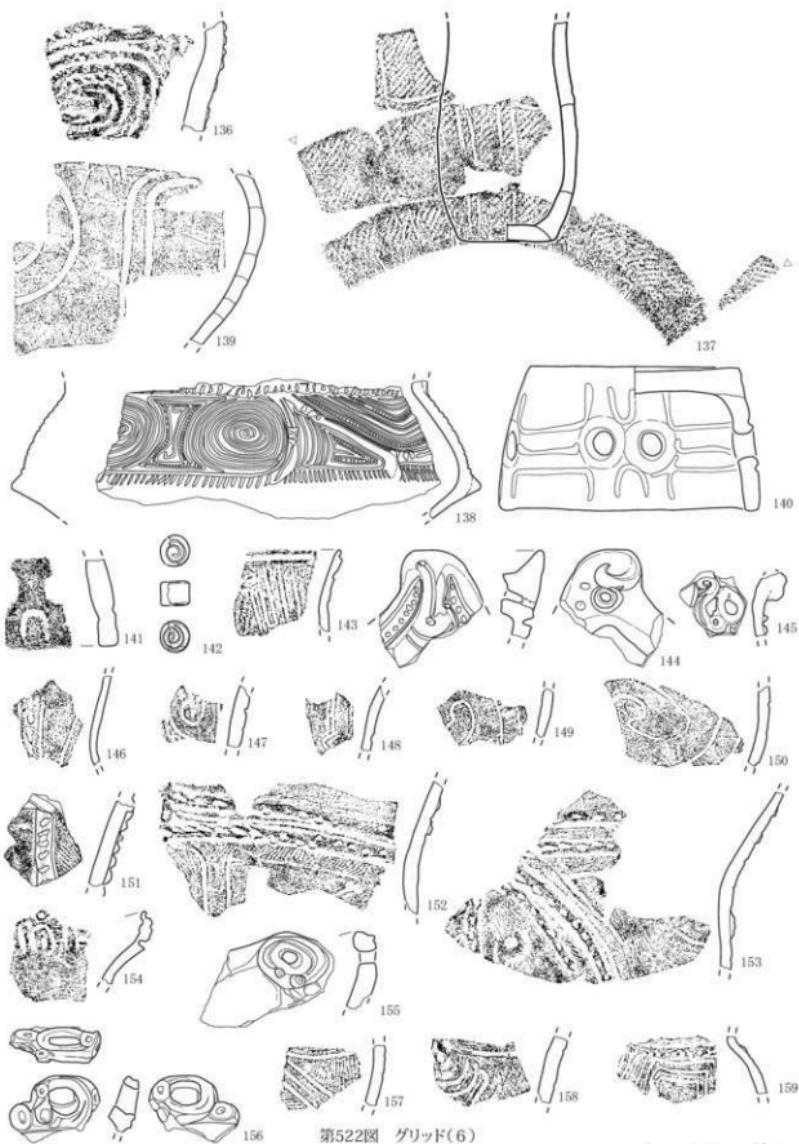
第520図 グリッド(4)

0 1 : 4 10cm



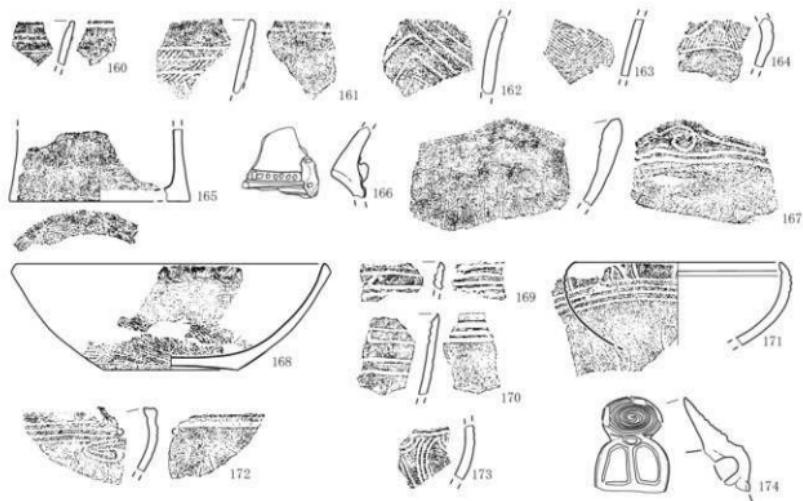
第521図 グリッド(5)

0 1:4 10cm



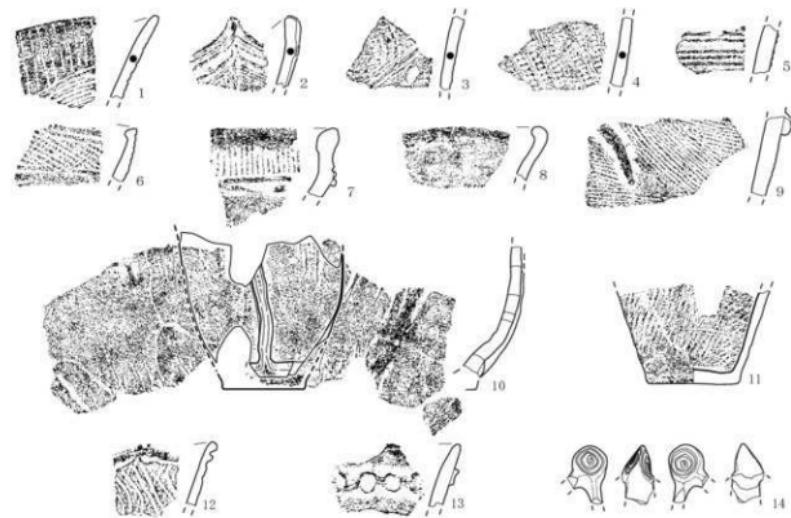
第522図 グリッド(6)

0 1:4 10cm



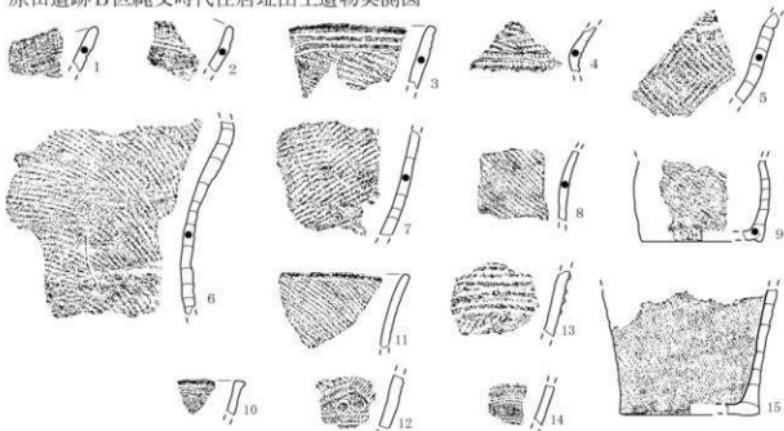
第523図 グリッド(7)

原田遺跡A区縄文時代一括遺物実測図

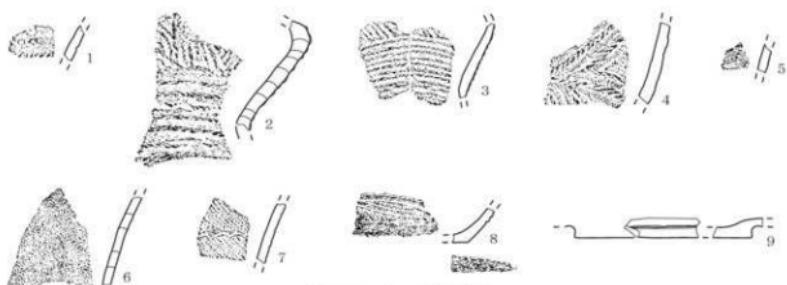


第524図 原田A区一括遺物

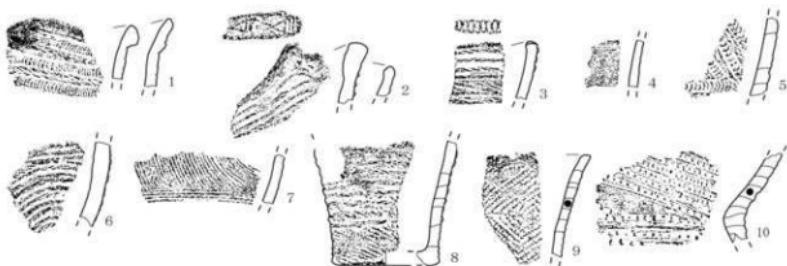
原田遺跡B区縄文時代住居址出土遺物実測図



第525図 J-1号住居址

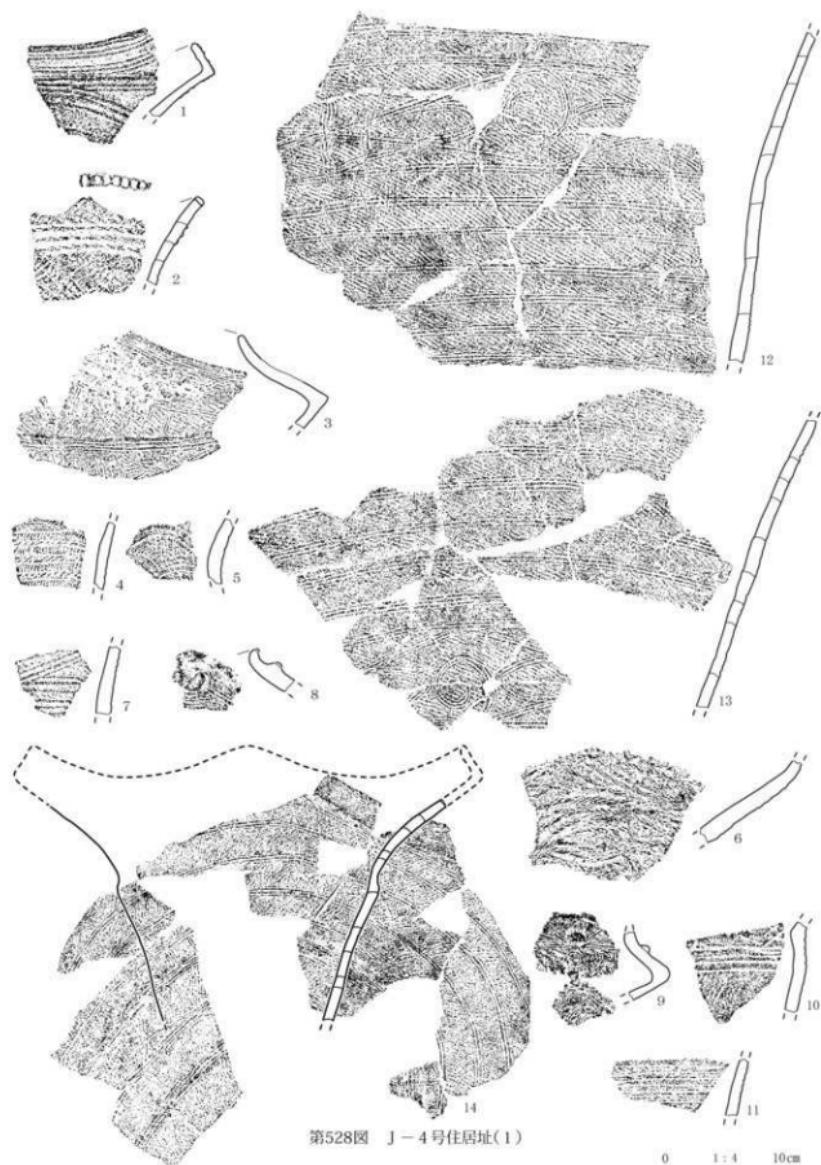


第526図 J-2号住居址



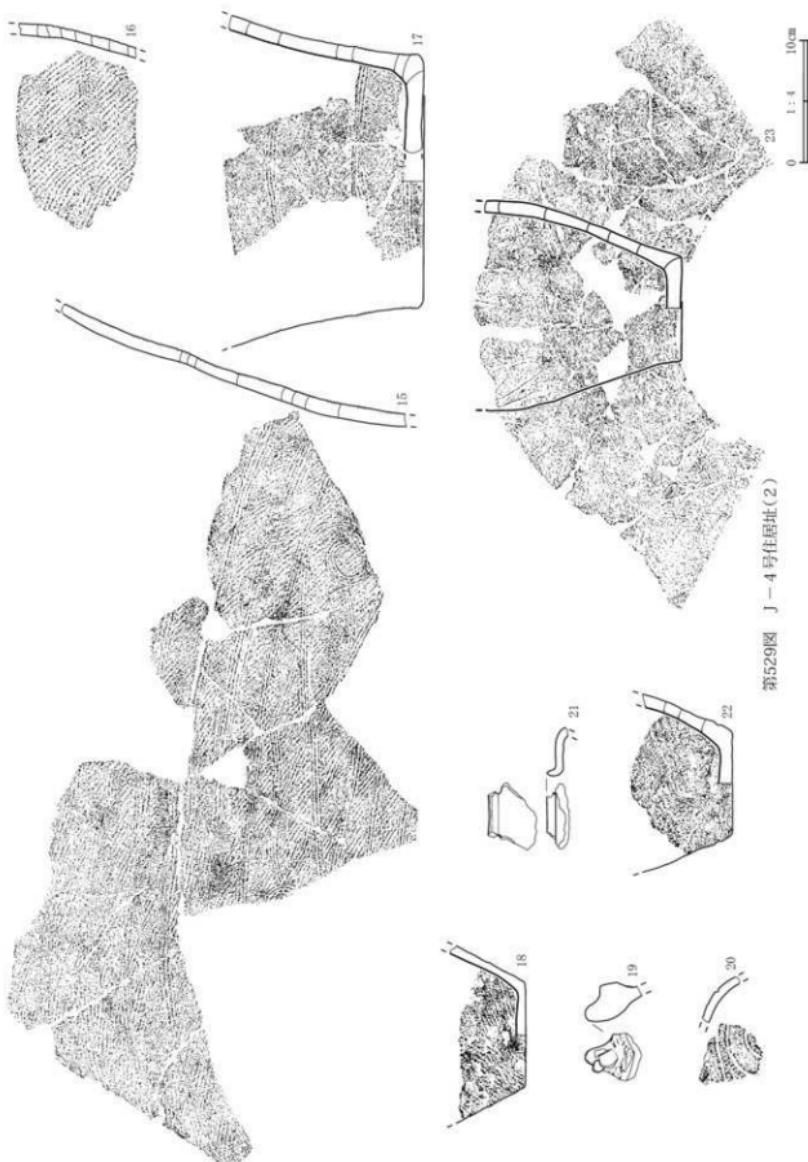
第527図 J-3号住居址

0 1:4 10cm

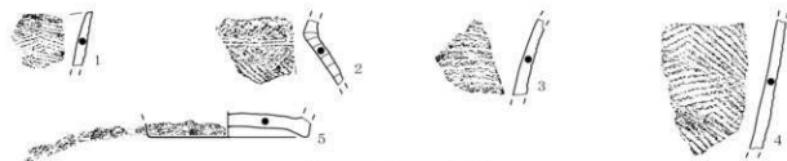


第528図 J-4号住居址(1)

0 1 : 4 10cm



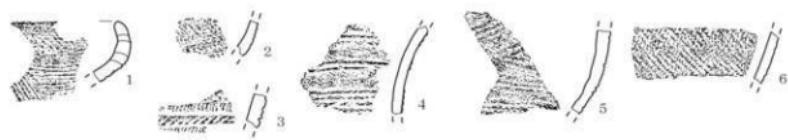
第529図 J-4号住居址(2)



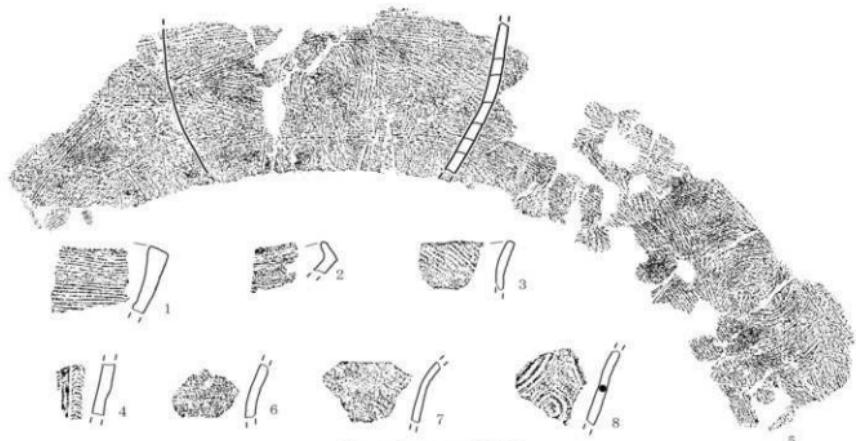
第530図 J-5号住居址



第531図 J-6号住居址

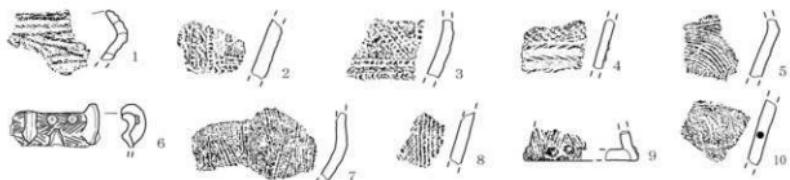


第532図 J-7号住居址

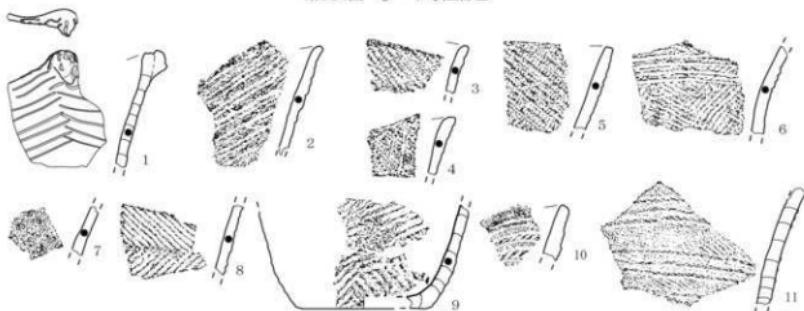


第533図 J-8号住居址

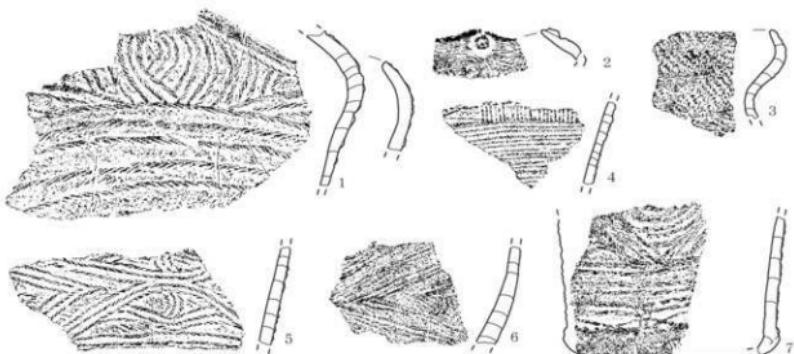
0 1:4 10cm



第534図 J-9号住居址



第535図 J-10号住居址

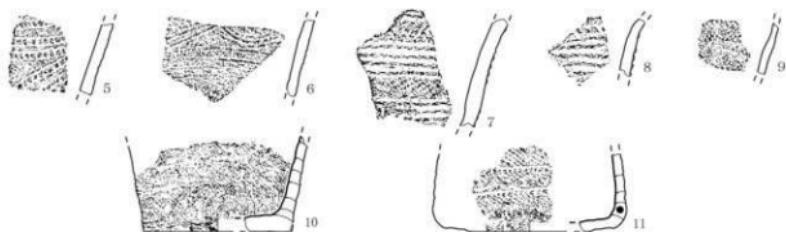


第536図 J-11号住居址

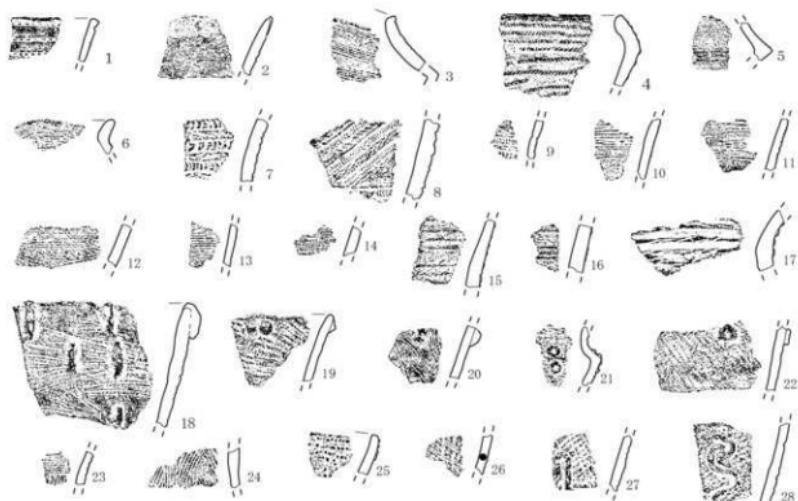


第537図 J-12号住居址(1)

0 1:4 10cm



第538図 J-12号住居址(2)



第539図 J-13号住居址



第540図 J-14号住居址



第541図 J-15号住居址

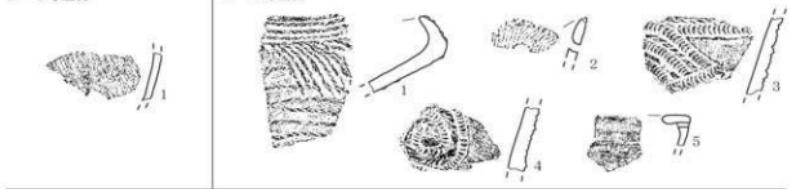
0 1:4 10cm

原田遺跡B区縄文時代土坑出土遺物実測図

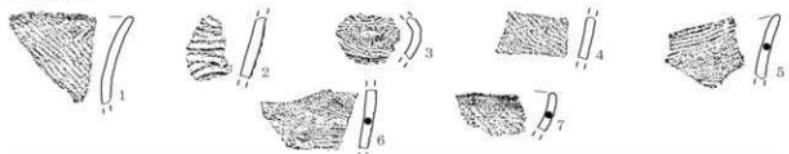
D-1号土坑



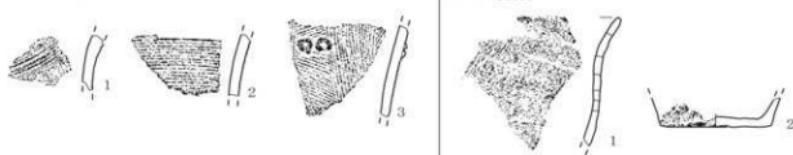
D-2号土坑



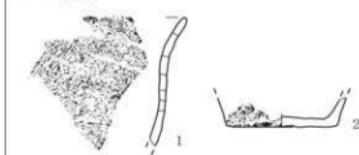
D-4号土坑



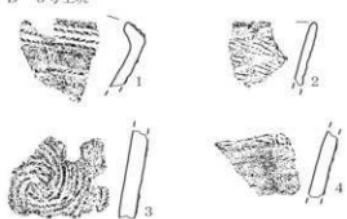
D-5号土坑



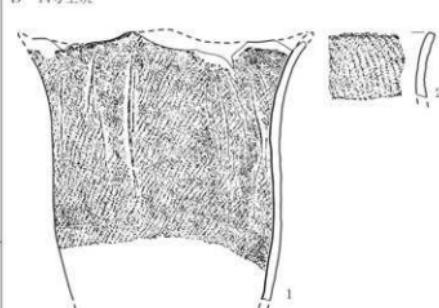
D-10号土坑



D-8号土坑



D-14号土坑



D-12号土坑



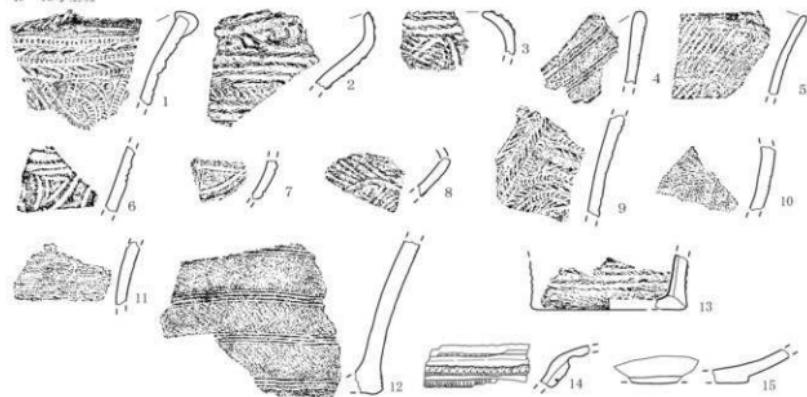
D-13号土坑



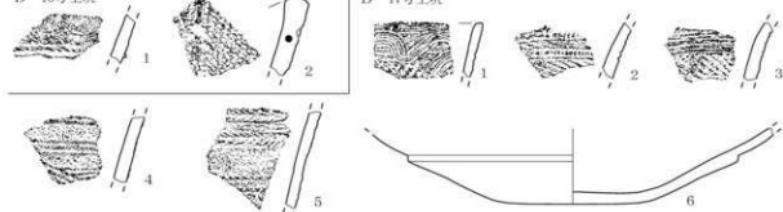
第542図 D-1~5・8・10・12~14号土坑

0 1 : 4 10cm

D-15号土坑



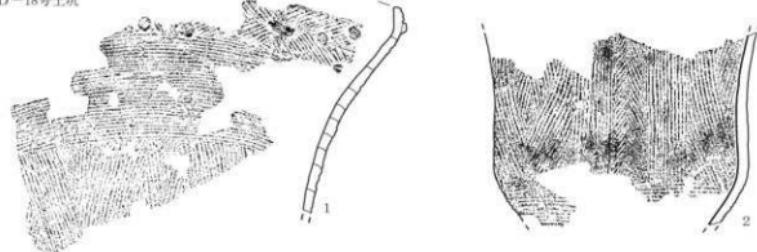
D-16号土坑



D-17号土坑



D-18号土坑



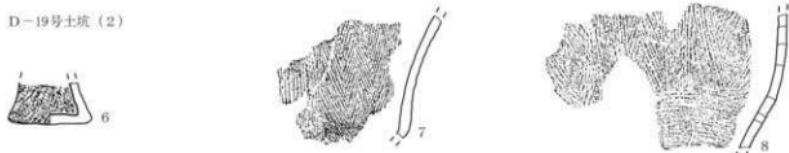
D-19号土坑 (1)



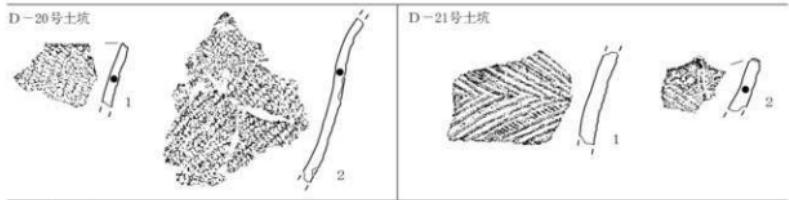
第543図 D-15~19(1)号土坑

0 1:4 10cm

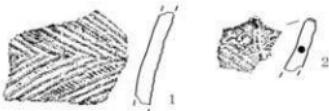
D-19号土坑 (2)



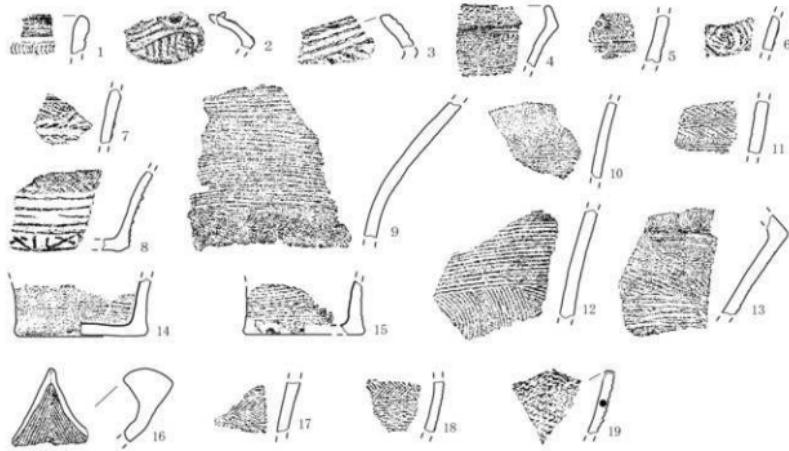
D-20号土坑



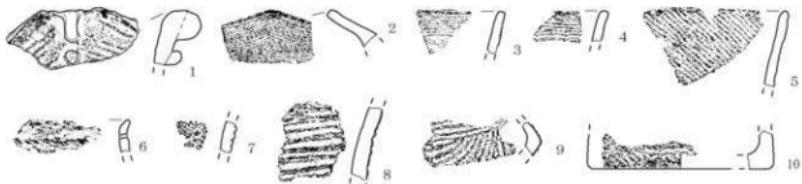
D-21号土坑



D-23号土坑

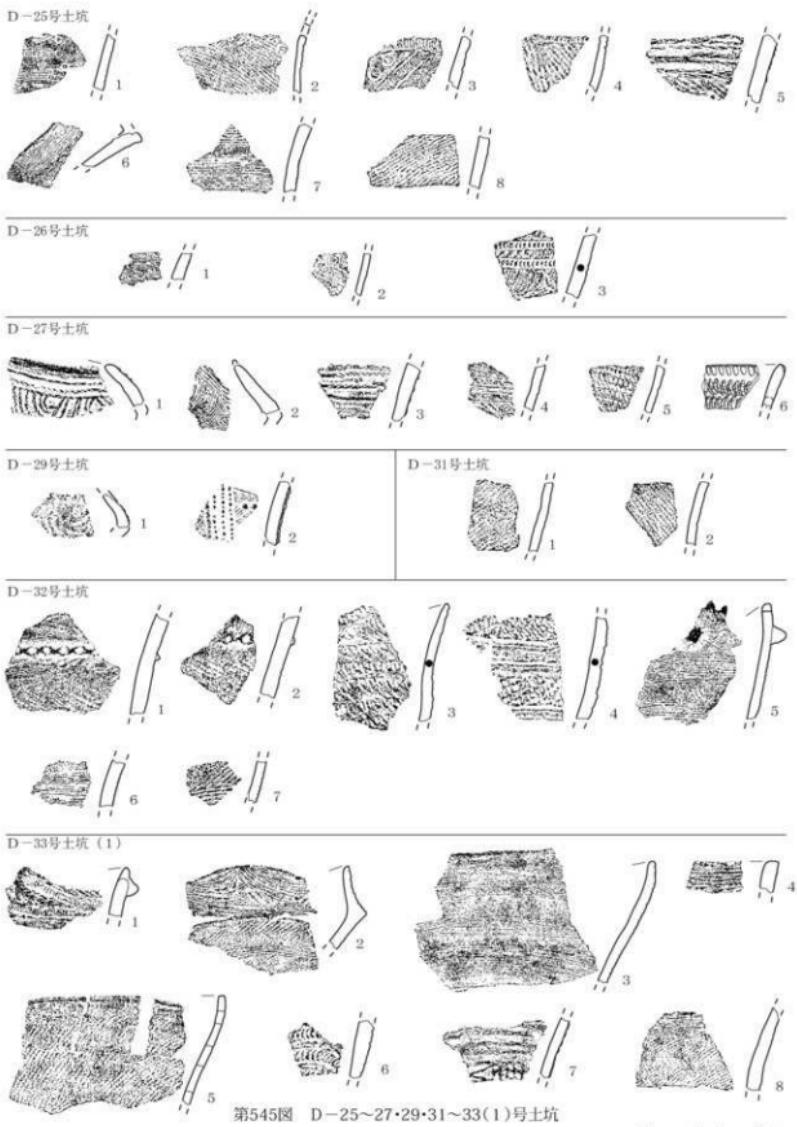


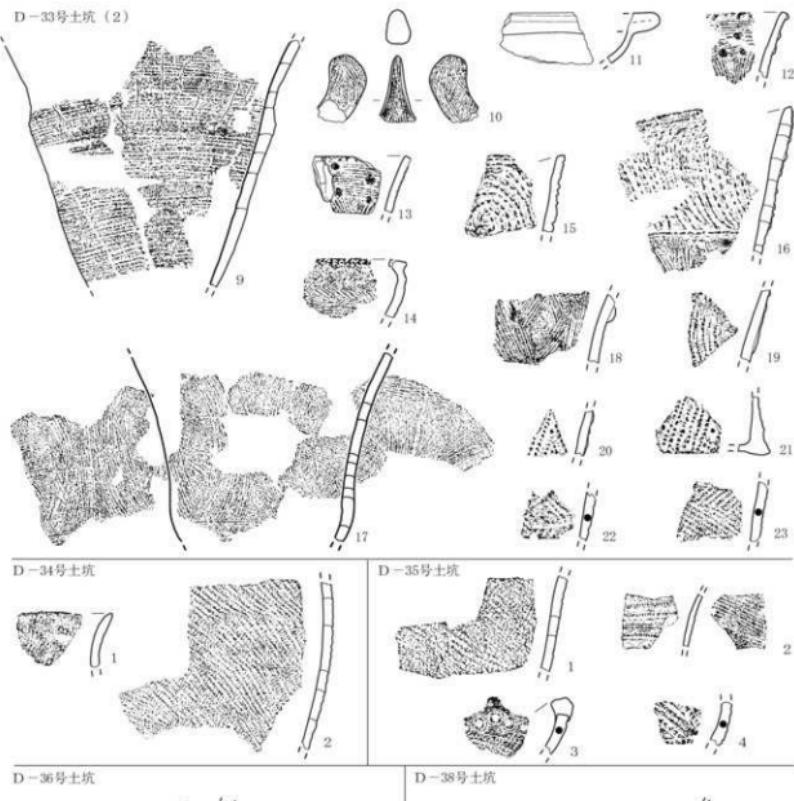
D-24号土坑



第544図 D-19(2)~21・23・24号土坑

0 1 : 4 10cm

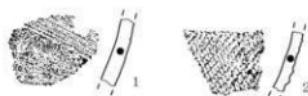




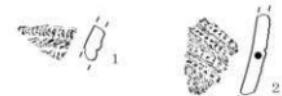
第546図 D-33(2)～36・38号土坑

原田遺跡B区縄文時代ピット出土遺物実測図

P-1号ピット



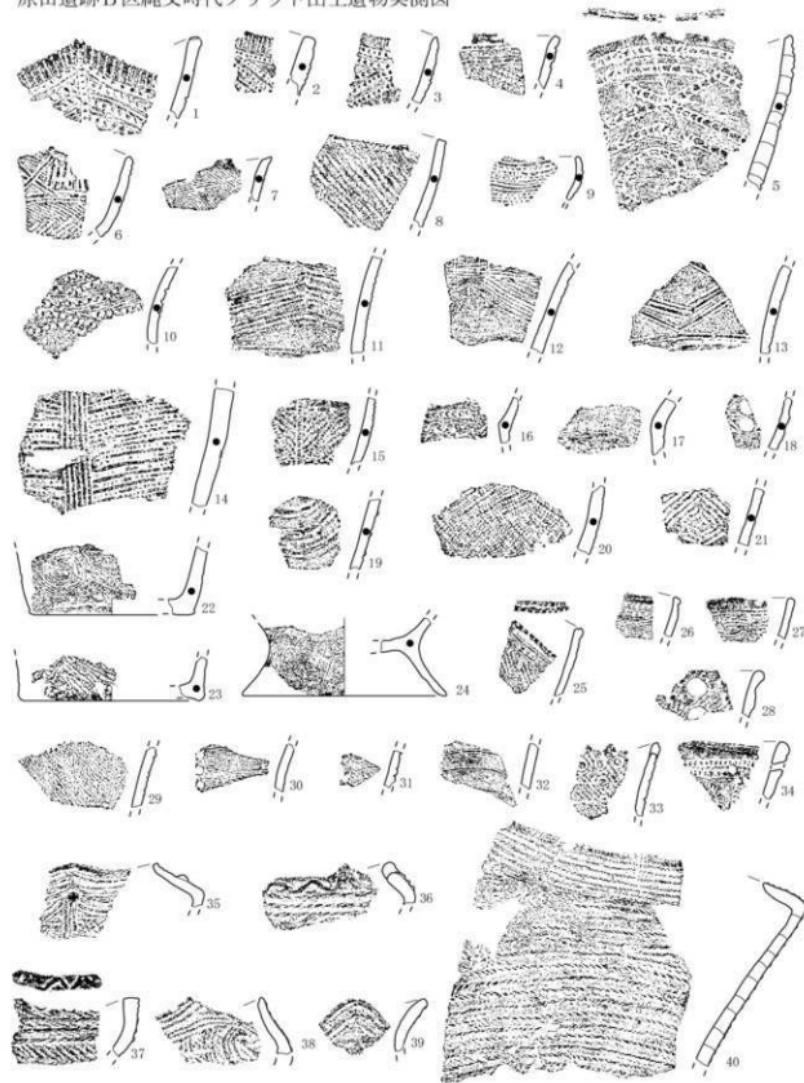
P-4号ピット



第547図 P-1・4号ピット

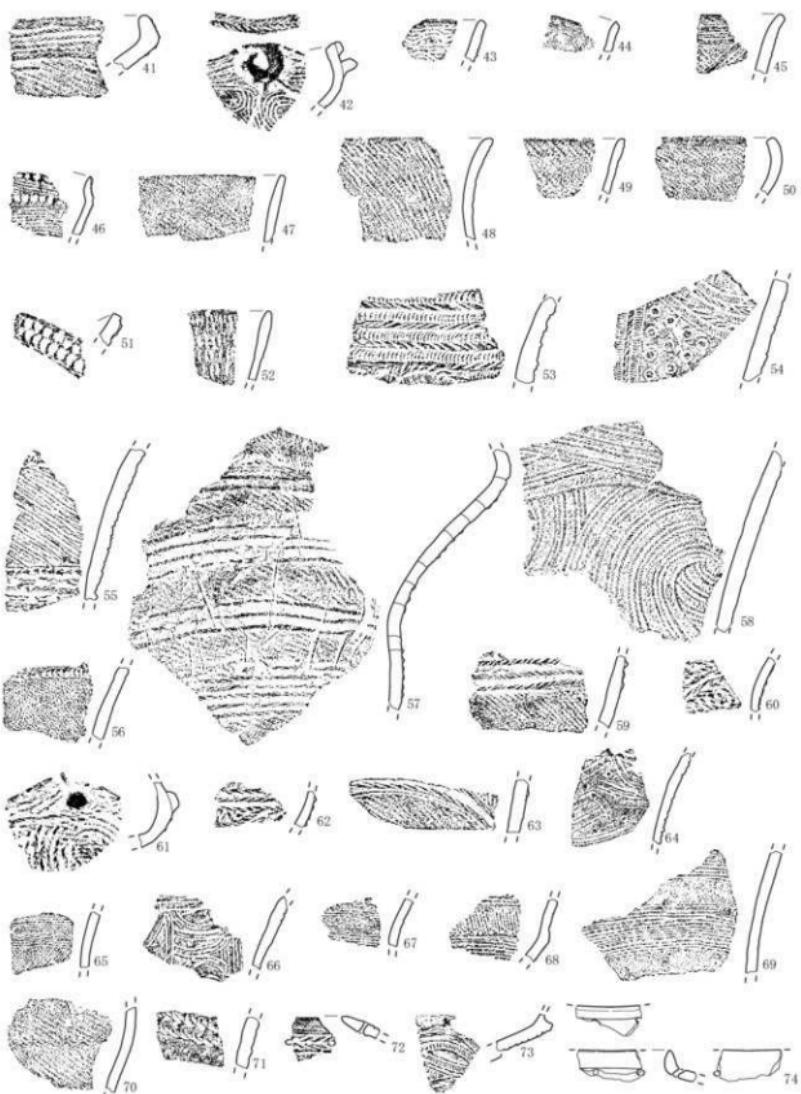
0 1 : 4 10cm

原田遺跡B区縄文時代グリッド出土遺物実測図



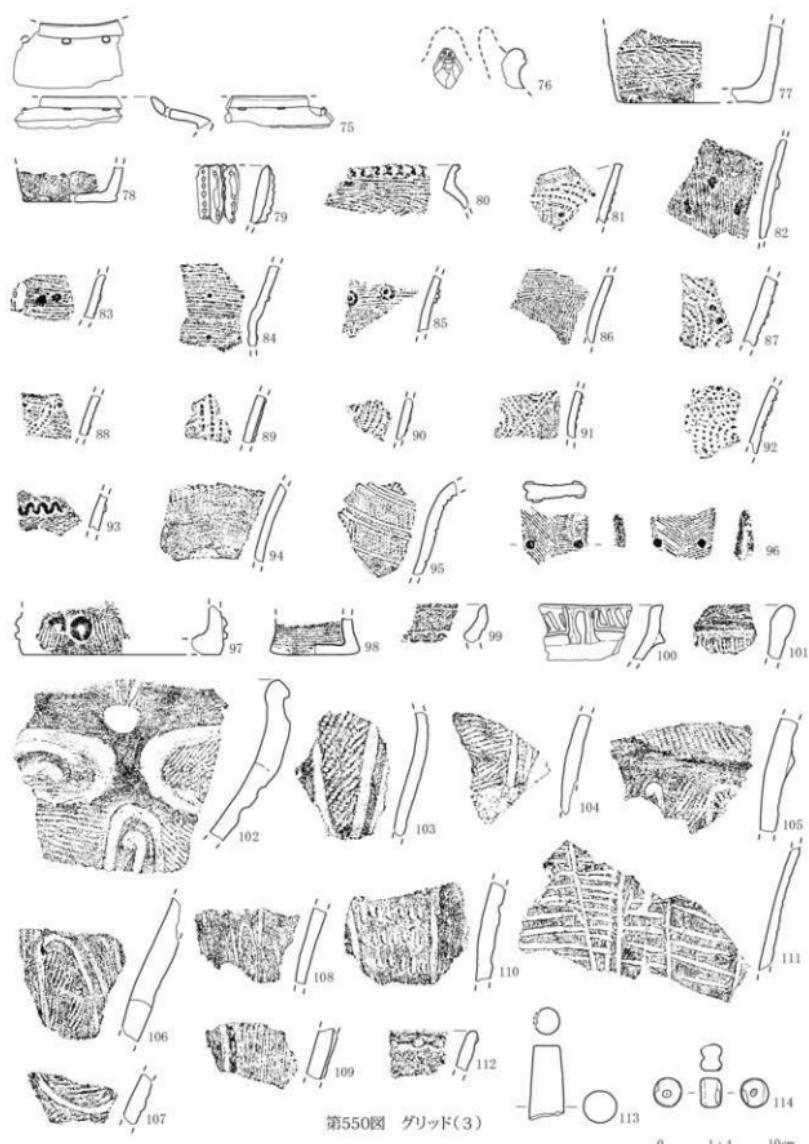
第548図 グリッド(1)

0 1 : 4 10cm



第549図 グリッド(2)

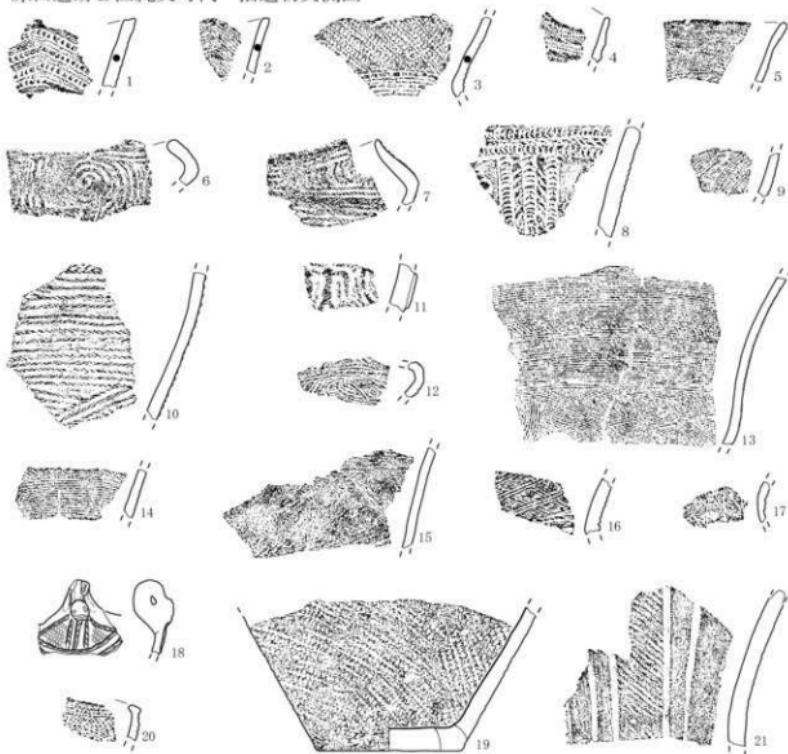
0 1 : 4 10cm



第550図 グリッド(3)

0 1:4 10cm

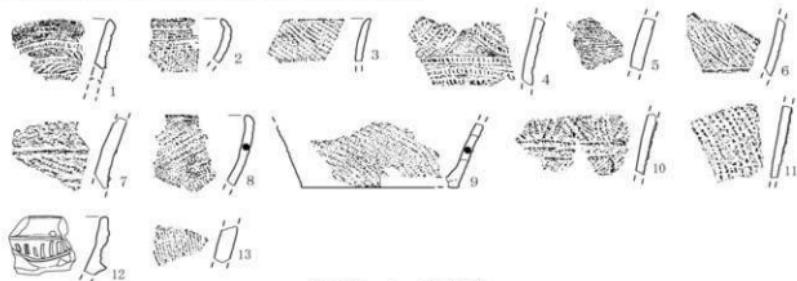
原田遺跡B区縄文時代一括遺物実測図



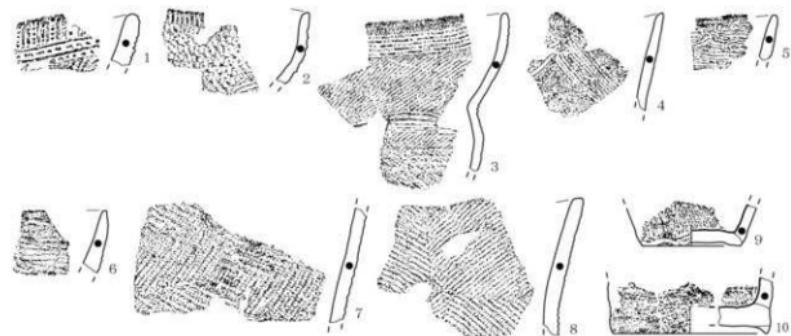
第551図 B区一括

0 1 : 4 10cm

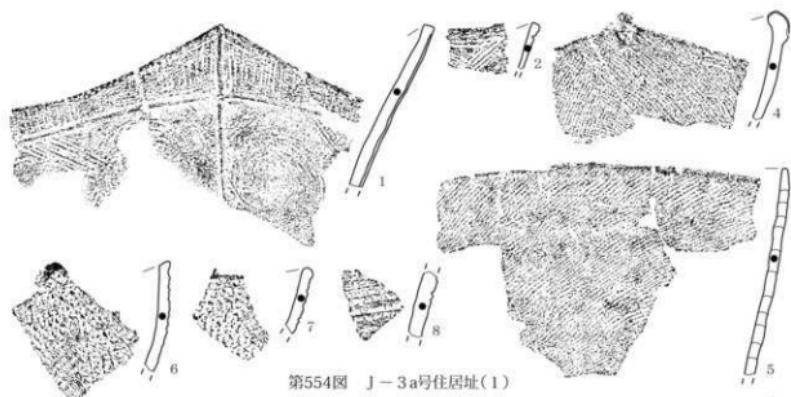
原田遺跡C区縄文時代住居址出土遺物実測図

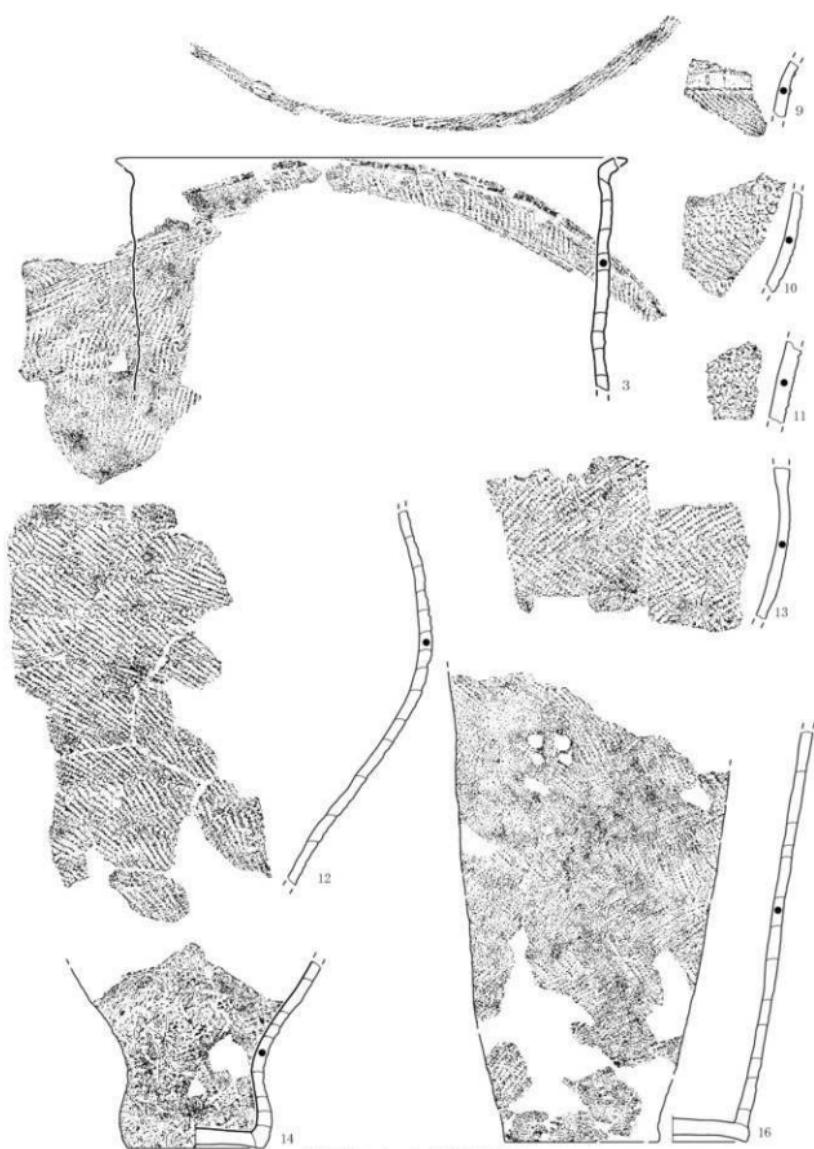


第552図 J-1号住居址



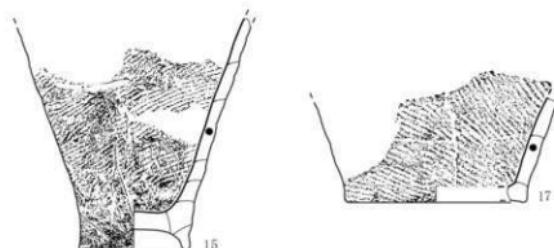
第553図 J-2号住居址





第555図 J-3a号住居址(2)

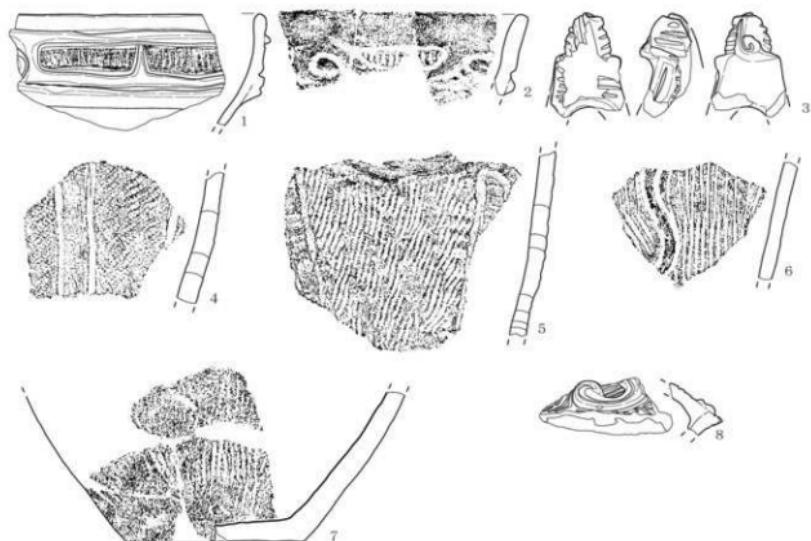
0 1:4 10cm



第556図 J-3a号住居址(3)

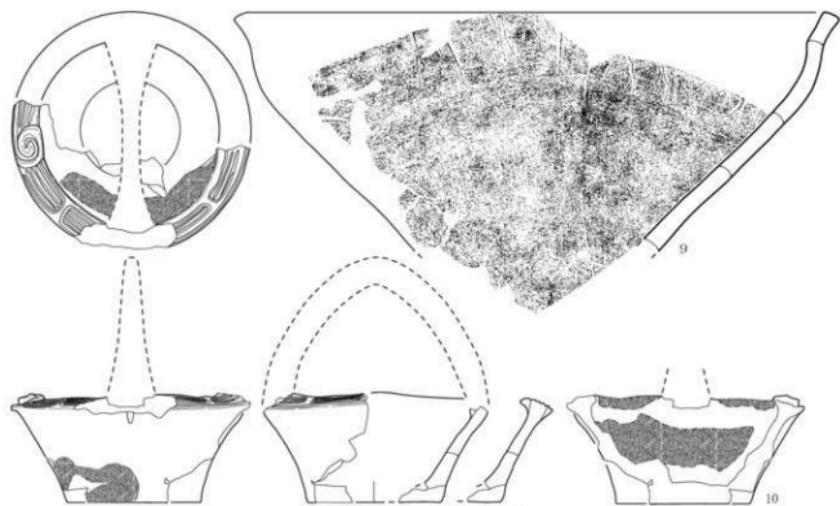


第557図 J-3b号住居址

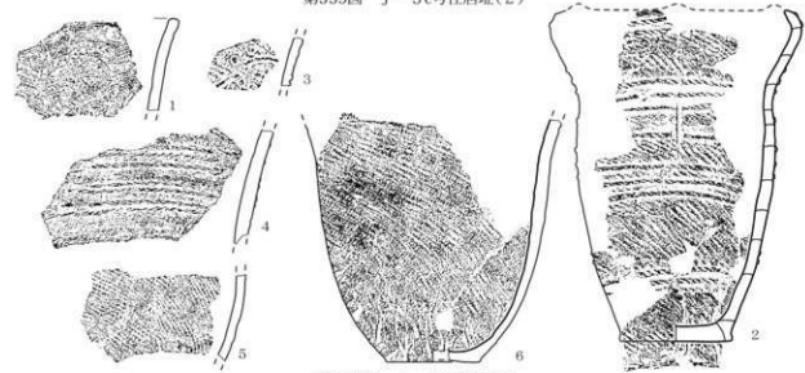


第558図 J-3c号住居址(1)

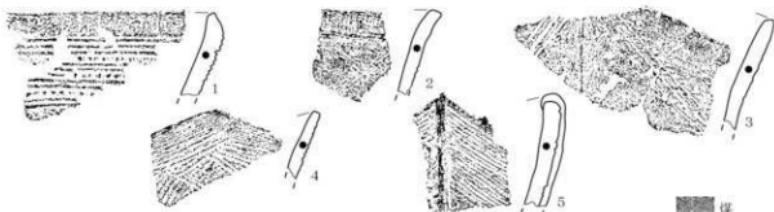
0 1:4 10cm



第559図 J-3c号住居址(2)

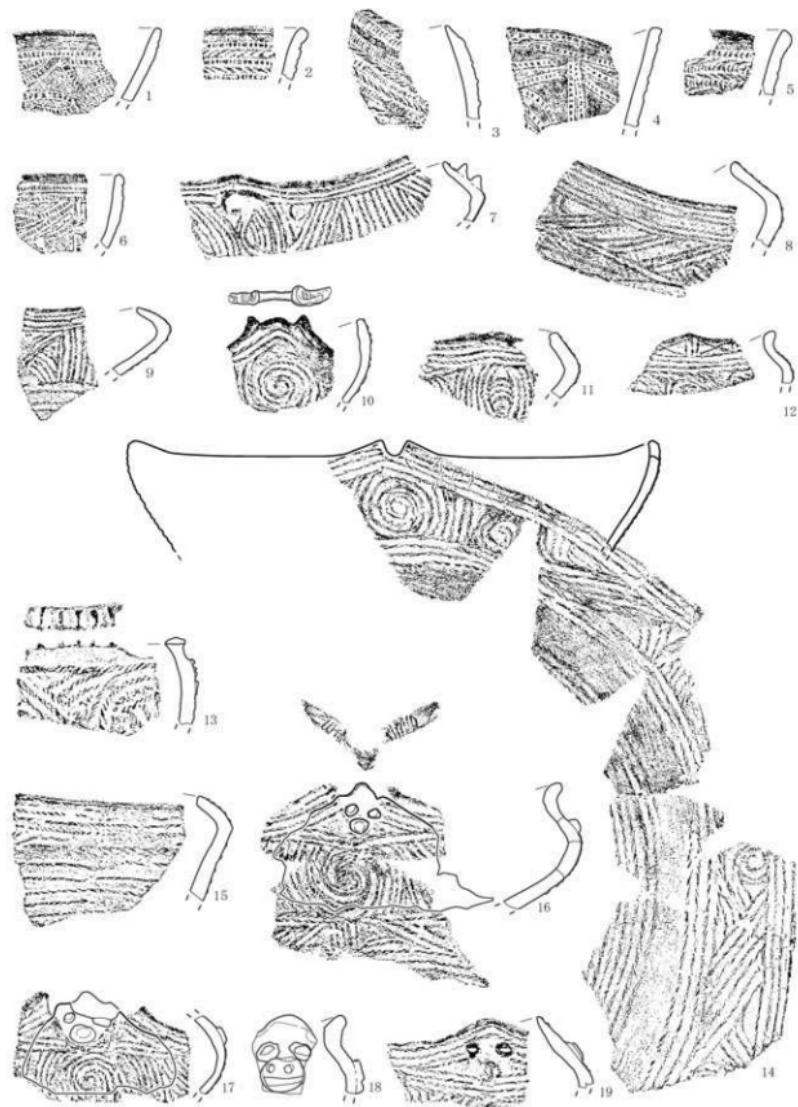


第560図 J-3d号住居址



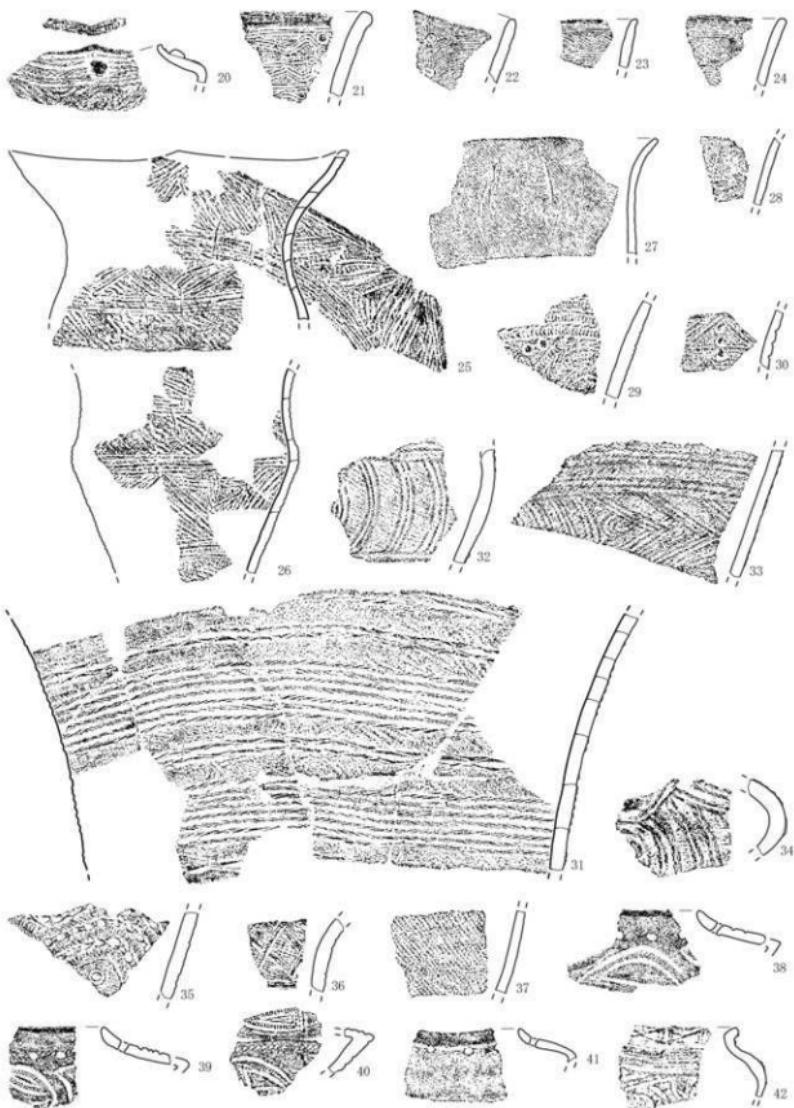
第561図 J-3号住居址

0 1:4 10cm



第562図 J-4号住居址(1)

0 1:4 10cm

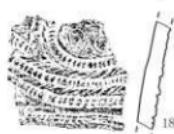
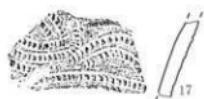
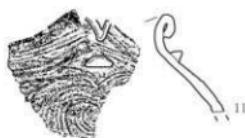
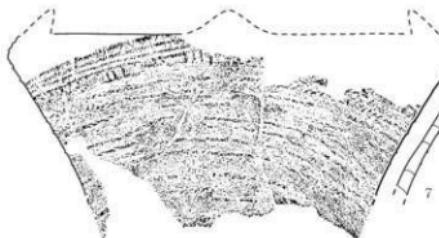


第563図 J-4号住居跡(2)

0 1:4 10cm

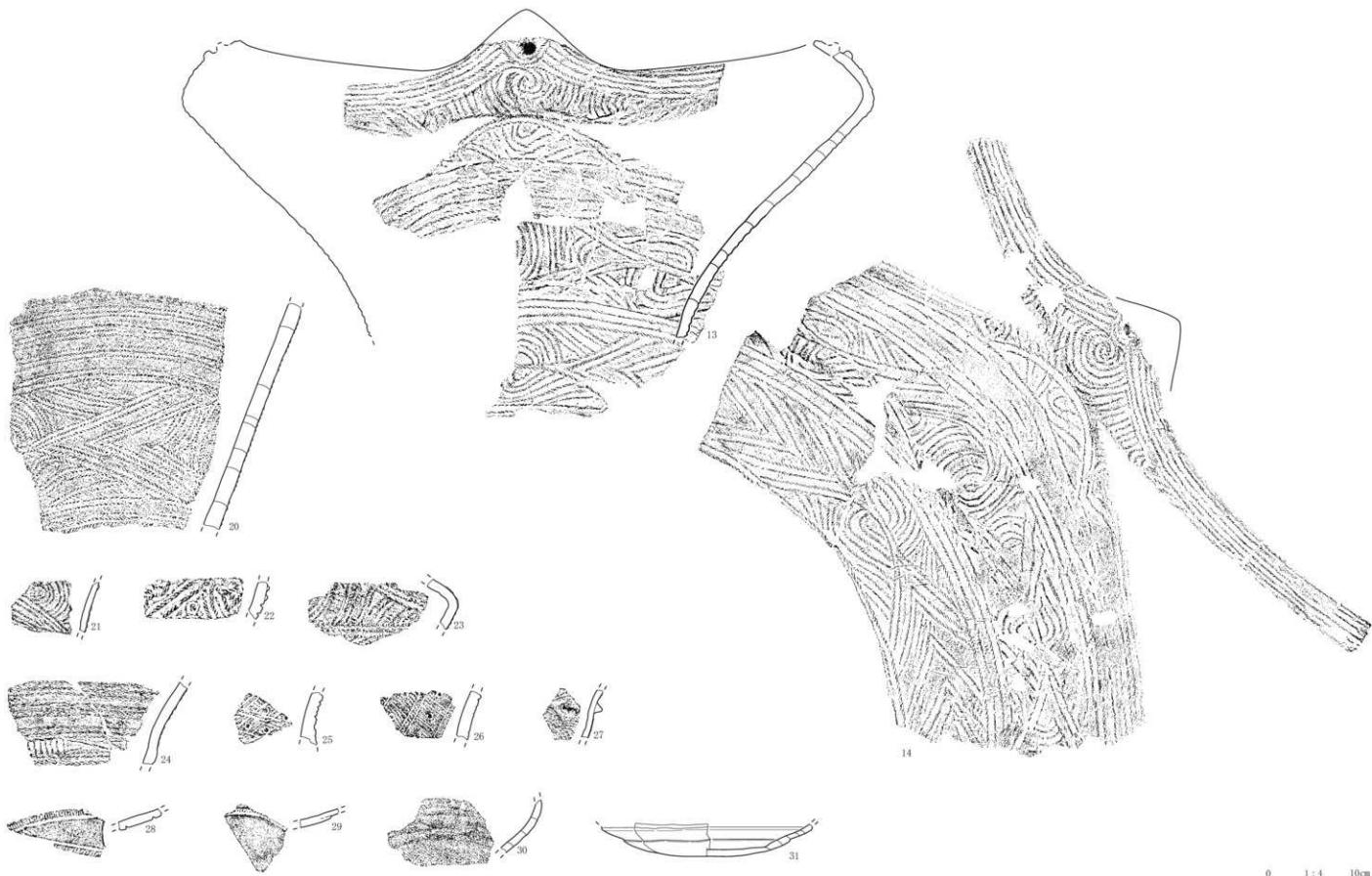


第564図 J-4号住居址(3)



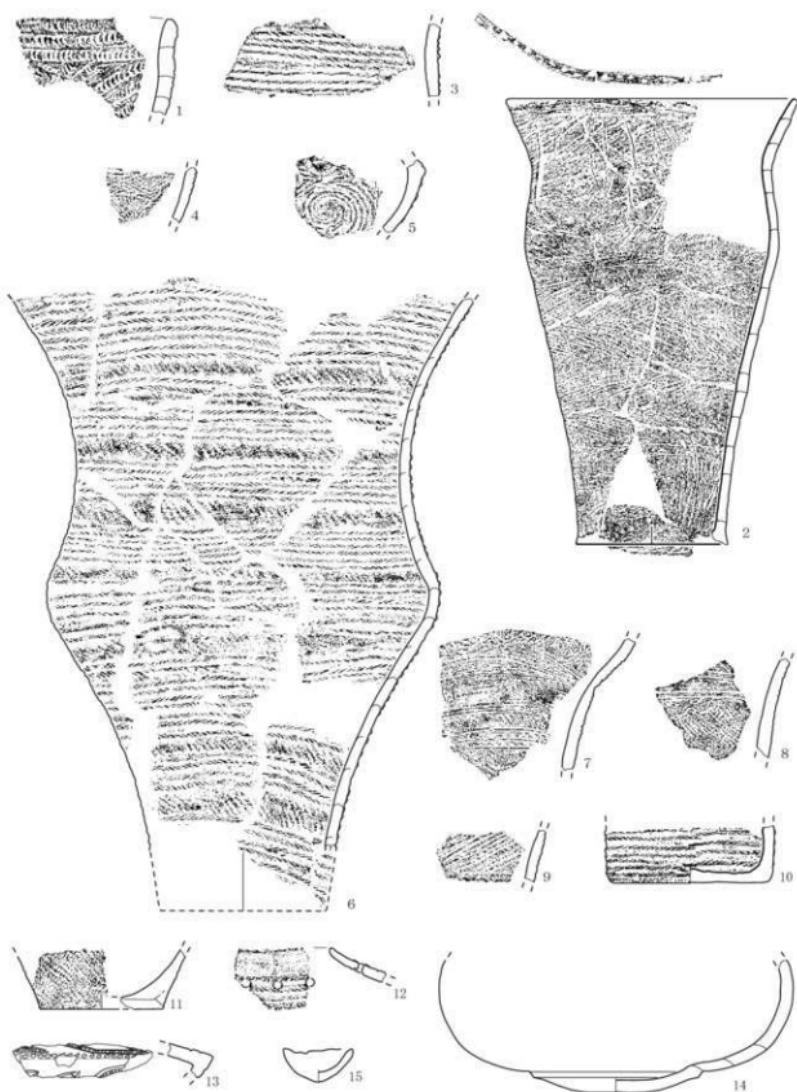
第564図 J-4号住居址(3)

0 1:4 10cm



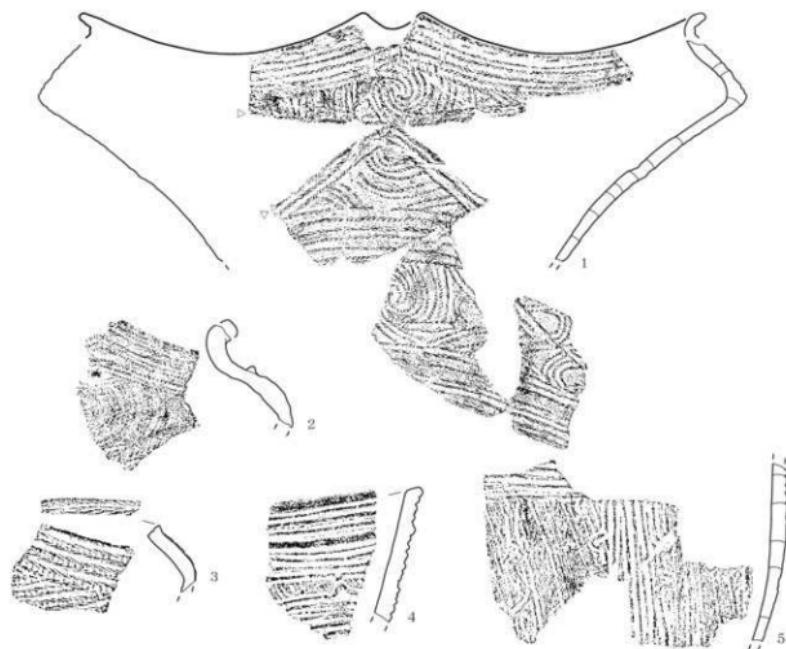
第566圖 J-5a號住居址(2)

0 1 : 4 10cm

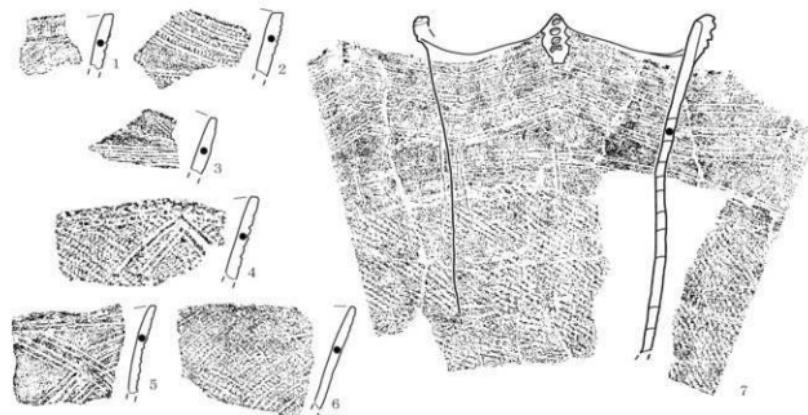


第567図 J-5b号住居址

0 1 : 4 10cm

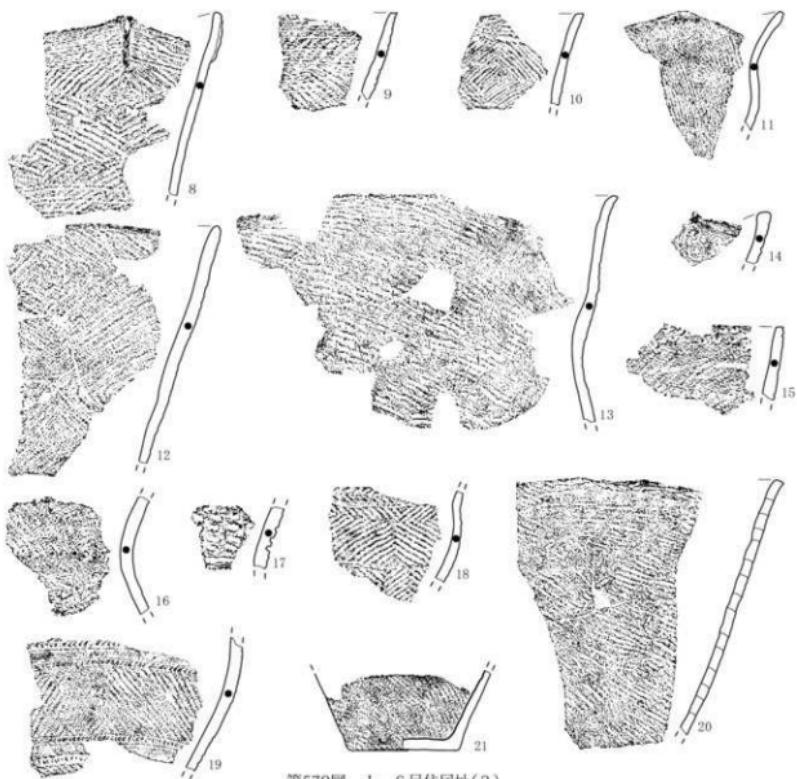


第568図 J-5号住居址

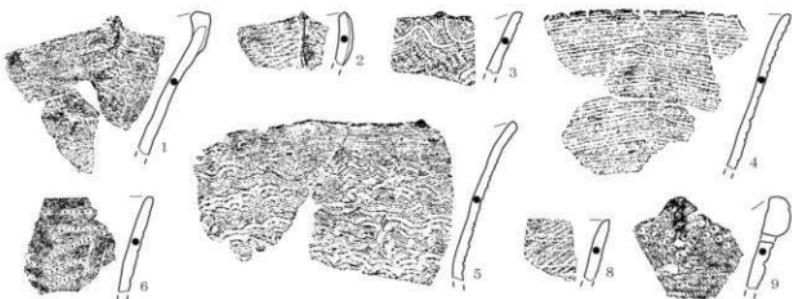


第569図 J-6号住居址(1)

0 1:4 10cm

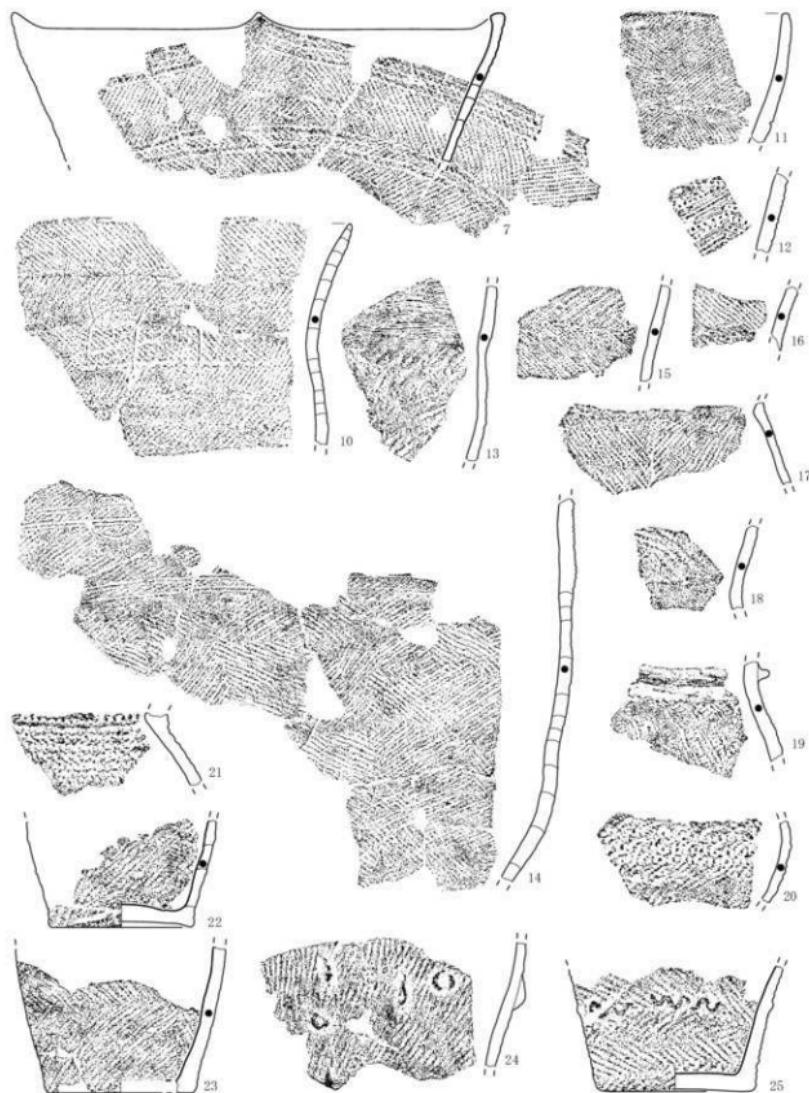


第570図 J-6号住居址(2)



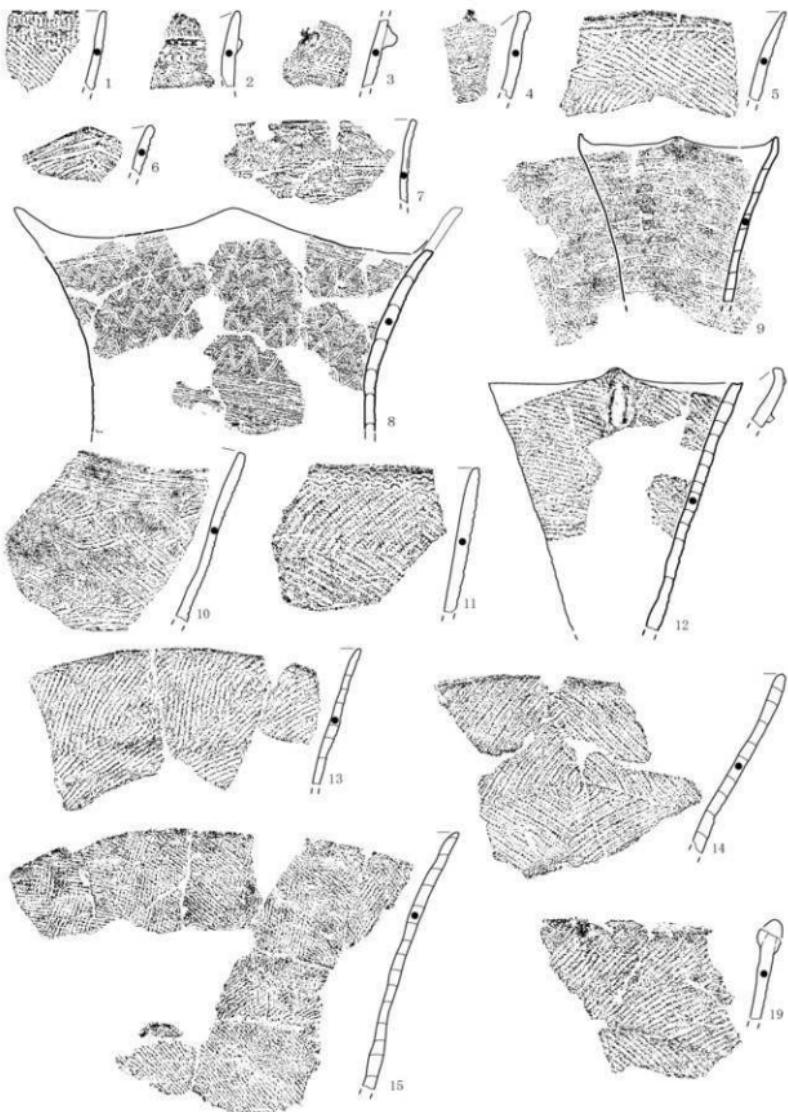
第571図 J-7号住居址(1)

0 1 : 4 10cm



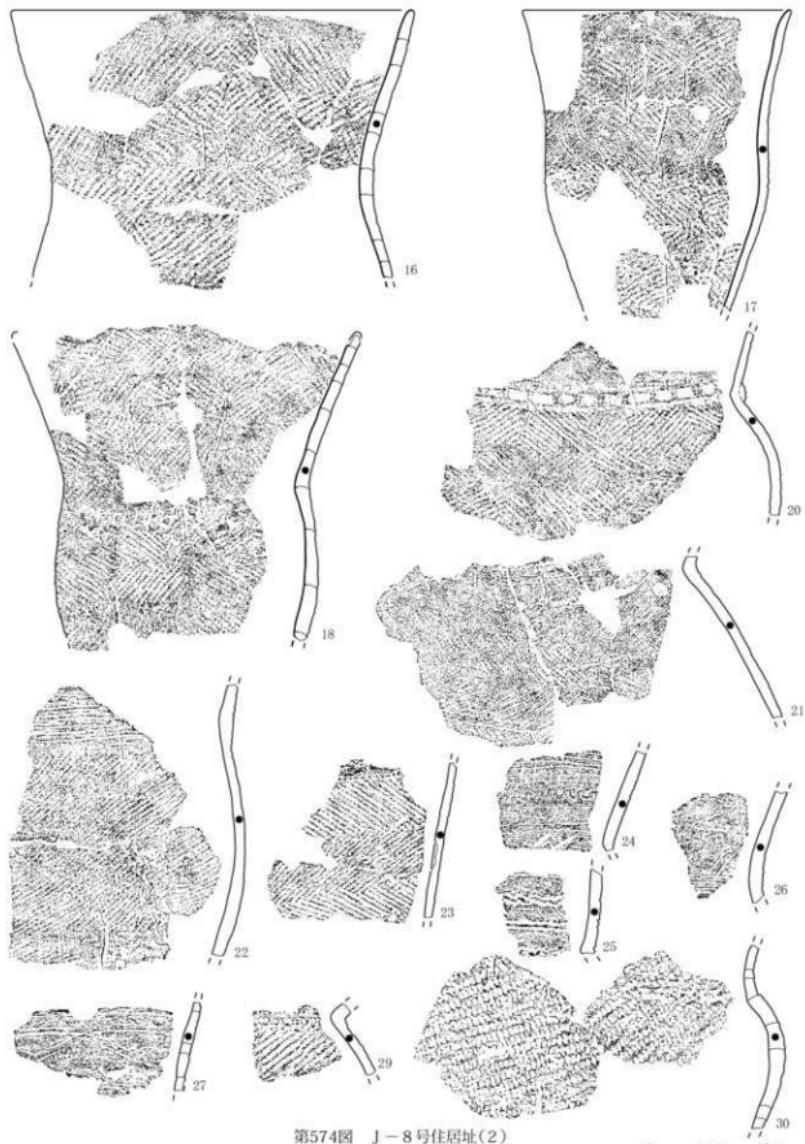
第572図 J-7号住居址(2)

0 1:4 10cm



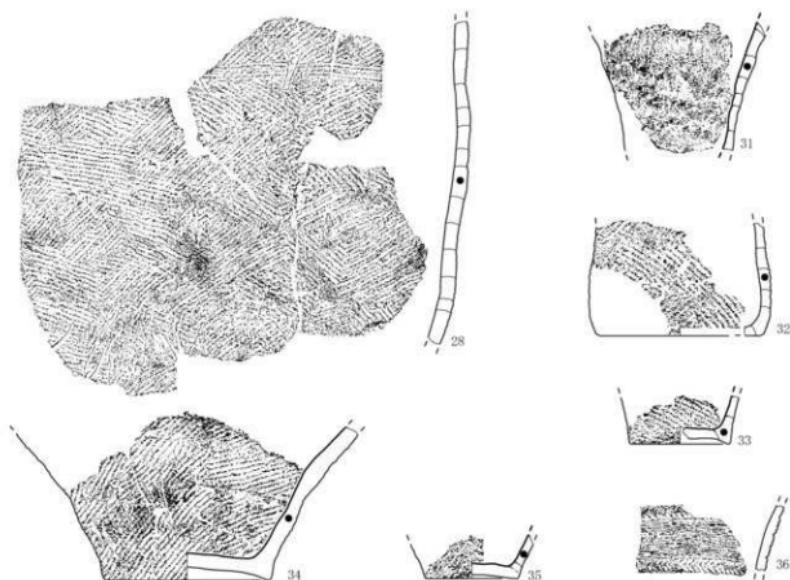
第573図 J-8号住居址(1)

0 1:4 10cm



第574図 J-8号住居址(2)

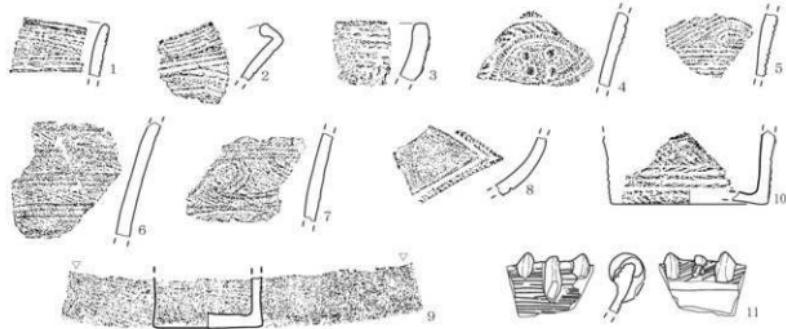
0 1:4 10cm



第575図 J-8号住居址(3)

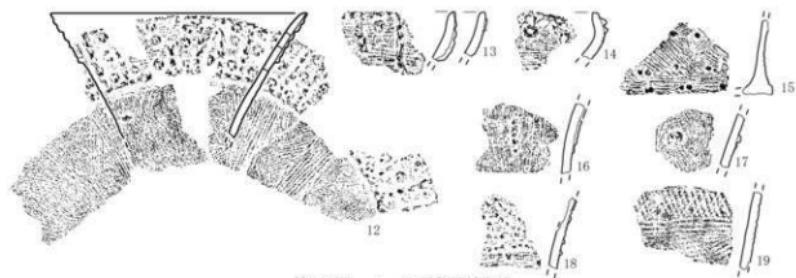


第576図 J-9号住居址

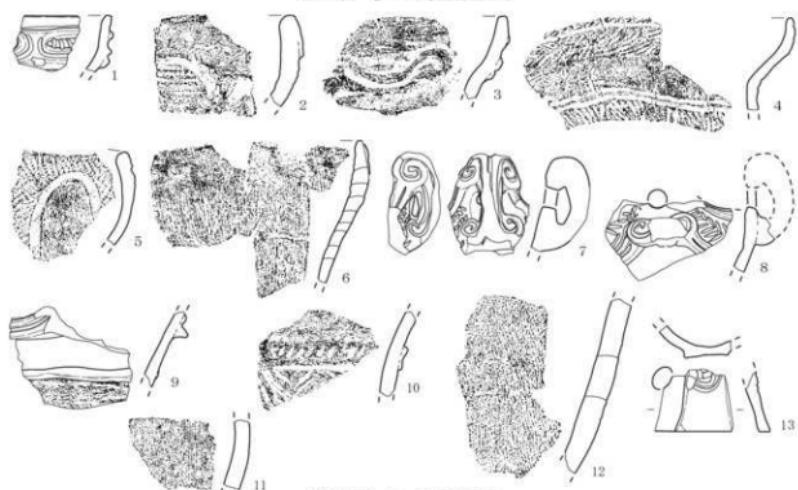


第577図 J-10号住居址(1)

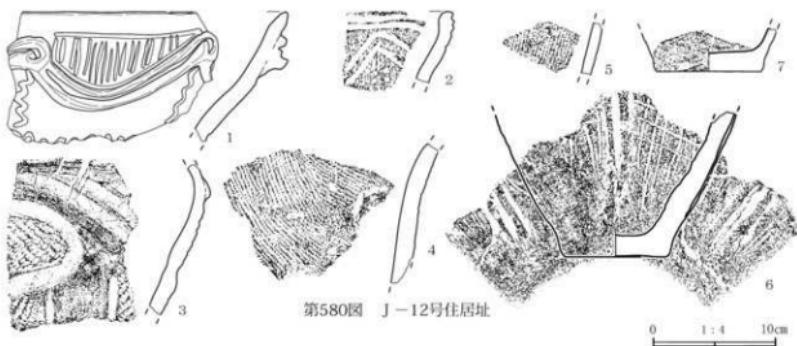
0 1 : 4 10cm

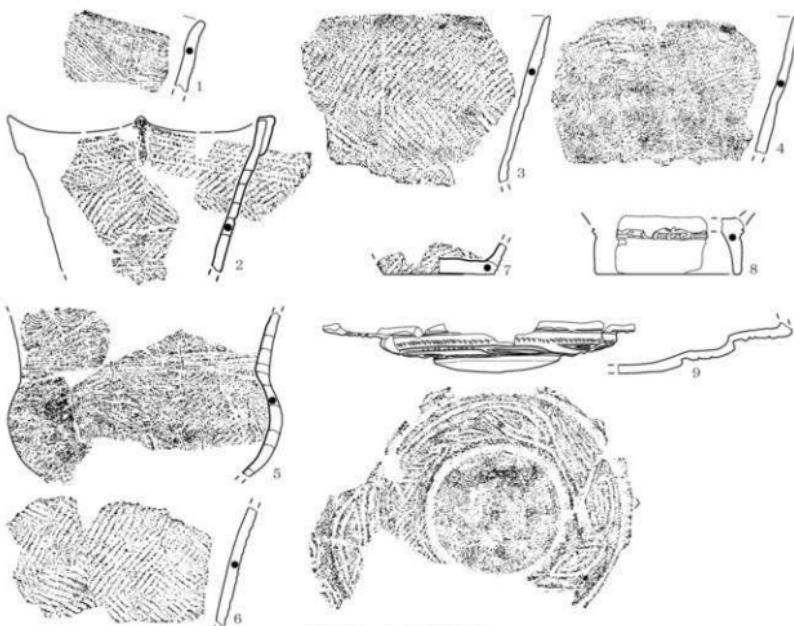


第578図 J-10号住居址(2)

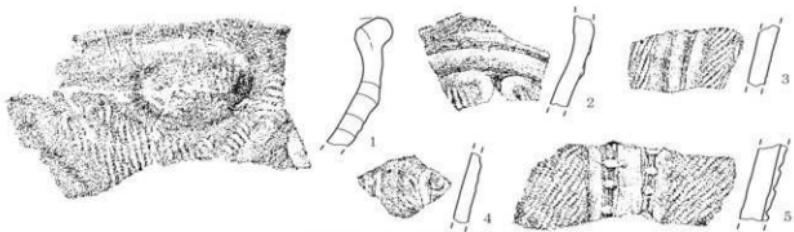


第579図 J-11号住居址





第581図 J-13号住居址



第582図 J-14号住居址



第583図 J-15号住居址

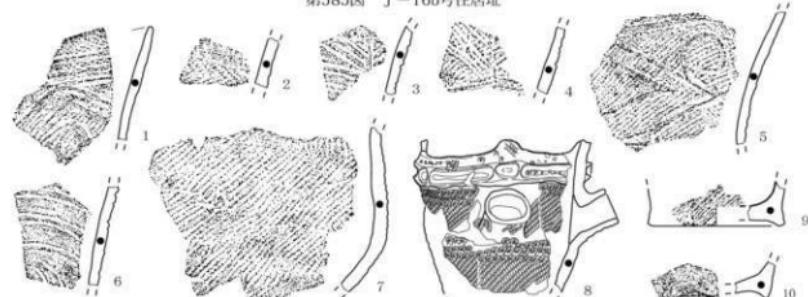
0 1 : 4 10cm



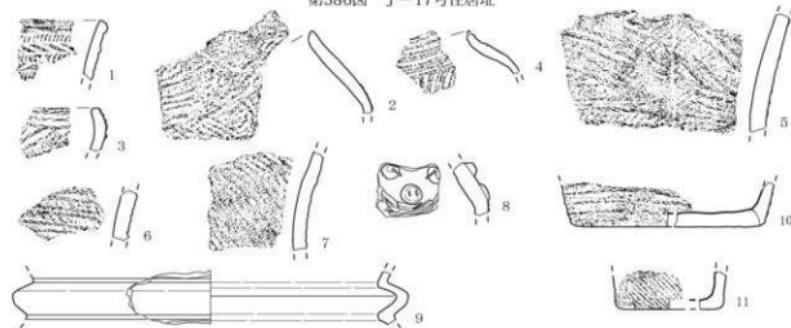
第584図 J-16a号住居址



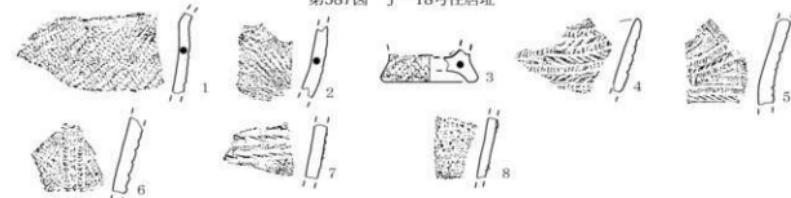
第585図 J-16b号住居址



第586図 J-17号住居址

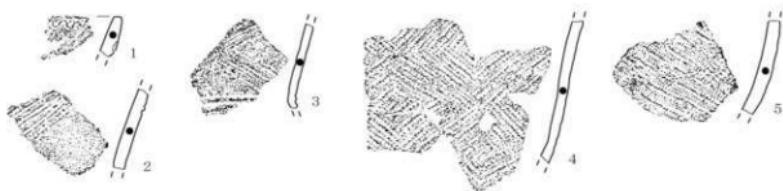


第587図 J-18号住居址

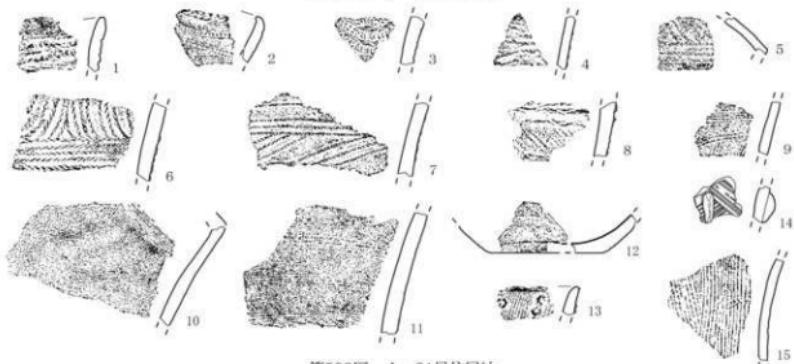


第588図 J-19号住居址

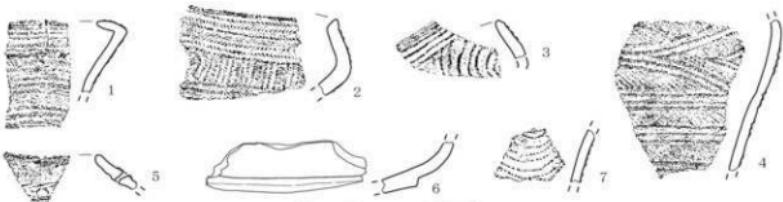
0 1 : 4 10cm



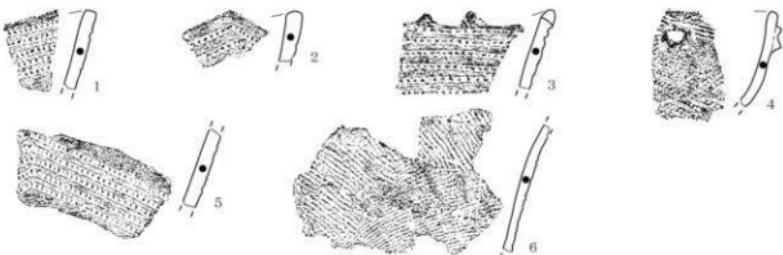
第589図 J-20号住居址



第590図 J-21号住居址



第591図 J-23号住居址



第592図 J-24号住居址

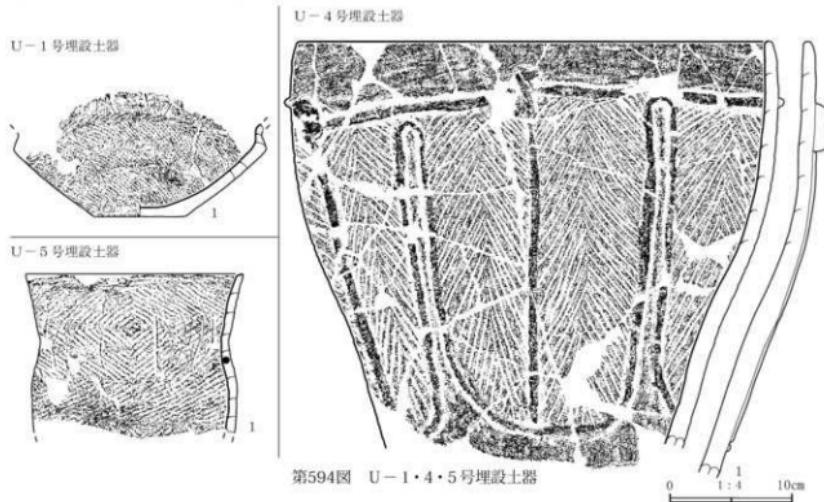
0 1:4 10cm

原田遺跡C区縄文時代土坑出土遺物実測図



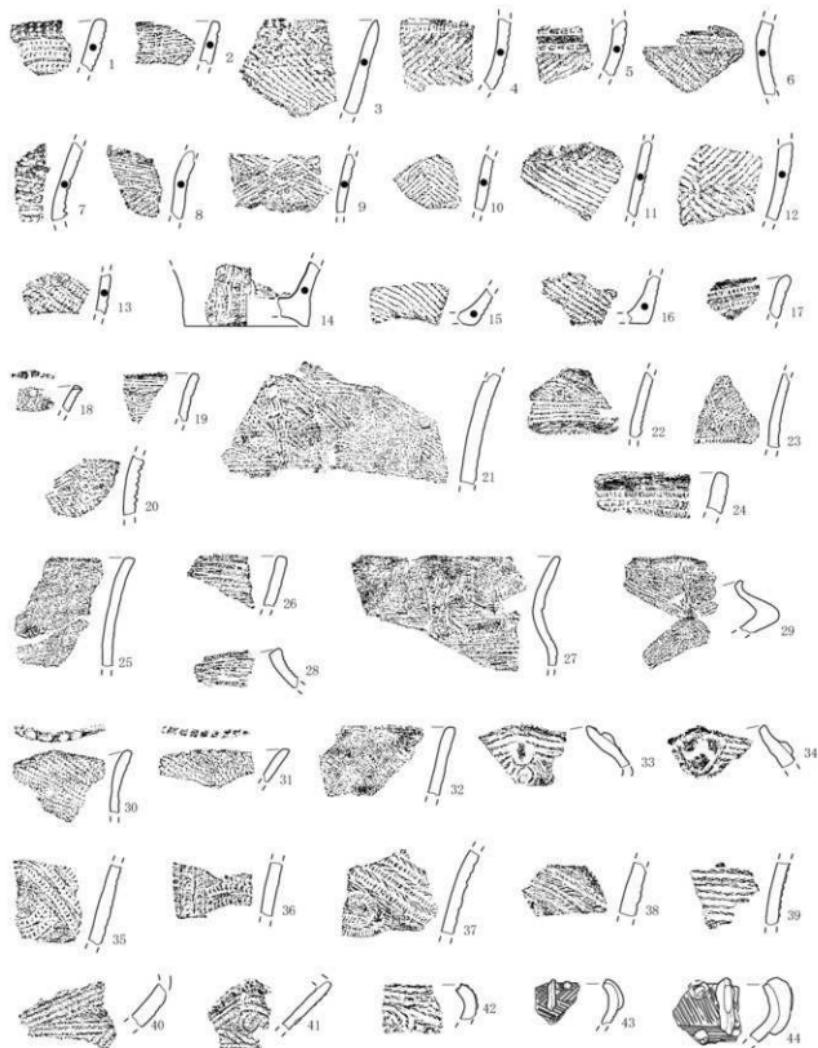
第593図 D-1~6・10~13号土坑

原田遺跡C区縄文時代埋設土器実測図



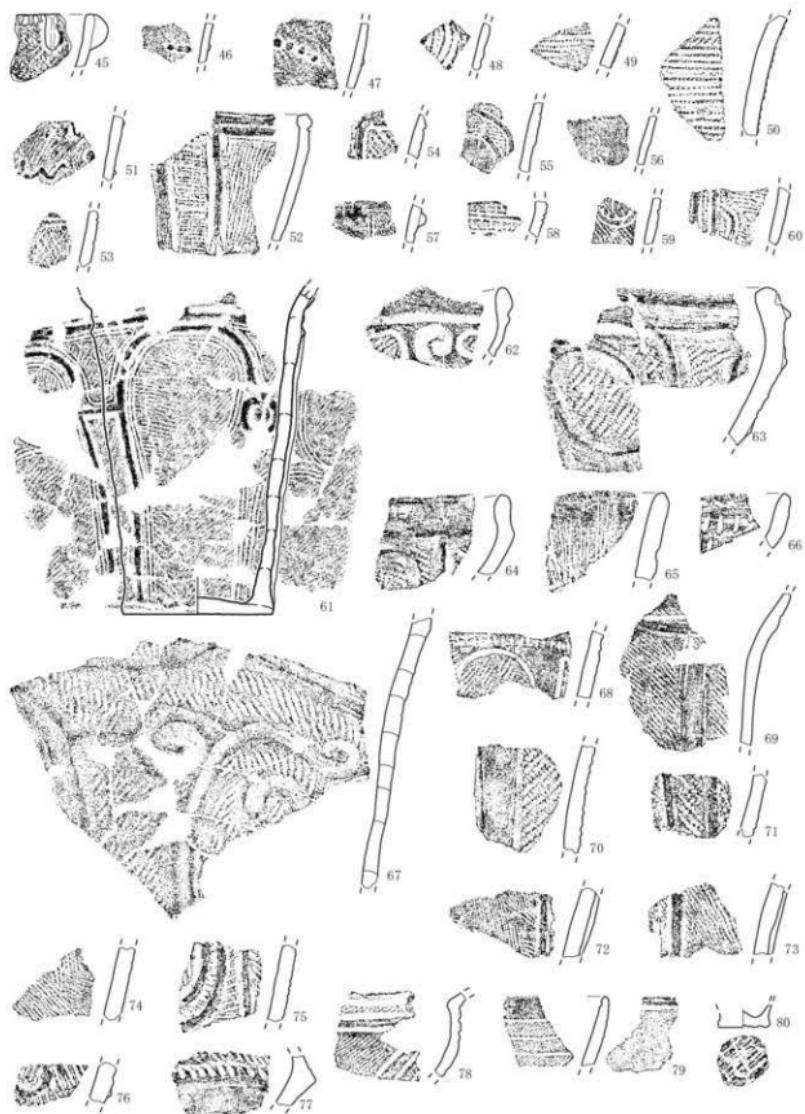
第594図 U-1・4・5号埋設土器

原田遺跡C区縄文時代グリッド出土遺物実測図



第595図 グリッド(1)

0 1 : 4 10cm



第596図 グリッド(2)

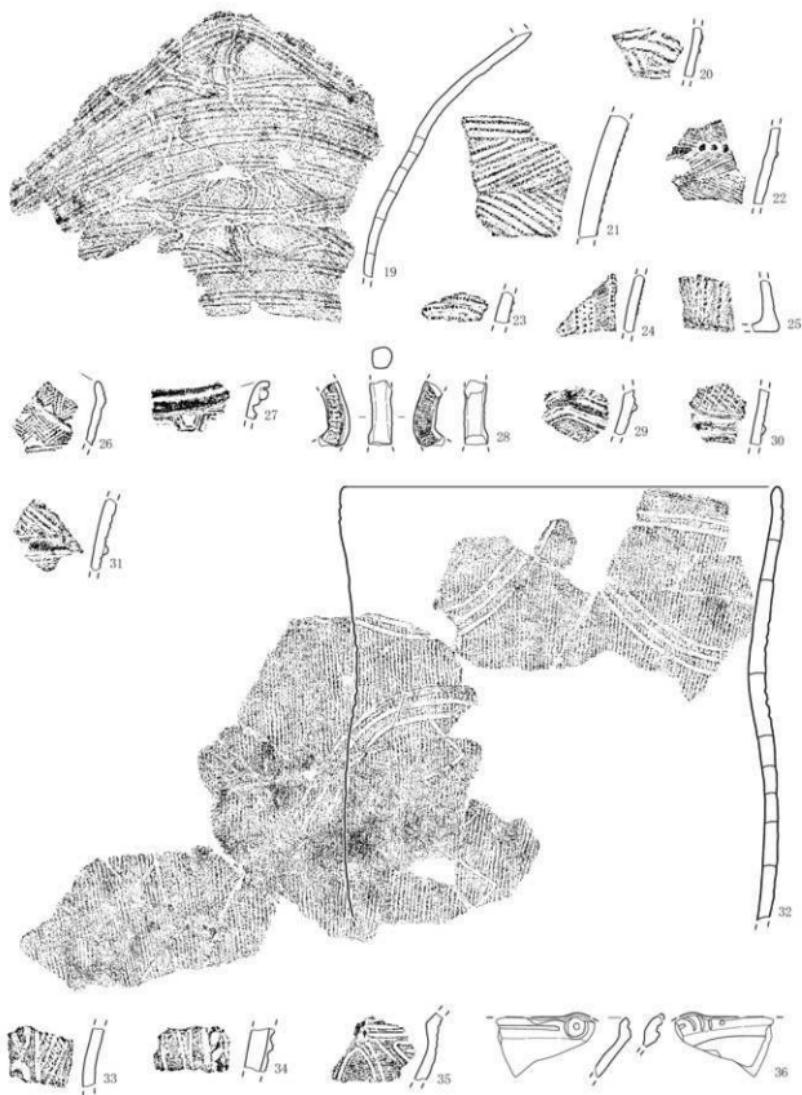
0 1:4 10cm

原田遺跡C区縄文時代一括遺物実測図



第597図 C区一括(1)

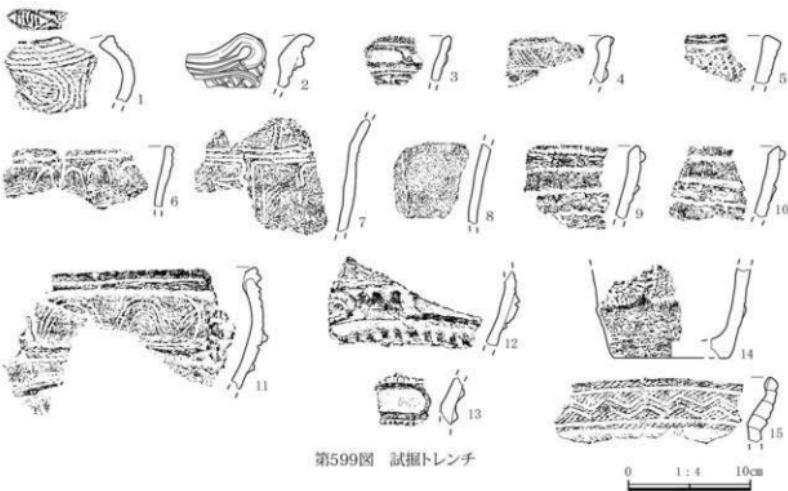
0 1 : 4 10cm



第598図 C区一括(2)

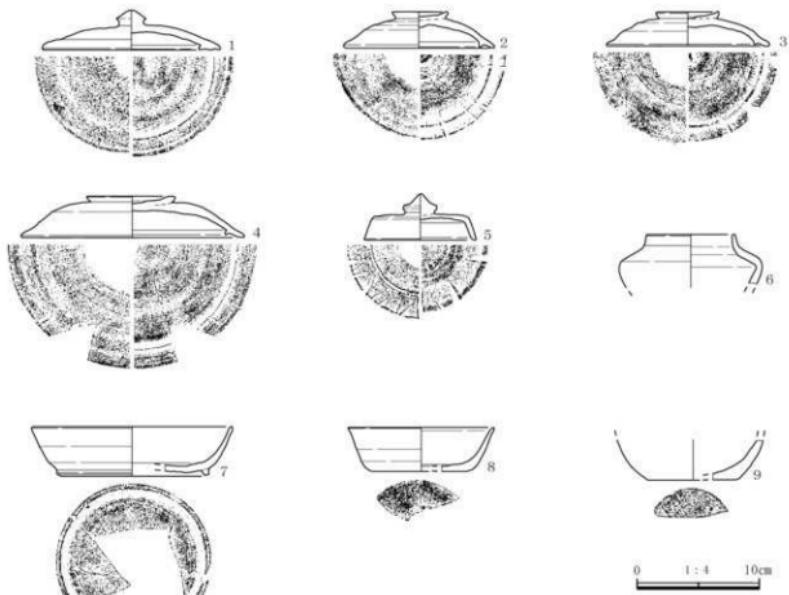
0 1 : 4 10cm

原田遺跡試掘トレンチ出土遺物実測図



第599図 試掘トレンチ

原田遺跡C区古墳出土遺物実測図



第600図 K-1号墳

A区J-1号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉上	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-1住 NO1	深鉢	普通	砂粒・褐色織痕 混入	口縁部～胴部 破片	山縁部、2条の横位沈線で区画し、区画内に楕円短 弧線を施す。胴部、輪削削工具による楕位直線並 列を施す。	加賀利玉
2	J-1住 1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色織痕 混入	口縁部破片	口縁部最上部に丸棒状工具による彎曲を伴う楕位直 線を施す。隆底下位(口縁部文様帶)に羽状沈線 を施す。	加賀利玉
3	J-1住 3区へ4区1層	深鉢	普通	砂粒・白色織物 混入	胴部破片	丸棒状工具による沈線を伴う楕位直線により、口縁部 文様帶と腹部を区画する。口縁部文様帶、楕円形に 区画2つ。区画内は丸棒状工具による楕位沈線を施す。 腹部無文。	加賀利玉
4	J-1住 1区2層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	細めの竹管状工具押し引きによる爪形文を模倣・ 斜位に施す。	諸穂 b
5	J-1住 1区1層	浅鉢	普通	砂粒混入	体部破片?	半截竹管状工具押し引きによる爪形文で区画する(入 輪文状)。下位に横位浮線文を施す。	諸穂 b
6	J-1住 3区1層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	4單行波状口縁部貼付と想定される。円形貼付 (レンゲの目と口の表現か)と横文を施す。	諸穂 b
7	J-1住 1区2層	深鉢	良好	砂粒・白色織物 混入	口縁部破片	外反する口縁。半截竹管状工具による横位直線・波 状平行沈線を施す。竹管状工具による円形刺突を楕 位に配す。	諸穂 b
8	J-1住 3区1層	深鉢	普通	砂粒・白色織物 混入	胴部破片	輪削状工具による横位直線状・波状直線文後、竹 管状工具による円形刺突を楕位に施す。	諸穂 b
9	J-1住 1区へ4区1層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節 線・網文施文後。半截竹管状工具による格子目 状沈線を施す。	諸穂 b

A区J-2号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉上	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-2住 28区2層	深鉢	普通	砂粒・植物織痕 混入	口縁部破片	口縁部輪削工具による楕位へ斜位点刺突を施す。 その下位に同工具による斜位平行沈線文。	有尾
2	J-2住 3区2層	深鉢	良好	砂粒・白色織物 混入	口縁部破片	口縁部、板状工具による楕位直線状刺突 を連続させる。脚部ループ文。	有尾
3	J-2住 12区へ4区 1層	深鉢	不良	砂粒・植物織痕 混入	口縁部～胴部 破片	口縁部に小突起を有する。網文(網筋 RL.5)を施す。 竹管状工具による円形刺突を楕位に施す。半截竹管状工 具による平行沈線を施す。	有尾
4	J-2住 8区2層	深鉢	良好	砂粒・白色織物 植物織痕混入	口縁部～胴部 破片	4單行波状口縁部頂部。波頂部に小突起を有する。 口縁部、波頂部より3個の横状貼付文を楕位に施す。 半截竹管状工具による3条のコンバス文を施す。胴部 単節 線・網文施文。	有尾
5	J-2住 3区2層	深鉢	普通	砂粒・植物織痕 混入	口縁部破片	波状口縁。半截竹管状工具による3条のコンバス文を 口縁に並行するように施す。胴部、単節 RL.網文施文。	有尾
6	J-2住 12区2層	深鉢	普通	砂粒・織・植物 織混入	口縁部破片	織や小波状口縁か、斜面1丁とよぶ横位直線文施文。 口縁部に半截竹管状工具によるコンバス文を施す。 波頂部下位に、同工具によると考えられる円形沈線文 を施す。	有尾
7	J-2住 12区へ4区 3層	深鉢	普通	砂粒・植物織痕 混入	口縁部～胴部 破片	口縁、口縁部、細めの竹管状工具による爪形 文・コンバス文・平行沈線文を楕位に施す。脚部、 単節 線・網文施文。口縁部内側に1条の横位沈線を 有す。	有尾
8	J-2住 6区2層	深鉢	普通	砂粒・植物織痕 混入	口縁部破片	波状口縁頂部。口縁に並行するように、半截竹 管状工具押し引きによる間隔の広い爪形文、同工具 によるコンバス文を施す。波頂部下位に輪削貼付文を 楕位に配す。	有尾
9	J-2住 3区2層	深鉢	普通	砂粒・植物織痕 混入	口縁部～胴部 破片	口縁や小波状口縁波頂部。波頂部に小突起を有する。 輪削貼付文と並行して輪削貼付文を3条施す。半截竹管状工具の方 向を意図的に変えてると推測される部分が認められ、 楕円形の輪削と2つになっている。脚部、無筋 RL.網文施文後、 半截竹管状工具押し引きによる爪形文を模倣・斜位 に施す。区画に1箇所に同工具による円形と想定 される区画が認められる。	有尾
10	J-2住 5区3層	深鉢	普通	砂粒・白色織物 植物織痕混入	口縁部～胴部 破片	口縁部に連続する小突起を有する。口縁部、半截竹 管状工具押し引きによる楕位爪形文を4条施す。押し 引きの間隔は上位から1段目と4段目が繋がりあひ、2 段目と3段目が切れてある。胴部単節 RL.網文。	有尾
11	J-2住 4区1層	深鉢	良好	砂粒・植物織痕 混入	口縁部～胴部 破片	織や小波状口縁波頂部。波頂部に小突起を有する。 口縁部、半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文 を4条施す。脚部単節 RL.網文施文。	有尾
12	J-2住 19区3層・ 30区3層	深鉢	普通	砂粒・植物織痕 混入	口縁部破片	波状口縁。口縁に並行するように、楕の狭い半截竹 管状工具押し引きによる間隔の広い爪形文を施す。 波頂部より同工具による平行沈線を垂下させる。 波成後の孔が2ヶ所認められ、補修孔と考えられる。	有尾

第 87 表 二軒在家原田遺跡 A 区繩文時代住居址出土遺物観察表 (1)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②胎土	③残存		
13	J-2住4区3層	深鉢	不良	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	枝やかな波状口縁か。羽状織文施設後、口縁に並行するように、半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。口縁部に複数の小突起を有し、波頂部と推定される位置に爪形文を垂下させ区画する。	有尾
14	J-2住37区2層	深鉢	普通	砂粒・織・植物繊維混入	口縁部～胴部破片	口縁部に小突起を有する。單路 RLとLRの羽状織文を施す。	黒浜
15	J-2住4区1層	深鉢	普通	砂粒・石英・白色粘物・植物繊維混入	胴部破片	半截竹管状工具による爪形文・平行沈継文、斬削状工具による列点状刺突により、差異又は三角形に区画する。	有尾
16	J-2住2区2層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部下位～底部	胴部裏面斜織文施す。最下位に幅広の半截竹管状工具による連続した刺突を2段設ける。底面や上げ底面を呈する。	前期中葉
17	J-2住37区1層	深鉢	普通	砂粒・角閃石・白色粘物混入	口縁部破片	外反する波状口縁か。単節 RL・織文施設後、半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す区画する。2個1列の円形刺突を配す。	諸磯 b
18	J-2住4区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粘物混入	口縁部～胴部破片	外反する口縁、口縁部、茎部を施す。斬削状工具による平行沈継文を斜位に施し、格子目状に区画する。	諸磯 b
19	J-2住10区～6層	深鉢	普通	砂粒・白色粘物混入	口縁部破片	単段波状口縁波状付近と想定される。半截竹管状工具押し引きによる爪形文で区画する。波頂部下位に爪形文による米字状モチーフを配す。	諸磯 b
20	J-2住6区2層	深鉢	普通	砂粒・石英・金雲母混入	口縁部～胴部下位	平底部の深鉢。単節 RL・織文を施す。	諸磯 b
21	J-2住10区1層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈継文で区画し、沈継に沿うように同工具による爪形文を施す。一部の区画内に織文（不明瞭）、単節 RL・織文か 施す。さらに以降状工具による円形刺突を配す。	諸磯 b
22	J-2住5区1層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節 RL・織文施設後、半截竹管状工具による平行沈継文で区画する。一部に竹管状工具による円形刺突を配す。	諸磯 b
23	J-2住4区1層	深鉢	普通	砂粒・片岩混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文で区画する。一部の区画内に単節 RL・織文施す。さらに竹管状工具による円形刺突を配す。	諸磯 b
24	J-2住37区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粘物混入	胴部破片	単節 RL・織文施設後、斬削状工具による横位直継状・波状平行沈継を施す。さらに、竹管状工具による円形刺突を羅列する。	諸磯 b
25	J-2住4区1層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	横位・斜位に浮継文を施し、一部の浮継文間に竹管状工具による円形刺突を配す。	諸磯 b
26	J-2住19区1層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節 RL・織文施設後、竹管状工具による横位直継状と伴なうボタ状貼付文を2個1対で配す。	諸磯 c
27	J-2住20区3層	深鉢	普通	砂粒・角閃石・白色粘物混入	胴部破片	横位直継文を施し、満巣き状結節浮継文を施す。	諸磯 c

A区J-3号住址地

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②胎土	③残存		
1	J-3住D-4	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	半圓の深鉢と想定される。満巣き状結節と横円形区画が組み合わされ、口縁部に様帶を構成する。横円形区画に斜位に縫合線を施す。	加賀利 E I ~ II
2	J-3住6区1層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁部に横の便り状文帯を有し、無文帯下位に丸棒工具による斜位沈継を施す。横位沈継の下位には弓状隆帯を貼付け、半円状の口縁部様帶を構成する。横円形区画及び胴部には縫合位に縫合線を施す。	加賀利 E I ~ II
3	J-3住3区～5層	深鉢または鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部破片	口縁部前面、折れ口縁部に様帶を有する。外面、丸棒工具による二重の弧状沈継で半円状に進位して区画する。沈継連結部に満巣き状又は勾玉状印文を施す。区画内縫合基準条縫合文、胴部、丸棒工具による斜位で区画（モチーフ不明）し、区画内に各縫合基準条縫合文。	中期後葉
4	J-3住D-4	鉢	普通	砂粒・角閃石混入	口縁部～体部 1/10	内不規則する口縁部の跡と想定される。口縁部下位に丸棒状工具による横位直継を施す。沈継下位に縫合位縫合基準文。	加賀利 E I
5	J-3住6区1層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	満巣き状縫合文施設後、丸棒状工具による平行沈継を施す。	中期後葉
6	J-3住D-4	深鉢または鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節 RL・織文施設後、棒状工具による横位・逆U字状沈継で区画する。	加賀利 E I
7	J-3住8区1層	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	胴部破片	深鉢の縫合付近が遺存している想定される。茎部、隆起により縫合位に区画し、区画内に斜位棒状貼付文を施設して区画する。胴部、縫合部に縫合位縫合基準条縫合文。	加賀利 E I 打引

第88表 二軒在家原田遺跡A区繩文時代住居址出土遺物観察表(2)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②船上	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
8	J-3住3区1層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	深鉢指付竪と想定される。手裁竹管状工具による平行沈線（半隆起線状を呈する）を斜位に施文。さらに逆方向の斜位に棒状貼付文を施し格子目状モチーフを構成する。	中期後葉 (皆利系)
9	J-3住5区1層	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	口縁部～胴部破片	口縁部、折り返し状を呈する。胴部、單路LR溝文施文。口縁部及び胴部との境界付近に三角印刻文を有す。	中期初頭
10	J-3住8区1層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半裁竹管状工具による横位直線状・継形状平行沈線（半隆起線状を呈する）を施す。一部に三角印刻文を配す。	五個ヶ台

A区J-4号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②船上	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-4住15区アブン	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	單路RL溝文施文後、斬削状工具による横位平行沈線を施す。さらに、一部に竹管状工具による円形刺突を配す。	諸葛b
2	J-4住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粘物混入	胴部破片	半裁竹管状工具押し引きによる爪痕文を局部に施す。一部の爪痕文間に連続短沈線を施し、浮線文を呈す。	諸葛b
3	J-4住1区1層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	單路RL溝文施文後、横位浮線文を呈す。	諸葛b
4	J-4住3区1層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部把手破片	J1位被萩口縫波頂部把手と思定される。断面三形状を呈し、それ以下の面上に絞形状沈線を施す。	諸葛c
5	J-4住3区1層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	波状形・半裁竹管状工具による横位平行沈線を施す。直線・弧状の筋部浮線文により区画する。	諸葛c
6	J-4住15区アブン	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	胴部最下端、底部に沿う部分。縦位条縫施文後、丸棒状工具による斜位沈線を施す。	中期後葉

A区J-5号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②船上	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-5住7区アブン	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部文様帯の一部が遺存する。縦帶で区画（横内形引き）、し、区画内にRL溝文施文。	加曾利E I～II
2	J-5住3区ヘブ	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	單路RL溝文施文後、丸棒状工具による縦位沈線で区画する。	加曾利E I
3	J-5住4区1層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	胴部上位破片か。半裁竹管状工具による縦位平行沈線を施す。さらに丸棒状工具による直線で区画する。	中期後葉
4	J-5住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粘物混入	胴部破片	燃系文を施す。	加曾利E I～II
5	J-5住3区1層	深鉢	普通	砂粒・チャート・石灰・角閃石混入	口縁部破片	口縁部に帆面把手を施す。帆面把手部以外には單路RL溝文と浮線文施文。	諸葛b

A区J-6号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②船上	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-6住東レシナ	深鉢	普通	砂粒・植物織維混入	口縁部～胴部破片	口縁部～胴部の底に無文帯を設け、縦位短沈線を施す。胴部～単路RL溝文施文。	前期中葉
2	J-6住2区ヘブ2階	深鉢	普通	砂粒・植物織維混入	口縁部破片	J単路或直口縫波頂部を想定される。波頂部より残部を垂下せ区画する。巻下降帶から口縫部並行する2条の巻帶を分離させる。さらに、一部の区画内や外反する波縫。口縫部に跨状を呈する横位直線文を施す。	前期中葉
3	J-6住2区2層	深鉢	普通	砂粒・植物織維混入	口縁部～胴部破片	口縫部～胴部の底に無文帯を設け、内面は丁寧な網目状網文を施す。また、口縫部・巻帶上・胴部に異条斜線文を施す。	前期中葉
4	J-6住10区2層	深鉢	良好	砂粒・植物織維混入	口縫部～胴部破片	口縫部～胴部の底に無文帯を設け、内面は丁寧な網目状網文を施す。	尾尾・黑浜
5	J-6住11区2層	深鉢	不良	砂粒・植物織維混入	胴部破片	胴部上位破片か。斬削状工具による横位・斜位直線状網文を施す。	前期中葉
6	J-6住2区2層	深鉢	普通	砂粒・植物織維混入	胴部破片	異条斜網文を施す。3と同一個体。	前期中葉
7	J-6住2区2層	深鉢	普通	砂粒・植物織維混入	胴部破片	付加茎縫文模様が。	前期中葉
8	J-6住1区1層	深鉢	普通	砂粒・植物織維混入	胴部～底部破片	胴部最下位から底部にかけて外反し、底部は上げ底状を呈する。胴部にやや不明瞭な斜位沈線を施す。	前期中葉
9	J-6住6区2層	深鉢	普通	砂粒混入	口縫部～胴部破片	内面に外反する平口縫。横位直線状網文を施す。半裁竹管状工具による横位平行沈線施文後、細めの竹管状工具による円形刺突を縦位に施す。	諸葛a～b

第89表 二軒在家原田遺跡A区繩文時代住居址出土遺物観察表(3)

A区J-8号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
1	J-8住3区1層	深鉢	①焼成 普通 砂粒・白色黏土 混入	②釉土 口縁部～胴部破片	③残存 沈縫を伴う隆縫で口縁部支縁帯を区画する。頭部は無釉か。	④器形・文様等の特徴／備考 沈縫を伴う隆縫で口縁部支縁帯を区画する。頭部は無釉か。	加賀利E I
2	J-8住1-2	深鉢	普通 砂粒・黑色黏土 混入	口縁部破片	隆縫と隆縫に並行する沈縫で口縁部支縁帯を構成する。溝巻きをモチーフで模められる。		加賀利E II
3	J-8住3区1層	深鉢	普通 砂粒・白色黏土 金雲母混入	口縁部～胴部破片	半載竹管状工具で横位した横縫を帯び区画する。さらに、沈縫による区画、側突を施す。		五頭ヶ台
4	J-8住4区へ付	深鉢	普通 砂粒・金雲母混入	口縁部破片	内に外反する波状の口縁波頭部。底面部下位に、圓窓を帶びた横縫帯状に高まるところによる側突を施す。半載竹管状工具による平行沈縫（半陸起線状を呈する）を横位・斜位に施す。		五頭ヶ台
5	J-8住2区1層	深鉢	普通 砂粒	口縁部破片	半載竹管状工具による平行沈縫（半陸起線状を呈する）を横位・斜位・逆U字状に施す。		中期前半

A区J-9号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
1	J-9住NO2	深鉢	①焼成 普通 砂粒・白色黏土 黑色粘土・石英 混入	②釉土 口縁部～胴部 1/3	③残存 内側する平口縫、口縁部に波状・溝巻き状沈縫、頭部、拂らぬ風後、横位・縦位・溝巻き状沈縫を施す。	④器形・文様等の特徴／備考 内側する平口縫、口縁部に波状・溝巻き状沈縫、頭部、拂らぬ風後、横位・縦位・溝巻き状沈縫を施す。	晉利II
2	J-9住1区1層	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部～胴部破片	口縁部に幅の狭い無釉帯を設ける。單筋R1、圓窓文後、沈縫を伴う頭部で口縁部支縁帯と頭部を区画する。丸棒状工具による横縫で、口縁部文様帶に横円形区画を形成する。区画内には仲位化粧を施す。頭部、圓窓文後、斜位隆縫を施す。		加賀利E I～II
3	J-9住1区へ付	鉢主たは盃	普通 砂粒・黑色粘土 混入	口縁部～体部破片	体部下位で顕著に内反する。口縁部、丸棒状工具による沈縫での口縁部支縁帯を構成する。区画内には溝巻き状沈縫が施される。文様部帯には単筋R1、圓窓文後、体部は無文。		加賀利E II
4	J-9住7区サブレ	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	口縁部下位の横位沈縫と弧状・溝巻き状沈縫を以て口縁部支縁帯を構成する。文様部内及び頭部、丸棒状工具による斜位沈縫を施す。		加賀利E II～III
5	J-9住2区1層	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部～胴部破片	口縁部下位に横位沈縫を施し頭部と区画する。頭部、丸棒状工具による縦位沈縫で区画し、区画内に並行沈縫、戻手状沈縫（？）を垂下させる。全体的に稚拙な印象である。		加賀利E 併行
6	J-9住NO1	鉢	良好 砂粒・白色粘土 雲母混入	口縁部～体部 4/5	遺存部においては無文。内面は丁寧な磨き。		加賀利E
7	J-9住1区NO2	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	隆縫又は沈縫を作り頭部で、溝巻きを連結するよう区画する。一部の区画内に単筋R1、圓窓文を施す。		加賀利E 併行

A区J-10号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
1	J-10住2区	深鉢	①焼成 普通 砂粒混入	②釉土 口縁部～胴部破片	③残存 口縁部に丸棒状工具による横位平行沈縫文後、竹管状工具による列点状円形側突を施す。頭部、圓窓（無筋）？文後、丸棒状工具による逆U字状沈縫を施す。	④器形・文様等の特徴／備考 口縁部に丸棒状工具による横位平行沈縫文後、竹管状工具による列点状円形側突を施す。頭部、圓窓（無筋）？文後、丸棒状工具による逆U字状沈縫を施す。	加賀利E III
2	J-10住4区	深鉢	良好 砂粒混入	胴部破片	圓窓（單筋R1か）文後、弧状（又は蛇行か）隆縫を垂下させる。		加賀利E
3	J-10住D-1	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	丸棒状工具による縦位沈縫で区画する。一部の区画内に圓窓（單筋R1か）文後。		加賀利E

A区J-12号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
1	J-12住2区1層	深鉢	良好 砂粒・石英混入	口縁部破片	内向外反する口縫。櫛歯状工具による横位平行沈縫文後、竹管状工具による列点状円形側突を施す。頭部。	④器形・文様等の特徴／備考 内向外反する口縫。櫛歯状工具による横位平行沈縫文後、竹管状工具による列点状円形側突を施す。頭部。	諸磯a～b
2	J-12住3区へ付 1層	深鉢	普通 砂粒・片岩・角 雲石混入	口縁部破片	内向外反する口縫。櫛歯状工具による横位平行沈縫文後、竹管状工具による列点状円形側突を施す。頭部。		諸磯a～b
3	J-12住1区へ付 1層	深鉢	良好 砂粒・白色粘土 混入	口縁部破片	I本一単位の櫛歯状工具による横位置隙状、波状沈縫を施す。		諸磯b
4	J-12住2区2層	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 混入	口縁部破片	内向外反する口縫。横位・斜位の浮縫文により区画する。		諸磯b
5	J-12住3区1層	深鉢	普通 砂粒・片岩混入	胴部破片	單筋R1、圓窓文後。半載竹管状工具による横位平行沈縫を施す。さらに、沈縫上位には竹管状工具による列点状円形側突を施す。		諸磯a～b
6	J-12住4区1層 へ付	深鉢	良好 砂粒・チャート混入	胴部破片	單筋R1、圓窓文後。櫛歯状工具による横位平行沈縫を施す。さらに、竹管状工具による列点状円形側突を施す。		諸磯a～b

第90表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代住居址出土遺物観察表(4)

番号	遺物名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②土手	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
7	J-12住1区2層	深鉢	普通	砂粒・黄閃石・白色粘土混入	胴部破片	遺存部中央付近の半裁竹管状工具による横位波状沈継により、上下に文様帯が区分されている。上半部、半裁竹管状工具による縦位平行沈継、連續刺突を施す。下半部単鉢 RL 織文施文。	諸穢 a?
8	J-12住2区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粘土・片岩混入	胴部破片	単鉢 RL 織文施文後、半裁竹管状工具による平行沈継、入り組み文様に施す。さらに、一部の区画内に竹管状工具による円形刺突を施す。	諸穢 b
9	J-12住4区1層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単鉢 RL 織文施文後、竹管状工具による列点状円形刺突を施す。	諸穢 a~b
10	J-12住2区3層	深鉢	普通	砂粒・植物纖維混入	口縁部破片	口縁部に突起を有する。単鉢 RL 織文施文後、口縁に並行し半裁竹管状工具の回転による二重円状沈継を施す。	前期中葉
11	J-12住2区3層	深鉢	普通	砂粒・チャート・植物纖維混入	口縁部破片	単鉢 RL 織文施文後、口縁に並行し半裁竹管状工具の回転による二重円状沈継を連続して施す。	前期中葉
12	J-12住4区~6区 3層	深鉢	良好	砂粒・植物纖維混入	胴部~底部 1/10	単鉢 RL と RE 織文施文が記入後、半裁竹管状工具PP引いたり横位爪彫文を施す。	前期中葉
13	J-12住3区~6区3層	深鉢	良好	砂粒・褐色粘土・白色粘土・植物纖維混入	胴部~底部 1/8	直前期多角横継が。	前期中葉

A区J-13号住居址

番号	遺物名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②土手	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-13住6区~6区 1層	深鉢	良好	砂粒・白色粘土混入	口縁部破片	中央に沈継を伴う横帶、上り口縁部文様帶を構成する。区画連結部には高巻き状沈継帯が施される。又縦縁内には半裁竹管状工具又は棒状工具による縦位沈継が施す。頭部は有肩部においては無文。	加曾利 E I ~ II
2	J-13住14区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粘土混入	口縁部破片	波状口縁部と頂部付近で想定される。頭部には口縁部文様帶を構成する。一部には高巻き状沈継が施される。文様帶内には半裁竹管状工具又は丸棒状工具による横位沈継が施す。頭部無文。	加曾利 E I
3	J-13住2区1層 10区1層	鉢	普通	砂粒・灰色纖維混入	口縁部~体部破片	口縁部上面に2条の並行沈継・高巻き状沈継を施す。	加曾利 E I
4	J-13住6 ⁰ 1	深鉢	普通	砂粒・白色粘土・雲母混入	胴部 1/10	高巻き状沈継及びそこから垂下する縱位隆帯により、4単位に区分していると考えられる。区画内には縦位沈継が施す。横位沈継を施す。	加曾利 E II
5	J-13住2区~6区 1層	深鉢	普通	砂粒・白色粘土混入	胴部破片	胴部中央位から、縱位隆帯(2条一組)、隆帯間無文。により区画する。区画内、半裁竹管状工具又は丸棒状工具による縦位沈継施文後、さらに横位に施す文・区画する。	加曾利 E 併行
6	J-13住5区1層	深鉢	普通	砂粒・灰色纖維混入	胴部破片	拂り文を施す。	加曾利 E I
7	J-13住4区1層	深鉢	良好	砂粒・褐色粘土・雲母混入	胴部破片	拂り文施文後、3条一組の縦位隆帯を施す。隆帯の一部に高巻きを施す。	加曾利 E I ~ II
8	J-13住6区~6区 1層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	胴部下半部に遺存しているものと想定される。遺存部上端に横位沈継 RL 織文施文後、竹管状工具による列点状刺突を伴う横帶で区画する。区画内には、竹管状工具による縦位沈継が施す。	加曾利 E II
9	J-13住14区1層	鉢	良好	砂粒・白色粘土混入	体部破片	其の体部と同様点付近が遺存しているものと想定される。屈巻点上位、隆帯により区画する。一部に高巻きを施す。	加曾利 E II
10	J-13住4区1層 J-25住8区2層	深鉢	普通	砂粒・片岩混入	口縁部破片	口縁部上端に縦文を連續押印し、跡が灰状を呈する。外面単鉢 RL 織文施文横位沈継を施す。三角形又は半円形の印刷文を解す。	五頭ヶ丘

A区J-14号住居址

番号	遺物名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②土手	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-14住3区2層	深鉢	不良	砂粒・植物纖維混入	口縁部~胴部 1/10	やや外反する4単位波状口縁と想定される。口縁部に並行し横帯状工具による列点状刺突を施す。口縁部下位、同工具による平行沈継及び列点状刺突突によく差形に区画する。さらに差形中央へ(波頭部下位)に縦位列点状刺突を施し差形を二分する。	有尾
2	J-14住3区2層	深鉢	普通	砂粒・植物纖維混入	口縁部破片	波状口縁部。横帯状工具による列点状刺突を施す又は口縁に並行するように施し、差形(又は三角形)に区画する。一部の区画内には同工具による平行沈継を施す。	有尾
3	J-14住3区~6区 2層	深鉢	普通	砂粒・植物纖維混入	口縁部破片	波状口縁部。横帯状工具による列点状刺突を施す、斜位又は口縁に並行するように施し、差形(又は三角形)に区画する。波頭部から列点状刺突を垂らせる。また一部の区画内には同工具による平行沈継を施す。2と文様構成が類似しており、同一個体の可能性あり。	有尾

第91表 二軒在家原田遺跡A区織文時代住居址出土遺物観察表(5)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
4 2層	J-14 住3区へ4 深鉢	普通 砂粒・白色粘物 植物繊維混入	口縁部破片	波状口縁部頂部、口縁部横状工具又は板状工具による縦位連續切削線。口縁部に並行する細めの半載竹管状工具による爪形文施文。爪形文の間隔は器側面に長短の変化をつける。胴部ループ文。			有尾
5	J-14 住1区1層	深鉢	普通 砂粒・白色粘物 植物繊維混入	胴部破片	口縁部文様帶から胴部上位付近の剥片と想定される。円形容又は卵形容帶から、櫛衝状工具による列点状刺突を施した状態で施す。菱形又は三角形のセグメントを構成するものと想定される。		有尾
6	J-14 住3区2層	深鉢	普通 砂粒・褐色土 植物繊維混入	胴部破片	櫛衝状工具による縦位・斜位直線状、高巻き状例及び斜刺突を施す。		有尾
7	J-14 住3区2層	良好 砂粒・白色粘物 植物繊維混入	胴部破片	単壘 RD. と LR 終束横軸がしによる羽状彫文を施す。			前期中葉
8	J-14 住1区へ4 1層	深鉢	普通 砂粒・白色粘物 植物繊維混入	胴部破片	単壘 RD. と LR 終束横軸がしによる羽状彫文を施す。		前期中葉
9	J-14 住2区2層	良好 砂粒・石英・植 植物繊維混入	胴部破片	単壘 RD. と LR 終束横軸がしによる羽状彫文を施す。			前期中葉
10 1層・3区へ4 2層	J-14 住3区へ4 1層・3区へ4 1層	深鉢	普通 砂粒・白色粘物 植物繊維混入	底部破片	上げ底状を呈する。遺存部においては無文。		前期中葉
11	J-14 住1区1層	深鉢	普通 砂粒・植物繊維 混入	底部破片	上げ底状を呈する。遺存部においては無文。		前期中葉

A区J-15号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-15 住11区3層	深鉢	普通 砂粒・植物繊維 混入	口縁部破片	4 単位波状口縁部付近と想定される。口縁に並行し半載竹管状工具による列点状沈線を連続して施す。その下位に同工具による爪形文（筋肋浮彫文を呈する）施す。		前期中葉
2	J-15 住11区3層	深鉢	不良 砂粒・植物繊維 混入	口縁部破片	外へ外反する4単位波状口縁と想定される。横位・縦位位置帯に由る口縁部文様帶が区画する。縦位位置帯上の波頂部から、区画内には櫛衝状工具による縦位列点状刺突を連続して施す。胴部、櫛部、繩文（付加条？摩滅のため不明瞭）施文。		有尾
3	J-15 住3区1層	深鉢	良好 砂粒・植物繊維 混入	口縁部破片	やや外反する平口縁と想定される。直前段多条LR 繩文文後、半載竹管状工具又は棒状工具による平行沈線、連続刺突を施す。		黒浜
4	J-15 住12区へ4 2層	深鉢	良好 砂粒・植物繊維 混入	胴部破片	口縁部文様帶の一帯が遺存していると想定される。半載竹管状工具による平行沈線を施し、沈線間に同工具による刺突を連続して施す（筋肋浮彫文状を呈する）。また一部の凸輪部には刺突を施さない。さらに、櫛衝状工具による列点状刺突により、菱形又は三角形のセグメントを構成する。胴部上の境界には、隆起した列点状刺突を横位に並行して配り両面する。		有尾
5	J-15 住4区1層	深鉢	普通 砂粒・植物繊維 混入	胴部破片	口縁部文様帶から胴部最上位が遺存していると想定される。口縁部文様帶、半載竹管状工具による平行沈線を施し、沈線間に同工具による刺突を連続して施す（筋肋浮彫文状を呈する）。さらに、櫛衝状工具による列点状刺突により、菱形又は三角形のセグメントを構成する。胴部上の境界には、隆起した列点状刺突を横位に並行して配り両面する。		有尾
6	J-15 住15区3層	良好 砂粒・植物繊維 混入	胴部破片	単壘 RL. と LR 横軸がしによる羽状彫文を施す。			前期中葉
7	J-15 住12区1層	深鉢	普通 砂粒・植物繊維 混入	胴部破片	単壘 RL. と LR 横軸がしによる羽状彫文を施す。		前期中葉
8 2層	J-15 住14区へ4 深鉢	普通 砂粒・植物繊維 混入	底部～底部破片	底部上方に底状を呈する（平坦な表面に高台状に貼り付け）、胴部下位、付加条施文。			前期中葉
9 1層	J-15 住11区へ4 深鉢	普通 砂粒・植物繊維 混入	底部～底部破片	若干の上げ底状を呈する。胴部、直前段多条LR 繩文文。			前期中葉
10	J-15 住5区3層	良好 砂粒・白色粘物 混入	口縁部破片	6 単位波状口縁部付近と想定される。口縁に並行し半載竹管状工具による平行沈線を施し、沈線間に同工具による刺突を連続して配す。波頂部下位、竹管状工具による円形刺突を縦位に施す。			諸鏡 b

A区J-16号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1 2層	J-16 住1区へ4 鉢	良好 砂粒・月岩混入	口縁部～全体破片	やや内反する平口縁と想定される。半載竹管状工具押し引きによる爪形文で、三角形・棒状状に区画する。			諸鏡 b
2	J-16 住1区1層	深鉢	普通 砂粒・白色粘物 混入	口縁部破片	波状口縁部頂部、口縁部に並行し半載竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。爪形文間に同じ工具による連続浮彫線を施す。		諸鏡 b
3	J-16 住2区3層	深鉢	普通 砂粒・白色粘物 混入	口縁部破片	やや外反する平口縁と想定される。櫛衝状工具による横位直線状・波状平行沈線を施し、竹管状工具による円形刺突を縦位に配す。		諸鏡 b

第92表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代住居址出土遺物観察表(6)

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期	
			①焼成	②始土	③残存		
4	J-16 住1区～外 1層	深鉢	普通	砂粒・褐色織・ 白色黏物混入	口縁部破片	波状口縁部頂部下位に、焼成前に三角形の孔を 穿いていると考えられる。2条一組の縦帶で区画し、 縦帯の一部には横文押印か、口縁部上面にも棒 状に切欠きを施す。一部の区画内には横巻き状隆 帯・円形斜文突文。また違う区画内には半截竹管 状工具による平行沈線を格子目状に施し、沈線交 点に竹管状工具による円形斜文突を配す。	諸職 b
5	J-16 住1区～外 1層	深鉢	普通	砂粒・褐色織・ 白色黏物混入	胸部破片	横区・斜区巻き状で区画し、一部に下截竹管状工具 による平行沈線と格子目状に施し、沈線交点に竹 管状工具による円形斜文突を配す。さらに、一部に 小形文突が施されているが、模様の認め不明瞭である。 また同一個体と考えられる。	諸職 b
6	J-16 住1区3層	深鉢	普通	砂粒・白色黏物 混入	胸部破片	やや幅広の半截竹管状工具押し引きによる爪形文 で、横位直線状・弧状に区画する。爪形文間は、 連續短距離で施される浮遊文状を呈する。	諸職 b
7	J-16 住1区1層・ 1区3層	深鉢	良好	砂粒混入	胸部破片	単節 RL 繩文施文後、半截竹管状工具押し引きに よる爪形文を施す。一部の爪形文間は、連續短距離が施 され、縦巻き状文を呈する。さらに、竹管状工具による 円形斜文突を配す。	諸職 b
8	J-16 住4区2層	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	やや幅広の半截竹管状工具押し引きによる爪形文 で区画する。一部の爪形文間は、連續短距離が施 され、縦巻き状文を呈する。さらに、竹管状工具による 円形斜文突を配す。	諸職 b
9	J-16 住2区3層	深鉢	普通	砂粒・片岩混入	胸部破片	単節 RL 繩文施文後、半截竹管状工具押し引きに よる爪形文を施す。	諸職 b
10	J-16 住2区3層	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文で木葉状に 区画。さらに、竹管状工具による円形斜文突を配す。	諸職 b
11	J-16 住3区～外 3層	深鉢	普通	砂粒・片岩混入	胸部破片	胸部中位附近が遺存していると想定される。RL 繩 文施文後、半截竹管状工具による横・斜位沈線を連続 して施す。	諸職 a～b
12	J-16 住3区～外 3層	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	半截竹管状工具による横位直線状・波状平行沈線を施 す。竹管状工具による円形斜文突を配す。	諸職 b
13	J-16 住4区1層	深鉢	良好	砂粒・灰色織混 入	胸部破片	単節 RL 繩文施文後、廟壇状工具による横位直線 状・波状平行沈線を施す。さらに、一部の区画に 竹管状工具による円形斜文突を配す。	諸職 b

A区J-19号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期	
			①焼成	②始土	③残存		
1	J-19 住13区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粘物・ 角閃石混入	口縁部～胸部破 片	縦ややくびれ口縁部が認定される。隙間に下口縁部 口縁部を区画する。隙部内側をさらに沈線で鉛円 形に区画し、内部に横位基調沈線を施す。胸部、 斜位沈線を区画。区画内に単節 RL 繩文を施す。 斜位・鉛円形沈線を施す。	加曾利 E
2	J-19 住8区2層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胸部破 片	中央に沈線を伴う横巻きにより口縁部文様帯を区画す る。区画内部に横文（単節 RD. か）と施す。 斜位・鉛円形沈線を施す。	加曾利 E
3	J-19 住10区～外 2層	深鉢	不良	砂粒混入	口縁部破片	中央に沈線を伴う横巻きにより口縁部文様帯を区画す る。区画内部に横文（単節 RD. か）と施す。 斜位・鉛円形沈線を施す。	加曾利 E
4	J-19 住10区～外 2層	深鉢	普通	砂粒・角閃石混 入	口縁部～胸部破 片	逆巻きにより口縁部文様帯を区画する。区画内部、 底面に横文（単節 RD. か）と施す。	加曾利 E
5	J-19 住6区1層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	逆巻きにより口縁部文様帯を区画する。隙間に横位基調沈 線を施す。隙部内側に横位基調沈線を施す。	加曾利 E
6	J-19 住6区～外 1層	深鉢	良好	砂粒・褐色織混 入	口縁部破片	一重構造の中空把手。外周には楕丸三角形の大 型孔を配す。孔の周囲及び端部上面には、端 部溝巻き状の沈線を施す。	加曾利 E 併行
7	J-19 住15区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粘物・ 雲母混入	口縁部～胸部下 位1/10	単節 RL 繩文施文。口縁部、繩文施文後に横位調 停行？	加曾利 E
8	J-19 住6区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粘物・3/4 黒色粘物混入	口縁部～胸部下 位1/10	隙部にこり口縁部文様帯を区画し、区画内には横 位沈線を施す。胸部、隙位隙帶で区画し、区画内に は横位沈線を施す。	加曾利 E 併行
9	J-19 住7区1層	深鉢	普通	砂粒・灰色織混 入	胸部破片	隙部で区画し、一部の区画内に横位沈線を施す。	加曾利 E 併行
10	J-19 住6区1層	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	砂粒状工具による隙位沈線を区画する。区画内に波 形状沈線を施す。	加曾利 E 併行
11	J-19 住3区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色織・ 角閃石・白色粘物 混入	胸部破片	隙部中位～下位に2条一組の隙位隙帶で区画し、一部の隙 位に横巻き状隙帶を連結する。区画内には横 位沈線を施す。	加曾利 E 併行
12	J-19 住8区2層	深鉢	普通	砂粒・灰色織混 入	胸部破片	丸棒状工具による2条の隙位沈線で区画する。一部 の区画内に横位・斜位隙状沈線を施す。	加曾利 E 併行

第 93 表 二軒在家原田遺跡 A 区繩文時代住居址出土遺物観察表 (7)

番号	造構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②鉛土	③残存		
13	J-19 住D-2 土	深鉢	普通	砂粒・チャート・雲母混入	口縁部～胴部 1/10	器全体に単節LR繩文施文後、口縁部文様帶を半截竹管状工具による横位平行沈縫で区画し。区画内に棒状工具による連續刻文、半截竹管状工具による横位平行沈縫で区画し、上位区画内には棒状工具による連續刻文、半截竹管状工具による縱位平行沈縫で区画し、下位区画内は半截竹管状工具による連續刻文、半截竹管状工具による縱位平行沈縫で区画し。区画内に棒状工具による連續刻文、半截竹管状工具による逆V字形の平行沈縫を施す。	五頭ヶ台

A区J-20号住居址

番号	造構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②鉛土	③残存		
1	J-20 住3区2層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口縁部に幅の狭い文様帯を有する。隆帯を波状に施し、無文帯と隆帯の間に半月状区画を連続させ。区画内には縱位沈縫を施す。胴部、単節LR繩文施文後、蛇行捲帯（一部削離）を垂下させる。口縁部に幅の狭い文様帯を有する。隆帯を波状に施し、無文帯と隆帯の間に半月状区画を連続させ。区画内及び胴部には沈縫を施す。	加賀利E
2	J-20 住3区2層	深鉢	不良	砂粒混入	口縁部破片	口縁部に幅の狭い文様帯を有する。隆帯を波状に施し、無文帯と隆帯の間に半月状区画を連続させ。区画内及び胴部には沈縫を施す。	加賀利E
3	J-20 住9区8~6区2層	深鉢	不良	砂粒・白色粘土	口縁部破片	隆帯を円形、一部に高巻き式に施し、口縁部文様帶を区画する。区画内及び胴部に単節LR繩文施文、全体的に摩滅感有り。	加賀利E II
4	J-20 住10区8~6区2層・14区8~11区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 角閃石・雲母混入	口縁部～底部 1/3	4個位小波状口縁部想定される。断面三脚形の高い背壁部に口縁部文様帶を区画する。区画内には半截竹管状工具あるいは棒状工具による縱位・斜位沈縫を施す。波頂部下位には2条一起の棒状背隆部と棒状沈縫を連続させ垂下させる。区画内に削離状と戻状の組み合せ位の隆帯を施す。隆帯以下の部分は、半截竹管状工具あるいは棒状工具による重複文様・張状沈縫を施す。一部の沈縫は削離を呈する。	加賀利E 併行 (中部高地系)
5	J-20 住11区8~11区2層	深鉢	普通	砂粒・石英・角 閃石・白色粘土 混入	1/2	波状及び二重口縁。口縁部、丸棒状工具による横位継ぎ目繩文施文。無文帯は横位撚れ。底部から側面部、単節LR繩文施文位・斜位文・文脇・底部による渾沌状・連続繩文・懸垂文・蛇行捲帯文を施す。さらに波帶脇・陸帯間には丸棒状工具による施文施文、底部は撚れで、内面は横位撚れ。外面は煤付着。側面部に帯状の煤消失部が認められる。	加賀利E 併行 (大木8b?)
6	J-20 住13区1層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	深鉢底部上位部分が想定される。底部附近に横位隆部を近づく。隆部上位は無文。下位は棒状工具による弧状沈縫・斜位沈縫（鱗状）を施す。	加賀利E 併行 (郷土系?)
7	J-20 住14区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粘土	胴部破片	隆帯を区画し、区画内に斜位沈縫を施す。	加賀利E 併行
8	J-20 住3区2層	深鉢	普通	砂粒・雲母・掻	胴部破片	2条の縦位隆帯で区画する。区画内に蛇行隆部と垂下せず。棒状工具による棒状沈縫を施す。	加賀利E 併行 (利番系)
9	J-20 住8区2層	深鉢	普通	砂粒・灰色粘土 混入	胴部破片	2条の並行する横位沈縫又は高巻き状隆帯により区画する。区画内に沈縫を施す。	加賀利E 併行 (利番系)
10	J-20 住4区1層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	並行する縦位隆帯により胴部を区画する。区画内に改めての縦位平行沈縫施文後、蛇行隆帶を垂下させる。	加賀利E
11	J-20 住6区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	口縁部～胴部破片	半截竹管状工具による横位平行沈縫（半截起縫状）で区画する。邊縫部は3区画されている。上位区画、半截竹管状工具による斜位・U字状等平行沈縫施文、中位区画、三角印刻文と沈縫施文。下位区画、無繩文施文。	加賀利E 併行
12	J-20 住4区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 金雲母混入	胴部破片	半截竹管状工具による斜位平行沈縫（半截起縫状）で区画する。一部の区画内に同工具による列状斜刺突を施す。	五頭ヶ台

A区J-21号住居址

番号	造構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②鉛土	③残存		
1	J-21 住15区7フロ	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	中央に孔を有する棒状口縁部。直棒状工具による直縫線・弧状沈縫と斜刺突を施す。	称名寺Ⅱ
2	J-21 住15区7フロ	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	中央内凹する波状口縁。波頂部附近に2個の孔を配す。丸棒状工具による丸孔を施す。	堀之内I
3	J-21 住4区1層	鉢	良好	砂粒混入	口縁部～体部破片	体部上位で輪著に斜刺突し、口縁部内に反する。口縫線と体部器形を接点に横位沈縫を施す。	堀之内I
4	J-21 住5区1層	深鉢	普通	砂粒・黑色粘土 混入	胴部破片	丸棒状工具による弧状沈縫を施す。	称名寺
5	J-21 住15区7フロ	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	口縁部破片	丸棒状工具による弧状沈縫を施す。一部の区画内に同工具による列状斜刺突を施す。	称名寺
6	J-21 住4区1層	深鉢	良好	砂粒・白色粘土 混入	胴部破片	柄突起伴う縦位隆帯で区画する。区画内、さらに縦位・斜位沈縫で区画。一部にLR繩文施文。	堀之内I

第94表 二軒在家原田遺跡A区繩文時代住居址出土遺物観察表(8)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
7	J-21 住 4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	竹管状工具による汎用で区画する。一部の区画内に LR 繩文施。さらに竹管状工具による円形刺突出部。	昭之内 I
8	J-21 住 11 区へ外 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	丸棒状工具による直線状・斜位並行沈縫を施す。一部に同工具による効率を配す。	昭之内 I
9	J-21 住 15 区サブレ	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	丸棒状工具による横位沈縫により区画する。沈縫下位、部状・斜位沈縫を施す。	昭之内 I
10	J-21 住 11 区 1 层	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	半裁竹管状工具による渦巻き状結合部浮縫文を施す。	諸葛 c
11	J-21 住 3 区 1 层	深鉢	普通	砂粒混入	口縫部・胴部破片	弧状・横S字状状隆帯に平行した縄文様帯を区画する。一部の区画内に横位沈縫を施す。 側部、遺物部において無文。	加曾利 E I ~ II
12	J-21 住 15 区 1 层	深鉢	良好	砂粒・灰色織混入	口縫部破片	口縫部上部において横位沈縫に内包する。口縫部、輪の後、織文帯を有する。無文帯下位に横位沈縫を巡らす。斜位又是に渦巻き状隆帯により口縫部文様帯を区画する。区画内 RL 繩文施文。	加曾利 E I ~ II
13	J-21 住 14 区 1 层	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	胴部破片	縄文（台形の一種か）施文。	中期後葉?
14	J-21 住 8 区 1 层	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部上部に織文（LRか？）施文。丸棒状工具による斜位沈縫と、逆方向の斜位棒状貼付文を合わせ、斜格子・目状モチーフを構成する。	加曾利 E 併行（曾利系）
15	J-21 住 15 区 1 层	深鉢	普通	砂粒・白色黏土混入	胴部破片	遺存部上部に横位沈縫を施す。丸棒状工具による斜位沈縫と、逆方向の斜位棒状貼付文を合わせ、斜格子目状モチーフを構成する。	加曾利 E 併行（曾利系）
16	J-21 住 8 区 1 层	深鉢	普通	砂粒・褐色織・雲母混入	胴部破片	深鉢の口縫部・頭部・胴部の各支撐帯が遺存するなどされる。口縫部文様帯、陣帶位沈縫で区画し、区画内には単壁 RL 繩文施文。頭部、斜位沈縫・棒状貼付文により格子目状モチーフとする。胴部、横位沈縫で区画し、区画内に蛇行隆帯を垂下させる。さらに区画内に複数の沈縫施文。	加曾利 E 併行（曾利系）
17	J-21 住 3 区 1 层	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	丸棒状工具による直線状・弧状沈縫を施す。蛇行隆帯を垂下させる。	加曾利 E 併行（曾利系）
18	J-21 住 10 区へ外	深鉢	普通	砂粒混入	口縫部・胴部破片	頭部、斜位沈縫により区画し、一部の区画内に單壁 LR 繩文を充填。	昭之内 I
19	J-21 住 7 区サブレ	深鉢	良好	砂粒・白色粘土混入	胴部破片	深鉢頭部上位の文様帯と思定される。並行する横位沈縫施文、LR 繩文施文。さらに横位沈縫間に横位沈縫を施す。	加曾利 B I

A区 J - 22a 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-22a 住 8 区 1 层	深鉢	良好	砂粒混入	口縫部・胴部破片	胴部上位から口縫部にかけて内反する平口縫と思定される。口縫部文様帯、陣帶により連続する横円形状・直縫し、区画内に横位沈縫を施す。一部の横円形区画連結部に横状貼付文を配す。頭部は斜位沈縫。	加曾利 E I
2	J-22a 住 10 区 2 层・J-22a 住 8 区・10 区 2 层	深鉢	普通	砂粒・褐色織・石英混入	口縫部下位・胴部 1/10	深鉢上部に口縫部文様帯を区画する。区画内には半裁竹管状工具による斜位平行沈縫を施す。胴部、走り字状沈縫で区画し、区画内には半裁竹管状工具による斜位平行沈縫（波形状）施文。	加曾利 E III

A区 J - 22b 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-22b 住 10 区へ外 2 层	深鉢	良好	砂粒混入	口縫部破片	把手状波状部を有する横状口縫。隆帯上より口縫部文様帯を区画する。区画内斜位沈縫を施す。把手状波頂部は隆帯により渦巻き状モチーフと思定される。頭部、波頂部下位に横位沈縫が認められる以外無文。	加曾利 E I
2	J-22b 住 7 区 2 层	深鉢	普通	砂粒・褐色織・雲母混入	口縫部破片	横ややかな横状口縫から、隆帯によく横円形に口縫部文様帯を区画する。横円形区画内にさらに二つの横円形区画を組み合わせるものと考えられる。頭部、单壁 LR 繩文施文。	加曾利 E
3	J-22b 住 9 区へ外 3 层	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縫部・胴部 2/5	連続する平円形施文と横位沈縫で、口縫部文様帯を半円形に区画する。区画内、斜位又は横位沈縫を施す。頭部、半円形区画連結部より2箇所一組の横位平行沈縫を垂下させる。区画内に横移状沈縫を施す。また、一部の区画内において柔軟な組合せの横位沈縫が施す。波形状沈縫も見つかっており、文様モチーフが複雑な感がある。	加曾利 E

第 95 表 二軒在家原田遺跡 A 区繩文時代住居址出土遺物観察表 (9)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
4 層	J-22b 住 6 区～6ト 1	深鉢	良好	砂粒・黒色粒・ 灰色織混入	口縁部～胴部 1/10	口縁部内側に隆起状の縦を有する。口縁部、隆起部で半月状に区画し、区画内に縦位沈線を施す。胴部、隆起部を重下させ区画する。区画内に斜位沈線を施す。	加賀利E I～ II 併行
5 2層	J-22b 住 10 区～4ト 2層	深鉢	普通	砂粒・角閃石・ 灰色織混入	胴部破片	2条～1組の縦位沈線（一部は逆U字形）で区画する。区画内、丸棒状工具による斜位沈線を横状又は縦状に施す。さらに、一部を弧状隆蒂で区画し、区画内に弧状沈線を施す。	加賀利E 併行 (鄭上系?)
6 2層	J-22b 住 10 区～4ト 2層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部 1/10	單面LR 繩文施す。	中期後半
7 層	J-22b 住 2 区～6ト 2	深鉢	普通	砂粒・灰色織 混入	胴部破片	深鉢の粗面付近より、頸部逆方向の側位沈線と斜位隆蒂を重複させ、格子目状に区画する。上下に横位沈線を施す。側面に縦位沈線を貼付する。胴部半円柱管状工具による横位沈線を施す。一部に溝巻き状隆蒂が配す。	曾利
8 2層	J-22b 住 10 区～4ト 2層	深鉢	普通	砂粒・白色織混 入	胴部破片	頸部～胴部下位遺存。頸部、連續する2組の弦錐帯と斜位隆蒂を施す。縦位沈線は無文。直線状・溝巻き状・逆U字形隆蒂により区画する。一部の区画内には弧状・蛇行沈線を重下せる。また、一部は縦位沈線後、單面LR 繩文を施す。	中期後葉
9	J-22b 住 6ト	浅鉢	普通	砂粒・白色織 混入	口縁部～体部破 片	体部上部から口縁部にかけて、縦著に内屈及び外屈する跡跡。口縁部は無文。筋部付近には横位沈線を追加する。体部上位、隆蒂と沈線で文様帯を区画する。区画内には縦位沈線。	加賀利E I
10 1層	J-22b 住 10 区～6ト 1層	深鉢	普通	砂粒・金雲母混 入	胴部破片	横位沈錐帯又は半管竹管状工具による横位半隆起壁で区画する。区画内に上下端がない突起部を交互に施す。遺存最下位の区画には、半管竹管状工具による縦位半隆起壁を施す。	五郎ヶ台

A区J-22号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1 1層・ 5区3層	J-22 住 2 区 1 层・ 5 区 3 层	深鉢	普通	砂粒・褐色織混 入	口縁部～胴部 1/8	④沿形・文様等の特徴／備考 4ヶ所に把手を有する。隆蒂と沈線により口縁部文様帯を区画する。一部の区画内に縦位沈線並み、各把手の中间間に溝巻き状モチーフを配す。胴部、焼の施文後、把手の下位に蛇行沈線、溝巻き状モチーフの下位に3条～1組の縦位沈線を施す。	加賀利E I～ II
2	J-22 住 6 区 3 层	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部 1/8	隆蒂と沈線で口縁部文様帯を長椭円形に区画する。区画は5箇位である。区画内には棒状工具による横位沈線を施す。長椭円形区画結合部には逆S字状沈線を施す。脚部は3条～1組の縦位並行横線で区画する。沈錐部が4組しか遺存しないため断言はできないが、6位点に区画している可能性が高い。(つま) 口縁部文様帯5箇位。胴部の単位の区画である。胴部の区画内には單面LR 繩文施文。	加賀利E II
3 9区2層・ 13区3層	J-22 住 10 区 3 层・ 9 区 2 层・13 区 3 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部～胴部 1/3	溝巻き沈錐帶で口縁部文様帯を長椭円形に区画する。区画は4箇位である。区画内には棒状工具による横位沈線を施す。長椭円形区画結合部には逆S字状沈線を施す。脚部、單面RL 繩文施文。	加賀利E II
4	J-22 住 1 区 2 层	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部 1/8	口縁部の遺存部が少なくて断定できないが、渡状口縁の可能性がある。沈錐帶と沈錐部により口縁部文様帯を区画する。区画内には單面RL 繩文施文、文様帯結合部には溝巻き状沈線を配す。脚部は無文。胴部、2条の平行する横位沈錐帶と沈錐部で区画する。区画内には單面RL 繩文施文。さらに、一部の区画には蛇行隆蒂を重下せる。	加賀利E I
5	J-22 住 2 区 2 层	深鉢	普通	砂粒・黑色織物 混入	口縁部～胴部 1/10	口縁部文様帯附近を切り落し、上端が外反する平口縁。横位直線状隆蒂と、中央に横位沈錐線を作つて隆蒂により口縁部文様帯を区画する。区画内には單面RL 繩文施文、脚部、基本的には無文であるが、一部に不明瞭な縦・横文が認められる。脚部下位に丸棒状工具によつ2条～1組の縦位沈錐線を施し、胴部文様帯と区画する。胴部の一部は横位又は斜文が認められるが、遺存部が少なく詳細は不明。	加賀利E I～ II
6	J-22 住 5 区 3 层	深鉢	普通	砂粒・白色織物 混入	口縁部破片	口縁部文様帯附近を切り落し、上端が外反する平口縁。横位直線状隆蒂と、中央に横位沈錐線を作つて隆蒂により口縁部文様帯を区画する。区画内には單面RL 繩文施文、脚部、基本的には無文であるが、一部に不明瞭な縦・横文が認められる。脚部下位に丸棒状工具によつ2条～1組の縦位沈錐線を施し、胴部文様帯と区画する。	加賀利E I
7	J-22 住 6 区 3 层	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部～胴部破 片	胴部下位から口縁部にかけて区画する平口縁と想定される。口縁部文様帯、脚部下位に横位沈錐帶、横位無文。区画連結部には溝巻き状隆蒂を施す。区画内及び脚部に單面RL 繩文施文。脚部下部に丸棒状工具による横位沈錐線を施す。	加賀利E I～ II

第 96 表 二軒在家原田遺跡 A 区 繩文時代住居址出土遺物観察表 (10)

番号	造営名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②船上	③残存	④器形・文様等の特徴/備考	
8	J-22 住・27 住 (アサヒ 11-37b)	深鉢	良好 砂粒・白色粘物 混入	口縁部破片	隆起により半月状に凸凹し口縁部文様帯を構成する。半月状区画内及び底部単線 I.R. 調文施文。	加曾利 E II	
9	J-22 住1区2層	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部～胴部破片	内や外に反する平口縁と想定される。隆起により楕円形に区画され、口縁部文様帯を構成する。楕円形区画内には複数回線施文、胴部、単脚 I.R. 調文施文後、楕円形区画結合部（丸巻き状隆起の可能性も考えられる）下位に本筋位継ぎ並行状態を施す。	加曾利 E I ~ II	
10	J-22 住9区2層・ 5区3層・ 10区～6区2層	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部～底部 2/3	平口縁の大型深鉢、單路 I.R. 調文施文。一部に不明瞭な複数回線が認められるが、規則性がない意図的施文ではないと考えられる。底部やや上げ底状。	加曾利 E	
11	J-22 住1区2層	深鉢	不良 砂粒混入	口縁部～胴部破片	隆起により半月状に凸凹し口縁部文様帯を構成する。半月状区画結合部に満巻き状隆起と沈窓。局部は無文。半月状区画内・満巻き状区画内・胴部に単脚 I.R. 調文施文。	加曾利 E I	
12	J-22 住9区2層・ 13区3層	深鉢	良好 砂粒・白色粘物 混入	胴部 1/3	複数回線施文による単脚 I.R. 調文を地紋とする。頂部と胴部最下位に横位置窓、横位置窓間に複数回線施文を施し 9 単位に区画する。区画内には楕円形沈窓施文。陸帶上にも調文を施す。内面は横幅撫で、	中期後葉	
13	J-22 住2区2層	深鉢	普通 砂粒・白色粘物 混入	胴部破片	半輪竹管状工具による複数位平行沈窓、逆方向の複数位横状付文を合わせ、格子目状モチーフを構成。その下位には単脚による複数位平行沈窓施文。さらに一部に同工具による複数位点状横沈窓を施す。	曾利 II?	
14	J-22 住6区3層・ 2区3層	浅鉢	良好 砂粒混入	口縁部～体部 1/8	口縁部下位に浅い楕円の横位置窓状施文を施す。沈窓の内側は接状に張り出る。全体的に丁寧な作法である。	加曾利 E	
15	J-22 住6区3層	浅鉢	良好 砂粒・褐色繊 白色粘物混入	口縁部～体部 1/10	体部上位に深い楕円沈窓状施文を施す。遺存部においては無文。内面は丁寧な磨き。	加曾利 E	
16	J-22 住1区2層・ 5区3層・6区3層・ 22b(住9区～6区3層)	浅鉢	普通 砂粒混入	体部～底部破片	遺存部においては無文。15 と同一個体の可能性あり。	加曾利 E	
17	J-22 住6区～6区1層	鉢	良好 砂粒・褐色繊 白色粘物混入	体部～底部 1/10	遺存部においては無文。外側丁寧な磨き。	加曾利 E	
18	J-22 住5区3層・ 22b(住9区～6区3層)	浅鉢	良好 砂粒・黑色粘物 混入	口縁部～体部 1/10	I 単位波状口縁か、外面、波頂部下位に満巻き状、弧状を組み合わせた沈窓を施す。内面、波頂部下位に満巻き状沈窓。両面に長横円状沈窓を施し、区画内に半輪竹管状工具による連続的突起を施す。外面部上に赤紫色彩の痕跡が認められる。	加曾利 E	
19	J-22 住5区3層	器台	普通 砂粒・角閃石・ 白色粘物混入	器受部～脚部 2/5	無文。残存部においては4ヶ所の孔を有する。	加曾利 E	
20	J-22 住5区3層 22b(住9区～6区2層)	器台	普通 砂粒・白色粘物 混入	脚部 1/6	無文。外連丁寧な磨き。器受部欠損。2個1対の孔を有する(4ヶ所か)。	加曾利 E	
21	J-22 住6区3層	台付土器	良好 砂粒混入	台部破片	逆「U」字状の孔を4ヶ所有すると思われる。單路 I.R. 調文施文。	加曾利 E	

A区J-23号住址

番号	造営名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②船上	③残存	④器形・文様等の特徴/備考	
1	J-23 住2区2層	深鉢	普通 砂粒・白色粘物 混入	口縁部～胴部破片 角閃石混入	口縁部上端が著しく内反する。隆起により、口縁部文様帯を長方形に区画する。区画内に I.R. 調文と沈窓を伴う貫手状（又は満巻き状）隆起を施す。頂部は遺存部において無文。	加曾利 E II	
2	J-23 住2区1層	深鉢	良好 砂粒・白色粘物 混入	胴部破片	丸棒状工具による横位置窓で区画する。一部の区画内に單脚 I.R. 調文を施す。さらに、丸棒状工具による蛇行沈窓を重ねさせる。	加曾利 E	
3	J-23 住4区1層	深鉢	普通 砂粒・白色粘物 混入	胴部破片	單脚 I.R. 調文施文後、丸棒状工具による2足一组の縦位沈窓が区画する（遺存部上端に横位置窓が僅かに認められる。逆 U 字状区画の可能性もある）。	加曾利 E	
4	J-23 住4区1層	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	遺存部上位に弧状沈窓が僅かに認められる。單脚 I.R. 調文施文後、丸棒状工具による複数位平行沈窓を施す。	加曾利 E	
5	J-23 住1区1層	深鉢	良好 砂粒・白色粘物 混入	胴部破片	複数位工具による条縫を施す。	加曾利 E	
6	J-23 住8区2層	深鉢	普通 砂粒・褐色繊 混入	胴部破片	横位丸棒状文様、満巻き状又は弧状結構浮縫を施す。	諸穂 c	
7	J-23 住8区2層	深鉢	普通 砂粒・白色粘物 混入	口縁部～胴部破片	横位丸棒状文様、満巻き状隆起を施す。竹管状工具・半輪竹管状工具による刺突を沈窓に並行して施す。	中期後葉?	
8	J-23 住3区2層	鉢	普通 砂粒・白色粘物 混入	体部破片	半輪竹管状工具により、弧状・満巻き状平行沈窓を施す。	腹之内	

第 97 表 二軒在家原田遺跡 A 区繩文時代住居址出土遺物観察表 (11)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②釉土	③残存	
9	J-23 住キアリ	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	胴部上位の器形変換点（折れ部）付近。Y字状 圧痕帯を施す。Y字の中心部を円形にし、中心 を削除する。器形変換点に沿い、丸棒状工具によ る圧痕で横位長楕円形に区画する。区画内は縦位 短楕円形を連続して施し、圧痕帯状を呈する。胴部、 丸棒状工具による縦位基準圧痕を施す。	縦之内1
10	J-23 住9区1層	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部～胴部破 片	口縁部内側に溝帯状の様を見る。外面、彫みを 有する横位隆帯を施し、8の字状の貼付文。 胴部、沈刷により施す。一部に繩文施文。	縦之内2
11	J-23 住14区1層	深鉢	普通 砂粒・白色飴混 入	胴部破片	横位短楕円と圧痕帯で区画し、8の字状貼付文を 施す。胫下部には横位LR繩文施文。	縦之内2
12	J-23 住7区2層	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	胴部上位の横位圧痕帯と想定される。	中期末葉～後期
13	J-23 住3区2層	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	板状の並行する横位圧痕で区画し、一部にLR繩文を 充填する。沈刷による区画に三角形と想定される。	縦之内2
14	J-23 住8区1層	注口土器	普通 砂粒混入	胴部破片	注口上部胴部上半と思われる。單輪LR繩文施文後、 並行する沈刷により三角形基調に区画する。	縦之内2
15	J-23 住7区2層	深鉢	良好 砂粒・白色飴 マーク混入	口縁部～胴部破 片	口縁部頂部付近。把手上面S字状突起。両 側面、内面に孔を有する。胴部外側、横位浅縫、 底縫状沈刷を施す。内面、幅広の横位圧痕を施す。	加賀利BI
16	J-23 住一括	浅鉢	普通 砂粒混入	口縁部～体部破 片	口縁部上端に内反する浅縫と想定される。沈刷以外遺存 部においては無文。内面、器形変換部付近に斜 交する横位隆帯を施す。体部には横位沈刷を並行し て施す。一部の丸棒状工具に斜位短楕円形を連続して 施すが、施文後推でいるため不明瞭である。	加賀利BI

A区J-25号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②釉土	③残存	
1	J-25 住7区2層	深鉢	普通 砂粒・角閃石・ 雲母・褐色飴混 入	口縁部～胴部 1/10	口縁部上位に断面四角形の波状模様を示すし口縁 部文様帶を区画する。胫帶上には丸棒状工具によ る浅い沈刷を施す。口縁部文様帶内には同工具によ る浅い平行短楕円形を施す。胴部、燃希施文後、 丸棒状工具による3条一起の沈刷を施す。	加賀利BII
2	J-25 住14区D-1	深鉢	普通 砂粒・片岩・雲 母混入	口縁部～胴部 1/10	胫帶上に浅縫により口縁部文様帶を区画する。区画 内には、丸棒状工具による縱位沈刷を施す。また、 区画底部には渦巻き状の胫帶・沈刷を配す。胴部、 单輪LR繩文施文後、九拂状工具による蛇形 沈刷を下す。	加賀利E II
3	J-25 住3区1層・ 3区2層	深鉢	普通 砂粒・褐色飴混 入	口縁部～胴部 1/10	口縁部上位に平行短縫。胫帶上に浅縫により口縁部文 様帶を構成する。横位短縫、載子・弧状に区画する。横位短 縫内には縦位沈刷を施す。胴部、渦巻き状区 画下位に胫帶を垂下させて区画(6単位)する。 区内、单輪LR繩文施文後、弧状沈刷を施す。	加賀利E II (連縄文系?)
4	J-25 住8区1層	深鉢	良好 砂粒・白色飴 混入	口縁部～胴部 破片	丸棒状工具は平戴状留状工具による弧状沈刷 で、半月状に区画し、口縁部文様帶を構成する。半 月状区画内、同工具による縦位沈刷を施す。さら に月状区画連結部より、横位沈刷を垂下させ区 画する。沈刷の痕が複数で、全般的に稚拙。	加賀利E II
5	J-25 住7区2層	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部～胴部破 片	胫帶上に平行短縫に区画し、口縁部文様帶を構成す る。半月状区画内、棒状工具による上方から下方 への横位短縫沈刷を施す。胴部、縦位沈刷施文後、 丸棒状工具による横位弧状沈刷を施す。	加賀利E II 併行?
6	J-25 住3区1層・ 3区2層・ 2区～1区2層	深鉢	良好 砂粒・白色飴・ 赤色飴・砂 混入	口縁部～胴部 2/5	胫帶を横位沈刷により口縁部文様帶を横円形に区画 する。区画内には縦位短縫を施す。胴部、地紋 として鶴添し・施文後、縦位・横位沈刷により出 現する。	郷上
7	J-25 住2区1層・ 一括	深鉢	普通 砂粒・白色飴	口縁部破片	胫帶上に内傾した平坦面を形成する。半円状留状 工具による平行沈刷を斜位に施文後、蛇行隆帯を 施す。蛇行隆帯は6単位と考えられる。胫部、 丸棒状工具による横位沈刷と横位隆帯を施す。	加賀利E併行 (曾利系)
8	J-25 住14区2層	深鉢	良好 砂粒・褐色飴・ 金雲母混入	口縁部破片	口縁部上位に平行短縫に区画し、口縁部文様帶を構成す る。半月状区画内、棒状工具による縦位沈刷を施す。 胴部、縦位沈刷施文後、横円溝巻き状を呈する棒 状工具文、横円形點付文、縦位直線状、蛇行貼 付文、横位弧状沈刷を施す。同一個体。	加賀利E併行 (曾利系)
9	J-25 住8区1層	深鉢	不良 砂粒・白色飴 混入	胴部破片	胫帶上に平行短縫に区画し、口縁部文様帶を構成す る。半月状区画内、棒状工具による縦位沈刷を施す。 胴部、縦位沈刷の境界には横位隆帯を3条出す。 胴部、縦位沈刷施文後、横円溝巻き状を呈する棒 状工具による3条一起の縦位沈刷で区画し、区内 に横位・弧状沈刷を施す。	加賀利E I ~ II

第98表 二軒在家原田遺跡A区繩文時代住居址出土遺物観察表(12)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②船上	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
10	J-25住15区2層	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 混入	網部破片	縦位塗布式区画し、区画内に丸棒状工具又は半裁竹管状工具による横位沈線を施す。さらに同工具による横位弧状沈線を施す。	加曾利E II	
11	J-25住11区1層	深鉢	普通 砂粒混入	網部破片	半裁竹管状工具による縦位沈線施文後、溝巻き状隙帶を施す。遺存部右端の隆帯は、垂下する蛇行隙帶。さらに同工具又は丸棒状工具による横位弧状沈線を施す。	加曾利E II	
12	J-25住3区1層・ 2区2層	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 混入	網部破片	2条一組の横位隆帯で区画し、区画内に平行行隙帶を施す。さらに半裁竹管状工具による縦位沈線を施す。一部に横位化粧を施す。	加曾利E II ?	
13	J-25住11区2層	深鉢	普通 砂粒混入	網部破片	拂り支配方文後、丸棒状工具による縦位沈線で区画する。	加曾利E I ~	
14	J-25住11区1層	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	波状口縁部頂付近が遺存する。波状部底面下に半裁竹管状工具による溝巻き状隙線文。さらに口縁部に並びけるように丸棒状工具による隙線を施す。網部、溝巻き状隙線下には2条一組の横位隆帯を垂下させ区画する。区画内に半裁竹管状工具による平行隙帶を施す。口縁部内側に頸著な隆(段差)を有する。	加曾利E併行	
15	J-25住11区1層	深鉢	普通 砂粒混入	網部破片	網部上部に遺存する想定。半裁竹管状工具又は丸棒状工具による縦位沈線施文後、腹部器形変換点に丸棒状工具による2条の横位隙線を施す。中央に丸棒状工具による弧状隙帶を施す。隆帯先端部より直線状隙帶を垂下させ網部を区画する。さらに、区画内に丸棒状工具による横位弧状沈線を施す。	加曾利E II	
16	J-25住14区2層	深鉢	良好 砂粒・褐色 金雲母混入	網部破片	口縁部・支脚部から脇部の中段が遺存する。口縁部、斜化隙帶を施す。脇部との境界には横位隆帯を3条形成。網部、縦位沈線施文後、精円溝巻き状を呈する縦位粘付文・溝巻き状隙帶・蛇行粘付文・横位弧状隙帶を施す。	加曾利E併行	
17	J-25住1括	深鉢	普通 砂粒・角閃石 混入	網部1/8	網部中位に遺存する。遺存部の上位で外反すると想定される。窓状貼付文を伴う縦位隙帶により6單位に区画すると考えられる。各区画内には溝巻き状隙帶や、部分的に縦位隙帶を施す。さらに半裁竹管状工具による縦位平行隙線を施す。丸棒状工具による「日」字形沈線を施す。	加曾利E II ~ Ⅲ併行 (中部高地系)	
18	J-25住5区2層	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 黑色粘土混入	底部破片	3条一組又は2条一組の縦位隙帶により9単位に区画する。区画内には網位RL構文施文。	加曾利E	
19	J-25住11区2層	鉢	普通 砂粒混入	口縁部～体部 1/10	大型の鉢。遺存部においては無文。	加曾利E	
20	J-25住炉	ニコニア土器	良好 砂粒混入	口縁部～体部 1/5	ニコニア土器と考えられる。弧状沈線を施す。	中期後葉?	
21	J-25住P-2	ニコニア土器	良好 砂粒混入	台面1/5	ニコニア土器の台面か。遺存部においては無文。	中期後葉?	

A区 J - 26号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②船上	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-26住9区ヘ付	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 混入	口縁部～網部破片	口縁部網部に縦位隙帶と、一部溝巻き状隙帶を呈する部位により口縁部文縫帶を構成する。腹部、遺存部内側に縦位隙帶を呈する。	加曾利E I ~ II	
2	J-26住11区2層	良好 砂粒・片岩混入	口縁部～網部破片	やや内反する平口縁に想定される。隙帶により精円形に区画する。区画内には単縦RL構文施文。	加曾利E I ~ II		
3	J-26住11区ヘ付 1層	鉢	普通 砂粒・白色粘土 混入	口縁部～体部破片	口縁部内側に縦位隙帶の棱を作有する。拂り支配方文。	加曾利E	
4	J-26住10区2層	深鉢	普通 砂粒・褐色粘土 混入	網部・二重半月形に区画する。区画内、縦位隙帶を施す。文縫帶連結部に稍突起。網部、拂り角(不明瞭である)施文部、半裁竹管状工具による縦位沈線を施す。さらに、口縁部文縫帶の連結部より蛇行隙帶を垂下させる。	加曾利E		
5	J-26住12区1層	深鉢	不良 砂粒・白色粘土 黑色粘土・片岩、 角閃石・雲母混入	網部破片	全体的に準滅滅が著しい。口縁部文縫帶の一部が心臓部上端部に遺存していると想定される。網部、隙帶により区画する。区画内に矢羽根状隙帶を施す。網部、不明瞭だが拂手状文縫帶文。	加曾利E	
6	J-26住3区1層	深鉢	普通 砂粒混入	網部破片	中央に平行隙帶を作り縦位隙帶で区画する。区画内、半裁竹管状工具による斜位平行隙線施文後、弧状隙帶を施す。	加曾利E併行	
7	J-26住11区2層	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 黑色粘土混入	網部破片	丸棒状工具による縦位隙帶と、溝巻き状隙帶を施す。区画内には同工具による斜位隙帶を充填する。	加曾利E併行	
8	J-26住D-1土	深鉢	普通 砂粒・石英混入	口縁部破片	単縦RL構文施文後、浮雕文で横位に区画する。区画内には同様の浮雕文を人組状等に配置する。波痕部には網面を示す。	諸職b	
9	J-26住13区3層	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 金雲母混入	口縁部破片	半裁竹管状工具による斜位沈線(半裁起線状)施文後、逆S向斜位に蝶々状の隙帶を施す。変則的な隙帶(逆S)と区画する。この区画の下には同工具による横位沈線(半裁起線状)を下す。	五彌ヶ台	

第99表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代住居址出土遺物観察表(13)

A区J-27a号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考			加賀利E II	
			砂粒・白色粘土 混入	口縁部～胴部下 位 3/4	口縁部の遺存状況は不良であるが、縁ぐらぎの6單 位小波状口縁と想定される。隆帯と比較により、口 縁部文様帶を半円形に区画する。区画内には単體 RL・織文施文、胴部、単体RL・織文施文後、波頂 部下位(口縁部文様帶連結部)より2条一組の縦 並置縫と蛇行隆縫を交互に施す。せ6単位に区画 する。胴部中央に横縫を有する。		
1	J-27a住 22 区～6丁 3層	深鉢	普通	口縁部～胴部 1/3	口縁部波状口縫。隆帯と比較により口縁部文様帶 を区画する。各区画間を不整形で2單位に分ける。 内側に棒状工具による斜位沈縫を施す。縫跡は無 文。胴部、織文(單頭 RL)不明瞭。施文後、丸 棒状工具による縦巻き状・斜状・蛇行縫を施す。	加賀利E I	
2	J-27a住 22 区～6丁 3層	深鉢	普通	砂粒混入	粗大砂粒の系文を施文とする。口縁部は斜位直 縫縫。縫巻き状縫を施す。縫跡に横位縫帶を添 らし、そこから縦位縫帶を垂下させる。	中期後業	
3	J-27a住 18 区 3 層	深鉢	良好	砂粒・白色粘土 砂礫混入	粗大砂粒の系文を施文とする。口縁部は斜位直 縫縫。縫巻き状縫を施す。縫跡に横位縫帶を添 らし、そこから縦位縫帶を垂下させる。	中期後業	
4	J-27a住 14 区 3 层	深鉢	普通	砂粒・灰色織混 入	口縁部～胴部破片	口縁部、やや厚みを有する。胴部、中央に丸棒状 工具による丸巻き状・斜巻き状を施す。半截竹管状工具 又は棒状工具による縦位沈縫を充填する。	加賀利E II 併行
5	J-27a住 18 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・石英・角 閃石混入	口縁部破片	単頭 RL・織文施文後、浮縫文で横位に区画する。 区画内には同様の浮縫文を人組文等に配置する。 波頂部には狀面把手を施す。	諸磯 b

A区J-27b号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考			加賀利E I～ II	
			砂粒・褐色織混 入	口縁部破片	4 単位小波状口縫と想定される。隆帯と沈縫で口縁 部文様帶を区画する。区画内、丸棒状工具による 縦巻き状縫を施す。波頂部下位の文様帶連結部に は縫巻き状のチフーフを配す。胴部、丸棒状工具に よる縦位沈縫施文、波頂部下位より蛇行沈縫を 施す。		
1	J-27b住 8 区 1 拠	深鉢	良好	砂粒・褐色織混 入	口縁部破片	隆帯と沈縫により口縁部文様帶を区画する。一部の 沈縫の両端は縫手状を呈する。区画内、棒状工具 による縦位沈縫を施す。口縁部文様帶区画は左右 非対称である。向かって右側円形、左側は月状 を呈する。口縁部文様帶と胴部を区画する沈縫の 一部には、横位丸棒状沈縫を施す。胴部、棒状工具 による斜位基底沈縫を施す。	加賀利E II 併行
2	J-27b住 8 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色織混 入	口縁部破片	隆帯と沈縫により口縁部文様帶を区画する。一部の 沈縫の両端は縫手状を呈する。区画内、棒状工具 による縦位沈縫を施す。口縁部文様帶区画は左右 非対称である。向かって右側円形、左側は月状 を呈する。口縁部文様帶と胴部を区画する沈縫の 一部には、横位丸棒状沈縫を施す。胴部、棒状工具 による斜位基底沈縫を施す。	加賀利E II 併行
3	J-27b住 7 区 1 拠	深鉢	良好	砂粒・褐色織混 入	口縁部～胴部 1/10	区内に反する平口縫と想定される。横位基底口縫部 斜位付近まで横縫から斜位に。胴部を巻ね位から 斜位に施文。その後、隆帯と沈縫により口縁部文 様帶を区画する。区画内、丸棒状工具による縦位 沈縫を施す。縫り糸と交差させる(一部は燃失の まま)。また、隆帯の一部には横位丸棒状沈縫を施 す。胴部、2条一組の縦位隆縫と、1条の蛇行隆 縫を垂下させる。	加賀利E I～ II
4	J-27b住 7 区 2 層・ 8 区 1 層・8 区 1 拠・ 11 区 2 層・ 12 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・白色粘土 褐色粘土・砂礫 混入	口縁部～胴部	隆帯と沈縫により口縁部文様帶を長楕円形に区画す る。区画内に横位沈縫を施す。区画連結部に は縫巻き文を施す。縫巻き文下位に2条一組の直 縫縫と1条の蛇行縫を施す。隆帯と沈縫を施す。	中期後業
5	J-27b住 6 区 1 层	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆帯する半円形の横位沈縫を施す。区画、区画下位に 棒状工具による縦位平行沈縫を施す。	中期後業
6	J-27b住 8 区 2 层	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆帯で口縁部文様帶を区画し、一部の区画内には 丸棒状工具による横位沈縫を施す。胴部、半截竹管状工具 又は棒状工具による斜位基底沈縫を施す。	加賀利E I～ II
7	J-27b住 4 区 1 层・ 4 区 2 层	深鉢	普通	砂粒・角閃石混 入	口縁部破片	口縁部の前部が厚みを有し、内側に横縫が認められる。 織文(織物しか)施文後、口縁部直下に2条の横 縫並行沈縫を施す。沈縫間に棒状工具による利突 を、上下に高低差を付けて交互に施す。結果、沈縫 間に波状隆縫状態を呈する。胴部、半截竹管状工具 又は棒状工具による斜位沈縫を施す。	加賀利E II 併行
8	J-27b住 7 区 1 层	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部 1/3	4 単位波状口縫である。口縁部に並行して沈縫を 施す。胴部、縫り糸施文後、波頂部から丸棒状 沈縫を垂下させる。波底部から2条蛇行隆縫を垂下 させる。	加賀利E II
9	J-27b住 11 区 2 层・ 7 区	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部～底部 1/4	口縁部上面に浅い沈縫を施す。口縁部に横位平行 沈縫を施す。胴部、縫り糸施文後、波頂部から丸棒状 沈縫を垂下させる。胴部の区画は2ヶ所又は4 ヶ所上方へ弧状に配置する部分が認められる(図 の中心部分)。各区画内には丸棒状工具による斜 位沈縫を施す。	加賀利E I
10	J-27b住 4 区 1 层	深鉢	普通	砂粒・纏・白色 粘土混入	口縁部破片	口縁部上面に小突起を貯蔵する。椭圓状工具によ り口縁部下位に横縫を施す。外面、口縁部下位 横縫部に丸棒状と陸縫、胴部に沈縫と陸縫を 横縫に並ぶ。区画する。胴部の区画は2ヶ所又は4 ヶ所上方へ弧状に配置する部分が認められる(図 の中心部分)。各区画内には丸棒状工具による斜 位沈縫を施す。	中期後業
11	J-27b住 3 区 1 层・ 3 区 2 層・4 区 1 层・ 4 区 2 層・7 区 1 层・ 7 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・褐色纏 黑色粘土混入	口縁部～胴部 1/5	内部口縁部下位に横縫を施す。外面、口縁部下位 横縫部に丸棒状と陸縫、胴部に沈縫と陸縫を 横縫に並ぶ。区画する。胴部の区画は2ヶ所又は4 ヶ所上方へ弧状に配置する部分が認められる(図 の中心部分)。各区画内には丸棒状工具による斜 位沈縫を施す。	加賀利E II 併行

第100表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代住居址出土遺物観察表(14)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②船上	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
12	J-27b 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部破片	内反する底状口縁か、棒状工具による縦位施錆で区画する一部の区画内に同工具による3日月状刺突を施す。	中期後葉
13	J-27b 住 8 区 2 層	鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	体部破片	時の体部に縦文様帯部分と思定される。隆帯で区分し、区画内に丸棒状工具による刺突と側突を施す。さらに一部に溝巻き状施錆・端部の捻らん・横位施錆を施す。口縁部・体部下半ともに造存部においては無文である。	加曾利 E II ~ III
14	J-27b 住 3 区 1 层	鉢	普通	砂粒・白色鉱物・黑色鉱物混入	体部破片	時の体部に縦文様帯部分と思定される。隆帯で区分し、区画内に半截竹管状工具又は棒状工具による施錆を施す。	加曾利 E II ~ III
15	J-27b 住 12 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・角閃石混入	口縁部破片	LR 織文帯後、器形変換点付近に2条の横位並行施錆を施す。沈錆間に棒状工具による刺突を、上部に横位差を行って交叉して施す。結果、次第間に横位施錆帯を呈する。さらに一部に逆 U 字状施錆を施す。	加曾利 E 併行
16	J-27b 住 4 区 1 层	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	丸棒状工具による溝巻き状施錆で区画し、区画内に沈錆を充填する。	加曾利 E 併行
17	J-27b 住 8 区 2 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	丸棒状工具による横位並行施錆を区画する。区画内に丸棒状工具による斜位施錆と、逆方向の斜位棒状點付形をさせ、格子目貝モザイクを構成する。	加曾利 E II 併行 (曾利系)
18	J-27b 住 8 区 東	鉢?	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	丸棒状工具による溝巻き状施錆が施される。外面は部分的に赤色黒彩の施錆が認められる。	加曾利 E 併行
19	J-27b 住 4 区 1 层・4 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・灰色礫混入	胴部破片	胴部上位の器形変換点付近が造存する。器形変換点に横位施錆帶を貼り、区画する。胴部、巻ね狀跡帶・横位施錆を呈する。横位施錆を施す。さらに上端部横手状の平行沈錆が垂下する。	加曾利 E II ~ III 併行 (郷土系?)
20	J-27b 住 8 区 1 层・8 区 2 層・8 区 1 棚	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	胴部下位から底部付近が造存する。2条一组の縱位施錆帶で区画し、区画内には並行施錆帯を垂下させる。隆帯は3条ずつ延び付近で連絡する。隆帯部以外は横位化粧施錆、内面に炭化物付着。	加曾利 E
21	J-27b 住 3 区 3 层	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	武部破片	外面の一部に不明瞭な施錆(草筋 LR?)が認められる。	中期後葉
22	J-27b 住 11 区~4	浅鉢	普通	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入		体部や外反する。外曲の一部に沈錆状の細い溝が認められるが、意図的施錆の可能性は低いと考えられる。	中期後葉
23	J-27b 住 3 区 1 层	土製耳鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	III型充形 黒色鉱物混入	鏡形を呈する。両面に刺突文を施す。	中期後葉

A区 J-28号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②船上	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-28 住 U-1	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・ 黒色鉱物混入	3/4	隆帯と RL 織文施錆。脇部は無文。脇部には単錆 RL 織文を施す。	加曾利 E I
2	J-28 住 6 区 2 层	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・ 口縁部～胴部破片 チャート混入	口縁部破片	隆帯で RL 織文施錆を区画する。区画連続部に溝巻き状施錆を施す。脇部は無文。	加曾利 E I ~ II
3	J-28 住 10 区 1 层	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・ チャート混入金雲母 混入	口縁部破片	小波状波紋頭部付近。隆帯により半周形に区画し、区画内に縦位施錆を施す。脇部は不明瞭だが織文施錆。	加曾利 E I ~ II
4	J-28 住 一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	LR 織文施錆後、棒状又は板状工具による刺突の横位、縦位並行施錆で区画する。一部の区画内に半截竹管状工具による縦位点状刺突、棒状工具による平行沈錆が施す。	中期後葉
5	J-28 住 6 区 2 層	鉢	良好	砂粒・角閃石混入	口縁部～胴部破片	口縁部外側に隆起状の核を有する。外面丁寧な施錆。遺物においては無文である。	加曾利 E
6	J-28 住 3 区 キヤフレ ニコア土器?	普通	砂粒・白色鉱物・ 褐色鉱物混入	胴部?	全体形が不明。円筒状胴部の一部に縦位施錆帯を認める。	中期後葉?	
7	J-28 住 14 区 キヤフレ シテ	普通	砂粒・白色鉱物	胴部破片	横位施錆後、細めの半截竹管状工具押しきを認める。爪形文を認める。横位弧状に区画し区画する。	諸説 b	
8	J-28 住 一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物	胴部破片	半截竹管状工具による刺突文を施す。	浮島
9	J-28 住 7 区 3 层 D-2	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	胴部上位2分。横位に3段の文様帯を構成する。上位文様帯、半截竹管状工具による刺位半周起線を施す。さらに逆方向の斜位沈錆を疊ぐ。中位文様帯、棒状把手を施す。区画内は無文。下位文様帯、一部に半截竹管状工具による縦位平行沈錆が認められる。	五箇ヶ台
10	J-28 住 一括	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	胴部上位2分。横位に施し区画する。区画内に格子目状沈錆。精円錆は C 字形半周起線を施す。	五箇ヶ台
11	J-28 住 15 区 2 层	浅鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	4單純波紋状口縁鉢の波紋部と想定される。波紋部下位に円孔文を施す。外面、弧状隆起部、沈錆、円形刺突文を施す。内面、円形刺突文を施す。口縫部上面には円形刺突文・沈錆施文。	称名寺 II ~ Ⅲ 瓶之内 I

第 101 表 二軒在家原田遺跡 A 区繩文時代住居址出土遺物観察表 (15)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
12	J-28 住 15 区 2 層	鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	波紋口縁波頭部が遺存する。内外面にも丸棒状工具による沈縫と刺突が施される。	彌之内 I
13	J-28 住 1 棟	深鉢	普通	砂粒・白色礫混入	口縁部破片	波紋口縁波頭部、波頭部上面に隆帯粘付。沈縫による区画面。	彌之内 I
14	J-28 住 1 棟	注口土器 ?	普通	砂粒・石英・金雲母混入	口縁部～胴部破片	注口土器と想定される。遺存部下位で内側に屈曲があり、単筋 LR 織文を施す後、沈縫により半円形に区画する一部は内側に磨り消す。	後期
J-28 住 5 区サブフレ 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色礫混入	口縁部破片	周縁部深鉢の楕円部に半筋文様帶と想定される。棒状工具による区画面。斜位沈縫と三角形基調に区画し、一部の区画に LR 織文を充填する。	彌之内 II	
J-28 住 2 区サブフレ 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色礫混入	口縁部破片	胴部上位の破片と想定される。並行する2条の横位注口痕を施す。隣帶間に修繕孔と考えられる孔(焼成孔)を有する。	彌之内 II	
J-28 住 14 区 1 層・ 14 区 2 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部～底部 1/10	外面丁寧な磨き。遺存部においては無文。	後期?	

A区 J-29号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	J-29 住 12 区 1 层	深鉢	普通	砂粒・赤褐色礫混入	口縁部破片	LR 織文施文化後、丸棒状工具による第一組の縦位並行区画する。沈縫線は削り消す。	加賀利 E
2	J-29 住 10 区 1 层	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	口縁部破片	丸棒状工具による縦位沈縫により区画する。一部に LR 織文を施す。	加賀利 E
3	J-29 住 6 区～6 2 層	深鉢	良好	砂粒・白色礫混入	口縁部破片	丸棒状工具による縦位沈縫により区画する。一部に LR 織文施文化、一部に U 字状・Z 字状・直線状修繕孔を有する。	加賀利 E III
4	J-29 住 12 区 2 层	深鉢	良好	砂粒・黑色礫物混入	口縁部破片	周縁部の部分が内側から外反に変換する付近と想定される。沿縫変換点付近には横位隆帯を有し、区画する。横位隆帯下位、蛇行隆帯を削り下させ、斜位基調直線状・弧状沈縫を施す。	加賀利 E 併行
5	J-29 住 12 区 2 层	鉢	普通	砂粒・白色礫物混入	口縁部破片	口縁部に隆帯を削り下す。隆帯上には連続する縦位沈縫を施す。隆帯より下位、縦位・溝巻状沈縫により区画する。複数沈縫により区画された一部に、連続する縦位短沈縫。	加賀利 E 併行
6	J-29 住 1 棟	深鉢	普通	砂粒・白色礫物・雲母混入	口縁部破片	4 単位蔵状口縁か、波頭部に円形内彌を、その側面に弧状沈縫を施す。波頭部より斜状隆帯を削り下させる。	彌之内 I
7	J-29 住 10 区～6 1 层・J-29 住 11 区 1 层	深鉢	普通	砂粒・白色礫物・角閃石混入	口縁部破片	鍋体全体が緩やか外反する深鉢の口縁部のみ胴部上位。口縁部内側に細い隆帯状の孔を有する。外縁には口縁に並行して横位圧出隆帯を施す。	彌之内 II
8	J-29 住 P-1 東	深鉢	普通	砂粒・角閃石・白色礫物混入	口縁部破片	波狀口縁波頭部付近。波頭部側面、沈縫により区画し、單筋 LR 織文施文化。外面、沈縫により区画し、單筋 LR 織文施文化。	後期前彌
9	J-29 住 6 区～6 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色礫物混入	口縁部破片	波狀口縁波頭部、孔を有する把手。外面、単筋 LR 織文施文化、沈縫により区画する。内部、把手上位に円形刺突を 2 個部位に配す。	後期前彌
10	J-29 住 15 区 1 层	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	横位把手。外面部に棒状工具による刺突を施す。側面・上面には丸棒状・刺突を施す。	彌之内 I
11	J-29 住 5 区 1 层	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	中央に圓形の孔を有する把手。孔下位に沈縫による区画。把手側面・内面に研突孔を施す。	彌之内 I
12	J-29 住 2 区 2 层	深鉢	普通	砂粒・白色礫物混入	口縁部破片	波狀口縁波頭部。円形の孔を有する。孔の両脇に円形内彌を施す。	彌之内 I
13	J-29 住 10 区 1 层	深鉢	不良	砂粒混入	口縁部破片	胴部上位の器形が内反から外反に変換する付近と想定される。沿縫変換点に細い横位圧出隆帯と沈縫を削り下し区画する。その上下には丸棒状工具による縦位沈縫を並行して施す。圧出隆帯との交差には竹管状工具による円形刺突を配す。さらに、不規則だが口縁に並行すると想定される沈縫が一列埋められる。	彌之内 I
14	J-29 住 5 区 1 层	注口土器	良好	砂粒・褐色礫・雲母混入	注口部破片	注口部の注口部破片と想定した。上面には重い楕円形沈縫と横状沈縫を削す。下面には 2 個一対の楕円形貼付文施文化、先端部付近に下面に削られた小さな別の孔を有す。	彌之内 I

A区 J-30a号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	J-30a 住 NO3 北 2 層・NO1・J-30 住 1 区 2 層・5 区 3 層	深鉢	普通	砂粒・白色礫物 混入	口縁部破片 1/4	沈縫と隆帯により口縁部・器形文様帶を区画する。区画は単位と想定され、楕円形区画と高さき状区画を配す。楕円形区画内には重巻 LR 織文施文化、楕円形内彌を削り下す単位に楕円形貼付文施文化、2 条一組の縦位沈縫で区画し、区画内には綾状縫・縦位沈縫を施す。	加賀利 E II
2	J-30a 住 NO2・2 層・ J-31a 住 NO1	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	3/10	口縫直する平口縫と想定される。隆帯と沈縫により口縫部・器形文様帶に区画する。区画内には縦位沈縫と横状沈縫を削る。下面には 2 個一対の楕円形貼付文施文化、先端部付近に下面に削られた小さな別の孔を有す。	加賀利 E

第 102 表 二軒在家原田跡 A 区 銀文時代住居址出土遺物観察表 (16)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②崩上	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
3	J-30a 住 NO2・2層	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	口縁部～胴部下位 3/4	波状口縁と想定した。口縁部に棒状工具による横位沈線を施す。胴部、單脚 HL 織文施文後、2 条一組の縱位沈線で 6 単位に区画する。一部の沈線は隣接する沈線と重複し U 字状を呈している。さらに 6 単位の各区画内に蛇行沈線を施下させる。ただし 1 区画のみ蛇行沈線が施されていない。	加賀利 E
4	J-30a 住 NO8	深鉢	良好	砂粒・褐色織・灰色織・角閃石混入	3/4	口縁部～胴部上位は横位沈線後、2 条一組の縱位沈線で 3 単位に区画する。一部の沈線は隣接する沈線と重複し U 字状を呈している。さらに 6 単位の各区画内に蛇行沈線を施下させる。	加賀利 E
5	J-30a 住 NO4・2層	小型深鉢	良好	砂粒・白色織物混入	胴部～底部 1/8	無縫 HL 織文施文後、2 条一組の縱位沈線で 3 単位に区画する。沈線間に網目状の横位沈線を施下させる。	加賀利 E
6	J-30a 住伊	深鉢	普通	砂粒・白色織物・チャート混入	胴部中位～下位 1/5	胴部に直線状・蛇行沈線を施下させた。区画内には網目状沈線を施す。	善利 III
7	J-30a 住 NO3・2層	浅鉢	普通	砂粒・白色織物・黑色織物混入	口縁部～胴部下位 1/5	口縁部は斜面。胴部上位・陰帯により区画し、区画内には直線文を施す。胴部中位以下には単脚 XL 織文施文。	加賀利 E I
8	J-30a 住 NO2 下	鉢	普通	砂粒・褐色織混入	口縁部～体部破片 1/6	体部上位に最大径を有し、口縁部はやや外反する。最大径付近に 2 条の縱位沈線を施す。陰帯上位に横位把手手を付ける。横位把手手は 2 ヶ所に施される想定される。横位把手手は丁寧な仕上がりで無文。下位は単脚 LR 織文施文。一部に縦手状沈線と内側縫隙を有す。	加賀利 E II ~ III
9	J-30a 住 NO7 下	三切土器	普通	砂粒・褐色織・雲母混入	胴部上位～底部 2/5	口端部付近が欠損していると考えられる。落底部・雲母が付着している。内外面の一部に黒色・赤色物質が付着している。	中期後葉
10	J-30a 住一括	三切土器	普通	砂粒・白色織物混入	底部破片	遺存部から推定すると、2 条一組の縱位沈線で区画し、区画内に横位沈線を施すと考えられる。	中期後葉

A区 J - 30c 号住址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②崩上	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-30c 住括張部・30e 上住括張部	深鉢	良好	砂粒・灰色織混入	U 字形	表裏面は口縁部と模様帶を 2 単位に区画する。区画内には縦位～斜位沈線を施す。胴部、縦位又は斜位多腹施文。	加賀利 E I ~ II
2	J-30c 住造物集中区	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	外反する口縁と想定される。口縁部無文。脇部に棒状工具による円錐刺突を伴う横位陰帯が認められ、陰帯上位は沈線により区画（長方形基調か）し、陰帯下位は直線状沈線を施す。	中期後葉
3	J-30c 住造物集中区	深鉢	普通	砂粒・白色織物・雲母混入	口縁部～胴部 1/8	表裏面は口縁により口縁部文様帶を区画する。区画内、丸棒状工具による縦位沈線を施す。口縁部文様帶と胴部を区画する陰帯には、両端新形状の横位沈線を施す。胴部、横棒状工具による縦位沈線を施す。2 条一組の縱位沈線で陰帯に区画する。区画内に横位沈線を施す。	加賀利 E II
4	J-30 住 I 区 3 層・30c 住造物集中区	鉢	良好	砂粒・白色織物混入	口縁部破片	口縁部は表裏共に平坦面となっている。口縁部無文。脇部下位に沈線と棒状工具による刺突を伴う陰帯で陰帯を区画する。区画は平行四辺形である可能性が考えられる。斜位陰帯状には丸棒状工具による縦位沈線を施す。また、区画内一部に、沈線と陰帯による区画があるが、遺存部が少なく、モチーフは不明である。	加賀利 E III
5	J-30c 住伊	深鉢	普通	砂粒・白色織物・黑色織物混入	口縁部～胴部 2/5	粗大な表面の者地を支える。陰帯で口縁部文様帶を区画する。印体工具として使用されたため、接熱により脆弱である。	加賀利 E II
6	J-30c 住括張部・J-30e 住一括	深鉢	普通	砂粒・灰色織混入	口縁部～胴部破片	4 条位口縁 U 字形と想定される。口縁部、陰帯と沈線で口縁部を区画する。棒状工具による刺突を伴う陰帯で陰帯を区画する。区画内に横位把手手による縦位沈線を施す。胴部、同工具による斜位沈線を施す。その後、丸棒状工具による 2 条一組の縦位沈線で区画する。一部には横位弧状沈線を施す。	加賀利 E II 併行
7	J-30c 住括張部	深鉢	普通	砂粒・白色織物混入	口縁部破片	横位把手手で区画し、区画内に斜位棒状把手手を施す。施す。	加賀利 E II 併行
8	J-30c 住伊下層～底至	深鉢	普通	砂粒・灰色織混入	口縁部～胴部破片	底部上位に直線文を有する。頭部下位、2 条の横位把手手により区画し、区画内に壺状・満巻き状陰帯を施す。	中期後葉
9	J-30c 住一括・石集 中区・遺物集中区	深鉢	普通	砂粒・白色織物・角閃石混入	口縁部～胴部 1/10	頭部上位に折れを有する平口縁深鉢と想定される。口縁部上位内に横位把手手の横を有する。括れ部には 2 条の並行する縦位沈線・斜位把手沈線を施す。口縁部・丸棒状工具による直線文又は横位把手沈線を施す。一部に口縁部把手手状の蛇行沈線を施下せる。胴部、丸棒状工具による沈線で直線状・弧状・壺状等様々な形状に区画し、一部には同工具による例点刺突を施す。	加賀利 E 併行

第 103 表 二軒在家原田遺跡 A 区縄文時代住址出土遺物観察表 (17)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②鉄土	③残存		
10	J-30c 住居物置中区	深鉢	普通	砂粒・灰色織入	口縁部～胴部 1/10	④同一個体と考えられる。	加賀利E 併行
11	J-30c 住居張部	深鉢	普通	砂粒・白色織物 角閃石混入	胴部破片	④同一個体と考えられる。	加賀利E 併行
	J-30c 住居物置中区	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	2条一筋の継位沈縫により区画する。さらに、区画内に1条の斜状接縫を施す。隆帯部以外には単斜格条件による焼けり文を施す。（継位軸がく。）たゞ、遺存部下部は単斜格条件を回転させず継位軸引くことにより、条線状平行沈縫している。	加賀利E
12						3条一組の継位沈縫により区画する。区画は3単位と想定され、斜状接縫を施す。区画内、継位沈縫文後、透弧状沈縫を施す。	加賀利E II
13	J-30c 住1区2層・ 5区2層・2層	深鉢	普通	砂粒・白色織物 チャート・角閃石・ 雲母混入	胴部～底部1/5	2条一組の継位沈縫により区画する。区画は8単位と想定され、斜状接縫を施す。区画内、継位沈縫文後、透弧状沈縫を施す。	加賀利E II
14	J-30c 住居張部	深鉢	良好	砂粒混入	胴部～底部1/10	手選 EK、織文焼付に施す。2条一組の継位沈縫により区画する。継位沈縫と模様は斜位斜縫である。斜位斜縫により連結する。遺存部最上位に斜位斜縫が認められるがモチーフは不明。全体的に施文が雜であり、モチーフが乱れている。	加賀利E II (透弧文系?)
15	J-30c 住居張部	ミニア土器	普通	砂粒混入	口縁部～底部 1/5	口縁部大き外反する。無文。	不明

A区J - 30d号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②鉄土	③残存		
1	J-30d 住南一括	深鉢	良好	砂粒・角閃石・ 白色織物混入	胴部破片	底部・胴部上位へ、胴部外面に1条の横位隆縫、 隆縫上半に棒状又は板状工具による連続刻突を施す。胴部、沈縫により溝巻き状に区画する。一部に斜位隆縫を施す。	中期後業
2	J-30d 住一括	ミニア土器	良好	砂粒・白色織物 雲母混入	胴部中位～底部	遺存部においては無文。	中期後業

A区J - 30e号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②鉄土	③残存		
1	J-30e 住P-2	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部破片	隆縫と沈縫では斜形文様帶を区画する。一部の区画内に丸棒状工具による継位弧形沈縫を施す。胴部、摩擦のため不明瞭だが、織文（無接し）文。	加賀利E II
2	J-30e 住P-2	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	口縁部破片	波状口縁。口縁部に延びし沈縫扁文。口縫部下位、半載状工具による継位弧形沈縫文後、横位沈縫を斜めに施す。斜めに施す。斜めに施す。斜めに施す。斜めに施す。斜めに施す。斜めに施す。斜めに施す。斜めに施す。	中期初頭？
3	J-30e 住一括	吊手土器	普通	砂粒・褐色織入	吊手部下位～底部破片	一意性と想定した。吊手部外側中央に溝みを有する。棒状軸の一部が遺存する。遺存部においては無文。	加賀利E 併行
4	J-30e 住一括	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁の波頂部付近。波頂部は済んでいる。口縁部上面に端面棒状の棱を有する。口縁部上面、棒状工具による深い丸縫で区画する。一部の区画内にL字彫文充填。さきに棒状工具による刻突文を施す。外縁、棒状工具による深い丸縫で区画する。一部の区画内にL字彫文充填。	林名寺
5	J-30e 住一括	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	口縁部破片	口縁部に並行する斜の筋を有する棒状を施す。斜め上に円形貼付文を配り、裏面の細い隆縫で連結する。隆縫下位に横位沈縫を施す。	堀之内2

A区J - 30号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②鉄土	③残存		
1	J-30 住418.2層・ 遺物集中部・ J-30a 住 NOI	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入	口縁部～胴部 1/5	口縁部に幅の狭い文様帶を有する。単節LR織文後、沈縫と隆縫により口縁部文様帶を区画する。区画は8単位で、楕円形区画と楕縫を区画する。口縁部文様帶の溝巻き状区画と楕円形区画中央の下位に沈縫を重ねさせて区画しており、本来胴部は16単位の区画となるべきであるが、一部分削がれ最大で15単位の区画と想定される。	加賀利E II

第104表 二軒在家原田遺跡A区織文時代住居址出土遺物観察表（18）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②土手	③残存	(4)器形・文様等の特徴／備考	
2	J-30 住 11-29a・J-30a 住 NO2・2層・J-31a 住 NO8	深鉢	普通 砂粒・褐色織痕 入	口縁部～胴部 1/5	やや内反する平口縁と想定される。隆帯にはり口縁部文様帯を区画する。区画は梢円形基調区画と胴手口区画を上下に重ね1単位とする。交互に两者の上下に重ね、4単位又は5単位に区画していると思われる。梢円形基調区画内には、手筋竹管状工具による想定される輪文が充填する。胴部、口縁部文様帯連結部下位に追い字状沈縫を配し区画する。区画内には横筋状沈縫を施す。さらに、C字型・U型の字型・弧状沈縫を施すが、遺存部が少く全体のキーワードは不明である。	加賀利 E II	
3	J-30 住 2 区 2 層	深鉢	普通 砂粒・褐色織痕 入	口縁部～胴部 1/4	口縁部の裏込みを有する幅の狭い無文部を有する。隆帯にはり梢円形に口縁部文様帯を区画する。区画内一部に溝書き状模様を施す。また、櫛衝状工具による平行沈縫（条線状）を不整方向に施す。胴部に同様に施す。丸棒状工具による2条一組の巣位沈縫による4単位に区画する。	加賀利 E 併行	
4	J-30 住 2 区 2 層	深鉢	良好 砂粒・褐色織痕 入	口縁部～胴部破 片	やや内反する平口縁と想定される。横位連続状隆帯で口縁部文様帯を区画し、区画内に巣位沈縫を施す。胴部も同様に施す。丸棒状工具による2条一組の巣位沈縫により区画する。	加賀利 E 併行	
5	J-30 住 1 区 2 層	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部～胴部破 片	やや内反する平口縁と想定される。横位連続状隆帯で口縁部文様帯を区画し、区画内に巣位沈縫を施す。胴部も同様に施す。2条の並行する横位連続状沈縫を施す。	加賀利 E II	
6	J-30 住 3 区 2 層	深鉢	普通 砂粒・灰色織痕 入	口縁部破片	口縁部がやや内反する4単位波状沈縫と想定される。単位 RL 織文施文後、棒状工具により口縁に並行する沈縫を施す。波頭部下位には軽手状沈縫、巣位沈縫、弧状沈縫を施す。一部の区画は織文割り目。	加賀利 E III	
7	J-30 住 4 区 2 層	深鉢	良好 砂粒・白色藝術 砂縫混入	7/10	口縁部に幅の狭い無文部を留らず。胴部上位、無筋 LR 織文施文後、縱位に区画する。胴部中位、横位沈縫を施す。横位隆帯の下位には隆帯による大小の溝書き文を配す。	中期後葉	
8	J-30 住 5 区 2 層	深鉢	良好 砂縫混入	胴部破片	口縁部付近の横状把手と想定される。横状部両側面には円窓を呈す。把手上部には溝書き状等沈縫を施す。把手以外は巣位基調沈縫施文。	中期後葉	
9	J-30 住 4 区 2 層・ 土器集中部・J-30a 住 NO1	深鉢	普通 砂粒・褐色織痕 入	胴部～底部 1/4	単位 LR 織文施文後、丸棒状工具による2条一組を基本とする（部分的に3条が認められる）巣位沈縫により、11単位に区画する。沈縫間は部分的に不完全な凹凸切り目。	加賀利 E II ~ III	
10	J-30 住・土器集中	深鉢	普通 砂粒・褐色織痕 入	胴部～底部 1/3	巣位沈縫以後、丸棒状工具による2条一組の巣位沈縫により、脚部を7単位又は8単位に区画する。区画内には筒工具による弧状沈縫を施す。	加賀利 E II ~ 併行 (通張文系?)	
11	J-30 住 5 区 2 层	ニチヨウ土器	普通 砂粒・白色藝術 砂縫混入	胴部下位～底部 混入	遺存部においては無文。外外面の一部に赤色塗彩が認められる。	中期後葉	

A区 J - 31a 号住剖地

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②土手	③残存	(4)器形・文様等の特徴／備考	
1	J-31a 住 3 区 1 层	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部～胴部最 下位 2/3	やや内反する平口縁と想定される。口縁部文様帯を2単位に区画する。区画連結部には溝書き状モチーフを配す。区画内に単位 RL 織文施文、胴部は無文、胴部、単位 RL 織文施文後、胴部無文下位に丸棒状工具による3条の横位並行沈縫を施す。	加賀利 E I	
2	J-31a 住 1号	深鉢	普通 砂粒・白色藝術 砂縫混入	口縁部～胴部破 片	口縁部～胴部内面に棱を有する小波状口縁。口縁部上面には丸棒状工具による浅い沈縫を施す。外面部にはり口縁部文様帯を区画する。一部の区画内に RL 織文施文、胴部、丸棒状工具による巣位沈縫で区画する。沈縫間取り消す。ただし、遺存部左端の沈縫間のみ潜れ消してない。さらに、区画内に平行沈縫を垂下させる。	加賀利 E I ~ II	
3	J-31a 住 NO6・8・9	深鉢	良好 砂粒・白色藝術 砂縫混入	口縁部～胴部破 片	口縁部上端内面に棱を有する小波状口縁。口縁部上面には丸棒状工具による浅い沈縫を施す。外面部にはり口縁部文様帯を区画する。一部の区画内に RL 織文施文、胴部、丸棒状工具による巣位沈縫で区画する。沈縫間取り消す。ただし、遺存部左端の沈縫間のみ潜れ消してない。さらに、区画内に平行沈縫を垂下させる。	加賀利 E II	
4	J-31a 住 NO1	深鉢	良好 砂粒・片岩混入	口縁部～胴部 1/5	I 単位 小波状口縁と想定される。隆帯には口縁部文様帯を伏画する。長持内形に区画された文様帶内には単位 RL 織文施文。波頂部下位の文様帯連結部には溝書き状モチーフを配す。胴部、単位 RL 織文施文後、丸棒状工具による巣位沈縫で区画する。沈縫間取り消す。ただし、遺存部左端の沈縫間のみ潜れ消してない。さらに、区画内に平行沈縫を垂下させる。	加賀利 E II	

第 105 表 二軒在家原田遺跡 A 区 織文時代住居址出土遺物観察表 (19)

番号	造構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②胎土	③残存		
5	J-31a住 NO95	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 角閃石混入	口縁部～胴部破片	一部に溝巻き状模様を作り溝形により、口縁部文様帶と胴部文様帶を区画する。口縁部は上端に無文部を有し、丸棒状工具による上端沈縫で逆U字状に区画する。区画内外に、同工具による定位沈縫施文、網筋、同工具による定位・斜位文線施文。	加賀利E I～II
6	J-31a住 1区1層・ 1区2層・ 14区へ12層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部～胴部破片	内側面反する平口縁と想定される。焼利系 (?) 蓋文後、丸棒状工具による3本の並行沈縫で逆U字状に区画する。区画内外に、同工具による定位沈縫施文。	加賀利E II～III
7	J-31a住 2区2層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	胴部上面に横位3字状沈縫を作り陳帯を施す。この陳帯が口縁部文様帶と胴部文様帶を区画するものと想定される。口縁部文様帶部分の進歩は僅かであるが、区画内には定位沈縫を施す。胴部には定位文線施文。	加賀利E I～II
8	J-31a住 10区～4 2層	深鉢	良好	砂粒・白色粘物 混入	胴部破片	溝形により、圓丸長方形又は橢円形に区画する。この溝形は並行して定位施文。	加賀利E I～II
9	J-31a住 NO92	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	溝形により、圓丸長方形又は橢円形に区画する。この溝形は並行して定位施文。	中期中葉

A区J-31b号住居址

番号	造構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②胎土	③残存		
1	J-31b住伊 NO1	深鉢	普通	砂粒・灰色粘混 入	胴部上端～胴部 中央 1/2	全体上部として使用。焼利した焼存部上端は腹 部で立体化して使用。焼利した焼存部上端は腹 部で立体化して使用。腹部・調整部が不明確である。4単位波状 口縁部と想定される。口縁部は並行して2条の沈縫を 施す。胴部、丸棒状工具によるU字状、逆U字 状沈縫により8単位に区画する。一部の区画内に繩 文(無縫?)不明確)施文。分離・施文が雜である。 焼利の感が強い。	加賀利E III
2	J-31b住 6区2層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部破 片	内側面反する平口縁と想定される。口縁部、丸棒 状工具による横位沈縫を施す。胴部、LR 繩文施 文後、逆U字状沈縫を施す。先端部内側に割り消し 深縫部上半と想定される。溝巻き状・張状隆脛 で形成し、区画内には単體 RL 繩文を施す。	加賀利E III～IV
3	J-31b住 6区2層	深鉢	普通	砂粒・褐色粘混 入	胴部破片	深縫部上半と想定される。溝巻き状・張状隆脛 で形成し、区画内には単體 RL 繩文を施す。	加賀利E III
4	J-31b住 U-2	深鉢	良好	砂粒・黒色粘物 混入	胴部～底部 1/8	断面三角形の2条一组の隆脛により2単位に区画す る。一部は単體 RL 繩文施文。隆脛間は削り消す。胴部、 丸棒状工具による平行沈縫施文後、2条一组の定位 沈縫を施す。	加賀利E III
5	J-31b住 5区2層	小型鉢	良好	砂粒・白色粘物 混入	7/10	単體 RL 繩文施文。口縁部に3条の横位沈縫を 施す。沈縫上位に割り消しで無文とする。胴部には 焼利・不明確な定位沈縫が認められるが、意図的施 文かどうか不明。	加賀利E III～IV?

A区J-32a号住居址

番号	造構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②胎土	③残存		
1	J-32a住 3区2層	深鉢	普通	砂粒・石英・黑 色粘物・白色粘 物混入	口縁部～胴部	口縁部底面に横位沈縫を施した無文部を認める。 口縁部、陈帯と沈縫により横円形に区画する。区 画内には横位工具による平行沈縫を施す。また 一部の区画内には溝巻き状模様を施す。胴部、丸 棒状工具による平行沈縫施文後、2条一组の定位 沈縫を施す。	加賀利E 直 併行
2	J-32a住 9区1層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	内側面反する平口縁である。陳帯と沈縫で口縁部 文様帶を区画する。半月状の区画内には単體 RL 繩文施文。胴部は無文。一部陳帯が剥落している が、その部分に隆脛貼り付け時に施文された繩文 が遺されている。	加賀利E I
3	J-32a住 3区2層	深鉢	普通	砂粒・灰色粘混 入	胴部破片	陳帯と沈縫で口縁部文様帶を区画する。一部の区 画内には単體 LR 繩文施文。胴部、陳帯、焼存部におい て無文。	加賀利E I～II
4	J-32a住 9区2層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	小型深縫の胴部中位附近と想定される。綾段・斜 位・溝巻き状等の2次縫で区画する。区画内、半載 竹管状工具による斜位平行沈縫(部分的には半堆 起縫)を呈する)を施す。	加賀利E 併行 (質利系?)
5	J-32a住 9区1層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部破 片	口縁部に沈縫と丸棒状突起を施した8字状沈縫を 貼付する。口縁部内面、折り返し口縁状を呈する。	縫之内)

A区J-32b号住居址

番号	造構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	J-32b住伊東家一括	深鉢	普通	砂粒・角閃石混 入	胴部上端～中位に想定される。丸棒状工具によ る定位直底状沈縫と、区画内に2条の沈縫を作 う定位・斜位・横位沈縫を施す。区画内には同工具 による綾段・綾段・斜位沈縫を施す。	加賀利E 併行

第106表 二軒在家原田跡地A区繩文時代住居址出土遺物観察表(20)

A区 J - 32号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期	
			①焼成	②胎土	③残存		
1	J-32 住 P-6	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部～胸部破片	口縁部～胸部破片帶に上口縁式文様帶を区分する。文様帶内を横手伏又は横円形に区画し、横円形区画内には斜位沈継を施す。胸部、2本1組の直線状隆帯または2枚平行隆帯を垂下させ区画する。区画内に斜衛状工具による平行条縫を施す。	加曾利 E II
2	J-32 住 15 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色黏土・角閃石混入	口縁部破片	外面、隆帯と沈継で口縁式文様帶を区画する。区画内には丸棒状工具による斜位沈継が施される。胸部、單筋 LR 織文後、丸棒状工具による根位基調文を施す。	加曾利 E I ~ II
3	J-32 住 7 区 1 层	深鉢	普通	砂粒・灰色繊混入	口縁部破片	やや内反する平口縁と想定される。口縁部、折り返し縁に厚く、その部分が無文とする。口縁部下位は横位隆帯で区画し、一部の区画内に半載竹管状工具による底位・斜位・横位平行沈継を施す。	加曾利 E 併行
4	J-32 住 15 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・角閃石・白色黏土混入	口縁部～胸部破片	口縁部下位横位沈継を剥し、棒状工具による斜位突起を施す。胸部、单筋 RL 織文後、斜位並行沈継を施し、蛇形条縫を垂下させる。	中期後葉
5	J-32 住伊東部一括	深鉢	良好	砂粒混入	胸部破片	遺存部中央に丸棒状工具による横位並行沈継を施し、文様帶を区画する。遺存部上位文様帶、半載竹管状工具による根位平行沈継を施す。中位文様帶、丸棒状工具による2条の横並び平行沈継間に、同工具による交互円形刺突（部分的には弧状短沈継状を施す）を施す。ただし、交互刺突の技術が稚拙であり、刺突間の隙縫部分が規則性のある波状をしていて、下部文様帶、半載竹管状工具による底位平行沈継を施す。	加曾利 E II
6	J-32 住 15 区 2 層	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	胸部上位と想定される。遺存部中央の横位隆帯、沈継により文様帶を区画する。上位区画、半載竹管状工具による根位沈継後、逆方向の斜位・棒状貼付穴を重ねて施す。移子目状キツギをせず。ただし、棒状貼付穴は脱落が著しく一部が遺存するだけである。下位区画、半載竹管状工具による底位半載沈継後、同工具による根位直線状、斜位状根文を施す。	加曾利 E 併行 (曾利系)

A区 J - 33a号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期	
			①焼成	②胎土	③残存		
1	J-33a 住 4 区 2 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胸部破片	口縁部 文様帶、隆帯と沈継に口縁円形に区画する。区画内には丸棒状工具による斜位沈継を施す。横円形区画連結部には溝巻き状沈継を施す。胸部、根位横継文。	加曾利 E I ~ II
2	J-33a 住 3 区 3 层	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部～胸部 1/10	やや内反する平口縁。口縁部に横位沈継と隆帯を並行して施らる。この隆帯の下位に、溝巻き状沈継を伴う横位沈継と、口縁部文様帶を区画する。区画内に、单筋 RL 織文。頸部は基本的に無文だが、一部に単筋 RL 織文が不明瞭に残る。遺存部最下位には不明瞭な横位沈継が認められる。	加曾利 E I ~ II
3	J-33a 住 3 区 3 层	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部～胸部 1/10	隆帯と沈継に口縁部文様帶を半周状に区画する。区画内に、棒状工具による斜位基調沈継を施す。区画連結部には溝巻き状モチーフ。また、一部の連結部には横位沈継で区画後、斜位沈継を施す把手配す。頸部以下单筋 RL 織文が施すのが、把手配す。把手配す。	加曾利 E I ~ II
4	J-33a 住伊体土器 NO1	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混入	口縁部～胸部 1/4	伊体土器のため、被焼熱でどの脆弱な部分がある。被焼帶下位に横位沈継を施す。隆帯と沈継により、口縁部文様帶を区画する。区画は横円形と形を交差に配し、5単位と想定されるが、幅のバランスが不良である。胸部、单筋 LR 織文後、口縁部文様帶の円形区画と横円形区画中間に下位に棒状工具による条一組の横位沈継を施す。沈継間を割り消すが難である。割り消す箇所では、織文導入の初期段階か、伊体土器のため、口縁部が被焼熱により弱弱である。	加曾利 E I ~ II
5	J-33a 住伊体土器 NO2	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混入	口縁部～胸部 1/4	伊体土器のため、被焼熱でどの脆弱な部分がある。遺存する口縁部分より、口縁の一部は小波状に剥離する。隆帯と沈継により口縁部文様帶を区画。口縁部文様帶は、单筋 LR 織文文の横円形区画と、蘇手状沈継と交互に配す。胸部、单筋 LR 織文後、丸棒状工具による2条一組の根位沈継により10単位に区画。沈継間は靡り消し。	加曾利 E II

第 107 表 二軒在家原田遺跡 A 区 織文時代住居址出土遺物観察表 (21)

番号	造構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②亞鉄土	③残存		
6	J-33a 住 3 区 3 層	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 黑色粘土混入	口縁部～胴部 2/3	やや内反する平口鉢。口縁部は無文、頂部、横位帯で区画し、区画内に斜位沈縫、絆状貼付文を斜格子状に施す。胴部、底位沈縫を地文とし、満巻き状、弧状隆帯、爪形文を施す。	晉
7	J-33a 住 3 区 3 層	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 黑色粘土混入	口縁部～胴部 1/10	口縁部は無文、底部、横位沈縫で区画し、区画内に斜位沈縫、絆状貼付文を斜格子状に施す。胴部、底位沈縫を地文とし、満巻き状、弧状隆帯、爪形文を施す。	晉
8	J-33a 住 4 区 4 フレ	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 灰色粘土混入	胴部破片	丸棒状工具による2条一組の縦位並行沈縫を区画する。区画内に斜位・横位・底位沈縫を施す。	中期後葉
9	J-33a 住 3 区 3 層	深鉢	良好	砂粒・白色粘土 黑色粘土混入	胴部～底部破片	半截竹管状工具による底位平行沈縫を施す。	中期後葉
10	J-33a 住 3 区 3 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部～底部 1/10	単槽 R1、織文施文後、丸棒状工具による3条一組の縦位沈縫で区画する。区画内にさらに底位沈縫を施すが、遺存部が少なく詳細は不明。胴部最下位は丁寧な磨き、底部粗削痕。	加晉利 E

A区 J - 33b 号住居址

番号	造構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②亞鉄土	③残存		
1	J-33b 住 P-1	深鉢	良好	砂粒・灰色粘土 黑色粘土混入	口縁部～胴部 1/3	口縁部にR1の使い、無文帶を有する。胴部、單槽 R1、織文施文後、丸棒状工具による3条一組の縦位沈縫で108単位に区画する。沈縫間隔りを施す。	加晉利 E
2	J-33b 住 P-1	深鉢	普通	砂粒・褐色粘土 黑色粘土混入	胴部 1/5	部分的に摩滅している。単槽 R1、織文施文後、丸棒状工具による3条一組の縦位並行沈縫により9単位に区画する。沈縫間隔りを施す。	加晉利 E II?

A区 J - 33号住居址

番号	造構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②亞鉄土	③残存		
1	J-33 住 4F-1 棚	深鉢	良好	砂粒・白色粘土 黑色粘土混入	口縁部～胴部上 位片	(a) 泥形・文様等の特徴／備考 口縁部直下に幅の狭い、無文帯を有する。口縁部文様帶、底部で楕円形に区画し、区画内に R1、織文を施す。楕円形区画連結部には満巻き状沈縫を施す。胴部、R1、織文施文後、丸棒状工具による縦位並行沈縫で108単位を施す。	加晉利 E I ~ II
2	J-33 住 1 棚	深鉢	良好	砂粒・白色粘土 黑色粘土混入	口縁部～胴部破 片	口縁部直下に幅の狭い、無文帯を有する。口縁部文様帶、底部で楕円形に区画し、区画内に R1、織文を施す。胴部、R1、織文施文後、丸棒状工具による縦位並行沈縫で108単位を施す。	加晉利 E I ~ II
3	J-33 住 1 棚	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	丸棒状工具により深い花瓶状区画。一部区画内に R1、織文、棒状工具による点状刻突を施す。	新名寺
4	J-33 住 4F-1 棚	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	胴部直下に幅の狭い、無文帯を伴う横位隆帯と8の字状貼付文を施す。	堀之内 2
5	J-33 住 1 棚	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	口縁部付近で顯著に内反する認為か、8の字状貼付文と沈縫を施す。摩滅のため沈縫は不明瞭。	堀之内 2

A区 J - 34号住居址

番号	造構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②亞鉄土	③残存		
1	J-34 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・灰色粘土 黑色粘土混入	口縁部破片	(a) 泥形・文様等の特徴／備考 横位貼手状沈縫を施す。底部にR1により口縁部文様帯を区画する。区画内には丸棒状工具による縦位沈縫を施す。胴部の遺存部は僅かであるが、縱位珠帶、沈縫で区画し、一部に蛇行隆帯を重下させると考えられる。	加晉利 E I ~ II
2	J-34 住 3 区 1 层	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単槽 R1、織文施文後、丸棒状工具による縦位沈縫(2条一組)で区画する。またに、同工具による蛇行沈縫を下させる。	加晉利 E
3	J-34 住 3 区 1 层	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	丸棒状工具による縦位沈縫(2条一組)で区画する。一部の区画内に同工具による斜位沈縫を施す。	加晉利 E 併行
4	J-34 住 4 区 1 层	深鉢	普通	砂粒混入	胴部～底部 1/10	2条一組の横位珠帶で4単位に区画する。各区画内に蛇行隆帯を重下させる。底部部分以外は单槽 R1、織文施文。	加晉利 E

A区 J - 35号住居址

番号	造構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②亞鉄土	③残存		
1	J-35 住 30 区 1 层	深鉢	良好	砂粒・纖岩・白 色粘土混入	口縁部破片	平口鉢か。口縁部外反し横位珠帶を呈する。4本1単位横位珠帶工具による横位直線状、波状平行沈縫を施す。竹管状工具による横位直線状工具を窓位に配置し、一部に棒状工具による網状刻突を窓位に施す。	諸穢 b
2	J-35 住 15 区 2 层	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 黑色粘土混入	口縁部破片	やや外反する平口鉢と想定される。口縁部上端外面は、横状に厚みを有する。半截竹管状工具による横位直線状、波状平行沈縫を交差しに施す。竹管状工具による横位直線状工具を窓位に配置し、一部に棒状工具による網状刻突を窓位に配する。	諸穢 a ~ b

第 108 表 二軒在家原田遺跡 A 区 韻文時代住居址出土遺物観察表 (22)

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②船上	③残存	④沿革・文様等の特徴・備考	
3	J-35 住 D-1	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁。波状部に円形の溝を有し、双頭状を呈する。単節 RL 繩文施文後、波状部より縦位に竹管状工具による円形刺突を縦位列点式で配す。	諸職 a ?
4	J-35 住 13 区 2 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位平行丸縫施文後、竹管状工具による円形刺突を縦位列点式で配す。	諸職 a ~ b
5	J-35 住 28 区へ外 1 層・12 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色粘物	口縁部破片	半截竹管状工具による横位平行丸縫施文後、竹管状工具による円形刺突を縦位列点式で配す。	諸職 a ~ b
6	J-35 住 10 区 1 层	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部へ胴部破片	外反する口縁。口縁部半截竹管状工具押し引きによる縦位並行爪形文施文。一部の爪形文間に列縫を施す。下位には半截竹管状工具による格子目文が施す。斜部單節 RL 繩文施文。	諸職 b
7	J-35 住 18 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・白色粘物 混入	胴部破片	胴部中央に浅縫部分平行並行想定される。半截竹管状工具による縦位平行爪形文施文。一部の爪形文間に列縫を施す。その下位には半截竹管状工具による格子目文が施される。格子目文下位には、同工具押し引きによる縦位爪形文が並行に施される。	諸職 b
8	J-35 住 13 区 1 层	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位・斜位記録により、三角形で区画する。区画内に竹管状工具による円形刺突を施す。	諸職 b
9	J-35 住 26 区 1 层	深鉢	良好	砂粒・白色粘物 混入	口縁部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位・斜位・斜位爪形文を施す。さらに一部の爪形文間に短縫線を連続して施す。遺存部最下位には竹管状工具による円形刺突が部分的に認められる。	諸職 b
10	J-35 住 27 区へ外 2	深鉢	普通	砂粒・褐色纏泥 混入	胴部破片	波状口縁。半截竹管状工具押し引きによる平行爪形文を施す。爪形文間に同工具による斜位平行線を施していく。その下位には大きめの竹管状工具による円形刺突、弧状（あるいは木葉状か）の爪形文を配する。	諸職 b
11	J-35 住 14 区 2 層・ 19 区へ外 2 層・ 19 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 混入	胴部破片	単節 RL 繩文施文後、半截竹管状工具押し引きによる横位・縦位・斜位・漏巻き状爪形文を施す。一部の爪形文間に短縫線を連続して施す。さらに竹管状工具による円形刺突を配す。	諸職 b
12	J-35 住 19 区 2 层	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位・斜位・斜位弧状・漏巻き状爪形文を施す。一部の爪形文間に斜位漏巻き状連続して施す。さらに竹管状工具による円形刺突を配す。	諸職 b
13	J-35 住 19 区 1 层	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 繩文施文後、半截竹管状工具押し引きによる横位・斜位・漏巻き状爪形文を施す。さらに竹管状工具による円形刺突を配す。	諸職 b
14	J-35 住 10 区 2 层	深鉢	良好	砂粒・白色粘物 混入	胴部破片	胴部中央の破片と想定される。半截竹管状工具押し引きによる横位・斜位・漏巻き状爪形文を施す。一部の爪形文間に短縫線を連続して施す。さらに竹管状工具による大めの円形刺突を配す。	諸職 b
15	J-35 住 18 区へ外 1 层	深鉢	普通	砂粒混入	胴部下位～底部 破片？	胴部、单節 LR 繩文施文。最下位に浮縫文による区画。	諸職 b
16	J-35 住 13 区 1 层	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縫文（無縫文か）施文後、浮縫文を施す。浮縫文の剥落が著しく。	諸職 b
17	J-35 住 23 区 1 层・ 17 区 1 层	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 混入	口縁部破片	やや外反する平行口縁と想定される。半截竹管状工具による横位直縫線・波状平行直縫線を施す。さらに同工具による縦位平行丸縫を施す。	諸職 a ~ b
18	J-35 住 3 区・7 区 サブレ一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位平行丸縫・複縫織文（RL RL R）を施文後、竹管状工具による円形刺突を縦位列点式に配す。	諸職 a ~ b
19	J-35 住 26 区へ外 1 层	ニコア土器	良好	砂粒・白色粘物 混入	5/8	环状を呈する。外周の一帯に縫文施文か（非常に不明瞭）。	諸職 b ?
20	J-35 住 13 区 1 层	ニコア土器	良好	砂粒・白色粘物	胴部～底部 1/4	遺存部においては無文。	諸職 b ?
21	J-35 住 15 区 2 层	ニコア土器	良好	砂粒・白色粘物	胴部～底部 1/2	外周、縫文撫で。遺存部においては無文。	諸職 b ?
22	J-35 住 6 区 1 层	深鉢	普通	砂粒・褐色纏泥 混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位直縫線施文後、横位・漏巻き状筋路浮縫文を施す。	諸職 c

A区 J-37 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②船上	③残存	④沿革・文様等の特徴・備考	
1	J-37 住 11 区 1 层 NO.2・7 区 2 层	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	口縁部へ胴部破片	やや外反する平行口縁と想定される。口縁部内面に接する部分を有する。陰帶と北緯により口縁部様式を区画する。区画内には単節 RL 繩文施文、区画連結部には漏巻き状縫織を配す。脇部、单節 RL 繩文施文。	加賀野 E II
2	J-37 住 7 区 2 层	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 混入	口縁部へ胴部破片	口縁部や内面に接する部分を有する。口縁部折り返し、胴部、横位接合部上位に丸縫状工具による連続刺突。下位は縦位接合部によりさらに区画し、区画内に直縫線・弧状丸縫を施す。	中期後葉?

第 109 表 二軒在家原田遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表 (23)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②効用	③残存	④適用・文様等の特徴／備考	
3	J-37 住7区2層	深鉢	普通 砂粒・灰色織入	口縁部破片	波状紋と想定される。手縫竹管状工具による列点状細孔を伴う縦帶で口縁部文様帯を区画する。区画内には丸棒状工具による斜位置沈線を施す。脇部、遺存部においては無文。		加賀利E併行
4	J-37 住6区2層	深鉢	普通 砂粒・チー入混入	口縁部～胴部破片	隆起と沈線により平行状に縦部文様帯を区画する。区画内、丸棒状工具による斜位置沈線を施す。脇部、同工具による横位置沈線を施す。		加賀利E併行 (曾利系)
5	J-37 住6区2層	深鉢	良好 砂粒・白色織物 赤色織物・砂継 混入	口縁部～胴部 1/8	穴や小凹字する平口縁。口縁部は無文。脇部、波状底面で区画し、区画内に斜格子状沈線を施す。脇部、陸帯で区画し、区画内には波形状沈線を施す。		中期後葉
6	J-37 住5区2層・ 6区へ41層	深鉢？	普通 砂粒混入	口縁部破片	穴や小凹字する平口縁と想定される。脇部上位に横位置縫を施す。		加賀利E併行
7	J-37 住2区2層	深鉢	普通 砂粒・金雲母混入	口縁部破片	3点で口縁部付近に後続する把手と想定される。溝巻き状・歯状・直線状・弧状等沈線を施す。		中期後葉
8	J-37 住10区2層・ 11区1層NO2	深鉢	普通 砂粒・角閃石混入	脇部	脇部と対外する脇部、隆帯と沈線により縦部文様帯を区画する。区画内、丸棒状工具による斜位置沈線を施す。脇部は無文。脇部、2条の並行する横位置沈線を施す。この区画の脇部を溝巻き状にし、その部分から2条一组の竪位置隆帯を垂下させ区画する。区画内には半縫 RL 織文施す。		加賀利E I
9	J-37 住3区2層	深鉢	普通 砂粒・白色織物・角閃石混入	口縁部破片	半縫 RL 織文施す。丸棒状工具による2条一组の斜位置隆帯で区画する。一部の区画内に横位U字形沈線を施す。		加賀利E II～III
10	J-37 住7区1層	深鉢	普通 砂粒・角閃石・ 白色織物混入	脇部	逆方向の斜位沈線・斜位隆帯を複数させ、格子目状に区画する。上下に横位置縫を貼付する。		曾利
11	J-37 住U-1	深鉢	普通 砂粒混入	脇部～底部1/4	单縫 RL 織文焼成。		加賀利E
12	J-37 住D-1・14区 2区へ41層	深鉢	普通 砂粒混入	脇部～底部破片	单縫 RL 織文焼成。遺存部最上部に浅い沈線状跡が認められるが、細部は不明。		加賀利E ?
13	J-37 住2区2層・ 2区へ41・3区1層・ 3区2層	持付浅鉢	良好 砂粒混入	1/4	口縫部と脇部を巡らす。脇部、弧形・高巻き状沈線を組み合わせて区画する。一部の区画内には半縫竹管状工具による縦位置・斜位平行沈縫を施す。全体的に精製の感が強い。		加賀利E 併行
14	J-37 住7区へ41層 11区1層NO2	鉢	普通 砂粒・黑色織物 混入	口縁部～底部 2/5	全般的に厚手である。遺存部においては無文。		中期後半
15	J-37 住D-1・16区 1層	鉢	良好 砂粒・白色織物 混入	口縁部破片	遺存部平央に断面三角形の凸巻状の棱を有する。横位置縫で不明瞭になり、並行する連続短次縫が下る。この部分に横伏状縫等が施していた可能性がある。段より上位には竹管状工具による円形刺繍を横位に現し。その下位に磨き様斜位沈縫を施す。段より下位、横位並行する連続短次縫を施す。さらに下位には9個1列位の円形刺繡、両側に短沈縫、内部に磨き様斜位沈縫を作り円形刺繡を施す。内面に赤色絶彩の跡が認められる。全体的に丁寧な作りで、精製の感が強い。		中期後葉
16	J-37 住12区2層	台付土器	良好 砂粒混入	台部破片	台付土器の台部に想定される。透かし状のれいが1列位に現れると思われる。外縁、裏面に効用的な磨き、表面、沈線区画中央部へ入るもしくは歯状縫を施す。		加賀利E
17	J-37 住7区1層	吊手土器	普通 砂粒・白色織物・ 赤色織物混入	吊手部	表面、沈線区画中央部へ入るもしくは歯状縫を施す。両側には横位置縫、裏面、沈線区画中央部に溝巻き状沈縫を施す。両側に横位置沈縫。上面面にも短沈縫を施す。		中期後葉
18	J-37 住10区1層	深鉢	普通 砂粒・白色織物 混入	口縁部破片	波形口縫波頂部。波頂部上面に円形と推定される波底縫を施す。脇部下位には孔を有する。脇部は羽状沈線施す。内面に横位の棱を有する。		後期後半

A区J-38号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②効用	③残存	④適用・文様等の特徴／備考	
1	J-38 住81	深鉢	普通 砂粒・白色織物・ 赤色織物混入	口縁部～胴部 4/5	溝巻き連続状縫と沈縫に。口縁部文様帯を横円形に区画する。内側に矢羽根状沈縫を施す。脇部、竪位沈縫で区画し、区画内に斜位沈縫施す。		曾利Ⅲ
2	J-38 住81・ 11区1層	深鉢	普通 砂粒・雲母混入	口縁部破片	隆帯で口縁部文様帯を區画長方形に区画する。区画内には丸棒状工具による矢羽根状沈縫を施す。区画縫合部には溝巻き状沈縫を施す。脇部、遺存部が少くないチーは下位だが、丸棒状工具による竪位沈縫で区画し、区画内に波形状沈縫を施すと思われる。隆帯に横位置縫を施す。		加賀利E 併行
3	J-38 住11区1層	深鉢	良好 砂粒・白色織物 混入	口縁部破片	口縁部前面上端は厚手を有し棱を呈する。隆帯により口縫部文様帯を区画する。脇部には丸棒状工具による沈縫を施すが、遺存部が少くチーは不明。		加賀利E I～II

第110表 二軒在家原田遺跡A区繩文時代住居址出土遺物観察表(24)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②船上	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
4	J-38 住 11 区 1 層	深鉢	良好 砂粒・白色粘土 混入	口縁部～胴部破片	やや内反する平口縁と想定される。口縁部内面には厚みを有し接状態を呈する。隆帯により口縁部文様帶（楕円形区画か）を区画し、区画内には丸棒、圓文施文、刷毛、LR 繩文施文後、丸棒状工具によるU字状沈線で区画する。さらに一部の区画内に同工具による横位置のU字状沈線が認められる。ただし、この沈線は不明瞭であり、意図的な施文かどうかは疑問が残る。	加曾利 E II～III	
5	J-38 住炉	深鉢	普通 砂粒・白色粘土・黑色粘土混入	胴部破片 1/2	丸棒状工具で区画し、区画内に複数状況を施す。	曾利 III	
6	J-38 住 6 区 1 层	壺	普通 砂粒・混合土	胴部破片	壺部に綱目状中位が遺存する。粗面遺存部分無文。胴部、神社工具による列点状刻突した隆帯で、横位・縱位に区画する。区画内、單孔 LR 繩文施文、丸棒状工具による横位置直線状・逆 U 字状沈線によつて区画する。一部の区画割り目。	中期後葉	
7	J-38 住 14 区 1 层	器台	普通 砂粒・白色粘土・雲母混入	口部（脚部）破片	加曾利 E I～中期後葉器台破片と想定される。丸の一部が2ヶ所遺存する。本來は4ヶ所の札を有すると思われる。孔以外遺存部分においては無文。	加曾利 E I	
8	J-38 住 3 区 1 层	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	丸棒状工具による区画する。一部の区画内に単孔 LR 繩文を施す。棒状工具による刻突を施す。	名守	

A区 J - 39号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②船上	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-39 住 3 区～6 区 1 層・3 区 1 层	深鉢	普通 砂粒・褐色鐵皮 混入	口縁部～胴部 1/3	丸棒と隆帯で口縁部文様帯を5箇所に区画する。半月状の区画内には丸棒状施文。区画連結部には満巻きモチーフを配す。胴部、拂毛状施文後、月状区画中心より2条一组の沈線を垂下させて区画する。各区画内の満巻き状モチーフ部位に蛇行隆帯を垂下させる。ただし縦面中心とした区画のみ、沈線と隆帯によるモチーフとする。	加曾利 E I～II	
2	J-39 住 NO1	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 黑色粘土混入	7/10	單孔波状口縁と想定される。綱目条線を地に並べる。口縁部並行して2条の沈線を示す。胴部には斜状沈線を施す。	曾利 III	
3	J-39 住 4 区 1 层 NO1	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 混入	口縁部破片	やや内反する平口縁と想定される。隆帯と元底で区画し、区画内には棒状工具による横位沈線を施す。口縁部下位には浅い回轉狀の沈線を巡らし、沈線内に綱目状沈線（部分的には斜状）を施す。	加曾利 E 併行	
4	J-39 住 3 区 1 层	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	丸棒状工具による横位沈線を、大きさを変えて連続して施す。沈線の形状・規模の規格性が低く、全体的に稚拙な印象である。	加曾利 E 併行	
5	J-39 住 3 区 1 层	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	丸棒状工具による横位沈線を施す。一部に弧状沈線が認められるが、遺存部が少なくてモチーフは不明。4と同一個体と考えられる。	加曾利 E 併行	
6	J-39 住 2 区 1 层 1 区～5 ト 1 层	深鉢	普通 砂粒・片岩混入	胴部 1/8	胴部中位が遺存する。拂毛施文後、丸棒状工具による満巻き状平行沈線を施す。満巻き状区画の下位には、逆 U 字状と直線状を組み合わせた2条一组の綱目状沈線を垂下させる。8単位に分割していると考えられる。	加曾利 E 併行 (中高地系)	
7	J-39 住 4 区 NO1	深鉢	普通 砂粒・褐色鐵皮 人	胴部 1/10	2条一组の綱目状沈線に上位3単位に区画する。区画内には蛇行隆帯を施す。さらに丸棒状工具による綱目状沈線を充填する。	中期後葉	
8	J-39 住 4 区 1 层	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	2条一组の綱目状沈線により区画する。区画内には丸棒状工具による綱目状沈線を施す。7と同一個体と考えられる。	加曾利 E 併行	
9	J-39 住 4 区 NO1	深鉢	良好 砂粒・灰色鐵皮 混入	胴部破片	胴部中位に想定される。2条一组の綱目状沈線で区画する。区画内に2箇所が閉じた2条の綱目状沈線により、さらに区画する。区画内、丸棒状工具による綱目状沈線を施す。一部の区画には、同工具による3条一组の横位沈線を施す。	加曾利 E 併行	
10	J-39 住 2 区 1 层 3 区～5 ト 1 层	器台	良好 砂粒・白色粘土 人	脚部破片	脚部中位に2個1対の孔を有する。孔の周辺には満巻き状沈線を施す。下位に2条の横位並行沈線施文。	中期後葉	

A区 J - 40号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②船上	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-38 住サブト 2 层	深鉢	普通 砂粒・植物鐵皮 混入	脚部破片	付加溝状文を施す。	前期中葉	

第 111 表 二軒在家原田遺跡 A 区繩文時代住居址出土遺物観察表 (25)

A区J-40b号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②粘土	③残存		
1	J-40b住15区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	洞部破片	(1)表面・文様等の特徴／備考 輪削工具による列点状刺突と平行沈線で区画する。三角形又は菱形のモチーフ。	前期中葉
2	J-40b住15区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 植物繊維混入	洞部破片	輪削工具による斜位列点状刺突で菱形に区画する。さらに、一部に同工具による縦位列点状刺突を施す。	前期中葉
3	J-40b住10区2層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	洞部破片	追加～網目上位か、輪削状工具による列点状刺突・縦位・横位・斜位に施し区画する。洞部単摺 RL・輪削文施す。	有尾
4	J-40b住6区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 植物繊維・灰色 繊混入	洞部破片	単部 RL・輪削 LRによる羽状織文、ループ文を施す。	前期中葉
5	J-40b住6区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 植物繊維混入	洞部破片	直前段多条深鉢末端縁を施す。	前期中葉
6	J-40b住16区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 植物繊維混入	洞部破片	單部 LRと RLの羽状織文を施す。	前期中葉
7	J-40b住1区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	洞部破片	手彫竹管状工具による半隆起複文と、輪削工具による列点状刺突を斜位に施す。その下位に LR 織文を施す。全体では羽状のモチーフをなす。	前期中葉
8	J-40b住16区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 チャート・植物繊維 混入	洞部破片	付加織文を施す。	前期中葉
9	J-40b住8区2層	シザーサイド	普通	砂粒・白色粘土 雲母混入	底部破片	遺存部においては無文。	不明
10	J-40b住13区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	洞部破片	手彫竹管状工具による洞突文を施す。	浮島
11	J-40b住1区～4 1層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	④単位状図縁波部付近と記述される。口縁に輪削並行輪削浮線文を施す。波頭部下位に縦位始輪削浮線文と小型ボタン状貼付文施す。縁部は横位・溝状・きぬ状貼付浮線文を施す。	諸鏡c併行
12	J-40b住4区1層	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	縁文(單部 LRか)・茎文後、横位直線状又は横削状貼付文を施す。	諸鏡c?
13	J-40b住16区1層	深鉢	普通	砂粒・片岩・石 英混入	口縁部～胸部破 片	口縁部・手彫竹管状工具による横位平行沈線を施す。一部に横円形容付文。貼付文沈位のみ下方に糸状の横位沈文。胸部、縦位沈織文により区画する。	中期前半?
14	J-40b住12区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 黒色粘土混入	洞部破片	焼成の文を施す。	加賀利E
15	J-40b住14区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 雲母混入	洞部破片	沈線に上り区画し、一部の区画内に竹管状工具による刺突を施す。	称名寺
16	J-40b住15区1層	深鉢	普通	砂粒・角閃石・ 白色粘土混入	洞部破片	沈線に上り区画する。一部の区画内に棒状工具による列点状刺突を施す。	称名寺
17	J-40b住15区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	洞部破片	丸棒工具による丸縁で区画する。区画は「字状モチーフ」か、さらに一部区画内に縦位に刺突を施す。	称名寺
18	J-40b住1区1層	深鉢	良好	砂粒・白色粘土 混入	洞部破片	丸棒工具による縦位の丸縁で区画する。一部の区画内に RL・織文を充填する。	曜之内
19	J-40b住(D-73土付近)	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	洞部破片	棒状工具による丸縁で区画する。一部の区画内に、同工具による刺突を施す。	称名寺
20	J-40b住(D-73土付近)	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	単部 LR織文施す。棒状工具による沈線で区画する。沈縁間の一部に、刺突を伴うボタン状の低い貼付文を施す。	称名寺

A区J-40号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②粘土	③残存		
1	J-40住一括	深鉢	良好	砂粒・石英・植 物繊維混入	口縁部破片	(4)表面・文様等の特徴／備考 輪削工具による斜位平行沈線・列点状刺突により区画する。	有尾
2	J-40住一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	口縁部破片	波状模様。手彫竹管状工具による爪形文・網突文・平行沈織文施す。(上部に技術的に複数あるがコンバース文)。一部に輪削状工具による列点状刺突を施す。	有尾
3	J-40住7区～4 1層	深鉢	普通	砂粒・石英・植 物繊維混入	洞部破片	遺存部中央付近において、上下に二種類が区分されている。上部手彫輪削工具による弧状・斜位直線列点状刺突を施す。一部には、同工具による斜位平行沈線を施す。下半部単摺 RL・織文施す。	有尾
4	J-40住15区1層	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	丸棒状工具による沈線で区画する。一部の区画内に同工具による刺突を施す。	称名寺

A区J-41号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②粘土	③残存		
1	J-41住3区～6 1層	深鉢	良好	砂粒・黒色粘土 混入	口縁部破片	(4)表面・文様等の特徴／備考 中心外反する平口縁と想定される。手彫竹管状工具・弓彌引による爪形文・網突文で区画する。爪形文間に斜位直線列点状刺突を施す。	諸鏡b
2	J-41住4区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	洞部破片	手彫竹管状工具押・引きによる爪形文で区画する。一部の爪形文間に斜位網突縫を連続して施す。	諸鏡b

第112表 二軒在家原田遺跡A区繩文時代住居址出土遺物観察表(26)

番号	造構名	器種	成・整形技術の特徴			時期
			①焼成	②船上	③残存	
3	J-41 住3区1層	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 混入	胸部破片	(4)器形・文様等の特徴／備考 単脚 RL 繩文施文後、半載竹管状工具押し引きによる爪形文で区画する。爪形文間には斜位弦沈縫を連続して施す。	諸鏡 b
4	J-41 住3区1層	深鉢	普通 砂粒・白色織痕 入	胸部破片	半載竹管状工具押し引きによる爪形文で区画する。一部の爪形文間には斜位弦沈縫を連続して施す。 さらに、一部の区画内に竹管状工具による平行刺突を施す。	諸鏡 b
5	J-41 住3区1層	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 片岩混入	胸部破片	RL 繩文施文後、半載竹管状工具による横位平行弦沈縫を施す。さらに、一部に竹管状工具による円形刺突を配す。遺存部最下位には弦縫を施す。 また、モチーフは不明瞭。	諸鏡
6	J-41 住D-2土	深鉢	普通 砂粒・片岩混入	胸部破片	半載竹管状工具による横位平行弦沈縫（半降起線状を呈する）を施す。弦縫下位に三角形又は精円状刺突を連続して配す。一部に、単脚 LR 繩文を施すが不明瞭である。	諸鏡
7	J-41 住4区1層	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 雲母混入	胸部破片	半載竹管状工具による横位平行弦沈縫（半降起線状を呈する）を施す。弦縫下位に三角形又は精円状刺突を連続して配す。一部に、単脚 LR 繩文を施すが不明瞭である。	五箇ヶ台
8	J-41 住4区1層	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 雲母混入	胸部破片	半載竹管状工具による横位平行弦沈縫（半降起線状を呈する）を施す。弦縫下位に三角形又は精円状刺突を連続して配す。一部に、単脚 LR 繩文を施すが不明瞭である。	五箇ヶ台
9	J-41 住4区6付	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 雲母混入	胸部破片	半載竹管状工具による横位基溝基溝平行弦縫（半降起線状を呈する）で区画する。一部の区画内に、単脚 LR 繩文を施すが不明瞭である。	五箇ヶ台

A区J-42号住居址

番号	造構名	器種	成・整形技術の特徴			時期
			①焼成	②船上	③残存	
1	J-42 住4区1層	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	(4)器形・文様等の特徴／備考 彌帶式弦縫で口縁部弦縫帯を区画する。一部の区画内には弦縫であるが繩文施文。鉢部は遺存部においては無文。	加曾利 E I ~ II
2	J-42 住10区1層	深鉢	普通 砂粒・褐色織痕 入	口縁部～胸部破片	彌帶式弦縫により口縁部弦縫帯を半円形に区画する。内面に単脚 RL 繩文施文。区画連結部には上面に彌帶帶と斜位弦縫を斜位起線を配す。縫跡無文。鉢部、單脚 RL 繩文を施す。一部に横位弦縫施文。	加曾利 E I
3	J-42 住11区1層	鉢	普通 砂粒・チャート・片岩混入	体部1/10	体部上位に花縫により横円形又は両耳直方形の区画を配す。区画内には斜位～斜位弦縫を施す。縫跡無文。また、一部の区画間に縫跡を貼付する。縫形変換点には横位珠帶を認める。珠帶上に斜位列点状弦縫を施す。体部下位は無文。内面黒色。	加曾利 E II
4	J-42 住10区1層	二つヨウ土器	普通 砂粒・白色粘土 混入	底部破片	砂粒や底位弦縫を施す。	加曾利 E ?
5	J-42 住7区1層	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	頭の手綱竹管状工具による結節浮縫文を、口縁に並行して4条施す。脚部、同工具による斜位始終浮縫文を区画し、一部の区画内に2対1対の小さな円形貼付文を施す。	諸鏡 c
6	J-42 住7区2層	深鉢	普通 砂粒・片岩・白 色粘土混入	口縁部破片	内反する口縁、口縁部内外に疊帶を貼付する。外側の疊帶には丸みを施す。頭部半載竹管状工具による横位、斜位平行弦縫文を施す。中央に円形刺突を伴う2個1対のボタン状貼付文を配す。	諸鏡 c
7	J-42 住11区1層	深鉢	普通 砂粒・白色織痕 入	口縁部破片	丸筋に突起する把手。半載竹管状工具による平行弦縫又は継続弦状縫縫を施す。一部にボタン状貼付文を配す。	諸鏡 c
8	J-42 住4区1層	深鉢	普通 砂粒・金雲母混 入	口縁部破片	正面上部に断面三角形の縫を有する小波状口縫。半載竹管状工具による2条の横位半降起線で区画し、区画内には同工具による斜位半降起線と、逆方向の複数の斜位弦縫文により格子状文様を施す。鉢部に縫跡（LRか）を施す。	五箇ヶ台
9	J-42 住8区1層	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 混入	口縁部破片	單脚状口縫の横状把手か。外面、弦縫で区画し、一部の区画内に単脚 RL 繩文施文。把手側面は、左面に縫跡を施す。右面は無文。	称名寺
10	J-42 住4区1層	深鉢	普通 砂粒混入	腹部破片	丸棒状工具による弦縫で区画する。一部の区画内に同工具による刺突を施す。	称名寺

A区J-43号住居址

番号	造構名	器種	成・整形技術の特徴			時期
			①焼成	②船上	③残存	
1	J-43 住6区2層	深鉢	普通 砂粒・植物織痕 混入	口縁部～胸部破片	(4)器形・文様等の特徴／備考 波状口縫頂部。波顶部より微隆起を垂下させ区画する。口縫部、底位弦縫を連続して施す。脚部、口縫に並行するように、半載竹管状工具押し引きによる爪形文、同工具による平行弦縫文を施す。爪形文は部分的に密着の変化をつける。さらに、一部に輪状工具による列点状刺突を施す。	有尾

第113表 二軒在家原田遺跡A区繩文時代住居址出土遺物観察表(27)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②鉛土	③残存		
2	J-43 住 6 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・石英・白色鉱物・植物繊維混入	口縁部破片	波状口縁波頂部、口縁部、櫛衝状工具による縦位列点刺突をX字形に配し、三角形又は菱形に区画する。胴部、並行する横位列点刺突。	有尾
3	J-43 住 15 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	波状口縁波頂部、口縁部、櫛衝状工具による縦位列点刺突。胴部、同工具による斜位列点刺突。波頂部下位の縦位列点刺突は、他より長く垂下する。	有尾
4	J-43 住 9 区 1 层	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4 位筋波状口縁上に想定される。櫛衝状工具による列点刺突を縦位、斜位に施す。斜位に施す。	有尾
5	J-43 住 8 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・石英・白色鉱物混入	口縁部破片	波状口縁波底部付近に、櫛衝状工具による口縁部に横位・縦位列点刺突を施し、三角形の区画を配す。	有尾
6	J-43 住 6 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	波底面に小波状突起を有する4位筋波状口縁か(小波状を含めれば8位筋)。波底面小波状突起部分に存在していると思定される。口縁に並行して、手翦竹管状工具による縦位波底部、横位平行凹線(隆起線部、一部は結節浮線状)を施す。胴部、手翦竹管状工具による平行竹縫と、櫛衝状工具による列点刺突間に区画する。モチーフは菱形、直角三角形である。内面は丁寧に磨き。	有尾
7	J-43 住 16 区 2 層 床直	深鉢	普通	砂粒・褐色繊・片岩・チャート・植物繊維混入	口縁部破片	4 位筋波状口縁波底部と考えられる。波底面に小突起配り。单筋 RL・LR 織文、直前段反撚 (?) 施す。	有尾・黒浜
8	J-43 住 6 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色繊・白色鉱物・植物繊維混入	胴部破片	胴部上方に、櫛衝状工具による列点刺突を横位・斜位に施し区画する。	有尾
9	J-43 住 9 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・チャート・白色繊・植物繊維混入	胴部破片	櫛衝状工具による平行沈線・列点刺突を斜位・横位に施し、三角形に区画する。	有尾
10	J-43 住 9 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	胴部上方の器形変換付近が遺存する。変換点上位、櫛衝状工具による平行沈線・列点刺突を斜位・横位に施し、三角形に区画する。変換点下位、單筋 RL 織文施す。	有尾
11	J-43 住 16 区 2 層 床直	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	單筋 LR と RL の羽状織文を施す。内面、縦位の丁寧な磨き。	前期中葉
12	J-43 住 16 区 2 層 床直	深鉢	普通	砂粒・褐色繊・植物繊維混入	胴部破片	羽状織文 (RL と LR ?) を施す。	有尾・黒浜
13	J-43 住 6 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・植物繊維混入	破片	やや上げ底状を呈する。單筋竹管状工具又は棒状工具による横位・縦位沈線を施し、格子目状に区画する。	前期中葉
14	J-43 住 1 棟	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	上位底状を呈する。半截竹管状工具又は棒状工具による横位・縦位沈線を施し、格子目状に区画する。	前期中葉
15	J-43 住 5 区 2 層	注口土器	普通	砂粒・白色鉱物・注口部破片	口縁部破片	外面上に單筋 LR 織文施す。	前期中葉
16	J-43 住 8 区 2 層	注口土器	普通	砂粒混入	口縁部 (注口部) 破片	浅鉢部注口部と想定される。注口部端部は丸損するが、口縁より高くなると思定される。隆帯とヒヅメで口縁部を区画する。区画内に単筋 RL 織文施す。外面上に赤色渲染。	加賀利 E ~ 称名寺
17	J-43 住 1 区 1 层	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	丸抜状工具による沈線で区画する。一部の区画内に同工具による柄突を施す。	称名寺

A区J-44号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②鉛土	③残存		
1	J-44 住木直	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・黑色鉱物混入	口縁部～胴部 1/5	隆起花園(?)口縁部・天板部・側面部に区画する。区画内に単筋 RL 織文施す。区画縁部には巻き縫きチャーフを配す。胴部、縦位隆起を施し下位区画する。区画内には単筋 RL 織文施す。	加賀利 E I
2	J-44 住 4 区	深鉢	普通	砂粒・繊混入	口縁部～胴部破片	隆起花園(?)口縁部。口縁部下位の縦位隆起により口縁部天板部を区画する。口縁部・隆起部により横手縫・縦形縫と定される区画を構成す。区画内に連続する短位沈線を施す。胴部、単筋 RL 織文施す。	中期後葉
3	J-44 住 4 区 1 层	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部 1/6	口縫横断面。無文帯下部に丸棒状工具による横位沈線を施し、胴部天板部と区画する。胴部、斜位・横位を施す。	加賀利 E 併行
4	J-44 住 4 区 1 层	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部破片	單筋口縫。隆起花園(?)口縫部天板部を区画する。区画内に手翦竹管状工具による縦位沈線を施す。胴部、同工具による縦位基調沈線を施す。	加賀利 E 併行
5	J-44 住 1 区 1 层	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆起花園(?)口縫部天板部による斜位沈線を施す。胴部、遺存部においては無文。	加賀利 E I ~ II
6	J-44 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	口縫横断面。隆帶と沈線により横円形に区画する。区画内、手翦竹管状工具による縦位沈線を施す。胴部、溝引き状隆帶と斜位沈線を施す。	加賀利 E 併行

第114表 二軒在家原田遺跡A区輪文時代住居址出土遺物観察表(28)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④沿形・文様等の特徴／備考	
7	J-44住1区1層	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 黑色粘物・雲母 混入	口縁部～胴部 1/8	口縁部、横棒状工具による重乳頭を施す。部頭に 12条の模位沈縫を施し、沈縫上下に弧状沈縫を施す。部頭には 弧状（満巻き状？）隆帶施文。一部の口縁端部には 岐手状を呈する。	加曾利E併行 (中部高地系)
8	J-44住1区1層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	口縁部で2条一組の垂帯（満巻き状か）により区 画する。区画内、半載竹管状工具による斜位沈縫を 施す。	加曾利E併行 (中部高地系)
9	J-44住4区	鉢	良好	砂粒・白色粘物 褐色粘物	口縁部～体部 1/4	口單で波状口縁に想定される。隆帶と沈縫で口縁 部文様帯を区画する。区画内、丸棒状工具による 縦位基溝を施す。波状部上面と側面に満巻き 状沈縫を施す。部頭は無し。体部文様帯は口縁 部文様帯に類似するが、満巻き状沈縫が横位方向 に長く延びる。体部下手は無文。内底は丁寧な磨き。 単節LR織文施文後、脇に三角印押を伴う縱帯・ 岐状・岐手状平行沈縫を施す。	加曾利E I～ II
10	J-44住2区1層	鉢	普通	砂粒混入	体部破片	加曾利E式期の縦体部上位が遺存すると考えられ る。垂帯と沈縫により横円形に区画し、区画内には 縱位沈縫を施す。横円形区画の連結部には、満 巻き状の垂帯を施す。体部の紐曲点下位は無文と 想定される。	加曾利E
11	J-44住P-3	深鉢	良好	砂粒・白色粘物 金雲母混入	1/2	単節LR織文施文後、脇に三角印押を伴う縱帯・ 岐状・岐手状平行沈縫を施す。	五領ヶ谷

A区J-45号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④沿形・文様等の特徴／備考	
1	J-45住炉	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 混入	口縁部破片	縦帶と沈縫で口縁部文様帯を区画する。区画内には 縦位沈縫を施す。部頭は遺存部においては無文。 単節LR織文施文。	加曾利E I～ II
2	J-45住1括	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 混入	口縁部破片	口縁部文様帯付近が遺存していると想定される。垂 帯と沈縫で区画し、区画内にRD、織文施文。	加曾利E I～ II
3	J-45住D-1土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 混入	2本一組の断面直角の縦位隆帯により区画する。 隆帯間に斜位短沈縫を施す。区画内、縦位・ 横位沈縫を施す。さらに一部に蛇行隆帯を施す。 縦位隆帯は斜位短沈縫を施す。	加曾利E	
4	J-45住D-1土	深鉢	不良	砂粒・白色粘物 混入	口縁部文様帯～胴部上位附近が遺存していると想 定される。口縁部文様帯、垂帯と沈縫で区画し、 区画内に単節沈縫を施す。胴部、弧状（満巻き？） 沈縫を施す。	加曾利E併行 (郷土系?)	
5	J-45住炉	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	深鉢の斜位附近と想定される。斜位沈縫と、逆 方向の斜位短沈縫文により、格子目状マニホールド構 成する。胴部との境界には、交瓦瓦突による沈縫 を呈する貼付文と、横位直線状貼付文で区画する。 胴部、棘状沈縫を施す。	加曾利E併行 (郷土系)

A区J-46号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④沿形・文様等の特徴／備考	
1	J-46住D-1	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部 1/5	隆帶と沈縫により口縁部文様帯を横円形に区画す る。区画内、単節RD、織文施文、横円連続部上位 の口縫は波状を呈する。さらに胴部には、その 部分から丸棒状工具による1条一組の平行沈縫を 垂下させる。田の字状に区画する。田の字状の交点 には満巻き状沈縫を施す。また、各区画中央付近 には平行沈縫を垂下させる。	加曾利E I～ Ⅲ併行 (郷土系)
2	J-46住D-1土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	横円沈縫と斜位附近が遺存する。横円施文後、 丸棒状工具による附着状・斜位沈縫を施す。	加曾利E
3	J-46住D-1土	深鉢	不良	砂粒混入	胴部破片	2条一組の縦位隆帯に上位に区画する。区画内、半 載竹管状工具による斜位・斜位平行沈縫を施す（縫 移状をリバースする可能性あり）。	加曾利E
4	J-46住D-2土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	横帯で区画する（満巻き状か）。区画内、半載竹 管状工具または丸棒状工具による沈縫を施す。	加曾利E併行 (郷土系)
5	J-46住炉	深鉢	良好	砂粒・白色粘物 混入	胴部破片	織文（RLとLRの結束）を施す。	加曾利E

A区J-47b号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④沿形・文様等の特徴／備考	
1	J-47b住P-5	深鉢または 鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部破 片	内反す口縁部で口縫を想定される。口縁部を隆帯により 横円形に区画する。区画内に単節LR織文施文。 胴部、遺存部においては無文。	加曾利E I～ II

第115表 二軒在家原田遺跡A区繩文時代住居址出土遺物観察表(29)

A区J-47号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④表面・文様等の特徴・備考	
1	J-47 住 16 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・黒色粘土物、口縁部破片 角閃石混入	口縁部破片	隆起と沈線による口縁部と底盤部を区画する。半月状区画には丸棒状工具による斜位沈線を施す。縫隙、遺存部においては無文。	加賀利 E I ~ II
2	J-47 住 11 区 3 层 +14 区・一括	深鉢	普通	砂粒・黒色粘土物 混入	口縁部へ胸部 1/10	隆起と沈線による口縁部と底盤部を区画する。区画内には丸棒状工具による継位沈線を施す。胸部、1/1又は3条の継位沈線、横行帯、横行帯により区画する。区画内には丸棒状工具による斜位沈線を施す。内面底部付近に使用的な縫隙を認める。	加賀利 E 併行
3	J-47 住 16 区 3 层	鉢	普通	砂粒・白色粘土物 混入	口縁部へ体部破 片	口縁部が内面で平らと想定される。口縁部、溝巻き状・横円形沈線を施す。横円形沈線区面内には單筋脚、繩文施文、体部は無文。	加賀利 E II
4	J-47 住 12 区 1 层	鉢	普通	砂粒・白色粘土物 混入	口縁部へ体部破 片	口縁部が顯著に内面寄る跡と想定される。口縁部、溝巻き状・弧状等の沈線、棒状工具による刺突を施す。体部、丁寧な磨き、内面、丁寧な磨き。	加賀利 E II
5	J-47 住 8 区 2 层	鉢?	普通	砂粒・灰色織 雲母混入	口縁部破片	口縁部が継続して内面寄る跡と想定される。口縁部、溝巻き状・弧状等の沈線、棒状工具による刺突を施す。内面、丁寧な磨き。	加賀利 E 併行
6	J-47 住アフリ	鉢?	普通	砂粒・褐色混 泥混入	口縁部へ体部 1/8	口縁部内面に断面三方形の棱を認し、口縁部上端が内面寄る様子を認める。口縁部上面に丸く沈線を断続的に施す。外面、遺存部においては無文。	加賀利 E I ~ II
7	J-47 住 3 区 3 层	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	2 条の継位沈線で区画する。区画内に単筋脚、JR 繩文施文。	加賀利 E II
8	J-47 住 12 区 3 层	深鉢	普通	砂粒・褐色織 泥混入	胸部破片	溝文（單筋 JR 小）施文後、丸棒状工具による横円形・弧状等の丸棒状を施す。	加賀利 E 併行
9	J-47 住 3 区 2 层	鉢	普通	砂粒・褐色織 泥混入	隆起と沈線による文様帶を区画する。一部の区画内には、縫隙と丸棒状工具による斜位沈線を施す。	加賀利 E II	
10	J-47 住 1 区 3 层	深鉢	普通	砂粒混入	胸部へ底部 1/10	側面はやけ上り底盤を認する。3条一组の継位沈線を施す。外面、遺存部においては無文。	中前期後業
11	J-47 住アフリ・一括	深鉢	普通	砂粒混入	胸部へ底部 1/10	側面はやけ上り底盤を認する。3条一组の継位沈線を施す。外面、遺存部においては無文。	加賀利 E 併行
12	J-47 住 4 区 3 层	鉢	良好	砂粒・灰色織 泥混入	底部破片	側面はやけ上り底盤を認する。区画内には蛇行帯を垂直下させ、横立・斜位沈線を施す。また、隆起間に斜位沈線を施す。	加賀利 E II
13	J-47 住 3 区 1 层	ニコア土器	良好	砂粒・雲母混入	3/8	側面はやけ上り底盤を認する。一部の区画内には赤色塗装が認められる。	加賀利 E II
14	J-47 住 12 区 3 层	土製耳飾	普通	砂粒・白色粘土物 黒色粘土物混入	ほぼ完形	瓶形を呈する。内面に刺突文を施す。	加賀利 E 併行

A区J-48号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④表面・文様等の特徴・備考	
1	J-48 住 2 区 1 层	深鉢	普通	砂粒・白色織 泥混入	口縁部破片	半載竹管状工具押し引きによる弧状爪形文を組み合わせ。木葉状に区画する。	諸磯 a
2	J-48 住 1 区 1 层	深鉢	普通	砂粒・白色織 泥混入	口縁部破片	半載竹管状工具押し引きによる弧状爪形文を組み合わせ。木葉状に区画する。1と同一個体。	諸磯 a
3	J-48 住 (J-51 住 1 区 1 层)	深鉢	普通	砂粒・白色粘土物 混入	口縁部へ胸部破 片	外反する口縁。一部に4個1單位の刺突状小凹記を貼る。口縁部下位。半載竹管状工具による爪形文と横位に2条施し、爪形文間は棒状工具により連続刺突する。胸部、同工具による爪形文により継続刺突する。爪形文間は棒状工具により連続刺突する。口縁部距離状小凹記下位に施す前、内側より穿たれた孔を有する。	諸磯 b
4	J-48 住 2 区床底	深鉢	普通	砂粒・白色粘土物 混入	口縁部破片	2 単位の大腹状の糸網孔。半載竹管状工具押し引きによる爪形文。口縁部並行 5 条施す。爪形文間は棒状工具による連続刺突する。浮裸文を呈す。	諸磯 b
5	J-48 住 7 区 2 层	深鉢	普通	砂粒・片岩混入	口縁部破片	外反する波状口縁を想定される。半載竹管状工具押し引きによる爪形文。一部の爪形文間に2条の継位沈線を施す。さらに、一部の区画内に竹管状工具による平行刺突を施す。	諸磯 b
6	J-48 住 7 区 2 层	深鉢	普通	砂粒・褐色織 泥混入	胸部破片	爪形文状を呈するが、半載竹管状工具による平行刺突後、同工具による連続刺突文を施している。一部の爪形文状施文間に2条の継位沈線を連続して施す。	諸磯 b
7	J-48 住 7 区 2 层	深鉢	良好	砂粒・白色粘土物 混入	胸部破片	半載竹管状工具押し引きによる爪形文で区画する。一部の爪形文間に2条の継位沈線を連続して施す。さらに、一部の区画内に竹管状工具による平行刺突を施す。	諸磯 b

第 116 表 二軒在家原田遺跡 A 区繩文時代住居址出土遺物観察表 (30)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②土上	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
8	J-48 住6区2層	深鉢	良好 砂粒・白色鉱物 混入	桶部破片	遺存部最上位に焼成前の孔を有すると想定される。 4単位波状口縁の波痕部下位に施されたものである可能性が考えられる。半截竹管状工具押し引きによる爪形文等で区画する。一部の爪形文間に斜位刻印等を施して施し、浮遊文等を呈する。さらに一部の区画内に竹管状工具による円形刺突を施す。遺構より古段階から中段階への過渡的な位置推移が見られる。		諸穢 b
9	J-48 住6区1層	深鉢	普通 砂粒・灰色礫混入	桶部 1/10	遺部中央部が内反し、頭部から口縁部が外反する 鉢形か、頭部屈曲点及び桶部に、半截竹管状工 具押し引きによる横位爪形文。その間は同工具によ る爪形文を波状・弧形に施し区画する。桶部下半 部に円形文等で区画後、半截竹管状工具による横位 爪形文を施す。さらに、一部に同工具押し引きによる 爪形文を施す。爪形文の瓶文方法がやや複雑な感 がする。		諸穢 b
10	J-48 住3区2層	深鉢	普通 砂粒混入	桶部破片	単節 RL 繩文施文後、半截竹管状工具による横位 爪形文を施す。さらに、一部に同工具押し引きによる 爪形文を施す。		諸穢 b
11	J-48 住6区1層	深鉢	普通 砂粒混入	桶部破片	単節 RL 繩文施文後、竹管状工具による円形刺突を 施す。部位に配す。		諸穢 a
12	J-48 住6区1層	深鉢	普通 砂粒混入	桶部破片	外反する桶部上半部破片。半截竹管状工具による平 行沈縫と電子目状に区画し、区画内に竹管状工具 による円形刺突を施す。		諸穢 b
13	J-48 住7区2層	深鉢	普通 砂粒混入	桶部破片	単節 RL 繩文施文後、半截竹管状工具による平行 沈縫と電子目状に区画する。		諸穢 b併存
14	J-48 住 (J-51 住1区1層)	深鉢	良好 砂粒・白色鉱物 混入	桶部破片	単節 RL 繩文施文後、桶柄状工具による平行沈縫 と横位・縦位に施す。		諸穢 b
15	J-48 住2区1層	鉢？	良好 砂粒混入	口縁部破片	口縁部に捺り凹、口縁部の段差を有する。段差部 分には横位沈縫を施す。桶部、半截竹管状工 具による爪形文で区画する。		諸穢 b
16	J-48 住 (J-51 住5区1層)	深鉢	普通 砂粒・金葉母混 入	口縁部破片	半截竹管状工具による2条一組の隆脛縫区画に上 り、口縁部文様帶を構成する。文様帶内部に三角 形印文等で連続して配す。		五箇ヶ台 中期
17	J-48 住 (J-51 住5区1-2層)	深鉢	普通 砂粒・灰色礫混 入	桶部～底部破片	遺存部においては爪形文である。		中期後葉？
18	J-48 住 (J-51 住5区2層)	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	横位・斜位の沈縫で区画し、一部に単節 RL 繩文 施文。区画モチーフは三角形か、口縁部内側に横位 を有する。		堀之内2
19	J-48 住 (J-51 住1区1層)	深鉢	普通 砂粒混入	桶部破片	繩文（単節 RL か）、施文後。三角形基底の平行沈 縫で区画する。薄手で精製の感が強い。		堀之内2
20	J-48 住 (J-51 住5区2層)	深鉢	普通 砂粒混入	桶部破片	三角形又は菱形のモチーフか。沈縫により区画し、一部 の区画に単節 RL 繩文施文。		堀之内2

A区 J-49 号住址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②土上	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-49 住 (J-40 住一括)	深鉢	普通 砂粒・白色鉱物 角閃石混入	口縁部破片	筒帯と沈縫で口縁部文様帶を区画する。一部の区 画内には単節 RL 繩文施文。桶部、半截竹管状工 具による爪形文で区画する。	加曾利 E I ~ II	
2	J-49 住伊	深鉢	普通 砂粒・褐色礫 ・白色鉱物混入	桶部～底部 2/5	単節 RL 繩文施文後、U字形、逆 U字形沈縫を伴 う2条一組の縱位沈縫で9単位に区画する。U字 形・逆 U字形沈縫による区画内は、繩文を磨り消 している区画と磨り消していない区画がある。	加曾利 E II	
3	J-49 住 (J-40 住東住西～6)	深鉢	普通 砂粒・白色鉱物 混入	桶部破片	口辺部に桶部上位と想定される。2条の横位沈縫 により桶部・桶部を区画すると思われる。隙間間 には棒状工具による横位点状刺突を有す。桶部文様 帶の一部に3条の縱位沈縫を施す。	加曾利 E I	
4	J-49 住 (J-40 住7区サブト)	深鉢	普通 砂粒・白色鉱物 混入	桶部破片	桶部中位～下位と想定。単節 RL 繩文施文後、丸 棒状工具による2条一組の浅い縱位沈縫を施す。	加曾利 E I	
5	J-49 住伊	深鉢	良好 砂粒混入	桶部破片	単節 RL 繩文施文後、丸棒状工具による2条一組 の縱位沈縫を施す。	加曾利 E I	
6	J-49 住伊	深鉢	良好 砂粒混入	桶部破片	単節 RL 繩文施文後、丸棒状工具による平行沈縫 を垂下させる。	加曾利 E I	

A区 J-50 号住址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②土上	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-50 住 P-2	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部破片	単節 RL 繩文を施す。		諸穢
2	J-50 住 P-2	深鉢	良好 砂粒混入	桶部破片	単節 RL 繩文を施す。		諸穢
3	J-50 住 2区1層	深鉢	普通 砂粒・植物礫 混入	口縁部破片	無縪繩文を施す。		前期中葉
4	J-50 住 2区1層周溝	深鉢	普通 砂粒・植物礫 混入	桶部破片	半截竹管状工具による連續刺突、同工具押し引き による爪形文を状に施す。		前期中葉
5	J-50 住伊	深鉢	良好 砂粒・白色鉱物 混入	桶部破片	単節 RL 繩文施文後、丸棒状工具による縱位沈縫 を区画する。		加曾利 E I

第 117 表 二軒在家原田遺跡 A 区繩文時代住居址出土遺物観察表 (31)

A区J-51号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	J-51 住2区1層	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 混入	口縁部破片	③剥離・文様等の特徴／備考 2重位の大波状口縁が、半截竹管状工具押し引きによる爪形文を、口縁に並行し5条施す。爪形文間隔は工具による通經粗沈縫で施し、浮縫文状を呈す。胴部同工具による爪形文や強状等に区画する。外反する口縁、口縁に並行し、半截竹管状工具押し引きによる爪形文を2条施す。胴部、同工具による強状爪形文で区画し、一部に2個一対の円形刺突を有す。	諸磯 b
2	J-51 住7区1層	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	③剥離・文様等の特徴／備考 半截竹管状工具による爪形文を区画する。外反する口縁、口縁に並行し、半截竹管状工具押し引きによる爪形文を2条施す。胴部、同工具による強状爪形文で区画し、一部に2個一対の円形刺突を有す。	諸磯 b
3	J-51 住7区2層	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文で区画する。一部の爪形文間に2列位短沈縫を施して無す。	諸磯 b
4	J-51 住3区2層	深鉢	良好 砂粒混入	胴部破片	単面 RL 織文施文。半截竹管状工具による平行沈縫(半隆起縫状を呈する)で木葉状に区画する。さらに、竹管状工具による円形刺突を有す。	諸磯 b
5	J-51 住7区1層	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 混入	胴部破片	木本1単位の細長竹管状工具により、横位直縫・波状・竹管状工具による円形刺突を施す。	諸磯 b
6	J-51 住P-7・1括	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部～胴部 1/4	平行沈縫を交叉方に施す。竹管状工具による円形刺突を紙面に配す。	諸磯 b
7	J-51 住3区1層	深鉢	普通 砂粒・植物繊維 混入	口縁部破片	④ 单面波状口縁が、半截竹管状工具による口縁に並行する沈縫施文。波頂部より刻みを有する輪帶を呈す。	有尾
8	J-51 住4区1層・ 7区2層・8区1層	深鉢	普通 砂粒・褐色繊維 植物繊維混入	口縁部破片	木本1外反する平口縁と想定される。単面 RL と LR 織文施文がL字により羽状構成となす。口縁部上面には木繊維(木片)を呈す。	有尾・黒浜
9	J-51 住4区1層	深鉢	普通 砂粒・植物繊維 混入	口縁部破片	⑤ 直立する平口縁と想定される。単面 RL 織文を施す。	前期中葉
10	J-51 住4区1層	深鉢	不良 砂粒・植物繊維 混入	口縁部～胴部破片	⑥ 单位波状口縁の波頂部付近と想定される。半截竹管状工具による波状平行沈縫を施す。部分的にコンバス文を呈する箇所が認められるが、コンバス文を意図したが技術的な問題で波状平行沈縫にならなかった可能性がある。胴部上位には不明瞭な細縫が施されている。	前期中葉
11	J-51 住4区1層	深鉢	普通 砂粒・植物繊維 混入	胴部破片	無縫1と2との羽状織文を施す。	前期中葉
12	J-51 住3区1層・ 4区1層	深鉢	普通 砂粒・石英混入	胴部2/3	半截竹管状工具による集合沈縫で、口縁部を横位に、胴部を縦位に区画する。区画内には同様の集合沈縫を横位直縫状、縦位弧状・純形状等に施す。	諸磯 c
13	J-51 住4区1層	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 混入	口縁部破片	⑦ 单面波状竹管状工具による平行沈縫(半隆起縫状を呈する)を斜位に施す。その後、縦位・横位に区画する。	諸磯 c
14	J-51 住1括	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部～胴部破片	口縁部・内側への折り返し口縫状を呈する。連續する強状連帯により口縁部半月状区画を作り出し、区画内に強状を施す。胴部、強状連帯接点下回り途中で2本に分岐する蛇行沈縫を削下させ、全体的に複雑の感が強い作である。	中期後葉
15	J-51 住1括	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部～胴部破片	強状と沈縫により口縁部文様帶を区画する。区画は精円形と高輪文状と交互に配すと想定される。精円形内側には丸棒状1ヶ月以上位沈縫を施す。胴部には12条一組の縦位連帯を削下させて区画する。強状は横文、Nに区画内に蛇行連帯を削下させ、丸棒状工具による被杉状沈縫を施す。	加賀利 E II
16	J-51 住2区1層	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 黑色粘土混入	口縁部～胴部 1/2	強状と沈縫により口縁部文様帶を区画する。区画は精円形と高輪文状と交互に配すと想定される。精円形内側には丸棒状1ヶ月以上位沈縫を施す。胴部には12条一組の縦位連帯を削下させて区画する。強状は横文、Nに区画内に蛇行連帯を削下させ、丸棒状工具による被杉状沈縫を施す。	曾利里
17	J-51 住1括	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	織文(単面RLか) 施文後、半截竹管状工具又は棒状工具による縦位基調沈縫で区画する。一部の区内間に蛇行沈縫を削下させる。	加賀利 E
18	J-51 住1括	深鉢	普通 砂粒・褐色繊維 混入	口縁部～底部 1/2	内側正面に口縁部に横縫状の溝みを施す。意図的施文ではなく、接合痕の底への可能性がある。それ以外は無文。底部、やや上げ底状。一部に木製痕?	中期後葉

A区J-52号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	J-52 住 (U-41 住 1区～6) 1層)	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	③剥離・文様等の特徴／備考 頭部の無文帯により口縁部文様帶と胴部文様帶に区画する。口縁部文様帶、横位直縫状・逆 S 字状(又は横字状)連帯により口縫を施す。胴部文様帶による沈縫を施す。胴部文様帶、最高位に横位棒状工具による沈縫を施す。	加賀利 E I 併存

第118表 二軒在家原田跡地(A区)縄文時代住居址出土遺物観察表(32)

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期		
			①焼成	②釉土	③残存			
2	J-52 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	(4)器形・文様等の特徴／備考 縁帯と沈線で口縁部文様帶を区画する。区画内には縦位又は斜位沈線を施す。脚部、縦位残基で区画し、区画内に斜位沈線（捺杉状か）を施す。内面に断面三角形の椎子を有する。	加曾利 E I ~ II	
3	J-52 住 1区1層・4区1層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部~脚部1/4	(4)器形・文様等の特徴／備考 口縁部、丸棒状工具による3条の横位並行沈線を造る。内面には、ねじり接合による沈線状溝みを有する。脚部、半載竹管状工具による斜位・縦位沈線文様。丸棒状工具による脚部横位沈線（弧状区画+区画部）に1条の沈線を施す。	加曾利 E II 持行?	
4	J-52 住 (J-41 住 1区サブレ)	深鉢	良好	砂粒・白色粘物	口縁部~脚部 赤色粘物・砂礫混入	1/10	(4)器形・文様等の特徴／備考 縁帯と沈線により口縁部文様帶を半月状に区画する。区画内、棒状工具による縦位沈線を施す。脚部、上下交差沈線による3条の横位波状沈線を造る。脚部には斜板状を主とする集合化線を施す。	加曾利 E
5	J-52 住 (J-41 住 1区1層)	深鉢	良好	砂粒・白色粘物	脚部破片 混入	2条～1組の陸帯を高巻き状に施す。一部は縁帯を連続させた状とする。縁帯以外は、丸棒状工具による横位を主とする斜板状を施す。	加曾利 E II併行(郷土系?)	
6	J-52 住 (J-41 住 D-1)	注口土器	良好	砂粒混入	脚部破片	横位・斜位沈線により区画し、一部の区画内に連續する斜位短沈線を有す。精製の感が強い。	加曾利 B	

A区 J - 53号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	J-53 住 P-2	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 混入	口縁部破片	(4)器形・文様等の特徴／備考 やや不規則な平手口縁と想定される。縁帯と沈線で半円状に区画する。区画内に単脚 RL 織文施す。	加曾利 E I ~ II
2	J-53 住炉	深鉢	普通	砂粒混入	脚部破片	縦位陸帯と直し、半載竹管状工具又は丸棒状工具による縦位沈線を施す。また、一部に蛇行陸帯を下させる。	加曾利 E
3	J-53 住 P-3	深鉢	良好	砂粒・白色粘物 混入	脚部~底部1/4	単脚 RL 織文施文後、丸棒状工具による3条～1組の縦位沈線で3部位に区画する。各区画内に蛇行沈線を垂下させる。	加曾利 E
4	J-53 住 P-3	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 褐色粘土混入	脚部~底部1/4	半載竹管状工具による縦位平行沈線を施す。	加曾利 E
5	J-53 住炉	深鉢	普通	砂粒混入	脚部破片	織文（復元）、施文後、半載竹管状工具又は丸棒状工具による横位沈線を施す。	諸磣 b
6	J-53 住 P-4	深鉢	普通	砂粒混入	脚部~底部破片	横位縦沈線施文後、縦位基調の結晶浮織文を施す。	諸磣 c

A区 J - 54号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	J-54 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	(4)器形・文様等の特徴／備考 半縁の大型深鉢と想定される。沈線により区画する。一部の区画内に LR 織文を施す。	暁之内 2
2	J-54 住一括	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部~脚部 1/10	半縁の大型深鉢と想定される。半載竹管状工具又は棒状工具により区画する。一部の区画内に LR 織文を施す。	暁之内 2
3	J-54 住一括	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	口縁部破片	単脚 RL 織文施文後、丸棒状工具による3条～1組の縦位沈線で3部位に区画する。一部の区画内に蛇行沈線を垂下せる。	暁之内 2
4	J-54 住一括	深鉢または鉢	良好	砂粒・白色粘物 混入	口縁部破片	外面上縁付近に横位元線を施す。内面上縁、折り返し口縁状を呈し、その下位に段差を有する低い横位沈線を施す。	暁之内
5	J-54 住一括	深鉢または鉢	良好	砂粒・白色粘物 混入	口縁部破片	小波状口縁を施す。外面上縁付近に横位元線が施され、小さな段差を呈す。内面上縁、折り返し口縁状を呈す。その下位に段差を有する低い横位沈線を施す。内外面ともに丁寧な磨き。4と同一個体。	暁之内
6	J-54 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	脚部破片	元線により区画する。一部の区画内に LR 織文を施す。	暁之内 2
7	J-54 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 混入	脚部破片	元線により区画する。一部の区画内に LR 織文を施す。	暁之内 2
8	J-54 住主体部敷石下	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 混入	脚部破片	脚部中位付近が遺存すると想定される。縦位・斜位沈線で区画される。	暁之内 1
9	J-54 住一括	深鉢	良好	砂粒・白色粘物 黒色粘物混入	脚部破片	脚部上位の沿形変換点付近が遺存する。Bの字状付点文が施される。	暁之内 1
10	J-54 住 U-1	深鉢	良好	砂粒・褐色粘 白色粘物混入	脚部~底部1/3	遺存部においては無文。外表面は丁寧な縦位磨き。遺存部上部は被熱している。出土位置から伊体土器の可能性が高い。	後期?
11	J-54 住 P-2	深鉢	良好	砂粒・白色粘物 混入	底部破片	遺存部においては無文。外表面は縦位磨き。内面は横位磨き。	後期?
12	J-54 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	脚部~底部破片	脚部、遺存部においては無文。底部、網代瓶。	後期
13	J-54 住 P-5	深鉢	普通	砂粒混入	体部破片	足跡の体部付近と想定される。孔が2箇所認められる。前面赤色陶彩が施される。	諸磣 b
14	J-54 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 混入	脚部破片	縫合の半載竹管状工具による平行元線（半隆起線状を呈する）を斜位・又は横位状に区画。区画により生じた菱形・三角形の部分に印刻を施す。	十三世普提

第119表 二軒在家原田遺跡 A区繩文時代住居址出土遺物観察表(33)

A区J-55号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	J-55住1・1括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部上位 1/10	④差別・文様等の特徴／備考 口縁部凹出は丸棒により横長の区画としてる。胴部、半筋 RL 繪文施文後、沈線によりJ字状等に区画する。部の区画内に磨り削る。	称名寺 I
2	J-55住1・括	深鉢	普通	砂粒・白色黏物	胴部破片	丸棒竹工具による沈線で、U字状等に区画する。 一部の区画内に簡文を充填する。1と同一個体か。	称名寺
3	J-55住B1・P-1・1括	深鉢	普通	砂粒・白色黏物	胴部破片	丸棒竹工具による沈線で、木葉型・U字状・J字状等に区画する。 一部の区画内に半筋 RL 繪文を充填する。1と同一個体か。	称名寺
4	J-55住U-1	深鉢	普通	砂粒・白色黏物	胴部中央～底部 1/2	沈線によりJ字状・丁字状等に区画する。一部の区画内に簡文を施す。	称名寺 I
5	J-55住1・括	深鉢	普通	砂粒・白色粘土	胴部破片	柳葉竹工具による列状突起突起模様・縦位に並行して施す。その下位には半筋 RL 繪文施文。	前期中葉
6	J-55住1・括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維	底部破片	上げ底状を呈する。底位沈線(?)を施す。	前期中葉
7	J-55住1・括	深鉢	普通	砂粒・白色粘物	胴部破片	胴部上部に想定される。半筋竹管状工具による斜位平行沈線を格子状に施す。交差点に竹管状工具による磨り削る。	諸磯 b
8	J-55住B1	鉢?	普通	砂粒混入	体部破片?	遺存上位において頭著に内反する器形が。半筋竹管状工具による抉り取るような突刺を施す。	浮島
9	J-55住主体部下	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半筋竹管状工具による横位・斜位平行沈線を施す。 一部にガタク状貼付文。	諸磯 c
10	J-55住1・括	深鉢	普通	砂粒・白色粘物	胴部破片	半筋竹管状工具による縦位平行沈線(半筋起状)を施す。 区画内に同工具による平行沈線を被形狀を施す。	諸磯 c
11	J-55住主体部下	深鉢	普通	砂粒・白色粘物	胴部破片	半筋竹管状工具による平行沈線(10本程度を1基位とする)を斜位に施す。内面に半筋竹管状工具による引き込まれた横筋が想定される。	諸磯 c
12	J-55住1・括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	横筋の沈線文後、溝引き状結構手筋位を施す。	諸磯 c
13	J-55住1・括	深鉢	普通	砂粒・白色粘物	胴部破片	半筋竹管状工具による筋状厚縮・同工具による平行沈線文後、強めに引いため横筋が張帯状を呈する。 横位又は直角横筋状削り取れ文。横位に斜位削状区画に作りした三角形容分に刻文を施す。	前期末楽～中期初樂
14	J-55住P-12	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部に丸棒状工具による浅い横位・U字状等に区画。内側に半筋 RL 繪文施文後、同工具によるU字状沈線を二重に施す。	加賀利 E IV
15	J-55住1・括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部模様帯を区画する。区画内には矢羽根状模様文。胴部、縦位模様帯により区画し、区画内に斜位沈線施文。	加賀利 E
16	J-55住1・括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	隆帯と、隆帯に並行する丸棒状工具による浅い沈線で、U字状等に区画。内側に半筋 RL 繪文施文。 全体的に磨滅しておらず、文様・モチーフが不明瞭。半筋 RL 繪文施文後、溝引き状等の沈線を施す。	加賀利 E 亂～IV
17	J-55住1・括	深鉢	不良	砂粒混入	胴部破片	隆帯(直前段合焼か)を施す。 半筋竹管状工具による爪形文を施す。	加賀利 E 亂行

A区J-56a号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	J-56a住1区2層・5区1層	深鉢	良好	砂粒・白色粘物	口縁部～胴部破片	④差別・文様等の特徴／備考 口縁部上面に小窓状有す。半筋 RL 繪文施文後、半筋竹管状工具によるコバハス文・爪形文を施す。	前期中葉
2	J-56a住1区2層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維	口縁部破片	口縁部に小突起を有する。半筋 RL 繪文施文。半筋竹管状工具によるコバハス文・爪形文を施す。	前期中葉
3	J-56a住5区1層	深鉢	良好	砂粒・白色粘物	口縁部～胴部破片	4 単位渡状口縁に想定される。波頭部に小突起、その下位には孔有する。半筋 RL 繪文施文後、半筋竹管状工具によるコバハス文・爪形文を施す。 内側に波頭部に想定される。波頭部直下に孔有す。	前期中葉
4	J-56a住10区1層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部中位 1/10	4単位渡状口縁が。波頭部直下に孔有す。单筋 RL 繪文施文後、半筋竹管状工具による横位爪形文で胴部括れを区画。波頭部孔より爪形文を垂下させる。さくに斜位基底爪形文で区画する。	有尾
5	J-56a住5区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維	口縁部破片	口縁部に小突起を有す。單筋 RL 繪文施文。小突起より爪形状付文垂下。下位に円形貼付文を施す。	前期中葉
6	J-56a住2区1層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維	口縁部破片	半筋 RL 繪文とRL 繪文施文。半筋竹管状工具による爪形文を施す。補修孔が認められる。	前期中葉
7	J-56a住6区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維	口縁部破片	半筋 RL 繪文施文。口縁部下位に細めの半筋竹管状工具による横位爪形文を施す。	前期中葉
8	J-56a住2区1層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維	胴部破片	縫文(直前段合焼か)を施す。	前期中葉
9	J-56a住9区1層	深鉢	普通	砂粒・片岩・植	底部破片	半筋竹管状工具による爪形文を施す。	前期中葉
10	J-56a住5区1層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	摩減のため不明瞭であるが、口縁部下位に細めの半筋竹管状工具押しによる爪形文を施していると考えられる。胴部、同工具による平行沈線で木葉状に区画する。	諸磯 c
11	J-56a住6区1層・6区D-1上	良好	砂粒・白色粘物	口縁部～体部 4/5	口縁部を施したJ字アーチ。口縁部の一部を右部を欠損する。遺存部においては無文。	不明	

第120表 二軒在家原田遺跡A区繩文時代住居址出土遺物観察表(34)

A区J-56b号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②釉上	③残存	
1	J-56b 住 7 区 1 層	深鉢	普通 砂粒・白色黏物 混入	口縁部破片	(3)想形・文様等の特徴／備考 口縁部に小型の貼付文。口縁に並行し、半截竹管状工具押し引きによる爪形文を 3 条施す。胴部弧状系文を区画し、円周刷突を配す。	諸磯 b
2	J-56b 住 11 区 1 層	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部破片	波状口縁の波頂部附近に残存。單節 RL 繪文施文後、半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。	諸磯 b
3	J-56b 住 8 区 2 層	深鉢	普通 砂粒・白色黏物 混入	口縁部破片	細めの半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。	諸磯 b
4	J-56b 住 2 区 1 層	深鉢	普通 砂粒・白色黏物 混入	口縁部破片	口縁部に刺突を伴う溝帯を巡らす。胴部、細めの半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。	諸磯 b
5	J-56b 住 3 区 2 層	深鉢	普通 砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	諸磯 b 弧形深鉢の底面把手。底面周囲に浮縁文を施す。	諸磯 b
6	J-56b 住 12 区へ外 1 层	深鉢	良好 砂粒・白色黏物 混入	口縁部破片	單節 RL 繪文を一部に施す。細めの半截竹管状工具による横位爪形文を施す。	諸磯 b
7	J-56b 住 6 区へ外 1 层	深鉢	普通 砂粒・白色黏物 混入	口縁部破片	糊削伏工具による横位・縱位・斜位・弧状平行沈線を施す。	諸磯 b
8	J-56b 住 2 区へ外 1 层	深鉢	良好 砂粒・白色黏物 混入	口縁部破片	單節 RL 繪文施文後、浮縁文を施す。	諸磯 b
9	J-56b 住 3 区 1 層	浅鉢	普通 砂粒・褐色・金雲母混入	体部破片	器形屈曲面に、斜位丸模を施した浮縁文状隆帯を施し、文様帶を区分する。各文様に半截竹管状工具による平行沈線で、木葉状・菱形状の文様を配する。	諸磯 a
10	J-56b 住 8 区 2 層	深鉢	普通 砂粒・白色黏物 混入	口縁部～胴部 1/8	上端がやや内反する平口縁である。底面に直線状隆帯を巡らす。胴部には2条一组の縦位隆帯を施す。隆帯には丸棒状工具による縦位状況沈線を充填。一部には、縱位隆帯から分岐する三日月状隆帯を施す。口縁部・胴部共に、隆帯以外の部分は丸棒状工具による縦位沈線を施す。	加曾利 E併行 (曾利系)
11	J-56b 住 12 区 1 层	ニヨニア器	良好 砂粒混入	口縁部～体部下 位 1/8?	状突のニヨニア。縱位・斜位沈線を施す。	中期複葉?

A区J-57号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②釉上	③残存	
1	J-57 住 P-6	深鉢	普通 砂粒・角閃石混入	口縁部破片	(4)器形・文様等の特徴／備考 口縁部、内面に断面が三角形の隆帯状凹棱を有する。半截竹管状工具による平行沈線で、口縁部文様帯を区画する。区画内に同工具、又は丸棒状工具による縦位沈線を施す。	加曾利 E
2	J-57 住 P-6	深鉢	普通 砂粒・白色黏物・褐色粘土混入	口縁部破片	2 条並びする縦位隆帯で区画する。区画内、丸棒状工具による横位平行沈線を施す。	加曾利 E
3	J-57 住 P-9	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	丸棒状工具による弧状幅広の弧状沈線を並行して施す。一部に半節 RL 繪文を先填する。	加曾利 E
4	J-57 住 P-9	深鉢	普通 砂粒・白色黏物 混入	口縁部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文で区画する。爪形文間に幅広の縦位短沈線を連続して施す。	諸磯 b

A区J-58号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②釉上	③残存	
1	J-58 住 12 区 1 层	深鉢	普通 砂粒・白色黏物・白雲母混入	口縁部破片	(4)器形・文様等の特徴／備考 やや外反する平口縁と想定。無節 RL 繪文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線を連続して施す。さらに、竹管状工具による円形刺突を縦位に配す。	諸磯 a～b
2	J-58 住 P-3	深鉢	良好 砂粒・白色黏物 混入	口縁部破片	やや外反する平口縁と想定。無節 RL 繪文施文後、糊削伏工具による横位平行沈線を施す。さらに、半截竹管状工具押し引きによる横位の広い爪形文、同工具による平行沈線施文後の連続刺突を施す。	諸磯 b
3	J-58 住 12 区 1 层	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部破片	やや外反する平口縁と想定される。RL 繪文を施す。	諸磯 b
4	J-58 住 P-2	深鉢	良好 砂粒・白色黏物 混入	口縁部破片	やや外反する平口縁と想定される。RL 繪文を施す。	諸磯 b
5	J-58 住 P-1	深鉢	普通 砂粒・白色黏物 混入	胴部破片	單節 RL 繪文施文後、半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。さらに、竹管状工具による円形刺突を施す。	諸磯 b
6	J-58 住 P-3	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	單節 RL 繪文施文後、浮縁文を施す。	諸磯 b
7	J-58 住 10 区 1 层	深鉢	普通 砂粒・植物纖維 混入	口縁部破片	4 条位波状口縁と想定される。糊削伏工具による横位(口縁に並行する)・縦位列点状刺突を施す。	有尾
8	J-58 住 D-1	深鉢	普通 砂粒・植物纖維 混入	胴部破片	付加茎繩文を施す。	前期中葉
9	J-58 住 5 区 1 层	深鉢	良好 砂粒・白色黏物 混入	口辺部	口辺部に横位短沈線を施す。	中期末葉～後期

第 121 表 二軒在家原田遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表 (35)

A区J-59号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④器形・様式等の特徴／備考	
1 J-59 住 (J-406 住 3 区 1 層)	深鉢	普通 砂粒混入	口辺部～胴部破片	隆起部沈縛で口縁部様帯を区画する。一部の区画内に単節 RL 繩文施文。胎部は残存部においては無文、胴部最上部に横位沈縛が施される。		加賀利 E I ~ II	
2 J-59 住 (J-406 住 3 区 1 層)	深鉢	良好 砂粒・白色粘物 混入	口縁部破片	隆起部沈縛で口縁部様帯を区画する。一部の区画内には単節 RL 繩文施文。		加賀利 E I ~ II	
3 J-59 住一括	深鉢	良好 砂粒・雲母混入	口縁部破片	口内内反する平口形状。隆起部沈縛で口縁部様帯を区画する。区画連結部にはねじ巻き状沈縛が施す。区画内には紙状沈縛を施すと考えられる。		加賀利 E I ~ II	
4 J-59 住 2 層床直	深鉢	普通 砂粒・角閃石混入	口縁部破片	隆起部沈縛で口縁部様帯を区画する。一部の区画内には半截竹管状工具又は棒状工具による磁化沈縛がある。胎部、無文を主とするが、一部に縱位沈縛を施す。		加賀利 E I ~ II	
5 J-59 住 (J-406 住 3 区 1 層)	深鉢または 鉢	良好 砂粒混入	口縁部～胴部破片	口縁部外側上端は厚みを有し、断面三角形の棱状を呈する。口切部無文、無文帶下位に横位沈縛を施す。沈縛下位は継位沈縛で区画し、区画内に斜位沈縛を施す。		中期後業	
6 J-59 住印	深鉢	良好 砂粒・白色粘物 角閃石混入	口縁部破片	口縁部内面上端は厚みを有し、断面三角形の棱状を呈する。外端、口縁部無文、継縫との境界に横位沈縛。無文帶上位に沿って棒状工具による列点状刻文がある。		中期後業～ 後期	
7 J-59 住印	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	單節 RL 繩文施文。半截竹管状工具による平行沈縛（半降起線状）、胎部に施す。平行沈縛は、直線状と蛇行状を交互に施していると想定される。		加賀利 E	
8 J-59 住 2 层床直	深鉢	普通 砂粒・白色粘物 混入	胴部破片	2 条一組の継縫・横位隆帯による区画。横位隆帯より上位区画内には無文。下位区画内には單節 RL 繩文施文。さらに、一部に蛇行隆帯を有す。		加賀利 E 併行	
9 J-59 住印	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	口切部外側下位に凹窓が遺存すると考えられる。口辺部は無文。胴部、横位隆帯で区画し、区画内に斜位沈縛と、逆方向の斜位棒状貼付文を組み合わせて格子目状にする。		中期後業 (賀利系?)	
10 J-59 住 2 区床直	深鉢	普通 砂粒・白色粘物 雲母混入	胴部破片	胴部外側から下位に凹窓が遺存する。口辺部は無文。胴部、横位隆帯で区画し、区画内に斜位沈縛と、逆方向の斜位棒状工具による平行沈縛を施す。		加賀利 E 古段階	
11 J-59 住 2 层床直	深鉢	普通 砂粒・白色粘物	胴部～底部破片 混入	單節 LR 繩文施文。2 条一組の継縫隆帯により区画する。一部の隆帯間に列点状刻文を施す。遺存部から 5 又は 6 区画と想定される。胴部最下位に横位沈縛がある。		加賀利 E	
12 J-59 住 2 層・床直	深鉢	普通 砂粒・黑色粘物 雲母混入	胴部～底部 1/5 混入	單節 RL 繩文施文。		中期後業	

A区J-63号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④器形・様式等の特徴／備考	
1 J-63 住 8 区床直	小型深鉢	普通 砂粒・白色粘物 雲母混入			底面系縫を施す。		加賀利 E

A区J-64号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④器形・様式等の特徴／備考	
1 J-64 住 U-2	深鉢	普通 砂粒・白色粘物 黒色粘物混入	9/10	口縁部が内凹する 1 単位波状口縁。単節 RL 繩文施文。沈縛は J 字形と組み合せたモチーフに区画する。区画内には波状孔。		加賀利 E IV	
2 J-64 住 U-1	深鉢	普通 砂粒・白色粘物 混入		口縁部～胴部破片	口内内反する平口形状と想定される。口縁部無文。胴部、横位隆帯で区画し、一部の区画内に単節 RL 繩文施文。断面三角形の横位隆帯を有す。胴部、単節 LR 繩文施文。丸棒工具による沈縛で逆 U 字形に区画する。区画内に凹窓がある。		加賀利 E IV
3 J-64 住 住石右・炉	深鉢	普通 砂粒・白色粘物 角閃石混入		口縁部破片	口内内反する平口形状と想定される。口縁部無文。胴部、横位・横位隆帯で区画。一部の区画内に単節 RL 繩文施文。断面三角形の横位隆帯を有す。胴部、単節 LR 繩文施文。丸棒工具による沈縛で逆 U 字形に区画する。区画内に凹窓がある。		加賀利 E IV
4 J-64 住 U-2	深鉢	普通 砂粒混入		口縁部破片	口内内反する平口形状と想定される。口縁部無文。胴部、横位隆帯で区画し、一部に単節 RL 繩文施文。		加賀利 E IV
5 J-64 住 U-2	鉢または 深鉢	普通 砂粒混入		胴部破片	遺存部上位に弧状沈縛が僅かに認められる。それ以外は無文である。		加賀利 E
6 J-64 住 U-2	深鉢	普通 砂粒・白色粘物 混入		胴部破片	逆 U 字形沈縛で区画し、区画内に LR 繩文施文。		加賀利 E IV
7 J-64 住 U-1	深鉢	普通 砂粒混入		胴部破片	胴部の移築部下位と想定される。逆 U 字形沈縛で区画し、区画内に RL 繩文施文。		加賀利 E IV
8 J-64 住 U-1・ 鉢石下	深鉢	普通 砂粒混入		胴部破片	胴部の移築部下位と想定される。逆 U 字形沈縛で区画し、区画内に RL 繩文施文。		加賀利 E IV

第 122 表 二軒在家原田跡 A 区繩文時代住居址出土遺物観察表 (36)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②船上	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
9	J-64 住 U-1・U-2	深鉢	普通	砂粒・白色黏物・胴部破片 褐色繊維入	底部破片	縦位縦帯で区画する。一部の区画内に無縫 L 織文施文。	加曾利 E IV
10	J-64 住 U-1	深鉢	普通	砂粒・白色黏物・底部破片 金雲母混入	底部破片	遺存部においては無縫文。	中期末葉？
11	J-64 住 P-1	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による半隆起線で区画する。一部に三角印絵文を施す。	十三番推
12	J-64 住 P-1	深鉢	普通	砂粒・白色黏物・胴部底部 金雲母混入	底部 1/4	縦文（複数 L 織文）施文後。胴部上位に竹管状工具による横位平行沈縫（半隆起線）を施す。沈縫上位には三角印絵文を列点状に巡らす。沈縫下位には 3 条一組の蛇形平行沈縫を施す。	五頭ヶ台
13	J-64 住 P-1	深鉢	普通	砂粒・白色黏物・底部破片 金雲母混入	底部破片	半截竹管状工具による横位平行沈縫（一部半隆起線）で区画する。区画内に板状工具による列点状斜刻を施す。	五頭ヶ台
14	J-64 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色黏物 混入	口縫部破片	底状口縫部頂部付近、孔を有する把手。把手上面、丁字孔を呈し、沈縫と円形斜刻を施す。内面、円形斜刻を伴う大きめな円形貼付文施文。外面、沈縫により区画し、単柄 LR 織文充填。	称名寺
15	J-64 住 U-1	深鉢	普通	砂粒混入	口縫部破片	やや内反する平口縫と想定される。口縫部に横位沈縫を施す。	称名寺

A区 J - 65 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②船上	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-65 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	縦位縦帯の下端部と想定されるもの及び沈縫が確認できるが、遺存部が少ないので詳細不明。	加曾利 E
2	J-65 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色黏物	底部破片	3 条一組と想定される縦位沈縫で区画し、内側に横位沈縫を施す。モーフは遺存部が少ないので不明。	加曾利 E
3	J-65 住一括	深鉢	普通	砂粒・片岩混入	底部破片	縦位条縫を施す。	加曾利 E

A区 J - 66 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②船上	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-66 住伊	深鉢	良好	砂粒混入	口縫部破片	陸帯と沈縫により口縫部文様帶を区画する。半月状区画内には丸棒状工具による横位沈縫を施す。また、半月状区画連結部には、陸帯と沈縫を組み合わせた満巻き状モーフが認められる。	加曾利 E I ~ II
2	J-66 住 D-1	深鉢	普通	砂粒混入	口縫部破片	陸帯と沈縫により口縫部文様帶を区画する。内側には単筋 LR 織文を施す。また、区画連結部には、陸帯と沈縫を組み合わせた満巻き状モーフが認められる。	加曾利 E I ~ II
3	J-66 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縫部破片	陸帯と沈縫により口縫部文様帶を区画する。半月状区画内には単筋 LR 織文を施す。また、同区画連結部には、陸帯と沈縫を組み合わせた満巻き状モーフが認められる。指部、遺存部においては無文。	加曾利 E I ~ II
4	J-66 住東西べルト	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	口縫部破片	陸帯と沈縫により口縫部文様帶を区画する。半月状区画内には構造が少し単柄 LR 織文を施す。また、半月状区画連結部には、陸帯と沈縫を組み合わせた満巻き状モーフが認められる。指部、遺存部においては無文。	加曾利 E I ~ II
5	J-66 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縫部破片	やや外反する平口縫と想定される。口縫部に横位沈縫、脇部に縦位陸帯（2 条一組）を施し区画する。また、口縫部内には単筋 LR 織文施文。	加曾利 E IV
6	J-66 住一括	深鉢	普通	砂粒・黑色粘物混入	口縫部～胴部 1/10	やや外反する平口縫と想定される。口縫部に横位沈縫を施す。モーフを 2 つ施す。	加曾利 E
7	J-66 住東西べルト	深鉢	良好	砂粒混入	胴部 1/10	口刃部と胴部中位に遺存すると思定される。3 条の横位陸帯と、陸帯同士を連結する縦位陸帯によって、棒状に区画される。胴部、2 条の縦位沈縫が施される。陸帯部分以外には、半截竹管状工具による横位沈縫を施す。	加曾利 E
8	J-66 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	2 条一組の横位・縱位沈縫で区画する。一部の区画内に単筋 LR 織文施文。	加曾利 E
9	J-66 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単筋 LR 織文施文後、丸棒状工具による 3 条一組の縦位沈縫を施す。	加曾利 E
10	J-66 住一括	鉢？	良好	砂粒・白色粘物混入	体縫破片	2 条一組の横位沈縫に、棒状工具による交叉刺突を施す。結果、沈縫間は平行行陸帯状を呈する。	加曾利 E ?
11	J-66 住内 D-166 上二コ土器西南	深鉢	普通	砂粒・白色粘物混入	胴部～底部 1/3	横位・縱位沈縫で区画する。区画内に弧状沈縫を施す。	加曾利 E ~ 称名寺
12	J-66 住 P-3	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	横位・縦位・X 字形浮縫文で区画する。	認証 b
13	J-66 住一括	深鉢	良好	砂粒・白色粘物・白色針状物・砂綿混入	底部破片	貝殻標記物による准統刺突を部状に施す。棒状工具による沈縫で区画する。	前期後葉 (興津系)

第 123 表 二軒在家原田遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表 (37)

A区J-67号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②釉土	③残存	
1	J-67 住P-1	深鉢	普通 砂粒・褐色鐵混入	口縁部・胸部破片 1/8	④剖面、文様等の特徴／備考 口縁部（口端部は火次）文様帶から胸部中位が遺存する。隆帯と火次間に口縁部文様帶を半月形に区画する。区画内には縦位沈継文。胸部、口縁部文様帶半月区画と火次及び連結部下位に、3条一組の縦位沈継を施す。区画内には横状沈継を施す。	加賀利E II
2	J-67 住中央ヘト 床底・4区1層	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部・胸部 1/3	⑤直立する平口鉢。口縁部に斜めの長い無文帶を有する。無文帶下には横位沈継。波状強帶により、口縁部文様帶を半円形に区画する。区画内には縦位沈継充填。胸部には横状沈継を施す。	加賀利E II 併行
3	J-67 住P-2	深鉢	普通 砂粒・白色鐵物 混入	口縁部破片	隆帯と火次間に口縁部文様帶を区画する。柄円形区画内には、丸棒状工具による斜位沈継を施す。口縁部に無文帶を有す。無文帶下位に強帶と沈継により半円形に区画する。内側に縦位沈継を施す。	加賀利E I～II
4	J-67 住1区1層	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	口縁部は横位、胸部は位置位強帶で区画する。胸部の強帶内には横状沈継を施す。	加賀利E
5	J-67 住3区1層	深鉢	良好 砂粒・赤色鐵物 白色鐵物・砂継 混入	口縁部・胸部 1/3	口縁部は横位、胸部は位置位強帶で区画する。胸部の強帶内には横状沈継を施す。	加賀利E 併行 (漆土系)
6	J-67 住2区1層・ 4区1層・ 中央ヘト床底	深鉢	良好 砂粒・赤色鐵物 白色鐵物・砂継 混入	口縁部・胸部 1/3	口縁部に4条の重ね強帶を施す。胸部には2条の横状強帶を巡らす。胸部、縦位沈継で区画し、一部の区画内に横状沈継を充填する。	加賀利E 併行
7	J-67 住2区1層	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	外へ少し反る波状口縁と想定される。吸収状要器を施し（波頂部に位置）、そこから低い強帶を斜位に施し区画する。区画内及び胸部、丸棒状工具による横状沈継を施す。	加賀利E 併行
8	J-67 住1区1層	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部・胸部強 片	口縁部の切り落とし、口縁部を呈する。胸部は無文。	中期後葉？
9	J-67 住1層ヘト	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	深鉢把手部分と想定される。外縁、隆帯と沈継で区画し、一部の区画内に横状沈継を施す。内側は隆帯を施す。中部は強帶。	加賀利E 併行
10	J-67 住2区1層	深鉢	普通 砂粒・白色鐵物 混入	口縁部破片	隆帯と沈継で口縁部文様帶を区画する。一部の区画内には單節RL構文施文、胸部、丸棒状工具による縦位沈継（2条一組）で区画し、一部の区画内に二重節RL構文施文。	加賀利E II
11	J-67 住2区1層	深鉢	普通 砂粒・白色鐵物 角閃石混入	胸部破片	胸部破片と想定される。器形変換点付近に2条の縦位強帶を有する区画を施す。上下の区画内にも、範囲化の縦継施文後、斜位・強状等の強帶を施す。	加賀利E 併行
12	J-67 住4区～6区 1層	深鉢	普通 砂粒・灰色鐵混入	胸部破片	単節 RL 構文施文、丸棒状工具による2条一組の強帶を施す。沈継間隔約1cm。さらに、一部の区画内に同工具による沈継（巻手状）を施す。	加賀利E III
13	J-67 住2区1層	深鉢	普通 砂粒混入	胸部破片	単節 RL 構文施文後、2条一組の縦位強帶を施す。	加賀利E
14	J-67 住1区1層	深鉢	普通 砂粒混入	胸部破片	口縁部文様帶最下位に心臓部強帶と上位に遺存するものと想定される。隆帯と、それに並行する深い沈継との想定される（口縁部文様帶）、胸部、瘤衛状工具による平行条線が施される。	加賀利E 併行
15	J-67 住2区1層	深鉢	普通 砂粒混入	胸部破片	高腰状強帶帯で区画し、丸棒状工具による沈継を施す。	加賀利E 併行 (漆土系)
16	J-67 住4区～6区 1層	深鉢	普通 砂粒・褐色鐵混入	胸部破片	直線強帶、溝溝状強帶で区画する。区画内、丸棒状工具による直線強帶・弧状沈継を施す。	加賀利E 併行 (漆土系)
17	J-67 住1区1層	深鉢	普通 砂粒混入	胸部破片	強帶の強度を轉じて施す。	加賀利E 併行 (漆土系)
18	J-67 住2区1層	深鉢	普通 砂粒混入	胸部破片	胸部沈継を横状に施す。	加賀利E 併行 (漆土系)
19	J-67 住中央ヘト 床底	鉢	普通 砂粒混入	胸部～体部1/8	内面・底部に横状強帶を貼付。遺存部においては無文、外外面共に剥離。	加賀利E
20	J-67 住1区ヘト	深鉢	普通 砂粒・褐色鐵混入	底部破片 1/8	剥離を施す。底面網附代。	加賀利E
21	J-67 住4区1層	深鉢	良好 砂粒混入	底部破片	剥離系施文。底部網附代。	加賀利E
22	J-67 住1区ヘト	深鉢	普通 砂粒・雲母混入	底部破片	剥離系施文。	加賀利E

A区J-68号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②釉土	③残存	
1	J-68 住裏出端付近	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部・胸部破 片	④剖面、文様等の特徴／備考 口縁部下位に断面三角形の横位強帶を施す。胸部は強滅しているが、遺存部においては無文が、部別の圧痕強帶を施す。	中期後葉～ 後期初頭
2	J-68 住裏出端付近	深鉢	普通 砂粒・白色鐵物 混入	胸部破片	部別の圧痕強帶を施す。	中期後葉～ 後期初頭
3	J-68 住P-1	深鉢	普通 砂粒・白色鐵物 角閃石混入	胸部破片	斜位の圧痕強帶を施す。	中期後葉～ 後期初頭
4	J-68 住主体部	深鉢	普通 砂粒・角閃石混入	胸部破片	2条一組の「J」字状強帶を施す。隆帯先端部は、竹管状工具による刺突を伴う円形貼付文を施す。	中期後葉～ 後期初頭
5	J-68 住P-1	深鉢	普通 砂粒・灰色鐵混入 混入	胸部破片	外壁壓滅しており、一部の調整が不明瞭である。低い強帶で区画し、一部に繩文（单節LRか）施文。	中期後葉～ 後期初頭

第124表 二軒在家原田遺跡A区繩文時代住居址出土遺物観察表(38)

番号	遺物名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉上	③残存	④剖面・文様等の特徴／備考	
6 下	J-68 住主体部蓋石	深鉢	良好	砂粒混入	脚部破片	丸棒状工具による沈縫を施す。	移名寺
7	J-68 住塗出部付近	深鉢	普通	砂粒・白色黏物 混入	口縁部破片	塗帯と沈縫により口縁部文様帶を区画する。区内、丸棒状工具による斜位短沈縫を連続して施す。脚部、無痕文施文。	加賀利玉
8	J-68 住塗出部付近	深鉢	普通	砂粒・雲母・角 閃石混入	脚部破片	脚部上位部に想定される。塗帯と丸棒状工具による沈縫で区画する。区内には同工具による底辺沈縫を施す。	加賀利玉併行

A区 J-69 号住居址

番号	遺物名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉上	③残存	④剖面・文様等の特徴／備考	
1	J-69 住印	深鉢	普通	砂粒・黒色黏物 混入	2/3	やや内反する平口縁。口縁部は無文。脚部上位に2条一组の横位沈縫を施し、口縁部無文帶と区画する。脚部、単筋 RL 織文施文後、2条一组のJ字状沈縫により単位に区画する。各区画間に半截竹管状工具による3条一组の縱位沈縫を施し、さらに区画する。脚部沈縫による区画は3又に14区画である。2と酷似するモチーフがある。	加賀利玉
2	J-69 住 U-2	深鉢	普通	砂粒・黒色黏物 混入	2/3	やや内反する平口縁。口縁部は無文。脚部上位に2条一组の横位沈縫を施し、口縁部無文帶と区画する。脚部、単筋 RL 織文施文後、2条一组のJ字状沈縫により3単位に区画する。各区画間に半截竹管状工具による3条一组の縱位沈縫を施す。脚部は無文。脚部に単筋 RL 織文施文。	加賀利玉
3	J-69 住 3区1層・ 4区1層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～脚部 1/10	塗帯と沈縫により、構円形口口縁部文様帶を区画する。区内、單筋 RL 織文施文。塗帯の一部にハフ字状沈縫を施す。構円形区画連結部には渦巻き状沈縫を施す。脚部は無文。脚部に単筋 RL 織文施文。	加賀利玉
4	J-69 住 4区1層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～脚部破 片	塗帯と沈縫により、構円形口口縁部文様帶を区画する。区内、單筋 RL 織文施文。塗帯の一部にハフ字状沈縫を施す。構円形区画連結部には渦巻き状沈縫を施す。脚部は無文。脚部の一部は不明瞭であるが模様文。	加賀利玉
5	J-69 住 3区1層	深鉢	普通	砂粒・白色黏物 混入	口縁部破片	塗帯と沈縫により、2条の並列沈縫が部分的に施される。塗帯の一部に長方形口口縁部文様帶を区画する。区内、半截竹管状工具又は棒状工具による3条一组の縦位沈縫が施される。脚部は無文。脚部、手截竹管状工具による横筋平行沈縫が施される。	加賀利玉
6	J-69 住 1区1層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部上位に2条の並列沈縫が部分的に施される。塗帯の一部に長方形口口縁部文様帶を区画する。区内、半截竹管状工具又は棒状工具による3条一组の縦位沈縫が施される。脚部は無文。脚部、手截竹管状工具による横筋平行沈縫が施される。	加賀利玉
7	J-69 住 3区1層	深鉢	普通	砂粒混入	脚部破片	脚部上位から中位が遺存する。最上位の無文帯は、いわゆる縦部無文帯と想定される。無文帯下位に体状工具による2条の横位並行沈縫を施す。沈縫下位には半筋 RL 織文施文。	加賀利玉
8	J-69 住印	深鉢	普通	砂粒・片岩混入	脚部 1/10	脚部中央が遺存する。單筋 RL 織文施文後、丸棒状工具による2条（部分的に43条）一组の縦位沈縫（模様にてお不明瞭）で区画する。また、区内中央付近に同工具による平行並行沈縫を下させる。塗帯と沈縫による2条の横位並行沈縫を下させる。	加賀利玉
9	J-69 住 4区1層	深鉢	普通	砂粒・白色黏物・ 角閃石混入	脚部破片	脚利利深窓の脚部上位付近に想定される。脚位沈縫と、逆方向の斜位凹状貼付文により、格子目状もしくはZ字型構成する。脚部、半截竹管状工具による縱位浮起脚、弧形文施文を施す。さらに一部には逆U字形沈縫が付随する。	加賀利玉併行 (曾利系)
10	J-69 住 1区1層	深鉢	普通	砂粒混入	脚部破片	脚利利深窓の脚部上位付近に想定される。脚位沈縫と、逆方向の斜位凹状貼付文により、格子目状もしくはZ字型構成する。脚部、半截竹管状工具による縱位浮起脚、弧形文施文を施す。さらに一部には逆U字形沈縫が付隨する。	加賀利玉併行 (曾利系)
11	J-69 住 P-1	深鉢	普通	砂粒・白色黏物 混入	脚部破片	脚部の底部と想定する。手截竹管状工具による底辺起脚、弧形文施文を施す。全体的に摩滅が大きい。	加賀利玉併行 (曾利系)
12	J-69 住 1区1層	鉢	良好	砂粒・白色黏物	体部破片	脚の本体部に想定される。脚部、2条一组の渦巻き状沈縫による下位に渦巻き状沈縫を施す。	加賀利玉
13	J-69 住 1区1層	深鉢	普通	砂粒混入	脚部上位～底部 3/5	脚部上位に底辺起脚が想定しないが、やや内反する無文帯を有する平口縁と想定される。脚部上位に2条一组の横位沈縫を当たる。脚部、2条一组の渦巻き状沈縫により4単位に区画する。区内には手截竹管状工具による縦位沈縫を有する。	加賀利玉
14	J-69 住 U-1	深鉢	普通	砂粒・石英・角 閃石・白色黏物 混入	脚部～底部 2/3	脚部以下が遺存する。脚部に3条の横位沈縫を施す。中央の脚部には手截竹管状工具による脚突が伴う。脚部、2条一组の渦巻き状沈縫を連続して施す。單位に区画する。脚部間には手截竹管状工具による3条の沈縫が施す。さらに一部の沈縫間に同工具による列点状剥突を施す。	加賀利玉 併行 (曾利 I)
15	J-69 住 3区1層	深鉢	良好	砂粒混入	脚部～底部 1/5	遺存部においては無文。底部網代痕？	中期後葉？

第 125 表 二軒在家原田遺跡 A 区繩文時代住居址出土遺物観察表 (39)

A区J-71号住居址

番号	造構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	J-71 住別南西1層	深鉢	普通 砂粒・白色粘土・雲母混入	口縁部～胴部破片	胴部最上位でやや内反する平口縁と想定される。隆帯と沈線で口縁部文様帯を半月状に区画する。区画内を斜線によりさらに分割している可能性がある。また、区画連結部に溝巻き状沈線帯を配し、胴部に重りさせた区画とする。胴部区画内には、さるに1条の横位隆帯を施す。棒状工具による横沈線を充填する。	加賀利E併行 (郷土系)
2	J-71 住一括	不明	良好 砂粒混入	底部破片	底面の形状が高台又は台付状を呈する。遺存部においては無文。	不明

A区J-72号住居址

番号	造構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	J-72 住一括	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	4単位波状口縁と想定される。隆帯と沈線により半円形で口縁部文様帯を区画する。区画は波頭部間に2区画、計8区画か。区画内には横位沈線を施す場合と、横位・斜位沈線を施す場合がある。	加賀利E I～II
2	J-72 住一括	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部破片	内凹する4単位波状口縁と想定される。口縁部に差幅のない無文帶を下位。口縁に並行する横位沈線状痕を施す。胴部、丸棒状工具による丸棒状区画する。一部の区画内に單脚LR繩文施す。	加賀利E III～IV
3	J-72 住一括	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部破片	内凹する平口縁と想定される。口縁部に差幅のない無文帶を下位。口縁に並行する横位沈線状痕を施す。胴部、丸棒状工具による丸棒状区画する。一部の区画内に單脚LR繩文施す。	加賀利E IV
4	J-72 住別北側一括	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部破片	内凹する平口縁と想定される。口縁部に差幅のない無文帶を下位。口縁に並行する横位沈線状痕を施す。胴部、丸棒状工具による丸棒状区画する。一部の区画内に單脚LR繩文施す。矢羽根状沈線を施す。胴部、遺存部においては無文。	加賀利E I～II
5	J-72 住別北側一括	深鉢	普通 砂粒混入	胴部1/10	遺存部上位、焼成後に調整。疑似口縁である。単脚RL繩文を施す。	中期後葉
6	J-72 住一括	鉢	良好 砂粒混入	胴部～体部破片	遺存部においては無文。内外面共に丁寧な磨き、丸棒状工具による丸棒状区画する。一部の区画内に單脚LR繩文施す。	加賀利E I
7	J-72 住一括	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	丸棒状工具による丸棒状区画する。一部の区画内に單脚LR繩文施す。	中期後葉～後期初期
8	J-72 住一括	深鉢	良好 砂粒混入	胴部破片	丸棒状工具による丸棒状区画する。一部の区画内に單脚RL繩文施す。	加賀利E I～IV
9	J-72 住別周溝	深鉢	普通 砂粒・片岩混入	胴部破片	外壁厚減しておらず内厚部分が存在する。丸棒状工具による丸棒状区画する。一部の区画内に横文(單脚, 矩, か) 施す。	加賀利E III?
10	J-72 住一括	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	楕円の横位隆帯に、棒状工具又は板状工具による交叉突起を施す。	加賀利E 併行
11	J-72 住一括	深鉢	普通 砂粒・白色粘土・雲母混入	底部破片	胴部下部～底部の破片である。単脚 RL 繩文施す。半截竹管状工具による平行沈線を2条一组組立に施す区画する。	加賀利E

A区J-73号住居址

番号	造構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	J-73 住4区床直	深鉢	普通 砂粒・灰色混入	口縁部～底部 2/5	口縁部でやや左みを示す横文様帯を配す。無文帯下位に波状隆帯を施し、半円形に区画する。区画内には横位沈線を施す。胴部無文。	加賀利E
2	J-73 住3区1層	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部～胴部 1/8	やや左みを示す平口縁。弧状の隆帯と沈線により口縁部文様帯を半月状に区画する。区画内には棒状工具による斜位横位横線を施す。胴部、口縁工具による斜位基脚条縫(一部は交叉し格子目状)施す。半脚横位帯には2条一组又は3条の弧状沈線を施す。さらに区画内を横位・斜位沈線により充填する。ただし、遺存部助つて左側の区画のみ無文。	加賀利E II 併行 (郷土系?)
3	J-73 住NO3下	深鉢	普通 砂粒・褐色繊、白色繊混入	口縁部～胴部破片	右辺に左みを示す平口縁と想定される。隆帯と沈線により口縁部文様帯を楕円形に区画する。区画内には棒状工具による斜位横位横線を施す。胴部、口縁工具による斜位基脚条縫(一部は交叉し格子目状)施す。半脚横位帯には2条一组又は3条の弧状沈線を施す。さらに区画内を横位・斜位沈線により充填する。	加賀利E II 併行
4	J-73 住4 ¹	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	口縁部、半截竹管状工具による2条の横位半隆起線を施す。胴部、同工具による横位半隆起線を区画する。区画内には横位沈線を施す。また、一部に貼付文(溝巻き状横帶か)を施す。	加賀利E
5	J-73 住一括	深鉢	普通 砂粒・黑色粘土混入	口縁部破片	口縁部、半截竹管状工具による2条の横位半隆起線を施す。胴部、同工具による横位半隆起線を区画する。区画内には横位沈線を充填する。	中期後葉?
6	J-73 住別周切一括	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	内凹する平口縁と想定される。口縁部に丸棒、同工具による3条の横位沈線を区画し。区画内に被杉状沈線を充填する。	加賀利E 併行

第126表 二軒在家原田遺跡A区繩文時代住居址出土遺物観察表(40)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②船上	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
7	J-73 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	傾きの異なる斜位沈縫を市松文様式に施す。	中期
8	J-73 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	左側部で口縁部文様帶を区画する。胴部、単筋 RL 織文施文。口縁部文様帶はY字彎連結筋下位に丸棒状工具による2条一组の縱位沈縫を垂下させる。	加曾利E
	J-73 住 NO17 下 ・NO9・一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部1/5	単筋 RL 織文施文後、丸棒状工具による2条一组の縱位沈縫により区画する。区画は10單位か。沈縫間は斜め面。	加曾利E
9	J-73 住 P-5	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 角閃石混入	胴部破片	単筋 LR 織文施文後、蛇行帶を垂下させて区画する。	加曾利E併行
10	J-73 住 伊周邊一括	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	蛇行帶を垂下させて区画する。区画内、丸棒状工具による斜位沈縫（絆状か）を施す。	加曾利E併行

A区J-74号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②船上	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-74 住一括	深鉢	良好	砂粒・褐色織文 混入	口縁部～胴部 1/6	左側部で口縁部文様帶を区画する。区画内には丸棒状工具による縱位沈縫を施す。胴部、燃り入り施文後、Y字彎連結筋を施す。さらに、一部の区画内には丸棒状工具による弧状・満巻き状沈縫を施す。	加曾利E I～II
2	J-74 住南東	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 混入	口縁部破片	口縁部の横幅の狭い無文帯を有し、胴部との境界には丸棒状工具による横位沈縫を施す。胴部、単筋 LR 織文施文。	加曾利E
3	J-74 住P-2	鉢	普通	砂粒・右英混入	口縁部～体部 1/5	体部上位に窓著に内凹する縁である。遺存部においては無文。表面が摩滅している部分があるが、丁寧な磨きを施す。	加曾利E
4	J-74 住南東	深鉢	普通	砂粒・灰色織文 混入	胴部破片	3条一组の縱位沈縫で区画する。区画内に縱位基調沈縫も残る。	加曾利E
5	J-74 住一括	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	縱位縫（遺存するものは2条）で区画し、区画内に縫形状沈縫を施す。	加曾利E併行
6	J-74 住南東	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 混入	胴部破片	縫形状沈縫を施す。	加曾利E併行
7	J-74 住南東	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部～底部 1/10	2条一组の縱位沈縫で單位に区画する。区画内には単筋 LR 織文施文。沈縫間は磨り消し。全体的に摩滅している。	加曾利E
8	J-74 住南東	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	縱位沈縫を施す。	加曾利E
9	J-74 住一括	鉢？	普通	砂粒混入	口縁部～胴部破片	口縁部と底盤に内反する。器形屈曲点に連続して孔を穿つ。横位浮織文で文様帶を区分し、一部の区画内に丸縫、爪形文を施す。	諸磯 b

A区J-76号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②船上	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-76 住一括	深鉢	良好	砂粒・白色粘物 混入	口縁部～胴部破片	左側部と底盤で口縁部文様帶を区画する。一部の区画内には単筋 LR 織文施文。また、不明瞭ではあるが、一部に満巻き状沈縫を施す。脇部に若干の無文部を有し、胴部には単筋 LR 織文施文。	加曾利E I～II
2	J-76 住伊	深鉢	普通	砂粒・褐色織 ・灰色織文 混入	口縁部～胴部 1/2	逆L字状沈縫で7単位に区画する。区画内に単筋 LR 織文充填。	加曾利E III
3	J-76 住一括	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	口縁部破片	左側部と底盤で口縁部文様帶を区画する。一部の区画内には横位工具による列点状刺突を2段に施す。また、一部に満巻き状沈縫を施す。	加曾利E併行
4	J-76 住一括	小型鉢	良好	砂粒・白色粘物 ・雲母混入	口縁部～体部 1/5	遺存部においては無文。内外面ともに丁寧な磨き。一部に歩留が認められる。	加曾利E
5	J-76 住一括	深鉢	普通	砂粒・黒色粘物 混入	胴部破片	単筋 RL 織文施文後、丸棒状工具による2条一组の縱位沈縫で区画する。	加曾利E
6	J-76 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	左側部と底盤で口縁部文様帶を区画する。区画内、斜位沈縫を施す。	加曾利E併行
7	J-76 住一括・ J-78 住竪蓋部	深鉢	良好	砂粒・褐色織 ・赤褐色織混入	胴部～底部 1/8	左側部 L字状沈縫。丸棒状工具による縦位沈縫で5又は6単位に区画する。遺存部最上位に丸縫と織文が認められる。	加曾利E IV
8	J-76 住一括	持付土器？	普通	砂粒・青閃石・ 白色粘物混入	胴部破片	外面に凸状の凸縫を有する。凸縫には内凹形の孔を穿つ。内外面とも歩留。全体的に精製の感が強い。	中期後葉
9	J-76 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	やや内反する凸状口縁と想定される。丸棒状工具による沈縫を口縫に並行して穿る。底盤部付近より列点状刺突を伴う斜位沈縫を施す。この沈縫はY字状を有する可能性を考えられる。胴部、底盤で区画し、一部に単筋 LR 織文施文。	図之内 I ?

第127表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代住居址出土遺物観察表(41)

AI区J-77号住居址

番号	造構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④剖面・文様等の特徴/備考	
1	J-77 住一店	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆起と沈線で口縁部文様帯を区画する。一部に満巻き状沈線を施す。脚部は直角施加。	加賀利E I ~ II
2	J-77 住印	深鉢	普通	砂粒・白色飴物・灰色飴混入	口縁部破片	隆起と沈線で口縁部文様帯を区画する。区画内には丸棒状工具による横位沈線を施す。また、一部に満巻き状沈線を施す。脚部は直角施加。	加賀利E I ~ II
3	J-77 住一店	深鉢	普通	砂粒・褐色飴混入	口縁部破片	隆起と沈線で口縁部文様帯を区画する。区画内には丸棒状工具による横位沈線を施す。また、一部に満巻き状沈線を施す。脚部は直角施加。	加賀利E I ~ II
4	J-77 住一店	深鉢	普通	砂粒・角閃石・褐色飴岩混入	口縁部～胸部最下位 1/2	やや外反する平口縁と想定される。口縁部直下に3条の横位沈線を施す。職位沈線施加後、丸棒状工具による沈線を施す。上面に隆起溝巻きの沈線、下面は重張の弧状沈線を施す。区画する。脚部中位に上下に重張状沈線を組み合わせ状況画す。口縁部文様帯と脚部文様帯は剥離している可能性が高く、7番位が想定される。	加賀利E II (連弧文系?)
5	J-77 住一店	深鉢	普通	砂粒・石英・灰白色飴物・黒入	口縁部～胸部破片	やや外反する平口縁と想定される。脚部に満巻き状沈線を施す。丸棒状工具による沈線を施す。上面に重張の弧状沈線を施す。口縁部～一部に強張沈線が認められる。重張文の可能性がある。	加賀利E 併行 (脚土系)
6	J-77 住一店	深鉢	普通	砂粒・白色飴物・黒入	口縁部破片	やや外反する平口縁と想定される。丸棒状工具による沈線を施す。重張文・満巻き状沈線を施す。	加賀利E 併行 (中部高地系)
7	J-77 住一店	深鉢	普通	砂粒・白色飴物・黒入	脚部破片	口切削した脚部上部が遺存する。想定される。2条の横位沈線(下位の隆起と剥落)と想定される。口縁部文様帯を区画する。区画内に沈線が認められるが、遺存部分が少なく詳しく述べる。脚部は直角条状を施す。斜位沈線文。脚部には直位基調沈線を施す。	加賀利E
8	J-77 住一店	深鉢	良好	砂粒・白色飴物・黒入	口縁部破片	口縁部内部の一部が欠損する。断面三角形の隆起により口縁部文様帯を区画する。区画内には斜位沈線文。脚部には直位基調沈線を施す。	加賀利E
9	J-77 住一店	深鉢	普通	砂粒・灰色飴混入	脚部破片	2条一组の隆起を区画する(満巻き文)。区画内、丸棒状工具による直位沈線を施す。	加賀利E 併行
10	J-77 住一店	深鉢	普通	砂粒・黑色飴物・灰色飴混入	脚部破片	脚部(底片)と想定される。脚部で区画し、区画内に丸棒状工具による沈線を施す。一部は同心円の弧状を呈する。	加賀利E 併行 (唐草文系?)
11	J-77 住一店	深鉢	普通	砂粒混入	脚部破片	隆起と区画し、一部の区画内には職位並行沈線を施す。別の区画には、職位沈線施文後、斜位沈線を施す状態に施す。	加賀利E 併行
12	J-77 住一店	深鉢	普通	砂粒・白色飴物・褐色飴混入	脚部破片	2条一组の横位沈線で区画する。区画内、丸棒状工具による横位沈線を施す。	加賀利E 併行
13	J-77 住P-I 上面	深鉢	普通	砂粒・石英・角閃石混入	脚部破片	3条一组の横位沈線で区画する。区画内に職位基調沈線を施す。3条に蛇形文帯を垂下させる。	加賀利E
14	J-77 住一店	深鉢	良好	砂粒・白色飴物・黒入	脚部破片	脚位基調文後、丸棒状工具による3条の並走する沈線を弧状に施す。	加賀利E II
15	J-77 住印	鉢	良好	砂粒・白色飴物・黒入	脚部破片	脚部の体部と想定される。体部中央の器部直角点下位に剥離する。脚部上位、直位と隆起で区画し、区画内に単節LR 織文施文。屈曲点下位は無文。内面は黒色で丁寧な磨きが施される。	加賀利E

AI区J-78号住居址

番号	造構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④剖面・文様等の特徴/備考	
1	J-78 住印・一括	深鉢	普通	砂粒・褐色飴混入	口縁部破片	隆起と沈線により口縁部文様帯を長横円形に区画する。区画内には直位 RL 織文を施す。脚部上位は無文。脚部下位から脚部には直位 RL 織文施文。	加賀利E I ~ II
2	J-78 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色飴物・黒入	口縁部破片	やや外反する平口縁と想定される。隆起と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内、丸棒状工具による横位沈線を施す。一部剥離している。	加賀利E
3	J-78 住13区2層・一括	深鉢	普通	砂粒・片岩・黒入	口縁部～胸部破片	やや外反する平口縁と想定される。口縁部直下に単節 RL 織文施文。脚部、2条の横位平行隆起を施す後、隆起側を斜位直角で区画。脚部、直位と斜位剥離を施すさせ区画する。区画内には直位 RL 織文施文。	加賀利E 併行
4	J-78 住東張り出し	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	丸棒状工具による直位の沈線で区画する。区画内、単節 RL 織文施文。	加賀利E
5	J-78 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色飴物・黒入	口縁部破片	やや外反する口縁。口縁部直下に丸棒状工具による列状剥離を施す。脚部、単節 RL 織文施文。丸棒状工具による波状沈線を施す。	加賀利E III

第128表 二軒在家原田遺跡A区繩文時代住居址出土遺物観察表(42)

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④表面・文様等の特徴／備考	
6	J-78 住邸	深鉢	良好	砂粒混入	胴部1/3	単縫 RL 織文縦縫が引く。遺存部最上位に横位沈継を分布す。横位沈継下位は、2条一组の縱位沈継により3周位に区画する。そして各区域に蛇行沈継を施す。ただし、やや幅の広い1区画のみ蛇行沈継を2条施す。区画のミカ。	加曾利 E
7	J-78 住一括	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	丸棒状工具による沈継で縱位に区画する。区画内、同工具による沈継が絆糸状に施す。	加曾利 E併行
8	J-78 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	縱位基調直線状・蛇行条縫を施す。	加曾利 E
9	J-78 住一括	浅鉢	良好	砂粒・白色鐵素混入	胴部破片	胴部上位・中位の筋部。粗部上位、丸棒状工具による沈継で高さき状又は円柱状に区画する。精円区画には縱位条縫施す。赤色塗彩の跡跡が認められる。内面丁寧な磨き。全体的に精緻の感が強す。	加曾利 E
10	J-78 住邸	鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	体部破片	体部上位から想定される一部を低く削ませ、僅みに丸棒 RL 織文を施す。	加曾利 E
11	J-78 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部下位～底部	2条一组の縱位縫帶で区画する（4単位）。一部に織文施す。	加曾利 E

A区 J-79号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④表面・文様等の特徴／備考	
1	J-79 住 NO3C・NO3 下	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵素混入	口縫部～胴部1/10	口縫部の筋の狭い無文部を有す。無文部下位の横位沈継と、端部高さき状の弧状縫帶で口縫部文様部を区画する。区画内、丸棒状工具による矢羽根状沈継又は縦位沈継を施す。胴部、口縫部文様部縫帶部より2条一组の沈継を垂下させ、隣接する沈継同士を弧状沈継で結ぶ。遺存部が少なく断定できないが、前の住手中位に区画している可能性が考えられる。由て手状の交点には高さき状沈継を施す。また、区画内には横棒状沈継を施す。全体的に無文部であり稚拙の感が強い。	加曾利 E併行 (郷土系?)
2	J-79 住 NO1B・一括	深鉢	普通	砂粒・片岩混入	口縫部～胴部1/10	胴部上位からやや内反する口縫と想定される。矢羽根状沈継を施す精円形区画と、戻手状凹部を交互に配し、口縫部文様部を施す。胴部、逆U字状又は2条一组の縫位縫帶によく区画し、区画内に横棒状沈継を施す。	加曾利 E併行
3	J-79 住 NO5・NO8・NO9・一括	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵素混入	口縫部～胴部1/8	矢羽根状沈継を施す精円形区画と、戻手状凹部を交互に配し、口縫部文様部を施す。胴部、2条一组の縫位縫帶によく区画し、区画内に横棒状沈継を施す。	加曾利 E
4	J-79 住 NO7・NO9・NO10・NO15・一括	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵素・灰色鐵素混入	口縫部～胴部1/4	口縫部に筋の狭い無文部を有す。精円形区画と高さき状区画を交互に配し、口縫部文様部を区画する。精円形区画内には丸棒状工具による矢羽根状沈継を施す。胴部は丸棒状工具による2条一组の縫位沈継を垂下させて区画する。口縫部文様部区画に胴部文様部区画は連動してかららず、胴部区画の大きさは差がある。区画内には丸棒状工具による横棒状沈継を施すが、幅の狭い1区画では斜位沈継や、縫きが逆方向の斜位沈継を交叉に施する現象があり、規則性・統一性が欠如している。	加曾利 E II併行
5	J-79 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵素混入	口縫部～胴部下位2/3	精円形区画と高さき状区画を交互に5単位アーチ配し、口縫部文様部を有する。精円形区画内には矢羽根状沈継を施す。高さき状区画内には1単位（区段・中心部）の弓形縫帶を施す。胴部は丸棒状工具による2条一组の縫位沈継を垂下させ、12単位に区画する。区画内は横棒状沈継を基本とするが、2条の縫位縫帶を施す。	加曾利 E II (骨利系)
6	J-79 住	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵素混入	口縫部～胴部下位1/5	口縫部直下する部分は無文部。単縫 RL 織文が不明。口縫部下位は無文。陸帯に口縫部文様部を横円形に区画し、一部に弧状縫帶を施す。胴部、2条一组の縫帶を垂下させ区画する。口縫部文様部内、胴部の一部に単縫 RL 織文を充填。	加曾利 E II
7	J-79 住 NO8	深鉢	普通	砂粒・石英・角閃石・白色鉱物混入	口縫部～胴部4/5	口縫部直下する部分は無文部。横位・縫位縫帶で区画し、区画内に高さき状・戻手状部を施す。縫帶間には縫位・斜形（一部は横棒状）沈継を施す。	加曾利 E II併行 (郷土系)
8	J-79 住 NO3 下	深鉢	良好	砂粒・褐色鐵素混入	口縫部破片	尾端に沈継により口縫部文様部を横円形に区画する。区画内、丸棒状工具による矢羽根状沈継を施す。また、横円形区画部には高さき状戻手部を施す。さらに、高さき状縫帶の上位に、棒状工具による弓形縫帶を施す。胴部、丸棒状工具による2条一组の縫位沈継で区画し、区画内に同工具による横棒状沈継を施す。	加曾利 E併行

第129表 二軒在家原田遺跡A区織文時代住居址出土遺物観察表(43)

A区J-80号住处址

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①堆成	亞崩土	③既存	④圓形・文様等の特徴／備考	
1	J-80 住一括	深鉢	良好	砂粒・白色粘土 混入	口縁部破片	小手外反する口縁と想定される。單眼 IO、纏文による横直線状・波状平行沈縫を施す。さらに、竹管穴工具による円形刺突文が複数に配す。	諸職 a ~ b
	J-80 住一括	深鉢	良好	砂粒・角閃石混入	口縁部破片	細面工具による横直線状平行沈縫と波状平行沈縫を交互に施す。さらに、竹管状工具による円形刺突文が複数に配す。	諸職 a ~ b
3	J-80 住一括	深鉢	普通	砂粒・黑色粘土 混入	口縁部・脇部破片	半截竹管状工具による横直線状・波状平行沈縫を施す。同工具による縦割り並行沈縫で区画する。	諸職 b
	J-80 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部上に小切欠を有する。半截竹管状工具による波状平行沈縫と、爪形文間に斜めに斜めに斜めに斜めに沈縫を施す。	諸職 b
5	J-80 住一括	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	小手外反する口縁と想定される。口縁部は半周竹管状工具による横直線平行沈縫を施す。脇部、同工具による平行沈縫（半周斜線）で木葉案に区画する。	諸職 a ~ b
	J-80 住一括	深鉢	普通	砂粒・片岩・雲母混入	脇部破片	半截竹管状工具による弧状平行沈縫を施す。木葉案のリードカーブ。	諸職 a ~ b
7	J-80 住一括	深鉢	良好	砂粒・褐色粘土 混入	脇部破片	半截竹管状工具押し引げによる爪形文を弧状・溝状に施す。	諸職 b
	J-80 住中層	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	脇部破片	半截竹管状工具押し引げによる爪形文と区画する。	諸職 b
9	J-80 住一括	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	脇部破片	半截竹管状工具押し引げによる爪形文と区画する。一部の爪形文間に連續短沈縫を施す。遺存部最下位には、半截竹管状工具による列状刺突を横に施す。	諸職 b
	J-80 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	脇部破片	半截竹管状工具押し引げによる爪形文を横帯・腋帯・斜位（鉛筆）並行して施す。さらに、一部の爪形文間に連續短沈縫を施す。	諸職 b
11	J-80 住P-1	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 雲母混入	脇部破片	初期 IO、纏文文様後、半截竹管状工具押し引げによる爪形文で区画する。一部の爪形文間に連續短沈縫を施す。さらに、一部の区画内に竹管状工具による円形刺突文を配す。	諸職 b
	J-80 住一括	深鉢	普通	砂粒・植物纖維 混入	口縁部破片	半截竹管状工具と想定される。口縁部に半周竹管状工具による横直線状刺突を施す。その下位には半截竹管状工具による連續網状と、平衡状工具による点状刺突を施す。並行して施す。	有尾

第130表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代住居址出土遺物觀察表(44)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
13	J-80 住一括	深鉢	普通 砂粒・植物繊維 混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具による平行沈線を口縁に並行して施す。その下位に斜み状沈線を作り縁部を施す。		有尾
14	J-80 住往生内北一括	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部～胴部下位 1/3	口縁部は委り口状を呈する。拂の系施文後、口縁部直下に条、胴部に 2 条の横位沈線を施す。上下の各沈線に沿って三角形の例点状刻突文を施す。口端部上面には例点状短沈線施す。		五頭ヶ台

A区 J-82 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-82 住 P-2	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部破片	縁部は口縁部文施用を区画する。区画内には丸棒状工具による横位沈線を施す。区画連結部に溝状沈線。胴部には丸棒状工具による縦位沈線を施す。		加曾利 E I ~ II
2	J-82 住一括	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 混入	口縁部破片	縁部に幅の狭い無文部を有する。胴部、單脚 LR 文施文後、丸棒状工具により区画する。区画内に例点状。		加曾利 E IV
3	J-82 住一括	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 人	口縁部破片	口縁部に丸棒状工具による横位沈線を施す。胴部、同工具による縦位・斜位沈線を施す。		加曾利 E 併行
4	J-82 住一括	深鉢	良好 砂粒・白色粘土 混入	胴部破片	丸棒状工具による幅広で深い沈線で区画する。一部の区画内に單脚 RL 文を充填する。		加曾利 E
5	J-82 住一括	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	丸棒状工具による横位・斜位沈線で区画する。斜位沈線は斜形状か。		中期後半
6	J-82 住 P-5	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 雲母混入	底部破片	縦位条縫を施す。		加曾利 E
7	J-82 住 P-8	深鉢	普通 砂粒・植物繊維 混入	口縁部破片	4 単位波状口縁部頂部付近に想定される。半截竹管状工具による平行沈線を施す。		有尾
8	J-82 住 P-8	深鉢	普通 砂粒・植物繊維 混入	胴部（口辺部） 破片	口縁部から胴部上位階れ部付近の破片と想定される。半截竹管状工具による平行沈線施文後、丸棒状工具による横位・斜位沈線を施す。		有尾
9	J-82 住 P-8	深鉢	普通 砂粒・植物繊維 混入	胴部破片	單脚 LR と RL の羽状施文施す。一部に横位沈線を施す。		有尾・黒浜

第 131 表 二軒在家原田遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表 (45)

A区 D-1 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-1 土	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	4 単位波状の縫合、單脚 RL 文施文後、竹管状工具による円形刺突を縫合に配す。口縁部上面、粗竹編を連続して施す。		諸磯 a
2	D-1 土	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	縦位の半截竹管状工具押引きによる横位筋形文と 2 斜条筋、爪形文間に隆起を呈す。斜位粗竹編を継続して施す。その下位の区画内には單脚 RL 文を施す。さらに遺存部最下位には横位沈線が僅かに認められる。		諸磯 b

A区 D-2 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-2 土	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	縦位条縫を施す。		加曾利 E
2	D-2 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 混入	胴部破片	縦位・斜位条縫を施す。		加曾利 E
3	D-2 土	深鉢	良好 砂粒混入	胴部破片	丸棒状工具による斜位並行沈線を施す。		中期後葉?

A区 D-3 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-3 土	深鉢	普通 砂粒・角閃石混入	口縁部破片	縫合と比較的口縁部文施用を区画する。区画内に縦位沈線を施す。(区画内部に凹みあり、底材は不明であるが押出か)。		加曾利 E I ~ II
2	D-3 土	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	やや内反する 1 単位波状口縁と想定される。拂の系施文後、丸棒状工具による沈線で区画する。		加曾利 E
3	D-3 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 混入	胴部破片	2 条一組の横筋(又は溝筋)と想定される。口縁部支承部形の張帯剥落、胴部、丸棒状工具による縦位・斜位沈線を施す。		加曾利 E 併行
4	D-3 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 混入	胴部破片	口辺部から胴部中位の横筋と想定される。口縁部支承部形の張帯剥落、胴部、丸棒状工具による縦位・U 字状・逆 U 字状沈線を施す。		加曾利 E 併行

第 132 表 二軒在家原田遺跡 A 区縄文時代土坑出土遺物観察表 (1)

A区D-4号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-4 土	深鉢	良好	砂粒・白色粘物	洞部破片	(1) 葫芦形・文様等の特徴／備考 縦位直線状・蛇行隆溝により区画する。区画内には燃り名 施文。
2	D-4 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物	洞部破片	(2) 橫位隆溝で区画後、その下位を2条の並行する縦位隆溝で さらに区画する。横位隆溝より上位は無文。下位はLR. 繩文 剥げ跡。
3	D-4 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物	洞部破片	単層 RL. 繩文施文。
4	D-4 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物	底部破片	洞部最下位が僅かに遺存する。遺存部上位に繩文施文か。
5	D-4 土	ミモザ土器	普通	砂粒混入	底部中央～脚部	付土付器のミモザか、遺存部においては無文。
6	D-4 土	深鉢	普通	砂粒・石英・角	口縁部破片	口端部上面に貼付された想定される獸状の小突起。
						諸説 b?

A区D-5号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-5 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物	口縁部破片 混入	(1) 葫芦形・文様等の特徴 口縁部に幅広い無文帯を有する。その下位に隆溝と沈溝 で口縁部文様帶を区画する。区画は半円形と想定される。 区画内には丸棒状工具による縦位沈溝を施す。
2	D-5 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物	洞部破片	丸棒状工具によるLR. 半U字状沈溝を縦位に配置して 区画する。区画内に同工具による縦位沈溝を施す。
3	D-5 土	深鉢	普通	砂粒・石英混入	洞部破片	単層 RL. 繩文を施す。

A区D-6号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-6 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物	口縁部破片 混入	隆溝と沈溝で口縁部文様帶を区画する。長楕円区画内に半 載竹管状工具による平行沈溝を施す。区画下位の横帶 の一部に同工具による痕跡（沈溝）が認められる。
2	D-6 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆溝と沈溝で口縁部文様帶を区画する。区画内に丸棒状工 具による縦位沈溝を施す。
3	D-6 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部は丸棒状工具による斜位沈溝、脇部は同工具による 縦位沈溝を施す。

A区D-7号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-7 土	深鉢	普通	砂粒・灰色粘物 混入	口縁部破片	(1) 葫芦形・文様等の特徴 やや外反する平口縁と想定される。口縁部内側に厚みを有 する。半載竹管状工具による縦位沈溝を施す。
2	D-7 土	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	丸棒状工具による2条一起の縦位沈溝で区画する。一部の 区画内に単層 LR. 繩文施文。

A区D-8号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-8 土	深鉢	良好	砂粒・白色粘物 混入	口縁部～体部破 片	(1) 葫芦形・文様等の特徴／備考 遺存部においては無文。内外面ともに丁寧な磨き。
2	D-8 土	深鉢	良好	砂粒混入	洞部破片	遺存が少ないので蛇行隆溝を削下させると考えられる。一部に 丸棒状工具による斜位沈溝を施す。

A区D-9号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-9 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 混入	洞部下位～底部 破片	(1) 葫芦形・文様等の特徴 2条一組の縦位隆溝で区画する。底部部以外無文だが、底盤 での痕跡が認められる。底部の一部にも斜位の痕跡。

A区D-10号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-10 土	深鉢	普通	砂粒・チャート・片 岩混入	洞部破片	(1) 葫芦形・文様等の特徴／備考 半載竹管状工具による爪形支を構造に施す。爪形 支上での区画には斜位沈溝を連続して施す。
2	D-10 土	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	洞部上位片と想定される。半載竹管状工具による平行沈線 (中隆起状)を構造・斜位に施す。
3	D-10 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 混入	洞部～底部破片	単層 LR. 繩文施文。底部に木薙痕。

A区D-11号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-11 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 混入	口初期破片	(1) 葫芦形・文様等の特徴 口縁部文様帶破片である。隆溝と沈溝で区画し、区画内 に燃り余施文。
2	D-11 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 混入	口初期破片	(2) 砂粒部文様帶破片である。隆溝と沈溝で区画し、区画内 に燃り余施文。

第133表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表(2)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②胎土	③残存		
3	D-11 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 角閃石混入	胸部破片	口縁部文様帶から胸部上部にかけての破片。口縁部文様帶を区画する壘層の一部、文様帶内が剥落している。胸部、割り糸施文。	加賀利 E I ~ II

A区 D - 12 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②胎土	③残存		
1	D-12 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 火入	胸部破片	壘位隆帯と沈縫で区画する。区画内に単節 RL 文様施文。	加賀利 E
2	D-12 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 火入	胸部破片	丸棒状工具による直線状・弧状沈縫で区画する。一部の区画内に単節 LR 文様施文。	加賀利 E III 9
3	D-12 土	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	単節 RL 文様施文。	加賀利 E

A区 D - 13 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②胎土	③残存		
1	D-13 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胸部破片	胸部上位片と想定される。斜位平行隆帯を貼付し、隆帯以外に平行沈縫を施す。沈縫内は上下交互に火入を施す。火入に施す隆帯状を呈する。その下位に縦位・横位の沈縫を施す。	加賀利 E 併行
2	D-13 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 火入	胸部破片	丸棒状工具による斜位火継ぎ施文後、同工具による沈縫で縦位に区画する。さらに、一部の区画内に同工具による斜位火継ぎを施す。	加賀利 E 併行

A区 D - 14 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②胎土	③残存		
1	D-14 土	深鉢	普通	砂粒・黒色粘物 火入	胸部破片	割り糸を施す。	加賀利 E
2	D-14 土	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	彌文（單節 LR ? 不明瞭）施文後、丸棒状工具による沈縫で縦位に区画する。さらに、一部の区画内に同工具による斜位火継ぎを施す。	加賀利 E

A区 D - 15 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②胎土	③残存		
1	D-15 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 火入	胸部破片	単節 RL 文様施文後、丸棒状工具による並行沈縫で区画する。	加賀利 E
2	D-15 土	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	丸棒状工具による縦位基調沈縫を施す。	加賀利 E

A区 D - 16 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②胎土	③残存		
1	D-16 土	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵 火入	口縁部～胸部 火入	心や内側ある口縁。丸棒状工具による第1組の逆U字状沈縫により、8單節に区画する。沈縫間は無文。区画内には単節 RL 文様を施す。	加賀利 E Ⅲ
2	D-16 土	深鉢	良好	砂粒・白色粘物 火入	口縫部破片	心や内反する口縫。陸帯で口縫部文様帯を区画する。一部の区画内に縦位・斜位沈縫を施す。	加賀利 E II ~ III
3	D-16 土	蓋	良好	砂粒・白色粘物 火入	口縫部～胸部 火入	胸部上位から口縫部にかけて一貫下がり、口縫部は口縫部より上立ち。胸部上位に横棒把手を大小交互に貼付する。8單節か。脚部は済みき状モチーフ。	加賀利 E 併行
4	D-16 土	深鉢	良好	砂粒・白色粘物 火入	胸部破片	丸棒状工具による縦位沈縫を区画する。一部の区画内に縦位・斜位沈縫を施す。	加賀利 E
5	D-16 土	深鉢	良好	砂粒・白色粘物 火入	胸部破片	複数 RL 文様と彌文。丸棒状工具による縦位沈縫を区画する。さらに、一部には同工具による蛇形沈縫を垂下せしと推定される。	加賀利 E
6	D-16 土	深鉢	良好	砂粒・褐色鐵混入 火入	胸部破片	割り糸施文後、弧状等沈縫を施す。	加賀利 E

A区 D - 18 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②胎土	③残存		
1	D-18 土	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入 火入	胸部破片	横位沈縫（手載竹管状工具による？）に上り区画後、縦位沈縫を施す。	五箇ヶ台
2	D-18 土	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入 火入	胸部破片	手載竹管状工具による手縫起縫を弧状（遺存部においては弧状であるが、本来は同じ円形状か）、縦位直縫状に施す。さらに、手縫起縫に並行して列点状刺突を施す。	五箇ヶ台
3	D-18 土	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入 火入	胸部破片	単節 RL 文様施文後、手載竹管状工具による逆帯様平行沈縫で縱化に区画する。一部に、同工具による平行沈縫で B 字状に区画する。	五箇ヶ台併行
4	D-18 土	深鉢	普通	砂粒混入	胸部下位破片	脚部下位から底部に向かい心外反する器形である。単節 RL 文様施文。	諸葛 b
5	D-18 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 雲母混入 火入	胸部～底部破片	脚部下位から底部に向かい心外反する器形である。遺存部最上位に横位沈縫が認められる。	五箇ヶ台？

第134表 二軒在家原田遺跡 A区甕文時代土坑出土遺物観察表(3)

A区D-19号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-19 土	深鉢	普通 砂粒混入	胸部破片	(a)表面・文様等の特徴／備考 彫刻状工具による横位・斜位平行沈線と彫文施文後、竹管状工具による円形刺突を縦位に配す。	諸磯a～b
2	D-19 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘物	胸部破片	単脚 RL 繩文施文後、幅の狭い半截竹管状工具押し引きによる爪形文で区画する。	諸磯 b
3	D-19 土	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	半截竹管状工具による横位沈線（半径起線）を施す。	諸磯 b
4	D-19 土	深鉢	普通 砂粒混入	胸部破片	横位縦沈線施文後、直線状・弧状結節浮線文を施す。	諸磯 c

A区D-20号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-20 土	深鉢	良好 砂粒・白色粘物	胸部破片 混入	(a)表面・文様等の特徴／備考 単脚 RL 繩文施文後、丸棒状工具による縦位沈線で区画する。	加曾利 E

A区D-23号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-23 土	深鉢	普通 砂粒混入	胸部破片	(a)表面・文様等の特徴／備考 口辺部から胸部正面の破片と想定される。2条の横位隆帯で区画し、さらに、満巻き状のチーフを持った縦位隆帯を垂下させ、隆帯部分以外、遺存部においては無く。	加曾利 E
2	D-23 土	深鉢	普通 砂粒混入	胸部破片	丸棒状工具による3条の縦位並行沈線で区画する。区画内、同工具による斜位沈線を接続状態で施す。	加曾利 E 併行
3	D-23 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘物	胸部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位沈線を施す。一部の爪形文間にには斜位沈線を連続して施す。	諸磯 b
4	D-23 土	深鉢	良好 砂粒・白色粘物	胸部破片 混入	単脚 RL 繩文施文。	諸磯 b?
5	D-23 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘物	胸部破片 雲母混入	LR 繩文施文後、半截竹管状工具による縦位平行沈線で区画する。	五箇ヶ台

A区D-24号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-24 土	深鉢	良好 砂粒・白色粘物	胸部破片 混入	(a)表面・文様等の特徴／備考 横位沈線施文後、棒状駆行支・竹管状工具による円形刺突を作らせる。	諸磯 c
2	D-24 土	深鉢	良好 砂粒・白色粘物	胸部破片	胸部最下位の破片と想定される。半截竹管状工具による縦位平行沈線（半径起線状態にする）で区画する。区画内、同工具による斜位平行沈線を接続状態で施す。	諸磯 c
3	D-24 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘物	口縁部破片 混入	横位浮線文を並行して施す。	諸磯 b

A区D-25号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-25 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘物	口縁部～胸部破片 褐色混入	(a)表面・文様等の特徴／備考 口縁部に無文帶を有する。無文帶下位に弧状駆行支文を連續させ、半月状に区画する。区画内は斜位沈線を施す。胸部、單脚 LR 繩文施文。	中期後葉
2	D-25 土	深鉢	普通 砂粒・黑色粘物	胸部破片 混入	斜位沈線で区画する（菱形の区画か）。一部の区画内に貝殻（ウニ）による斜位刺突を施す。	前期後葉（撫津系）
3	D-25 土	深鉢	良好 砂粒・白色粘物	胸部破片 混入	満巻き状・縦位沈線状隆帯により区画する。区画内には蛇形隆帯を下させ、丸棒状工具による沈線を施す。	加曾利 E 併行（郷土系）
4	D-25 土 NOI	深鉢	普通 雲母混入	胸部破片	胸部下位に2条の横位並行隆帯。隆帯上位、丸棒状工具による斜位沈線を施す。下位、2条の並行する隆帯で側面は満巻き状に区画し、側位・斜位沈線を施す。	加曾利 E 併行
5	D-25 土	深鉢	良好 砂粒混入	胸部破片	頭部付近が保存。頭部を横位隆帯で区画する。頭部、内部に嵌め手の痕みを有する縦位沈線を下させ。さらに、頭部の横位隆帯から分岐する斜位隆帯を下させさせ区画。区画内、丸棒状工具による斜位沈線（一部は浅い弧状）を施す。	加曾利 E III 併行（郷土系）
6	D-25 土	深鉢	普通 砂粒・雲母混入	胸部破片	2条の並行する満巻き状隆帯で区画する。区画内、丸棒状工具による多方向（頭部に垂直位を意識か）沈線を施す。	加曾利 E 併行（曾利系）
7	D-25 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘物	胸部破片 混入	満巻き状隆帯を伴う隆帯・横位直線・弧状隆帯で区画する。区画内、半截竹管状工具による縦位半径起線。同工具による連続刺突文を施す。	加曾利 E 併行（曾利系）
8	D-25 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘物	胸部破片 混入	2条の並行する満巻き状隆帯で区画する。区画内、半截竹管状工具による縦位半径起線。同工具による連続刺突文を施す。	加曾利 E 併行（曾利系）
9	D-25 土	杯	良好 砂粒混入	体部破片	体部上位に2様態部分付近が遺存する。2様態部上位に横位直線・弧状隆帯で区画する。各区画内には蛇形隆帯を下させ。満巻き状隆帯・横位・斜位並行沈線を施す。	加曾利 E
10	D-25 土	深鉢	普通 黒色粘物混入	1/10	2条一組の縦位沈線により3個位に区画する。各区画内には蛇形隆帯を下させ、さらに区画する。区画内には横位直線状沈線を施す。底部には網代型。	曾利III
11	D-25 土	深鉢	普通 砂粒・褐色混入	胸部～底部/1/10	10箇所（厚さ約1cm）の縦位不規則・斜位直線・横位直線・弧状隆帯を下させ。不規則な横位直線を施す。不明瞭だが網代型が認められる。	中期後葉
12	D-25 土	土製耳皿	普通 黒色粘物混入	完形	形質。孔が貫通する。	中期後葉

第135表 二軒在家原田遺跡A区繩文時代土坑出土遺物観察表(4)

A区 D - 26号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
1	D-26 土	深鉢	①焼成	②胎土	③残存	(4)器形・文様等の特徴/備考
			普通	砂粒・白色粘物、洞部～底部2/3 黑色粘物混入	口縁部に焼状隆起を示す。洞部、根脚、根脚 LR 織文施文後、溝巻き状・瓶底直線状・蛇行隆起を施す。	
2	D-26 土	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	焼り系施文、縦位隆帯で区画する。
3	D-26 土	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	3条一組の縦位隆帯で区画する。区画内、丸棒状工具による縦位沈縫を施す。
4	D-26 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	4単位波状の縦縫と想定される。斜位細沈縫後、口縁に逆行する蛇行状粘結浮縫文を施す。斜位細沈縫施文後、口縁に逆行する蛇行状粘結浮縫文と想定される。

A区 D - 28号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
1	D-28 土	深鉢	①焼成	②胎土	③残存	(4)器形・文様等の特徴/備考
			普通	砂粒・褐色織混入	口縁部破片	
2	D-28 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物、洞部～底部2/3 黑色粘物混入	口縁部～胴部下位2/3	溝巻しているが、瓶部付近に溝巻き状隆帯を配置する。溝巻き状隆帯上位には三角角、下位には縦位直線状隆帯を施す。縦位隆帯は洞部を11単位に区画する。さらに縦位直線状隆帯は、胴部最大径付近において斜位沈縫又は沈縫により連繋される。胎土と並ぶ配置の規則性は不明。
3	D-28 土	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	洞部破片	口縁部下位以下の洞部上位2/3と想定される。隆帯で区画し、区画内には沈縫を施す。2と同一個体と考えられる。
4	D-28 土	深鉢	普通	砂粒・褐色織	洞部破片	單脚 RL 織文施文後、縦位沈縫(3条一組)で区画する。区画内には蛇行沈縫を垂下させる。
5	D-28 土	深鉢	普通	砂粒・褐色織	洞部破片	2条一組の隆帯で区画する。区画内には斜位沈縫を施す。
6	D-28 土	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	洞部破片	織文(無筋1刀) 施文後、弧状沈縫で区画する。区画内には単脚 RL 織文施文。

A区 D - 29号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
1	D-29 土	深鉢	①焼成	②胎土	③残存	(4)器形・文様等の特徴/備考
			普通	砂粒・白色粘物、口縁部～胴部破片 灰色織混入		
2	D-29 土	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	焼帯と沈縫で口縁部織文を区画する。木葉状の区画内には櫛状工具による縦位沈縫(剥落・摩滅のため不明瞭)を施す。口縁部織文帶下位に、幅の狭い無文帯を有する。
3	D-29 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物、洞部破片 灰灰織混入		無文帯下位は、丸棒状工具による横位沈縫で区画し、齒唐状工具による縦位直線状・蛇行沈縫を施す。沈縫は細く浅く、表面現を呈す。
4	D-29 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物、洞部破片 灰色織混入		焼帯と沈縫で区画する。区画内には斜位沈縫を市松文様式に施す。

A区 D - 30号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
1	D-30 土	深鉢	①焼成	②胎土	③残存	(4)器形・文様等の特徴/備考
			普通	砂粒混入	口縁部破片	
2	D-30 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物、洞部破片 灰灰織混入		単脚 RL 織文施文後、半載竹管状工具による平行沈縫で区画する。
3	D-30 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物、洞部破片 灰色織混入		織文施文後、半載竹管状工具による平行沈縫で区画する。

A区 D - 31号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
1	D-31 土	深鉢	①焼成	②胎土	③残存	(4)器形・文様等の特徴/備考
			普通	砂粒・白色粘物	口辺部破片	
2	D-31 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物	洞部破片	2条一組の縦位隆帯(断面三角形)で区画する。一部の区画内、丸棒状工具による斜位沈縫を確らに施す。隆帯間は埋されており無文。
3	D-31 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物、洞部破片 混入		埋利系深鉢の洞部上位付近と想定される。斜位沈縫と、逆方向の斜位棒状貼付文により、格子目状モチーフを構成する。洞部、縦位隆帯で区画し、一部に織文施文。

A区 D - 32号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
1	D-32 土	深鉢	①焼成	②胎土	③残存	(4)器形・文様等の特徴/備考
			普通	砂粒・白色粘物	口縁部破片	
2	D-32 土	深鉢	普通	砂粒・石英・チート混入	洞部破片	2条一組の縦位隆帯で区画する。区画内、一部に縦位茎縫文施文後、丸棒状工具による横位・斜位沈縫を確らに施す。隆帯間は埋されており無文。

第136表 二軒在家原田遺跡A区織文時代土坑出土遺物観察表(5)

A区D-33号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②釉土	③残存	
1	D-33 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘物 混入	口辺部破片	(a)器形・文様等の特徴／備考 器形の口縁部文様帯付近である。区画連結部の溝巻き状洗輪と想定される。区画の形状は不明であるが、区面内には継位沈線を施す。	加曾利E II
2	D-33 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘物 混入	口辺部破片	深鉢の口縁部文様帯付近である。隆帯と溝巻き状に施す。	加曾利E I ~ II
3	D-33 土	深鉢	良好 砂粒・白色粘物 混入	脚部破片	燃り赤塗文後、蛇行隆帯を重下させる。	加曾利E I ~ II
4	D-33 土	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	4 単位波状口縁波頭部と想定される。半載竹管状工具押し起しによる横位柱形文と、口縁に並行し向きを交互に変えて3条施す（一部は爪形文でなく刺突状を呈する）。波頭部直下に竹管状工具による円形刺突文を配し、刺突文から半載竹管状工具による継位平行沈線を垂下させ、同工具による継位平行沈線と交差させる。	諸職 a
5	D-33 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘物 混入	口縁部破片	継ぐべから單位双頭波状口縁か。半載竹管状工具押し起しによる横位爪形文を施す。波頭部の一部に短沈線を連続して施す。	諸職 b

A区D-34号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②釉土	③残存	
1	D-34 土	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	(a)器形・文様等の特徴／備考 口縁部下位に横位隆帯を施す。隆帯下位が口縁部文様帯と想定される。文様帶内、半載竹管状工具による斜位平行沈線を施す。	加曾利E
2	D-34 土	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	やや内反する平口縁と想定される。口縁部直下に丸棒状工具による横位柱形文と、口縁部内には継位沈線を施す。さらに、一部に弧状隆帯を施す。	加曾利E
3	D-34 土	深鉢	良好 砂粒混入	脚部破片	口縁部文様帯付近と想定される。隆帯で区画し、区画内に半載竹管状工具による斜位平行沈線を施す。	加曾利E
4	D-34 土 NO1	深鉢	普通 砂粒・石英・角 閃石混入	3/4	無施 L 印刷文後、半載竹管状工具による平行沈線を横位又は縦位に施す。口縁部には三角形の刺突を配す。	諸職 b
5	D-34 土	深鉢	良好 砂粒・白色粘物 混入	脚部破片	半載竹管状工具による平行沈線（平行起倒状を呈する）を施す。	諸職 b
6	D-34 土	深鉢	普通 砂粒混入	脚部破片	継めの半載竹管状工具による平行沈線で、格子目状の文様を施す。一部に印刷文（三角形か）施す。	十二世紀
7	D-34 土	深鉢	不良 砂粒・金雲母混入	口縁部破片	口縁部直下に丸棒状工具による横位沈線を施す。沈線部に棒状工具による斜位平行沈線を施す。さらに、その部位には継位沈線を施す。	五箇ヶ谷
8	D-34 土	深鉢	普通 砂粒・金雲母混入	口縁部破片	半載竹管状工具による斜位平行沈線（半跳起倒状）で区画する。区画内、同工具による斜位平行沈線と格子目状に施す。	五箇ヶ谷
9	D-34 土	深鉢	普通 砂粒・金雲母混入	脚部破片	横位直瀬状・弧状・溝巻き状沈線で区画する。横位沈線に沿って三角形の列状沈突を施す。	五箇ヶ谷
10	D-34 土	深鉢	普通 砂粒・金雲母混入	脚部破片	遺存部上位。横位隆帯を施す。隆帯下位、丸棒状工具による斜位沈線を施す。	五箇ヶ谷
11	D-34 土	深鉢	普通 砂粒・金雲母混入	脚部破片	半載竹管状工具による斜位沈線を施す。一部に、棒状工具による斜位平行沈線を施す。	五箇ヶ谷

A区D-35号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②釉土	③残存	
1	D-35 土	深鉢	良好 砂粒・白色粘物・脚部～底部3/5 砂粒混入	脚部上位に3単位の溝巻き文を施す。溝巻き文から3条一組の継位沈線を垂下させ区画する。さらに区画内に蛇行隆帯を施し、掛りRを充填する。	中期後葉	

A区D-36号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②釉土	③残存	
1	D-36 土	深鉢	良好 砂粒・褐色鐵混入	口縁部～脚部 1/8	(a)器形・文様等の特徴／備考 やや内反する4単位小波状口縁と想定される。丸棒状工具による斜位沈線で区画する。一部の口縁上端は嵌手状を呈する。さらに、一部にはU字状沈突を施す。沈線直後、一部の区画内に単槽組、鐵文を充填する。	加曾利E III
2	D-36 土	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部破片	波状口縁波頭部付近。波頭部上端が広がる円柱状を呈する。脚部：は継位基溝と鐵文を施す。	加曾利E 併行
3	D-36 土	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部破片	丸棒状工具によるU字状沈線で区画する。一部の区画に同工具による横位柱形刺突（上から下へ施文）を施す。	加曾利E III
4	D-36 土	深鉢	良好 砂粒・白色粘物・褐色鐵混入	口縁部～脚部上位に残存する。隆帯で口縁部文様帶を充填する。区画内には斜位沈線は横位柱形刺突を施す。区画連結部分に2条一組の丸棒状工具による横位沈線を垂下させる。沈線部以外には同工具による横位柱形刺突（から下へ施文）を施す。	加曾利E III	

第137表 二軒在家原田跡A区繩文時代土坑出土遺物観察表(6)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②胎土	③残存		
5	D-36 土	深鉢	普通	砂粒・赤褐色系・陶部破片 黑色粘土混入	2条一組の丸棒状工具による幅広で浅い縦目沈縫による区画する。沈縫間は無文。区画内には棒状工具による刺突文を施す。	加曾利 E	
6	D-36 土	深鉢	良好	砂粒・白色粘土 黑色粘土混入	砂粒・白色粘土・陶部破片 黑色粘土混入	半裁竹管状工具による鄭状・繩手状沈縫を施す。さらに単節 LR 繩文施文。	加曾利 E III
7	D-36 土	深鉢	良好	砂粒・褐色粘土 陶部破片 人	砂粒・褐色粘土・陶部破片 陶部破片 人	丸棒状工具による縦目沈縫で区画する。一部の区画内に単節 LR 繩文施文。	加曾利 E
8	D-36 土	深鉢	良好	砂粒・白色粘土 雲母混入	砂粒・白色粘土・陶部破片 雲母混入	弧状彫縫を施す。	加曾利 E 併行

A区 D - 37 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②胎土	③残存		
1	D-37 土 NO3	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 雲母混入	9/10	平口縁に對向する正副の突起を付す。正は鄭状、副は反頭の山形を呈する。口縁部文様帶は、縦位・L字状陰線帯付後、単節 LR 繩文、半裁竹管状工具による平行沈縫を施す。頭部文様帶には、単節 LR 繩文施文後、半裁竹管状工具による縦位・U字状平行沈縫を施す。頭部文様帶には、単節竹管状工具による縦位・部狀・渦巻き状平行沈縫を施す。新潟県上越市に所在する和人 A 遺物出土七手鏡群との関連が想定される。	五領ヶ台併行
2	D-37 土 NO2	深鉢	良好	砂粒・白色粘土 雲母混入	窓 4/5	平口縁に 4 帶の突起を行す。対向する突起は U 同じものと、正面の相違が認められるものがある。同一の突起は 3頭の頂部一様の状態の垂落され、中央の突起より縦目沈縫を垂下させる。正面の突起の正面は、頭部が平坦で幅広である。内部の兩端部には 2 滴巻き状沈縫を施す。頭の外縁には横状陰線帯が施され、そこから縦位沈縫が垂下する。口縁部文様帶は、三角印刻文に縦目施されるが縫に上り区画される。頭部は無文。脚部は単節 LR 繩文施文に施す。	五領ヶ台
3	D-37 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 雲母混入	1/8	単節 LR 繩文施文後、半裁竹管状工具による縦位に對向する U 字状・逆 U 字状平行沈縫（半隆起模様）で区画する。U 字状区画内には斜位平行沈縫、逆 U 字状区画内には縦位平行沈縫を施す。両区画の間には、円形平行沈縫を縦位に 2 個配す。さらに一部に半裁竹管状工具による蛇行平行沈縫を垂下せる。	五領ヶ台
4	D-37 土 NO2	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 雲母混入		1 条一組と想定される縦位沈縫により、4 又は 5 單位に区画する。一部の区縫に沿って三角印刻文を施す。三角印刻文は列点状に施文する箇所、2 個一对を縦に施文する箇所がある。区画内には単節 LR 繩文施文。	五領ヶ台
5	D-37 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 角閃石混入	底部 1/10	焼れ条を施す。	中期履葉?
6	D-37 土 NO2	浅鉢	普通	砂粒・白色粘土 石英混入	口縁部～体部中 1/4	遺存部においては無文。	加曾利 E

A区 D - 38 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-38 土	深鉢	普通	砂粒・石英・角 閃石混入	口縁部直下に施された紙面把手。紙面の周縁には沈縫・單節 RL 繩文施文。	諸磯 b

A区 D - 39 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②胎土	③残存		
1	D-39 土	深鉢	良好	砂粒混入	陶部破片	半裁竹管状工具による斜位平行沈縫を矢羽根状に施す。	諸磯 c
2	D-39 土	深鉢	普通	砂粒・黃褐色 泥入	陶部破片	横位細沈縫施文後、弧状結節浮線文を施す。	諸磯 c
3	D-39 土	深鉢	普通	砂粒混入	陶部破片	単節 LR 繩文を施す。	諸磯

A区 D - 40 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②胎土	③残存		
1	D-40 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 虫入	陶部破片	単節 RL 繩文施文。一部に浅い沈縫状の撲地が認められる。虫縫による区画か。	加曾利 E
2	D-40 土	深鉢	普通	砂粒・角閃石・ 灰色粘土混入	底部破片	底部網代質。	後期?

A区 D - 41 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②胎土	③残存		
1	D-41 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 虫入	陶部破片	半裁竹管状工具用引子による横位平行沈縫を施す。爪形文、網、繩文押印。(不明瞭)。	諸磯 b
2	D-41 土	深鉢	普通	砂粒混入	陶部破片	鉢形工具による弧状平行沈縫、竹管状工具による円形刺突文を施す。所附骨文が想定される。	諸磯 a

第 138 表 二軒在家原田遺跡 A 区繩文時代土坑出土遺物観察表 (7)

A区D-42号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-42 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘土	口縁部破片	(a)器形・文様等の特徴／備考 口縁部外側上端に、断面二重形の様を有する。手造竹管状工具押し引きによる爪形文を横位直線状・弧状に施す。	諸磯 b
2	D-42 土	深鉢	普通 砂粒混入	胸部破片	細めの手造竹管状工具押し引きによる爪形文を横位直線状・弧状に施す。	諸磯
3	D-42 土	鉢	良好 砂粒混入	口縁部破片	遺存部においては無文。内外面ともに丁寧な磨き。	諸磯 b?

A区D-43号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-43 土	深鉢	普通 砂粒・角閃石混入	胸部破片	丸棒状工具による縱位沈縫で区画し、区画内に同工具による斜位直縫（絞形状）を施す。	加賀利 E 併行
2	D-43 土	深鉢	良好 砂粒混入	胸部破片	丸棒状工具による縱位直縫を施す。	加賀利 E

A区D-44号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-44 土	深鉢	良好 砂粒混入	胸部破片	(a)器形・文様等の特徴／備考 丸棒状工具による縱位沈縫を施す。	加賀利 E

A区D-45号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-45 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘土混入	胸部破片	(a)器形・文様等の特徴／備考 斜位直縫文後、丸棒状工具による縱位沈縫で区画する。	加賀利 E
2	D-45 土	鉢	良好 砂粒・白色粘土混入	底部破片	鉢の底部から胴部最下位と想定される。外面、遺存部においては無文。内面、丁寧な磨き。内外面ともに、一部に赤色塗影の痕跡が認められる。	加賀利 E

A区D-47号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-47 土	深鉢	良好 砂粒混入	胸部破片	(a)器形・文様等の特徴／備考 単節 RL 繩文施文。丸棒状工具による沈縫を施す。	加賀利 E
2	D-47 土	深鉢	普通 砂粒混入	胸部破片	複節 RLR 繩文施文。	加賀利 E

A区D-48号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-48 土	深鉢	普通 砂粒混入	胸部破片	(a)器形・文様等の特徴／備考 単節 RL 繩文施文。丸棒状工具による沈縫を施す。	加賀利 E
2	D-48 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘物混入	胸部破片	単節 RLR 繩文施文。丸棒状工具による 2 条（あるいはそれ以上）一组の縱位沈縫で区画する。沈縫間削り消し。	加賀利 E

A区D-49号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-49 土	深鉢	普通 砂粒・雲母混入	胸部破片	胸部上位方と想定される。遺存部最上位の浅い横位沈縫が口縁部と胸部の境界と考えられる。単節 RL 繩文施文後、丸棒状工具による弧状沈縫で区画する。	加賀利 E Ⅲ～Ⅳ
2	D-49 土	深鉢	普通 砂粒混入	胸部破片	丸棒状工具による第一組の縱位沈縫で区画する。一部に単節 RL 繩文施文。	加賀利 E
3	D-49 土	深鉢	普通 砂粒混入	底部破片	遺存部上位に横位沈縫が確かに認められる。内面に炭化物状体が付着。接点が確認できない同一個体片より、加賀利 E 式期の所産と考えられる。	加賀利 E

A区D-50号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-50 土	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部破片	彌帯と直縫で口縁部文様を区画する。区画内には末棒状工具による縱位沈縫を施す。胸部、脇に浅い次第縫を作らせる。	加賀利 E I～II
2	D-50 土	深鉢	良好 砂粒混入	胸部破片	低い彌帯と幅広の直縫で区画する。一部の区画内に単節 RL 繩文施文。	加賀利 E
3	D-50 土	深鉢	普通 砂粒・褐色鐵混入	胸部破片	2 条一组の縱位沈縫で区画し、区画内に弧状沈縫を施す。さらに縦位・斜位沈縫を充填する。	加賀利 E 併行
4	D-50 土	深鉢	良好 砂粒混入	胸部破片	縦位基準施文後、丸棒状工具による弧状沈縫を施す。単節弧状沈縫文後、上位より刺突（又は刺み）を作らせる。	加賀利 E II
5	D-50 土	深鉢	良好 砂粒混入	胸部破片	胸部上位の唇部変換部付近が遺存する。丸棒状工具による弧状沈縫を施す。上位より刺突（又は刺み）を作らせる。	脇之内 I

第139表 二軒在家原田跡A区繩文時代土坑出土遺物観察表(8)

A区 D - 51号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②舶土	③残存		
1	D-51 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物	胸部破片 混入	丸棒状工具による区画する。一部の区画内に溝文（無 縫合）施す。	加曾利 E
2	D-51 土	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	丸棒状工具による区画し並行沈継を施す。	加曾利 E併行
3	D-51 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物	胸部破片 混入	半截竹管状工具による平行沈継を横位・縦位・斜位状態に 施す。横位・縦位に区画後、弧状沈継を充填か。	加曾利 E

A区 D - 52号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②舶土	③残存		
1	D-52 土	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	丸棒状工具による区画沈継を施す。	加曾利 E併行
2	D-52 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物	胸部破片 混入	單面 RL 溝文施す。	加曾利 E

A区 D - 53号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②舶土	③残存		
1	D-53 土	深鉢	良好	砂粒混入	胸部破片	縦位条線を施す。	加曾利 E

A区 D - 54号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②舶土	③残存		
1	D-54 土	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	丸棒状工具による平行区画（3束一組み）で区画す。 区画内、単面 LR 溝文施す。	加曾利 E
2	D-54 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物	胸部～底部破片 混入	棒状工具による沈継を施す。遺存部が少ないので断定はできないが、縦位沈継により区画し、区画内に綾杉状沈継を施している想定される。	加曾利 E併行

A区 D - 55号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②舶土	③残存		
1	D-55 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物	口縫部破片 黑色粘物混入	縫帶で口縫部・又縫帶を区画する。又縫帶連結部に推定される部分に、湧き状沈継を施す。	加曾利 E I ~ II
2	D-55 土	深鉢	良好	砂粒・灰色粘物 混入	口縫部破片	縫帶で口縫部・又縫帶を区画する。口縫部上面・内面に花継（内面はぼく不明瞭）を施す。	加曾利 E I ~ II
3	D-55 土	深鉢	良好	砂粒混入	胸部破片	撚り系を施す。	加曾利 E I ~ II

A区 D - 56号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②舶土	③残存		
1	D-56 土	深鉢	普通	砂粒・黑色粘物	胸部破片	断面三角形の低い縦位沈継で区画する。不明瞭であるが、区画内の一部に縫帶文施す（縫帶 RL1）。	加曾利 E
2	D-56 土	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	弧状を呈する高い縦位沈継で区画する。口縫部上面・内面に花継（内面はぼく不明瞭）を施す。	加曾利 E併行

A区 D - 57号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②舶土	③残存		
1	D-57 土	深鉢	普通	砂粒・石英混入	口縫部 1/10	単面 RL 溝文施す、口縫部を半截竹管状工具による横位平行沈継で区画する。区画内に同工具による円形・弧状等の平行沈継を施す。文様モザイクが不明瞭であり、施文技術も推測の感が強い。	諸説 b

A区 D - 60号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②舶土	③残存		
1	D-60 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縫部破片	縫帶と沈継で口縫部・又縫帶を区画する。一部の区画内には縦位並行沈継を施す。	加曾利 E I ~ II
2	D-60 土	深鉢	良好	砂粒混入	胸部破片	2束一組（部分的に1束）の断面三角形の縫帶で区画する。区画内には単面 LR 溝文施す。	加曾利 E III ~ IV
3	D-60 土	深鉢	普通	砂粒・灰色繊混入	胸部破片	単面 RL 溝文施す。丸棒状工具による2束一組の縦位沈継で区画する。沈継間隙の消し目。	加曾利 E
4	D-60 土	深鉢	良好	砂粒・白色粘物	胸部破片 混入	断面三角形の弧状縫帶で区画する。区画内、丸棒状工具による縦位沈継を施す。	加曾利 E併行
5	D-60 土	深鉢	普通	砂粒・白色繊 灰色繊混入	胸部破片	深縫縫部上半手。頸部に半截竹管状工具による横位平行沈継を施す。沈継上位、同工具による平行沈継により格子目状に区画する。沈継下位、単面 RL 溝文施す。	加曾利 E併行

第 140 表 二軒在家原田遺跡 A 区縄文時代土坑出土遺物観察表 (9)

A区D-61号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-61 土	深鉢	普通 砂粒・黑色鉱物 混入	口辺部破片	口縁部文繩帯付言と想定される。隆帯と沈線で区画する。区画内には丸棒状工具による縦位沈線を施す。底部、遺存部においては無文。	加曾利E I
2	D-61 土	深鉢	普通 砂粒・黑色鉱物 混入	口辺部破片	口縁部文繩帯付言と想定される。隆帯で区画する。区画内には丸棒状工具による縦位沈線を施す。底部、遺存部が少ない張位へ斜位沈線施か。	加曾利E I~II
3	D-61 土	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	丸棒状工具による口縁を縦位・横位に施す。	加曾利E 様行

A区D-62号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-62 土	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部～脚部下 位1/5	口縁部に隆帯を施す。脚部無文。脚部上位に2条の横位並行沈線を施す。沈線上に刺突を伴う円形貼付文、その下位は丸棒状工具による溝き状・弧状沈線を施す。	堀之内 I

A区D-64号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-64 土	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部破片	隆帯で口縁部文繩帯を区画する。長方形と想定される区画内には、棒状又は板状工具による縦位短沈線状刺突を施す。区画連結部分には、丸棒状工具による溝き状弧線を施す。	加曾利E I~II
2	D-64 土	深鉢	普通 砂粒・白色鉱物 混入	口縁部破片	隆帯と脚部で口縁部文繩帯を区画する。其方形に想定される区画内には、丸棒状工具による縦位～斜位沈線を施す。	加曾利E I~II
3	D-64 土	深鉢	不良 砂粒混入	胴部破片	全体的に摩滅している。縫文施文後、丸棒状工具による3条一組の縦位沈線で区画する。	加曾利E

A区D-65号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-65 土	深鉢	普通 砂粒・白色鉱物 混入	胴部1/10 混入	胴部上位～中位が残存する。半截竹管状工具による縦位平行沈線（一部は半角柱状付言する）を施し、一部の沈線間に工具自体は角棒状工具による刺突を連続して施す。その後、隔壁部を巻き取り2条の並行する弧状隆帯で区画する。	加曾利E 様行 (曾利系)
2	D-65 土	深鉢	良好 砂粒混入	胴部破片	隔壁隆帯で区画する。区画内、半截竹管状工具または丸棒状工具による沈線を被柱状に施す。	加曾利E
3	D-65 土	深鉢	良好 砂粒混入	胴部破片	3条一組の縦位隆帯で区画する。隆帯間は丸棒状工具による隙縫である。区画内、半截竹管状工具または丸棒状工具による沈線を施す。	加曾利E
4	D-65 土	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	3条一組の縦位隆帯で区画する。隆帯間は丸棒状工具による隙縫である。	加曾利E
5	D-65 土	深鉢	良好 砂粒・白色鉱物 混入	胴部破片	付加溝き文施文。半截竹管状工具による3条一組の縦位沈線で区画する。	加曾利E

A区D-66号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-66 土	深鉢	普通 砂粒・白色鉱物 混入	胴部破片	横位基調浮繩文を施す。	諸穢 b
2	D-66 土	深鉢	普通 砂粒・金雲母混入	胴部破片	単節RJ、繩文施文後、半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線式）で区画する。	五頭ヶ谷

A区D-67号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-67 土	深鉢	普通 砂粒・赤褐色混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文で区画する。一部の爪形文間に斜位短沈線を連続して施し、浮綫文状を呈す。さらに、一部に竹管状工具による円形刺突を配す。	諸穢
2	D-67 土	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	單節RJ、繩文施文。	諸穢 b
3	D-67 土	深鉢	普通 砂粒・褐色混入 片岩混入	底部1/5	單節RJ、繩文が部分的に認められる。繩文施文後、縦位撲打調整。	諸穢 c?
4	D-67 土	深鉢	普通 砂粒・白色鉱物 植物纖維混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。爪形文の押しづけは弱いため、列点状刺突のように見える部分もある。爪形文下位は直前段多条。	有尾・黒浜
5	D-67 土	深鉢	普通 砂粒・植物纖維 混入	1/5	付加溝き文施文。内面は丁寧な磨き。	前期中葉

A区D-68号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-68 土	深鉢	普通 砂粒・植物纖維 混入	胴部破片	4 单位焼成RJと想定される。崩壊状工具による横位刺突を押しづけは強いため、列点状刺突を施す。底部又は三角形に区画か。	有尾
2	D-68 土	深鉢	普通 砂粒・植物纖維 混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文で区画する。底部又は三角形に区画か。	有尾

第141表 二軒在家原田遺跡A区繩文時代土坑出土遺物観察表(10)

A区 D - 69号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-69 土	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	全体的に摩耗しており不明瞭である。半截竹管状工具押し引きによる爪形文で区画する。爪形文間は短辺縫を連続して施し、浮縫文軸を望む。
2	D-69 土	深鉢	良好	砂粒混入	胸部破片	繩文（単節 RL か）縄文。

A区 D - 70号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-70 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縫部破片	（4）器形・文様等の特徴／備考 輪郭型の小形器と想定される。沈縫で区画し、一部の区画内に横筋と縦筋、構文施す。充填後、一部磨り消しあ。
2	D-70 土	深鉢	良好	砂粒混入	胸部破片	胸部上位の器部を施点付が遺存する。器形変換時に丸棒状工具による 2 条の横位並行沈縫を施す。沈縫上位、遺存部においては無文。沈縫下位、同工具による縦位基調直線状・弧状化継ぎを施す。
3	D-70 土	深鉢	良好	砂粒混入	胸部破片	沈縫で区画し、一部の区画内に単筋 RL 繩文施す。 縫文充填。充填後、一部磨り消しあ。
4	D-70 土	鉢または深鉢	普通	砂粒混入	胸部～底部破片	小型斜角、沈縫で区画し、一部の区画内に単筋 RL 繩文施す。
5	D-70 土	深鉢	良好	砂粒・褐色繩混入	口縫部～胸部	外面は無文。前面口縫部直下に浅い沈縫痕みを認む。
					八	後期？

A区 D - 71号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-71 土	深鉢	良好	砂粒・白色繩混入	口縫部～胸部下	（4）器形・文様等の特徴／備考 直立する平口縫、單筋 RL 繩文を全面体に施す。口縫部に丸棒状工具による 2 条の横位並行沈縫を施す。沈縫間に上下交叉突起を施す。横位沈縫下位には丸棒状工具による横位・縦位・弧状等沈縫を施す。胸部には、Y 字状又は上部を閉じた Y 字状沈縫を、高さを交互に変えて施す。
2	D-71 土	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	胸部破片	半截竹管状工具による平行沈縫（一部半隆起線状）を格子目状に施す。その後、同工具による平行沈縫（半隆起線状）を横位基調に施す。
3	D-71 土	深鉢	普通	砂粒・植物纖維混入	口縫部破片	やや内反する平口縫。やや内反する平口縫を施す。
4	D-71 土	深鉢	普通	砂粒・植物纖維混入	胸部～底部破片	不明瞭ではあるが、単筋 RL と LR の羽状継ぎ文。底部はやや上げ底状を呈する。

A区 D - 72号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-72 土	深鉢	普通	砂粒・褐色繩混入	口縫部～胸部	（4）器形・文様等の特徴／備考 浅縫と浅縫上に引け縫。單筋 RL 繩文帯を複数区画する。各区画は半月状を呈し、区画内には縦位沈縫を施す。預部は無文。胸部は単筋 RL 繩文施す。
2	D-72 土	深鉢	普通	砂粒混入	胸部 3/5	口縫部表面の一部と肩部が遺存する。預部に上口縫部表面帯を区画する。区画内には横位・縦位条縫を施す。胸部、縦位条縫文、底部、不明瞭だが網代状。

A区 D - 73号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-73 土	深鉢	普通	砂粒・白色繩混入	胸部破片	（4）器形・文様等の特徴／備考 砂粒条縫文、丸棒状工具による横位・斜位沈縫を施す。所謂通弧文。
2	D-73 土	深鉢	良好	砂粒混入	底部破片	砂粒条縫文、底部、不明瞭だが網代状。
3	D-73 土	深鉢	普通	砂粒・白色繩混入	胸部破片	丸棒状工具による沈縫を区画する。一部の区画内に同工具による斜位条縫を残らし施す。

A区 D - 74号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-74 土	鉢	良好	砂粒混入	口縫部～底部破片	（4）器形・文様等の特徴／備考 ボウル型の鉢と想定される。口縫部最上位厚みを有する。体部上位、2 条の横位沈縫で区画し、沈縫間に無文。無文部は丁寧に磨いている。体部中位、単筋 RL 繩文施す。遺存部最下位に、沈縫の一部が考えられる部分が認められるが、モチーフ・方向性は判然しない。
2	D-74 土	深鉢	普通	砂粒・白色繩混入	胸部破片	鉢縫基調条縫文施す。柱状工具による円形刺突を縦位に配す。
3	D-74 土	深鉢	良好	砂粒・黑色繩物混入	胸部破片	腹部 RL 繩文施す。

第 142 表 二軒在家原田遺跡 A 区縄文時代土坑出土遺物観察表 (11)

A区D-76号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-76 土	深鉢	普通 砂粒・植物繊維	銅部破片 混入	単節 RLと LRの羽状縞文施文。	有尾・黒浜
2	D-76 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘土	銅部破片 混入	無節 RL繩文施文。	前期中葉～後葉

A区D-77号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-77 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘土	銅部破片 混入	単節 RL繩文施文。	諸磯 b
2	D-77 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘土・銅部破片 植物繊維混入		単節 RLと LRの羽状縞文を施す。内面は非常に丁寧な磨き。	有尾・黒浜

A区D-79号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-79 土	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部破片	やや外反する平口縁と想定される。口縁部上層、外面に断面三角形の横状縞帶を出す。胴部、橢円状工具による横状縞文が、波状平行沈縞施文後、竹管状工具による円形刺突を縱に施す。遺存部最下位には単節 RL繩文施文。	諸磯 b
2	D-79 土	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部破片	やや外反する平口縁と想定される。口縁部外側に断面三角形の横状縞帶を出す。断面下位は単節 RL繩文施文後、半截竹管状工具押し引きによる横状V字形文を並行して施す。	諸磯 b
3	D-79 土	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部破片	やや外反する平口縁と想定される。口縁部外側に断面三角形の横状縞帶を出す。断面下位は半節 RL繩文施文後、半截竹管状工具押し引きによる横状V字形文を並行して施す。	諸磯
4	D-79 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘土	銅部 1/5 黄母混入	単節 RL繩文施文後、半截竹管状工具押し引きによる横状V字形文を並行して施す。口縁部文様帶、半截竹管状工具押し引きによる爪形文で木葉状文は木葉十三角形文に区画する。区画外は磨り消しか。さらに、竹管状工具による円形刺突文を配す。	諸磯 b
5	D-79 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘土	銅部破片 混入	単節 RL繩文施文後、巻曲状工具による横状直縞文・波状平行沈縞を施す。	諸磯 b
6	D-79 土	深鉢	良好 砂粒混入	銅部破片	単節 RL繩文施文、巻曲状工具押し引きによる爪形文を並行して施す。さらに竹管状工具による円形刺突文を配す。	諸磯 a ~ b
7	D-79 土	深鉢	良好 砂粒・白色粘土	銅部破片	単節 RL繩文施文。結節部を上位に横転がる。	諸磯
8	D-79 土	深鉢	普通 砂粒混入	銅部～底鉢破片	底部より丸柱を持ちながら胴部へと立ち上がる。基本的に無文であるが、一部に単節 LR繩文が認められる。	諸磯 b ?
9	D-79 土	台付土器	普通 砂粒・繩混入	底部～台部 1/10	無文。台部内外面は丁寧な磨き。	中期後葉

A区D-80号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-80 土	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部破片	細かい竹管状工具による斜面押し文を複数に施す。内面は丁寧な磨き。	諸磯 b
2	D-80 土	深鉢	普通 砂粒混入	銅部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を横転・斜転に施す。一部の区画内には竹管状工具による円形刺突文を呈す。また別の区画には単節 RL繩文を施す。さらに、不鮮明ではあるが、部分的に半截竹管状工具による平行直縞文を連続して施す。	諸磯 b
3	D-80 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘土	銅部破片 混入	単節 RL繩文施文。	諸磯

A区D-81号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-81 土	深鉢	普通 砂粒混入	銅部破片	半截竹管状工具押し引きによる斜面爪形文を施す。爪形文に並行して斜面直縞文を並続して施す。浮線文状を呈す。一部の区画には斜面爪形工具による円形刺突文を配す。	諸磯 b
2	D-81 土	深鉢	良好 砂粒・白色粘土	銅部破片 混入	単節 RL繩文施文。	諸磯 b

A区D-82号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-82 土	深鉢	普通 砂粒・植物繊維 混入	口縁部破片	4 単位波状口縁部直縞と想定される。半截竹管状工具押し引きによる爪形文を、口縁部に並行して3条施す。	有尾
2	D-82 土	深鉢	普通 砂粒・植物繊維 混入	口縁部破片	巻曲状工具による直縞・斜列点刺状利突を施す。遺存部最下位に区画文を想定される部分が認められる。直縞を十字に区画し、三角形をしている可能性がある。	有尾
3	D-82 土	深鉢	普通 砂粒・植物繊維 混入	銅部破片	単節 RL繩文施文。	有尾・黒浜

第143表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表(12)

A区 D - 85号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-85 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	横位細沈施文後、直線状・弧状粗浮線文で区画する。	諸職 c
2	D-85 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 黑色粘土混入	胴部破片	單層 RL 繩文施文後、並行する横位浮線文を施す。	諸職 b
3	D-85 土	良好	砂粒・植物纖維 混入	口縁部破片		4 単位波状口縁と想定される。口縁部。櫛衝状工具による縱位点状刺突を施す。その下位に、口縁に並行する列点状刺突を施す。	有尾

A区 D - 86号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-86 土	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	複層 RL 繩文施文。丸棒状工具による蛇形沈線を垂下させた。	加賀利 E

A区 D - 88号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-88 土	深鉢	普通	砂粒・植物纖維 混入	胴部破片	直前四合底施文。	有尾・黒浜
2	D-88 土	深鉢	普通	砂粒・植物纖維 混入	胴部破片	単層 RL 繩文施文。	有尾・黒浜

A区 D - 89号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-89 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	丸棒状工具による縱位・斜位沈線を施す	加賀利 E
2	D-89 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	胴部破片	口縁部文様帶付近に想定される。隆起で区画し、一部に縱位基調沈線を施す。	加賀利 E

A区 D - 90号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-90 土	深鉢	不良	砂粒・石英・チー ト・片岩・植物 纖維混入	口辺部破片	手截竹管状工具押し引きによる爪形文を斜位直線状・弧状 に施す。	有尾・黒浜
2	D-90 土	深鉢	普通	砂粒・植物纖維 混入	胴部破片	RL・上JRの羽状施文（羽状のモチーフは乱れていて明確で はない）。手截竹管状工具による横位平行沈線（手截竹管状工具による横位平行沈線で区 画する。平行沈線は部分的に途切れている。	有尾・黒浜

A区 D - 91号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-91 土	深鉢	良好	砂粒・白色粘土 混入	口縁部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。爪形文 間に斜位短沈線を連続して施す。	諸職 b
2	D-91 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 角閃石混入	胴部破片	繩文（單層 和・か）施文。浮綱文を施す。	諸職 b
3	D-91 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による縱位平行沈線（半隆起縫状を呈する） で区画し、区画内には横移状沈線を施す。	諸職 c

A区 D - 93号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-93 土	鉢	良好	砂粒・白色粘土 紅泥混入	口縁部破片	3 単位小波状口縁。波頂部には口縁・胴部に横位沈線を施す。波頂 部直下に円孔。崩壊は無文。胴部に横位沈線を施す。波頂部下位には口字貼付文配す。胴部、單層 LR 繩文 施文後、縱位短沈・直線状等尖端を垂下させる。胴部下位は無文。底部の一部に繩文が認められる。外面に煤が多量 に付着する。	昭和内 I
2	D-93 土	深鉢	普通	砂粒・チャート・白 色粘土混入	胴部破片	單層 RL 繩文施文後、半截竹管状工具押し引きによる横位 爪形文で区画する。一部の区画内へ拂でにより繩文磨り消し。	諸職 b
3	D-93 土	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	單層 RL 繩文施文。胴部最下位の破片。單層 RL 繩文施文。	諸職 b

A区 D - 96号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-96 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	單層 LR 繩文施文。半截竹管状工具による横位平行沈線で 区画する。	諸職 b
2	D-96 土	深鉢	普通	砂粒・黑色粘土 混入	胴部破片	單層 RL 繩文施文。	諸職

第144表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表(13)

A区D - 97号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-97 土	深鉢	良好	砂粒・白色粘土・洞部破片 金雲母混入		やや幅の広い半截竹管状工具による横位平行沈縫（半隆起縫状）で区画する。区画内、格子目状沈縫施文後、半截竹管状工具による不整齊平行沈縫を施す。	五頭ヶ谷
2	D-97 土	深鉢	良好	砂粒・白色粘土・洞部破片 金雲母混入		やや幅の広い半截竹管状工具による横位平行沈縫（半隆起縫状）で区画する。区画内、格子目状沈縫施文後、半截竹管状工具によるU字・逆U字・横U字状平行沈縫を施す。	五頭ヶ谷

A区D - 98号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-98 土	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	単筋 RL 調文施文	諸磯 b
2	D-98 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土・洞部破片 混入		半截竹管状工具による横位平行沈縫で区画する。一部の区画内に同工具による刺突文を施す。	浮島

A区D - 99号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-99 土	深鉢	普通	砂粒・植物纖維 混入	口縁部破片	4面反対波状口縁が想定される。口縁部、繩目状工具による縫隙列点刺突文を施す。その下位に、口縁に並行して同工具による点刺突突、半截竹管状工具による平行沈縫（半隆起縫状）を施す。	有尾
2	D-99 土	深鉢	普通	砂粒・植物纖維 混入	洞部破片	籽加査羅文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈縫（半隆起縫状）を施す。	有尾・黒浜

A区D - 100号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-100 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土・洞部破片 植物纖維混入		半截竹管状工具押し引きによる爪形文または同工具による連続刺突を施す。	有尾
2	D-100 土	深鉢	良好	砂粒・植物纖維 混入	洞部破片	直前段合撲羅文施文。	有尾・黒浜

A区D - 101号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-101 土	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	縦子状巻き縫で区画する。区画内、丸棒状工具による縫隙刺突を施す。	加曾利 E 併行
2	D-101 土	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	蛇行隆蒂を施させさせ区画する。区画内、丸棒状工具による縫隙沈縫を施す。	加曾利 E 併行

A区D - 102号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-102 土	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	口縁部破片	内面巻き上部に顯著な接木を有す。口縁部上面には1条の沈縫が認る。外面、隆蒂と沈縫で口縁部文様部を区画する。満巻き状、上下の交替刺突による蛇行隆蒂モチーフが認められる。口縁部文様部下位(面部)は、遺存部において無文。	加曾利 E I ~ II
2	D-102 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土	口縁部破片 雲母混入	伏状口縁部頂部が遺存する。隆蒂と沈縫で口縁部文様部を区画する。隆蒂は合流して把手と連結する。区内には丸棒状工具による斜位沈縫を施す。洞部、弧状(蛇行)、隆蒂で区画する。	加曾利 E I ~ II
3	D-102 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土	洞部破片 雲母混入	巻位直縫部と蛇行隆蒂で区画する。区画内、丸棒状工具による横位・巻位沈縫を施す。	加曾利 E 併行

A区D - 103号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-103 土	深鉢	良好	砂粒・白色粘土	口縁部破片 雲母混入	口縁部に無文帶を有する。口縁部文様部を丸棒状工具による沈縫で区画し、区画内に同工具による巻位沈縫を施す。	加曾利 E I ~ II
2	D-103 土	深鉢	普通	砂粒・黑色粘土	洞部破片 雲母混入	丸棒状工具による斜位沈縫を施す。	加曾利 E

A区D - 104号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-104 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	内反す口縁。半截竹管状工具による横位平行沈縫施文後、刺突状付突起、楔突起を伴うカット状貼付文を施す。	諸磯 c
2	D-104 土	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	半截竹管状工具による斜位平行沈縫を複数枚に施す。さらにも、棒状・ボタン状貼付文を施す。	諸磯 c
3	D-104 土	深鉢	良好	砂粒混入	洞部破片	孤状の結節浮縫文を施す。目玉状モチーフが想定される。	諸磯 c

第145表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表(14)

A区 D - 107号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-107 土	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	手裁竹管状工具による横位・斜位平行沈線を施し、底面状・ボタン状貼付文を配す。	諸磯c併行 (大木系?)

A区 D - 108号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-108 土	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	直角の沈線で区画する。縦位沈線部に並行して逆形が施されている可能性がある。区画内、丸棒状工具による横杉状沈線を施す。	加曾利E 併行

A区 D - 109号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-109 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	手裁竹管状工具押し引きによる横位小形文を並行して施す。	諸磯a ~ b
	D-109 土	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入	口縁部破片	口縁部外反し横位垂帯状を呈する。4本1単位櫛状工具による横位直線文・波状平行沈線を施す。同工具頭部を支持点に崩壊・半円状に削離させた平行沈線。竹管状工具による円形刺突文をする。	諸磯b
2							
3	D-109 土	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	手裁竹管状工具による横位・斜位平行沈線(手縫起線状)で区画する。一部の区画内には縦位沈線で区画している。さらに、竹管状工具による円形刺突文を施す。	諸磯b
4	D-109 土	深鉢	良好	砂粒・白色黏物混入	胸部破片	櫛衝状工具による横位・斜位平行沈線を施す。	諸磯b
5	D-109 土	深鉢	普通	砂粒・白色黏物混入	胸部破片	單面LR 輪文施文。	諸磯b
6	D-109 土	深鉢	良好	砂粒混入	胸部破片	單面RL 輪文施文。	諸磯b

A区 D - 110号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-110 土	深鉢	普通	砂粒・白色黏物混入	口縁部破片	櫛衝状工具による横位平行沈線を施す。	諸磯b
2	D-110 土	深鉢	普通	砂粒・白色黏物混入	胸部破片	手裁竹管状工具押し引きによる弧形文を縦位・斜位に施す。	諸磯b
3	D-110 土	深鉢	普通	砂粒・白色黏物	胸部破片	單面 RL 輪文施文後、手裁竹管状工具による平行沈線を横位直線状・弧状に施す。一部北壁は半縫起線状を呈す。	諸磯b
4	D-110 土	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入	胸部破片	單面 RL 輪文施文後、4本の並行する横位浮線文を施す。浮線文上部に一部に、さらに繩文押印。	諸磯b
5	D-110 土	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	單面 RL 輪文施文。	諸磯b

A区 D - 111号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-111 土	深鉢	普通	砂粒・黒色黏物混入	口縁部破片	丸棒状工具による沈線で口縁部小形文を区画する。区内に単面 RL 輪文施文。	加曾利E I ~ II
2	D-111 土	深鉢	普通	砂粒・白色黏物混入	胸部破片	不明瞭であるが輪文施文。手裁竹管状工具による平行沈線を縦杉状に施す。	中期後葉

A区 D - 112号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-112 土	深鉢	不良	砂粒混入	胸部破片	手裁竹管状工具押し引きによる横位小形文を施す。爪形文・網文押印。(削落部が多く不明瞭)。	諸磯b
2	D-112 土	深鉢	良好	砂粒混入	胸部破片	手裁竹管状工具による横位平行沈線(半縫起線)を施し、底面間に同工具による爪形刺突文を連続して配す。その下部には輪文(推測 RLか)施文。	諸磯b

A区 D - 113号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-113 土	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	單面 RL 輪文施文。	諸磯

A区 D - 114号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-114 土	深鉢	良好	砂粒・白色黏物	胸部破片	丸棒状工具による弧状沈線で区画する。一部の区画内に網文基調条線を施す。	加曾利 E III ~ IV
2	D-114 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	櫛衝状工具による横位直線状・波状平行沈線を施す。	諸磯b

第146表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表(15)

A区D-115号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-115土	深鉢	普通 砂粒・白色粘土	口縁部破片	(1)器形・文様等の特徴／備考 半裁竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。爪形文間に斜位短沈線を連続して施し、浮継文状を呈す。	諸職 b
2	D-115土	深鉢	普通 砂粒・褐色粘土	口縁部破片	半裁竹管状工具による横位平行沈線を施す。	諸職 b
3	D-115土	深鉢	普通 砂粒・白色粘土	胴部破片	半裁竹管状工具押し引きによる爪形文で区画する。	諸職 b
4	D-115土	深鉢	普通 砂粒・白色粘土	胴部破片	半裁竹管状工具押し引きによる斜位爪形文を施す。一部の爪形文間、斜位短沈線を連続して施し、浮継文状を呈す。	諸職 b
5	D-115土	深鉢	普通 砂粒・白色粘土	胴部破片	單節 RL 繩文施文後、半裁竹管状工具押し引きによる横位・斜位爪形文を施す。爪形文間に斜位短沈線を連続して施し、浮継文状を呈す。	諸職 b
6	D-115土	深鉢	普通 砂粒・石英混入	胴部破片	筋部繩文（單節 RL が）施文後、半裁竹管状工具による平行沈線（平陸起継状を呈する）で区画する。	諸職 b
7	D-115土	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	單節 RL 繩文施文。	諸職 b

A区D-117号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-117土	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	(1)器形・文様等の特徴／備考 半裁竹管状工具による横位・斜位平行沈線を施す。小まめのボタン状貼付文を施す。	諸職 c
2	D-117土	深鉢	普通 砂粒・植物纖維混入	胴部破片	④段多条纏文を施す。	有尾・黒浜

A区D-118号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-118土	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	(1)器形・文様等の特徴／備考 外面口縁部直下に断面三角形の縦を有する。縦の下位は横巻状工具による横位直巻線・波状平行沈線を施す。外側の一部が剥落している。	諸職 b
2	D-118土	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	半裁竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。爪形文間に斜位短沈線を連続して施し、浮継文状を呈す。	諸職 b
3	D-118土	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	並行する横位浮継文で区画し、一部の区画内に單節 RL 繩文施文。	諸職 b
4	D-118土	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	單節 RL 繩文施文。	諸職 b

A区D-120号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-120土	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	(1)器形・文様等の特徴／備考 半裁竹管状工具による横位平行沈線と縫合、縫合・斜位短沈線浮継文で区画する。さらに一部にゴタク状貼付文を配す。	諸職 c
2	D-120土	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	横位浮継文を施す。浮継文に並行して細めの棒状工具による円形沈線を連続して施す。	諸職 b
3	D-120土	深鉢	良好 砂粒・白色粘土	胴部破片	單節 RL 繩文施文後、細めの半裁竹管状工具による横位平行沈線（平陸起継状）で区画する。	諸職 b

A区D-120・121号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-120・121土	深鉢	普通 砂粒・白色粘土	口縁部破片	(4)器形・文様等の特徴／備考 細密浮継文を横位・斜位に施す。	諸職 c
2	D-120・121土	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	半裁竹管状工具による平行沈線を縫位・斜位に施す。 縫位沈線は縫状状。	諸職 c
3	D-120・121土	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	單節 RL 繩文施文後、横位浮継文を施す。	諸職 b

A区D-122号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-122土	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部～胴部破片	(4)器形・文様等の特徴／備考 上端が内側する複合状縫合と想定される。口縁部上端の一部に沈窪・斜窪を施す。斜窪内にも施す。胴部・棒状工具による複合状の丸縫を施す。	新石器
2	D-122土 NO1・一括	深鉢	普通 砂粒・褐色粘土 灰色粘・黑色粘物混入	口縁部～底部 1/4	やや歪みがあるが、口縁直立する平行線と想定される。口縁部に1条の直縫帶を施す。底部以下は無文。底部はやや上昇底盤を呈す。棒状工具による調整(?)のために沈窓状の調整痕が認められる。	後期?

第147表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表(16)

A区 D - 123 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-123 土	深鉢	普通	砂粒・混入	洞部破片	棒状工具による比線で区画する。一部の区画内に同工具による刺突を施す。
2	D-123 土	深鉢	普通	砂粒・植物纖維 混入	口縁部破片	波状口縁。口縁部半截竹管状工具による継ぎ沈線を施す。胴部上位、半截竹管状工具押引による爪形文を施す。
3	D-123 土	深鉢	良好	砂粒・白色粘土 混入	口縁部破片	4 単位小波折口縁と想定される。口縁部直下に浅く幅広の沈線を口縁に並行して施す。その下位は半筒 LR 繩文施文。丸棒状工具による沈線を施す。一部の沈線は紙手状。
4	D-123 土	深鉢	良好	砂粒・白色粘土 混入	洞部破片	単層 RL 繩文施文後、断面三角形の低い隆帯で区画する。 単層 RL 繩文施文後、断面三角形の低い隆帯で区画する。

A区 D - 124 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-124 土	深鉢	良好	砂粒・黑色粘土 混入	口縁部破片	内反する4単位双頭波状口縁と想定される。繩文（單屈 RL か）施文後、浮襯文を施す。その後、一部に繩文施文。
2	D-124 土	深鉢	良好	砂粒・白色粘土 混入・金雲母混入	洞部破片	半截竹管状工具による平行沈線で、木葉状・半月状に区画する。平行沈線内、同工具による準純刺突文を施す。
3	D-124 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	洞部破片	半截竹管状工具押引による爪形文を施す。一部の区画内に竹管状工具による刺突文を施す。

A区 D - 125 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-125 土	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	口縁部破片	内面の口縁部直下に棱を有する。半截竹管状工具による半隆起線を施す。一部に陰帶貼付。
2	D-125 土	深鉢	良好	砂粒・白色粘土 混入	洞部破片	遺存部においては無文。

A区 D - 126 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-126 土	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	洞部破片	単層 LR 繩文施文。
2	D-126 土	深鉢	普通	砂粒・植物纖維 混入	洞部破片	有尾・黑底

A区 D - 127 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-127 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	洞部破片	拂り系縞文。
2	D-127 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	洞部破片	加曾利 E I ~ II

A区 D - 128 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-128 土	深鉢	良好	砂粒・黑色粘土 混入	口縁部破片	口縁部最上位外側、刺突又是短沈線状刻みを施す隆帯を施す。その下位は、半截竹管状工具による平行沈線を横位直縞状・矢羽根状に施す。

A区 D - 129 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-129 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	口縁部破片	半截竹管状工具押し引きによる口縁部に並行する爪形文で区画する。口縁部上面・爪形文間に斜位短沈線を連続して施し、浮襯文を呈す。
2	D-129 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁部下位に半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。遺存部最下位に同様の文面と想定される。爪形文間、断面三角形の構造隆帯を貼付。刻み状短沈線を施す。
3	D-129 土	深鉢	不良	砂粒混入	洞部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を横位・斜位に施す。一部に竹管状工具による平行沈線を配す。
4	D-129 土	深鉢	普通	砂粒・植物纖維 混入	洞部破片	付加彌縫文を羽状に施す。
5	D-129 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	洞部破片	有尾・黑底

A区 D - 130 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-130 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	口縁部破片	洞部最上位で横位する4単位状口縁と想定される。単層 LR 繩文施文後、横位直縞状・斜位弧状縞文を施す。
2	D-130 土	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線を区画する。一部の沈線に沿って同工具又は棒状工具による研究文を施す。

第148表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表(17)

A区D-131号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-131 土	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物	胴部破片	溝巻き状浮羅文を施す。
2	D-131 土	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物	胴部破片	横位直線状・棒子状浮羅文を施す。

A区D-132号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-132 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	全体的に磨滅が著しい。繩文（不明瞭）施文後、丸棒状工具による2条一組の縦位沈線で区画する。

A区D-133号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-133 土	深鉢	普通	砂粒混入	1/2	4 単位波状口縁。波頂部下位にV字状貼付文。單節 RL 繩文施文。

A区D-134号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-134 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物	胴部破片	単節 RL 繩文施文。
2	D-134 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	4 単位の縦位沈線で区画する。

A区D-135号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-135 土	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物	胴部破片	棒状工具による深めの洗刷で、縦位・弧状・轍字状に区画する。
2	D-135 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	胴部上位片と想定される。横位圧痕帯を示す。
3	D-135 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	胴部上位片と想定される。横位圧痕帯を示す。
4	D-135 土	小型鉢	良好	砂粒混入	体部破片	2条の縦位並行沈線を示す。
5	D-135 土	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物	胴部～底部破片	遺存部においては無文。内外面ともに丁寧な磨き。
6	D-135 土	鉢	普通	砂粒・白色鉱物	口縁部破片	体部上位で内屈する鉢と想定される。棒状把手を施す。
7	D-135 土	ミニチュア鉢	普通	砂粒・白色鉱物	底部破片	3条一组の縦位沈線に亘り、4単位に区画すると考えられる。

A区D-136号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-136 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁と想定される。横位圧痕帯を示す。
2	D-136 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁部上端内側に、断面三三角形の疊帶状の模様を有する。外側、丸棒状工具による洗刷で区画する。
3	D-136 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物	口縁部破片	棒状工具による横位沈線を示す。
4	D-136 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	低い疊帶状洗刷で区画する。区画内には単節 LR 繩文施文。さらに、区画連続部に棒状工具による刻突を示す。
5	D-136 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	全体的に洗刷している。棒状工具による洗刷で区画する。一部の区画に繩文（単節 LR か）施文。
6	D-136 土	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物	胴部破片	棒状工具による横位沈線で区画する。一部の区画内に単節 LR 繩文施文。
7	D-136 土	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 繩文施文後、棒状工具による縦位基溝の洗刷で区画する。
8	D-136 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	平行する弧状浮羅文を施す。
9	D-136 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による網状突起を施す。
10	D-136 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具により、斜めからぐらぐらするような網状突起を施す。
11	D-136 土	深鉢	普通	砂粒・黑色鉱物	口縁部破片	口縁部に幾文帯を有する。無文帯下位に丸棒状工具による洗刷で口縁部浮羅文を区画する。区画内に同工具による縦位沈線を示す。
12	D-136 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物	胴部破片	胴部上位片と想定される。単節 RL 繩文施文後、丸棒状工具による浅く幅広の縦位沈線で区画する。さらに、一部に網状突起を施す。

第149表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表(18)

A区 D - 138号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-138土	深鉢	普通 砂粒・金雲母混入	口縁部破片	底面部に孔を有する痕状口縁。半裁竹管状工具による平行沈線を格子状に施し、同工具による平行沈線で区画する。孔の下位に横柱把手を有す。内部に顯著な段差を有し、口縁部と底部部を半裁竹管状工具の握でにより整形している。	五頭ヶ台
	2	D-138土	深鉢	普通 砂粒・白色粘土混入	底部破片	底部最下位の痕。単面部LR繩文施文。

A区 D - 139号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-139土	深鉢または鉢	普通 砂粒混入	底部破片	底部上位の底部支承部付近にて規定される。2条の並行する横柱帶で区画する。口縁部からは加熱痕帯が垂下していいると思われる。横柱帶下位は丸棒状工具による沈線で区画し、一部の区画内に単面部LR繩文を施す。	坂之内 1
	2	D-139土	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部破片	平口縁の小型深鉢と想定される。2条の並行する横柱帶を巡らせる。内部最上位は2条の横柱帶を呈する。

A区 D - 140号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-140土	深鉢	不良 砂粒・白色粘土混入	口縁部破片	④器形・文様等の特徴/備考 やや内反する口縁部。陰帯と浅縫で口縁部文様帯を区画し、区画内に半裁竹管状工具による縦位平行沈線を施す。	加賀利 E I ~ II
	2	D-140土	深鉢	普通 砂粒・金雲母混入	底部破片	半裁竹管状工具による斜位平行沈線で区画する。一部の沈線に沿つて棒状工具による三角形の刻文を施す。

A区 D - 141号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-141土	深鉢	普通 砂粒・白色粘土混入	口縁部破片	口縁部上面に丸棒状工具による沈線を施す。	後期
	2	D-141土	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	遺存部においては無文。後期粗製土器か。

A区 D - 143号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-143土	鉢又は深鉢	普通 砂粒・白色粘土混入	体部破片	遺存部においては無文。	中期後葉?

A区 D - 145号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-145土	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部破片	④器形・文様等の特徴/備考 口縁部に幅の狭い無文帯を有す。無文帯下位、陰帯で区画する。一部に単面部LR繩文施文。	加賀利 E III
	D-145土	深鉢	普通 砂粒・灰色鐵混入	底部破片	単面部LR繩文施文後、浅く幅広の縱位沈線で区画する。一部の区画内に横溝。	加賀利 E I
	D-145土	小型深鉢	普通 砂粒混入	底部破片	丸棒状工具による斜位の沈線と、沈線に並行する長い陰帯で区画する。一部の区画内に単面部LR繩文施文(斜め転がし)後、横溝が生じる。	中期?

A区 D - 147号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-147土	深鉢	不良 砂粒・褐色鐵・雲母混入	底部～底部1/10範囲へ斜位条線施文後、丸棒状工具による2条～3条の縦位陰溝により区画する。4単位又は5単位か。全体的に施文が疊である。	加賀利 E	

A区 D - 149号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-149土	深鉢	普通 砂粒・白色粘土・雲母混入	口縁部～胸部 1/10	④器形・文様等の特徴/備考 ほぼ直立する平口縁と想定される。口縁部下位に横位陰帯を巡らす。	後期?
	D-149土	深鉢	良好 砂粒・白色粘土混入	底部破片	外面部丁寧な磨き。口縁部下位に横位陰帯を巡らす。	後期
	D-149土	深鉢	良好 砂粒混入	底部破片	丸棒状工具による深い沈線で区画する。外面部丁寧な磨き。	称名寺
	D-149土	深鉢	普通 砂粒・白色粘土混入	底部破片	ほぼ直立する平口縁深鉢の胸部上位と想定される。横位正規陰帯を巡らす。	後期
	D-149土	深鉢	普通 砂粒・白色粘土混入	底部破片	陰帯と浅く幅広の沈線で口縁部文様帯を区画する。区画内単面部LR繩文施文。	加賀利 E
	D-149土	深鉢	良好 砂粒混入	底部破片	口縁部文様帯の一部と想定される。陰帯で区画し、区画内に縦位沈線を施す。	加賀利 E I ~ II

第150表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表(19)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②釉土	③残存	
7	D-149 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土・胴部破片	口縁部文様等の一部と想定される。隆帯で区画し、区画内に斜位条縫を施す。	加賀利E
8	D-149 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土・頭部混入	砂粒と混入で口縁部文様等を区画する。区画内単筋 細、隔文。	加賀利E I ~ II
9	D-149 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土・頭部混入	圓文（摩訶のため不明瞭）蓋文後、丸棒状工具による2条一部の区画に隆帯（垂下する蛇行隆帯）を施す。	加賀利E
10	D-149 土	深鉢	良好	砂粒混入	輪状工具による継位直線状の条縫を施す。	加賀利E

A区D-150号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	D-150 土上層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁部器が遺存する。波頭部下位に孔を有する。胴部、棒状工具による斜位直線縫を施す。	称名寺
2	D-150 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具による上位の文様を施す。一部の区画内に、同工具による2列状直線縫を施す。	称名寺
3	D-150 土上層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	説文のため不明瞭）蓋文後、丸棒状工具による2条一部の区画に隆帯（垂下する蛇行隆帯）を施す。	称名寺
4	D-150 土中層	深鉢	良好	砂粒・白色粘土・胴部	1/10 褐色混入	棒状工具による捺めの文様を施す。一部に逆字状のモチーフが認められる。	称名寺
5	D-150 土中層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部に無文帶を有し、胴部との境界に刻みを施した横位隆帯を有す。胴部は垂下する隆帯により区画する。区画内は無孔 L 延長し直角に交又しに配するものと思われる。	中期末葉～後期初頭
6	D-150 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁部と想定される。口縁部下位に列状直線突井伴う横位隆帯を有す。	中期末葉～後期初頭
7	D-150 土上層	深鉢	普通	砂粒・黑色粘土	口縁部破片 混入	ほぼ直立する平口縁と想定される。口縁部下位に横位直線隆帯を有す。	後期前葉
8	D-150 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土・口縁部破片 黑色粘土混入		平口縁と想定される。圧痕隆帯を施す。	中期後葉～後期
9	D-150 土中層	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維	口縁部～胴部 白色粘土混入 1/5	口縁部に横位直線隆帯を有す。	後期
10	D-150 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁と想定される。遺存部においては無孔 L 延長し直角に交又しに配するものと思われる。	後期？
11	D-150 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部下位に横位隆帯を有す。胴部の遺存部は少ないが、横位直線から垂下する横位隆帯で区画すると想定される。	加賀利E IV
12	D-150 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土	口縁部破片	4 单筋直口縁と想定される。隆帯と幅広で深い溝跡で区画する。一部の区画に、圓文施文。	中期末葉
13	D-150 土上層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	やや内反する4单筋直口縁と想定される。丸棒状工具による横位直線で区画する。一部の区画内に単筋 L 延長圓文（横筋が長い、一部に斜めがい）。	加賀利E IV
14	D-150 土上層	小型深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	胴部下位の耳付部を有す。断面三角形の隆帯で区画し、一部の区画内に無孔 L 延長圓文を施す。	加賀利E IV
15	D-150 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	2条一組の継位隆帯で区画する。区画内、丸棒状工具による横位沈縫を施す。	加賀利E
16	D-150 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	丸棒状工具による継位直線状・弧状沈縫を施す。	堀之内 I
17	D-150 土中層	深鉢	普通	砂粒・黑色粘土	胴部破片 混入	頸部から胴部上位にかけて有すると考えられる。無文の箇部に斜位突井伴う隆帯を貼付する。内面に炭化物付着。	堀之内 I

A区D-151号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	D-151 土 NO1	杯	普通	砂粒・白色粘土・注口形	口縁部に不明瞭な沈縫を有す。口縁部は無文。底部以下には2条一組を基本とする沈縫を、横位・縱位・高巻き状等に施す。区画する。一部の区画内には単筋 L 延長圓文を施す。	後期初頭～前葉	
2	D-151 土	深鉢	良好	砂粒・白色粘土	口縁部破片 雲母混入	上端部が内側する波状口縁と想定される。棒状工具による深い沈縫で区画する。	称名寺
3	D-151 土上層	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	口縁部破片	内反する波状口縁と想定される。口縁部上端厚みを有する。棒状工具による逆位直線で区画する。一部に同工具による斜位直線を施す。	称名寺
4	D-151 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部上端、内外面に横位直線状の部分を有す。外面、口縁部に並行する沈縫と円形斜突を施す。内面、円形斜突を施す。 ほぼ直立する平口縁と想定される。横位直線隆帯を施す。	称名寺 II ~ III 堀之内 I
5	D-151 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口縁部に無文帶を有し、胴部との境界に断面三角形の横位隆帯を有す。	中期後葉～後期
6	D-151 土 中層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	深鉢の把手部分。把手中央に孔を有する。上面、両端部に刺突井伴う沈縫を施す。外側の一部に朝天文が認めるが、摩訶のため不明確。一部に円形斜突を施す。	堀之内 I
7	D-151 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土	口縁部破片 混入	把手。外側に棒状工具による刺突井及び沈縫を施す。側面には長格円形の孔を有する。	堀之内 I
8	D-151 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	把手。内面に棒状工具による刺突井及び沈縫を施す。側面には長格円形の孔を有する。	堀之内 I

第151表 二軒在家原田遺跡A区圓文時代土坑出土遺物観察表(20)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
9	D-151 土中層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	やや外側に開口部線と想定される。縦状工具による横位基調拂で施す。強めに拂で、あえて平滑にはせず、意図的に微隆起線状の高まりを生じさせていると考えられる。	後期?
10	D-151 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	横状工具による施錆で区画する。一部の区画内に、同工具による刺突を施す。	称名寺
11	D-151 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縦帯と丸棒状工具による縦線で区画する。一部の区画内に列点状刺突を施す。	称名寺
12	D-151 土中層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	胴部上位の器形は横点付近が遺存する。横位施錆と施錆で区画する。一部の区画内には横状工具による列点状刺突を施す。さらに、一部に刺突を伴う波打付文、縦突文を施す。	称名寺
13	D-150 土上層 -D-151 土中層 -D-151 土上層	深鉢または鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	遺存部からは、特殊を帯びた器形が想定される。隆背で区画する。全体のモーフは不明だが、済みき状を施錆隆背で連結している可能性が考えられる。一部の隆背の高さは低く、微隆起線状を呈する。内面は下唇な横位施錆。	後期?

A区 D - 152 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-152 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	施錆と施錆で口縁部文様帶を区画する。区画は半円形と思定される。区画内には複数縦文施文。区画連結部には、済みき状チフチフの隆背を施す。	加曾利 E I
2	D-152 土	深鉢	普通	砂板・青母混入	胴部破片	口縁部文様帶一部が遺存すると思定される。口縁部文様帶の下位は2珠帶で区画する。施錆は無文。肩部と胴部文様帶の境界には、丸棒状工具による横位並行施錆を3条施す。肩部、周辺上部。縦文施文。	加曾利 E I
3	D-152 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	拂り衣を施す。	加曾利 E
4	D-152 土	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	口縁部破片	4単位波状口縁部波頭部と想定される。半截竹管状工具による平行施錆（半隆起線状）を施す。	十三吉提

A区 D - 153 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-153 土	深鉢	不良	砂粒混入	胴部破片	単節 R. 縦文施文、横位直線状・弧状浮雕文で区画する。さらに、浮文に並行して細めの拂状工具による円形制削を連続して施す。	諸職 b

A区 D - 154 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-154 土	鉢	普通	砂粒・黒色粘土 混入	口縁部破片	拂り衣と縦状を呈する。遺存部においては無文。内外面に色彩。	加曾利 E
2	D-154 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	胴部破片	丸棒状工具による2条一組の縦位施錆で区画する。区内には単節 R. 縦文施文。全般的に摩滅している。	加曾利 E

A区 D - 155 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-155 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	口縁部～胴部下 部 3/4	單節 LR. 縦文施文。口縁部文様帶を施錆で区画する。区内には単節 R. 斜位施錆。胴部、縱位直線状・弧状・済みき状等施錆により区画し、一部の区画内に縦文施文。	中期後葉

A区 D - 156 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-156 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 黑色粘土混入	口縁部～胴部 2/3	口縁部に施錆されたと考えられる。単位の小突起が、いずれも剥落している。施錆と施錆により口縁部文様帶を区画する。区内には単節 R. 斜位施錆。胴部、拂り衣施文後、2条一组の縦位施錆により4単位に区画する。各区画内には蛇行捺痕を施す。	加曾利 E I
2	D-156 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 黑色粘土・石英 混入	2/5	やや内凹する口縁部。口縁部は無文。胴部以下に半截竹管状工具による半隆起線状を施す。脇部に波状・斜位粘付文を施す。	荷利 I
3	D-156 土	浅鉢	良好	砂粒・白色粘土 雲母混入	1/10	遺存部においては無文。内外面共に部分的に赤彩が認められる。	加曾利 E I
4	D-156 土	鉢	普通	砂粒・白色粘土 黑色粘土混入	口縁部破片	無文の跡と想定される。外面丁寧な磨き。内面に部分的に赤彩が認められる。	加曾利 E

A区 D - 157 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-157 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 植物繊維混入	口縁部破片	無節 Rと単節 LRの羽状施文を施す。	有尾・黒底
2	D-157 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	胴部破片	単節 RLと単節 LRの羽状施文を施す。	有尾・黒底

第152表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表(21)

A区D-158号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-158 土	深鉢?	普通	砂粒・黒色鉱物	底部破片	底部上位底状を呈する。底位底縁が僅かに残存する。	加曾利E?
2	D-158 土	深鉢または 鉢	普通	砂粒混入	底部破片	遺存部においては無文。	中期～後期

A区D-159号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-159 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・銅部破片 黒色鉱物混入	銅部破片	口縁部文様等へ斜部付近が遺存する。隆帯と沈縁で口縁部文様帶を区画する。区画内には単節LR繩文施文。頭部、遺存部においては無文。	加曾利E?

A区D-160号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-160 土	深鉢	普通	砂粒混入	銅部破片	丸棒状工具による斜位弧状沈縁を施す。	加曾利E

A区D-161号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-161 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・銅部破片 雲母混入	銅部破片	棒状工具による斜位弧状沈縁を施す。	中期?

A区D-163号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-163 土	深鉢	普通	砂粒・黑色鉱物・銅部破片 混入	銅部破片	縦位又は斜位多綫を施す。	加曾利E

A区D-164号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-164 土	深鉢	普通	砂粒混入	銅部破片	棒状工具による斜位多綫を施す。	加曾利E
2	D-164 土	鉢	普通	砂粒混入	銅部破片	内外面並に丁寧な磨き、外縁、遺存部においては無文。	加曾利E
3	D-164 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・銅部破片 角閃石混入	銅部下位破片	銅部下位から底部迄にて広範な磨き、銅部最下位が遺存する。半截竹管状工具によるU字状の蛇行沈縁(隆起線状)を施す。	中期前葉

A区D-165号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-165 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部上端を有する。棒状工具による沈縁で、構円形に口縁部文様等を区画する。区画内、単節LR繩文施文。	加曾利E I～II
2	D-165 土	深鉢	普通	砂粒混入	銅部破片	2条一組の縱位縁帯で区画する。内側に単節KL繩文施文。	加曾利E I～II

A区D-166号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-166 土	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物	口縁部破片 黒色鉱物混入	口縁部上端を有する。銅部、隆帯で区画し、一部の区画内に単節LR繩文を施す。	加曾利E III～IV
2	D-166 土	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物	口縁部破片	口縁部上端を有する。銅部、縦位隆帯で区画し、区画内に単節RL繩文施文。	加曾利E IV
3	D-166 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物	口縁部破片 白色鉱物混入	口縁部上端に内屈する。棒状工具による沈縁で区画し、一部の区画内に単節LR繩文を施す。	称名寺
4	D-166 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁波紋部、波頂部に棒状把手を貼付し、沈縁と円形刺突を施す。内面にU字縫と円形刺突を施す。	称名寺Ⅱ
5	D-166 土	深鉢	普通	砂粒・角閃石	口縁部破片	波状口縁波紋部近位に直存。波頂部に孔を有す。銅部、刺突伴う隆帯で区画。一部、刺突伴う円形貼付文を配す。	堀之内
6	D-166 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部上端に外側に丸棒状工具による沈縁を施す。それ以外は遺存部においては無文。	堀之内

A区D-168号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-168 土	深鉢	普通	砂粒混入	銅部破片	単節KL繩文施文。	中期後葉?

A区D-169号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-169 土	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	口縁部～銅部破片 片	やや外反する平口縁で想定される。隆帯と沈縁で口縁部文縁帯を円形に区画する。区画内、丸棒状工具による斜位沈縁を施す。銅部、2条一組の縱位縁帯で区画する。区画内には自然系施文。	加曾利E I～II

第153表 二軒在家原田遺跡A区繩文時代土坑出土遺物観察表(22)

A区D—170号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②軽土	③残存	
1	D-170 土	不明	良好	砂粒	脚部破片	小破片のみ明確ではないが、横方向の広幅の丸錐状痕みが認められる。外面の一部と内面全体に赤色塗装を施す。全体的に精製の感が強い。
2	D-170 土	深鉢	普通	砂粒・白色氷物 混入	脚部破片	遺存部においては無文。

A区D-171号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④洞形、文様等の特徴/備考	
1	D-171 土	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	口縁部破片	波状口縁と想定される。口縁部に周辺内外に横様の隆起を施す。	加賀利E 中段階併行
2	D-171 土	深鉢または鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	やや内反する平口縁と想定。棒状工具による浅く不明瞭な凹痕を横に並んで2列。その下位に斜面状の凹痕を施す。	加賀利E併行
3	D-171 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	直巻き状(遺存するものは弧状)底面で区画し、区画内に沈線を施す。	加賀利E併行

A区D-174号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②釉上 良好	③残存 硝和混入	④器形・文様等の特徴/備考 胴部破片	
1	D-174 上	深鉢	単層	LR織文施文			加古利 E?
2	D-174 土	鉢	普通	砂程・黒色軋物	本體破片	無文の状態記述される。	加古利 E
3	D-174 土	深鉢	普通	砂程・白色軋物	口縁部破片	胴部上位が顕著に内屈する4單位波状口縁深鉢と想定される。標高基準浮標文並行して記す。	諸鏡 b

AIKD-175 線上版

番号	遺構名	種類	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
D-175 土 1	鉢	普通 砂粒・雲母混入	胴部1/10	口縁部が外反する様に想定される。棒状工具による横巻立窯 により上部に区画する。沈底上位。巻き具・三角形形状に 区画し、一部の区画内に単脚LR構文を充填する。沈底下 位は非常に丁寧な施工作。	四瓣形・文様等の特徴 / 備考	後之見2
2 D-175 土	深鉢	普通 砂粒混入	胴部破片	断面を施す。一部は矢羽根状を呈する。		中廟?
3 D-175 土	浅鉢	不良 砂粒混入	胴部破片	單脚LR構文を施す。外面の摩耗が著しい。		加曾利E

AIKD = 176 呈上坡

番号	構造名	種類	成・整形技術の特徴			時期
			①焼成	②釉土	③残存	
1	D-176 下	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	觸部破片	④凹面、弦紋等の特徴 / 備考 口縁部 装飾帶から頸部上位が遺存する。⑤疊形と浅鉢 で口縁部装飾帶を共通化。区画内に綱目位装飾を施す。 疊形の一部が残る。脛部には丸柱状工具による綱目位装飾を施す。
2	D-176 上	深鉢	普通	砂粒混入	觸部破片	單層LR編文施加。

A区D-177号土坑

番号	構造名	器種	成・整形技術の特徴			時期	
			①地成	②前土	③残存		
1	D-177 土	深鉢	普通	砂粒・黑色風化 褐色風化、灰色鐵 鋸入土	胸部破片	輪軸状工具による網目、斜位条縫施文後、丸棒状工具によ る縱位沈錆（2 条一組）で区画する。沈錆間は削て。	加曾利 E
2	D-177 土	深鉢	普通	砂粒・藍青混入	胸部破片	単筋 1.8cm 錆文施文後。丸棒状工具による 3 条一組の縱位沈 錆で区画する。	加曾利 E

— 1 —

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-178 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁部内屈し、内側に横状の突起を有する。棒状工具による沈拂で区画し、一部に単脚組・繩文施文。繩文は不明瞭。	弥生寺
2	D-178 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物混入	胸部破片	胸部上位の器形変遷点迄が遺存する。棒状工具による沈拂で区画する。一部の区画に繩文施文。	弥生寺
3	D-178 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部と底盤部で口縁部棒状突起を有する。区画は長方形か。区画内には繩文施文(不明瞭)。区画連結部には、一部削落しているが湯呑状チリ子を施していると想定される。	加曾利E Ⅰ～Ⅱ
4	D-178 土	深鉢	普通	砂粒・黒色粘物混入	胸部破片	2条一組の崩壊陸帯で区画する。区画内には九棒状工具による横列沈拂を施す。	加曾利E併行
5	D-178 土	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	崩壊と並行に並行する沈拂で区画する。区画内には丸棒状工具による沈拂を施す。	加曾利E併行(中部高地系)
6	D-178 土	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	半載断面工具による崩壊平面と比較して区画する。区画内に同工具による平行沈拂を被形式とする。	加曾利E併行

第154表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表(23)

A区D-179号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-179 土下層	深鉢	良好 砂粒・黒色粘物 混入	口縁部破片	器部が内側する状況口縁部を想定。口縁部下位に横位正確縫帶を1条造る。波頂部付近にJ18の字状貼付文を施す。	墳之内Ⅱ
2	D-179 土下層	深鉢	良好 砂粒・白色粘物 混入	口縁部破片	口縁部が内側する。波頂部付近にJ18の字状貼付文を施す。	後期
3	D-179 土下層	注口土器	良好 砂粒混入	口縁部破片	器部が内側する。波頂部付近にJ18の字状貼付文を施す。	墳之内
4	D-179 土下層	深鉢	普通 砂粒・角閃石・銅部破片 雲母混入	口縁部破片	器部が内側する。一部の区画内に單語 LR 織文施す。	称名寺

A区D-180号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-180 土	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	やや外側に開く平口縁部を想定される。波頂部下位に縫帶を施す。縫帶以外、遺存部においては無文。	加賀利E Ⅰ～Ⅱ
2	D-180 土	深鉢	普通 砂粒・雲母混入	銅部破片	縫帶沈織文後、斜位（蛇行）・弧状沈縫を施す。	加賀利E 併行
3	D-180 土	深鉢	良好 砂粒混入	銅部破片	縫帶沈織文後、丸棒状工具による斜位沈縫を施す。	加賀利E 併行
4	D-180 土	鉢？	良好 砂粒・白色粘物 混入	体部破片	遺存部においては無文。外面は丁寧な磨き。内面の一部に赤影が認められる。	中期後葉

A区D-181号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-181 土	深鉢	普通 砂粒・褐色織混入	口縁部破片	縫帶と斜位による口縁部沈織文を区画する。区画内には縫帶沈織文、一間に溝巻き状縫帶を配す。胴部、陸帯（蛇行陸帯）により区画し、一部の区画内に縫位沈縫を施す。	加賀利E
2	D-181 土	深鉢	良好 砂粒・褐色織混入	口縁部破片	胴部上位において内反する、波状口縁の可能性がある。口縁部、斜位に縫帶を伴う横位縫帶を1条造る。胴部は燃り赤影が認められる。	加賀利E
3	D-181 土	深鉢	良好 砂粒・褐色織混入	銅部～底部破片	丸棒状工具による縫位沈縫（2束一組分）で区画する。一部の区画内に單語 RL 織文施す。	加賀利E
4	D-181 土	深鉢	普通 砂粒・褐色織混入	銅部破片	燃り赤影後、2束一組の縫位縫帶を施す。	加賀利E

A区D-182号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-182 土	深鉢	普通 砂粒混入	銅部破片	2束一組の縫位縫帶で区画する。内側に単語 RL 織文施す。	加賀利E
2	D-182 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘物	銅部破片	半載竹管状工具による縫位基調平行細沈縫を施す。	加賀利E
3	D-182 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘物	口縁部破片	波状口縁の波頂部付近を想定される。棒状工具による深めの沈縫で区画する。一部の区画内に単語 LR 織文充填。口縁部上面に棒状工具による軋突を施す。	称名寺?

A区D-183号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-183 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘物 混入	口縁部破片	口縁部、内外反する平口縁を想定される（内側は一部破損）。陸帯と沈縫で口縁部文様帶を区画する。一部に溝巻き状沈縫が認められる。	加賀利E Ⅰ～Ⅱ
2	D-183 土	深鉢	普通 砂粒混入	銅部破片	縫位溝隙を施す。	加賀利E

A区D-185号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-185 土	深鉢	普通 砂粒・褐色織混入	口縁部破片	口縁部下位に断面三角形のない陸帯を横位に施す。	加賀利E
2	D-185 土	深鉢	普通 砂粒・白色粘物・銅部破片 灰色織混入	銅部破片	棒状工具による沈縫で逆U字形に区画する。一部の区画内に無筋の縫位文塊。	加賀利E Ⅲ～Ⅳ
3	D-185 土	深鉢	普通 砂粒混入	銅部破片	縫位溝隙で区画する。一部の区画内に棒状工具による斜位沈縫を施す。	加賀利E

A区D-187号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-187 土	深鉢	普通 砂粒・褐色織混入	口縁部破片	(a)適用・文様等の特徴／備考 やや内反する平口縁を想定される。陸帯と沈縫で口縁部文様帶を区画する。区画内に単語 RL 織文施す。区画連絡部に溝巻き状モチーフ。	加賀利E Ⅰ～Ⅱ
2	D-187 土 上面	深鉢	良好 砂粒・黑色粘物 混入	口縁部破片	口縁部に無筋文帯を有す。陸帯と沈縫で口縁部文様帶を区画する。半円形分、区画内、丸棒状工具による縫位沈縫を施す。	加賀利E Ⅰ～Ⅱ
3	D-187 土 上面	深鉢	普通 砂粒・黑色粘物・銅部破片 褐色織混入	銅部破片	2束一組の縫位沈縫で区画する。区画内に斜位沈縫を施す。加賀利E 併行	加賀利E 併行

第155表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表(24)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②粘土	③残存		
4	D-187 土 上面	深鉢	不良	砂粒・褐色織混 入	洞部破片	縦帶で口縁部文様帯を区画する。区画内、棒状工具による横位沈線(2条一組)で区画し、区画内に同工具による斜位沈線を施す。 単層 RL 繩文施文後、丸棒状工具による蛇行沈線を垂下させる。	加曾利 E 併行
5	D-187 土 上面	深鉢	良好	砂粒混入	洞部破片	弧状・又は渦巻き状縦帶で区画する。一部の区画内には短沈線を充填する。	加曾利 E
6	D-187 土 上面	深鉢	普通	砂粒・褐色織混 入	洞部破片	弧状・又は渦巻き状縦帶で区画する。一部の区画内には短沈線を充填する。	加曾利 E 併行 (中部高地系)

A区 D-188 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②粘土	③残存		
1	D-188 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	内反する平口縁と想定。丸棒状工具による縦位沈線を施す。	加曾利 E 併行
2	D-188 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	洞部破片	縦位条線施文後、丸棒状工具による横位直線状・弧状沈線を施す。	加曾利 E II
3	D-188 土	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	拂り糸を施す。	加曾利 E I ~ II
4	D-188 土	深鉢	普通	砂粒・白色織混 入	洞部～底部破片	縦位条線施文後、丸棒状工具による蛇行沈線を垂下させる。	加曾利 E
5	D-188 土	鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	遺存部においては無文。	加曾利 E
6	D-188 土	深鉢	普通	砂粒・金雲母混 入	洞部破片	半蔵竹管状工具による斜位平行沈線(半蔵起線状)施文後、同工具による横位平行沈線で区画する。	五頭ヶ台

A区 D-189 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②粘土	③残存		
1	D-189 土	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	棒状工具による深い沈線で区画する。	称名寺
2	D-189 土 法印王字?	良好	砂粒・白色織混 入	洞部破片	丸棒状工具による深い沈線で区画する。一部の区画内に單層 RL 繩文施文。	称名寺	
3	D-189 土	深鉢	良好	砂粒・白色織混	口縁部破片	縦帶と底縁で口縁部支脚帯を区画する。区画内、縦位基調条線を施す。	加曾利 E I ~ II
4	D-189 土	深鉢	普通	砂粒・灰色織混 入	洞部破片	縦帶と底縁で区画する。区画内、縦位基調条線と沈線を施す。	加曾利 E
5	D-189 土	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	半蔵竹管状工具による斜位平行沈線(半蔵起線状)施文後、同工具による横位平行沈線を施す。	加曾利 E 併行

A区 D-190 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②粘土	③残存		
1	D-190 土 (J-32 住)	深鉢	普通	砂粒・褐色織混 入	口縁部破片	平口縁と想定される。縦帶と沈線で口縁部文様帯を区画する。区画内、丸棒状工具による縦位基調沈線を施す。区画連結部には渦巻き状モチーフ。遺存部最下位(脚部上位)に縄文施文。	加曾利 E II
2	D-190 土 (J-32 住)	深鉢	普通	砂粒・白色織混 入	口縁部破片	縦帶を貼り合わせた中空把手。内面側が剥落している。内外面を貫通する2つの丸棒状工具による沈線を施す。	中期
3	D-190 土 (J-32 住)	深鉢	良好	砂粒混入	洞部破片	洞部上位部を想定される。縦帶で区画し、一部の区画内に丸棒状工具による縦位・斜位沈線を施す。	加曾利 E 併行
4	D-190 土 (J-32 住)	深鉢	不良	砂粒・雲母混入	洞部破片	口縁部文様帯下部から脚部中位が遺存する想定される。縦帶と沈線で口縁部支脚帯を区画し、区画内には斜位沈線を施す。底部の弱形変換点に、上下に沈線を伴う隆起帯の区画を認める。区画内には斜位基調沈線を連続して施す。脚部・洞部には單層 RL 繩文施文。外側が全体的に摩滅している。	中期

A区 D-191 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②粘土	③残存		
1	D-191 土	深鉢	普通	砂粒・褐色織混 入	口縁部破片	やや内反する平口縁と想定される。縦帶と沈線で口縁部文様帯を区画する。区画内、單層 RL 繩文施文。	加曾利 E II ~ III
2	D-191 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～脚部 2/5	4単位波状口縁、内面口縁に横稜を出す。口縁部無文。波頭部下位を縦帶と沈線により単位に区画する。区画内には兩端膨凸巻き状のモチーフを施す。4単位の区画中央に圧痕隆起帯を垂下させ、5単位の区画とする。各区画内には丸棒状工具による斜位・又は横棒状沈線を施す。	加曾利 E 併行
3	D-191 土	鉢	普通	砂粒混入	体部破片	弱形変換点に横棒状付文を施す。無部 RL 繩文施文。	加曾利 E
4	D-191 土	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	丸棒状工具による斜位沈線を施す。沈線は遺存部の角度より蛇行・沈線下端の形状がある。	加曾利 E

A区 D-192 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②粘土	③残存		
1	D-192 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口縁部に無文帯を有し、脚部の縦帶に横棒状帯を出す。脚部・洞部 RL 繩文を施す。脚部の区画内に配す。	加曾利 E IV
2	D-192 土	深鉢	普通	砂粒・角閃石混 入	洞部破片	丸棒状工具による斜位・U字形沈線で区画する。一部の区画内に單層 LR 繩文施文。	加曾利 E III ~ IV

第 156 表 二軒在家原田遺跡 A 区縄文時代土坑出土遺物観察表 (25)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
3	D-192 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	2条一組の縦位隆帯で区分する。区画内、丸棒状工具による斜位沈線を施す。
4	D-192 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	棒状工具による縱位基準線で区画する。
5	D-192 土	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	口縁部～胴部破片	棒状工具による縱位基準線で区画する。区画内を斜位沈線で充填する。

A区 D - 193 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-193 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縦帯と横帯で口縁部又縦帯を区画する。区画内、棒状工具による斜位沈線を施す。縦部、遺存部においては無し。
2	D-193 土	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	縦帯と横帯で口縁部又縦帯を区画する。区画内、棒状工具による斜位沈線を施す。

A区 D - 194 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-194 土	鉢	良好	砂粒・白色鉱物	口縁部破片 頭部	口縁部厚みを有する。内外面ともに丁寧な磨き。遺存部においては無し。
2	D-194 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	中央に凸縫合伴う縦位隆帯で区画する。区画内の一部に斜位沈線を伴うが不明瞭である。
3	D-194 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物	胴部下位～底部	2条一組の縦位隆帯により6区画に区画する。内側に浅杉状沈線を施す。不明瞭ではあるが、底部に網状底模が認められる。

A区 D - 195 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-195 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	4単位双頭波線口縁で、双頭部の波底部が遺存すると想定。單節 RL 繩文施文後、竹管状工具による円形制突を施す。
2	D-195 土	深鉢	普通	砂粒・石英混入	口縁部破片	急角度に内反する口縁。横位、弧状の浮線文を組み合わせて区画する。一部の浮線文間に列点状制突を施す。
3	D-195 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物	胴部破片 頭部	胴部上位に頭著に内屈する深鉢と想定される。横位浮線文を並行して施す。
4	D-195 土	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	斜位浮線文を施す。不明瞭ではあるが、一部の浮線文間に單節 RL 繩文が認められる。

A区 D - 196 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-196 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	頸位沈線を施す。結節浮線文を施す。結節浮線文は高巻き状モチーフ。

A区 P - 1 号ピット

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	P-1	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	無節 RL 繩文施文後。半載竹管状工具による横位・斜位平行沈線で区画する。
2	P-1	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物	胴部破片 頭部	單節 RL 繩文施文。

A区 P - 2 号ピット

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	P-2	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物	胴部破片	單節 RL 繩文施文。
2	P-2	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物	胴部破片 頭部	單節 RL 繩文施文。

A区 P - 5 号ピット

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	P-5	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物	胴部破片 雲母混入	半載竹管状工具引ちこむによる爪形文を模様に施す。遺存する爪形文は一条であるが、複数条進行すると考えられる。爪形文間に斜位沈線を施していると想定される。爪形文下位には單節 RL 繩文施文。

第 157 表 二軒在家原田遺跡 A 区縄文時代土坑 (26)・ピット出土遺物観察表 (1)

A区P-6号ビット

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1 P-6	深鉢	不良 砂利混入	口縁部破片	全体的に摩滅が著しい。			加曾利E

A区P-7号ビット

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1 P-7	深鉢	良好 砂利混入	胴部破片	縦位沈縛（2条一組か）で区画する。区画内に単節RL繩文施す。			加曾利E
2 P-7	深鉢	普通 砂粒・白色粘物 混入	胴部破片	単節RL繩文施後、横位浮縛文を並行して施す。			諸縛b

A区P-9号ビット

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1 P-9	深鉢	普通 砂粒・褐色粘物 混入	胴部破片	胴部下位迄と想定される。弧状沈縛を施すが、遺存部が少なくモチーフは不明。			称名寺？
2 P-9	深鉢または鉢	良好 砂利混入	胴部破片	遺存部においては無文。			後期？

A区P-10号ビット

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1 P-10	深鉢	良好 砂粒・褐色粘物 混入	胴部破片	丸棒状工具による幅広の縦位沈縛で区画する。一部の区画内に単節RL繩文充填。			加曾利E
2 P-10	深鉢	良好 砂利混入	胴部破片	単節LR繩文施後、丸棒状工具による弧状・直線状沈縛で区画する。一部には蛇行沈縛を施下さる。			加曾利E併行

A区P-11号ビット

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1 P-11	深鉢	良好 砂利混入	胴部破片	口縁部繩文帯部分の破片、隆起と沈縛で構成し、底面に区画する。区画内には縦位沈縛を施す。表面丁寧な磨き。			加曾利E I～II
2 P-11	深鉢	普通 砂利混入	胴部破片	弧状隆溝で区画する。区画内に縦位沈縛を施す。			加曾利E併行
3 P-11	深鉢	不良 砂粒・雲母混入	胴部破片	縦位条縛を施す。			加曾利E

A区P-12号ビット

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1 P-12	深鉢	良好 砂粒・植物纖維 混入	口縁部破片	4単位波状口縫と想定される。半截竹管状工具押し引きによる爪形文を口縫に並行して2条、その下位には斜位に施す。爪形文間に単節LR繩文を充填する。NOSと同一個体。			前期中葉
2 P-12	深鉢	良好 砂粒・雲母・植 物纖維混入	口縁部破片	やや外反する平口縫。直前段多条RL繩文施す。内面は丁寧な磨き。			前期中葉
3 P-12	深鉢	良好 砂粒・植物纖維 混入	胴部破片	胴部上位口縫と想定される。半截竹管状工具押し引きによる爪形文を縦位・機位・斜位に施す。縦位と斜位爪形文点対点附近に網穴を配す。爪形文間に単節LR繩文を充填する。			前期中葉

A区P-13号ビット

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1 P-13	深鉢	不良 砂利・褐色粘泥 混入	胴部破片	全般的に摩滅が著しく整理不能。口縁部繩文帯下位附近と想定される。縦帶で口縁部繩文帯を区画する。丸棒状工具による2条一組の縦位沈縛で区画し、区画内に繩文施す。			加曾利E

A区P-14号ビット

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1 P-14	深鉢	砂利 砂粒・白色粘物 混入	胴部破片	丸棒状工具押し引きによる爪形文を横位に施す。沈縛上位は隆起剥落か、無條L繩文施す。			加曾利E
2 P-14	深鉢	普通 砂利混入	胴部破片	単節LR繩文施後、丸棒状工具による沈縛を施す。			加曾利E併行

A区P-15号ビット

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1 P-15	深鉢	良好 砂粒・褐色粘泥 混入	胴部破片	単節RL繩文施後、丸棒状工具による爪形文を横位に施す。爪形文天下位には単節RL繩文施す。			加曾利E
2 P-15	深鉢	良好 砂利混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を横位に施す。爪形文天下位には単節RL繩文施す。			諸縛b

第158表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代ビット出土遺物観察表(2)

A区P-20号ピット

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	P-20	深鉢	良好	砂粒・褐色鐵斑 入	銅部破片	銅部上位層と想定される。口縁部に並行して断面三角形の隆帯を認める。腹部、棒状工具による斜窓で区画する。一部の区画に単節 RL 調文施文。	加賀利E
2	P-20	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物 黒色鉱物混入	銅部破片	2条一組の並行する横位隆帯で区画する。区画内に弧状沈	加賀利E 併行
3	P-20	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵斑 入	銅部破片	縦位隆帯で区画する。区画内に統形状沈窓を認める。	加賀利E 併行

A区P-22号ピット

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	P-22	深鉢	普通	砂粒混入	銅部破片	無節 RL 調文施文。	中期後葉

A区P-24号ピット

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	P-24	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵斑 入	銅部破片	天羽根状沈窓を認める。口縁部文様帶の内部か。	加賀利E ?

A区P-25号ピット

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	P-25	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物 混入	銅部破片	2条一組の丸棒状工具による横位隆帯で区画する。沈窓部以外は残存部においては無文。	加賀利E 併行

A区P-26号ピット

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	P-26	深鉢	普通	砂粒混入	銅部破片	半載竹管状工具による横位平行沈窓を認める。	中期?
2	P-26	深鉢または 鉢	良好	砂粒混入	銅部破片	丸棒状工具による横位の横位沈窓を認める。内外面とも丁寧な解き。	中期後葉

A区P-27号ピット

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	P-27	深鉢または 鉢	普通	砂粒混入	銅部破片	遺存部においては無文。	後期?

A区P-28号ピット

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	P-28	深鉢	普通	砂粒混入	銅部破片	遺存部上手が剥落している。剥落部には隆帯を施していたと思定される。丸棒状工具による横位沈窓と、2条一組と考えられる繊維沈窓で区画する。区画内に単節 RL 調文施文。	加賀利E

A区P-30号ピット

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	P-30	深鉢	普通	砂粒混入	銅部破片	底部基調沈窓を認める。	加賀利E
2	P-30	深鉢	普通	砂粒混入	銅部破片	断面三角形の弧状隆帯を認める。	中期→後期

A区P-33号ピット

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	P-33	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物 黒色鉱物混入	銅部破片	隆帯と沈窓で口縁部文様帶を区画する。区画内、棒状工具による斜窓沈窓を認める。	加賀利E

A区P-34号ピット

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	P-34	深鉢	普通	砂粒混入	銅部破片	単節 RL 調文を施す。棒状工具による斜窓沈窓を区画する。	暁之内I

A区P-36号ピット

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	P-36	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物 混入	銅部破片	隆帯と沈窓で口縁部文様帶を区画する(横円形区画)。区画内、棒状工具による斜窓沈窓を認める。	加賀利E

第159表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代ピット出土遺物観察表(3)

A区 U-1号埋設土器							
番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
I	U-1	深鉢	普通 砂粒・褐色鐵混入	砂粒・褐色鐵混入	口縁部～脚部 1/2	やや外反する平口縁。遺存部においては無文。	加曾利E

A区 U-2号埋設土器							
番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
I	U-2	深鉢	普通 砂粒・白色鐵物 黑色鐵物混入	砂粒・白色鐵物 黑色鐵物混入	脚部下位～底部 1/8	断面三角形の縦位隆帯により区画。無施文と無文の区画を、交互に10区画ずつ配す。所謂ストライプ型の深鉢。	加曾利E IV

A区 U-3号埋設土器							
番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
I	U-3	深鉢	普通 砂粒	砂粒・褐色鐵混入	脚部中位～底部 1/8	外面の剥落が頗る著であり、調査が不明瞭である。2基一組の縦位隆帯で区画し、区画内に縦位沈線施文と考えられる。	加曾利E

A区 U-4号埋設土器							
番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
I	U-4	深鉢	普通 砂粒	砂粒・白色鐵物 チャート混入	脚部～底部 1/10	遺存部が僅かであるが、脚部に縦位隆帯と斜位隆帯を施す。縦位隆帯により区画後、区画内に蛇行隆帯を施文していると想定される。さらに、斜位隆帯を施す。区画は4単位又は5単位か、底部、不明瞭が割合重宝。	中期後葉

A区 U-5号埋設土器							
番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
I	U-5	深鉢	良好 良好	砂粒・白色鐵物 砂礫混入	脚部上位～中位 1/3	脚部上位に横S字形隆帯を施す。S字形の巻き部分より縦位隆帯を垂下させて区画する。区画内には斜位蛇沈線(輪状り)施文。	加曾利E併行(郷土系)

A区 U-6号埋設土器							
番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
I	U-6	深鉢	普通 砂粒	砂粒・白色鐵物 黑色鐵物混入	脚部～底部 1/8	2条の横位隆帯を施す。区画内に溝巻き状隆帯を施す。脚部上位には斜位沈線施文とする。区画内には斜位蛇沈線(輪状り)施文。	加曾利E

A区 U-7号埋設土器							
番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
I	U-7	深鉢	普通 良好	砂粒・黑色鐵物 黒色鐵物混入	脚部～底部 1/10	單面RL(圓文施文後)、丸棒状工具による1条～2条の縦位隆帯により区画する。区画の数は10単位か、比縫間を削り消す意図が取できるが、磨り消されていく部分が認められる。また蛇沈線以外を削り消していくなど、施文が複数ある。	加曾利E II～III

A区 U-8号埋設土器							
番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
I	U-8	深鉢	普通 砂粒混入	砂粒混入	脚部～底部 1/8	單面RL(圓文施文後)、丸棒状工具による1条～2条の縦位隆帯により区画する。3単位に区画。各区画内には蛇行比縫間を削り下させる。縦位比縫間の一部を削り消す。全体的に施文が難で推測の感が強い。	加曾利E

A区 U-9号埋設土器							
番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
I	U-9	深鉢	普通 良好	砂粒・白色鐵物 白色鐵物混入	脚部～底部 1/2	脚部で口縁部文様を横円形に区画し、内側に斜位沈線を施す。脚部、弧状円形、巻き巻き状、弧状等縫帶で区画する。区画内には斜位比縫間施文。	中期後葉

A区 U-10号埋設土器							
番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
I	U-10	深鉢	普通 良好	砂粒・白色鐵物 白色鐵物混入	脚部～底部 1/3	脚部で口縁部文様を横円形に区画し、内側に斜位沈線を施す。脚部、弧状円形、巻き巻き状、弧状等縫帶で区画する。内側に重部状比縫間施文。	中期後葉(郷土系)

A区 U-11号埋設土器							
番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
I	U-11	深鉢	良好 良好	砂粒混入	脚部 1/8	單面LR(圓文施文後)、丸棒状工具による1条～2条の縦位比縫間により区画する。8単位に区画している可能性が高い。各区画内に蛇行比縫間を施す。縦位比縫間及び区画内の一部を削り消す。磨り消し範囲が明確に感じられない。	加曾利E

第160表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代埋設土器観察表(1)

A区U-12号埋設土器

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	U-12	深鉢	普通 砂粒・褐色繊維混入	砂粒・褐色繊維 洞部～底部破片	洞部～底部破片	洞部～底部破片に上り口縁部に区画する。一部の底面に窪み、浅い浅縁（撫で？）底文。区画内には残存部においては無文。	加賀利E

A区U-13号埋設土器

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	U-13	深鉢	普通 砂粒・白色繊維、洞部～底部1/5 黒色鉄物混入	砂粒・白色繊維、洞部～底部1/5 黒色鉄物混入	洞部～底部1/5	焼成部を堆土とする。底位直線状隆帯により3単位に区画する。各区画内に蛇行隆帯を垂下させる。	加賀利E

A区U-14号埋設土器

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	U-14	深鉢	普通 砂粒・褐色繊維、洞部～底部1/3 黒色鉄物混入	砂粒・褐色繊維、洞部～底部1/3 黒色鉄物混入	洞部～底部1/3	底位沈縁を堆土とする。2条一組の底位直線状隆帯により区画する（4単位）。各区画内に蛇行隆帯を垂下させる。	菅利H

A区U-15号埋設土器

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	U-15	深鉢	普通 砂粒・褐色繊維、洞部～底部1/10 黒色鉄物混入	砂粒・褐色繊維、洞部～底部1/10 黒色鉄物混入	洞部～底部1/10	2条一組の底位直線状隆帯により区画する。各区画内に蛇行隆帯を垂下させ、底位基調の沈縁を施す。	加賀利E併行

A区U-16号埋設土器

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	U-16	深鉢	普通 砂粒・白色鉄物、1/2 黒色鉄物混入	砂粒・白色鉄物、1/2 黒色鉄物混入	1/2	隆帯と沈縁に上り口縁部文様帯を区画する。区画内には斜位沈縁を施す。洞部、溝巻き状・底位直線状隆帯により区画し、区画内に斜位・底位・被杉状沈縁施す。	菅利H

A区U-17号埋設土器

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期	
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考		
1	U-17	鉢	普通 砂粒・褐色繊維、1/3～混入	砂粒・褐色繊維、1/3～混入	口縁部～底部 1/3～混入	口縁部～底部 1/3～混入	やや外反する無文の口縁部と思定される。口縁部と体部の境界には微隆起と沈縁が並ぶ。体部最上位に2ヶ所の椭状把手を施す。体部全体に横把手手外面には單筋 RL 織文施す。さらに横把手手の周囲には微隆起線を円形に並らす。	加賀利E IV

A区U-18号埋設土器

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	U-18	深鉢	普通 砂粒・褐色繊維 入	砂粒・褐色繊維 入	1/2	外側の一部が剥落。遺存部上位に口縁部文様帯が認められる。隆帯と沈縁で口縁部文様帯を区画する。区画内に底位沈縁を施す。洞部、2条の沈縁を伴う底位隆帯で4単位に区画する。さらに区画内に蛇行隆帯を垂下させ、底位沈縫施す。	加賀利E

A区U-19号埋設土器

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	U-19	深鉢	普通 砂粒・石英・角 閃石・白色鉄物 混入	砂粒・石英・角 閃石・白色鉄物 混入	1/5	隆帯と沈縁で口縁部文様帯を区画する。区画形状は梢円形又は楕円形連結状を呈する。区画内には单筋 RL 織文を施す。洞部、单筋 RL 織文施す。半筋竹管状工具による波状沈縫を施す。	加賀利E II

A区U-20号埋設土器

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	U-20	深鉢	良好 砂粒・白色鉄物、洞部～底部1/6 黒色鉄物混入	砂粒・白色鉄物、洞部～底部1/6 黒色鉄物混入	1/6	無筋 R 織文施す後、丸棒杵工具による2条一組の底位沈縫により8単位に区画する。沈縫間は削り消し。	加賀利E

A区U-23号埋設土器

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	U-23	深鉢	普通 砂粒・褐色繊維混入	砂粒・褐色繊維 混入	2/5	隆帯に上り口縁部文様帯を半円形に区画する。区画内には底位沈縫を施す。洞部、溝巻き状・底位直線状隆帯で区画する。区画内には斜位沈縫施す。	菅利III

A区U-24号埋設土器

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	U-24	鉢？	普通 砂粒混入	砂粒混入 片	口縁部～胴部破片	隆帯と沈縫に上り口縁部文様帯を半円形に区画する。区画内には底位沈縫を施す。洞部、2条一組又は3条一組の底位沈縫で区画し、区画内に被杉状沈縫施す。	加賀利E

第161表 二軒在家原田遺跡A区縄文時代埋設観察表（2）

A区 T-1号竪穴状遺構

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②粘土	③残存		
1	T-1-1括	深鉢	良好	砂粒・褐色繊混入	胴部破片	直角形・文様等の特徴／備考 直角形の彫痕で区画する。一部の区画内に単脚 LR 織文文様。	加曾利 E
2	T-1-1括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	直角形の彫痕で区画する。一部の区画内に織文(無縫 L)と単脚 LR が混じる／施文。	加曾利 E
3	T-1-1括	深鉢	良好	砂粒・褐色繊混入	胴部破片	無縫 L 織文文様、楕円沈線により区画する。一部の区画内に横位状況複数施文。	加曾利 E
4	T-1-1括	深鉢	良好	砂粒・褐色繊混入	胴部破片	深い沈線により区画する。	称名寺
5	T-1-1括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	胴部下位か。単脚 LR 織文文様。磁石直撃状・弧状丸織を施す。	羅之内 I
6	T-1-P1	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混入	胴部破片	一部に弧状斜帯を呈する部分が認められるが、意図的施文かどうかは不明。	後期？

A区 T-2号竪穴状遺構

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②粘土	③残存		
1	T-2-1括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁と想定される。幅の広い横位沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内に楕円沈線施文。	加曾利 E併行
2	T-2-1括	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混入	口縁部破片	楕円沈線で口縁部文様帯を区画する。区画内には複数直線状・弧状斜織を施す。さらに幅広の蛇形沈線を重ねさせる。	加曾利 E併行
3	T-2-1括	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混入	胴部破片	口縁部文様帯から胴部上位迄想定される。胴部には複数直線状・弧状斜織を施す。	加曾利 E I ~ II
4	T-2-1括	深鉢	普通	砂粒・白色繊物	胴部～底部 雲母混入	3条の組を基本とする弧状並行沈線を連続して弧状に施す。 1/10	加曾利 E II ? (連続文系?)

第162表 二軒在家原田遺跡A区繩文時代竪穴状遺構出土遺物観察表(1)

A区 J-15号住内石窯炉

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②粘土	③残存		
1	J-15号住内石窯炉	深鉢	普通	砂粒・白色繊物・胴部～底部1/10 黒色繊物混入		直角形・文様等の特徴／備考 直角状斜織で単位に区画し、区画内に張状(範行?)施す、窓位多施を施す。本来はJ-15号住居跡内に重複する、中期住居の石窯炉と考えられる。	晩利 III

第163表 二軒在家原田遺跡A区繩文時代石窯炉出土遺物観察表(1)

A区グリッド

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②粘土	③残存		
1	IQ-30a (J-40h住)	深鉢	良好	砂粒・赤色繊物・胴部破片 白色繊物・石英・ 白色斜状物・砂 礫・植物繊維混 入		直角形・文様等の特徴／備考 無縫 L 織文文様で、横位斜織を抵付する。半截竹管状工具による平行沈線(横位直線状・斜面状・円形)に施す。一部の沈線上に同工具による刺突文を施す。さらに一部に貼付文を施す。	開山 I
2	X-39a	深鉢	良好	砂粒・植物繊維 混入	口縁部破片	口縁部上面の一部が横位斜織を見る。口縁部直下に櫛衝状工具による直位列点状刺突文を施す。胴部、櫛衝状工具による列点状刺突文や半截竹管竹管斜面状工具押し引出しによる直位文(一部は押し引き式)や直位斜面状工具平行沈線)を施す。菱形・三角形のチフチフ文を考えられる。	有尾
3	IQ-30a	深鉢	普通	砂粒・褐色繊・ 植物繊維混入	口縁部破片	4回転式底状口縁で区画される。口縁に並行して櫛衝状工具による直位4回転式底状口縁文を施す。その下位には斜位平行沈線と列点状刺突文を施す。	有尾
4	X-41d	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	口縁部～胴部破 片	継やかな4回転式底状口縁文を想定する。横位斜織(櫛衝状工具による直位列点状刺突文)と斜位平行沈線を施す。さらに、一部の区画内に列点状刺突文を施す。また、一部の区画内に斜位刺突文を施す。	有尾
5	Y-40b	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	口縁部～胴部破 片	継やかな4回転式底状口縁文と想定される。口縁部、櫛衝状工具による直位列点状刺突文を施す。胴部、櫛衝状工具による斜位平行沈線で区画し、平行沈線に並行するように同工具により列点状刺突文を施す。	有尾
6	IU-31 (U-6)	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	口縁部破片	平口縁。口縁部櫛衝状工具による直位斜織を施す。胴部、櫛衝状工具による斜位斜織により、菱形または三角形に区画している。口縁部に孔を有する。	有尾
7	IQ-30a	深鉢	普通	砂粒・褐色繊・ 植物繊維混入	胴部破片	口縁部文様斜織付近と想定される。櫛衝状工具による直位・斜位列点状刺突文、斜位平行沈線を施す。菱形状モチーフ。	有尾
8	ID-39c	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	胴部破片	櫛衝状工具による直位平行沈線を施す。	前期中葉
9	Y-40d X-40d	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	口縁部破片	半截竹管状工具による直位平行沈線・コンバス文を施す。	前期中葉

第164表 二軒在家原田遺跡A区グリッド繩文時代出土遺物観察表(1)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②動土	③残存		
10	X-40d	深鉢	普通	砂粒・植物根糞 混入	口縁部破片	付加系縄文施文後、半載竹管状工具による横位コシバヌ文を 施す。	前期中葉
11	X-39a	深鉢	普通	砂粒・植物根糞 混入	口縁部破片	画文（不明跡）施文後、半載竹管状工具による平行双線。	前期中葉
12	X-39a	深鉢	普通	砂粒・植物根糞 混入	口縁部破片	画文（不明跡）施文後、半載竹管状工具による平行双線。	前期中葉
13	X-39a	深鉢	普通	砂粒・植物根糞 混入	口縁部破片	半載 RL 縄文施文後、口縁部に竹管状工具による円形刺突を 施す。	前期中葉
14	X-40d	深鉢	普通	砂粒・植物根糞 混入	脚部破片	付加系縄文横転印。	前期中葉
15	X-40c	深鉢	普通	砂粒・植物根糞 混入	脚部破片	焼付 未端縦横転印。	前期中葉
16	X-39a	深鉢	普通	砂粒・植物根糞 混入	底部破片	付加系縄文横転印。底部はやや上げ底状を呈する。	前期中葉
17	X-39b	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。単節 RL 縄文施文後、細めの 半載竹管状工具押し引きによる間隔の広い、爪形文を口縁部に 施して 2 条あります。さらに、小形文間に同工具による段状（一 列は斜位？）平行沈線施文。	諸職 a ~ b
18	X-40d	深鉢	良好	砂粒・褐色繊混 入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。単節 RL 縄文施文後、細めの 半載竹管状工具押し引きによる間隔の広い、爪形文を口縁部に 並行して 2 条あります。	諸職 a
19	W-40c	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	半載竹管状工具押し引きによる横位直溝状・木葉状爪形文を 施す。	諸職 a ~ b
20	X-40b	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混 入	口縁部破片	輪廓状工具による横位直溝状・波状平行沈線を施す。一部に 円形刺突文を組みに配す。	諸職 a ~ b
21	IW-38a	鉢	良好	砂粒混入	体部破片	鉢の体部上位から中位部と想定される。単節 RL 縄文施文後、 半載竹管状工具による平行直線・判点状刺突文を重複さ せ。小形文状を呈する文様を施す。	諸職 a ~ b
22	X-41b	深鉢	普通	砂粒・白色黏物 混入	脚部破片	脚部上位から中位部。単節 RL 縄文施文後、遺存部上半部に 輪廓状工具による横位直溝状・波状平行沈線を施す。さらに 一部に円形刺突文を配す。	諸職 a ~ b
23	X-38d	深鉢	普通	砂粒混入	脚部破片	輪廓状工具による横位直溝状・波状平行沈線を施す。一部に 円形刺突文を組みに配す。	諸職 a ~ b
24	IIC-37b	深鉢	良好	砂粒・片岩混入	口縁部破片	体部上位において顕著に内側する 4 単位波状口縁深鉢の波 状底付近と想定される。半載竹管状工具押し引きによる爪形文、 同工具による伏継（半隆起継代）を施す。	諸職 b
25	Y-39b	深鉢	普通	砂粒・褐色繊・ 雲母混入	口縁部破片	単節 RL 縄文施文後、半載竹管状工具押し引きによる柔柔 細めの輪廓状輪廓浮線文を施す。輪廓浮線文の一部に刺突文 を呈し、直線的・技術的に複雑である。	諸職 b ~ c
26	Y-38	深鉢	良好	砂粒・褐色繊混 入	口縁部破片	口縁部は縫合状。口縁部直下には付属浮線文を認める。口 縁部、半節 RL 縄文施文後、半載竹管状工具による格子目文 を施す。出土点他の一部に円形刺突文を配す。	諸職 b
27	X-38d	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	輪廓状工具による横位直溝状・波状平行沈線を施す。	諸職 b
28	W-40c	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混	口縁部破片	半載竹管状工具による横位直溝状・波状平行沈線を施す。	諸職 b
29	X-38d	深鉢	良好	砂粒・白色黏物	口縁部破片	輪廓状工具による横位直溝状・波状平行沈線を施す。	諸職 b
30	X-40a	深鉢	普通	砂粒・褐色繊・ 雲母混入	口縁部破片	脚部上位において内反する 4 単位小波状口縁と想定される。 波状口縁には溝巻き状隆起を施す。半節 RL 縄文施文後、半載 竹管状工具による平行沈線により区画する。	諸職 b
31	IJA-40c	深鉢	良好	砂粒・褐色繊混	口縁部破片	脚部上位において顕著に内側する 4 単位波状口縁と想定。横 位直溝状輪廓浮線文を施す。沿形交換下位には地文に縫合を施す。 無職 I 縄文施文後、半載竹管状工具押し引きによる横位・縫 位直溝状・弧状爪形文を施す。	諸職 b
32	II-39b	深鉢	良好	砂粒・褐色繊・ 赤色繊混 入	脚部破片	脚部上位に想定される。半載竹管状工具押し引きによる横位・ 弧状（木葉状）爪形文を施す。一部に 2 個一対の円形刺突文 を呈す。	諸職 b
33	W-40d	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混	脚部破片	脚部上位に想定される。半載竹管状工具押し引きによる横位・ 弧状（木葉状）爪形文を施す。一部に 2 個一対の円形刺突文 を呈す。	諸職 b
34	IJ-43a	深鉢	良好	砂粒混入	脚部破片	半載竹管状工具押し引きによる横位・縫位直溝状・溝巻き状 爪形文を施す。	諸職 b
35	W-38	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混	脚部破片	半載竹管状工具押し引きによる間隔が狭い爪形文を横位 に施す。一部の爪形文間に棒状工具による円形刺突文を施す。	諸職 b
36	II-39c	深鉢	良好	砂粒・ナード混入	脚部破片	半載竹管状工具押し引きによる爪形文を横位・斜位直溝状・ 弧状文を施す。一部の爪形文間に付属沈線状刺突文を施す。さら に一部の区画内には円形刺突文を配す。	諸職 b
37	X-42c	深鉢	良好	砂粒・褐色繊混	脚部破片	頭部 RL 縄文施文後、半載竹管状工具による横位直溝状・木 葉状平行沈線（半隆起継代）を施す。	諸職 b
38	Y-42a	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混 入	脚部破片	半載竹管状工具押し引きによる縫位・横位・斜位爪形文を施 す。	諸職 b

第 165 表 二軒在家原田遺跡 A 区グリッド縄文時代出土遺物観察表 (2)

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期
			①焼成	②紗土	③残存	
39	X-42c	深鉢	普通 砂粒・褐色織混 入	頭部破片	(4)器形・文様等の特徴 半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。爪形文間に斜位寸線を施す。	諸穢 b
40	X-38d	深鉢	普通 砂粒・白色織物 混入	頭部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。爪形文間に印刷文を配す。	諸穢 b
41	H-39n	深鉢	普通 砂粒混入	頭部破片	頭部上方から半截竹管状工具による横位平行沈線により区画し、区画内には同工具による格子目状平行沈線を施す。さらに格子状の交点に円形刺突文を配す。	諸穢 b
42	IU-38b	深鉢	良好 砂粒・褐色織 片岩混入	口縁部破片	弧状・直線状断面を施す。半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。一部には円形刺突文を配す。さらに一部の区画内に単縦 R. 繩文を施す。	諸穢 b
43	X-42c	深鉢	普通 砂粒混入	頭部破片	單縦 R. 繩文施設後、浮綱文を施す。さらに一部の浮綱文間に単縦 R. 繩文を施す。	諸穢 b
44	N-38d	深鉢	普通 砂粒混入	頭部破片	單縦 R. 繩文施設後、半截竹管状工具による横位基準平行沈線で区画する。区画内には同工具による弧状等平行沈線を施す。	諸穢 b
45	IA-40c	深鉢	普通 砂粒・褐色織混 入	頭部破片	單縦 R. 繩文施設後、半截竹管状工具による横位基準平行沈線で区画する。	諸穢 b
46	IE-36d	深鉢	良好 砂粒混入	頭部破片	單縦 R. 繩文施設後、半截竹管状工具による横位直線状・弧状等平行沈線(半隆起線)で区画する。一部の区画内には円形刺突文を配す。	諸穢 b
47	IG-39b	深鉢	普通 砂粒・褐色織混 入	頭部破片	單縦 R. 繩文施設後、半截竹管状工具による横位平行沈線を6条から。	諸穢 b
48	ID-38d	深鉢	良好 砂粒・褐色織混 入	頭部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。	諸穢 b
49	JC-37b	深鉢	良好 砂粒混入	頭部破片	單縦 R. 繩文施設後。半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。	諸穢 b?
50	N-38d	深鉢	良好 砂粒・白色織物 混入	頭部破片	單縦 R. 繩文施設。内部は丁寧な磨き。	諸穢 b?
51	IQ-29n	土製円盤	普通 砂粒混入	頭部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。周囲を研削し、比較的複雑な円形を形成す。	諸穢 b?
52	W-40n	深鉢	普通 砂粒混入	頭部破片	半截竹管状工具による爪形文を施す。	浮島?
53	ID-43a	深鉢	普通 砂粒混入	頭部破片	刺突文を施す。	諸穢 b併行 (浮島系?)
54	W-44c	深鉢	普通 砂粒混入	頭部破片	刺突文を施す。	諸穢 b併行 (浮島系?)
55	IA-42a	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	深鉢の歯面把手。歯面周囲に梯子状貼付文を施す。	諸穢 b
56	JC-40c	深鉢	普通 砂粒・石英・角 閃石混入	口縁部破片(把) 手半	口端部直下に歯面把手。	諸穢 b
57	IB-43c	浅鉢	普通 砂粒・白色織物 混入	口縁部～胴部破 片	口縁部に橢円形の孔を連続して穿つ。外側丁寧な磨き。	諸穢 b
58	V-39b	浅鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	口縁部に穿刺して内丸文を列直点に施す。	諸穢 b
59	X-41b	深鉢	良好 砂粒・褐色織混 入	口縁部破片	半截竹管状工具による平行沈線を外面は横位に、口端部上面かべ小面には斜位に施す。また内面には横位に施す。円形刺突文を伴う円形貼付文と並んで有する把手を配す。	諸穢 c
60	IC-40n	深鉢	良好 砂粒・褐色織混 入	口縁部破片	内面に穿刺する平口縁と想定される。半截竹管状工具による矢羽根状平行沈線施設後、口端部直下に同工具による刺突文を施す。口縫部には横位棒状・ボタン状貼付文を配す。	諸穢 c
61	W-40d	深鉢	普通 砂粒・褐色織混 入	頭部破片	單縦 LR 繩文施設。一部に円形貼付文を配す。	諸穢 c
62	IC-37d	深鉢	良好 砂粒混入	頭部破片	半截竹管状工具による縦位直線状・近くの字状・弧状平行沈線を施す。さらに一部に縦位結節浮綱文を配す。	諸穢 c
63	W-41c	深鉢	良好 砂粒・白色織物 赤褐色織混入	口縁部破片	A單縦波状口縁が決定される。口縁に並行して2条の結節浮綱文が施す。内部には半截竹管状工具による平行沈線施設。	諸穢 c
64	W-41c	深鉢	普通 砂粒混入	頭部破片	横位波状施文し、横位・斜位の結節浮綱文で区画する。一部の区画内に円形貼付文を配す。	諸穢 c
65	X-42c	深鉢	普通 砂粒・白色織物・頭部破片 青白混入	頭部破片	横位結節浮綱文後、直線状・弧状(満巻き状)結節浮綱文を施す。	諸穢 c
66	X-41b	深鉢	普通 砂粒混入	頭部破片	直線状・弧状(満巻き状)結節浮綱文を施す。一部に円形貼付文を配す。	諸穢 c
67	IC-44c	深鉢	普通 砂粒・褐色織混	頭部破片	弧状(満巻き状)結節浮綱文を施す。	諸穢 c
68	IC-40c	深鉢	普通 砂粒・褐色織混	頭部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線(半隆起線)で区画する。区画内に斜位(山形)平行沈線を施す。一部に三角形印刷文を配す。	十三普裡
69	IC-44b	深鉢	良好 砂粒・褐色織混	頭部破片	半截竹管状工具による横位・斜位(山形)平行沈線(半隆起線)を施す。一部に三角形印刷文を配す。	十三普裡
70	X-39c	深鉢	良好 砂粒・白色織物 混入	頭部破片	半截竹管状工具による隆起様平行沈線を漸縮状に施す。一部に印刷文(三角形)を施す。	十三普裡
71	IC-44a	深鉢	良好 砂粒・白色織物 混入	頭部破片	半截竹管状工具による隆起様平行沈線を漸縮状に施す。一部に印刷文(三角形)を施す。	十三普裡
72	IB-44d	深鉢	普通 砂粒・白色織物 混入	頭部破片	半截竹管状工具による隆起様平行沈線を漸縮状に施す。一部に印刷文(三角形)を施す。	十三普裡?

第 166 表 二軒在家原田遺跡 A 区グリッド縄文時代出土遺物観察表 (3)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②動土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
73	JJ-38c	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・脚部破片 黒色鉱物混入	口縁部破片	平截竹管状工具による隆起平行沈線を弧状・直線状に施す。 一部に三角形印文施文。	十三世紀
74	JA-39d	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	4重位平行石継ぎと想定される。口縁に並行して平截竹管状工具による平行石継ぎ、棒状工具による凸縫を施す。脚部、同工具による平行平行石継ぎを施す。さらに一部、三角形印文施文。	十三世紀
75	IC-39c	深鉢	普通	砂粒・金雲母入	口縁部破片	平截竹管状工具による斜位平行沈線（半隆起線）を施す後、側面に平行石継ぎを施す。 側面に平行石継ぎを施す。区画内には浅めの逆傾き斜位沈線を施す。	五頭ヶ台
76	IG-39b	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口端部内面に棲むを施す。口端部上面を幅広の平行面とする。 外側。口端部下面に半截竹管状工具による横位平行石継ぎを施す。その下には同じ工具による格子目状沈線を施す。	五頭ヶ台
77	IB-41b	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・ 金雲母混入	口縁部破片	渡頭部付近を想定せらる。渡頭部を欠損して内モーフ とは明るが、沈線は隆起に由る区画する。一部の沈線は格子 目状を呈する。内面の一部に単筋目、繩文施文。	五頭ヶ台
78	IF-41a	深鉢	普通	砂粒・金雲母入	口縁部破片	深鉢の把手と想定される。外側。半截竹管状工具による平行 沈線（半隆起線）を施す。一部には単筋 RL 繩文施文。内 面、造出部中央がU字形に隆起する間に斜めに草みを寄せた 一部に繩文施文。	五頭ヶ台
79	IC-39c	深鉢	普通	砂粒・金雲母入	脚部破片	口縁部と脚部付近を想定。半截竹管状工具による横位平行沈 線（半隆起線）で区画し、内面に斜位平行沈線を施す。さ らに浅めの逆傾き斜位沈線を施す。格子目状モーフ。	五頭ヶ台
80	IB-39c	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	脚部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線で区画する。区画内には 側面傾斜突変点立点に施す。	五頭ヶ台
81	IC-40c	深鉢	普通	砂粒・金雲母入	脚部破片	口縁部と脚部付近を想定される。半截竹管状工具による横位 平行沈線（半隆起線）で区画し。区画内には斜位平行沈 線を施す。さらに一部に不規則な逆傾き斜位沈線を施す。一 部は格子目状を呈する。また造出部最上位に弧状沈線を配す。	五頭ヶ台
82	IC-37d	深鉢	普通	砂粒・金雲母入	脚部破片	脚部上位の横筋把手と考えられる。把手上面にはU字形沈線。 把手貼付部分付近には半截竹管状工具による格子目状沈線を 施す。	五頭ヶ台
83	JJ-43a	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・ 雲母混入	脚部破片	画面（無施 R）RL 施文後、半截竹管状工具による弧状等平行 沈線を施す。	五頭ヶ台
84	JH-41d	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	脚部破片	半截竹管状工具による平行沈線で区画する。一部の区画 内には同じ工具によるU字形・弧形等沈線を施す。	五頭ヶ台
85	IA-40c	深鉢	良好	砂粒・金雲母入	脚部破片	單筋 RL 繩文施文。半截竹管状工具によるU字形・逆 U 字形平行沈線（半隆起線）を施す。	五頭ヶ台
86	IC-40c	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	脚部破片	脚部 RL 繩文施文。半截竹管状工具によるU字形平行沈線。 円錐刺突変文を配す。	五頭ヶ台
87	JH-37b	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物 混入	口縁部～脚部 1/10	内外に反する平行U字縫と想定される。横位沈線と、弧状に満巻 きを施す隆起した隆帯により、口縁部と脚部を区画する。区 画内には丸棒状工具による縦位基調沈線を施す。脚部、造出部 においては無。	加曾利 E I
88	IN-37c	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部と文様帯を構成する。隆帯上 の一部にはへの字状沈線施文。楕円形区画内には単筋 RL 繩 文を施す。区画連続部には渦巻き状沈線を配す。脚部は無文。	加曾利 E
89	JU-38b	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混 入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部と文様帯を半月形に区画する。区画内 には斜位沈線を施す。脚部、縦位条絆施文後、横位・斜位 沈線を施す。	加曾利 E
90	JG-43d	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・ 雲母混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部と文様帯を半月形に区画する。区画内 には斜位沈線を施す。脚部、縦位条絆施文後、横位・斜位 沈線を施す。	加曾利 E
91	IS-37d	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部と文様帯を半月形に区画する。区画内 には斜位沈線を施す。	加曾利 E
92	JH-27b	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混 入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部と文様帯を区画する。区画内には單筋 LR 繩文施文。脚部、弧状（進 U 字状）で区画し単筋 LR 繩文を施す。	加曾利 E
93	JM-40a	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混 入	口縁部破片	隆帯により口縁部と文様帯又は半円形に区画する。内 側に縦位基調沈線を施す。脚部、縦位直線・輪行、横位直 線等沈線で区画する。区画内には縦位・斜位・斜位沈線を施す。	加曾利 E (磚土系?)
94	V-38d	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁部に2条の横位沈線を施す。花瓶上位には縦位短沈 線を施す。脚部には斜位条絆を施す。	加曾利 E
95	JL-37a	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混 入	口縁部破片	隆帯により口縁部と文様帯を横円形に区画する。一部の区画内 には棒状工具による網文施文を充填。	加曾利 E
96	IS-37d	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部と文様帯を区画する。区画内には単筋 RL 繩文施文。内部の口縁部直下に横状直線を施す。	加曾利 E
97	IC-44c	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部直下に横位沈線を1条施す。口縁部、浅い斜位沈 線を施す。深めのU字縫で区画する。	加曾利 E
98	ID-39c	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混 入	口縁部破片	口縁部に2条の横位沈線を施す。脚部、縦位条絆施文後、 2条一起の組合せ状沈線を施す。さらに一部には棒状工具によ る網文施文を配す。	加曾利 E
99	IB-44a	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部や内反する。横位直線を施す。幅の狭い口縁部無 文帯を区画する。脚部、単筋 RL 繩文施文。一部に弧状直 線を施す。	加曾利 E IV

第167表 二軒在家原田遺跡A区グリッド縄文時代出土遺物観察表(4)

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②紗土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
100	I-E-39a	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	口縁部～胴部 1/10	口縁部直立する平口縁と想定される。幅の広いV字縫により口縁部文様帯を区画する。区画内には単節LR、纏文施文。胴部、2条一起の継位沈縫で区画し、区画内に単節RL、纏文施文。	加賀利EⅢ
101	II-E-31 (U-18)	深鉢	良好	砂粒・白色織物混入	口縁部破片	隆底と沈縫で口縁部文様帯を横円形に区画する。(区画内には棒状工具による横状突起を施す。胴部、丸棒状工具による縦位沈縫で区画する。一部の区画内に単節LR、纏文施文。)	加賀利EⅢ
102	II-B-36b	深鉢	良好	砂粒・織・白色織物混入	口縁部～胴部 1/10	丸棒状工具による横状突起又は隆底により、口縁部に半円状区画を描出し、区画内に単節LR、纏文施文を充填する。胴部括れ部に棒状工具による横状列点状突起を配し、上下の区画をしていると考えられる。区画内に「U」字状又は逆「U」字状沈縫と連続させた区画し。一部の区画内に単節LR、纏文施文を充填する。	加賀利EⅢ
103	II-E-35a	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	口縁部破片	やや内反する平口縁と想定される。口縁部、列点状凹形網状突起と纏文を横位に巡らす。胴部、斜手状沈縫と逆U字状沈縫を有する。	加賀利EⅢ
104	II-T-33 (U-20)	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	口縁部～胴部 1/10	口縁部直下に幅の狭い纏文施文を有し、無文帯下位に1条の横位沈縫を施す。胴部、弦文により円形区画を作り区画内に斜位北縫を施すと考えられる。施文が難で推測の感がある。	加賀利EⅢ 併行
105	II-C-40a	深鉢	普通	砂粒・褐色織・ 白色織物混入	1/2	遺存部においては無し。	中期後葉
106	II-M-39	深鉢	普通	砂粒・白色織物	口縁部～胴部	口縁部直下に無文帯を巡らす。高巻き連縫状、縦位直縫状・蛇行隆底を垂下させ区画する。区画内には横位沈縫を施す。	加賀利EⅢ 併行 (郷土式)
107	II-A-32c	深鉢	良好	砂粒・褐色織・ 雲母混入	胴部破片	口縁部直下～胴部上位に無文帯有る。隆底と沈縫により口縁部文様帯を区画する。施文無し。胴部は脚康状工具による縦位基調各節施す。	加賀利EⅢ
108	II-N-38c	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	隆底より口縁部文様帯を横円形に区画する。区画内には縦位・横位・弧状沈縫を施す。文様帯上位は無文。胴部は展位基調北縫を施す。	加賀利EⅢ
109	II-H-39c	深鉢	普通	砂粒・褐色織混	胴部破片	口縁部文様帯付近と想定される。隆底で区画し、区画内に棒状工具による平行状沈縫を施す。	加賀利EⅢ
110	V-40d	深鉢	普通	砂粒・白色織物	口縁部破片	口縁部文様帯と考案される。縦底の沈縫により横円形に区画する。区画内には横位沈縫を施す。	加賀利EⅢ
111	II-C-37d	深鉢	普通	砂粒・褐色織混	胴部破片	燃り赤施文後、縦位直縫状隆底を垂下させ区画する。	加賀利EⅢ
112	II-C-37d	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	燃り赤施文後、蛇行沈縫を垂下させ区画する。	加賀利EⅢ
113	II-D-41b	深鉢	良好	砂粒・灰色織混	胴部破片	燃り赤施文後、斜位(継位旋付?) 隆底を施す。	加賀利EⅢ
114	II-E-43d	深鉢	普通	砂粒・褐色織・ 雲母混入	胴部破片	胴部中位か。継位隆底と沈縫により区画する。区画内に縦位北縫施す。一部に斜位沈縫も施し。その部分は格子目状を呈する。さらに一部に弧状沈縫を施す。一部の北縫末端は瓶手状とする。	加賀利EⅢ
115	II-B-37b	深鉢	普通	砂粒・褐色織・ 雲母混入	胴部破片	燃り赤施文後、弧状隆底を施す。	加賀利EⅢ
116	II-O-37	深鉢	良好	砂粒・褐色織混	胴部破片	燃り赤施文。	加賀利EⅢ
117	II-S-33 (U-2)	深鉢	普通	砂粒・白色織物	胴部破片	2条一起の丸棒状工具による縦位並行沈縫で区画する。区画内に単節LR、纏文施文。	加賀利EⅢ
118	II-F-39c	深鉢	良好	砂粒・褐色織・ 雲母混入	胴部破片	單節LR、纏文施文後、継位沈縫で区画する。区画内には蛇行沈縫を垂下させる。	加賀利EⅢ
119	II-H-41d	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	單節LR、纏文施文後、逆U字状沈縫で区画する。一部の区画内に横位北縫。	加賀利EⅢ
120	II-S-37d	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入	胴部破片	胴部中位かと想定される。逆U字状沈縫で区画し、区画内に斜位北縫を施す。	加賀利EⅢ
121	II-E-34b	深鉢	普通	砂粒・褐色織・ 雲母混入	胴部破片	2条一起の縦位北縫で区画し。区画内には板状工具又は棒状工具による斜状沈縫を施す。	加賀利EⅢ 併行
122	II-J-30a	深鉢	普通	砂粒・褐色織混	胴部破片	2条一起の縦位北縫で区画し。区画内に弧状短沈縫を施す。	加賀利EⅢ
123	II-A-36a	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	胴部中位破片か、丸棒状工具による縦位沈縫で区画する。区画内、同工具による歓手状又は弧状沈縫を施す。	中期後葉
124	II-A-40a	深鉢	普通	砂粒・褐色織・ 雲母混入	胴部破片	蛇行隆底を垂下させ区画する。区画内に縦位短沈縫を充填する。	加賀利EⅢ
125	X-39a	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縦位茎縫を施す。	加賀利EⅢ
126	II-E-39a	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入	胴部破片	半截竹管状工具による弧状沈縫を施す。	加賀利EⅢ
127	II-G-40a	深鉢	普通	砂粒・褐色織混	胴部破片	單節LR、纏文施文後、高巻き状沈縫を施す。	加賀利EⅢ 併行
128	II-C-37b	深鉢	普通	砂粒・褐色織物	胴部破片	單節 RL、纏文施文後、継位北縫(2条一起)で区画する。比類部は不完全な割れ酒。	加賀利EⅢ 併行
129	II-E-44c	深鉢	普通	砂粒・白色織物	胴部破片	口縁部の頭部部分と考案される。口縁部は無文か、脣部の規界に弧状沈縫を施す。脣部は斜位沈縫と斜位貼付位による格子目状チークと考えられる。	加賀利EⅢ 併行(曾利系)

第 168 表 二軒在家原田遺跡 A 区グリッド纏文時代出土遺物観察表 (5)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
130	IJ-43a	深鉢	普通	砂粒混入	脚部破片	深鉢の脚部付近と考えられる。2条の横位隆帯で区画し、区画内に斜位沈線と斜位貼付文による格子目状モチーフの文様帯を配す。	加賀利E 併行 (垂利系)
131	IA-42d	深鉢	普通	砂粒混入	脚部破片	脚部上位破片と想定される。半截竹管状工具による隆帶模様位平行沈線と斜位貼付文を重ね、格子目状モチーフとする。	中期後葉?
132	IM-40a	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	脚部破片	口縁部文様帯下部から脚部上位に遺存か。2条一組の隆帯で区画し、区画内には蛇行隆帯を重ねさせる。さらに横位沈線を充填。	加賀利E 併行 (那利系)
133	IA-43b	深鉢	良好	砂粒混入	脚部破片	2条一組の弧状・溝引き状隆帯、縱位蛇行隆帯により区画する。区画内には棒状工具による横線を施す。	加賀利E 併行
134	JH-39d	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・脚部破片	雲母混入	口縁部文様帯下部から脚部上位と想定される。脚部と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内には縱位沈線を施す。脚部、脚位・斜位直線状、溝引き状隆帯を施す。	加賀利E 併行
135	IA-39d	深鉢	普通	砂粒混入	脚部破片	2条の蛇行隆帯で区画する。区画内には斜位沈線施文。蛇行沈線は無文。	加賀利E 併行?
136	X-39c	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	脚部破片	脚部上位片か、單節LR繩文施文、横位・縱位隆帯で区画する。区画内には2条一組の溝引き状隆帯を施す。さらに一部の脚部上位に雲母を押す。	加賀利E 併行?
137	II-34a	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	脚部～底部1/4	脚部LR繩文施文。2条一組を基本とする縱位沈線で区画する。一部の区画内に横位沈線を施す。	加賀利E II
138	IQ-35 (J-72住北脇)	鉢	良好	砂粒混入	体部破片	体部上位において顯著に内屈し、口縁部が外へ反する鉢と想定される。体部上位が遺存する。口縁部（無文の可能性が高い）への変換点付近に棒状工具による三角形刺状突突如施す。三角形は一つおきに上下で交えている。	加賀利E I
139	IA-44a	鉢?	良好	砂粒・褐色礫・雲母混入	体部破片	体部上位～中位左方か、丸棒状工具による2条一組の弧状・逆U字状沈線を施す。	加賀利E III ～IV
140	IB-43a*	器台	普通	砂粒・白色鉱物	7/10	2個一対の孔をJ箇所に配す。U字状・逆U字状・横U字状沈線を施す。	加賀利E 併行
141	IB-43c	器台	普通	砂粒混入	脚部破片	脚部破片と想定される。中位に大きめの孔を連続して穿つ。通に丸棒状工具によるU字状沈線を施す。	中期後葉
142	V-39a	土製耳鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	7/10	鉢を呈する。画面に溝引き状沈線を施す。	中期後葉
143	JU-39b	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物	口縁部破片	口縁部直下に横位沈線を巡らし、その部分が段差を有する。脚部、單節LR繩文施文後、深めの縱位直線状・不整形（側矢先状?）U字状・沈線を施す。	称名字 外周
144	IE-34d	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	外周、沈線で区画。又は沈線を施す。一部に円形刺突文を施す。内面、溝引き状隆帯・U字状沈線・円形刺突文を施す。U字状沈線内側には、器底に対する斜めに円形文を施す。	称名字
145	IK-37a	深鉢	普通	砂粒混入	脚部破片	深鉢の口縁部付近に遺存すると思定される。脚部（一部は沈線）・円形刺突文を施す。一部の区画に沈線端部又は沈線が僅かに認める。	称名字等 II
146	II-42a	深鉢	良好	砂粒混入	脚部破片	脚部LR繩文施文後、沈線で区画する。一部の区画内には列点状沈線を施す。	称名字
147	IP-30	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	脚部破片	深めの沈線で区画し、一部の区画内に刺突文を施す。	称名字
148	IJ-33d	深鉢	良好	砂粒混入	脚部破片	深めの沈線を施す。	称名字
149	IQ-30a	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・雲母混入	脚部破片	沈線で区画し、一部の区画内に單節LR繩文施文。	称名字
150	II-34c	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	脚部破片	沈線により弧状・刺突状等に区画する。一部には單節RL繩文が認められる。	称名字
151	II-34c	深鉢	普通	砂粒混入	脚部破片	脚部上位から中位片と想定される。遺存部最上位は隆帯で横位U字形区画か、縦位は縱位直線状で区画する。一部の区画内には単節LR繩文施文。	中期後葉～後期初頭
152	IO-30	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	脚部破片	棒状工具による刺突文を伴う2条の隆帯と、隆帯間に1条の沈線を模様に高らす。隆帯下位は沈線で区画し、区画内に単節LR繩文施文。	称名字
153	IO-30	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	脚部破片	棒状工具による刺突文を伴う2条一組の隆帯を横位・縱位直線状・斜位弧状に施し区画する。区画内には沈線を施す。一部に単節LR繩文・P字状貼付文を配す。152と同一個体と考えられる。	称名字
154	X-39c	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部～脚部破片	口縁部がやや内反する4単位波状口縁と想定される。内面、波筋部下位に円形刺突文を配す。また、不明瞭ではある4個位沈線を施す。外面、波頂部・波頂部下位に孔を有する。この孔を中心にしてU字形・弧状・直線状沈線を施す。	堰之内 I
155	IO-3	鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	4単位波状口縁と想定される。波筋部に横円形の孔を有する。外側の孔周囲に丸棒状工具による沈線・刺突文を施す。	堰之内 I
156	IJ-36	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	沈線と刺突文を伴う複数把手。	堰之内 I

第169表 二軒在家原田遺跡A区グリッド縄文時代出土遺物観察表(6)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②紹土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
157	ID-41b	深鉢	良好	砂粒・褐色織混 入	胸部破片	胸部中段左方、横位花縞で区画する。一部の区画内に単節LR織文施文化。	昭之内
158	IP-30	深鉢	良好	砂粒・白色織混 入	胸部破片	胸部上位の器形変換点付近に横位花縞を巡らす。その下位には単節LR織文施文化、弧状比縞を施す。一部に刺突文を作り貼付文を配す。	昭之内 I
159	D-184 土面	深鉢	普通	砂粒・白色織混 入	胸部破片	胸部正面の器形変換点付近に横位花縞を巡らす。その下位には単節LR織文施文化、弧状比縞を施す。一部に刺突文を作り貼付文を配す。	昭之内
160	IA-39d	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	横位花縞帯と花縞で区画し、一部の区画内に織文施文化。内面上位に横位沈縞を1条巡らす。	昭之内 II
161	IL-39d	深鉢	普通	砂粒・白色織混 入	口縁部破片	砂粒・白色織混 入	加曾利Ⅰ
162	IL-35c	深鉢	普通	砂粒・褐色織混 入	胸部破片	沈縞(?)より菱形(?)に区画する。一部の区画内に単節LR織文施文化。	昭之内 II
163	IG-39a	深鉢	良好	砂粒混入	胸部破片	胸部上位から中段左方、横位花縞で区画し、区画内に織文施文化後、沈縞を施す。菱形と三角形のモチーフと考えられる。一部の区画内に縞消り。	昭之内 II
164	IP-35a 深鉢または 鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	沈縞で区画する。一部の区画内に単節LR織文施文化。	後期後葉?	
165	IN-33a 深鉢	良好	砂粒・白色織混 入	底部破片	胸部下位から底部に向かって出る器形、底部網代底。内面に化物付着。	後期?	
166	IV-39 鉢	普通	砂粒・褐色織混 入	体部破片	鉢の体部は器形変換点付近と想定される。横位花縞帯、比縞を帯びる。一部に刺突文を作り貼付文を配す。	昭之内	
167	IW-39c 鉢	良好	砂粒・褐色織 入	口縁部破片	波状口縁の想と想定される。外面、遺存部においては無文。内面、口端部及び直下に3条の沈縞を巡らす。最上位の沈縞は底面において縞状を呈する。	昭之内	
168	X-41d 深鉢	良好	砂粒・褐色織混 入	1/4	口端部直下に直立状鉢形花縞を横縞に巡らす。体部上半、丁寧な手打手。下半は単節RL織文施文化。	後期?	
169	IF-38c 鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	鉢の口端部直下、外面、單節RL織文施文化後、沈縞により横位に区画する。一部の区画内に縞消り。また一部に区切り文。内面には横位沈縞を巡らす。	加曾利Ⅰ	
170	IE-36d 鉢?	良好	砂粒混入	胸部破片	鉢の口端部直下、外面、口縁部に単節RL織文施文化後、3条の横位沈縞を巡らす。比縞文間で縞消り。また一部に区切り文。内面には横位沈縞を巡らす。	加曾利Ⅰ	
171	IN-38c 深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	平口端の深鉢。外面、口縁部に単節RL織文施文化後、4条の横位沈縞を巡らす。比縞文間で縞消り。また一部に区切り文。内面には横位沈縞を巡らす。	昭之内 II ~ 加曾利Ⅰ	
172	IN-38d 深鉢	良好	砂粒・褐色織混 入	口縁部破片	体部上位から口縫部にかけて内溝する。口縫部の一部に溝みをする有把手。外面、単節RL織文施文化後、沈縞により区画する。内面、口縫部直下に横位沈縞を巡らす。また一部に焼成前の円孔文を配す。	加曾利Ⅰ	
173	IO-37 泥口土器?	良好	砂粒混入	胸部破片	遺存部最上位に横位花縞を巡らし区画する。その下位には弧状・くの字状等比縞を施す。	昭之内 I	
174	IJ-33c 泥口土器?	良好	砂粒混入	口縁部破片	やや大型の泥口土器タグ付部分と想定。溝巻き状沈縞を施す。	昭之内	

第 170 表 二軒在家原田遺跡 A 区グリッド織文時代出土遺物観察表 (7)

A区調査区一括

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②紹土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	A 区一括	深鉢	普通	砂粒・チート・角口縁部破片 入	口縁部破片	4 単位波状口縫と想定される。口縫部に並行して横衝状工具による縦列波状刺突文を巡らす。口縫部文様帶には、同工具による斜列波状刺突文を施す。	有尾
2	A 区一括	深鉢	普通	砂粒・植物織混 入	口縁部破片	4 単位波状口縫と想定される。横衝起縫状貼付文と平截竹管状工具による平行比縫を組合せ、斜位に施す。	有尾
3	A 区一括	深鉢	普通	砂粒・植物織混 入	胸部破片	横衝状工具による列波状刺突文を斜位に、横衝起縫状貼付文を斜位・溝巻き状に施し区画する。横衝起縫状貼付文の一部には、半截竹管状工具による連続刺突文が認められる。	有尾
4	A 区一括	深鉢	普通	砂粒・植物織混 入	胸部破片	付加条縫文施文化。	前期中葉
5	D-184 土面	深鉢	普通	砂粒・角石・白色織物混入	胸部破片	横位浮縫文(3条1単位)を施し、一部の浮縫文間に棒状工具による列波状刺突文を配す。	諸縫 b
6	A 区一括	深鉢	普通	砂粒・金雲母混 入	口縁部破片	波状口縫と想定される。半截竹管状工具による横位平行沈縞(半截平行沈縞)で区画し、区画内には斜位平行沈縞を巡らす。さらにための逆縫合斜位沈縞を施し格子目状モチーフとする。	五頭ヶ台
7	D-161・ 162 土付近	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	強帯と沈縞を横位に施し口縫部文様帶を区画する。区内に半截竹管状工具による斜位平行沈縞(逆縫合状)を施す。面部、遺存部においては無文。	加曾利Ⅰ
8	D-161・ 162 土付近	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	やや内反する口縫部と想定される。遺存部においては無文。	加曾利Ⅰ

第 171 表 二軒在家原田遺跡 A 区一括織文時代出土遺物観察表 (1)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④刃形・文様等の特徴／備考	
9	A区一括	深鉢	良好	砂粒混入	洞部破片	燃り赤面後、弧状浮線を施す。	加賀利 E
10	A区一括	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵	洞部 1/6 チーク流入	部位後面により4單位に区分する。後面は上部において分岐する(高さきと又は形状を呈す可能性あり)と考えられる。区画内には半截竹管状工具による横形沈線を施す。	加賀利 E 併行
11	D-161・162 土付近	深鉢	良好	砂粒混入	洞部～底部 1/10	燃り赤面後、刃形を呈すが認められるが、意図的ではなく、疑問が残る。	加賀利 E
12	A区一括	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵混入	口縁部破片	波状口縁部と想定される。口縁部直下に1条の沈線を施す。波頂部下位には列状突起を配す。洞部単節 LK 繩文施文化、斜基面圧痕を施す。	堀之内 I
13	A区一括	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵混入	口縁部破片	口縁部に横形圧痕を施す。	後期
14	A区一括	注口土器?	良好	砂粒混入	口縁部破片	注口土器のリテラル部分を想定した。同心円状沈線を両側面に施す。	堀之内

第 172 表 二軒在家原田跡 A 区一括縄文時代出土遺物観察表 (2)

B区J-1号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④刃形・文様等の特徴／備考	
1	J-1 住一括	深鉢	普通	砂粒・植物鐵混入	口縁部破片	半单位波状口縁と想定される。口縁部下位に横形状工具による列状突起を連続して施す。口縁部には同工具による列状突起を複数・斜位に施す。	有尾
2	J-1 住 P-3	深鉢	普通	砂粒・石英・植物鐵混入	口縁部破片	半单位波状口縁と想定される。口縁部下位に横形状工具による列状突起を連続して施す。口縁部には同工具による列状突起を複数・斜位に施す。	有尾
3	J-1 住一括・J-1b 住側周溝	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵・植物鐵混入	口縁部破片	口縁部下位に横形状工具による列状突起を連続して施す。口縁部には同工具による列状突起を複数・斜位に施す。	有尾・黒浜
4	J-1 住一括	深鉢	普通	砂粒・植物鐵混入	洞部破片	口縁部下位に横形状工具による横形平行沈線(平隣模様)を施す。洞部には横形平行沈線を施す。	有尾
5	J-1 住一括	深鉢	普通	砂粒・植物鐵混入	洞部破片	横形 RL と LR 繩文横構造により羽状構成とする。遺存部上位には横形状工具による横位・縦位列状突起を施す。	有尾・黒浜
6	J-1 住 P-8	深鉢	普通	砂粒・植物鐵混入	洞部破片	直前段合撫施文。	有尾・黒浜
7	J-1b 住側周溝	深鉢	普通	砂粒・植物鐵混入	洞部破片	横形 RL 繩文。	有尾・黒浜
8	J-1 住 P-9	深鉢	普通	砂粒・植物鐵混入	洞部破片	直前段合撫施文。	有尾・黒浜
9	J-1 住一括	小型深鉢	普通	砂粒・植物鐵混入	洞部～底部破片	遺存部最上位付近において外反すると想定される。無縫 RL 繩文施文。最上位には横位撫で(又は沈線?)。底部上げ底。	有尾・黒浜
10	J-1 住 D-1 士	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	やや外反する口縁と想定される。横形状工具による横形直線状・波状平行沈線を施す。	諸級 b
11	J-1 住一括	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	横形 RL 繩文施文。	諸級 b
12	J-1 住 P-5	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	(單節 RL カ) 施文後、半截竹管状工具押引による爪形文を横位・斜位に施す。一部の区画内に内形列状突起を配す。全体的に摩滅している。	諸級 b
13	J-1 住 P-8	深鉢	普通	砂粒・石英混入	洞部破片	横位貼付文施文、單節 RL 繩文施文。貼付文上位に押す。	諸級 b
14	J-1 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱混入	洞部破片	半截竹管状工具による横形平行沈線を施す。	諸級 b
15	J-1 住一括	深鉢	良好	砂粒混入	底部破片	單節 RL 繩文施文。	諸級 b

B区J-2号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②粘土	③残存	④刃形・文様等の特徴／備考	
1	J-2 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	半截竹管状工具押引による爪形文を施す。	諸級 b
2	J-2 住一括	深鉢	良好	砂粒・白色鉱混入	洞部破片	洞部上位で外反し、口縁部において顎著に内屈する深線の胸部上位部と想定される。横位浮線文により区画する。一部の区画内には斜位浮線文(一部は渾沌共生か)を施す。	諸級 b
3	J-2 住一括	深鉢	良好	砂粒・チーク・片葉鉱混入	洞部破片	洞部上位で外反し、口縁部において顎著に内屈する深線の胸部上位部と想定される。横位浮線文により区画する。一部の区画内には斜位浮線文(一部は渾沌共生か)を施す。	諸級 b
4	J-2 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵混入	洞部破片	半截竹管状工具押引による爪形文を施す。一部の爪形文間にには斜位浮線文を施す。	諸級 b

第 173 表 二軒在家原田跡 B 区縄文時代住居址出土遺物観察表 (1)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
5	J-2住-1括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半裁竹管状工具による横拉・斜位平行沈線を施す。	諸磯 b
6	J-2住-1括	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入	胴部破片	複数 RLと織文横軸がし。	諸磯 b
7	J-2住-1括	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	單脚 RL結部織文横軸がし。	諸磯 b
8	J-2住-1括	鉢	良好	砂粒混入	底部破片	体部・單脚 RL 織文施文後、半裁竹管状工具による木葉状平行沈線を施す。底部に単脚 RL 織文が部分的に認められる。	諸磯 b
9	J-2住-1括	浅鉢	普通	砂粒・金雲母混入	底部破片	有孔鉢の底部と思定。遺存部においては無文。	諸磯 b

B区J-3号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-3住P-3	深鉢	普通	砂粒・白色織混入	口縁部破片	4單位双頭波状口縁が、半裁竹管状工具押し引きによる弓形文を施し、間に斜位短辺線を連続して施す。	諸磯 b
2	J-3住P-10	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	4単位双頭波状又は二頭波状口縁が、口縫部厚みを有し、上面にX字状モチーフの浮織文を施す。口縁部に浮織文を施す。	諸磯 b
3	J-3住-1括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部上面、連続して短辺線を施し継衝状とする。口縫部、横位浮織文を3条部らす。脚部、單脚 RL 織文施文後、半裁竹管状工具による横位・斜位平行沈線(半降起線状)を施す。	諸磯 b
4	J-3住D-1土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	單脚 RL 織文施文後、半裁竹管状工具押し引きによる弓形文を施す。さらに、円形容器突を鋸歯に配す。	諸磯 a ~ b
5	J-3住D-1土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半裁竹管状工具押し引きによる弓形文を横位・斜位に施す。	諸磯 b
6	J-3住F-10	深鉢	やや不良	砂粒・褐色織・白色物混入	胴部破片	直筋状・弧状浮織文を施す。	諸磯 b
7	J-3住-1括	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	半裁竹管状工具による横位平行沈線(半降起線状)で区画し、内側に斜位直線状・弧状平行沈線を施す。浮織文を施す。	諸磯 b
8	J-3住D-1土	深鉢	普通	砂粒・褐色織・雲母混入	口縁部～底部底片	單脚 RLとLR結束織文横軸がしにより羽状構成とする。	諸磯 b
9	J-3住-1括	深鉢	普通	砂粒・植物織混入	單脚 RL	單脚 RLとLR結束織文横軸がしにより羽状構成とする。	有尾・黑斑
10	J-3住F-1	深鉢	普通	砂粒・植物織混入	胴部破片	口縁部文様部から胴部にかけての括れ部が遺存する。半裁竹管状工具による平行沈線(半降起線状)施文後、3面並行して同工具押し引きによる爪形文施文。	有尾

B区J-4号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-4住D-1	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部破片	口縫部が顯著に内屈する4単位波状口縁と想定される。直線状・弧状・浮織文を施す。一部に半裁竹管状工具又は棒状工具による連続刻突を施す。	諸磯 b
2	J-4住-1括	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	4単位双頭波状口縁が、口縫部上面の一部は継衝状を呈する。口縫部に3条の横位直線文が施す。直筋全体に單脚 RL 織文を施す。直筋全体には格子目状沈線文。内外面に赤色彩。	諸磯 b
3	J-4住D-1土 NO2	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口縫部において顯著に内屈する4単位波状口縁と想定される。單脚 RL 織文施文後、半裁竹管状工具による平行沈線を施す。外張の一部が剥落。	諸磯 b
4	J-4住-1括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半裁竹管状工具押し引きによる継位直線状・横位弧状・爪形文を施す。	諸磯 b
5	J-4住-1括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半裁竹管状工具押し引きによる継位直線状・横位弧状・爪形文を施す。	諸磯 b
6	J-4住-1括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	胴部上部において顯著に内屈する4単位波状口縁と想定される。浮織文を施す。	諸磯 b
7	J-4住-1括	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	單脚 RL 織文施文後、横位・斜位浮織文を施す。浮織文間に列点状刻突文を施す。	諸磯 b
8	J-4住-1括	深鉢	普通	砂粒・白色物	口縁部破片	波状口縁の波頂部附近。波頂部下辺に漁巻き状溝帶混入。	諸磯 b
9	J-4住D-1	深鉢	普通	砂粒・白色物・黒色物混入	口縁部～胴部破片	口縫部において顯著に内屈する4単位波状口縁と想定される。織文(不明瞭)、單脚 RLから無文後、半裁竹管状工具による平行沈線を施す。さらに、波頂部下辺に円形貼付文を施す。	諸磯 b
10	J-4住-1括	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	胴部破片	半裁竹管状工具による継衝状・横位直線状平行沈線を施す。遺存部下辺には無筋 L 織文施文。	諸磯 b
11	J-4住-1括	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	單脚 RL 織文施文後。半裁竹管状工具による横位平行沈線を施す。	諸磯 b
12	J-4住D-1土・NO3	深鉢	普通	砂粒・片岩・石英・ナトリム混入	胴部破片	單脚 RL 織文横軸がし後。半裁竹管状工具による平行沈線を横位に沿う区域。一部区画内に、半裁竹管状工具によるX字状・渦巻き状・弧状浮織文を施す。	諸磯 b

第174表 二軒在家原田遺跡B区織文時代住居址出土遺物観察表(2)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
13	J-4 住 NO2・NO4・NO5 下・NO18	深鉢	普通	砂粒・石英・褐 色鐵混入	胸部破片	單面 RL 繩文施文後、半截竹管状工具による平行沈 縫を模様に記し区画する。一部区画内、半截竹管 状工具による斜位直線状・溝巻き状・弧状沈縫を施す。	諸磯 b
14	J-4 住 D-1 土・一 括	深鉢	良好	砂粒・白色粘土 混入	口縁部～胸部 1/6	口縁部が顯著に内屈する 1 単位波状口縁と想定され る。單面 RL 繩文施文後、半截竹管状工具による 3 条一組を基本とする平行沈縫を模様に記し区画す る。一部の区画内に部位 X 字状沈縫施す。	諸磯 b
15	J-4 住 NO1・NO4・ NO5	深鉢	良好	砂粒・灰色鐵 チャート・片岩混入	胸部破片	腹部中位迄。單面 RL 繩文施文後、半截竹管状工具 による横位平行沈縫で区画する。一部を広く区画し、 区画内に横位 S 字形・弧状等平行沈縫施す。	諸磯 b
16	J-4 住一括	深鉢	良好	砂粒混入	胸部破片	單面 RL 繩文施文。	諸磯 b
17	J-4 住 D-1 土・ D-1 上 NO5	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胸部～底部破 片	單面 RL 繩文施文後、半截竹管状工具による横位平 行沈縫で区画する。	諸磯 b
18	J-4 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	胸部～底部破 片	單面 RL 繩文を施す。外面の一部が剥落している。	諸磯 b
19	J-4 住 D-1 土 NO11 下	深鉢	普通	砂粒・灰色鐵混 入	口縁部～胸部破 片	深鉢の腹面把手。底面周囲に浮縫文を施す。	諸磯 b
20	J-4 住一括	浅鉢？	良好	砂粒混入	体部破片	單面 b 式鉢の残部と想定される。半截竹管状工具押 し引きによる爪形文又は平行沈縫を施す。一部の爪形 文の間に斜位横縫を連続して施す。外面全体に赤彩、 有孔浅鉢の口縁部一部部屈曲点付近が遺存している。 Y 内面ともに赤色塗装が認められる。	諸磯 b ~ c
21	J-4 住 D-1	浅鉢	普通	砂粒・白色粘土・ 金雲母混入	口縁部～体部 破片	單面 RL 繩文を施す。	加曾利 E ?
22	J-4 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵混 入	底部破片	單面 RL 繩文施文。	加曾利 E ?
23	J-4 住 D-1 土・ NO14	深鉢	普通	砂粒混入	胸部～底部 1/5	不明瞭であるが纓文（無筋）と無筋（？）を施す。	加曾利 E ?

B区J-5号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-5 住一括	深鉢	普通	砂粒・植物鐵雜 混入	口縁部破片	跡やかな 4 単位波状口縁と想定される。口縁に並行し て半截竹管状工具による平行沈縫を施す。	有尾・黒底
2	J-5 住一括	深鉢	普通	砂粒・チャート・植 物鐵雜混入	胸部破片	腹部上位の器形変換点付近が遺存する。半截竹管状 工具による上部パンパス文・横位平行沈縫を施す。胸部は 單面 RL 繩文施文。	有尾・黒底
3	J-5 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵・ 植物鐵雜混入	胸部破片	半截竹管状工具によるコンパス文を施す。施文技術が 未熟である。	有尾・黒底
4	J-5 住一括	深鉢	普通	砂粒・雲母・植 物鐵雜混入	胸部破片	單面 RL 繩文と無筋 J(?) 繩文施文。	有尾・黒底
5	J-5 住一括	深鉢	やや不良	砂粒・雲母・植 物鐵雜混入	底部破片	今や上げ底状を呈する。	有尾・黒底

B区J-6号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-6 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒・植物鐵雜 混入	口縁部破片	單面 RL 繩文施文後、口縁に並行して半截竹管状工 具押し引きによる横位の広い横位爪形文を 3 条施す。	有尾・黒底
2	J-6 住一括	深鉢	普通	砂粒・チャート・植 物鐵雜混入	胸部破片	繩文 (単面 RL ? 不明瞭) 施文後、半截竹管状工具 押し引きによる横位爪形文施文。	有尾・黒底
3	J-6 住一括	深鉢	普通	砂粒・植物鐵雜 混入	胸部破片	單面 RL 繩文施文後、半截竹管状工具押し引きによる 横位爪形文施文。	有尾・黒底
4	J-6 住伊 2	深鉢	普通	砂粒・植物鐵雜 混入	胸部破片	單面 RL 繩文施文後、彌衡状工具による横位平行沈 縫施文。	有尾・黒底
5	J-6 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒・植物鐵雜 混入	胸部破片	單面 RL 繩文施文後、彌衡状工具による横位平行沈 縫を施す。遺存部最上位は半截竹管状工具による施 文部分。	有尾・黒底
6	J-6 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒・雲母・植 物鐵雜混入	胸部破片	單面 RL と LR 繩文横構転引による羽状構成とする。 物鐵雜混入	有尾・黒底
7	J-6 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒・植物鐵雜 混入	胸部破片	觸部から口縁部にかけて外屈する。單面 RL 繩文施文。	有尾・黒底

B区J-7号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-7 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵雜 混入	口縁部破片	單面 RL 繩文施文後、半截竹管状工具による觸部・ 触部平行沈縫 (半隆起状) を施す。	諸磯 b
2	J-7 住 P-3	深鉢	普通	砂粒・灰色鐵雜 混入	胸部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。 半截竹管状工具押し引きによる斜位爪形文を施す。	諸磯 b
3	J-7 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵 チャート混入	胸部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。 北側文間に斜位爪形文を施す。	諸磯 b
4	J-7 住一括	深鉢	普通	砂粒・植物鐵雜 混入	胸部破片	半截 RL 繩文施文後、彌衡状工具による横位平行沈 縫施文。	諸磯 b

第 175 表 二軒在家原田遺跡 B 区繩文時代住居址出土遺物觀察表 (3)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②加工	③残存		
5	J-7住一括	深鉢	良好	砂粒・褐色繊混 人	口縁部破片	④沿形・文様等の特徴／備考 横位・斜位浮線文施文後、浮線文に並行して列点状 刷文字を施す。	諸磯 b
6	J-7住 P-3	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	単面 RL 結節繩文横軸が凡。	諸磯 b
7	J-7住一括	深鉢	普通	砂粒・灰色繊混 人	口縁部破片	単面 RL 調文施文。	諸磯 b
8	J-7住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混 人	底部破片	単面 RL 調文施文。	諸磯 b
9	J-7住 P-2	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部～体部 破片	大型の有孔深鉢と想定される。口縁部に並行し 2 条の 浮線を施し、浮線文上に連続して孔を穿つ。体部、 半裁竹管状工具による爪形文で区画する。	諸磯 b
10	J-7住一括	圓鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	半裁竹管状工具による横位施文後、直線状・ 弧状浮線文を施す。	諸磯 c
11	J-7住一括	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半裁竹管状工具による縱位平行沈縫（半隆起縫狀） で区画し、区画内には同工具による縦形施文。	諸磯 c

B区 J-8号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②加工	③残存		
1	J-8住 P-2	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	口縁部破片	④沿形・文様等の特徴／備考 単面 RL 施文後、半裁竹管状工具による横位平行 沈縫を施す。	諸磯 b
2	J-8住 P-1	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混 人	口縁部破片	口縁部において顯著に内屈する 4 単位波状口縁と想 定される。単面 RL 調文施文後、半裁竹管状工具によ る平行沈縫を施す。	諸磯 b
3	J-8住 P-4	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	単面 RL 調文施文。	諸磯 b
4	J-8住 P-3	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	胴部破片	半裁竹管状工具押・引きによる縦位爪形文を施す。	諸磯 b
5	J-8住 P-1	深鉢	普通	砂粒・片岩・チモ 1/5 混入	胴部 1/5	半裁竹管状工具による平行沈縫を横位に並びて区画 する。区画内には巻き状・斜・斜・木葉状等の沈縫を施す。 沈縫は何れも並行して施し、施術工具による沈縫状を示す。 被熱したため剥落部が目立つ。	諸磯 b
6	J-8住 P-2	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	口縁部破片	単面 RL 調文施文後、半裁竹管状工具による横位平 行沈縫を施す。	諸磯 b
7	J-8住 P-4	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単面 RL 調文施文。	諸磯 b
8	J-8住 P-3	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	口縁部破片	単面 RL 調文施文後、半裁竹管状工具による弧状・ 巻き状等沈縫を施す。	有尾・黒浜

B区 J-9号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②加工	③残存		
1	J-9住一括	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	④沿形・文様等の特徴／備考 口縁部において顯著に内屈する 4 単位波状口縁と想 定される。単面 RL 調文施文後、横位浮線文を施す。	諸磯 b
2	J-9住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混 人	胴部破片	半裁竹管状工具押・引きによる爪形文を施す・横位・ 斜位に施す。米字状のチモ。	諸磯 b
3	J-9住一括	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半裁竹管状工具押・引きによる爪形文を施す・横位・ 斜位に施す。米字状のチモ。	諸磯 b
4	J-9住一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単面 RL 調文施文後、横位浮線文を施す。	諸磯 b
5	J-9住一括	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	口縁部において顯著に内屈する 4 単位波状口縁と想 定される。半裁竹管状工具による横位・縱位・弧状 沈縫を施す。	諸磯 b
6	J-9住一括	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	口縁部破片	半裁竹管状工具による平行沈縫を矢羽根状に施す。 ボタ・ボタ斜位付文を配す。	諸磯 c
7	J-9住一括	深鉢	良好	砂粒・褐色繊混 人	胴部破片	半裁竹管状工具による縦位・斜位・斜位平行沈縫を施す。	諸磯 c
8	J-9住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混 人	口縁部破片	半裁竹管状工具による縦位平行沈縫で区画し、区画 内には同工具による縦形施文。	諸磯 c
9	J-9住一括	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	胴部下位から底面部へかけて剥出する器形。半裁竹管 状工具による平行沈縫を施す。一部に 2 個一对の 内包タブ付文を配す。	諸磯 c
10	J-9住 P-1	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	口縁部破片	異色調文施文。遺存最上位には横位平行沈縫（横 位工具？）が認められる。	有尾・黒浜

B区 J-10号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②加工	③残存		
1	J-10住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色繊・ 植物繊維混入	口縁部破片	④沿形・文様等の特徴／備考 4 単位波状口縁と想定される。頂部外周に横円形 貼付文を施す。横円形貼付文と口縁部上面には、弧状・ 斜位平行沈縫。（一部は半裁竹管状工具による斜位平行 沈縫を施す。）	有尾・黒浜
2	J-10住 P-1	深鉢	やや不良	砂粒・チャート・ 片岩・褐色繊・ 植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。半裁竹管状工具による 斜位平行沈縫を施す。	有尾・黒浜

第 176 表 二軒在家原田遺跡 B 区縄文時代住居址出土遺物観察表(4)

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
3	J-10 住 P-3	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定。單部 RL 繩文施文。	有尾・黒底
4	J-10 住一括	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。異系斜纖維文施文後、斜面状工具による斜位列点状刺突文を施す。遺存部最下位には横位沈縫が認められる。	有尾・黒底
5	J-10 住一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁か。異系斜纖維文施文。	有尾・黒底
6	J-10 住 D-1	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	單部 RL と LR 繩文施文後、半載竹管状工具による横位・斜位平行沈縫を施す。	有尾・黒底
7	J-10 住一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	半載竹管状工具又は棒状工具による格子状沈縫を施す。	有尾・黒底
8	J-10 住一括	深鉢	良好	砂粒・雲母・植物繊維混入	胴部破片	單部 RL と LR 繩文横軸がよりより羽状構成とする。	有尾・黒底
9	J-10 住同溝一括	深鉢	普通	砂粒・石英・植物繊維混入	底部破片	單部 RL と LR 繩文を施す。	有尾・黒底
10	J-10 住一括	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入	口縁部破片	2 単位又は 4 単位波状口縁と想定される。口縁に並行して半載竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。沈縫文間に斜位短沈縫を施して施す。	諸磯 b
11	J-10 住一括	深鉢	良好	砂粒・白色粘土・雲母混入	胴部破片	單部 RL 繩文施文後、横位浮織文を施す。重複する J-11 住の遺物か。	諸磯 b

B区 J-11 住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-11 住一括	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入	口縁部破片	胴部上位において顯著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。單部 RL 繩文施文後、浮織文を施す。	諸磯 b
2	J-11 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部が顯著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。半載竹管状工具による平行沈縫と横位・斜位・弧状に施す。液面下位に円形貼付文を配す。	諸磯 b
3	J-11 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	口縁部破片	舌型口状平口縁と思われる。複部 RL 繩文横軸が。、	諸磯 b
4	J-11 住一括	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入	胴部破片	單部 RL 繩文施文後、遺存部上位には継縫・X字状貼付文を施す。遺存部中位から下位には横位浮織文を施し、一部の浮織文間に斜位点刺突文施す。	諸磯 b
5	J-11 住一括	深鉢	良好	砂粒・褐色織・雲母混入	胴部破片	胴部の胴部中位口縁と想定される。單部 RL 繩文施文後、浮織文を施す。	諸磯 b
6	J-11 住一括	深鉢	良好	砂粒・褐色織・白色粘土混入	胴部破片	單部 RL 繩文施文後、斜位直線状・弧状浮織文を施す。	諸磯 b
7	J-11 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色織・雲母混入	片	胴部最下位が康の出で器形。單部 RL 繩文施文後、横位・斜位・弧状等浮織文を施す。胴部最下位には継縫・継縫貼付文を組み合わせ、目の字状モチーフとする。	諸磯 b

B区 J-12 住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-12 住 P-2	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁部がやや内收する 4 単位波状口縁と想定。波頂部は反復波状を呈する。單部 RL 繩文施文後、半載竹管状工具による平行沈縫と横位・斜位・弧状に施す。	諸磯 b
2	J-12 住 P-2	深鉢	普通	砂粒・褐色織・灰色織・雲母混入	口縁部破片	胴部上位において顯著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。單部 RL 繩文施文後、半載竹管状工具による横位直線状・弧状平行沈縫（一部は半周起線状）。	諸磯 b
3	J-12 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色粘土混入	口縁部破片	胴部上位において顯著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。浮織文を施す。	諸磯 b
4	J-12 住 P-2	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半載竹管状工具による横位弧状平行沈縫施文後、斜位文を施すに配す。	諸磯 a
5	J-12 住 P-2	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半載竹管状工具押し引きによる横位・斜位爪形文を施す。	諸磯 b
6	J-12 住 P-2	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	單部 RL 繩文施文後、半載竹管状工具による横位・斜位直線状・弧状平行沈縫を施す。	諸磯 b
7	J-12 住 P-2	深鉢	良好	砂粒・白色粘土混入	胴部破片	單部 LR 繩文施文後、横位浮織文を施す。	諸磯 b
8	J-12 住 P-3	深鉢	普通	砂粒・褐色織・灰色織混入	胴部破片	單部 RL 繩文施文後、横位浮織文・繩文を押す心横位貼付文を施す。	諸磯 b
9	J-12 住 P-1	深鉢	良好	砂粒・白色粘土混入	胴部破片	單部 RL 繩文施文。	諸磯 b ?
10	J-12 住 P-2	深鉢	普通	砂粒・褐色織・灰色織・雲母混入	底部破片	單部 RL 繩文を方向を変えて縦らに施す。内部の一部に凹凸化物看。	諸磯 b
11	J-12 住 P-2	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	片	單部 RL 繩文施文後、半載竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。	有尾・黒底

第 177 表 二軒在家原田遺跡 B 区繩文時代住居址出土遺物觀察表 (5)

B区J-13号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②舶土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-13 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	細めの半截竹管状工具押し引きによる横位爪彫文を施す。	諸磯 a ~ b
2	J-13 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色織混	胴部破片 入	口縁部平行引が溝に削落していると考えられる。胴部斜状工具による横位爪彫文後、竹管状工具による円形削突文を継ぐに配す。	諸磯 a ~ b
3	J-13 住 P-15	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	胴部斜位において頭部に内屈する3単位波状口縁と想定される。單位・繩文施文後、半截竹管状工具による平行短丸線を施す。	諸磯 b
4	J-13 住一括	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部へ胴部 破片	口縁部が内屈する3部位胴部から、半截竹管状工具による横位平行沈継施文を施す。	諸磯 b
5	J-13 住 P-20	深鉢	普通	砂粒・褐色織・ 白色鉱物混入	口縁部破片	口縁部が内屈する3部位胴部から、半截竹管状工具による横位平行沈継施文を施す。	諸磯 b
6	J-13 住 P-17	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物 混入	口縁部破片	外反する平口縁の、半截竹管状工具による横位平行沈継施文。	諸磯 b ~ c
7	J-13 住 P-11	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位爪彫文施文。爪彫文には斜位短丸線を連続して施す。	諸磯 b
8	J-13 住 P-7	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物 混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位・斜位爪彫文施文。一部の爪彫文間に平行斜位短丸線を施す。	諸磯 b
9	J-13 住 P-10	深鉢	普通	砂粒・褐色織・ 白色鉱物混入	胴部破片	單節 RL・繩文施文後、半截竹管状工具押し引きによる横位平行沈継施文。	諸磯 b
10	J-13 住 P-4	深鉢	普通	砂粒・褐色織・ 白色鉱物混入	胴部破片	繩文（單節 LR）施文後、半截竹管状工具による横位・斜位平行沈継施文。	諸磯 b
11	J-13 住 P-4	深鉢	普通	砂粒・褐色織	胴部破片	繩文（單節 LR）施文後、半截竹管状工具による横位・斜位平行沈継施文。	諸磯 b
12	J-13 住 P-20	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物 混入	胴部破片	繩文（單節 LR）施文後、半截竹管状工具による横位・斜位平行沈継施文。	諸磯 b
13	J-13 住 P-22	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位・斜位平行沈継施文。内面に炭化物付着。	諸磯 b ~ c
14	J-13 住 P-10	深鉢	やや不良	砂粒・褐色織	胴部破片	半截竹管状工具による横位平行沈継施文。	諸磯 b
15	J-13 住 P-18	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・ 雲母混入	胴部破片	單節 RL・繩文施文後、横位浮繩文を施す。一部の浮繩文に列状斜突文を施す。	諸磯 b
16	J-13 住 P-2	深鉢	普通	砂粒・褐色織	胴部破片	横位・斜位浮繩文を施す。	諸磯 b
17	J-13 住 P-2	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	單節 RL・繩文施文後、横位浮繩文を施す。一部の浮繩文に並行して列状斜突文を施す。	諸磯 b
18	J-13 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部へ胴部 破片	半截竹管状工具による平行沈継を矢羽根状に施し、棒状貼付文を配す。施文がやや薄である。	諸磯 c
19	J-13 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色織・ 白色鉱物混入	口縁部破片	單節 RL・繩文施文後、2個一对の円形貼付文を配す。	諸磯 c
20	J-13 住 P-12	深鉢	普通	砂粒・褐色織混	胴部破片	半截竹管状工具による縱位・斜位平行沈継施文後、一部の楕円形貼付文を施す。	諸磯 c
21	J-13 住 P-7	深鉢	普通	砂粒・褐色織	胴部破片	胴部平行引と想定される。半截竹管状工具による横位・斜位平行沈継施文後、一部にボタン状貼付文を施す。	諸磯 c
22	J-13 住 P-6	深鉢	良好	砂粒・褐色織・ 白色鉱物・雲 母混入	胴部破片	單節 RL・繩文施文後、一部にボタン状貼付文を施す。	諸磯 c
23	J-13 住 P-15	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位・縱位平行沈継施文。	諸磯 c
24	J-13 住 P-21	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による縦位・斜位平行沈継施文。内面に炭化物付着。	諸磯 c
25	J-13 住一括	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	半截竹管状工具による縦位・斜位平行沈継施文後、結合部浮繩文を施す。	諸磯 c
26	J-13 住 P-22	深鉢	普通	砂粒・植物織維 混入	胴部破片	異名斜彌文を施す。切れ込み。	有尾・黒浜
27	J-13 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色織・ 白色鉱物・金 雲母混入	胴部破片	單節 RL・繩文施文後、半截竹管状工具による格子目字・辯字平行沈継施文。	五箇ヶ谷
28	J-13 住 P-11	深鉢	普通	砂粒・褐色織・ 白色鉱物・金 雲母混入	胴部破片	單節 RL・繩文施文後、半截竹管状工具による弧状・S字状平行沈継施文。内面の一部に炭化物付着。	五箇ヶ谷

B区J-14号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②舶土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-14 住外側壁面溝	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物 混入	胴部破片	繩文（單節 LRと無筋 Rか）施文。	諸磯 b ?

第178表 二軒在家原田遺跡B区繩文時代住居址出土遺物観察表(6)

B区J-15号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-15住-I	深鉢	普通	砂粒・白色粘物、口縁部・胸部 白色混入	破片	口沿部において顯著に内屈する4単位波状口縁と想定される。単節RL、繩文施文後、櫛削状工具による横位・斜位(波状口縁に沿うるよ)平行沈線を施す。	諸磯 b
2	J-15住 I-1	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	胸部上位において顯著に内屈する4単位波状口縁と想定される。単節RL、繩文施文後、櫛削状工具による横位・斜位(波状口縁に沿うるよ)平行沈線を施す。	諸磯 b
3	J-15住-I	深鉢	普通	砂粒・灰色混入	胸部破片	誠文(單節 RL) 施文後、浮線文を施す。	諸磯 b
4	J-15住-I	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 混入	胸部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線で区画する。区画には同工具による横位・斜位平行沈線を施す。X字状と考えられるツブリ。	諸磯 b
5	J-15住-I	深鉢	良好	砂粒・褐色混入	胸部破片	単節 RL、繩文施文後、半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線を施す。	諸磯 b
6	J-15住-I	深鉢	普通	砂粒・褐色混入	胸部破片	単節 RL、繩文施文後、半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線を施す。	諸磯 b
7	J-15住 I-1	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。	諸磯 b
8	J-15住-I	深鉢	良好	砂粒・褐色混入	胸部破片	胸部上位において顯著に内屈する4単位波状口縁と想定される。内屈部が遺存する。単節 RL、繩文施文後、櫛削状工具(一部は半截竹管状工具)による平行沈線を施す。	諸磯 b

第179表 二軒在家原田遺跡B区縄文時代住居址出土遺物観察表(7)

B区D-1号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-1土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	4単位波状口縁か、半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。	諸磯 b
2	D-1土	深鉢	普通	砂粒・褐色混入	胸部破片	半截竹管状工具押し引きによる直線直縫状・鄧状爪形文を施す。一部の区画に縄文を施すが不明瞭である。	諸磯 b
3	D-1土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物	胸部破片	単節 RL、繩文施文後、半截竹管状工具による格子目状平行沈線を施す。	諸磯 b
4	D-1土	深鉢	普通	砂粒・褐色混入	胸部破片	単節 RL、繩文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。内面剥落部が多い。	諸磯 b
5	D-1土	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	単節 RL、繩文施文後、横位浮線文を施す。	諸磯 b
6	D-1土	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	単節 LR、繩文施文後、横位浮線文を施す。	諸磯 b

B区D-2号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-2土	深鉢	良好	砂粒混入	胸部破片	単節 RL、繩文施文。	諸磯 b?

B区D-3号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-3土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 混入	口縁部・胸部破片	口縁部が顯著に内反する。横位・斜位・張狀に浮線文を施す。	諸磯 b
2	D-3土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	4単位波状口縁直縫の直頂部付近と想定される。直頂部下位には円孔文を配す。単節LR、繩文施文。外面部直頂部直下に点状切削痕施文。	諸磯 b?
3	D-3土	深鉢	良好	砂粒・白色粘物 混入	胸部破片	幅広の半截竹管状工具押し引きによる爪形文を横位・斜位に施す。一部の爪形文間に、同工具又は板状工具による連続刻突痕を施す。	諸磯 b
4	D-3土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 混入	胸部破片	幅広の半截竹管状工具押し引きによる爪形文を横位・高巻き状に施す。一部の爪形文間に、同工具又は板状工具による連続刻突痕を施す。	諸磯 b
5	D-3土	鉢	普通	砂粒混入	口縁部・体部破片	体部最上位に孔を有する。それ以外、遺存部においては無文である。赤彩を施していた可能性がある。	諸磯 b?

B区D-4号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-4土	深鉢	良好	砂粒・白色粘物、口縁部破片 雲母混入	口縁部	口縁部付近やベニ厚みを有し、折り返し口縁状を見る部分あり。単節 RL、繩文施文。	諸磯 b
2	D-4土	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	弧状浮線文を施す。	諸磯 b
3	D-4土	深鉢	普通	砂粒・褐色混入	胸部破片	胸部上位に想定される。半截竹管状工具による平行沈線を施す。	諸磯 b
4	D-4土	深鉢	良好	砂粒混入	胸部破片	単節 RL、繩文施文。	諸磯 b
5	D-4土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	4単位波状口縁と想定される。櫛削状工具による平行沈線・列点状刻突文を施す。	有尾

第180表 二軒在家原田遺跡B区土坑出土遺物観察表(1)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②釉土	③残存	
6	D-4 土	深鉢	良好	砂粒・チート・植物纖維混入	口縁部破片	口縁部文様剥落部分と想定される。半裁竹管状工具による平行沈線・輪削状工具による列点状刺突文を施す。差形・三角形モチーフを考えられる。
7	D-4 土	深鉢	普通	砂粒・植物纖維混入	口縁部破片	直前段合焼施後。半裁竹管状工具押し引きによる間隔の広い横位爪文を3条施す。

B区D-5号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②釉土	③残存	
1	D-5 土	深鉢	良好	砂粒・白色粘土	口縁部破片 混入	單面 RL 繩文施後、半裁竹管状工具による横位・斜位平行沈線を施す。
2	D-5 土	深鉢	良好	砂粒・白色粘土	口縁部破片 混入	繩文（單面 RL）施後、半裁竹管状工具による横位平行沈線を施す。
3	D-5 土	深鉢	良好	砂粒・褐色纖維混入	口縁部破片	半裁竹管状工具による縱位平行沈線（半隆起線状）で区画し、区画内に同工具による斜位平行沈線を施す。さらに一部に2個一対のボタン状貼付文を配す。

B区D-8号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②釉土	③残存	
1	D-8 土	深鉢	良好	砂粒・白色粘土	口縁部破片 混入	脚部上位において顯著に内凹する4単位波状口縁と想定される。單面 RL 繩文施後、横位浮縫文を施す。
2	D-8 土	深鉢	普通	砂粒・褐色纖維混入	口縁部破片	單面 LR 繩文施す。一部に浅い沈線状溝みが認められるが、痕跡的文か不明。
3	D-8 土	深鉢	普通	砂粒・褐色纖維混入	口縁部破片	溝巻き状横縫文を施す。外周の一帯は剥落。内面下半には炭化物付着。
4	D-8 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	横位浮縫文を施す。

B区D-10号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②釉土	③残存	
1	D-10 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部や外反する。全体的に薄手。一部に横縫文（複節 RL,RJ）が認められるが、摩滅的ため不明瞭。
2	D-10 土	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	全体的に薄手。外周の一帯は剥落。一部に横縫文（複節 RL,RJ）が認められるが、摩滅的ため不明瞭。1と同一個体と考えられる。

B区D-12号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②釉土	③残存	
1	D-12 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土	口縁部破片 混入	單面 RL 繩文施後、横位浮縫文を施す。

B区D-13号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②釉土	③残存	
1	D-13 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	單面 LR 繩文施す。

B区D-14号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②釉土	③残存	
1	D-14 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土	口縁部～胸部破片 混入	4単位波状口縁と想定される。半裁竹管状工具押し引きによる爪形文を複数・斜位・斜手状に施す。一部に竹管状工具による円形刺突文を配す。口縁部上面の一帯にも爪形文を施す。
2	D-14 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部～胸部破片	口縁部において顯著に内凹する4単位波状口縁と想定される。單面 RL 繩文施後、浮縫文を施す。

B区D-15号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②釉土	③残存	
1	D-15 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土	口縁部～胸部破片 混入	4単位波状口縁と想定される。半裁竹管状工具押し引きによる爪形文を複数・斜位・斜手状に施す。一部に竹管状工具による円形刺突文を配す。口縁部上面の一帯にも爪形文を施す。
2	D-15 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土	口縁部破片	口縁部が内凹する4単位波状口縁と想定される。單面 RL 繩文施後、浮縫文を施す。
3	D-15 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土	口縁部破片	4単位複合波状口縁と想定される。繩文施後、半裁竹管状工具による平行沈線を施す。
4	D-15 土	深鉢	良好	砂粒・白色粘土	口縁部破片 混入	4単位複合波状口縁と想定される。繩文施後、半裁竹管状工具による平行沈線を施す。
5	D-15 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	4単位波状口縁と想定される。單面 RL 繩文を複数転がす。
6	D-15 土	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	口縁部破片	半裁竹管状工具による平行沈線で区画する。沈線間に同工具による刺突を施す。

第181表 二軒在家原田遺跡B区繩文時代土坑出土遺物観察表(2)

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
7	D-15 土	浅鉢	良好	砂粒混入	体部破片	(4)器形・文様等の特徴／備考 浅鉢の体部と想定した。半載竹管状工具押し引きによる爪形文で区画する。	諸磯 b
8	D-15 土	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維・白色繊維	銅部破片	銅部上位において縦著に内層する4単位形状は横状に想定。浮縫文施文化、一部の爪形文間に斜位粗比線を施す。	諸磯 b
9	D-15 土	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維・白色繊維混入	銅部破片	半載竹管状工具押し引きによる横位直線状、弧狀爪形文を施す。一部の爪形文間に斜位粗比線を施す。	諸磯 b
10	D-15 土	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維混入	銅部破片	単筋 RL、圓文施文化後、半載竹管状工具による横位・斜位平行比線を施す。	諸磯 b
11	D-15 土	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維	銅部破片	単筋 RL、圓文施文化後、半載竹管状工具による横位平行比線を施す。	諸磯 b
12	D-15 土	深鉢	普通	砂粒・白色繊物混入	銅部下位～底部破片	単筋 RL、圓文施文化後、一部の半載竹管状工具による3条1組の横位平行比線を施す。	諸磯 b
13	D-15 土	深鉢	普通	砂粒・白色繊物混入	底部破片	銅部最下位(ふ底部)においてやや通じ出す器形。横位浮縫文を施す。銅部最下位不明瞭であるが圓文が認められる。	諸磯 b
14	D-15 土	浅鉢	普通	砂粒・白色繊物混入	体部破片	有孔浅鉢の銅部中位附近に想定される。遺存部中位附近に網目状の器形を有し、段差の上下に横位直線状比線・連続網状突起を施す。下位には半載竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。外側の一部に赤色垂影が認められる。全体的に精製の感が強い。	諸磯 b
15	D-15 土	浅鉢	良好	砂粒混入	体部下位～底部破片	浅鉢の底部付近。遺存部においては無文。	諸磯 b

B区D-16号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	D-16 土	深鉢	普通	砂粒・白色繊物混入	銅部破片	単筋 RL、圓文施文化後、横位浮縫文を施す。	諸磯 b
2	D-16 土	深鉢	普通	砂粒・褐色繊・白色繊物・植物繊維混入	口縫部破片	4単位形状は横状に想定される。口縫部に並行して横位直線状工具による横位点状刺突起を施す。波痕部から微隆起帯(不明瞭)を垂下させ、口縫部文様には斜位列点状刺突起を施す。三角形又は菱形のモチーフ。	有尾

B区D-17号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	D-17 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縫部破片	(4)器形・文様等の特徴／備考 圓文(無筋)又は筋文、横位直線状工具による横位直線状、波状平行比線を施す。	諸磯 b
2	D-17 土	深鉢	普通	砂粒混入	銅部破片	単筋 RL、圓文施文化後、半載竹管状工具押し引きによる横位・斜位爪形文を施す。	諸磯 b
3	D-17 土	深鉢	普通	砂粒・褐色繊・白色繊物・植物繊維混入	銅部破片	単筋 RL、圓文施文化後、半載竹管状工具による横位平行比線を施す。	諸磯 b
4	D-17 土	深鉢	普通	チート混入	銅部破片	圓文施文化後、横位・斜位浮縫文を施す。	諸磯 b
5	D-17 土	深鉢	良好	砂粒・褐色繊混入	銅部破片	圓文施文化後、横位浮縫文を施す。	諸磯 b
6	D-17 土	浅鉢	普通	砂粒・片岩混入	体部～底部	大型の有孔浅鉢と想定される。遺存部においては無文である。外側、体部中位に段差を有する。内外面ともに丁寧な磨きを施す。	諸磯 b ~ c

B区D-18号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	D-18 土	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混入	口縫部破片	(4)器形・文様等の特徴／備考 半載竹管状工具による平行沈縫(一部は半疊起縫状)を、上位より矢羽根状、横位直線状、段差・斜位に施す。口縫部には横位状況を配す。	諸磯 c
2	D-18 土	深鉢	普通	砂粒混入	銅部 1/8	銅部中位～下位が遺存する。半載竹管状工具による平行沈縫(半疊起縫状)10条余り(單位1)を、2単位一组で銅部を縱位に4区画に分ける。單位10条余りには縫隙状凹溝を施す。4つの区画内は向かう4つずつ斜位粗比線により区画し、間の木葉状区画には横位状況を施す。遺存部下位には、半載竹管状工具による横位沈縫を施す。	諸磯 c

B区D-19号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	D-19 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縫部破片	(4)器形・文様等の特徴／備考 口縫部において縦著に内層する4単位形状は横状に想定される。圓文(無筋)又は筋文後、浮縫文を施す。	諸磯 b
2	D-19 土	深鉢	普通	砂粒・褐色繊・チート混入	銅部破片	単筋 RL、圓文施文化後、半載竹管状工具押し引きによる横位直線状・弧状等爪形文を施す。一部の爪形文間に斜位粗比線を施し施す。さらに一部区画内に円形刺突起を配す。	諸磯 b

第182表 二軒在家原田跡地B区縄文時代土坑出土遺物観察表(3)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
3	D-19 土	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	半載竹管状工具押し引きによる横位直線状・弧状・溝巻き状等爪形文を施す。
4	D-19 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	胸部破片	単語 RL 繩文施文後、半載竹管状工具による横位直線状・弧状平行沈線を施す。
5	D-19 土	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵混入	胸部破片	半載竹管状工具による横位平行沈線を施す。
6	D-19 土	深鉢	普通	砂粒混入	胸部～底部破片	網目 RL 繩文施文による網目平行沈線で区画し、区画内に横位弧状・絞形状文を施す。遺存部最下位には横位平行沈線が僅かに認られる。
7	D-19 土	良好	砂粒・褐色鐵混入	胸部破片		
8	D-19 土	深鉢	普通	砂粒・チート混入	胸部破片	胸部中位～下位部。遺存部下上、半載竹管状工具による横位平行沈線で区画し、区画内に斜位平行沈線を組み合わせて施す。遺存部下上、同工具による横位平行沈線を施す。

B区D-20号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-20 土	深鉢	良好	砂粒・植物纖維 混入	口縁部破片	面々段多条施文。内面は丁寧な磨き。
2	D-20 土	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵 植物纖維混入	胸部破片	直前段多条施文。

B区D-21号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-21 土	深鉢	良好	砂粒・褐色鐵 白色粘土混入	胸部破片	網文（単語 RL?）施文後、矢羽根状浮繩文を施す。
2	D-21 土	深鉢	普通	砂粒・植物纖維 混入	口縁部破片	4単位波状口縁深鉢の波頂部付近。網文（直前段多条？）施文後、波頂部より半載竹管状工具押し引きによる横位爪形文を垂下させる。口縁に並行にコンバース文を施す。

B区D-23号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	D-23 土	深鉢	良好	砂粒・褐色鐵混入	口縁部破片	④器形・文様等の特徴／備考 半載竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。
2	D-23 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胸部破片	胸部上位において顯著に内屈する4単位波状口縁と想定される。横位・弧状・溝巻き状浮繩文を施す。波頂部下位に貼付文を配す。
3	D-23 土	深鉢	普通	砂粒・灰色鐵混入	口縁部破片	胸部上位において顯著に内屈する4単位波状口縁と想定される。単語 RL 繩文施文後、横位浮繩文を施す。
4	D-23 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	網文（無筋工？）施文後、半載竹管状工具による横位平行沈線を施す。
5	D-23 土	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵混入	胸部破片	単語 RL 繩文施文後、半載竹管状工具押し引きによる横位直線状・弧状等爪形文を施す。一部の爪形文間に斜位短沈線を連続する。さらに一部の爪形文間に内彌刺突文を配す。
6	D-23 土	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	波状・溝巻き状浮繩文を施す。
7	D-23 土	深鉢	普通	砂粒混入	胸部破片	単語 LR 繩文施文後、横位・斜位浮繩文と半載竹管状工具による平行沈線を施す。さらに一部に内彌刺突文を配す。
8	D-23a 土	深鉢	普通	砂粒・黒色粘土 混入	胸部～底部破片	単語 RL 繩文施文後、一部に横位直線状浮繩文を施す。胸部最下位に網目×と組合せられたチークの貼付文を配す。
9	D-23a 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	胸部破片	単語 LR 繩文施文後、半載竹管状工具による横位平行沈線を施す。
10	D-23 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	胸部破片	遺存部上部、無筋工 繩文を確認する。下平は半載竹管状工具による横位基調平行沈線を施す。
11	D-23 土	深鉢	良好	砂粒・白色粘土 混入	胸部破片	単語 RL 繩文施文後、半載竹管状工具による横位・斜位平行沈線を施す。
12	D-23 土	深鉢	良好	砂粒・褐色鐵混入	胸部破片	網文（単語 RL?）施文後、半載竹管状工具による横位平行沈線を区画する。区画内に同工具による弧状・直線状平行沈線を施す。
13	D-23b 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	胸部破片	胸部上位において顯著に内屈する4単位波状口縁の、彫刻対角点付近と想定される。単語 RL 繩文施文後、半載竹管状工具による横位弧状・横位平行沈線を施す。
14	D-23b 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	底部破片	半載竹管状工具による横位平行沈線を施す。内面に炭化物が付着している。
15	D-23 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土 混入	底部破片	胸部下位から底部に向かって開く器形。半載竹管状工具による横位基調平行沈線を施す。
16	D-23b 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	4単位波状口縁深鉢の手部と想定される。外面・椭圓状工具による平行沈線を被状文に施す。遺存部最下位中央に孔を有する。側面・内面は無文。

第183表 二軒在家原田遺跡B区縄文時代土坑出土遺物観察表(4)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
17	D-23 土	深鉢	良好	砂粒・褐色繊維混入	胴部破片	半裁竹管状工具による横位平行沈線で区画し、区画内に同工具による斜状平行沈線を施す。
18	D-23 土	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維混入	胴部破片	半裁竹管状工具による横位平行沈線で区画し、区画内に同工具による斜状平行沈線を施す。
19	D-23 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位焼成口縁深鉢の痕著部付近、礎文（直前段多条？）施文後、痕著部より半裁竹管状工具押し引きによる痕位爪形文を基下せる。口縁に並行てコンパス文を 2 条認る。

B区D-24号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-24 土	深鉢	普通	砂粒・石英混入	口縁部破片	4 単位焼成口縁の痕著部付近と想定される。口縁に並行する浮繩文施文後、痕著部外側に紙引の把手状貼付文を施す。さらに、その下方に横位爪形文を配す。
2	D-24 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土	口縁部破片	口辺部において痕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。繩文（不明瞭）施文後、半裁竹管状工具による横位・斜位直線状、斜状平行沈線を施す。
3	D-24 土	深鉢	良好	砂粒・褐色繊維混入	口縁部破片	単筋 RL 繩文施文後、半裁竹管状工具による横位平行沈線を施す。
4	D-24 土	深鉢	良好	砂粒・褐色繊維混入	口縁部破片	斜面状工具による横位直線状、波状平行沈線を施す。
5	D-24 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	注記直立する口縁が。單筋 RL 繩文施文。
6	D-24 土	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部破片	小型の棒状工具による横位直線状でそれを穿つ。体部には浮繩文を施す。部分的に赤彩の痕跡が認められる。
7	D-24 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単筋 RL 繩文施文後、円形刺突文を紙引に配す。
8	D-24 土	深鉢	普通	砂粒・灰色繊維混入	口縁部破片	繩文施文後、横位浮繩文を施す。
9	D-24 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘土	胴部破片	4 単位焼成口縁深鉢の痕著に内屈する痕位上部部分と想定される。繩文施文後、浮繩文を施す。
10	D-24 土	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	繩文施文後、沈線を施す。沈線のモーフは不明。

B区D-25号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-25 土	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半裁竹管状工具による横位平行沈線で区画する。そして、同工具による横位直線状平行沈線を、同部分で連結するように施す。さらに、横位直線状工具による円形刺突文を紙位に配する。
2	D-25 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単筋 RL 繩文施文後、竹管状工具による円形刺突文を紙位に配す。
3	D-25 土	深鉢	普通	砂粒・石英混入	胴部破片	半裁竹管状工具による横位直線状平行沈線を、一部の区画内に竹管状工具による円形刺突文を配す。
4	D-25 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単筋 RL 繩文施文後、半裁竹管状工具による横位直線状平行沈線を施す。
5	D-25 土	深鉢	普通	砂粒・チャート・片洞部破片	岩・褐色繊維混入	単筋 RL 繩文施文後、横位浮繩文を施す。
6	D-25 土	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維混入	胴部破片	胴部上位において痕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。内屈部下位が遺存する。半裁竹管状工具による横位平行沈線を施す。
7	D-25 土	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	単筋 RL 繩文施文後、半裁竹管状工具による横位平行沈線を施す。
8	D-25 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単筋 RL 繩文施文。

B区D-26号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-26 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半筋 RL 繩文施文後、半裁竹管状工具による横位平行沈線を施す。
2	D-26 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単筋 RL 繩文施文。
3	D-26 土	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	繩文（直前段多条？）施文後、半裁竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。

B区D-27号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-27 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物混入	口縁部破片	口辺部において痕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。浮繩文を施す。
2	D-27 土	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維混入	胴部破片	胴部上位に痕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。内屈部下位が遺存する。単筋 RL 繩文施文後、半裁竹管状工具による横位平行沈線を施す。
3	D-27 土	深鉢	良好	砂粒・褐色繊維混入	胴部破片	横位浮繩文、隠帶を認める。
4	D-27 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単筋 RL 繩文施文後、半裁竹管状工具による横位平行沈線を施す。
5	D-27 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物混入	胴部破片	単筋 RL 繩文施文。
6	D-27 土	深鉢	良好	砂粒・白色粘物混入	口縁部破片	ヨシケニアによる貝殻腹縫文施文。口端部直下に見みを施す。有尾・黒底。

第184表 二軒在家原田跡B区鰐文時代土坑出土遺物観察表(5)

B区D-29号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-29 土	深鉢	普通 砂粒・赤褐色織入		洞部破片	④器形・文様等の特徴／備考 洞部上位において顕著に内留する4単位波状口縁と想定される。内部上位に想定される。内部上位が遺存する。浮線文を施す。外面の剥落が顕著。
2	D-29 土	深鉢	普通 砂粒・褐色織入		洞部破片	半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線施文後、4条の並行する横位筋状浮線文を施す。一部の区画内には2個一対の筋状貼付文を配す。

B区D-31号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-31 土	深鉢	普通 砂粒・白色織物・雲母混入		洞部破片	④器形・文様等の特徴／備考 無筋LR・織文施文。
2	D-31 土	深鉢	良好 砂粒混入		洞部破片	單筋RL・織文施文。

B区D-32号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-32 土	深鉢	普通 砂粒混入		洞部破片	④器形・文様等の特徴／備考 洞部上位破片と想定される。刺突を作った横位縫合を施す。陸帶下位に単筋RL・織文施文。
2	D-32 土	深鉢	普通 砂粒混入		洞部破片	洞部上位から、刺突を作った横位縫合を施す。縫合より上位は無筋。
3	D-32 土	深鉢	普通 砂粒・植物織維混入		口縁部破片	4単位波状口縁と想定される。側位未端縫合が付く。
4	D-32 土	深鉢	普通 砂粒・赤褐色織入		洞部破片	織文(直前段多条)施文後、櫛状工具による横位平行沈線を施す。
5	D-32 土	深鉢	普通 砂粒・白色織物 植物織維混入 混入		口縁部～洞部破片	口縫部・縫合部を見る小波状口縁。洞部、單筋RL・織文施文後、半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線を施す。口縫部下位に円形貼付文を配す。
6	D-32 土	深鉢	良好 砂粒混入		洞部破片	單筋RL・織文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。
7	D-32 土	深鉢	普通 砂粒・灰色織混入		洞部破片	單筋RL・織文施文後、半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線を施す。

B区D-33号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-33 土	深鉢	普通 砂粒混入		口縁部破片	④器形・文様等の特徴／備考 4単位波状口縁か。半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。一部の爪形文間に内留する4単位波状口縁と想定される。
2	D-33 土	深鉢	良好 砂粒・チャート混入		口縁部～洞部破片	口辺部において顕著に内留する4単位波状口縁と想定される。単筋LR・織文施文後、半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線を施す。
3	D-33 土	深鉢	普通 砂粒混入		口縁部～洞部破片	口縫部がやや内反する。手截竹管状工具による横位沈線を施す。
4	D-33 土 p-3	深鉢	良好 砂粒・灰色混入		口縫部破片	手截竹管状工具による横位平行沈線を施す。
5	D-33 土	深鉢	砂粒・褐色織 白色物混入		口縫部破片	やや内反する平口縁と想定される。無筋LR・織文施文。
6	D-33 土	深鉢	普通 砂粒混入		洞部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。
7	D-33 土	深鉢	砂粒・白色織物 雲母混入		洞部破片	單筋RL・織文施文後、横位浮線文で区画する。一部の区画内には横位・斜位・斜位連帯を施す。斜位連帯はX字状もチフツチ状。
8	D-33 土 p-3	深鉢	砂粒・褐色織混入		洞部破片	單筋LR・織文施文後、手截竹管状工具による横位平行沈線を施す。
9	D-33 土	深鉢	砂粒・チャート・片		洞部破片	手截竹管状工具による横位平行沈線を施す。
10	D-33 土	深鉢	不良 砂粒・白色織物 混入		洞部(把手)	4単位波状口縁深縫の把手と想定される。手截竹管状工具による平行沈線を施す。
11	D-33 土	深鉢	普通 砂粒・白色織物 混入		体部	有孔浅縫の体部と把手部と想定される。遺存部外側全体に色彩が認められる。全体的に精製の感が強い。
12	D-33 土	深鉢	普通 砂粒混入		口縁部破片	口縫部前面に手截竹管状工具押し引きにより、爪形文状文様を施す。(刺痕が多い)。脚部は手截竹管状工具による横位・斜位平行沈線を施す。さらに一部に円形貼付文を配す。13と同一個体。
13	D-33 土	深鉢	普通 砂粒混入		口縁部破片	口縫部前面に手截竹管状工具押し引きにより、爪形文状文様を施す。脚部は手截竹管状工具による横位・斜位平行沈線を施す。
14	D-33 土	跡?	良好 砂粒・白色織物 混入		口縫部破片	跡の口縫部(=口縫部の右側剥落)。口縫部前面を平滑にして、上面と側面に手截竹管状工具押し引きにより、爪形文状文様を施す。脚部は手截竹管状工具による横位平行沈線で区画する。区画内に同工具による羽状沈線施文。
15	D-33 土	深鉢	普通 砂粒混入		口縫部～洞部破片	やや外反する4単位波状口縁と想定される。手截竹管状工具による横位平行沈線施文後、同工具による筋状浮線文を巻き状に施す。

第185表 二軒在家原田遺跡B区縄文時代土坑出土遺物観察表(6)

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
16	D-33 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	4 単位渡状口縁と想定される。口縁部に並行して 2 条の筋肋浮線文を添し、口縁との間の区画には弧状浮線文を施す。遺存部底面下位の区画には半載竹管状工具による織位へ斜位平行沈継文。
17	D-33 土	深鉢	良好	砂粒混入	胴部 L/10	胴部中位下位迄。單部 RL 繩文施文後、半載竹管状工具による平行沈継文(横位に施す)区画する。区画内に同工具による横位細縫状・弧状沈継文を施す。
18	D-33 土	深鉢	普通	砂粒・白色粘物	胴部破片	半載竹管状工具による横位平行沈継文に施す。一部に精円形貼付文を施す。
19	D-33 土	深鉢	普通	砂粒・灰色混入	胴部破片	半載竹管状工具による横位細縫状施文後、弧状筋肋浮継文を施す。
20	D-33 土 P-3	深鉢	良好	砂粒・白色粘物	胴部破片	半載竹管状工具による横位細縫状施文後、斜位筋肋浮継文を施す。さらに一部に円形貼付文を配す。
21	D-33 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部～底部破片	胴部下部～底部に向かい開く喇叭形である。半載竹管状工具による横位平行沈継文後、同工具による筋肋浮継文を斜位に施す。さらに、一部に小さな円形貼付文を配す。
22	D-33 土 P-2	深鉢	普通	砂粒・植物纖維混入	胴部破片	外側全周を堅密している。不明瞭だが羽状綱文施文。
23	D-33 土 P-1	深鉢	普通	砂粒・植物纖維混入	單部 RL と LR 結束綱文横軸がり	有尾・黒底

B区D-34号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-34 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	やや外反する平口縁と想定される。單部 RL 繩文施文。
2	D-34 土	深鉢	良好	砂粒・片岩・金 雲母混入	單部 RL 繩文横軸がり。	諸穢 b

B区D-35号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-35 土	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	複節 RL/R 繩文施文。
2	D-35 土	深鉢	良好	砂粒・白色粘物	胴部破片	薄手で硬質。幅広の半載竹管状工具押し引きによる爪形文を施すという意図が感じられるが、中央部分の施文がなされていない。内面は刷毛状の調整。
3	D-35 土	深鉢	普通	砂粒・植物纖維混入	口縁部破片	4 単位渡状口縁の頂部押付部と想定される。繩文(不明瞭、単節 RL か) 施文後、半載竹管状工具をコンバット状に回転させると重円柱平行沈継文を、口縁に並行し連続して施す。
4	D-35 土	深鉢	普通	砂粒・植物纖維混入	胴部破片	繩文(不明瞭) 施文後、半載竹管状工具押し引きによる横位・斜位爪形文を施す。

B区D-36号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-36 土坑 土層直下	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	單部 RL 繩文施文後、半載竹管状工具による横位・斜位平行沈継文を施す。

B区D-38号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-38 土	深鉢	普通	砂粒・灰色混入	口縁部破片	複節繩文(?) 施文後、半載竹管状工具による横位・斜位平行沈継文を施す。
2	D-38 土	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	單部 RL 繩文施文。

B区P-1号ピット

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	P-1	深鉢	普通	砂粒・植物纖維混入	胴部破片	4 単位渡状口縁深鉢の口縁部文様帯と想定される。櫛歯状工具による斜位平行沈継文(口縁部に並行すると考えられる)と同工具による斜位・横位列点状鉈突文を施す。
2	P-1	深鉢	良好	砂粒・植物纖維混入	胴部破片	單部 LR 繩文施文。

B区P-4号ピット

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	P-4	深鉢	普通	砂粒・褐色混入	胴部破片	半載竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。爪形文間に斜位平行沈継文を施す。
2	P-4	深鉢	良好	砂粒・褐色混入	胴部破片	4 単位渡状口縁深鉢の口縁部文様帯と想定される。半載竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。

第 186 表 二軒在家原田遺跡 B 区縄文時代土坑 (7)・ピット出土遺物観察表 (1)

B区グリッド

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②釉土	③残存	
1	深鉢	普通 砂粒・褐色織・植物織混入	口縁部破片	4単位波状口縁深鉢と想定される。口縁部に並行して櫛衝状工具による横位列状刻突文を認らる。口縁部文様帶は、半載竹管状工具押し引きによる縱位爪形文で区画し、区画内には斜位爪形文を施す。	○菱形・三角形等の特徴／備考	有尾
2	深鉢	普通 砂粒・チャート・白色織・植物織混入	口縁部破片	4単位波状口縁深鉢と想定される。口縁部に並行して半載竹管状工具による横位列状刻突文を認らる。口縁部文様帶は、半載竹管状工具押し引きによる縱位爪形文で区画し、区画内には斜位爪形文を施す。	○菱形・三角形等の特徴／備考	有尾
3	深鉢	良好 砂粒・植物織混入	口縁部破片	4単位波状口縁と想定される。口縁部に並行して半載竹管状工具による横位平行沈線を認らる。口縁部文様帶には同工具押し引きによる横位・斜位爪形文を施す。菱形又は三角形のモチーフ考えられる。	○菱形・三角形等の特徴／備考	有尾
4	深鉢	普通 砂粒・植物織混入	口縁部破片	直前段多条筋文。半載竹管状工具押し引きによる間隔の広い横位爪形文を認らる。	○菱形・三角形等の特徴／備考	有尾・黒浜
5	深鉢	普通 砂粒・褐色織・植物織混入	口縁部破片	口縁部上位がやや内凹する1単位波状口縁と想定される。半載竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。口縫部上面の一部に横・沈線状痕みが認められる。	○菱形・三角形等の特徴／備考	有尾・黒浜
6	深鉢	良好 砂粒・植物織混入	口縁部破片	4単位波状口縁深鉢と想定される。單語 Ia と LR 繩文による羽状編文痕み。半載竹管状工具による横位・縱位・斜位平行沈線（半降起縁状）を施す。	○菱形・三角形等の特徴／備考	有尾・黒浜
7	深鉢	普通 砂粒・植物織混入	口縁部破片	波状口縁深鉢。櫛衝状工具による横位・斜位・弧状平行爪形文を施す。	○菱形・三角形等の特徴／備考	有尾・黒浜 併行
8	深鉢	良好 砂粒・植物織混入	口縁部破片	4単位波状口縁と想定される。單語 RL 繩文転写が。	○菱形・三角形等の特徴／備考	有尾・黒浜
9	鉢？	普通 砂粒・植物織混入	口縁部破片	半載竹管状工具による横位平行沈線痕み後、半載竹管状工具による横位・縱位爪形文を施す。	○菱形・三角形等の特徴／備考	有尾・黒浜
10	深鉢	普通 砂粒・褐色織・植物織混入	口縫部破片	櫛衝状工具による斜位平行沈線痕み後、同工具による横位列状刻突文を施す。三角形又は菱形のモチーフを考えられる。	○菱形・三角形等の特徴／備考	有尾
11	深鉢	良好 砂粒・植物織混入	口縫部破片	深鉢の口縫部文様帶下部と想定される。口縫部文様帶は、櫛衝状工具による横位平行沈線痕み後、同工具による横位平行沈線を認る。	○菱形・三角形等の特徴／備考	有尾
12	深鉢	良好 砂粒・褐色織・植物織混入	口縫部破片	櫛衝状工具による横位・斜位平行沈線痕み後、同工具による横位列状刻突文を施す。深鉢の口縫部文様帶の一部と想定される。	○菱形・三角形等の特徴／備考	有尾
13	深鉢	良好 砂粒・褐色織・植物織混入	口縫部破片	口縫部文様帶下部が遺存すると考えられる。口縫部文様帶は、半載竹管状工具による横位平行沈線（半降起縁状）を斜位に施す。菱形のモチーフ。その下位には同工具による横位平行沈線を認る。	○菱形・三角形等の特徴／備考	有尾
14	深鉢	普通 砂粒・褐色織・植物織混入	口縫部破片	半載竹管状工具押し引きによる横位爪形文（押し引きの間隔が不一）痕み後、同工具による縦位平行沈線（半降起縁状）を斜位に施す。	○菱形・三角形等の特徴／備考	有尾・黒浜
15	深鉢	普通 砂粒・植物織混入	口縫部破片	4単位波状口縁深鉢の口縫部文様帶の一部と想定される。單語 RL と LR 繩文による羽状編文痕み後、半載竹管状工具押し引きによる縦位・横位・斜位爪形文を施す。三角形又は菱形のモチーフと考えられる。	○菱形・三角形等の特徴／備考	有尾
16	深鉢	普通 砂粒・植物織混入	口縫部破片	半載竹管状工具押し引きによる横位・縦位爪形文。同工具による横位・縦位・斜位爪形文を施す。	○菱形・三角形等の特徴／備考	有尾・黒浜
17	深鉢	普通 砂粒・植物織混入	口縫部破片	深鉢の口縫部文様帶下部が遺存すると考えられる。口縫部文様帶は、櫛衝状工具による横位列状刻突文を施す。三角形又は菱形のモチーフと考えられる。頭部、同工具による横位列状刻突文を認らる。	○菱形・三角形等の特徴／備考	有尾
18	深鉢	普通 砂粒・植物織混入	口縫部破片	半載竹管状工具による横位平行沈線（半降起縁状）と、同工具押し引きによる横位爪形文で区画する。三角形又は菱形のモチーフと考えられる。区画内には円形印文が配す。遺存部最下位には單語 RL 繩文が認められる。	○菱形・三角形等の特徴／備考	有尾・黒浜 併行？
19	深鉢	普通 砂粒・褐色織・植物織混入	口縫部破片	頭部と櫛衝状工具による横位爪形文を弧状に施す。口縫部文様帶の溝巻き状モチーフの一部と想定される。	○菱形・三角形等の特徴／備考	有尾・黒浜
20	深鉢	普通 砂粒・植物織混入	口縫部破片	直前段多条横筋み。	○菱形・三角形等の特徴／備考	有尾・黒浜
21	深鉢	普通 砂粒・植物織混入	口縫部破片	無筋口縫部と圓文横筋がしにより羽状構造とする。	○菱形・三角形等の特徴／備考	有尾・黒浜
22	深鉢	普通 砂粒・植物織混入	底部破片	櫛衝状工具による溝巻き状平行沈線を施す。その他の半載竹管状工具又は棒状工具による沈線が認められるが、意図的施文かどうか不明。	○菱形・三角形等の特徴／備考	有尾・黒浜併行
23	深鉢	普通 砂粒・植物織混入	底部破片	圓文（無筋 RL）施文。底部はやや上方底状を呈す。	○菱形・三角形等の特徴／備考	有尾・黒浜
24	台付土器	普通 砂粒・植物織混入	台部破片	台付土器の台部と想定した。遺存部においては無文。内部は丁寧な彫り。	○菱形・三角形等の特徴／備考	有尾・黒浜？
25	深鉢	良好 砂粒・灰色織・白色織混入	口縁部破片	4単位波状口縁か。口縁部上位及び外面最上位に、半載竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。外面、單語 RL 繩文痕み後、半載竹管状工具による平行沈線。同工具押し引きによる爪形文を施す。	○菱形・三角形等の特徴／備考	諸類 a ~ b ?

第187表 二軒在家原田遺跡B区グリッド出土繩文時代遺物観察表(1)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②粘土	③残存		
26	V-16	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	(1)形態・文様等の特徴／備考 波状口縁と想定される。半載竹管状工具押し引きによる爪形文を口縁に並行して2条造らす。造出部を端には縦位爪形文が僅かに認められる。区画内には同工具による横位平行竹管状工具。	諸磯 a ~ b
27	V-47b	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	半載竹管状工具による模様直線状・木葉状平行沈縫を施す。	諸磯 a ~ b
28	IA-47	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混入	口縁部破片	単節 RL 繩文施文後、半載竹管状工具による列点状突変文(爪形文を意識?)を施す。さらに大型の円形刺突文を縦位に配す。	諸磯 a ~ b
29	X-49c	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 繩文施文後、竹管状工具による円形刺突文を縦位に配す。	諸磯 a
30	V-46	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	彌術状工具による横位・斜位平行沈縫を施す後、円形刺突文(竹管状工具又は單節竹管状工具?とされるが、円内側凸部が削落している)を縦位に配す。	諸磯 a
31	ID-51b	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 繩文施文後、半載竹管状工具による弧状平行沈縫(肋骨文と考えられる)を施す。円形刺突文(半載竹管状工具?とされるが、縦位に配す)。さらに円形刺突文を連結する縦位沈縫を施す。	諸磯 a
32	ID-51b	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混入	胴部破片	半載竹管状工具による強状平行沈縫(肋骨文と考えられる)を施す。円形刺突文を縦位に配す。	諸磯 a
33	IE-52b	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部縫隙部を呈する。(口縁部全体が縫隙状ではなく、2個一対で1單位か)。単節 RL 繩文施文後、竹管状工具による強状刺突文を縦位・横位に配す。	諸磯 b
34	W-48d	深鉢	良好	砂粒・褐色繊混入	口縁部破片	半載竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。焼成前施文の円孔文を配す。	諸磯 b
35	IA-54c	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混入	口縁部破片	胴部上位において縦著にて内屈する4単位波状口縁と想定される。波縫部下位には円形貼付文を配す。単節 RL 繩文施文後、半載竹管状工具による平行沈縫を施す。	諸磯 b
36	X-48	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	胴部上位において縦著にて内屈する深縫。三角形の小突起を施す。単節 RL 繩文施文、横位・斜位溝縫文を施す。口縫部上面には波状貼付文を施す。	諸磯 b
37	V-47	深鉢	普通	砂粒・白色粘物	口縁部破片	口縁部がやや内反する4単位波状口縁と想定される。単節 RL 繩文施文後、口縫部上面に波状貼付文、外側に横位溝縫文を施す。	諸磯 b
38	ID-58a	深鉢	良好	砂粒・白色粘物	口縁部破片	胴部上位において縦著にて内屈する4単位波状口縁と想定される。単節 RL 繩文施文後、浮縫文を施す。	諸磯 b
39	IB-52	深鉢	良好	砂粒・褐色繊混	口縁部破片	外反する3単位波状口縁と想定される。口縫部に並行して3条の浮縫文を施す。浮縫文には列点状突変文を施す。	諸磯 b
40	IA-51d	深鉢	普通	砂粒・褐色繊・角閃石・雲母混入	口縁部破片	胴部上部において縦著にて内屈する4単位波状口縁と想定される。単節 RL 繩文施文後、横位浮縫文を施す。	諸磯 b
41	IB-52	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混入	口縁部破片	胴部上位において縦著にて内屈する。単節 RL 繩文施文後、横位浮縫文を施す。	諸磯 b
42	U-49c	深鉢	普通	砂粒・白色粘物	口縁部破片	胴部上位にて内反する様なやかな波状口縁。口縫部上面、中央に細い凹縫を施す。沈縫両側に矢羽根状凸縫を施す。外面、波頂部下位に満參式貼付文、半載竹管状工具による平行沈縫・横位直線状・強状・満參式に施す。	諸磯 b
43	W-49a	深鉢	普通	砂粒・褐色繊・雲母混入	口縁部破片	彌術状工具による横位平行沈縫を施す。沈縫上の一部にさくらん波状沈縫を施す。	諸磯 b
44	W-49a	深鉢	普通	砂粒・褐色繊・雲母混入	口縁部破片	1単位波状口縁と想定される。口縫に並行して半載竹管状工具による平行沈縫を施す。その下位には同工具による縦位・斜位平行沈縫を施す。	諸磯 b
45	X-48	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混入	口縁部破片	単節 RL 繩文施文後、半載竹管状工具による横位・斜位平行沈縫を施す。	諸磯 b
46	ID-54	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁と想定される。半載竹管状工具による横位・斜位平行沈縫を施す。口縫部及び口縁部の器形変換点に、半載竹管状工具による刺突文を施す。	諸磯 b ~ c
47	IA-47	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縫直立する平口縁と想定される。単節 RL 繩文横軸5孔。	諸磯 b
48	IC-53c	深鉢	良好	砂粒・褐色繊混入	口縁部破片	やや外反する平口縁と想定される。単節 RL 繩文横軸5孔。	諸磯 b
49	IG-58c	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縫直立する平口縁と想定される。単節 RL 繩文施文。	諸磯 b
50	IG-49c	深鉢	良好	砂粒・褐色繊・白色粘物混入	口縁部破片	やや内反する平口縁と想定される。単節 RL 繩文施文。	諸磯 b
51	IC-55b	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混入	口縁部破片	4単位双頭波状口縁か。半載竹管状工具による平行沈縫を施す。区画内・区画内に刺突文を施す。	諸磯 b併行(浮島系?)
52	IC-50b	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	貝殻腹縫文を施す。	諸磯 b併行(浮島系?)
53	ID-55c	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半載竹管状工具押し引きによる横位爪形文・瓢状爪形文を施す。爪形文間に横位短沈縫を連結して施す。	諸磯 b
54	IB-50	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混入	胴部破片	半載竹管状工具による横位爪形文で区画する。爪形文間に横位短沈縫を連結して施す。一部の区画内には竹管状工具による円形刺突文を配す。	諸磯 b

第188表 二軒在家原田遺跡B区グリッド出土縄文時代遺物観察表(2)

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期	
			①焼成	②焰土	③残存		
55	Y-47b	深鉢	良好	砂粒混入	洞部破片	半載竹管状工具押し引きによる横位浮線文で区画する。爪形文間に斜位粗沈継状の刺突を確認する。爪形文と爪形文間に浮線文施文を意識したものと考えられるが、技術的に稚拙である。爪形文間の区画には斜位平行沈継を施す。	諸磯 b
56	IC-56c	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵混入	洞部破片	単節 RL 繩文施文後、半載竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。	諸磯 b
57	IB-49a	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵混入	洞部破片	洞部上位へ中位迄。單節 RL 繩文施文後、横位浮線文・沈継状貼付文を施す。遺存部最上位には半載竹管状工具による平行沈継文。	諸磯 b
58	IC-54c	深鉢	良好	砂粒・白色粘物混入	洞部破片	単節 RL 繩文施文後、横位浮線文で区画する。区画内には斜位直線状、弧状、曲巻き状浮継文を施す。	諸磯 b
59	IB-52d	深鉢	良好	砂粒・白色粘物混入	洞部破片	横位・斜位浮継文で区画する。一部の区画内には単節 RL 繩文施文。	諸磯 b
60	IB-51b	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵・白色粘物・雲母混入	洞部破片	弧状・満巻き状等浮継文施文後、一部に円形刺突文を配す。	諸磯 b
61	IB-49a	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵混入	口縁部破片	脚部上位が内收する矮い浅状口縁。繩文（単節 LR 及び施文後、横位・斜位・曲巻き状浮継文を施す）。波状底部下位に円形貼付文を施す。	諸磯 b
62	Y-50c	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵混入	洞部破片	横位・斜位浮継文施文後。一部に円形刺突文を施す。	諸磯 b
63	IG-58c	深鉢	良好	砂粒・褐色鐵・白色粘物混入	洞部破片	半載竹管状工具による平行沈継と浮継文で区画する。区画内には単節 RL 繩文施文。また一部には弧形浮継文又は爪形文が僅かに認められる。	諸磯 b
64	IA-48d	深鉢	良好	砂粒混入	洞部破片	半載竹管状工具による平行沈継文後、一部に円形刺突文（半載竹管状工具による）を配す。	諸磯 b
65	X-49c	深鉢	良好	砂粒混入	洞部破片	単節 RL 繩文施文後、脚部斜工具による横位平行沈継を施す。弦線上の一部にさらに波状沈継を施す。	諸磯 b
66	Y-50c	深鉢	良好	砂粒・褐色鐵・白色粘物混入	洞部破片	半載竹管状工具押し引きによる横位浮継文（一部は押し引きせず平行沈継）で区画する。同工具による縦位平行沈継でさらに区画し、区画内に弧状平行沈継文。	諸磯 b
67	Y-50c	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	単節 RL 繩文施文後、半載竹管状工具による横位平行沈継を施す。	諸磯 b
68	Y-50c	深鉢	良好	砂粒混入	洞部破片	単節 RL 繩文施文後、半載竹管状工具による横位平行沈継で区画する。一部の区画内には同工具による斜位平行沈継を施す。さらに円形刺突文を横位に施す。	諸磯 b ~ c
69	IH-60b	深鉢	良好	砂粒・褐色鐵・灰白色・雲母混入	洞部破片	脚部斜工具による横位平行沈継で区画する。沈縫部外に僅かに繩文の痕跡が部分的に認められる。	諸磯 b
70	IH-60b	深鉢	普通	砂粒・白色粘物・金雲母混入	洞部破片	単節 RL 結繩文横構か。	諸磯 b
71	IB-49c	深鉢	普通	砂粒・白色粘物・褐色鐵混入	洞部破片	幅の広い半載竹管状工具のロッキングにより施す。縫合部には円孔を認める。	諸磯 b (浮島系?)
72	IC-53c	浅鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	浮継文・沈継文を施す。口縁部には円孔を認める。外面及び内部の一部に色塗彩。	諸磯 b
73	ID-50c	浅鉢	普通	砂粒・白色粘物・體部破片 混入	體部破片	有孔浅鉢の体部上位へ下位迄と考文される。体部の表面に並行する浮継文を認める。	諸磯 b
74	ID-53d	浅鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁部に円孔を認める。遺存部においては無文。内外面亦剥離。	諸磯 b
75	ID-52a	浅鉢	良好	砂粒・褐色鐵・金雲母混入	口縁部破片	口縁部に円孔を認める。遺存部においては無文。	諸磯 b
76	IH-56b	深鉢	普通	砂粒・白色粘物・混入	口縁部破片	諸磯式深鉢の歯面把手。	諸磯 b
77	U-49a	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵混入	底部破片	単節 RL 繩文施文後、半載竹管状工具による横位平行沈継を施す。一部の沈縫文間に斜位粗沈継を連続して施す。浮継文状施文とする。	諸磯 b
78	IC-56c	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵混入	底部破片	単節 RL 繩文施文。	諸磯 b
79	Y-48d	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	横位細沈継施文後、列点刺突炎（正噴？）を伴う縫合部貼付文を施す。	諸磯 c
80	T-49a	深鉢	良好	砂粒・褐色鐵混入	口縁部破片	半載竹管状工具による横位平行沈継で区画し、区画内には同工具による矢羽根状平行沈継文。口縁部に半載竹管状工具による矢羽根状平行沈継文を配す。	諸磯 c
81	IC-55b	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。横位細沈継施文後、結繩浮継文で区画する。一部の区画内には円形貼付文を配す。	諸磯 c
82	ID-54	深鉢	良好	砂粒・褐色鐵混入	洞部破片	半載竹管状工具による縫合部平行沈継施文後、横円形貼付文を配す。遺存部上端は研削による疑似口縁。	諸磯 c
83	ID-54a	深鉢	普通	砂粒・褐色鐵混入	洞部破片	半載竹管状工具による縫合部平行沈継（半径上昇状）で区画する。一部の区画内には斜位平行沈継施文。さらに 2 個一対の円形貼付文を配す。また剥落しているが横円形貼付文の痕跡が認められる。	諸磯 c

第 189 表 二軒在家原田遺跡 B 区グリッド出土繩文時代遺物観察表 (3)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②動土	③残存		
84	ID-54	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維 人	洞部破片	半裁竹管状工具による横位平行沈縫文後。小さな円形貼付文を配す。	諸職c
85	IH-56b	深鉢	普通	砂粒・白色粘土・洞部破片 亦褐色繊維人		半裁竹管状工具による横位平行沈縫文後。一部は半隆起縫状。施文後、一部に円形削痕を作った貼付文を配す。	諸職c
86	ID-54	深鉢	良好	砂粒混入	洞部破片	半裁竹管状工具による横位平行沈縫文後。区画内に同工具による縫位・斜位平行沈縫を施す。	諸職c
87	IB-52	深鉢	良好	砂粒混入	洞部破片	横位・斜位平行沈縫文後、砂粒直縫状・弧状結節浮縫文を施す。さらに一部に円形貼付文を配す。	諸職c
88	ID-50c	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維 金雲母混入	洞部破片	横位平行沈縫文後、斜位直縫状・弧状結節浮縫文を施す。さらに一部に円形貼付文を配す。	諸職c
89	X-53a	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維 金雲母混入	洞部破片	斜位平行沈縫文後、3条の縫位浮縫文を施す。渦巻き状モチーフを考える。	諸職c
90	X-53a	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	斜位平行沈縫文後、弧状浮縫文を施す。渦巻き状モチーフと考える。	諸職c
91	W-52a	深鉢	良好	砂粒・褐色繊維 白色粘土混入	洞部破片	半裁竹管状工具による縫位・被杉状平行沈縫文後、結節浮縫文とX字状・弧状に施す。一部の区画内には2個一对の小さな円形貼付文を配す。	諸職c
92	IH-56b	深鉢	良好	砂粒・褐色繊維 人	洞部破片	横位平行沈縫文後、結節浮縫文を施す。	諸職c
93	IF-53	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	半裁竹管状工具による平行沈縫を矢羽根状に施し、斜縫状貼付文を配す。	諸職c併行
94	IC-55b	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	貝殻腹縫文を施す。圓津式の系譜か。	諸職c併行?
95	IIH-56a	深鉢	良好	砂粒混入	洞部破片	半裁竹管状工具による縫位・斜位平行沈縫で区画し、一部の区画内には貝殻腹縫文を施す。遺存部最上位は半裁竹管状工具による縫位平行沈縫と想される。	諸職c併行(津浦式)
96	IF-55c	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維 人	口縫部破片	4単位並列口縫線跡の波打部から延びる把手と想定される。両側面に半裁竹管状工具による被杉状平行沈縫(半隆起縫)施文後、円形貼付文を配す。	諸職c
97	Y-49b	深鉢	普通	砂粒・チャート・泥底部破片 色織羅人		半裁竹管状工具による斜位平行沈縫施文後、一部にボタン状貼付文(2個一対)を配す。	諸職c
98	T-50	深鉢	普通	砂粒・白色繊維 白色織羅人	洞部～底部破片	半裁竹管状工具による横位沈縫を施す。	諸職b～c
99	IF-55c	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維 人	口縫部破片	横位沈縫で区画し、沈縫間上下に交互瓦楞突を施す。	五重ヶ台
100	X-48	深鉢	良好	砂粒・白色粘土 混入	口縫部破片	疊帯と瓦楞により口縫部文様帯を長方形に区画する。区画内には斜位瓦楞を施す。肩部は無文。	加賀利E I
101	IB-54d	深鉢	良好	砂粒・褐色繊維 金雲母混入	口縫部破片	浅い瓦楞帶により口縫部文様帯を区画する。区画内には半裁竹管状工具による縫位平行沈縫を施す。	加賀利E
102	X-42c	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維 白色粘土混入	口縫部破片	疊帶により口縫部文様帯を稍円形に区画する。一部の区画内には單節RL繩文を、他の区画には張状(渦巻き状?)疊帶を施す。疊帶内に区画連絡部上位には円形の窪みを配す。肩部、丸棒状工具による逆U字状・裏手状沈縫で区画する。区画内には単節RL繩文。	加賀利E III
103	IG-54	深鉢	普通	砂粒・灰色繊維 角閃石・雲母混入	洞部破片	疊帶の浅い瓦楞で区画する。一部の区画内に單節RL繩文を施す。	加賀利E III～IV
104	IF-54a	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	無節L繩文施文後、丸棒状工具による縫位沈縫(2条一組)を施す。	加賀利E I
105	V-48	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維 白色粘土・雲母 混入	洞部破片	口縫部文様帶と胸部上位が遺存する。隆起により口縫部文様帶を区画する。区画内には單節RL繩文施文、肩部、單節RL繩文施文後、圓筒状・裏手状・逆U字状沈縫を施す。	加賀利E III
106	X-53a	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維 金雲母混入	洞部破片	逆U字状・縫位沈縫を施す。逆U字状区画内には單節RL繩文施文。	加賀利E III
107	IA-50d	深鉢	普通	砂粒・灰色繊維 人	洞部破片	丸棒状工具による上部で区画する。区画内に繩文(無節Lと單節LRの2種)を施す。	加賀利E I
108	IF-54a	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	丸棒状工具による縫位直縫状・逆U字状沈縫を施す。	加賀利E III～IV併行
109	U-50	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維 灰色繊維・雲母 混入	洞部破片	縫位直縫帶により区画する。区画内には縫位沈縫を施す。	加賀利E
110	IF-54a	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維 人	洞部破片	丸棒状工具による縫位沈縫(2条一組)で区画する。区画内には縫位平行沈縫状斜刺突を施す。	加賀利E
111	IC-50b	深鉢	良好	砂粒・褐色繊維 灰色繊維・雲母 混入	洞部破片	丸棒状工具による縫位・縫位沈縫を施す。	加賀利E 併行
112	P'ガット T-49c	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維 人	口縫部破片	口縫部に横位直縫帯を沿らす。胸部には繩文(複節LRL)を施す。	後期前葉?
113	P'ガット IC-52d	土製品	普通	砂粒・白色粘土 混入	破片(露節・部 位不明)	先端部がやや小さくなる円筒状を呈する。外面、丁寧な磨きを施す。	後期?
114	P'ガット X-52b	玉状 土製品	普通	砂粒混入	口頂充形	両側面に浅い孔を穿つ。	不明

第190表 二軒在家原田遺跡B区グリッド出土繩文時代遺物観察表(4)

B区一括

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴	時期
1	B区一括	深鉢	①焼成 良好 砂粒・植物繊維 混入 ②土上 ③残存 4単位波状口縁の波頭部付近、口縁に並行して半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。爪形文の一部は押し引きせず平行沈縫状を呈する。	有尾
2	B区一括	深鉢	良好 砂粒・植物繊維 混入 ①焼成 4単位波状口縁の波頭部付近、口縁に並行して半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。爪形文の一部は押し引きの間隔が広くしている。	有尾
3	B区一括	深鉢	普通 砂粒・植物繊維 混入 ①焼成 4単位波状口縁の波頭部付近、口縁に並行して半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。爪形文の一部は押し引きの間隔が広くしている。	有尾・黑浜
4	B区一括	深鉢	良好 砂粒混入 ①焼成 4単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。爪形文間に斜位短沈縫を施して施す。	諸磯 b
5	B区一括	深鉢	普通 砂粒混入 ①焼成 4単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具による横位平行沈縫を施す。一部の爪形文間に同工具による木棒状・弧状沈縫を施す。	諸磯 b?
6	B区一括	深鉢	普通 砂粒混入 ①焼成 4単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。爪形文間に斜位短沈縫を施す。	諸磯 b
7	B区一括	深鉢	普通 砂粒・褐色織混入 ①焼成 4単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。	諸磯 b
8	B区一括	深鉢	普通 砂粒・褐色織 ①焼成 半截竹管状工具押し引きによる横位・継位爪形文で区画する。爪形文間に斜位短沈縫を連続して施す。さらに一部の区画内に円錐刺文を配す。	諸磯 b
9	B区一括	鉢?	良好 砂粒混入 ①焼成 縄文（複縄 LRL?）施後。半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。	諸磯 b
10	B区一括	深鉢	普通 砂粒・褐色織 ①焼成 單層 RL 縄文施文後、横位・斜位浮縫文を施す。	諸磯 b
11	B区一括	深鉢	普通 砂粒混入 ①焼成 單層 RL 縄文施文後、浮縫文を施す。	諸磯 b
12	B区一括	深鉢	普通 砂粒・褐色織混入 ①焼成 4単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具による横位平行沈縫を施す。	諸磯 b
13	B区一括	深鉢	普通 砂粒・白色織混入 ①焼成 單層 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位・斜位・継位平行沈縫で区画。全体的に丁寧な施文である。	諸磯 b
14	B区一括	深鉢	良好 砂粒・白色織 ①焼成 單層 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位・斜位平行沈縫を施す。	諸磯 b
15	B区一括	深鉢	普通 砂粒・褐色織混入 ①焼成 無縫 L 縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈縫を施す。	諸磯 b
16	B区一括	深鉢	普通 砂粒混入 ①焼成 縄文（不明瞭）施後。半截竹管状工具による平行沈縫を斜子目状に施す。	諸磯 b
17	B区一括	深鉢	普通 砂粒・褐色織混入 ①焼成 半截竹管状工具による格子目文を施す。一部に円形刺突文を配す。	諸磯 b
18	B区表様	深鉢	普通 砂粒・石英・角 ①焼成 4単位波状口縁波頭部に施された鉢底肥手。把手の周囲には單層 RL 縄文施文後、浮縫文を施す。	諸磯 b
19	B区一括	深鉢	良好 砂粒・褐色織 ①焼成 4単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具押し引きによる爪形文（新潟浮縫文様式を呈する）を施す。	諸磯 b
20	B区一括	深鉢	良好 砂粒混入 ①焼成 4単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具押し引きによる爪形文（新潟浮縫文様式を呈する）を施す。	諸磯 b?
21	B区一括	深鉢	普通 砂粒・褐色織混入 ①焼成 丸棒状工具による継位沈縫で区画する。一部の区画内に單層 LR 繩文を施す。	加賀利玉

第 191 表 二軒在家原田遺跡 B 区縄文時代一括遺物観察表（1）

C区J-1号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴	時期
1	J-1 住 9 区 3 層	深鉢	①焼成 普通 砂粒・褐色織混入 ②土上 ③残存 2 単位大波状口縁深縫跡、半截竹管状工具押し引きによる爪形文を口縁に並行して施す。爪形文間に斜位短沈縫を連続して施す。	諸磯 b
2	J-1 住 6 区 2 層	鉢?	良好 砂粒混入 ①焼成 4単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具押し引きによる爪形文を口縁に並行して施す。爪形文間に斜位短沈縫を連続して施す。	諸磯 b
3	J-1 住 7 区 1 层	深鉢	良好 砂粒混入 ①焼成 4単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具押し引きによる爪形文を口縁に並行して施す。	諸磯 b
4	J-1 住 11 区 2 层	深鉢	普通 砂粒・褐色織 ①焼成 半截竹管状工具押し引きによる横位・斜位爪形文を施す。一部の爪形文間に斜位短沈縫を連続して施す。	諸磯 b
5	J-1 住 2 区 1 层	深鉢	普通 砂粒・褐色織 ①焼成 半截竹管状工具押し引きによる横位・斜位爪形文を施す。	諸磯 b
6	J-1 住 9 区 1 层	深鉢	良好 砂粒・褐色織 ①焼成 4単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具による横位・斜位平行沈縫を施す。	諸磯 b?
7	J-1 住 9 区 1 层	深鉢	良好 砂粒・褐色織 ①焼成 半截 RL 縄文施文後、横位浮縫文を施す。	諸磯 b
8	J-1 住 5 区 1 层	鉢?	普通 砂粒・褐色織・植物繊維混入 ①焼成 口縁部がやや内反する鉢か。直前段合撫り?	有尾・黒浜

第 192 表 二軒在家原田遺跡 C 区住居址出土縄文時代遺物観察表（1）

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
9	J-1住8区1層 +11区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	單筋 瓦文織文。底部の遺存が僅少であるが、上げ底状を呈する可能性がある。	有尾・黒浜
10	J-1住10区1層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半載竹管状工具による羽状平行沈織（半隆起藤狀）施文。横位・竪位・窓位・斜位結節浮線文を施す。	諸磯 c
11	J-1住11区2層	深鉢	良好	砂粒・褐色繊維混入	底部破片	横位強化施文後、弧状結節浮線文を施す。	諸磯 c
12	J-1住9区1層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈織により口縁部文様帯を木葉状に区画する。区画内には縦位沈織を施す。	加曾利 E
13	J-1住2区1層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	隆帯系を施す。	加曾利 E

C区J-2号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-2住4区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	単位波状口縁と想定される。口縁部単位、半載竹管状工具による横位平行沈織・爪形文を施す。口縁部・単筋LR織文施文後、2条の横位糸形文を施す。	有尾
2	J-2住4区1層	深鉢	良好	砂粒・褐色繊維・植物繊維混入	口縁部破片	口縁部に並行して縦位強化沈織を施す。胸高・單筋とLRによる羽状織文、ループ文を施す。	有尾・黒浜
3	J-2住1区1層 +3区1層 +4区1層	深鉢	普通	砂粒・白色繊維・雲母・植物繊維混入	口縁部破片	口縁部・半載竹管状工具による横位短沈織を施す。口縁部・同工具押し引きによる爪形文を5条施す。胴部・單筋RLとLR織文、ループ文施文後、頭部に半載竹管状工具による横位平行沈織を施す。	有尾・黒浜
4	J-2住3区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色繊・植物繊維混入	口縁部破片	単位波状口縁と想定される。横筋状工具による平行光束・列点状刺突で区画する。菱形モチーフと考えられる。	有尾
5	J-2住4区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	無筋L織文施文。	有尾・黒浜
6	J-2住1区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	無筋L織文施文。	有尾・黒浜
7	J-2住3区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	付加糸形文横軸転写により羽状構成とする。	有尾・黒浜
8	J-2住4区1層	深鉢	良好	砂粒・褐色繊・植物繊維混入	口縁部破片	単位波状口縁と想定される。単筋RLとLR織文転写により羽状構成とする。	有尾・黒浜
9	J-2住4区1層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	底部破片	底部中央上げ底状を呈する。撓り素施文。	有尾・黒浜
10	J-2住1区1層	深鉢	不良	砂粒・植物繊維混入	底部破片	底部やや上げ底状を呈する。表面の摩減が著しく調整不明。	有尾・黒浜

C区J-3a号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-3a住6区2層	深鉢	良好	砂粒・チー・片岩・植物繊維混入	口縁部破片	以外外反する単位波状口縁。波頂部より縦位隆帯を垂下させ、横位隆帯と交差させて区画する。横位隆帯上には、横筋状工具による横位列点状刺突を施す。一部に横位基準列点状刺突も施す。横位隆帯下位には、同工具による列点状刺突を巻き巻き状・斜位直線状に施す。内面は丁寧に磨き。	有尾
2	J-3a住6区2層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	半位波状口縁。口縁に並行して横筋状工具による列点状刺突文を3条施す。口縁部・斜位沈織を施す。沈織は平行する斜位列点状刺突文と縱位列点状刺突文。三角形又は菱形モチーフ想定される。	有尾
3	J-3a住9区~6区 3層・10区2層	深鉢	普通	砂粒・褐色繊・白色繊・植物繊維混入	口縁部破片	口縁部が顧客に外反する。口縁部上面に無筋L織文・胸高・無筋L織文施文後、半載竹管状工具による平行沈織を施す。胴部には横位・巻き巻き状に施す。	有尾・黒浜
4	J-3a住7区~6区	深鉢	普通	砂粒・チー・片岩・植物繊維混入	口縁部破片	単位波状口縁と想定される。波頂部には横筋状付文施す。脇部は付加糸形文施文。	有尾・黒浜
5	J-3a住9区2層 +13区~6区2層	深鉢	良好	砂粒・白色繊・雲母・植物繊維混入	口縁部1/10	口縁直立する平口縁と想定される。無筋L織文施文。	有尾・黒浜
6	J-3住15区~6区	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	単位双頭波状口縁と想定される。波頂部以外にも小突起を配す。横位未端調・前々段多条施文。内面丁寧に磨き。	前期中葉
7	J-3a住10区2層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	口縁部直下から口縁部文様帯の一部が遺存すると考えられる。横筋状工具による平行沈織施文後、同工具による列点状刺突文で区画する。	有尾・黒浜
8	J-3a住14区1層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	口縁部直下から口縁部文様帯の一部が遺存すると考えられる。口縁部文様帯下部の胴部上位が遺存すると考えられる。口縁部文様帯・橋筋状工具による横位・斜位列点状刺突文を施す。菱形又は三角形モチーフ。脇部、2条の並行する横位隆帯を施す。隆帯間には突起を伴う縦位隆帯を配し区画する。胴部・單筋RL・織文施文。	有尾・黒浜
9	J-3a住14区1層	深鉢	普通	砂粒・雲母・植物繊維混入	胴部破片		

第193表 二軒在家原田遺跡C区住居址出土縄文時代遺物観察表(2)

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②釉上	③残存	④沿形・文様等の特徴／備考	
10	J-3a 住3区～6区 層・10区2層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維 混入	胴部破片	直前段多条・ルーブ文を施す。7と同じ個体。	有尾・黒浜
11	J-3a 住10区2層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	胴部破片	ルーブ文を施す。	有尾・黒浜
12	J-3a 住10区2層	深鉢	普通	砂粒・褐色織 マット・植物繊維 混入	胴部破片	単筋LR 横付末端縦横軋かし。	前期中葉
13	J-3a 住7区～8区	深鉢	普通	砂粒・褐色織 植物繊維混入	胴部 1/10	単筋RLとLR織文による羽状織文を施す。	有尾・黒浜
14	J-3a 住9区～13区 層・13区～14区 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	胴部中位～底 部 1/4	織文（付加せず？不正確）を施す。底部はやや上げ底 状を呈する。	有尾・黒浜
15	J-3a 住9区2層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	胴部～底部 1/5	単筋LR 織文転写がし。底部は上げ底状を呈する。一 部に浅い次状の窪みが認められるが、意図的の施文で はないと考えられる。内部に暗な磨き。	前期中葉
16	J-3a 住6区1層～6 区2層・10区2層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	1/2	裏糸条織文転写がしにより羽状構成とする。底部は上 げ底状。修復孔が二組（一组は貫通していない）あり、 底部中央上部に凹状を呈する。単筋 RL 織文監文。	有尾・黒浜
17	J-3a 住7区～8区	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	底部破片	底部に痕跡を呈する。内面に暗な磨き。	有尾・黒浜

C区J-3b号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②釉上	③残存	④沿形・文様等の特徴／備考	
1	J-3b 住1区1層	深鉢	良好	砂粒・褐色織 灰色織・雲母混 入	胴部破片	単筋 RL 織文後、輪削状工具による横位直線状・ 波状平行沈継施文。さらに一部に円形削突文を観察に 配する。	諸職a～b
2	J-3b 住5区1層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単筋 RL 織文後、輪削状工具による横位直線状・ 波状平行沈継施文。竹管状工具による円形削突文を観 察に配する。	諸職a～b
3	J-3b 住5区1層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	輪削状工具による横位直線状・波状平行沈継施文、 横位直線状波状平行沈継施文。赤色彫彩を施した可能性がある（ 一部に痕跡を呈する）。	諸職a～b

C区J-3c号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②釉上	③残存	④沿形・文様等の特徴／備考	
1	J-3c 住7区1層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	底帯と沈継により口縁部と文様帶を区画する。区内に は燃りきを施す。蓋部無文。	加曾利E I
2	J-3c 住8区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	口縁部破片	底帯と沈継により口縁部と文様帶を区画する。半月形区 画内に横位直線状沈継を施す。	加曾利E I
3	J-3c 住11区1層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	箇所所々において口縁部に接合する把手と考えられる。 底帯・縱位直線状沈継、底位横手状沈継等を施す。	中期後葉 (中部高地)
4	J-3c 住8区1層	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入	胴部破片	丸棒状工具による第一組の底位沈継で区画する。区 画内には横位直線状沈継。	加曾利E I
5	J-3c 住8区1層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	直縫部最上部に口縁部と文様帶の一部が遺存する。單筋 LR 織文を施す。丸棒状工具による底位・逆U字状沈 継を施す。	加曾利E I
6	J-3c 住7区1層	深鉢	良好	砂粒・褐色織 雲母混入	胴部破片	乾行隆起部を下さす区画を区画する。区画内には半截竹管状 工具又は棒状工具による底位基調丸棒を施す。	加曾利E I
7	J-3c 住7区1層・ 12区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	底部破片	鶴の巣文。	加曾利E I
8	J-3c 住10区2層	深鉢	普通	砂粒混入	体部破片	浅縫部体部の器形変遷点が遺存する。深い弱肩状溝み を有する高巻き状沈継帯を施す。強帶部以外は棒状工具 による上縫施文。	加曾利E I
9	J-3c 住伊	浅鉢	普通	砂粒・褐色織 雲母混入	口縁部～体部 1/8	体部上位で直縫する浅鉢。遺存部においては無文。	加曾利E I～ II
10	J-3c 住7区6～8 区1層・11区1層・ 12区1層	吊手土器	普通	砂粒・褐色織 雲母混入	胴部破片	笠式吊手土器と想定される。鋸部のみ遺存する。口 縫部上部の遺存部中央付近剥落部が吊手部合部と考 えられる。口縫部下部、吊手部に亘り2区画に分割し、 さらに濃巻き状沈継によく分割する。区画内にはU字形・ 弧状沈継を施す。区画により沈継数が異なる。内外 面に保付着。他の出土遺物から加曾利E 併行と考えら れる。	加曾利E I～ II

C区J-3d号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②釉上	③残存	④沿形・文様等の特徴／備考	
1	J-3d 住14区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色織 白色雲母混入	口縁部破片	やや外反する平口縫と思定される。輪削状工具による 横位直線状・波状平行沈継施文後、一部の沈継上に 細かい竹管状工具による小形文状切突を施す。	諸職a～b
2	J-3d 住15区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色織 白色雲母混入	1/4	口縁部において蓋部に亘る4縫合波状口縫と想定 される。1～3条の横位直線状貼付文施文後、単筋 RL 織文を施す（貼付文にも施す）。	諸職 b

第194表 二軒在家原田遺跡C区住居址出土織文時代遺物観察表(3)

番号	造構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①地成	②粘土	③残存		
3	J-3d 住 18 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	単筋 RL 繩文施文後。半截竹管状工具による木製状平行沈縫で区画する。一部の区画内に円形刺突文を配す。	諸磯 b
4	J-3d 住 12 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・石英・白色粘土混入	口縁部破片	単筋 LR 繩文施文後。横位浮繩文を施す。	諸磯 b
5	J-3d 住 15 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色混入	口縁部下位破片	単筋 RL 繩文施文。	諸磯 b
6	J-3d 住 P-1	深鉢	良好	砂粒・褐色・灰色粘土混入	口縁部中位~底部 1/5	単筋 RL 繩文施文。遺存部最上位に半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文が僅かに認められる。内部には丁寧な磨き。	諸磯 b

C区 J-3号住居址

番号	造構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①地成	②粘土	③残存		
1	J-3 住 6 区ヘト 3 層	深鉢	普通	砂粒・植物纖維混入	口縁部破片	口縁部に並行して横筋状工具による縦位列状刺突文を施す。胸部、半截竹管状工具による平行沈縫と同工具押し引きによる爪形文を施す。爪形文の間隔は一定ではなく、一部を意識的に広くしている。	有尾・黒浜
2	J-3 住 13 区 1 层	深鉢	良好	砂粒・植物纖維混入	口縁部破片	口縁部に並行して横筋状工具による縦位列状刺突文を施す。刺突文下位には横位微縫帶を含む。輪郭、輪郭文具による縫位・斜位列状刺突文を施す。	有尾
3	J-3 住 9 区 1 层	深鉢	普通	砂粒・褐色混入	口縁部破片	単筋波状口縁部と想定される。収縮部後端上部が波頭部か、半截竹管状工具による平行沈縫と、列点状刺突文を施す。微縫帶下位の列点状刺突文は渦巻き状チリキと考えられる。	有尾
4	J-3 住 16 区 2 层	深鉢	良好	砂粒・白色粘土・植物纖維混入	口縁部破片	単筋 RL 繩文施文後。半截竹管状工具による斜位平行沈縫を施す。	有尾・黒浜
5	J-3 住 6 区ヘト 3 層	深鉢	良好	砂粒・褐色混入	口縁部破片	単筋波状口縁部と想定される。波頭部より棒状隆帯を垂下させる。口縁部に並行して横筋状工具による平行沈縫と列点状刺突文を施す。また、棒状隆帯の部に平行して列点状刺突文を施す。	有尾

C区 J-4号住居址

番号	造構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①地成	②粘土	③残存		
1	J-4 住 2 区 2 层	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	単筋 RL 繩文施文後。半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。	諸磯 b
2	J-4 住 1 棚	深鉢	良好	砂粒・褐色混入	口縁部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。爪形文間に斜位短細縫を連続して施す。	諸磯 b
3	J-4 住 1 棚	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	胸部上位において内反する 4 単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。爪形文には斜位短細縫を連続して施す。	諸磯 b
4	J-4 住 9 区 1 层	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部へ胸部破片	単筋波状口縁と想定される。半截竹管状工具押し引きによる爪形文を区画する。	諸磯 b
5	J-4 住 1 区 1 层	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。一部の爪形文間に斜位短細縫を連続して施す。	諸磯 b
6	J-4 住 6 区 1 层	深鉢	良好	砂粒・褐色混入	口縁部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。	諸磯 b
7	J-4 住 1 区 1 层	深鉢	普通	砂粒・黑色粘土混入	口縁部破片	口縁部が内反する 1 単位小波状口縁と想定される。横位・縫位・斜位・弧状浮繩文を施す。波頭部下位に斜位状隆帯を施す。	諸磯 b
8	J-4 住 1 棚	深鉢	普通	砂粒・白色粘土混入	口縁部へ胸部破片	口縁部が顯著に内反する 4 単位波状口縁と想定される。単筋 RL 繩文施文後。横位・斜位・弧状浮繩文を施す。	諸磯 b
9	J-4 住 6 区 2 层	深鉢	普通	砂粒・白色粘土混入	口縁部へ胸部破片	胸部上位において内反する 4 単位波状口縁と想定される。横位・縫位・斜位・弧状浮繩文を施す。一部の爪形文間に細めの棒状工具による列点状刺突文を施す。	諸磯 b
10	J-4 住 3 区 1 层	深鉢	普通	砂粒・石英・片岩混入	口縁部破片	穴内に反する 4 単位波状口縁と想定される。波頭部周囲に小突起を有する。繩文施文後。口縁に並行する序縫文、渦巻き状浮繩文を施す。波頭部下位に剥離痕が認められ、貼付文が剥落している可能性がある。	諸磯 b
11	J-4 住 6 区 1 层	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	胸部上位において顯著に内反する 4 単位双頭波状口縁と想定される。縫文(不明瞭)施文後、浮繩文を施す。	諸磯 b
12	J-4 住 2 区 1 层	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	胸部上位において顯著に内反する 4 単位双頭波状口縁と想定される。縫文(不明瞭)施文後、浮繩文を施す。	諸磯 b
13	J-4 住 5 区 1 层	深鉢	良好	砂粒・褐色混入	口縁部破片	口縁部直下に幅の狭い「無文帯」を認める。胸部、単筋 LR 繩文施文後、浮繩文で区画する。一部の区画内には円形刺突文を配す。また口縁部上面には棒状貼付文(玄)を認める。	諸磯 b
14	J-4 住 6 区 1 层	深鉢	普通	砂粒・褐色混入	口縁部へ胸部破片	単筋波状口縁と想定される。口縁部に並行して 1 条の浮繩文を施す。その下位には渦巻き状・弧状・斜位直線状等の浮繩文を施す。胸部、単筋 RL 繩文施文後、横位浮繩文を施す。	諸磯 b

第 195 表 二軒在家原田遺跡 C 区住居址出土繩文時代遺物観察表 (3)

番号	遺物名	器種	成・弊形法の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④剖面・文様等の特徴／参考	
15	J-4住一柄	深鉢	普通	砂粒・褐色織・雲母混入	口縁部破片	胴部上位において頬著に内屈する4単位波状口縁と想定される。窓文において頬著に内屈する4単位波状口縁を施す。	諸職 b
16	J-4住13区1層	深鉢	良好	砂粒・褐色織・白色粘物混入	口縁部破片	胴部上位において頬著に内屈する4単位波状口縁と想定される。波頭部以外は胴部上位において頬著に内屈する4単位波状口縁と想定される。波頭部に歯面把手を施す。歯面部以外は單路 RL 窓文施文後、浮線文を施す。	諸職 b
17	J-4住9区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	口縁部破片	胴部上位において頬著に内屈する4単位波状口縁と想定される。波頭部以外は歯面把手を施す。歯面部以外は單路 RL 窓文施文後、浮線文を施す。	諸職 b
18	J-4住一柄	深鉢	普通	砂粒・褐色織・白色粘物混入	口縁部破片	歯面把手付深鉢の歯面部。	諸職 b
19	J-4住10区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色織・灰色混入	口縁部破片	胴部上位において頬著に内屈する4単位波状口縁。波頭部下位に歯面把手を配す。歯面以外は浮線文を施す。	諸職 b
20	J-4住7区2層	深鉢	普通	砂粒・黒色粘物混入	口縁部～胴部破片	口縁部上位において頬著に内屈する4単位波状口縁と想定される。口縁部上位に梯子状貼付を施す。外面は横位・斜位・弧形浮線文を施す。波頭部下位に円形拡充文を配す。	諸職 b
21	J-4住一柄	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	口縁部破片	横筋状工具による横位直線状・波状平行沈線施文後、円形拡充文を施す。波頭部に歯位に配す。	諸職 a～b
22	J-4住1区1層	深鉢	良好	砂粒・褐色織・黑色粘物混入	口縁部破片	横筋状工具による横位平行沈織（筋骨文と想定される）。波頭部・底位直線・円形拡充文を施す。	諸職 a
23	J-4住9区1層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	横筋状工具による横位直線状・波状平行沈織を施す。	諸職 a～b
24	J-4住15区2層	深鉢	良好	砂粒・白色粘物混入	口縁部破片	単路 RL 窓文施文後、横筋状工具による横位直線状・波状平行沈織。さらに一部に円形刺突文を施す。	諸職 a～b
25	J-4住5区1層・9区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	口縁部～胴部破片	外反する4単位波状口縁と想定される。口縁部に並行して半截竹管状工具による平行沈織文。胴部・單筋竹管状工具による歯位・斜位平行沈織（平隣起継状化星）で区画する。	諸職 b
26	J-4住5区1層・7区1層・9区1層	深鉢	良好	砂粒・褐色織・灰色混入	胴部破片	胴部上位に中位の破片。単路 RL 窓文施文後、半截竹管状工具による歯位・斜位平行沈織（平隣起継状化星）で区画する。	諸職 b
27	J-4住5区1層	深鉢	良好	砂粒・褐色織混	口縁部破片	単路 RL 窓文横構造。	諸職 b
28	J-4住15区2層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈織。一部の平行沈織・上に同工具による刺突文を連続して施す。爪形文を意識した施文。	諸職 b
29	J-4住一柄	深鉢	やや不良	砂粒・褐色織混入	胴部破片	半截竹管状工具押しつける上爪形文を施す。一部の爪形文間に斜位短沈織を連続して施す。さらに一部の区画内には円形刺突文を配す。全体的に摩滅しており、調整が不明確。	諸職 b
30	J-4住8区～6区1層	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	胴部破片	単路 RL 窓文施文後、半截竹管状工具による横位・斜位平行沈織で区画する。一部の区画内に同工具による刺突文を歯位に配す。	諸職 b
31	J-4住5区1層・6区1層・10区1層	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	胴部1/10	単路 RL 窓文施文後、横位浮線文を施す。	諸職 b
32	J-4住一柄	深鉢	普通	砂粒・褐色織・灰色混入	胴部破片	単路 RL 窓文施文後、横位浮線文で区画する。区内には歯位浮線文を施す。	諸職 b
33	J-4住一柄	深鉢	良好	砂粒・褐色織・灰色混入	胴部破片	単路 RL 窓文施文後、横位浮線文で区画する。区内には歯位浮線文を施す。	諸職 b
34	J-4住6区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色織・白色粘物混入	胴部破片	胴部上位において頬著に内屈する4単位波状口縁と想定される。波頭部に歯面把手を施す。歯面部以外は窓文（不明確）で区画する。波頭部附近、浮線文を施す。	諸職 b
35	J-4住2区1層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具押しつける爪形文を施す。一部の爪形文間に斜位短沈織を連続して施す。疵痕・帶文状を呈する。さらに一部の区画内に円形刺突文を配す。	諸職 b
36	J-4住9区1層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	単路 RL 窓文施文後、半截竹管状工具による格子目文を施す。	諸職 b
37	J-4住10区～6区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色織・雲母混入	胴部破片	直前段多段目結窓文横構造。	諸職 b
38	J-4住5区1層	浅鉢	普通	砂粒・金雲母混入	口縁部～体部破片	有孔浅模文と想定される。口縁部に並行し半截竹管状工具又は板状工具による「ハ」の字状刺突を施す。刺突部分に力を連続して穿つ。体部、二条の並行沈織で半圓状又は木葉状に区画し、沈織間に半截竹管状工具による連続刺突を施す。	諸職 b
39	J-4住9区1層	浅鉢	普通	砂粒・金雲母混入	口縁部～体部破片	有孔浅模文と想定される。口縁部に並行し半截竹管状工具又は板状工具による「ハ」の字状刺突を施す。刺突部分に力を連続して穿つ。穿つ。体部、二条の並行沈織で半圓状又は木葉状に区画し、沈織間に半截竹管状工具による連続刺突を施す。	諸職 b

第196表 二軒在家原田遺跡C区住居址出土縄文時代遺物観察表(4)

番号	造構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①地成	②胎土	③残存	
40	J-4住1区1層	浅鉢	普通 砂粒・白色粘土 混入	砂部・体部 破片	有孔洗鉢の底部器形変換点付近に想定される。二条の並行洗鉢で区画し、洗鉢間に半載竹管状工具による連續刻穴を施す。器形変換点下位に、列点状刻穴を施す。 有孔洗鉢と想定される。遺存部においては墨文である。	諸職b
41	J-4住一括	浅鉢	良好 砂粒混入	口縁部・体部 破片	同上	諸職b
42	J-4住11区2層	鉢?	良好 砂粒・白色粘土 混入	口縁部破片	口縁部、X字状と日の字状を組み合わせたモチーフの貼付を施す。浮線文を施す。一部の浮線文間に、浮線文を直行する浮線を施し、柿子状にする。	諸職b
43	J-4住一括	小型鉢	普通 砂粒・褐色粘土 混入	1/3	遺存部においては墨文。	諸職b?
44	J-4住5区1層	深鉢	良好 砂粒・褐色粘土 混入	口縁部破片	単面部。繩文文施す。底部が広範囲にわたり剥落している。	諸職b
45	J-4住5区1層	深鉢	良好 砂粒・褐色粘土 雲母混入	口縁部破片	単面部RLとLRの結束繩文横転が。最下段の原体は結束繩文とは異なる単面部RL繩文原体か。	諸職b?

C区J-5a号住居址

番号	造構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①地成	②胎土	③残存	
1	J-5a住10区1層	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	口縁部厚壁を有する。半載竹管状工具押し引きによる平行彫文を施す。	諸職b
2	J-5a住10区ヘント 2層	深鉢	良好 砂粒・褐色粘土 混入	口縁部破片	胴部上位において頸部に内屈する4単位波状口縁と想定される。遺文、墨文（不明瞭）。施文後、浮線文を施す。	諸職b
3	J-5a住3区1層	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部破片	胴部上位において頸部に内屈する4単位波状口縁と想定される。単面部。繩文文施す。浮線文を施す。	諸職b
4	J-5a住10区1層	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部破片	胴部上位において頸部に内屈する4単位波状口縁と想定される。単面部。繩文文施す。器形変換点位は浮線文を施す。下位は縦状貼付文施す後、単面部RL繩文押付する。	諸職b
5	J-5a住3区1層	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部・胴部 破片	胴部上位において頸部に内反する4単位波状口縁と想定される。楕円・縱位の浮線文文施す後、一部の浮線文間に細めの棒状工具による列点状刻穴を施す。	諸職b
6	J-5a住7区1層	深鉢	良好 砂粒・灰色粘土 混入	口縁部破片	浮線文を施す。口縁部上面の一部にはX字状と日の字を組み合わせたモチーフの貼付文施す。	諸職b
7	J-5a住11区1層	深鉢	普通 砂粒・褐色粘土 灰土色・雲母混入	口縁部・胴部 1/10	胴部上位において頸部に内屈する4単位波状口縁と想定される。楕円・縱位の浮線文文施す後、棒状貼付文間に細めの棒状工具による列点状刻穴を施す。胴部上位において頸部に内屈する4単位波状口縁と想定される。楕円・縱位の浮線文文施す後、棒状貼付文間に細めの棒状工具による列点状刻穴を施す。	諸職b
8	J-5a住11区1層	深鉢	良好 砂粒・褐色粘土 雲母混入	口縁部破片	口縁部に半載竹管状工具による網文を伴う横彫帯を1条巡らす。陸帯下位は半載竹管状工具による横彫帯を巡行する洗浄施す。	諸職b~c
9	J-5a住2区1層	深鉢	良好 砂粒・雲母混入	口縁部破片	胴部上位において頸部に内屈する4単位波状口縁と想定される。浮線文を施す。	諸職b
10	J-5a住11区1層	深鉢	良好 砂粒・赤褐色粘土 混入	口縁部破片	胴部上位において頸部に内屈する4単位波状口縁と想定される。表面粗面下位にはやや横円を呈する貼付文を配す。粗状貼付文を施す。一部の貼付文上に墨文（無跡）かを押す。	諸職b
11	J-5a住11区1層	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部・胴部 破片	胴部上位において頸部に内反する4単位波状口縁と想定される。波痕部外側へ折り返し、折半状を呈する。単面部RL繩文文施す後、直線状・弧状・渦巻き状の浮線文を施す。	諸職b
12	J-5a住7区1層・ 12区ヘント1層	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部破片	胴部上位において頸部に内屈する4単位波状口縁と想定される。波痕部先端を横彫帶へ曲げる。また剥落しているが波痕部下位に楕円形貼付文を配す。口縁部は楕円形RL繩文文施す後、浮線文を施す。27と同一個体。	諸職b
13	J-5a住一括	深鉢	普通 砂粒・褐色粘土 混入	口縁部・胴部 1/8	楕部上位から外反し、上位において頸部に内屈する4単位波状口縁と想定される。波痕部下位には楕円形貼付文を配す。貼付文の剥落痕より歓面表現の可能性が考られる。楕位浮線文で区画し、区画内に渦巻き状・弧状等浮線文を施す。	諸職b
14	J-5a住2区6~6'1層 3区1層	深鉢	普通 砂粒・褐色粘土 混入	口縁部・胴部 1/5	楕部上位から外反し、上位において頸部に内屈する4単位波状口縁と想定される。波痕部下位には楕円形貼付文を配す。楕位浮線文で区画し、区画内に渦巻き状・弧状等浮線文を施す。13と同一個体。	諸職b
15	J-5a住11区1層・ 11区ヘント1層	深鉢	普通 砂粒・褐色粘土 雲母混入	口縁部破片	半載竹管状工具による横彫平行浮線文を施す後、外面口縁部に横位粘土帶を貼り付け、さらに同工具により斜位押付を施す。	諸職b
16	J-5a住6区1層	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	口縁部内反する口縁、楕位・横位浮線文を施す。	諸職b
17	J-5a住10区1層	深鉢	良好 砂粒混入	胴部破片	半載竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。一部の爪形文間に浮线状刻穴を連続して施す。さらに一部の区画内に円形刻突文を配す。	諸職b
18	J-5a住2区1層	深鉢	良好 砂粒混入	胴部破片	諸職b	

第197表 二軒在家原田遺跡C区住居址出土繩文時代遺物観察表(5)

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期	
			①焼成	②出土	③残存		
19	J-5a 住 10 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色織・白色灰混入	胴部破片	胴部上位で顯著に内屈する 4 単位波状口縁深鉢と思定される。單面 L 型縫合文後、横位浮縫文で区画する。一部の区画内には斜状・渦巻き状・斜位等浮縫文を施す。	諸穢 b
20	J-5a 住 11 区へ外 1 层	深鉢	普通	砂粒・白色灰混入	胴部破片	纏文（「不明顯」）縫合文後、横位浮縫文で区画し、区画内に失形柄状・渦巻き状等浮縫文を施す。	諸穢 b
21	J-5a 住 7 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色織	胴部破片	斜位底織・纏位弧状等浮縫文で区画する。一部の浮縫文で区画し、一部の区画内に円形柄突文を施す。	諸穢 b
22	J-5a 住 7 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色織	胴部破片	浮縫文で区画し、一部の区画内に円形柄突文を施す。	諸穢 b
23	J-5a 住 12 区へ外 1 层	深鉢	普通	砂粒・白色灰混入	胴部破片	胴部上位において顯著に内屈する 4 単位波状口縁と思定される。單面 L 型縫合文後、浮縫文を施す。	諸穢 b
24	J-5a 住 3 区 1 层	深鉢	良好	砂粒・白色灰混入	胴部破片	纏文縫合文後、横位浮縫文で区画する。渦巻文間に列点状柄突文を施す。また一部の区画内には纏位・X 字状経状貼付文施す。	諸穢 b
25	J-5a 住 6 区 1 层	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	纏文縫合文後、半裁竹管状工具による格子目文を施す。一部の区画内に円形柄突文を配す。	諸穢 b
26	J-5a 住 10 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色織	胴部破片	單面 L 型縫合文後、半裁竹管状工具による格子目文を施す。格子目文の中央附近に円形柄突文を配す。	諸穢 b
27	J-5a 住 11 区 1 层	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	深鉢の内縁は中位迄と想定される。半裁竹管状工具による平行沈縫で区画し、同工具による刺突文を連続して施す。外面赤彩、一部に刺突工具による列点状柄突が認められるが、意図的の施文かどうか不明。	諸穢 b
28	J-5a 住 2 区 1 层	浅鉢	普通	砂粒・褐色織・金雲母混入	体部破片	浅鉢の内縁は中位迄と想定される。半裁竹管状工具による平行沈縫で区画し、同工具による刺突文を連続して施す。外面赤彩、一部に刺突工具による列点状柄突が認められるが、意図的の施文かどうか不明。	諸穢 b
29	J-5a 住 7 区 2 層	浅鉢	良好	砂粒混入	体部破片	有孔浅鉢と想定される。器形変換点に連続する短沈縫状柄突を施す。外面に赤彩を施す。	諸穢 b
30	J-5a 住 2 区 1 层	鉢？	普通	砂粒混入	体部破片	鉢の体部下段片か。遺存部下半には直前段多条縫文、上半は無文で赤彩。	諸穢 b
31	J-5a 住 11 区 1 层	浅鉢	普通	砂粒混入	体部～底部	有孔浅鉢の体部下半から底部。外面に 2 盆の段差あり。	諸穢 b～c

C区 J - 5b 号住址地

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期	
			①焼成	②出土	③残存		
1	J-5b 住 1 层	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁部に半裁竹管状工具押し引きによる横位爪形文を 3 本施す。胴部、同工具押し引きによる斜位爪形文を 2 本施す。	諸穢 b
2	J-5b 住床直 NOI	深鉢	普通	砂粒・褐色織・灰色織混入	1/3	外縁下部平底線。口縁部上面に竹管状工具による列点状柄突を施す。胴部、半裁竹管状工具による 1～6 条の組の横位平行沈縫を、口縁部以下約 6 厘米位まで 5 ケ所に施し、4 段に区画する。各区画内には同工具による斜位平行沈縫を施す。ただし最下段の区画内は一部の施文に留まらず、大部分は無文である。	諸穢 b
3	J-5b 住東側一筋	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	横位浮縫文を施す。	諸穢 b
4	J-5b 住 2 层	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	單面 L 型縫合文後、半裁竹管状工具による平行沈縫を施す。一部の平行沈縫には斜位短沈縫を重ね浮縫文を施す。	諸穢 b
5	J-5b 住 2 层	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	遺存部最上部に嵌面把手の一部が遺存する。浮縫文を施す。	諸穢 b
6	J-5b 住床直 NOI	深鉢	良好	砂粒・赤色灰混物・胴部上位～胴部下位 3/5	胴部破片	單面 L 型縫合文後、横位浮縫文で区画する。内面は横位の巻き。	諸穢 b
7	J-5b 住東側一筋	深鉢	良好	砂粒・褐色織・灰色織混入	胴部破片	單面 L 型縫合文後、半裁竹管状工具による横位平行沈縫で区画する。一部の区画内には同工具による斜位等平行沈縫を施す。	諸穢 b
8	J-5b 住 1 层	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	單面 L 型縫合文後、半裁竹管状工具による横位・斜位平行沈縫を施す。	諸穢 b
9	J-5b 住 2 层	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半裁竹管状工具による横位・斜位平行沈縫を施す。	諸穢 b
10	J-5b 住床直 NOI	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	底部破片	横位浮縫文を施す。	諸穢 b
11	J-5b 住 1 层	深鉢	良好	砂粒混入	底部破片	單面 L 型縫合文後、	諸穢 b
12	J-5b 住 2 层	浅鉢	良好	砂粒・褐色織混入	口縁部破片	有孔浅鉢の口縁部、口縁に並行して 3 条の浮縫文を施す。浮縫文間に孔を連続して配す。その下位には半裁竹管状工具による平行沈縫で区画し、同工具による列点状柄突を施す。外面赤色紫彩。	諸穢 b
13	J-5b 住 2 层	浅鉢	普通	砂粒・褐色織混入	体部破片	浅鉢体部上位片と考文される。半裁竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。	諸穢 b
14	J-5b 住 1 层	浅鉢	普通	砂粒・褐色織混入	体部～底部 1/4	遺存部においては無文。底部に顕著な段差を有する。内面の一部剥落。	諸穢 b
15	J-5b 住 P-2	ミニコア土器	良好	砂粒・白色灰混入	ほぼ完形	手づくねの小型鉢？	諸穢 b?

第198表 二軒在家原田遺跡C区住居址出土縄文時代遺物観察表(6)

C区J-5号住居址

番号	造構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-5住-1活	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	口縁部破片	銅部中位から外反し、上位において頸著に内屈する4単位波状口縁と想定される。波頂部付近の口端部は外反す。単路 RL・織文施文後、横位浮織文で区画し、区画間に溝巻き文・張状等浮織文を施す。	諸磯 b
2	J-5住9区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色織・白色飴物混入	口縁部破片	銅部上位において頸著に内屈する4単位波状口縁と想定される。浮頂部付近が欠損するが、波頂部とその下位に貼付文を有す。	諸磯 b
3	J-5住9区1層	深鉢	良好	砂粒・白色飴物混入	口縁部破片	銅部上位において頸著に内屈する4単位波状口縁と想定される。浮頂部付近は波紋状施文。	諸磯 b
4	J-5住5区1層	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	口縁部破片	半截竹管状工具による横位半隆起線で区画する。施文具を替えることにより半隆起線の太さに変化をつける。一部の半隆起線は途中で屈曲せず、横長に区画する。内側に斜位(部分的には格子状)沈継を施す。	五頭ヶ台
5	J-5住5区1層	深鉢	普通	砂粒・白色飴物・銅部破片 金雲母混入	口縁部破片	銅部の凹位と想定される。半截竹管状工具による平行沈継(一部は半隆起線式)を遺存部上位は横位に施す。下位は縱位基調に施文後、斜位直線状・縱位蛇行沈継を施す。	五頭ヶ台

C区J-6号住居址

番号	造構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-6住6区9アブル	深鉢	良好	砂粒・植物織維混入	口縁部破片	口縁部に横彫状工具による縱位列点状刻突文を施す。その下位には口縁部に並行する横彫帶を示す。胴部、脚部等工具による斜位列点状刻突文を施す。	有尾
2	J-6住4区1層	深鉢	普通	砂粒・植物織維混入	口縁部破片	0単位波状口縁と想定。口縁に並行する斜位方向と、構内に半截竹管状工具による平行直列点状刻突文を施す。さらに内側に斜位(部分的には格子状)沈継を施す。	有尾
3	J-6住11区1層	深鉢	普通	砂粒・植物織維混入	口縁部破片	0単位波状口縁と想定。脚部工具による横位平行沈継、同工具による横位・斜位列点状刻突文を施す。	有尾
4	J-6住16区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色織・植物織維混入	口縁部破片	構内が今4単位波状口縁と想定される。直前段多条施文後、口縁に並行して半截竹管状工具押し引きによる2条の平行沈継を示す。波頂部下位には同工具による平行沈継を示す。V字形に施す。	有尾・黒浜
5	J-6住3区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色織・チャート・植物織維混入	口縁部破片	構内が今4単位波状口縁と想定。半截竹管状工具による平行沈継を横位・X字形に施す。	有尾・黒浜
6	J-6住11区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色織	口縁部破片	真剥離織文横積3列ににより羽状構成とする。	有尾・黒浜
7	J-6住12区1層	深鉢	普通	砂粒・チャート・植物織維混入	口縁部～胴部3/5	0単位波状口縁。波頂部に直角に4棒状彫帶貼付。口縁部、半截竹管状工具による平行沈継を口縁部に並行して施す。胴部、單路 RL・織文施文。	有尾
8	J-6住16区1層	深鉢	普通	砂粒・チャート・植物織維混入	口縁部破片	構内が今4単位波状口縁と想定。單路 RL・LR・LRL・織文による羽状彫帶施文後、半截竹管状工具による横位平行沈継を施す。	有尾・黒浜
9	J-6住7アブル	深鉢	普通	砂粒・赤褐色・植物織維混入	口縁部破片	口縁部前面に直角に4棒状彫帶貼付。羽状彫帶施文後、半截竹管状工具による横位・斜位平行沈継を施す。	有尾・黒浜
10	J-6住15区1層	深鉢	普通	砂粒・植物織維混入	口縁部破片	構内が今4単位波状口縁と想定。單路 RL・LRL・織文による羽状彫帶施文後、コンバース文を意識すると考えられるが、技術的に稚拙である。	有尾・黒浜
11	J-6住7区1層	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	口縁部破片	0単位波状口縁と想定される。直前段多条施文。	有尾・黒浜?
12	J-6住16区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色織・植物織維混入	口縁部～胴部1/10	直前段多条による羽状彫帶文を示す。	有尾・黒浜
13	J-6住3区1層・4区1層・8区1層・J-7住1区1層・2区2層	深鉢	普通	砂粒・褐色織・植物織維混入	口縁部1/10	口縁部が頸著に外反する平口縁深鉢と想定される。0段多条施文。	有尾・黒浜
14	J-6住8区1層	深鉢	良好	砂粒・植物織維混入	口縁部破片	0単位波状口縁と想定される。口縁に並行して半截竹管状工具によるシンジ文を施す。波頂部下位には同工具並用による円錐状縫隙を示す。	有尾・黒浜
15	J-6住10区～6ト1層	深鉢	普通	砂粒・褐色織・片岩・植物織維混入	口縁部破片	0単位波状口縁。直前段多条施文後、口縁部に並行して円錐状縫隙を2条横位に示す。遺存部下位にも1条巡回する。16と同一個体。	有尾・黒浜?
16	J-6住10区～6ト1層	深鉢	普通	砂粒・褐色織・片岩・植物織維混入	脚部破片	直前段多条施文後、円錐状縫隙を1条横位に示す。	有尾・黒浜?
17	J-6住8区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色織・植物織維混入	脚部破片	脚部が心臓部上位が遺存する。單路 RL・LR・LRL・織文による羽状彫帶文を示す。	有尾・黒浜
18	J-6住8区2層	深鉢	普通	砂粒・植物織維・銅部破片 金雲母混入	脚部	脚部が心臓部上位が遺存する。單路 RL・LR・LRL・織文による羽状彫帶文を示す。	有尾・黒浜

第199表 二軒在家原田遺跡C区住居址出土繩文時代遺物觀察表(7)

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④沿形・文様等の特徴／備考	
19	J-6住2区1層	深鉢	普通	砂粒・植物織維・胴部破片 雲母混入		単節 RL と LR 組合織文による羽状構成とする。半裁竹管状工具押し引きによる2条一組の横位爪形文を巡らす。	有尾・黒浜
20	J-6住12区1層・ 16区1層	深鉢	良好	砂粒・金雲母混入	1/10	11往直立する平口縁と想定される。織文（反襷り RH?）を施す。	諸職?
21	J-6住6区へ付	深鉢	良好	砂粒混入	底部破片	単節 RL 織文施文。内面下唇な磨き。	諸職?

C区J-7号住剖址

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④沿形・文様等の特徴／備考	
1	J-7住10区2層・ 14区1層	深鉢	良好	砂粒・褐色織 植物織維混入	口縁部破片	継ぎやがれ4單位波状口縁と想定される。波頭部下位には握位棒状貼付文施文。曲面状工具による斜位平行沈線を施す。	有尾
2	J-7住11区1層	深鉢	普通	砂粒・植物織維 混入	口縁部破片	4単位波状口縁と想定される。單節 RL 織文施文後、半裁竹管状工具による平行沈線を並行して巡らす。	有尾
3	J-7住16区2層	深鉢	普通	砂粒・植物織維 混入	口縁部破片	單節 LR 織文施文後、柄状状工具による波状平行沈線文を施す。	中期中葉
4	J-7住16区1層	深鉢	普通	砂粒・植物織維 混入	口縁部～胴部 破片	半裁竹管状工具による握位平行沈線を施す。口縁部上位には、同工具又は板状工具による網刃突起を施す。	有尾
5	J-7住10区2層	深鉢	普通	砂粒・植物織維 混入	口縁部～胴部 破片	断続状工具による横位直線状・波状平行沈線を施す。波頭部下位には握位棒状貼付文を配す。	前期中葉
6	J-7住2区2層	深鉢	普通	砂粒・植物織維 混入	口縁部破片	半裁竹管状工具押し引による爪形文で横位・斜位に区画する。	有尾
7	J-7住10区1層・ 10区2層・10区 ¹ ・ 6区2層・14区1層	深鉢	普通	砂粒・植物織維 混入	口縁部 1/10	4単位波状口縁と想定される。單節 RL と LR 組合織文施文後、口縁直下と遺存部下位に半裁竹管状工具押し引きによる2条の爪形文を巡らす。内面には丁寧な磨き。	有尾・黒浜
8	J-7住9区2層	深鉢	良好	砂粒・褐色織 植物織維混入	口縁部破片	直前段多条施文後、半裁竹管状工具による横位平行沈線を巡らす。	有尾・黒浜?
9	J-7住5区1層	深鉢	普通	砂粒・植物織維 混入	口縁部～胴部 破片	4単位波状口縁と想定される。單節 RL 織文施文後、4単位棒円形貼付文を施す。貼付文下位には孔を穿つ。さらに竹管状工具による内形刺突を行す。	前期中葉
10	J-7住2区	深鉢	普通	砂粒・褐色織 雲母・植物織維 混入		半裁竹管状工具による直立する平口縁と想定される。單節 RL と LR 組合織文構成が。	有尾・黒浜
11	J-7住10区2層	深鉢	普通	砂粒・褐色織 植物織維混入	口縁部破片	付加墨織文施文。	有尾・黒浜
12	J-7住11区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色織 植物織維混入	口縁部破片	4単位波状口縁と想定される。半裁竹管状工具による平行沈線・同工具押し引きによる爪形文を斜位に施す。	有尾
13	J-7住10区2層	深鉢	良好	砂粒・植物織維 混入	胴部破片	直前段多条施文後、柄状状工具による横位基調平行沈線化。	有尾・黒浜
14	J-7住11区2層	深鉢	普通	砂粒・褐色織 植物織維混入	胴部破片	羽状織文（單節 RL と無節 L?）施文後、2条一組の横位沈線による横位平行沈線で区画する。横位沈線上位の一部には円形切線文施文。また、遺存部最上位には握位沈線が認められる。	有尾・黒浜
15	J-7住13区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色織 植物織維混入		付加条束経文横織軸がより上位羽状構成とする。	有尾・黒浜
16	J-7住9区2層	深鉢	良好	砂粒・褐色織 片岩混入・植物 織維混入	胴部破片	直前段多条施文後、円形刺突文をT条横位に巡らす。	有尾・黒浜?
17	J-7住10区2層	深鉢	普通	砂粒・褐色織 黒色鉱物・植物 織維混入	胴部破片	直部5-6胸部上位に遺存する。直前段多条施文後、直部にコンバスト文を施す。	有尾・黒浜
18	J-7住10区2層	深鉢	普通	砂粒・植物織維 混入	胴部破片	織文（單節 LR?）施文後、柄状状工具による波状平行沈線を施す。	有尾・黒浜
19	J-7住10区へ付 2層	深鉢	普通	砂粒・植物織維 混入	胴部破片	直部5-6胸部上位に遺存する。直部外縁に跨状陸帯を巡らす。	有尾・黒浜?
20	J-7住7区1層	深鉢	普通	砂粒・植物織維 混入	胴部破片	4-7文・單節 LR 織文を施す。	有尾・黒浜
21	J-7住9区2層	深鉢	普通	砂粒・褐色織 片岩・チャート 混入	胴部破片	直部5-6胸部上位に遺存する。直部に半裁竹管状工具押し引きによる横位爪形文を巡らす。その下位に4-7文施文。	有尾・黒浜?
22	J-7住4区1層・ 7区1層	深鉢	普通	砂粒・チャート・片 岩・植物織維混 入	底部破片	無節 L 織文施文（不明瞭）。	前期中葉
23	J-7住15区1層・ 16区1層	深鉢	普通	砂粒・植物織維 混入	胴部～底部 破片	直前段多条横軸が。	有尾・黒浜
24	J-7住2区へ付1層	深鉢	不良	砂粒・芋一混入	胴部破片	無節 RL 織文施文。棒状・ボタン状貼付文を施す。ボタン状貼付文は剥落しているものが複数あるが、痕跡2個1対で施されたと想定される。	諸職?
25	J-7住U-2	深鉢	普通	砂粒混入	胴部～底部 1/10	單節 RL と LR の結束織文横軸が。山形筋付文を横位に巡らす。山形筋付文の一部は剥落している。	諸職 (大木5b併行)

第200表 二軒在家原田遺跡C区住居址出土織文時代遺物観察表(8)

C区J-8号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴		時期		
			①焼成	②剥土・発色処理			
1	J-8住8区1層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	口縁部に並行して櫛状工具による縱位列点状焼突文を残す。胴部には直前段多条横軋文を施す。	有尾
2	J-8住1区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	小範囲口縁が、口縁部に横区隆帯を残す。隆帯上位に横帶上に櫛状工具による焼突文を施す。	有尾・黒浜
3	J-8住15区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	中位部口縁が、口縁部に横区隆帯を残す。隆帯下位に半載竹管状工具による焼突文を施す。	前期中葉
4	J-8住10区2層	深鉢	良好	砂粒・白色粘物・植物繊維混入	口縁部破片	中位部口縁が想定される。櫛削竹工具による斜位平行沈線を施す。	前期中葉
5	J-8住8区1層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	直前段多条垂延文。口縁部に半載竹管状工具による焼突文を施す。	有尾・黒浜
6	J-8住1区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	中位部口縁が複数部位付近が遺存。口縁に並行する半載竹管状工具(一部は棒状工具)による平行沈線を施す。	有尾・黒浜
7	J-8住15区1層	深鉢	やや不良	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	細かい半載竹管状工具による横位平行沈線で区画する。口縁部の区画内には同工具による斜位平行沈線を施す。	有尾・黒浜
8	J-8住12区1層	深鉢	普通	砂粒・石英・植物繊維混入	口縁部～胴部1/8	中位部波状口縁。口縁部と胴部に半載竹管状工具による横位集合沈線を施す。区画内。同工具による波状平行沈線を施す。	有尾・黒浜
9	J-8住14区1層・15区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部～胴部1/5	中位部波状口縁が想定される。小波状下位に半載竹管状工具による横位平行沈線と重下させ区画。各区画内に同工具による横位平行沈線を施す。	前期中葉～後葉
10	J-8住11区1層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	中位部波状口縁。櫛削竹工具による横位平行沈線と半載竹管状工具による横位斜面削。斜位平行沈線を組み合わせ。格子目状とする。意識としては菱形・三角形のマイターカー。	有尾・黒浜
11	J-8住14区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色処理・植物繊維混入	口縁部破片	口縫直立する平口縁と想定される。付加焼突文横軋文がある。口縁部にはコロコロバスク文を施す。	有尾・黒浜
12	J-8住8区1層・#フレ一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部～胴部下位1/5	三房型の小波状口縁。波頂部下位に格子形網状貼付文を配す。無焼竹織文。口縁部・底面・中央がやや歪んで浅い沈線状を呈する。	有尾・黒浜
13	J-8住12区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色処理・植物繊維混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁。8段多条旋文。	有尾・黒浜
14	J-8住11区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色処理・チャート・白色粘物・植物繊維混入	口縁部破片	付加焼突文横軋文により羽状構成とする。	有尾・黒浜
15	J-8住11区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部～胴部1/10	直前段横軋文。一部は重複して施すため。格子目状を呈する。	有尾・黒浜
16	J-8住10区2層	深鉢	普通	砂粒・褐色処理・石英混入・植物繊維混入	口縁部～胴部1/10	單態RLとLR織文による羽状織文を施す。	有尾・黒浜
17	J-8住12区1層・12区2層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部～胴部1/5	單態RLとLRの羽状織文を施す。	前期中葉
18	J-8住ヘタ1-1括・ヘタ2-1括	深鉢	普通	砂粒・褐色処理・金雲母・植物繊維混入	口縁部～胴部1/6	單態RLとLR織文横軋文により、羽状織文を施す。	有尾・黒浜
19	J-8住サブレ一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	小突起を4単位配するか。直前段多条横軋文。	有尾・黒浜
20	J-8住サブレ一括	深鉢	普通	砂粒・褐色処理・チャート・植物繊維混入	口縁部破片	口縁部文様帯下から胴部上半が遺存する。口縁部文様帯と櫛削竹工具による斜位列点状焼突文を施す。粗部・横位梯子状隆縫を残す。隆縫の上下と隆縫上部に列点状焼突文を施す。胴部・單態RLとLR織文による羽状織文を施す。	黒浜
21	J-8住16区2層	深鉢	普通	砂粒・赤褐色・石英・植物繊維混入	胴部破片	胴部・心臓部上半が遺存する。付加条縫文施す後、粗部と胴部の一部にコシバスク文を施す。	有尾・黒浜
22	J-8住15区1層	深鉢	普通	砂粒・チャート・片岩・植物繊維混入	胴部破片	口縁部文様帯から胴部下位が遺存すると考えられる。口縁部文様帯から粗部・半載竹管状工具による横位平行沈線を施す。胴部には付加焼突文を施す。	有尾・黒浜
23	J-8住16区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色処理・植物繊維混入	胴部破片	直前段多条横軋文。	有尾・黒浜
24	J-8住13区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色処理・植物繊維混入	胴部破片	半載竹管状工具による横位平行沈線とコシバスク文を施す。	有尾・黒浜
25	J-8住9区1層	深鉢	やや不良	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	口縁部文様帯から頭部付近が遺存すると思定。半載竹管状工具による横位平行沈線と列点状焼突文を施す。	有尾・黒浜
26	J-8住9区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	口縁部文様帯には粗部・斜位列点状焼突文を施す。	有尾

第201表 二軒在家原田遺跡C区住居址出土織文時代遺物觀察表(9)

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
27	J-8住3区1層	深鉢	やや不良 砂粒・植物繊維 混入	砂部破片	半裁竹管状工具による横位平行沈継で区画する。区画内には同工具による斜位平行沈継を施す。結果として菱形・正方形のモチーフとする。	有尾・黒浜	
28	J-8住11区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色繊・ チャート・植物繊維 混入	胴部破片	付加条文構軸がにより羽状構成とする。遺存部上位に半裁竹管状工具による横位平行沈継を施す。	有尾・黒浜
29	J-8住11区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色繊・ チャート・片口・植 物繊維混入	胴部破片	頭部5~6胴部上位が遺存すると考えられる。單部LR構文施文後、頭部外側に輪曲状工具による横位点状刻文が認めらる。	有尾・黒浜
30	J-8住1区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	胴部破片	單部LR構文施文。頭部に半裁竹管状工具押し引きによる横位爪形文(隔壁が粗く、「列点文」とした方が適当)を施す。	有尾・黒浜
31	J-8住5区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	胴部破片	遺存部においては無文。内面の一部に炭化物付着。	有尾・黒浜?
32	J-8住12区1層・ 12区2層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	胴部~底部破 片	頭部に単始LR構文施文。底部、遺存部少ないが若干上げ底状。	有尾・黒浜
33	J-8住5区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	底部破片	直前段多条文。底部上げ底状を呈する。	有尾・黒浜
34	J-8住7区1層・ 11区1層・へた1 一括	深鉢	普通	砂粒・チャート・植 物繊維混入	底部破片	無始LR構文を施す。底部や上げ底状。	前期中葉
35	J-8住サフラー一括	深鉢	良好	砂粒・雲母・植 物繊維混入	底部破片	調文(直前段多条)施文。底部や上げ底状を呈する。	有尾・黒浜
36	J-8住P-1	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	幅広の半裁竹管状工具押し引きによる横位爪形文で区画する。区画内、幅の狭い半裁竹管状工具による斜位基調平行沈継を施す。	諸職b

C区J-9号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	J-9住1区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	胴部破片	胴部上位部分。付加条文施文後、遺存部上位に半裁竹管状工具による横位平行沈継、輪曲状工具による頭位点状刻文を施す。	有尾・黒浜
2	J-9住3区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色繊・ 植物繊維混入	胴部破片	頭部5~6胴部上位が遺存すると考えられる。無部結束線構軸が転じ後、遺存部上位に半裁竹管状工具による横位平行沈継、横位点状刻文を施す。	有尾・黒浜
3	J-9住3区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	胴部破片	頭部5~6胴部上位が遺存すると考えられる。頭部、遺存状況が不良であるが、半裁竹管状工具による横位平行沈継と同工具押・引きによる横位爪形文が施すと考えられる。頭部、單始LRとLR構文構軸がにより羽状構成とする。	有尾・黒浜
4	J-9住へた1一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	胴部破片	直前段多条文。	有尾・黒浜
5	J-9住へた1一括	深鉢	普通	砂粒・褐色繊・ 植物繊維混入	胴部破片	段多条文。内面の一部に炭化物付着。	有尾・黒浜
6	J-9住2区1層	深鉢	普通	砂粒・石英混入	胴部破片	半裁竹管状工具による横位・輪曲状混合沈継を施す。一部に三角形印文を施す。	十三世模

C区J-10号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期	
			①焼成	②釉土	③残存		
1	J-10住2区	深鉢	普通	砂粒・白色粘物・口縁部破片 雲母混入	口縁部破片	頭部や内側部に口縫線。半裁竹管状工具による横位基調平行沈継後、一部に同工具による複数点状沈継を施す。	諸職b ~ c
2	J-10住2区	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混入	口縁部破片	頭部上位において頭部に内側する4單位液状口縫線と想定される。調文施文後、浮線文を施す。一部の浮線文間にに列点刻文を施す。	諸職b
3	J-10住2区	深鉢	普通	砂粒・白色粘物・口縁部破片 雲母混入	口縁部破片	浮線文を施す。	諸職b
4	J-10住1区	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混入	胴部破片	半裁竹管状工具押し引きによる爪形文で本茎状に区画する。区画内には円形刻文を配す。	諸職b
5	J-10住2区	深鉢	普通	砂粒・褐色繊・ 雲母混入	胴部破片	半裁竹管状工具による横位・斜位・弧状平行沈継を施す。	諸職b
6	J-10住9区2層	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混入	胴部破片	單始LR構文施文後、3条一組の横位浮線文を施す。浮線文間にに列点刻文を施す。	諸職b
7	J-10住14区2層	深鉢	普通	砂粒・褐色繊・ 雲母混入	胴部破片	單始LR構文施文後、横位浮線文で区画する。区画内には口縫・J字形等浮線文を施す。浮線文間にに列点刻文を施す。6と同一個体の可能性あり。	諸職b
8	J-10住9区2層	浅鉢	普通	砂粒・褐色繊・ 雲母混入	胴部破片	諸職b引渡西跡部断片と考えられる。半裁竹管状工具押し引きによる爪形文で区画する。外面に志印。	諸職b
9	J-10住14区2層	深鉢	普通	砂粒・白色粘物 混入	底部破片	半裁竹管状工具による横位平行沈継で、5単位に分け1周させる。5箇所の単位変換点のうち3箇所において、織位沈継状の推察が認められる。単位区分の目印とした可能性が考らられる。	諸職b

第202表 二軒在家原田遺跡C区住居址出土縄文時代遺物観察表(10)

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期
			①焼成	②釉上	③残存	
10	J-10 住 4 区	深鉢	普通 砂粒・褐色織入	底部破片	単脚 RL 織文施釉後。横位浮織文を施す。	諸城 b
11	J-10 住 10 区 2 層	深鉢	普通 砂和混入	口縁部破片	半截竹管状工具により、外面は横位平行沈織。内面上半は斜位平行沈織を施す。端部外面にまたがり状貼付文を施す。さらに内面の一部にボタ状貼付文を配す。	諸城 c
12	J-10 住 5 区 2 層	深鉢	普通 砂粒・雲母混入	口縁部・腹部 中位 1/4	口縫部・底部 横位浮織文後、半截竹管状工具による刺突を伴う隆起(意識しては筋節状織文)を施す。腹部に隆起した部分で区画する。各区画内には同工具による刺突を伴う円形貼付文を銀に 3 個配す。脇部の直縫状・弧状波状・網状波状等、横位直縫状浮織を施す。一部に円形貼付文が認められる。	諸城 c
13	J-10 住 10 区 2 層	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 混入	口縁部破片	半截竹管状工具による横位平行沈織施後、縦位貼付浮織文・ボタ状貼付文を配す。口縫部下面に半截竹管状工具による刺突を施す。	諸城 c
14	J-10 住 1 区	深鉢	普通 砂粒・褐色織入	口縁部破片	口縫部附近より上方 2 位置で内凹する。半截竹管状工具による横位・斜位平行沈織後、ボタ状貼付文を配す。口縫部に半截竹管状工具による刺突を施す。	諸城 c
15	J-10 住 4 区~6 区 1 層	深鉢	普通 砂粒・白色粘土 黒色織入	脇部・底部破片	脇部に高い外側へ引出る凹部。半截竹管状工具による横位・斜位沈織による区画する。2 個 1 対の円形貼付文を配す。	諸城 c
16	J-10 住 1 区	深鉢	普通 砂粒・褐色織 民色織入	脇部破片	半截竹管状工具による縦位基調平行沈織施後、一部に縦位結合浮織文を施す。	諸城 c
17	J-10 住 6 区 2 層	深鉢	普通 砂粒・灰色織 混入	脇部破片	半截竹管状工具による縦位平行沈織後で区画し、区内に横位沈織を施す。さらに一部に刺突を伴う円形貼付文を配す。	諸城 c
18	J-10 住 2 区	深鉢	普通 砂粒・暗褐色織 混入	脇部破片	半截竹管状工具による横位縦位浮織文を施す。斜位貼付状態浮織文を施す。	諸城 c
19	J-10 住 1 区	深鉢	普通 砂粒混入	脇部破片	脇部 (單脚 RL) 施後。半截竹管状工具による横位平行沈織 (半截竹管) で区画する。区画内には格子状沈織を施す。混入品。	五箇ヶ谷Ⅱ

CJK-11号住居地

番号	遺構名	器種	成・整技法の特徴				時期
			①焼成	②施土	③焼成	④器形・文様等の特徴／優秀	
1	J-11 住一括	深鉢	普通 砂粒・褐色織混入	口縁部破片	陸と沈縦により口縁部文様帶を区画する。区画内に横位置切削痕施す。底部は直邊部が僅かであるが、無く想させる。		加曾利 E I
2	J-11 住一括	深鉢	普通 砂粒・褐色織混入	口縁部破片	陸と沈縦により口縁部文様帶を区画する。区画内には横位置切削痕施す。底部は直邊部。		加曾利 E I
3	J-11 住 2 区 2 層	深鉢	普通 砂粒・雲母混入	口縁部破片	陸と沈縦により口縁部文様帶を区画する。区画内には横位置切削痕施す。底部は直邊部。		加曾利 E I
4	J-11 住 3 区	深鉢	普通 砂粒・褐色織、白色織混入	口縁部破片	口縁部、無筋 L 縄文文様、口縁部直下に I 型の横位置切削痕を造る。底部は無文、脚部、無文部等に 2 つの横位置沈縦を残す。無筋 L 縄文文様後、縱仪沈縦区画する。		加曾利 E I
5	J-11 住一括	浅鉢	良好 砂粒・褐色織、赤褐色織混入	口縁部破片	口縁部上位からロング部にかけて内反する。丸柱状工具による沈縦で I 型口縁部に直角状に区画する。区画内は無文。区画内は单筋 RL 繩文文様。		加曾利 E III
6	J-11 住一括	深鉢	普通 砂粒・雲母混入	口縁部破片	口縁部直下に内反する。底部直縫を施す。		加曾利 E
7	J-11 住 3 区	深鉢	普通 砂粒・褐色織、金雲母混入	口縁部破片	波状口縁深鉢把手部分。8 と同一個体。柄状把手の両側面に脚部文様・横裂痕。		加曾利 E 併行 (曾利 II ?)
8	J-11 住 3 区	深鉢	普通 砂粒・褐色織、金雲母混入	口縁部破片	波状口縁深鉢把手部分。8 と同一個体。高巻き状沈縦の脚部剥落と、円内孔部を棒状把手が連続していたと思われる。口縁部に並行する区画内には波状沈縦文。		加曾利 E 併行 (曾利 II ?)
9	J-11 住 2 区 P-4	深鉢	普通 砂粒・雲母混入	脚部破片	陸と沈縦により口縁部文様帶を区画する。底部は無文、脚部、單筋 RL 繩文文様。3 と同一個体と考えられる。		加曾利 E I
10	J-11 住一括	深鉢	普通 砂粒・黒色粘土混入	脚部破片	口縁部文様帶の脚部上位が遺存すると思われる。遺存有る中央付近に 2 条一起の横位置沈縦を造る。陸縫部と陸縫上部に I 形脚部文様を施す。また一部に不規則斜行文様を配す。その貼付文様から脚部へ蛇形行進帶を垂下させ区画する。区画内には波状沈縦文。		加曾利 E 併行 (曾利系?)
11	J-11 住一括	深鉢	普通 砂粒・褐色織混入	脚部破片	縱仪文様を施す。		加曾利 E
12	J-11 住一括	深鉢	普通 砂粒・褐色織混入	脚部破片	熱焼しを施す。		加曾利 E
13	J-11 住 3 区	器台?	普通 砂粒混入	脚部破片	外面の一部に接しを持たせ、外見上は方形状を呈する。一部に巻曲状又は同心円状凸縁を施す。さらに一部に内孔を配す。		加曾利 E

第203表 二軒在家原田遺跡C区住居址出土縄文時代遺物観察表(11)

C区J-12号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
①焼成	②土手	③残存	④沿形・文様等の特徴／備考				
			砂粒・褐色織混入	口縁部破片	縫隙と沈縫による口縁部文様帯を半月形に区画する。区画内には縫隙沈縫を施す。半月形区画連結部には縫隙状沈縫を配し、その下位には蛇形沈縫を垂下させる。端部は無文、遺存部最下位には波状沈縫を文かせる。		
1	J-12住P-2	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	口縁部破片	縫隙と沈縫による口縁部文様帯を半月形に区画する。区画内には縫隙沈縫を施す。半月形区画連結部には縫隙状沈縫を配し、その下位には蛇形沈縫を垂下させる。端部は無文、遺存部最下位には波状沈縫を文かせる。	加賀利E Ⅰ
2	J-12住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	口縁部破片	口縁部直下に横並沈縫を2条巡らす。縫隙。縫隙条縫文後、山形状（衝突状）沈縫を施す。一部に円形刻突を配す。	加賀利E Ⅰ
3	J-12住一括	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入	胴部破片	口縁部の心臓部上位に直線状に埋存する。縫隙と沈縫で口縁部文様帯を区画する。区画内には単節 RL 繩文施文。胴部、丸棒状工具による2条一組の縫隙沈縫で区画し、区画内には単節 RL 繩文施文。沈縫間は無文。	加賀利E Ⅰ
4	J-12住P-1	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入	胴部破片	焼け系施文。一部に弧状縫を施す。	加賀利E Ⅰ
5	J-12住P-1	深鉢	普通	砂粒・チャート混入	胴部破片	焼け系施文。	加賀利E Ⅰ
6	J-12住P-2	深鉢	普通	砂粒・白色粘土・褐色黒色粘土・褐色 織混入	底部	2条一組の縫隙沈縫による5単位に区画する。区画内には棒状工具による縫隙沈縫を施す。さらに、一部に同工具による横位沈縫を施す。横位沈縫は確認できる限りでは直線状で形状は呈していない。内面の一部が剥落。	加賀利E Ⅰ
7	J-12住P-1	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	一部に圓文やさしき施文が認められるが不明確である。	加賀利E Ⅰ

C区J-13号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
①焼成	②土手	③残存	④沿形・文様等の特徴／備考				
			砂粒・植物織混入	口縁部破片	4回の直線口縫と想定される。口縫に並びて横彎状工具による列状刻突文を施す。口縫部には工具による平行沈縫を施す。また一部に半截竹管状工具による平行沈縫を下させる。爪形文の意識か。		
1	J-13住一括	深鉢	普通	砂粒・植物織混入	口縁部破片	4回の直線口縫と想定される。口縫部に縫隙状沈縫付文施文。半節 RL と LR による羽状縫文施文後、半截竹管状工具押し引きによる横位沈縫文を施す。口縫部並びて2条、胴部上位に2条施す。	有尾
2	J-13住一括	深鉢	良好	砂粒・植物織混入	口縁部破片	4回の直線口縫と想定される。口縫部に縫隙状沈縫付文施文。半節 RL と LR による羽状縫文施文後、半截竹管状工具押し引きによる横位沈縫文を施す。口縫部並びて2条、胴部上位に2条施す。	有尾・黒浜
3	J-13住上層	深鉢	普通	砂粒・褐色織 植物織混入	口縁部破片	ほぼ直下する平口縫。單節 RL と LR 繩文横軸が並ぶ状構成とする。	有尾・黒浜
4	J-13住上層・一括	深鉢	やや不良	砂粒・植物織混入	口縁部破片	ほぼ直下する平口縫。無節 RL 繩文施文。	有尾・黒浜
5	J-13住一括	鉢？	普通	砂粒・灰色織 植物織混入	胴部	全体的に麻痺しており、施文が不明瞭である。遺存部最上位に横彎状工具による横状平行沈縫施文。縫縫部には同じ工具による縫隙平行沈縫を巡らす。体部には羽状構成の繩文施文。	有尾・黒浜
6	J-13住下層	深鉢	普通	砂粒・チャート・植物織混入	胴部破片	無節 RL と LR 繩文施文。羽状縫文を意識していると考えられるが、羽状の形状が乱れている。	有尾・黒浜
7	J-13住上層・下層	深鉢	普通	砂粒・植物織混入	底部破片	無節 RL 繩文施文。傷んだが上げ底状を見る。	有尾・黒浜
8	J-13住一括	台付土器	普通	砂粒・褐色織 植物織混入	口縁部破片	台付土器の台部と想定した。半截竹管状工具押し引きによる横位沈縫文を巡らす。	有尾・黒浜
9	J-13住一括	浅鉢	普通	砂粒・褐色織 金雲母混入	1/5	体部に顯著な段を有する。半截竹管状工具による木葉状等平行沈縫施文。また一部に粗沈縫を連続して施す。	諸説 b

C区J-14号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
①焼成	②土手	③残存	④沿形・文様等の特徴／備考				
			砂粒・褐色織混入	口縁部破片	縫隙と沈縫による口縁部文様帯を区画する。区画内には単節 RLR 繩文施文。		
1	J-14住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	口縁部破片	縫隙と沈縫による口縁部文様帯を区画する。区画内には単節 RLR 繩文施文。	加賀利E Ⅰ
2	J-14住伊周辺	深鉢	良好	砂粒・白色粘土 混入	胴部破片	口縁部付近から胴部上位に想定される。縫隙と沈縫による口縁部文様帯を区画する。区画内には単節 RLR 繩文施文。	加賀利E Ⅰ
3	J-14住伊周辺	深鉢	良好	砂粒・白色粘土 混入	胴部破片	2条一組の縫隙沈縫帯で区画する。区画内には単節 RLR 繩文施文。	加賀利E Ⅰ
4	J-14住伊周辺	深鉢	良好	砂粒・白色粘土 混入	胴部破片	縫隙・横位の沈縫で区画する。一部に転子状沈縫を施す。	加賀利E Ⅰ
5	J-14住伊	深鉢	普通	砂粒・褐色織 灰色織混入	胴部破片	縫隙と沈縫による口縁部文様帯を区画する。区画内には単節 RLR 繩文施文。	加賀利E Ⅰ

C区J-15号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
①焼成	②土手	③残存	④沿形・文様等の特徴／備考				
			砂粒・褐色織 植物織混入	口縁部破片	口縫部の一部に口縫部上位が埋存する。口縫部文様帯。半截竹管状工具押し引きによる爪形文（一部は列状状突状を呈する）が縫隙帶で区画する。胴部は2段目と3段目 RLR 繩文施文。		
1	J-15住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	胴部破片	胴部上位から。単節 RLR 繩文施文後、半截竹管状工具押し引きによる爪形文（一部は列状状突状を呈する）が縫隙帶で区画する。胴部は2段目と3段目 RLR 繩文施文。	有尾
2	J-15住一括	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入	胴部破片	直前段多条横筋が。正面上面部に灰化物付着。	有尾・黒浜
3	J-15住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色織 植物織混入	胴部破片	直前段多条横筋が。正面上面部に灰化物付着。	有尾・黒浜

第204表 二軒在家原田遺跡C区住居址出土繩文時代遺物観察表(12)

C区J-16a号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②胎土	③残存		
1	J-16a住周溝	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	口縁に並行して手裁竹管状工具押しこしによる爪形文を施す。	有尾・黒浜
2	J-16a住周溝	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維・植物繊維混入	胴部破片	頭部から胴部上位が遺存すると考えられる。頭部、半裁竹管状工具押しこしによる横位爪形文を施す。胴部は墨文施文。全体的に摩滅している。	有尾・黒浜
3	J-16a住P-1	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入		付加墨文横軸がけ。	有尾・黒浜
4	J-16a住P-1	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	付加墨文横軸がけ。	有尾・黒浜

C区J-16b号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②胎土	③残存		
1	J-16住周溝	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 墨文施文がけ。	諸磯 b?
2	J-16住周溝	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 墨文施文。	諸磯 b?

C区J-17号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②胎土	③残存		
1	J-17住一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	④器形・文様等の特徴／備考 4 単位波状口縁と想定される。直前段多条旋文後、口縁部直下に3条の微隆帯を施す。口縁部墨文帶、弧部・弧・満春き状微隆帯を施す。微隆帯両脇は無で、直前段波状口縁と想定される。	有尾
2	J-17住一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	原節 RL 墨文施文後、櫛衝工具押しこしによる平行注突・点列状刻印文を施す。	前期中期
3	J-17住一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	櫛衝工具による刻印・刻絆・列点状刻印文更に区画する。遺存部最上位には傷かがれ帯が認められる。	有尾
4	J-17住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維・植物繊維混入	胴部破片	原節 RL 墨文施文後、手筋管状工具による平行波線・同工具押しこしによる墨文で区画する。	有尾・黒浜
5	J-17住周溝	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維・白色粘土・植物繊維混入	胴部破片	直前段多条旋文後、斜位直線状・満春き状微隆帯を施す。陰唇両脇は無で、直前段波状口縁と想定される。	有尾
6	J-17住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維・植物繊維混入	胴部破片	微隆帯と、微隆帯に並行する列点状刻印文を弧状に施す。	有尾
7	J-17住D-1土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	直前段多条旋文。	有尾・黒浜
8	J-17住一括	深鉢	良好	砂粒・角閃石・褐繊維・植物繊維混入	口縁部へ胴部	4 単位波状口縁が、腹頭部下位に往口部を設ける。モーペ文を多頭に施す。口縁部には梯子状隆帯を模位に施す。	黒浜
9	J-17住一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	0.9 多条旋文。底部は上げ底状を呈する。	有尾・黒浜
10	J-17住一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	遺存部最上位付近に僅かに墨文？底部は上げ底状を呈する。	有尾・黒浜

C区J-18号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②胎土	③残存		
1	J-18住一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	④器形・文様等の特徴／備考 4 手筋管状工具押しこしによる横位爪形文を施す。爪形文間に斜位短縦線を連続して施す。	諸磯 b
2	J-18住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維・白色粘土・植物繊維混入	口縁部破片	胴部上位において頭着する内側する4単位波状口縁と想定される。墨文施文後、浮線文を施す。	諸磯 b
3	J-18住一括	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	内不反する舌形。墨文施文後、浮線文を施す。	諸磯 b
4	J-18住一括	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	胴部上位において頭着する内側する4単位波状口縁と想定される。2～3条の波状する浮線文を施す。浮線文間に列点状刻印文を施す。	諸磯 b
5	J-18住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維混入	胴部破片	単節 RL 墨文施文後、横位・斜位浮線文を施す。	諸磯 b
6	J-18住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維混入	胴部破片	墨文施文後、横位浮線文を並行して施す。一部の浮線文間に列点状刻印文を施す。	諸磯 b
7	J-18住一括	深鉢	良好	砂粒・金雲母混入	胴部破片	単節 LR 墨文施文。	諸磯 b
8	J-18住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維混入	底面把手	比較的扁平的な表現。底面周囲は浮線文を施す。	諸磯 b
9	J-18住P-1	鉢？	良好	砂粒・白色粘土混入	体部破片	遺存部においては無文。精製の感が強い。	諸磯 b?
10	J-18住一括	深鉢	やや不良	砂粒・褐色繊維混入	底部破片	横位浮線文を施す。外側から底部にかけて摩滅・剥落の跡。	諸磯 b
11	J-18住一括	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	単節 RL 墨文施文。	諸磯 b

第205表 二軒在家原田遺跡C区住居址出土縄文時代遺物観察表(13)

C区J-19号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-19 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	洞部破片	底部から同層上位層と想定される。直前段多条施文。	有尾・黒頭
2	J-19 住F-1	深鉢	やや不良	砂粒・褐色織混入	洞部破片	無節K織文施文。	有尾・黒頭
3	J-19 住外側周溝	深鉢	普通	砂粒・植物織混入	底部破片	複数LRL織文施文。底部上げ底状。	有尾・黒頭
4	J-19 住一括	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入	口縁部破片	4単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具押し引きによる爪形文を巡らす。爪形文間に斜位短芯線を連続して施す。	諸職 b
5	J-19 住一括	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入	洞部破片	織文施文後、半截竹管状工具押し引きによる爪形文で区画。一部の爪形文間に斜位短芯線を連続して施す。	諸職 b
6	J-19 住一括	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入	洞部破片	半截竹管状工具押し引きによる斜位・斜位爪形文を施す。	諸職 b
7	J-19 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	事例RL織文施文後、横位浮織文を施す。	諸職 b
8	J-19 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	横位浮織文施文後、満巻き状結節浮織文を施す。	諸職 c

C区J-20号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-20 住一括	深鉢	やや不良	砂粒・植物織混入	口縁部破片	織文（無節K）施文後、口縁に並行してコンバース文を巡らす。	有尾・黒頭
2	J-20 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	洞部破片	半截竹管状工具による斜位平行芯繩を施す。沈線に並行して斜位平行工具による列点状斜刺突文施す。	有尾
3	J-20 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	洞部破片	口縁部文様帯から底部付近が遺存する。口縁部文様帯、柄部文様工具による縦位・横位・斜位列点状斜刺突文、工具工具による斜位平行芯繩で区画する。差形又はU角形のチップと想定される。底部に横位列点状斜刺突文を巡らす。	有尾
4	J-20 住一括	深鉢	普通	砂粒・植物織混入	洞部破片	付加条織文施文。	有尾・黒頭
5	J-20 住一括	深鉢	普通	砂粒・植物織混入	洞部破片	付加条織文施文。	有尾・黒頭

C区J-21号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴				時期
			①焼成	②釉土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-21 住D-2土	深鉢	不良	砂粒混入	口縁部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位短芯繩を連続して施す。表面の摩滅が著しい。	諸職 b
2	J-21 住一括	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	4単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具による平行芯繩・同工具押し引きによる爪形文を巡らす。口縁部に並行浮織文の連続斜刺突文施す。	諸職 b
3	J-21 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	洞部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を巡らす。爪形文間に斜位短芯繩を施す。	諸職 b
4	J-21 住D-6土	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	横位基調の横位文を施す。	諸職 b
5	J-21 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	洞部破片	洞部上位の顯著な器形底部付近が遺存する。浮繩文を施す。	諸職 b
6	J-21 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	洞部破片	織文施文、浮繩文を施す。	諸職 b
7	J-21 住一括	深鉢	良好	砂粒混入	洞部破片	半截 RL織文施文後、横位・斜位浮繩文を施す。	諸職 b
8	J-21 住一括	深鉢	良好	砂粒混入	洞部破片	半截 RL織文施文後、横位浮繩文を施す。	諸職 b
9	J-21 住D-4土	深鉢	やや不良	砂粒・褐色織混入	洞部破片	摩滅が著しく、調整不明確。横位基調平行芯繩を施す。	諸職 b
10	J-21 住一括	深鉢	良好	砂粒混入	洞部破片	織文施文後、半截竹管状工具による平行浮繩文を施す。	諸職 b
11	J-21 住一括	深鉢	良好	砂粒混入	洞部破片	半截 RL織文施文後、半截竹管状工具による横位平行芯繩を施す。	諸職 b
12	J-21 住一括	鉢？	普通	砂粒・褐色織混入	底部破片	半截竹管状工具による平行芯繩を施す。	諸職 b
13	J-21 住D-1土	深鉢	良好	砂粒・白色飴物	口縁部破片	半截竹管状工具による角度の異なる斜位平行芯繩（半降起構造を呈する）。施文後、一部にボタン状點付文を配す。	諸職 c
14	J-21 住D-3土	深鉢	普通	砂粒混入	洞部破片	半截竹管状工具による斜位平行芯繩施文後。棒状點付文を配す。	諸職 c
15	J-21 住D-1土	深鉢	良好	砂粒・白色飴物	洞部破片	半截竹管状工具による縦位・斜位平行芯繩（半降起構造を呈する）を施す。	諸職 c

第206表 二軒在家原田遺跡C区住居址出土繩文時代遺物観察表（14）

C区J-23号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-23 住一居	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	胴部上位において顯著に内屈する4単位波状口縁と思定される。縄文施文後、横位浮線文を施す。	諸磯 b
2	J-23 住一居	深鉢	普通	砂粒・白色軸物	口縁部破片	胴部上位において顯著に内屈する4単位波状口縁と思定される。浮線文を施す。	諸磯 b
3	J-23 住一居	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	胴部上位において顯著に内屈する4単位波状口縁と思定される。縄文施文後、3条一组の浮線文を施す。浮線文間に4列点状刻突文施文。	諸磯 b
4	J-23 住一居	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単底 RL 縄文施文後、3条一组の浮線文を施す。浮線文間に4列点状刻突文施文。	諸磯 b
5	J-23 住一居	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	舟形の口縁部。口縁に並行して浮線文を施す。	諸磯 b
6	J-23 住一居	深鉢	良好	砂粒・白色軸物	体部破片	外縁、邊造部中央付近に段差を有する。非常に丁寧な削り。	諸磯 b
7	J-23 住一居	深鉢	良好	砂粒・白色軸物	胴部破片	横位基溝の細薄縄文施文後、弧状結節浮線文を施す。	諸磯 c

C区J-24号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	J-24 住一居	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4単位波状口縁と思定される。口縁に並行して半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。	有尾
2	J-24 住一居	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4単位波状口縁の波頂部と思定される。口縁に並行して半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。	有尾
3	J-24 住一居	深鉢	良好	砂粒・褐色繊・植物繊維混入	口縁部破片	口縁部上面に三角形の小突起を配す。口縁に並行して半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。	有尾・黒浜
4	J-24 住一居	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	波頂部深鉢の波頂部付近に遺存すると想定される。波頂部下位には中央が頑む円形貼付文を配す。口縁に並行して半截竹管状工具による平行沈線（半降起線状）を施す。北側は半截竹管状工具押し引きによるX字状に交差する。脇部には付加条縄文施文。	有尾・黒浜
5	J-24 住一居	深鉢	良好	砂粒・褐色繊・植物繊維混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。	有尾
6	J-24 住一居	深鉢	良好	砂粒・褐色繊・植物繊維混入	胴部破片	6箇多条と直前箇多条縄文、羽状縄文を意識していると考えられるが、規則的な羽状にはなっていない。	有尾・黒浜

第207表 二軒在家原田遺跡C区住居址出土縄文時代遺物観察表(15)

C区D-1号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-1 土	深鉢	普通	砂粒・褐色繊混入	胴部破片	胴部上位片と思定される。全体的に摩滅しており、施文が不明瞭。縄文施文後、横位浮線文を施す。	諸磯 b

C区D-2号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-2 土	深鉢	普通	砂粒・褐色繊・植物繊維混入	胴部破片	外縁摩滅している。単底(L)縄文施文。	有尾・黒浜
2	D-2 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	直前箇多条縄文。	有尾・黒浜

C区D-3号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-3 土	深鉢	普通	砂粒・褐色繊・金剛部破片 雲母混入	金剛部破片	無底 L 縄文施文。	諸磯 b?

C区D-4号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-4 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単底 RL 縄文施文。	諸磯 b?
2	D-4 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	胴部上位の器形変換点付近と思定される。施文(直前箇多条?)施文後、半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。	有尾・黒浜

C区D-5号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
1	D-5 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	胴部上位の器形変換点付近と思定される。施文(直前箇多条?)施文後、半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。	有尾・黒浜
2	D-5 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	胴部上位の器形変換点付近と思定される。施文(直前箇多条?)施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線(半降起線状)を施す。	有尾・黒浜

第208表 二軒在家原田遺跡C区縄文時代土坑出土遺物観察表(1)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
3	D-5 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入鋼部破片 入	付加条縫文模範なしにより、羽状構成とする。	有尾・黒芯
4	D-5 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入鋼部破片 入	單節 RL と LR 繩文模範なしにより、羽状構成とする。	有尾・黒芯

C区D-6号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-6 土	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	單節 RL 繩文施文。

C区D-10号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-10 土	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維混入鋼部破片	口縁部文様付近、縦位沈線施文。	加賀利玉
2	D-10 土	深鉢	普通	砂粒混入	鋼部破片	半載竹管状工具による平行沈線（半降起線状）を施す。

C区D-11号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-11 土	深鉢	普通	砂粒・赤褐色繊維混入鋼部破片	口縁部文様部分か、底に縞帶で区画し、区画内には縦位沈線施文。	加賀利玉
2	D-11 土	深鉢	普通	砂粒混入	鋼部破片	遺存部における調整が不明瞭。縄文施文後、幅広で浅い縦位沈線を施す。

C区D-12号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-12 土	深鉢	普通	砂粒・褐色繊維混入鋼部破片	単節 RL 縱文施文後、縦位沈線で区画する。	加賀利玉
2	D-12 土	深鉢	良好	砂粒・白色繊物	鋼部破片	半載竹管状工具押し引きによる横位・斜位彫形文を施す。一部の爪形文間に斜位短絆線を連続して施す。

C区D-13号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
1	D-13 土	深鉢	普通	砂粒混入	口辺部～鋼部 破片	口辺部、半載竹管状工具による横位平行沈線を施す。胴部、同工具による縦位・斜位平行沈線を施し、中央に刺突を伴う2個1対のタシ状凸付を配す。
2	D-13 土	深鉢	良好	砂粒混入	鋼部破片	胴部上皮部分。半載竹管状工具による横位・縦位・斜位平行沈線を施す。
3	D-13 土	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	鋼部破片	単節 LR 縱文施文後、半載竹管状工具による横位平行沈線（半降起線状）を施す。
4	D-13 土	深鉢	良好	砂粒混入	鋼部破片	胴部上部は最高位で、口縁部文様帯に接する器形変換点付近と想定される。丸棒状工具による横位直線状・波状沈線を施す。一部の三角形印彫文を配す。

第209表 二軒在家原田遺跡C区縄文時代土坑出土遺物観察表(2)

C区U-1号埋設土器

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
U-1	表芯	良好	砂粒・褐色繊維混入	底部 1/5	体部中位にかけて底部が内屈、外屈する。内屈部外側の棱に沿い、斜位短絆線を連続して施す。その下位には単節 RL 縱文模範紙が。	諸磯 b

C区U-4号埋設土器

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
U-4	深鉢	良好	砂粒・白色繊物	口縁部～胴部 砂粒混入	口縁部下部に横位隆筋を認める。縁带上に6単位の縦長粒付を配す。胴部、縦位隆筋により区画し、区画内には砂粒状沈線施文。	中期後葉

C区U-5号埋設土器

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②粘土	③残存	
U-5	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部 入	口縁部上面をシャープな平坦面としている。器面全体に単節 RL と LR の羽状模範を施す。	前期中葉

第210表 二軒在家原田遺跡C区縄文時代埋設土器観察表(1)

C区グリッド

番号	遺構名	器種	成・変形技法の特徴			時期	
			①焼成	②土入	③窯内 口縁部破片		
1	H-45b	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	(1)器形・文様等の特徴・備考 口縁部直下に櫛衝状工具による縦位列点状網目突文を連続して施文。口縁部には半載竹管状工具押し引きによる爪形文を埋めたり。	有尾
2	ZH-48a	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	櫛衝状工具押し引きによる横位平行沈線・縦位列点状網目突文を施す。	有尾・黒浜
3	IV-61b	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	縦位末端網面文。内部は非常に丁寧な磨き。	前期中葉
4	ZH-46c	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	直前段多条横筋がくにより羽状構成とする。遺存部最上位には半載竹管状工具押し引きによる横位爪形文を盛らす。	有尾・黒浜
5	ZF-41c	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	圓文(直前段多条り) 施文後。半載竹管状工具押し引きによる横位爪形文を記す。	有尾・黒浜
6	H-43b	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	網部工具による器形変遷点附近か。櫛衝状工具による横位列点状網突文を施す。その下位には直前段多条施文。	有尾・黒浜
7	ZH-48d	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	網部工具と想定される。櫛衝状工具による横位・斜位列点状網突文を施す。	有尾
8	ZF-41c	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	櫛衝状工具による横位・斜位平行沈線・列点状網突文を施す。遺存部下部には網文(付加条り) 施文。	有尾
9	ZA-50a	深鉢	良好	砂粒・褐色織・雲	網部破片	櫛衝状工具による直列点状網突文・平行沈線文で区画する。差形のチカラ。	有尾
10	ZF-41c	深鉢	良好	砂粒・白色織物	網部破片	直前段多条施文。	有尾・黒浜
11	ZH-50a	深鉢	普通	砂粒・褐色織・雲	網部破片	無尾とR圓文横筋がくにより。羽状構成とする。	有尾・黒浜
12	IV-54b	深鉢	普通	砂粒・雲母・植物繊維混入	口縁部破片	單筋 RL と LR 圓文施文。羽状構成とする。	有尾・黒浜
13	ZI-49a	深鉢	普通	砂粒・褐色織・植物繊維混入	口縁部破片	付加条圓文横筋がく。	有尾・黒浜
14	ZI-50	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	直位弧状短沈線を施す。底部は上げ底状。	有尾・黒浜
15	ZH-46c	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	直位破片	R段多条施文。上げ底状を呈する。	有尾・黒浜
16	ZD-44c	深鉢	普通	砂粒・植物繊維・チャート・植物繊維混入	直位破片	直前段多条施文。	有尾・黒浜
17	ZG-44c	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	4 単位又は 2 単位波状口縁か。半載竹管状工具押し引きによく爪形文を施す。	諸磯 a ~ b
18	ZA-52c	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	4 単位波状口縁の小型深鉢か。波筋は双頭状を呈する。單筋 RL 圓文施文後、波頂部下位に円形網突文を網面に配す。円形網突文は半載竹管状工具回転による施文。	諸磯 a
19	ZE-43c	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	口縁部破片	櫛衝状工具による横位直線状・波状平行沈線施文後、円形網突文を網面に配す。	諸磯 a ~ b
20	ZE-46a	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入	網部破片	遺存部上位・櫛衝状工具による直状平行沈線施文。下部、單筋 RL 封束圓文横筋がく。施文後、円形網突文を網面に配す。	諸磯 a ~ b
21	ZF-43a	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	網部破片	圓文(複数 RL?) 施文後、半載竹管状工具による横位直線状・波状平行沈線を施す。さらによく一部に同工具による網位連続短沈線(重複しては爪形文)を施す。	諸磯 a ~ b
22	ZA-48c	深鉢	普通	砂粒混入	網部破片	半載竹管状工具押し引きによる間隔のある横位爪形文施文。爪形文には同工具による列点状網突文を施す。	諸磯 a ~ b
23	Zb-48a	深鉢	良好	砂粒混入	網部破片	單筋 RL 圓文施文後、半載竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。	諸磯 a ~ b
24	IV-43	深鉢	良好	砂粒・褐色織・金	口縁部破片	半載竹管状工具押し引きによる横位爪形文施文。爪形文には同工具による列点状網突文を施す。	諸磯 b
25	ZA-49c	深鉢	普通	砂粒・褐色織・雲	口縁部破片	内外外反する平行線と想定される。櫛衝状工具による横位直線状・波状平行沈線を施す。	諸磯 b
26	ZA-52c	深鉢	普通	砂粒・褐色織・金	口縁部破片	半載竹管状工具による横位平行沈線施文。	諸磯 b
27	ZF-45b	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部 ~ 网部	單筋 RL 圓文施文後、半載竹管状工具による横位平行沈線で区画する。	諸磯 b
28	H-45b	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入	口縁部破片	同部上位において網面に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。半載竹管状工具による平行沈線を施す。	諸磯 b
29	ZB-52c	深鉢	良好	砂粒・褐色織・白	口縁部破片	同部上位において網面に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。單筋 RL 圓文施文後、半載竹管状工具による平行沈線を施す。	諸磯 b
30	ZB-48b	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	内外反する 4 単位波状口縁か。單筋 RL 圓文を施す。口縁上面に直線状網突文を配す。	諸磯 b ?
31	ZA-48c	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	圓文(複数 RL?) 施文。口縁部上面に連続短沈線を施す。	諸磯 ?
32	ZG-44c	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入	口縁部破片	付加直立する平行線と想定される。單筋 RL 圓文を施す。	諸磯 b ?
33	ZG-40b	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入	口縁部破片	圓文を押す連続貼付文を施す。波頂部下位には楕円形貼付文を配す。	諸磯 b
34	H-45b	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。網面把手の磨擦化された表現。網面周囲は浮線文施す。	諸磯 b

第211表 二軒在家原田遺跡C区グリッド出土繩文時代遺物観察表(1)

番号	遺構名	器種	成・整形技術の特徴			時期
			①焼成	②紹土	③残存	
35	IY-47a	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入・胴部破片	半裁竹管状工具押し引きによる縦位爪形文を施す。	諸職 b
36	2F-48c	深鉢	良好	砂粒混入	半裁竹管状工具押し引きによる縦位爪形文で区画し、区画内に横位爪形文・形文文施す。さらに一部に円形刺突文を配す。	諸職 b
37	II-45b	深鉢	良好	砂粒・褐色織	半裁竹管状工具押し引きによる縦位爪形文を施す。	諸職 b
38	1M-58c	深鉢	良好	砂粒・褐色織	半裁竹管状工具押し引きによる縦位爪形文を施す。一部に爪形文間に斜位爪形文を連続して施す。	諸職 b
39	2F-46a	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入・胴部破片	横位浮織文を施す。	諸職 b
40	2G-48c	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入・胴部破片	胴部上段片が、3条1組の横位・縦位浮織文を施す。浮織文間に斜位爪形工具による列状刺突文を施す。	諸職 b
41	2H-46c	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入・胴部破片	同部上位において規整に配置する4部位波状口縁を想定され、浮織文と列点刺突文を施す。	諸職 b
42	II-45b	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入・口縁部破片	内組する1部位、単筋RL・織文施文後浮織文を施す。口端部上部には横状貼付文施す。	諸職 h
43	2D-41b	深鉢	普通	砂粒混入	内反する2部位、手裁竹管状工具による矢羽根状平行沈織(半降起線状)施文後、棒状・円形貼付文を施す。	諸職 c
44	2A-49c	深鉢	普通	砂粒・白色織	内反する2部位、手裁竹管状工具による横位・斜位平行沈織(半降起線状)施文後、棒状・ボク状貼付文を施す。	諸職 c
45	2D-51b	深鉢	良好	砂粒混入	單筋RL・織文施文後、口端部外面に棒状貼付文・連続刺突文を施す。	諸職 c
46	2C-50c	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入・胴部破片	手裁竹管状工具による斜位平行沈織を施す。一部の沈織は交叉し格子状を呈する。また一部に円形貼付文を配す。	諸職 c
47	2C-51c	深鉢	普通	砂粒・褐色織	單筋RL・織文施文後、円形貼付文を配す。	諸職 c
48	1G-40c	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	横位細孔状施文後、弧状結節浮織文を施す。	諸職 c
49	II-45b	深鉢	普通	砂粒混入	横位・縦位浮織文を施す。	諸職 c
50	2G-48c	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入・胴部破片	單筋RL・織文施文後、横位結節浮織文を施す。	諸職 c
51	2b-48a	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入・胴部破片	半裁竹管状工具による斜位平行沈織後、斜位貼付文を施す。さらに一部には円形貼付文を配す。	諸職 c併行
52	2A-45d	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入・口縁部破片	半裁竹管状工具による平行沈織(半降起線状)で区画する。一部の区画内には同工具による横位・縦位沈織を組み合わせ、格子状にする。また他の区画内には複筋L型・織文を施す。	五箇ヶ台
53	2B-48b	深鉢	普通	砂粒・褐色織	半裁竹管状工具による平行沈織(半降起線状)で区画し、区内には同工具による格子状贴付文。	五箇ヶ台
54	2A-45d	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入・胴部破片	半裁竹管状工具による平行沈織(半降起線状)で区画し、区内には同工具による格子状贴付文。	五箇ヶ台
55	1X-53b	深鉢	普通	砂粒・褐色織	單筋RL・織文施文後、半裁竹管状工具による弧状平行沈織を施す。	五箇ヶ台
56	2A-45d	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入・胴部破片	單筋RL・織文施文後、半裁竹管状工具による縦位直線状・蛇行平行沈織を施す。	五箇ヶ台
57	1Y-48b	深鉢	普通	砂粒混入	單筋RL・織文施文後、半裁竹管状工具による縦位・横位平行沈織を施す。一部に側突文又是短沈織施文。さらに丸縫を伴う棒状貼付文を配す。	五箇ヶ台
58	2T-43b	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入・胴部破片	半裁竹管状工具による横位平行沈織(半降起線状)で区画す。区内には板状又は棒状工具による上下交叉平行沈織文。	五箇ヶ台
59	1Y-49a	深鉢	普通	砂粒混入	單筋RL・織文施文後、半裁竹管状工具による縦位直線状・横位平行沈織を施す。	五箇ヶ台
60	1Y-48d	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入・胴部破片	单筋L型・織文施文後、半裁竹管状工具による縦位直線状・弧状平行沈織を施す。さらに半裁竹管状工具による平行沈織を、陳帯及び区画間に縦位・横位・弧状等に施す。	五箇ヶ台
61	2O-64a	深鉢	良好	砂粒・赤褐色織	振部下位から底部が遺存する。振部と底盤は僅くに重なるのみで、底盤は半筋L型・織文施文、胴部・縦位・横位・弧状貼付文で区画し、区内には横筋・織文、同結果織文を施す。さらに半裁竹管状工具による平行沈織を、陳帯及び区画間に縦位・横位・弧状等に施す。	五箇ヶ台
62	II-45b	深鉢	普通	砂粒混入	小波状口縁。沈織は塔形(上)より口縁部・腰部を基部とする。区内には單筋RL・織文施文、波頭部下位には漸巻き状貼付文を配す。	加賀利 E II ~ III
63	3B-77	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入・口縁部破片	断面三角形の隆蒂で区画する。区内には單筋RL・織文を施す。	加賀利 E II ~ III
64	1Y-60b	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	張帯・小波状・横蒂の沈織で区画する。一部の区画内には半筋RL・織文施文。	加賀利 E I
65	II-45b	深鉢	普通	砂粒混入	半筋状工具による列状刺突文を横位に施す。	加賀利 E II ~ III
66	2D-40c	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入・口縁部破片	丸棒状工具による刺突文又是短沈織を施す。	加賀利 E
67	3B-77	深鉢	普通	砂粒・褐色織	張帯と幅広の沈織で区画する。一部の区画内に半筋RL・織文施文。	加賀利 E I ~ IV
68	2D-40c	深鉢	普通	砂粒混入	遺存有上位、棒状工具による列状刺突文を横位に施す。遺存中位下位、丸棒状工具による沈織で区画する。一部の区画内には半筋RL・織文施文。	加賀利 E I
69	2G-48c	深鉢	良好	砂粒・褐色織・角胴部破片	口縁部文様帯から胴部上位が遺存する。陳帯と沈織により口縁部文様帯と区画する。区内には半筋RL・織文施文、胴部・無筋L型・織文施文後、縦位沈織で区画する。沈織間は軽削り消し。	加賀利 E

第212表 二軒在家原田遺跡C区グリッド出土繩文時代遺物観察表(2)

番号	遺物名	器種	成・形態技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
70	IJ-48d	深鉢	良好 砂粒混入	口縁部破片	(1)器形・文様等の特徴／備考 単筋鉢。繩文施文後、傾仄で深い、底位沈線(2条一組)を施す。 火候間に差異有。	加曾利E
71	IQ-66a	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	単筋鉢。繩文施文後、傾仄で深い、底位沈線(2条一組)を施す。	加曾利E
72	IT-44a	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	燃り底施文後、縦縞模様を施す。	加曾利E
73	II-45b	深鉢	普通 砂粒・雲母混入	口縁部破片	燃り底施文後、底位傾帯(2条一組?)を施す。	加曾利E
74	IT-44c	深鉢	普通 砂粒・褐色織入	口縁部破片	燃り底施文。	加曾利E
75	IIH-39a	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	弧状・傾直直縫状隆溝で区画する。区画内には丸棒状工具による平行沈縫文。	加曾利E 併行
76	IU-61a	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	弧状帶で区画し、区画内に半截竹管状工具による平行沈縫文。	加曾利E 併行
77	2C-41d	鉢?	良好 砂粒・雲母混入	体部破片	跡の体部中段と想定した。圓形変換点上位を横位に区画し、斜位傾帯を連続して施す。	加曾利E 併行
78	2D-51b	深鉢	普通 砂粒・褐色織混入	口縁部破片	同部(左)の圓形変換點付近が遺存する。單筋LR繩文施文後、横位・斜位沈縫を施す。一部に刺突伴う貼文付を配す。	堀之内1
79	2A-51a	深鉢	良好 砂粒・褐色織混入	口縁部破片	内穴内底部の口縁。單筋田、繩文施文後、横位並行沈縫で区画する。一部の区画内斜窓有。内面の口縁部底面に1条の横位光縫を巡らす。	堀之内2
80	2D-42d	小型深鉢	普通 砂粒・褐色織混入	底部破片	内面の底面中央が盛り上がる。外面は遺存部においては無文。底部網代痕。	後期?

第213表 二軒在家原田遺跡C区グリッド出土縄文時代遺物観察表(3)

C区一括

番号	遺物名	器種	成・形態技法の特徴			時期
			①焼成	②胎土	③残存	
1	C区一括	深鉢	良好 砂粒・片岩・雲母	口縁部破片	(1)器形・文様等の特徴／備考 植物織混入 単筋RLとLR繩文横縫化により、菱形構成の文様とする。口縁部に半截竹管状工具押し引きによる間隔の広い横位爪形文を3条添付。	有尾・黒浜
2	C区一括	深鉢	普通 砂粒・褐色織・植物織混入	口縁部破片	対角茎文横縫化により、羽状(菱形形状)、繩文構成とする。	有尾・黒浜
3	C区一括	深鉢	良好 砂粒・白色粘土混入	口縁部破片	単筋RL、繩文施文後。半截竹管状工具による平行沈縫を施す。	諸磯a ~ b
4	C区一括	深鉢	良好 砂粒・褐色織混入	口縁部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。	諸磯b
5	C区一括	深鉢	良好 砂粒・褐色織混入	口縁部破片	内穴内底部の口縁。小突起を有する半口縁と想定される。単筋RL、繩文施文後、半截竹管状工具による平行沈縫を格子目状に施す(格子目モチーフが乱れている)。	諸磯b
6	C区一括	深鉢	良好 砂粒・白色粘土混入	口縁部破片	口縁部に並行し斜窓の隆溝を有す。隆溝には刺突を連続して施す。脚部、半截竹管状工具による横位平行沈縫を施す。	諸磯b ~ c
7	C区一括	深鉢	良好 砂粒・白色粘土	口縁部破片	4單位底座口縁。口縁部に並行する1条の隆溝を巡らす。隆溝には半截竹管状工具による刺突(一部はL字引けし始動浮線文等)を呈する。脚部、単筋RL、繩文施文後、半截竹管状工具による横位・斜位沈縫を施す。	諸磯b ~ c
8	C区一括	深鉢	普通 砂粒・褐色織	口縁部破片	脚部上位において顯著に内屈する1單位底座口縁と想定される。無筋田、繩文施文後、半截竹管状工具による平行沈縫を施す。波頂部下位には横円形貼付文を配す。	諸磯b
9	C区一括	深鉢	普通 砂粒・褐色織	口縁部~脚部 1/4	脚部上位で外屈し、口縁部で内屈する1單位波状口縁。外屈部には並行する横位點突文を巡らし、貼付文間には縱向直縫状・X字状貼付文を施す。その他の部分には横位貼付文を施す。	諸磯b
10	C区一括	深鉢	普通 砂粒・褐色織混入	口縁部破片	脚部上位において顯著に内屈する1單位波状口縁と想定される。浮線部下位には横円形貼付文を配す。	諸磯b
11	C区一括	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部破片	脚部上位が激しく内反する形態。4單位波状口縁か、單筋RL、繩文施文後、3条の浮線文と、浮線文間及び末の連続刺突を基本部位とする。口縫部に並行するように、又は横円状に施す。波頂部下位には横状貼付文を施す。	諸磯b
12	C区一括	深鉢	良好 砂粒・褐色織混入	口縁部破片	口縁部立する平口縁と想定される。単筋RL、繩文施文。	諸磯b ?
13	C区一括	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部(把手) 単筋波状口縁深縫の把手と想定される。繩文(不明瞭)、單筋RLか	施文後、横状貼付工具による平行沈縫を施す。	諸磯b
14	C区一括	深鉢	普通 砂粒混入	口縁部(把手) 単筋波状口縁深縫の把手と想定される。繩状貼付工具による平行沈縫を施す。	諸磯b	
15	C区一括	浅鉢	良好 砂粒混入	口縁部破片	体部上位において顯著に内屈する1單位波状口縁と考えられる。口縁部に並行して1条の浮線文・列点状凹孔文を巡らす。体部には単筋LR繩文施文。	諸磯b
16	C区一括	深鉢	良好 砂粒・白色粘土・洞部破片	口縁部	単筋RL、繩文施文後、半截竹管状工具による平行沈縫で格子目状に汎用し、一部の区画内に円形刺突文。	諸磯b
17	C区一括	深鉢	普通 砂粒混入	脚部破片	脚部上位が顯著に内反する1單位波状口縁と想定される。横位・斜位・弧状浮線文を施す。	諸磯b
18	C区一括	深鉢	良好 砂粒・白色粘土	脚部破片	脚部上位が顯著に内反する1單位波状口縁と想定される。横位・斜位・弧状浮線文を施す。	諸磯b

第214表 二軒在家原田遺跡C区縄文時代一括遺物観察表(1)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期	
			①焼成	②紹土	③残存		
19	C区一括	深鉢	普通	砂粒・白色粘土・胴部破片 褐色織混入	胴部上辺に紹土に内屈する1単位波状口縁	(4)器形・文様等の特徴／備考 内屈すると想定される。單筋LR織文施文後、横位浮縫文で区画し、区内に部状・渦巻き状等浮縫文を施す。	諸穢 b
20	C区一括	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入・胴部破片	單筋RL織文施文後、浮縫文を施す。	諸穢 b	
21	C区一括	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入・胴部破片	横位直縫文・矢羽根状結構の浮縫文を施す。	諸穢 b-c	
22	C区一括	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入・胴部破片 砂粒入	半載竹管状工具による斜位平行沈縫と矢羽根状に施す。一部に円形貼付文を配す。	諸穢 c	
23	C区一括	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入・胴部破片	横位紹丸縫文後、紹土の異なる粘土で弧状結構浮縫文を施す。	諸穢 c	
24	C区一括	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入・胴部破片	斜位紹丸縫文後、縫位結節浮縫文を施す。	諸穢 c	
25	C区一括	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入・底部破片	半載竹管状工具による紹位基層平行沈縫（一部半隆起縫）施文後、縫位結節浮縫文を施す。	諸穢 c	
	C区一括	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	4 单筋口縁深縫と想定される。口縁部が紹土に内屈する。 口端部上面、半載竹管状工具押し引きによる結節浮縫文状爪形文を側面状に施す。一部に三角印射文を配す。胴部、半載竹管状工具による横位平行沈縫（半隆起縫状）で区画し、区内には平行沈縫を施す。さらに一部に三角印射文を配す。	十三世普
26						4 单筋口縁深縫と想定される。口縁部が紹土に内屈する。 口端部上面、半載竹管状工具押し引きによる結節浮縫文状爪形文を側面状に施す。一部に三角印射文を配す。胴部、半載竹管状工具による横位平行沈縫（半隆起縫状）で区画し、区内には平行沈縫を施す。	十三世普
27	C区一括	深鉢	普通	砂粒・白色粘土口縁部破片 入	4 单筋口縁深縫と想定される。口縁部に並行して1条の沈縫を施す。胴部、前期内裏？ 纏めの半載竹管状工具による平行沈縫で区画する。一部の区内には印射文を施す。	前期内裏？	
28	C区一括	深鉢？	普通	砂粒混入	胴部破片	深鉢胴部の横縫把手と想定した。側面に衛衛状工具（？）によ る平行沈縫を施す。一部の区内には同工具による平行沈縫（半 隆起縫状）で区画する。一部の区内には同工具による格子 目状沈縫を施す。	前期後葉？
29	C区一括	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入・胴部破片	胴部上辺に想定される。半載竹管状工具による平行沈縫（半 隆起縫状）で区画する。一部の区内には同工具による格子 目状沈縫を施す。	五頭ヶ谷	
30	C区一括	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入・胴部破片	胴部上辺に想定される。半載竹管状工具による平行沈縫（半 隆起縫状）で区画する。一部の区内には同工具による格子 目状沈縫を施す。29と同じ個体。	五頭ヶ谷	
31	C区一括	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入・胴部破片	口縁部・支脚部から胴部上辺が遺存する想定される。横位縫 帶と半載竹管状工具による横位平行沈縫（半隆起縫状）で口 縁部・支脚部を区画し、口縁部文様帶、格子目状沈縫施 す。胴部、遺存部少ない（織文施文文）。	五頭ヶ谷	
32	C区一括	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入・口縁部～胴部 1/5	殆9%以上後文。口縁部に半載竹管状工具による横位沈縫を2条延 らす。胴部には連弧文2段造らす。上位連弧文は上方に膨らみ、下位連弧文は下方に膨らむ。下位連弧文の部状最上位 からみて、縱位衛衛状沈縫を施さざる。	加曾利 E I ~ II併存	
33	C区一括	深鉢	普通	砂粒・褐色織混入・胴部破片	縱位直縫文・U字状・逆U字状沈縫で区画する。一部の区内 には單筋LR織文施文。	加曾利 E III	
34	C区一括	深鉢	良好	砂粒・褐色織・茎・胴部破片 母混入	縱位直縫文で区画する。区内には縫位沈縫施文。	中期後葉？	
35	C区一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部上辺に沿面変換煮立付近が遺存する。單筋LR織文施文後、 横位・斜位等沈縫を施す。一部に柄突を作ら貼付文を配す。	畢之内 I	
36	C区一括	鉢	普通	砂粒混入	外面、口端部下面に横位沈縫を施す。波頭部下辺には円形 刺繍文、沈縫文を配す。内部、波頭部付近に円形刺繡文、 弧状沈縫文を配す。	畢之内 I	

第215表 二軒在家原田遺跡C区縄文時代一括遺物観察表(2)

試掘トレレンチ

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴			時期
			①焼成	②紹土	③残存	
1	レンチ69	深鉢	良好	砂粒・褐色織混入・口縁部破片 雲母混入	胴部上辺において紹土に内屈する1単位波状口縁と想定され る。無筋LR織文施文後、浮縫文を施す。口縁部上面には植 貼付文施す。	諸穢 b
2	レンチ67	深鉢	普通	砂粒・褐色織・金口縁部破片 雲母混入	波状口縁部頭部が遺存する。波頭部に横位沈縫を施す。口 縁部は半載竹管状工具による平行沈縫施文。一部は格子目状 を呈する。	五頭ヶ谷
3	レンチ67	深鉢	普通	砂粒・褐色織・金口縁部破片 雲母混入	波縫と沈縫で区画する。一部に印射文を配す。	五頭ヶ谷
4	レンチ69	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入・口縁部破片 雲母混入	横位沈縫で口縁部文様帶を区画する。区内には斜位沈縫を組 み合わせる形状モチーフする。	中期初頭？
5	レンチ69	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入・口縁部破片 雲母混入	半載竹管状工具による平行沈縫で区画し、区内に同工具に よる格子目状沈縫施文。	五頭ヶ谷
6	レンチ68	深鉢	普通	砂粒・褐色織・口縁部破片 雲母混入	横位沈縫で口縁部文様帶を区画する。区内には横位直 縫・逆U字形沈縫を施す。	五頭ヶ谷
7	レンチ68	深鉢	普通	砂粒・片岩・金雲母混入・口縁部破片 雲母混入	胴部上辺に遺存する。幕形変換煮立付近に横位沈縫を巡らす。 沈縫上辺には縫位基層沈縫施文。下位には織文（無筋 LR 不 明瞭）施文後、沈縫・短沈縫で区画する。	五頭ヶ谷

第216表 二軒在家原田遺跡トレレンチ出土縄文時代遺物観察表(1)

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴				時期
			①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	
8	レンチ 67	深鉢	普通	砂粒・褐色織・金口縁部破片 雲母混入		結晶織文織がれ。	五頭ヶ台
9	レンチ 68	深鉢	普通	砂粒・褐色織・金口縁部破片 雲母混入		横位隆帯と角押文で区画する。一部の区画内に波状沈線施文。	中期中葉
10	レンチ 67	深鉢	やや不良 砂粒・褐色織・金口縁部破片 雲母混入			横位隆帯と角押文で区画する。一部の区画内に波状沈線施文。	中期中葉
11	レンチ 67	深鉢	普通	砂粒・織・金雲母 混入	口縁部～胴部 破片	隆帯で頬丸長方形を連続して区分。口縁部文織帯を構成する。隆帯に並行し角押文施文。頬丸長方形区画内は、並行する横位隆帯と角押文を施す。口縁部文織帯下位に細部文帯を有する。胴部、雲母指摘圧痕か（遺存部分少なくて不明瞭）。	中期中葉
12	レンチ 67	深鉢	普通	砂粒・褐色織・金口縁部破片 雲母混入		横位隆帯に上位春底部を3分割する。上位区画、弧状沈線施文。中位区画、弧状・波状隆帯、弧状沈線施文。下位区画、張目压痕を施す。	中期中葉
13	レンチ 69	深鉢	普通	砂粒・片岩混入	胴部破片	隆帯に上位横円形に区画すると想定される。隆帯に並行して角押文を施す。	中期中葉
14	レンチ 67	深鉢	普通	砂粒・褐色織・赤胴部下位～底 部織地混入	底部破片	隆帯とそれに並行する角押文を施す。内面に化物付着。	中期中葉
15	レンチ 74	深鉢	良好	砂粒・褐色織直口	口縁部破片	單耳鉢。織文施文後、口縁部に2条の横位沈線を巡らし区画する。区画内には2条一组の脛衝状沈線を施す。	中期後半？

第217表 二軒在家原田遺跡試掘トレンチ出土繩文時代遺物観察表(2)

C区K-1号古墳

番号	遺構名	器種	①胎土	②色調	③残存	法量(cm)	成・整形技法の特徴
			④	⑤	⑥	⑦	
1	前庭部 土器集中 1	須恵器 壺蓋	①白色粒子、黒色粒子 石英粒 2暗灰色 3ほぼ完存	口径 : 14.4 底径 : 2.4 高さ : 3.3			輪轍整形。外面甲部回転ヘラケズリ。頂部に、種々強く突出する正面状の横みを付ける。全体にオーラー色の自然釉が掛かる。黒色の付着物が一部コロス状に発達する。内面のかくらは断面三角形で内側に突出する。8世紀前半？
2	前庭部 土器集中 2	須恵器 壺蓋	①白色粒子、黒色粒子 2暗灰色 3口縁～頂部 3/4 3ほぼ完存	口径 : 12.2 底径 : 4.5 高さ : 3.0			輪轍整形。外面甲部回転ヘラケズリ。頂部に、種々強く突出する正面状の横みを付ける。8世紀前半
3	前庭部 土器集中 1	須恵器 壺蓋	①白色粒子、黒色粒子 2暗灰色 3口縁～頂部 3/4 3ほぼ完存	口径 : 13.4 底径 : 4.7 高さ : 2.8			輪轍整形。外面甲部回転ヘラケズリ。頂部にボタン状の横みをもつ。一部にオーラー色の自然釉が掛かる。内面のかくらは断面三角形で、口縁より短く突出する。8世紀前半
4	前庭部 2	須恵器 壺蓋	①白色粒子、黒色粒子 2暗灰色 3口縁～頂部 1/2 3ほぼ完存	口径 : 18.4 底径 : 6.7 高さ : 3.4			輪轍整形。外面甲部ヘラケズリ。頂部にボタン状の横みをもつ。やや運び成り味。一部にオーラー色の自然釉が掛かる。内面のかくらは断面三角形で、短く突出する。8世紀前半
5	前庭部 4	須恵器 短頸壺蓋	①白色粒子、黒色粒子 2暗灰色 3底部 3ほぼ完存	口径 : 9.2 底径 : 2.8 高さ : 3.8			輪轍整形。外面回転ヘラケズリ。頂部に、種々丸みを帯びる正面状の横みをもつ。口唇部は内側に面取りを行う。8世紀後半？
6	前庭部 土器集中 1	須恵器 短頸蓋	①白色粒子、黒色粒子 2暗灰色 3口縁～体部上半 1/3	口径 : (7.2) 底径 : (一) 高さ : (4.3)			輪轍整形。口縁はやや内傾する。5とセットになる可能性がある。8世紀後半
7	前庭部 土器集中 2	須恵器 壺	①白色粒子、黒色粒子、 2暗灰色 3底部～口縁 2/3	口径 : 16.6 底径 : 11.6 高さ : 4.1			輪轍整形。底部は回転ヘラケズリ後、低い高台を盛り付ける。体部下半を中心とする光沢のある自然釉が掛かる。8世紀前半
8	前庭部 土器集中 2	須恵器 壺	①白色粒子、黒色粒子 2暗灰色 3底部～口縁 1/3	口径 : (12.0) 底径 : (8.0) 高さ : 3.6			輪轍整形。底部は回転ヘラケズリ。やや運び成り味。外側口縁近くに埋めオーラー色の自然釉が掛かる。8世紀前半
9	前庭部 土器集中 2	須恵器 短頸蓋？	①白色粒子、黒色粒子 2暗灰色 3底部～体部下半 1/3	口径 : (一) 底径 : (7.4) 高さ : (3.3)			輪轍整形。底部は回転ヘラケズリ。8世紀後半

第218表 二軒在家原田遺跡C区K-1号墳出土遺物観察表(1)